

千葉県八千代市

川崎山遺跡d地点

—萱田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書—

2003年9月

八千代市萱田町川崎山土地区画整理事業共同施行者

八千代市遺跡調査会

千葉県八千代市
川崎山遺跡 d 地点

— 萱田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2003年9月

八千代市萱田町川崎山土地区画整理事業共同施行者

八千代市遺跡調査会

序 文

八千代市は、「住宅団地発祥の地」として知られるように、昭和30年代における八千代台の町づくりを契機として住宅団地の造成が進み、首都30km圏に位置する住宅都市として成長を続けてきました。

近年では、市域北部における大学と住宅地のセット開発により、文教都市としての側面も併せ持つようになってきました。また、京成電鉄に加えて平成8年4月には東葉高速鉄道が開業したことで都心へのアクセスもより便利となり、沿線を中心とした新しいまちづくりが進み県内の中堅都市として、現在発展しております。

このような状況のもと、八千代市遺跡調査会では、市内で行われる個人や民間企業による開発行為に先行する埋蔵文化財発掘調査に従事してまいりました。昭和60年代から平成10年頃までの大規模開発時代を経て、最近では中小規模の開発が中心となっております。この度の調査は、市域の南部に当たる萱田町川崎山地区において計画された、土地区画整理事業に先行するものです。この事業については、既に平成8年度に埋蔵文化財についての照会があり、平成8年度及び9年度に確認調査を実施しており、その後、平成12年度から再び協議を開始し、平成14年度に本調査を実施したものです。

川崎山遺跡は、今回のd地点を含めて既に10地点の発掘調査がなされており、市内でも開発行為の盛んな区域と言えます。これらの調査の中で、この区域は縄文時代の狩猟用の落とし穴や弥生時代の集落跡、古墳時代の集落跡、石製模造品の工房跡、平安時代の集落跡等が検出されました。新川に臨む台地の上に連綿と人々の生活の跡が残されており、今回のd地点の調査では、古墳時代初頭の集落跡を中心とする好資料と新知見を得ることができました。本報告書は八千代市域の歴史は無論のこと、印旛地域、北総地方の歴史を語るための基礎資料となることでしょう。

過去の人々の生活に思いを馳せ、地域を慈しむ心を育てる教材として、本報告書が大いに活用されることを願っております。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大なご協力をいただいた事業者の皆様を初め、調査から整理までに種々ご指導をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。また、調査や整理に従事された調査員、補助員各位の労をねぎらいたいと思います。

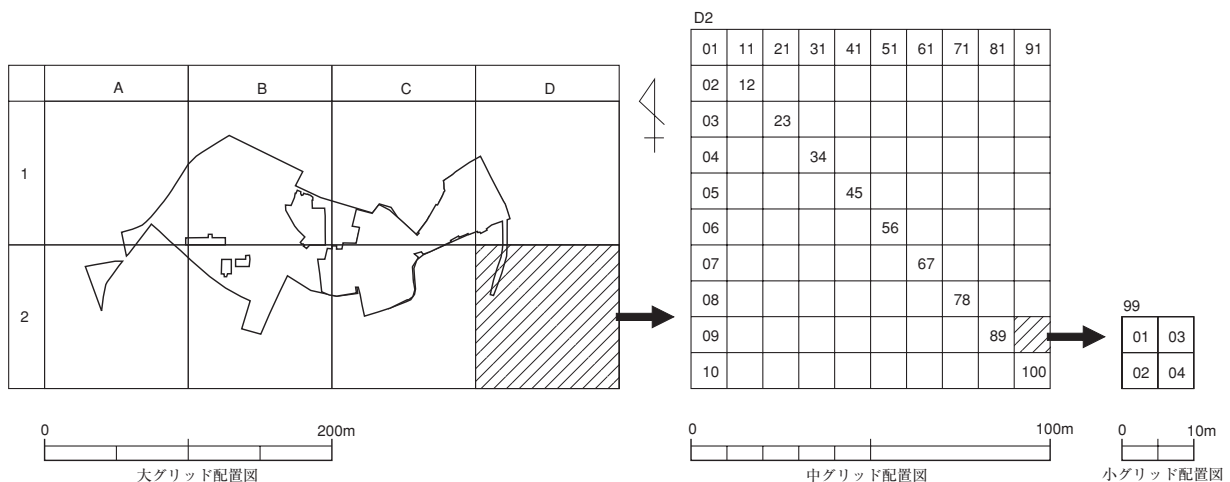
平成15年9月30日

八千代市遺跡調査会

会長 萩原 康正

凡 例

1. 本書は、八千代市遺跡調査会が実施した、千葉県八千代市萱田町字川崎山に所在する、川崎山遺跡d地点の発掘調査の結果をまとめたものである。なお、川崎山遺跡（遺跡番号241）は、以前「萱田町遺跡」と呼ばれたことがあるなどの理由のため、昭和55年以降は「萱田町川崎山遺跡」という名称を用いてきた。その後、平成9年の『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）－東葛飾・印旛地区－改訂版』（千葉県文化財センター1997）において、名称を簡略化し「川崎山遺跡」と改めたものである。
2. この調査は八千代市萱田町川崎山土地区画整理事業に先行するもので、同事業共同施行者代表の財団法人八千代市開発協会、業務代行の株式会社竹中土木、八千代市遺跡調査会の3者間で締結した委託契約に基づき、八千代市遺跡調査会が実施したものである。
3. 調査は以下のように実施した。
 確認調査：期間 平成9年1月27日～2月20日 面積1,210㎡/9,400㎡
 確認調査：期間 平成10年2月17日～3月16日 面積760㎡/5,280㎡
 本調査：期間 平成14年5月8日～12月6日 面積8,885㎡
 基礎整理：期間 平成14年本調査期間中～平成15年2月14日
 本整理：期間 平成15年4月2日～9月30日
4. 確認調査については八千代市教育委員会が実施し、その結果については『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度』（八千代市教育委員会1998）にまとめられている。
5. 本調査・本整理については、常松成人及び川口貴明が担当した。
6. 本書の図版作成は、常松成人・川口貴明・森竜哉・植田正子・長田京子・小林孝彰・小弓場直子・立松紀代美・寺澤洋子・野中則子・日向洋子・細川麻里・山下千代子が行い、編集・執筆は常松が担当した。
7. 炭化材及び木葉痕の樹種鑑定については、八千代市教育委員会の委託を受けて株式会社パレオ・ラボの植田弥生氏・佐々木由香氏が作成した原稿を、掲載させていただいた。
8. 石器・石製品の岩種鑑定の一部については、有限会社考古石材研究所の柴田徹氏に委託した。
9. 遺構NoとトレンチNoは、調査順の数字と記号（アルファベット）で表記した。記号は以下のとおりである。
 住居跡 D ピット・土坑 P 溝 M 掘立柱建物跡 H トレンチ T
 旧石器確認トレンチ TP グリッド G
10. 調査区のグリッドについては、確認調査・本調査を通じて同じ区画法を用いている（下図を参照）。100m四方を大グリッドとし、A1, A2…、B1, B2…のようにアルファベットと数字の組み合わせで表現し、その中を10m四方100個の中グリッドに分け、A1-1G, A1-2G, …A1-100Gと表現した。必要に応じて中グリッドの中を5m四方の小グリッド4個に分け、A1-1-1G, …A1-1-4Gのように表現した。



11. 遺構No.は1H・2Hを除いては、原則として現地呼称をそのまま用いている。1Hは現地では71P～75P、2Hは84Pとして調査した。なお 40P・41Pは欠番となっている。また、住居跡内のピットにも欠番が生じている場合がある。
12. 遺構実測図中のスクリーントーンは、特に指摘が無い場合は、以下のとおりである。



13. 住居跡平面図中の一点鎖線（—・—）は、床硬化面の範囲を表す。
14. 土層説明の土色の表記法については、原則として、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』（13版 1993.1）を用いた。
15. 遺物出土状況図の遺物No.は遺物実測図のNo.と一致している。また、写真図版の遺物No.も同じである。
16. 遺物出土状況図の記号の●は土器・土製品を、▲は石器・石製品・軽石を、△は鉄製品・鉄滓を、それぞれ表し、限定する必要がある場合は「▲ 番号のないものは軽石」「△ 鉄滓」というように注意書きした。
17. 住居跡出土の掲載遺物のうち一括遺物（遺物観察表の「現地取り上げNo.」の欄を参照）については、出土位置の記録が無いので出土状況図には掲載していない。
18. 遺物観察表の計測値の欄の（ ）内数値は復元値を、<>内数値は残存状態での計測値を表している。
19. 写真図版の遺物写真の縮尺は、実物の2/5の大きさを原則とし、異なる場合は（1/5）（1/1）というように記した。
20. 発掘調査から整理作業の間において、以下の諸氏・諸機関にご指導・ご協力をいただきました。記して感謝いたします。
- 伊藤 弘一 佐々木由香 柴田 徹 高花 宏行 千葉 寛 峰村 篤 宮澤 久史
山田 敏史 財団法人八千代市開発協会 株式会社竹中土木 株式会社パレオ・ラボ
千葉県教育庁文化財課 八千代市教育委員会 有限会社考古石材研究所
21. 出土した遺物・写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。

本文目次

序文

凡例

目次

I 序章

1. 調査に至る経緯 1
2. 川崎山遺跡の概要 3
3. 本調査の概要 11

II 遺構と遺物

1. 縄文時代 17
2. 弥生時代 53
3. 古墳時代 69
4. 平安時代 156
5. その他の遺構・遺物 160

III 分析委託

1. 川崎山遺跡d地点住居跡出土炭化材の樹種同定 167
2. 川崎山遺跡d地点出土土器木葉痕の樹種 193
3. 川崎山遺跡d地点出土石器・石製品石材の岩種鑑定 195

IV まとめ

1. 各時代の概要 196
2. 住居跡について 198
3. 遺物について 199

報告書抄録 206

写真図版

挿図目次

- | | | | |
|------|---------------------------------------|------|-----------------------|
| 第1図 | 八千代市と川崎山遺跡の位置 1 | 第11図 | 8P土坑実測図 21 |
| 第2図 | 八千代市の旧地形 2 | 第12図 | 12P土坑実測図 22 |
| 第3図 | 弥生時代中期～古墳時代前期の
遺跡分布図 4 | 第13図 | 13P土坑実測図 23 |
| 第4図 | 川崎山遺跡の各調査地点 7 | 第14図 | 13P土坑出土遺物実測図 23 |
| 第5図 | 川崎山遺跡d地点確認調査・本調査
遺構配置図 9 | 第15図 | 14P土坑実測図 24 |
| 第6図 | 川崎山遺跡d地点本調査区割・
トレンチ・TP配置図 10 | 第16図 | 32P土坑実測図 25 |
| 第7図 | 川崎山遺跡d地点本調査遺構配置図 12 | 第17図 | 33P土坑実測図 26 |
| 第8図 | 川崎山遺跡d地点の層序 13 | 第18図 | 34P土坑実測図 27 |
| 第9図 | 縄文時代遺構の分布 18 | 第19図 | 36P土坑実測図 28 |
| 第10図 | 5P土坑実測図 20 | 第20図 | 39P土坑実測図 29 |
| | | 第21図 | 42P土坑実測図 30 |
| | | 第22図 | 44P土坑実測図 30 |
| | | 第23図 | 50P土坑実測図 31 |

第24図	57P土坑実測図	31	第63図	3D住居跡出土遺物実測図(3)	81
第25図	63P土坑実測図	32	第64図	3D住居跡出土遺物実測図(4)	82
第26図	65P土坑実測図	32	第65図	4D住居跡実測図	85
第27図	80P土坑実測図	33	第66図	4D住居跡出土遺物実測図	85
第28図	縄文土坑実測図(1)	37	第67図	6D住居跡実測図,遺物出土状況図	86
第29図	縄文土坑実測図(2)	38	第68図	6D住居跡出土遺物実測図	86
第30図	縄文土坑実測図(3)	40	第69図	7D住居跡実測図,遺物出土状況図	88
第31図	縄文土坑実測図(4)	41	第70図	7D住居跡出土遺物実測図	89
第32図	縄文土坑実測図(5)	42	第71図	8D住居跡実測図,遺物出土状況図	90
第33図	縄文土坑実測図(6)	47	第72図	8D住居跡出土遺物実測図	90
第34図	縄文土坑実測図(7)	48	第73図	9D住居跡実測図	92
第35図	縄文時代の遺物	51	第74図	9D住居跡炭化材・焼土出土状況図	93
第36図	弥生時代住居跡の分布	54	第75図	9D住居跡出土遺物実測図	93
第37図	13D住居跡実測図	55	第76図	10D住居跡実測図	94
第38図	13D住居跡遺物出土状況図	55	第77図	10D住居跡出土遺物実測図	94
第39図	13D住居跡出土遺物実測図	56	第78図	11D住居跡実測図	96
第40図	15D住居跡実測図	58	第79図	11D住居跡炉跡・P5断面図	97
第41図	15D住居跡遺物出土状況図	59	第80図	11D住居跡遺物出土状況図	98
第42図	15D住居跡出土遺物実測図(1)	59	第81図	11D住居跡出土遺物実測図(1)	99
第43図	15D住居跡出土遺物実測図(2)	60	第82図	11D住居跡出土遺物実測図(2)	100
第44図	16D住居跡実測図,遺物出土状況図	62	第83図	12D-A住居跡実測図	103
第45図	16D住居跡出土遺物実測図	62	第84図	12D-B住居跡実測図	104
第46図	18D住居跡実測図,遺物出土状況図	64	第85図	12D住居跡遺物出土状況図	105
第47図	18D住居跡出土遺物実測図	65	第86図	12D住居跡出土遺物実測図(1)	105
第48図	26D住居跡実測図,遺物出土状況図	66	第87図	12D住居跡出土遺物実測図(2)	106
第49図	26D住居跡出土遺物実測図	67	第88図	12D住居跡付近出土遺物実測図	107
第50図	古墳時代住居跡の分布	70	第89図	14D住居跡実測図	108
第51図	1D住居跡実測図	71	第90図	14D住居跡遺物出土状況図	108
第52図	1D住居跡遺物出土状況図	72	第91図	14D住居跡出土遺物実測図	109
第53図	1D住居跡出土遺物実測図	72	第92図	17D住居跡実測図	110
第54図	2D住居跡実測図,遺物出土状況図	73	第93図	17D住居跡炉跡・P6断面図	110
第55図	2D住居跡出土遺物実測図	74	第94図	17D住居跡遺物出土状況図	111
第56図	3D住居跡実測図	76	第95図	17D住居跡出土遺物実測図(1)	111
第57図	3D住居跡炉跡・P5断面図	78	第96図	17D住居跡出土遺物実測図(2)	112
第58図	3D住居跡炭化材出土状況図	78	第97図	17D住居跡付近出土遺物実測図	113
第59図	3D住居跡遺物(土器)出土状況図	79	第98図	19D住居跡実測図	115
第60図	3D住居跡出土遺物実測図(1)	79	第99図	19D住居跡炭化材・焼土出土状況図	115
第61図	3D住居跡遺物(土製品, 石, 鉄) 出土状況図	80	第100図	19D住居跡出土遺物実測図	116
第62図	3D住居跡出土遺物実測図(2)	80	第101図	20D住居跡実測図	118
			第102図	20D住居跡P2・P6断面図	119

第103図	20D住居跡焼土・炭化材 出土状況図 ……………	120	第130図	その他の土坑実測図 (2) ……………	152
第104図	20D住居跡遺物出土状況図 ……………	121	第131図	その他の土坑実測図 (3) ……………	154
第105図	20D住居跡出土遺物実測図 ……………	122	第132図	5D住居跡実測図 ……………	157
第106図	21D住居跡実測図 ……………	125	第133図	5D住居跡遺物出土状況図 ……………	158
第107図	21D住居跡炉跡・P2断面図 ……………	126	第134図	5D住居跡出土遺物実測図 (1) ……………	158
第108図	21D住居跡出土遺物実測図 ……………	126	第135図	5D住居跡出土遺物実測図 (2) ……………	159
第109図	22D住居跡実測図 ……………	128	第136図	2M溝実測図 ……………	161
第110図	22D住居跡炭化材・焼土 出土状況図 ……………	129	第137図	2M溝出土遺物実測図 ……………	161
第111図	22D住居跡遺物出土状況図 ……………	130	第138図	3M溝実測図 ……………	162
第112図	22D住居跡出土遺物実測図 (1) ……………	131	第139図	3M溝出土遺物実測図 ……………	162
第113図	22D住居跡出土遺物実測図 (2) ……………	132	第140図	4M溝実測図 ……………	162
第114図	22D住居跡出土遺物実測図 (3) ……………	133	第141図	5M溝実測図 ……………	163
第115図	23D住居跡実測図 ……………	136	第142図	6M溝実測図 ……………	163
第116図	23D住居跡遺物出土状況図 ……………	137	第143図	7M溝実測図 ……………	164
第117図	23D住居跡出土遺物実測図 ……………	137	第144図	8M溝実測図 ……………	164
第118図	24D住居跡実測図 ……………	139	第145図	9M溝実測図 ……………	165
第119図	24D住居跡出土遺物実測図 (1) ……………	139	第146図	9M溝出土遺物実測図 ……………	165
第120図	24D住居跡出土遺物実測図 (2) ……………	140	第147図	その他の遺物実測図 ……………	166
第121図	25D住居跡実測図 ……………	142	第148図	川崎山遺跡における遺構の分布 ……………	197
第122図	25D住居跡遺物出土状況図 ……………	142	第149図	川崎山遺跡d地点住居跡の 主軸方向 ……………	198
第123図	25D住居跡出土遺物実測図 (1) ……………	143	第150図	川崎山遺跡d地点の弥生時代 後期土器 ……………	200
第124図	25D住居跡出土遺物実測図 (2) ……………	144	第151図	川崎山遺跡d地点の古墳時代 初頭の壺形土器 ……………	200
第125図	弥生時代後期～古墳時代中期の 遺構及び平安時代住居跡 (5D) の分布 ……………	146	第152図	川崎山遺跡d地点の壺形土器の 胴部文様 ……………	202
第126図	1H掘立柱建物跡実測図 ……………	147	第153図	川崎山遺跡d地点の甕・台付甕 ……………	202
第127図	2H掘立柱建物跡実測図 ……………	149	第154図	川崎山遺跡d地点の高坏・ 器台・埴 ……………	202
第128図	その他の土坑実測図 (1) ……………	150	第155図	川崎山遺跡d地点の小型土器など ……………	202
第129図	48P土坑出土遺物実測図 ……………	150			

I 序章

1 調査に至る経緯

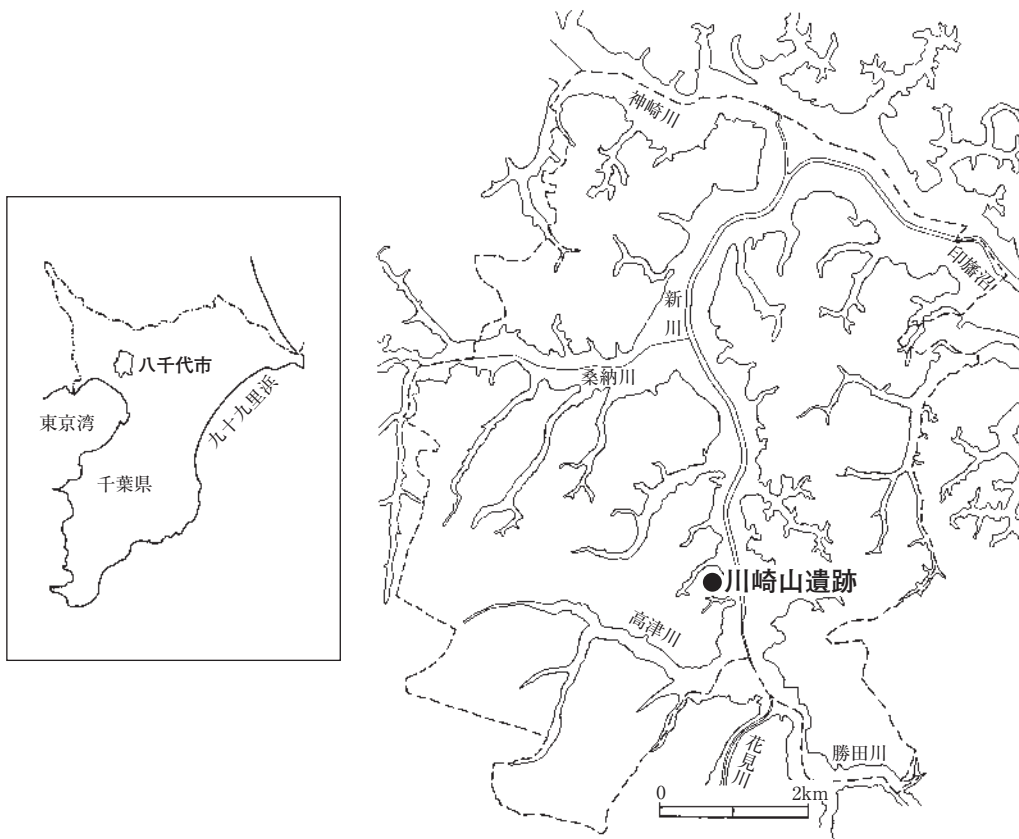
(1) 照会と回答

平成8年6月、財団法人八千代市開発協会から、千葉県八千代市萱田町字川崎山757-1ほか約25,000㎡について、土地区画整理事業を行う目的で「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会が、八千代市教育委員会（以下「市教委」と略）及び千葉県教育委員会（以下「県教委」と略）あてに提出された。対象地は、周知の遺跡「萱田町川崎山遺跡（遺跡No241）」の範囲内であり、隣接地で集落遺跡が確認されており、さらに市教委による現地踏査で遺物を多く確認した。県教委が回答する案件であったため、市教委はその旨県教委に副申した。再度、県教委及び市教委による現地踏査を行ったうえで、県教委から8月に「全域遺跡有り」の回答があった。

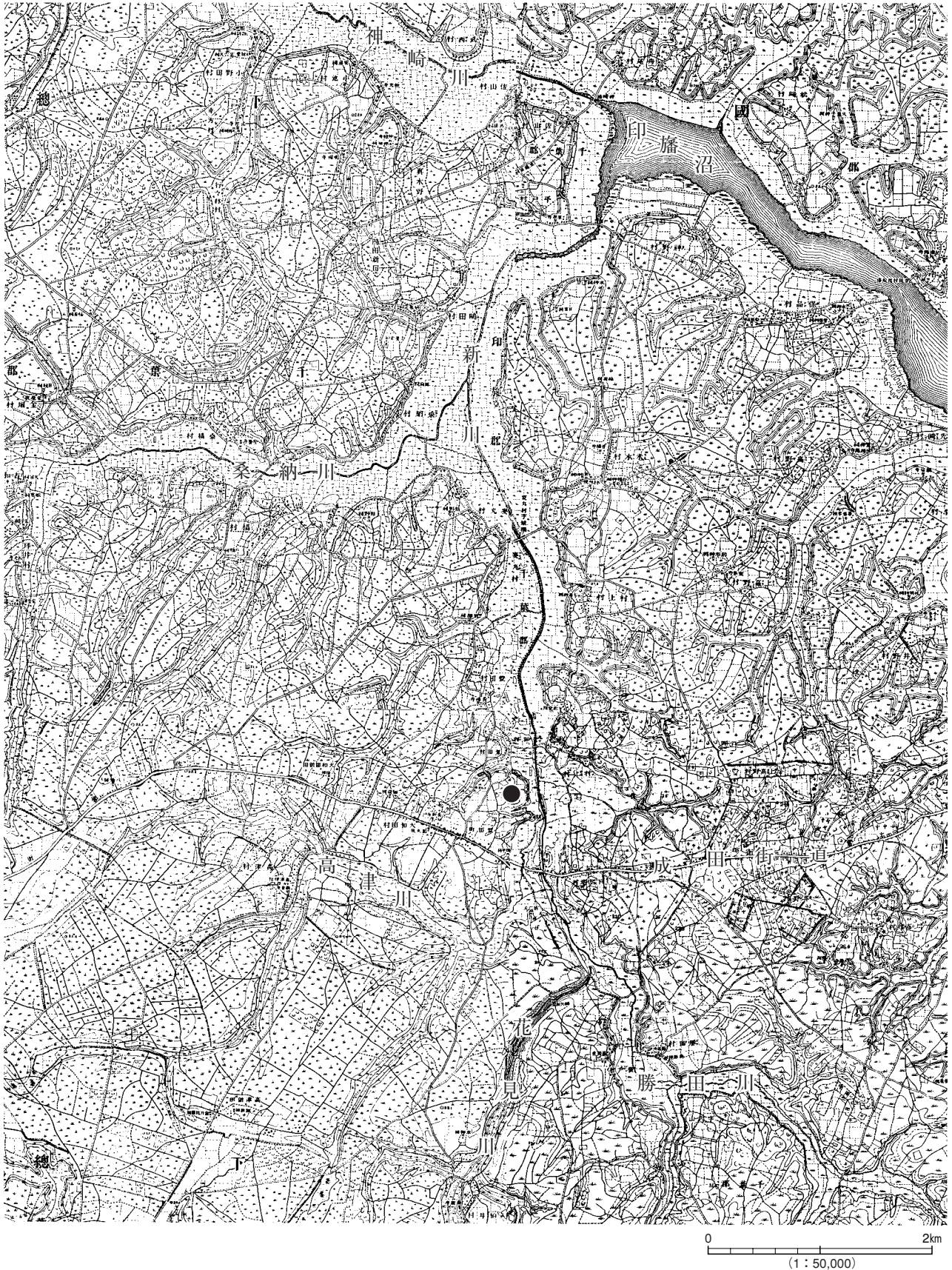
これを受け市教委は、八千代市都市整備課・開発協会と協議を重ねた。12月に八千代市萱田町川崎山土地区画整理組合設立準備委員会が発足し、同月、同委員会から「文化財保護法」57条の2第1項の規定による土木工事の発掘届が提出された。

(2) 確認調査

対象地の大半は畑地であるため、作物の収穫状況等を考慮し調査可能な部分9,400㎡について、平成9年1月27日に確認調査を開始した。同年2月20日まで調査を行い、1,210㎡を掘削し遺構・遺物の検



第1図 八千代市と川崎山遺跡の位置



第2図 八千代市の旧地形（明治15年第一師管地方二万分一迅速測図に加筆，●が川崎山遺跡。）

出に努めた。平成8年度に調査できなかった部分については、翌平成9年度に実施することとし、5,280㎡について平成10年2月17日から3月16日まで調査を実施した。760㎡を掘削し遺構・遺物の検出に努めた。

2度に亘る確認調査の結果、調査区域の東部分に当たる台地先端を中心に、弥生時代後期及び古墳時代前期の遺構・遺物を多数検出した。調査結果については、『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成9年度』（文献13）にまとめられた。平成8年度に実施した区域については、引き続き5,450㎡の本調査と下層の確認調査が必要とされ、平成9年度分については、引き続き668㎡の本調査が必要という取り扱いになった。

(3) 本調査

確認調査終了後しばらく事業は進まなかったが、区画整理の施行形態が地権者6名による共同施行という形態に改められ、対象地は約16,000㎡とするなど事業が見直されたうえで、平成12年度から再び協議を開始した。調査費用は事業者が負担し、発掘調査は八千代市遺跡調査会（以下「市調査会」と略）が受託するという合意で、平成14年4月、施行者代表の財団法人八千代市開発協会、代行業者の株式会社竹中土木、市教委、市調査会の4者間で「萱田町川崎山遺跡埋蔵文化財に関する協定書」を締結し、埋蔵文化財取り扱いの大枠を定め、さらに八千代市開発協会、竹中土木、市調査会の3者間で委託契約を締結し、これに基づき同年5月8日から本調査を開始した。

なお調査対象地については、当初面積7,800㎡として協議していたが、確認調査を行っていない区域についても本調査の対象に加えることとし、最終的に8,885㎡を調査対象とした。

2 川崎山遺跡の概要

(1) 遺跡の立地

川崎山遺跡は、市域の南部、新川の西岸に位置する。南北を新川の低地から入る谷によって画された台地上一帯が範囲である。地形面の区分で言うと「下総下位面」に当たり、標高は20～24mである。周囲に「千葉段丘面」は形成されておらず、台地東側の新川の低地とは約15m差の崖面となっている。南側にある上ノ山の台地との間の小谷に面した所も急傾斜である。北側の池ノ谷津に面した所は地形変化が進んでいてわかりにくい、やはり比較的急傾斜だったらしい。

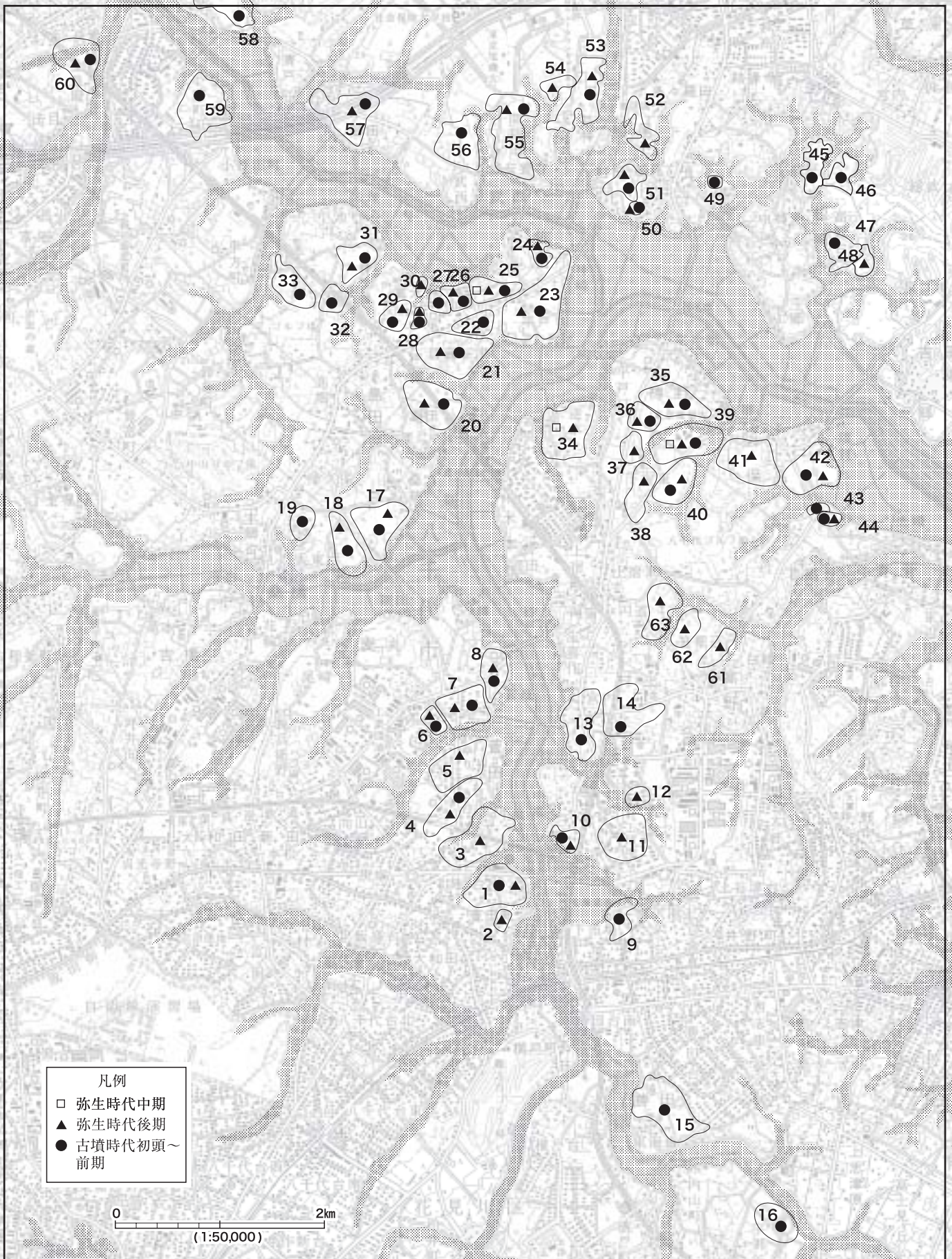
(2) 川崎山遺跡におけるこれまでの調査

川崎山遺跡の発掘調査は、昭和54年の都市計画街路の建設に先行する調査が最初である。台地の北側の縁辺部に当たり、ここからは弥生時代後期の住居跡4軒、古墳時代中期の住居跡3軒等が検出された（文献25）。後にa地点と名付けた。

平成3年度には、台地北西部の縁辺部の一角を調査し、縄文時代落とし穴1基を検出した（文献8・34）。後にb地点と名付けた。

c地点は、川崎山遺跡における最も大規模な調査であった。台地東部の15,614㎡の区域で、マンション建設に先行して平成5年度に確認調査を実施し（文献10）、翌平成6年度に本調査を実施した（文献30）。旧石器の遺物集中地点1箇所、縄文時代の落とし穴状土坑11基、弥生時代後期住居跡13軒、弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡10軒、古墳時代中期住居跡24軒、古墳時代後期住居跡2軒、平安時代住居跡2軒などを検出した。なお区域内の一部に、確認調査で住居跡の存在を確認したうえで本調査の対象とせず、現況保存措置をとり公園として利用した区域がある。

e地点は、台地中央部やや西寄りの所で、平成9年度に調査し、縄文時代落とし穴状土坑1基を検出した（文献13）。遺物は出土しなかった。



第3図 弥生時代中期～古墳時代前期の遺跡分布図

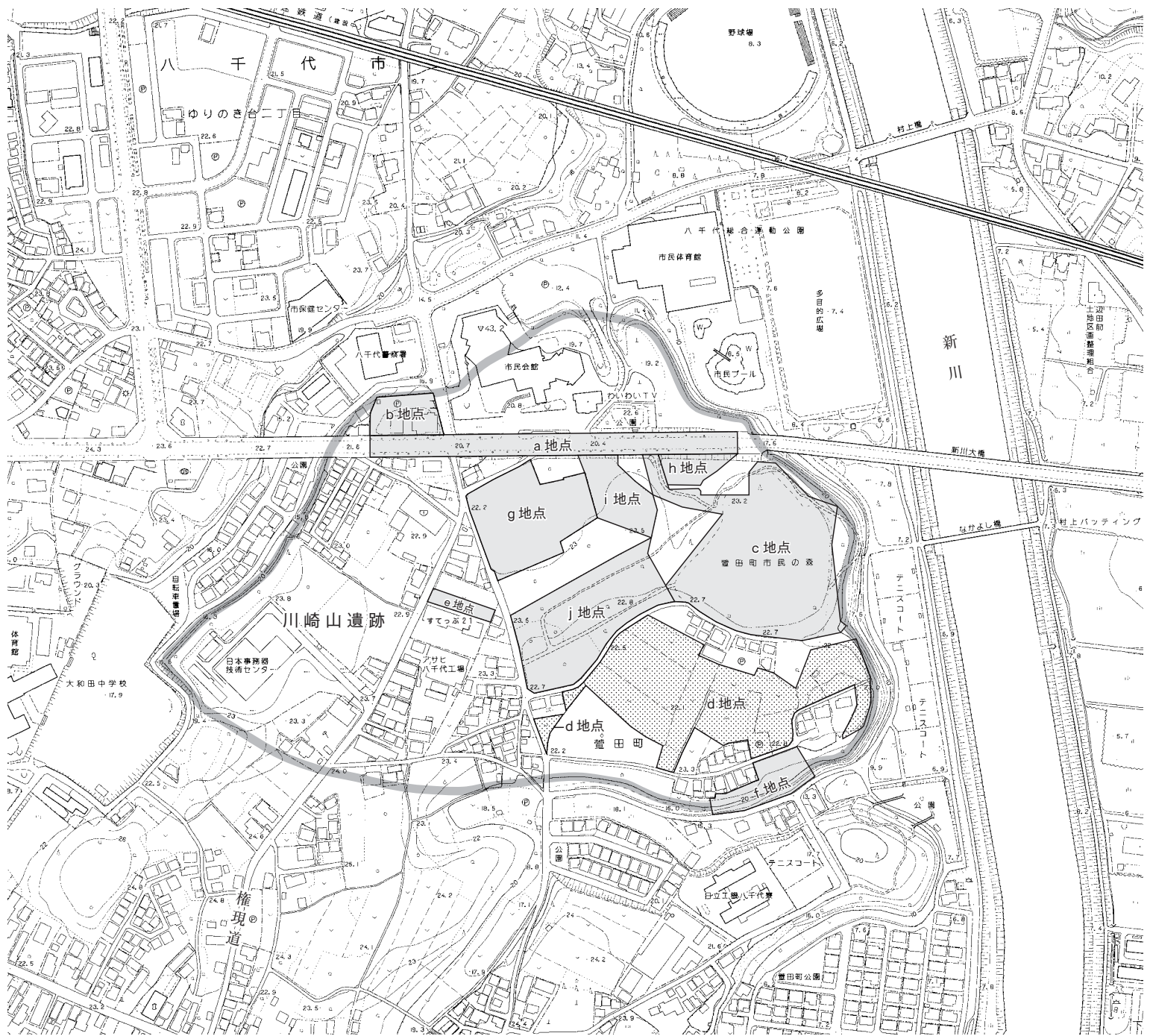
遺跡一覧表 (第3図)

No.	遺跡名	弥生時代中期	弥生時代後期	古墳時代初頭～前期	遺跡No.	所在地	調査年	文献
1	川崎山		住居跡25, 附加条堿, 輪積堿, 附加条+S字結節文+輪積刺突, 櫛描文	住居跡29, ハケ台付堿, 高坏, 口縁施文器台, 器台, 網目状燃糸文裝飾壺, ヒサゴ壺	241	八千代市萱田町字川崎山	1979-2002 15.16.25.30.34.35	8.10.13.14
2	上ノ山		住居跡5, 胴部刺突堿, 高坏, 無須壺, 櫛描文, 網目状燃糸文		243	八千代市萱田町字上ノ山	1986-1997	2.31
3	白幡前		住居跡1, 輪積堿 住居跡16, 附加条堿, 鉢, 櫛描波状文		185	八千代市萱田字白幡前	1979-88	49
4	井戸向		住居跡6, 附加条堿, 櫛描文堿	住居跡31, ハケ台付堿, ヘラ台付堿, 異形器台, 高坏, 網目状燃糸文裝飾壺, 櫛描文裝飾壺, 方形周溝墓3, 住居跡1, 小型壺形土器	284	八千代市萱田字井戸向	1980-85	48.50
5	北海道		住居跡1		183	八千代市萱田字北海道	1979-80	46
6	ヲサル山		住居跡12, 附加条, 附加条+山形文裝飾壺片, 輪積痕+多段S字結節堿, 頸部刺突+羽縄文+RL斜縄文堿, 附加条による網目文高坏, 網目状燃糸文	住居跡22, ハケ台付堿, 裝飾壺, ヒサゴ壺, 網目状燃糸文, 方形周溝墓3基, 裝飾壺, 鉄鈿, 勾玉, 丸玉	283	八千代市大和田新田字ヲサル山	1981-82	47
7	権現後		住居跡19, 高坏, 素口縁裝飾壺, 羽状縄文+頸部刺突+輪積痕堿 住居跡17, 附加条堿, 櫛描山形・平行文壺 住居跡37, 附加条堿, 輪積堿, 網目状燃糸文, 羽状縄文, S字結節文 方形周溝墓1	住居跡32, ハケ台付堿, 器台, 高坏, 裝飾壺, 網目状燃糸文, 磨製石斧 方形周溝墓2	171	八千代市萱田字権現後	1977-78	45
8	菅地ノ台		住居跡4, イボ状突起堿, 方形周溝墓1	住居跡4	179	八千代市萱田字菅地ノ台	1988-98	2.6.7.9.20 21
9	沖塚			銅精錬遺構1, 羽状縄文無須壺 附加条縄文小形壺, 台付堿, 複合口縁壺	215	八千代市村上字沖塚前	1990-92	51.73
10	浅間内		住居跡, 鉄製品, 附加条堿, 櫛描波状文土坑1 (裝飾壺)	住居跡, 古墳1, 方形周溝墓2	204	八千代市村上字浅間内	1994-2002	20.21.36
11	村上込ノ内		住居跡14, 附加条堿, 輪積堿, 櫛描文, 胴部刺突+附加条		210	八千代市村上字込の内 地先	1972-73	23
12	名主山		住居跡1		205	八千代市村上字向原	1971	22
13	村上宮内			住居跡11, ヘラ台付堿, 高坏, 裝飾壺	191	八千代市村上字宮内	(確)2000	17
14	西山			住居跡3	196	八千代市村上字西山	1989-90	7
15	勝田大作			住居跡4	254	八千代市勝田字大作	1985	2
16	内野第1			住居跡281, 古墳16, 特殊器台, 裝飾壺	23	千葉市花見川区宇那谷町	1989-96	69.70
17	桑納		住居跡	住居跡	57	八千代市桑納字東側	1983-84	2
18	桑橋新田 (桑橋)		住居跡3, 方形周溝墓4 住居跡1	住居跡3 住居跡85 住居跡86 住居跡5	59	八千代市桑橋	1976 (確)1992 (確)1996 (確)1996	1.2 9.10 19 20
19	作ヶ谷津			住居跡3	62	八千代市桑納字作ヶ谷津	1983	4
20	島田込ノ内		土器 (蓋, 附加条堿)	住居跡12, ハケ台付堿, 高坏, ハケ堿, 網目状燃糸文	48	八千代市島田字込ノ内	1993-94	52
21	間見穴		住居跡3 住居跡2 住居跡3, 土器 (北関東系, 南関東系)	古墳時代住居跡2, 土坑1基 古墳時代住居跡9 住居跡21	28	八千代市島田台字間見穴	1993-94 1994-95 1998-99	37 38 41
22	平戸台		住居跡2		25	八千代市島田台字平戸台	1980	3
23	道地		住居跡9, 附加条堿, 附加条壺, 裝飾壺, S字結節文輪積堿 弥生時代住居跡6 住居跡26, 土壇墓1, 土坑1, 道路1	古墳時代14, 古墳時代掘建柱建物跡1 住居跡30, 土坑4	18	八千代市平戸字道地	1982-83 1994-95 1996-97	29 38 39
24	子の神台 (佐山寺の下)		住居跡1, 輪積, 附加条	住居跡1 (台付堿)	16	八千代市佐山字子の神台	1983	27
25	田原窪	環濠1 (径100~120m) 住居跡45 方形周溝墓群か	住居跡2	住居跡53, 古墳時代住居跡4 古墳3 (田原窪古墳群)	216	八千代市佐山字田原窪	1987-93	5.19.20
26	佐山台		住居跡5	住居跡231	22	八千代市島田台字佐山台	1987-92	2.19
27	真木野向山		住居跡22		23	八千代市真木野字向山	1989-1990	19
28	東山久保		住居跡6	住居跡5	24	八千代市真木野字向山	1985-87	2.19
29	松原		住居跡6	住居跡1, 古墳時代住居跡54	11	八千代市真木野	1985-87	2.19
30	瓜ヶ作		住居跡13		267	八千代市真木野字瓜ヶ作	1987	2.19
31	妙正神		住居跡1	住居跡1, 方形周溝墓2, 裝飾壺	5	八千代市神久保字北之谷津	(確)1999	16
32	神久保寺台		住居跡1	住居跡1	7	八千代市神久保寺ノ台	(確)1998	34
33	原内			住居跡22, 台付堿, 裝飾壺, ヒサゴ壺, 網目状燃糸文	32	八千代市島田台字原内	(確)1991	8

No.	遺跡名	弥生時代中期	弥生時代後期	古墳時代初頭～前期	遺跡No.	所在地	調査年	文献
34	逆水(逆水西)	方形周溝墓6 記号文壺	住居跡4, 附加条, 櫛描文 住居跡3, 附加条		100	八千代市米本字逆井	1996 (確) 1996 2001-02	11 12 18
35	境堀		住居跡8	住居跡4	73	八千代市神野字境堀	1992～98	19,20,21
36	向境		住居2	住居跡2	98	八千代市神野字向境	1990～95	19,21
37	役山東		住居3		105	八千代市米本字役山	1993～95	19,20
38	雷(雷南)		住居跡1 住居跡10 住居跡1		106	八千代市保品字上谷	(確) 1993 (確) 1995 1997	19,21,53
39	栗谷	住居跡5 方形周溝墓11 記号文壺	住居跡93, 方形周溝墓2 櫛描文(縦スリット, 波状, 連弧), 附加条縄文 壺, 輪積壺, 胴上部有段堿, イボ状突起壺, 輪積+S字結節文, 多段S字結節文, 裝飾壺	住居跡23, 方形周溝墓2 網目状摺糸文裝飾壺, ヒサゴ壺, 高坏, 特殊器台	75	八千代市保品字栗谷	1988～94	33
40	上谷		住居跡35以上, 附加条壺, 櫛描文壺, 蓋, 口縁縄文鉢, 輪積壺, 方形周溝墓2(裝飾壺)		77	八千代市保品字上谷	1995～98	32
41	郷		住居跡1		79	八千代市保品字郷	(確) 1999	15
42	おおびた		住居跡1, 附加条壺, 竹管文 住居1, 方形周溝墓2	住居跡7, ハケ壺, ヘラ壺, 複合口縁壺, 異形器台, 小型丸底壺, 柱状脚高坏 住居1 古墳1	86	八千代市保品字須賀	1973 1995 1996	24 21
43	南谷			住居跡9 住居跡4	270	八千代市保品字南谷	1994～95 1998	20
44	先崎西原		住居跡7	住居跡	1	佐倉市先崎字西原	1997～98 1990	64 65
45	松崎Ⅰ			住居跡44, 方形周溝墓7	235	印西市松崎	2000～02	43,44
46	松崎Ⅱ			住居跡44	236	印西市松崎	1999～2000	42,43
47	松崎Ⅳ			住居跡2	238	印西市松崎	1998	40
48	松崎Ⅴ			住居跡2	239	印西市松崎	1999	42
49	船尾城			住居跡2, 網目状摺糸文裝飾壺, 高坏, 小型土器	194	印西市船尾	1976～77	72
50	向ノ地		住居跡4	住居跡13, 環濠	234	印西市船尾字向ノ地	1992・93	62,63
51	船尾町田		住居跡5, 附加条壺, 櫛描波状文	住居跡14, ハケ壺, 裝飾壺, 高坏, 器台, 異形器台, 特殊器台, ヒサゴ壺, ハケ台付壺, 口縁有段堿, 網目状摺糸文	188	印西市船尾字町田	1980～81	58
52	船尾白幡		住居跡3, 櫛描波状文, 附加条縄文, S字 結節文裝飾壺 住居跡14 住居跡2		190	印西市船尾字白幡 印西市船尾字神明作	1974 1996 1997	55 39 40
53	鳴神山		住居跡11, 附加条壺, 櫛描文壺, 摺糸文	ハケ壺, 高坏, 器台, 小型壺, 裝飾壺片	227	印西市戸神字大野	1988～92	61
54	白井谷奥		住居跡1, 壺		228	印西市戸神字北ノ内	1991	61
55	向新田		住居跡1, 附加条壺, 櫛描波状文 住居跡2 住居跡1	住居跡76, 輪積口縁ハケ壺, ハケ壺, 高坏, 器台, 異形器台, 甌, 網目状摺糸文裝飾壺, 波状文裝飾壺, 小形壺, 櫛描文有段口縁壺 住居跡1	146	印西市向新田	1983 1993～94 1994 1995	60 68 68
56	北の台			住居跡2, ハケ壺, 甌, 柱実高坏, 器台, 小型丸底壺	145	印西市武西北の台	1973	54
57	谷田木曾地		住居跡9, 附加条壺, 櫛描波状文壺 住居跡1, 縄文壺	住居跡6, 有段堿, 素口縁壺, ハケ壺, 甌, X字形器台, 小型丸底壺高坏, 網目状摺糸文 住居跡1, ヘラ壺	7	白井市谷田	1978～82 1993	58 67
58	神々廻			a, 住居跡12, ヘラ壺, ヘラ台付壺, 器台, 高坏 b, 住居跡11, 方形周溝墓5, ハケ壺, ヘ ラ壺, ハケ台付壺, 器台, 高坏, 甌, 台付壺, 網目状摺糸文裝飾壺	17	白井市神々廻字東原	1986	66
59	小室台			住居跡7	5	船橋市小室町	(確) 1998	71
60	復山谷		住居跡1, 附加条壺	住居跡8, 裝飾壺, 高坏, 網目状摺糸文, ヒサゴ壺, 口縁羽状縄文高坏, 小型壺, 台付壺, 方形周溝墓1 住居跡30, ハケ壺, 輪積ハケ壺, 網目状摺 糸文裝飾壺, 高坏, 器台, 口縁網目小形碗 口縁縄文高坏	80	白井市復山谷	1976～77 1978～80	56 57
61	堂の上		住居跡2 住居跡6		219	八千代市上高野	2002 2002	43 44
62	平沢		住居跡10		217	八千代市上高野字平沢	1995	21
63	阿蘇東中学校 東側		住居跡19, 輪積壺, 附加条壺, 網目状摺糸文 裝飾壺, 鉢, 方形周溝墓2		119	八千代市米本山山谷	1979～83	26,28

※「No.」の網かけの有無は、全体を概ね9地区に分けたもの。土器は、代表を列挙。「通称No.」は、(財)千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』に準ずる。「(確)」は、確認調査。「調査年」の-は、断続調査を、～は継続調査を示す。「文献」は、基本的に弥生～古墳時代前期の内容の典拠となるものに限定している。

※八千代市内の遺跡については、詳細不明なものも全て掲載した。市外の遺跡については、極力掲載したが、詳細不明なものは省略した。



第4図 川崎山遺跡の各調査地点

f地点は、台地南側の縁辺部から斜面にかけての区域で、平成10年度に調査し、平安時代の住居跡2軒を検出した（文献14）。

g地点は、台地中央やや北寄り、平成10年度に調査し、縄文時代の落とし穴状土坑を4基検出した（文献15）。遺物は出土しなかった。

h地点は、台地北東部縁辺付近で、平成11年度に調査し、弥生時代後期住居跡3軒、古墳時代中期の石製模造品の製作工房跡2軒・住居跡1軒が検出された（文献16）。

i地点は、台地中央やや北寄りの所である。平成11年度に調査したが、遺構・遺物とも検出されなかった（文献16）。

j地点は、台地中央部である。平成11年度に調査し、縄文時代落とし穴状土坑3基等を検出した（文献35）。遺物は出土しなかった。

以上の各調査から、川崎山遺跡の概要をまとめると、旧石器時代はc地点に比較的まとまっているが、全体的には稀薄である。縄文時代には、落とし穴状土坑が台地先端部から台地中央部まで広く分布する。弥生時代後期から古墳時代中期にかけて台地先端部に集落が営まれ、遺跡の中心を成している。その後は古墳時代後期、平安時代の住居跡が確認されるがその数は激減する。

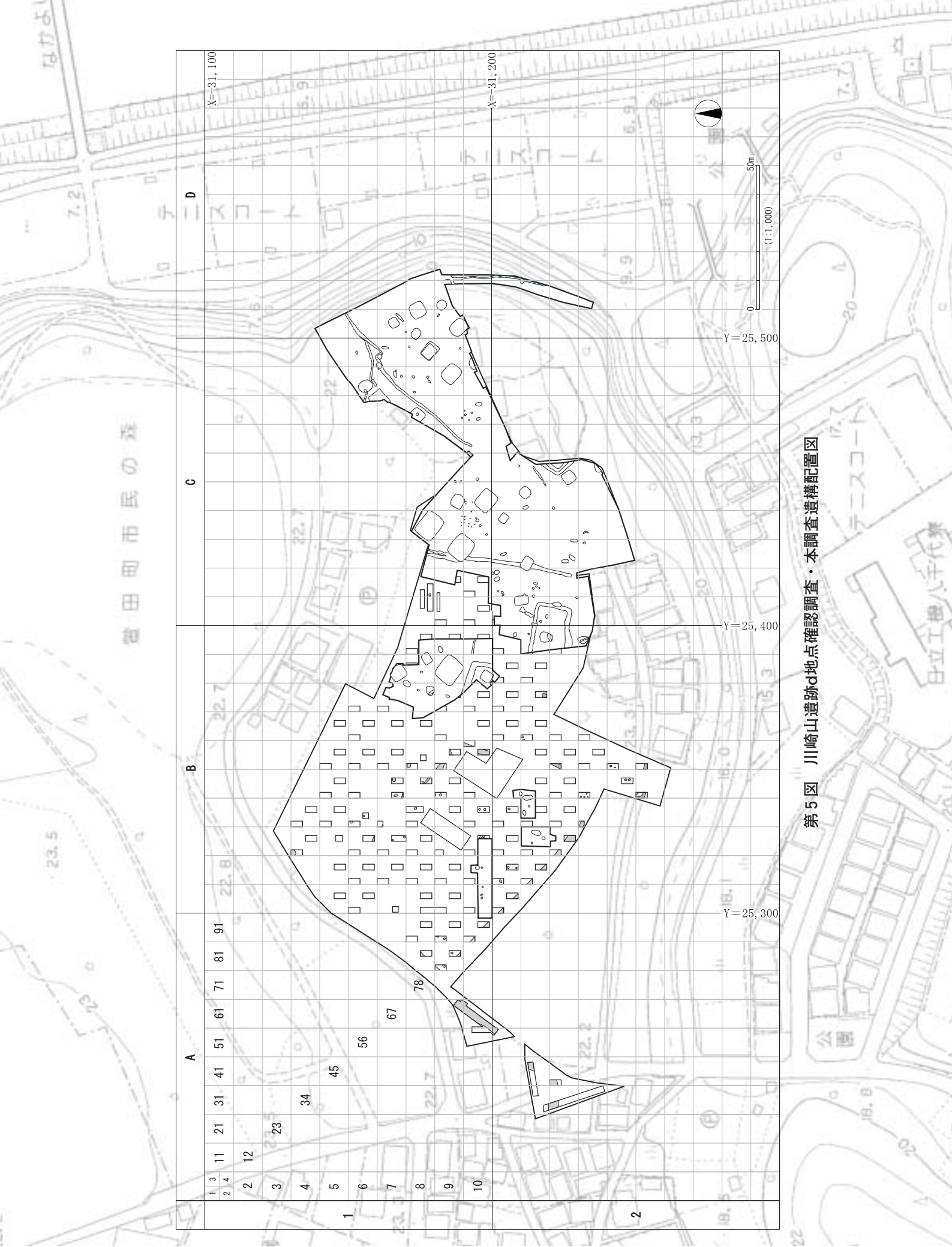
(3) 周辺の遺跡（第3図）

川崎山遺跡d地点の主体となる時期は、弥生時代後期～古墳時代初頭である。この時期の前後となる弥生時代中期及び古墳時代前期を含めて、周辺の遺跡について概観してみたい。

弥生時代中期は、新川と神崎川の合流地点周辺の台地上に田原窪（第3図25、以下も同図の番号）・逆水（34）・栗谷（39）の3遺跡が存在する。神崎川を北に臨む台地上に立地する田原窪遺跡は、環濠集落である。環濠内に45軒の住居跡が検出された。また環濠の外側東方には、方形周溝墓を形成すると考えられる溝が数条確認されている。逆水遺跡b地点では、方形周溝墓を6基確認した。住居跡が隣接するかどうかは不明である。栗谷遺跡では方形周溝墓11基と住居跡5軒が検出された。

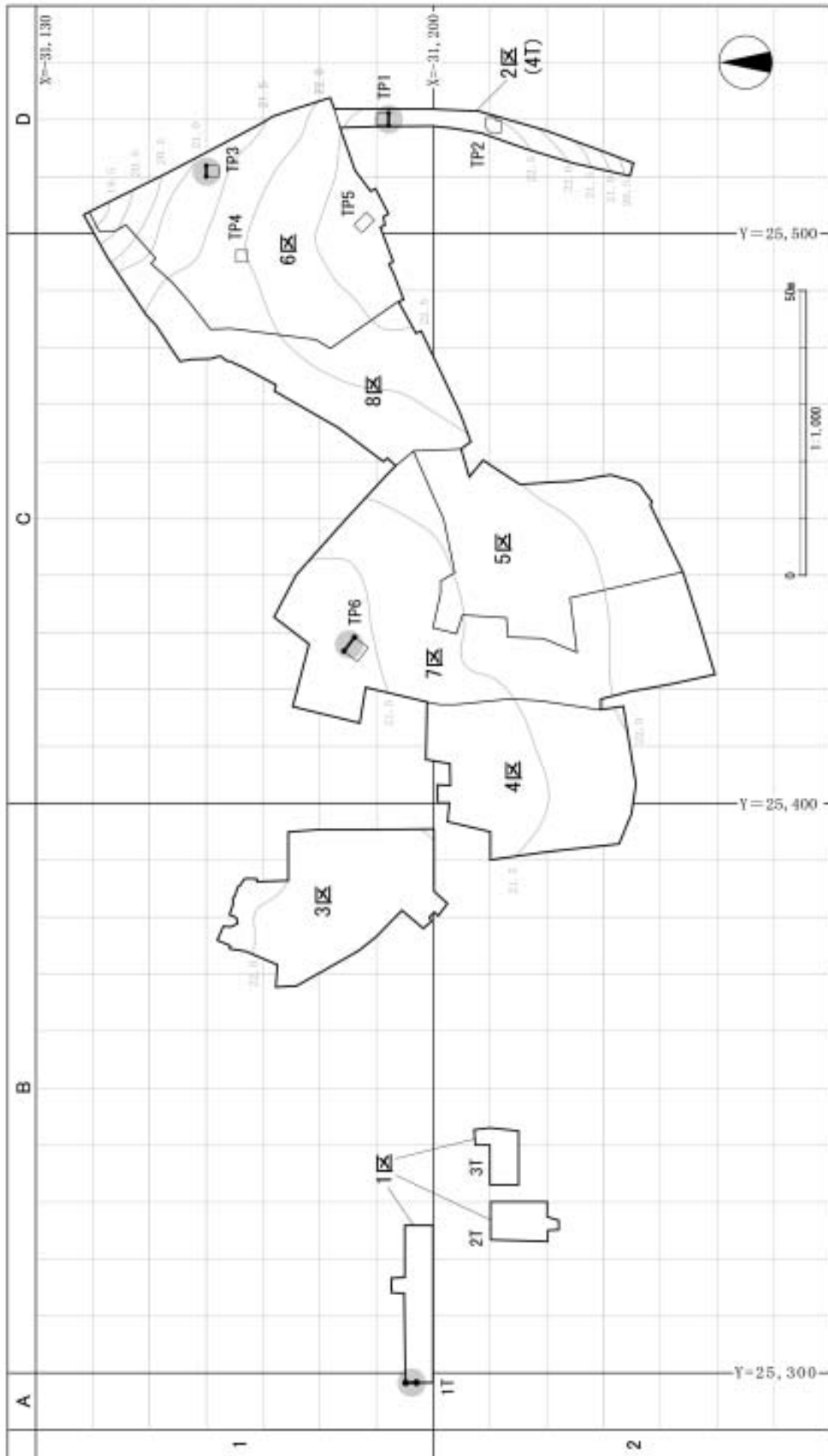
弥生時代後期になると遺跡数が急激に増加する。多くは台地縁辺に立地する。新川西岸の萱田地区では8遺跡が存在する。遺跡ごとに様相は異なるようである。菅地ノ台遺跡（8）では、イボ状突起を持つ甕が出土した。白幡前遺跡（3）では、櫛描波状文が目立つ。権現後（7）・ヲサル山遺跡（6）では、輪積甕が主体を成す住居跡が存在した。川崎山の南側にある細長い台地上には上ノ山遺跡（2）があり、住居跡5軒が検出されている。このうち3号と名付けられた住居跡の遺物は、南関東系土器が主体を占め、後期後葉あるいは終末に属するものと考えられる。川崎山遺跡の弥生後期から古墳時代への移行を考える上で、一体として考察すべき遺跡である。新川東岸の村上地区では3遺跡がある。浅間内遺跡（10）では、土坑から装飾壺が出土した。土器棺墓と考えられる。新川と桑納川の合流地点の北岸にある桑橋新田遺跡（18）では、方形周溝墓を伴う集落が存在する。新川北岸・神崎川南岸に当たる佐山・平戸地区には10遺跡が確認された。新川南岸の神野・保品地区でも10遺跡を確認している。栗谷遺跡では、住居跡93軒、方形周溝墓2基が検出された。上谷遺跡（40）では35軒以上の住居跡が検出された。神崎川と法目分流の合流地点付近には復山谷遺跡（60）があり、住居跡1軒が検出された。小竹川支流の高野川流域では、南岸に3遺跡がある。阿蘇中学校東側遺跡（63）には方形周溝墓2基が存在する。高津川・勝田川流域と桑納川の中・上流域は状況不明である。

古墳時代初頭～前期では、弥生後期に比べ土器の様相が一変するものの、大雑把に言えば、同じ台地上に少し位置をずらして集落が展開するということが多いようである。萱田地区では、権現後・ヲサル山・井戸向遺跡（4）は谷津に南面し、川崎山は北面する。ほぼ等間隔で集落が存在し、集落間には空隙地帯があり、あたかも隣の集落を意識して立地しているかのようなようである。方形周溝墓は、菅地ノ台遺



菅田町市民の森

第5図 川崎山遺跡d地点確認調査・本調査遺構配置図



第6図 川崎山遺跡d地点本調査区割・トレンチ・TP配置図

跡で1基，ヲサル山遺跡で3基，権現後遺跡で2基，井戸向遺跡で3基がそれぞれ伴っているが，川崎山遺跡では確認されていない。なお，ヲサル山遺跡では副葬品として鉄釧が出土している。村上地区では4遺跡を確認している。川崎山遺跡の対岸に位置する沖塚遺跡（9）では，精錬遺構に伴う最古の精錬炉と評価された遺構が検出され，注目を浴びている。浅間内遺跡では，住居跡の他，方形周溝墓2基と前期古墳1基が検出されている。勝田川流域には住居軒数281軒，前期古墳16基という内野第1遺跡（16）が所在し，周辺地域の中で極めて密度が高い遺跡として特筆に値する。東京湾側と新川流域とをつなぐ遺跡としても良好なものである。新川と桑納川の合流地点の北岸にある桑橋新田遺跡では，確認調査の結果住居数100軒以上が想定されている。佐山・平戸地区には13遺跡が所在し，住居数231軒の佐山台遺跡（26）を初めとして集落跡が点在し，前期古墳3基から成る田原窪古墳群（25）があるなど，ここも拠点的な集落と考えられる。神野・保品地区には6遺跡が所在する。弥生後期に比べまとまりができるが，軒数は減少している。おおびた遺跡（42）では古墳が1基存在する。神崎川・新川の北岸では，船尾地区に所在する向ノ地遺跡（50）で住居跡と環濠と思われる溝状遺構が検出されている。復山谷遺跡では，口縁に網目状捺糸文や縄文を施文する高坏・碗が出土し，川崎山遺跡と似た様相を示している。

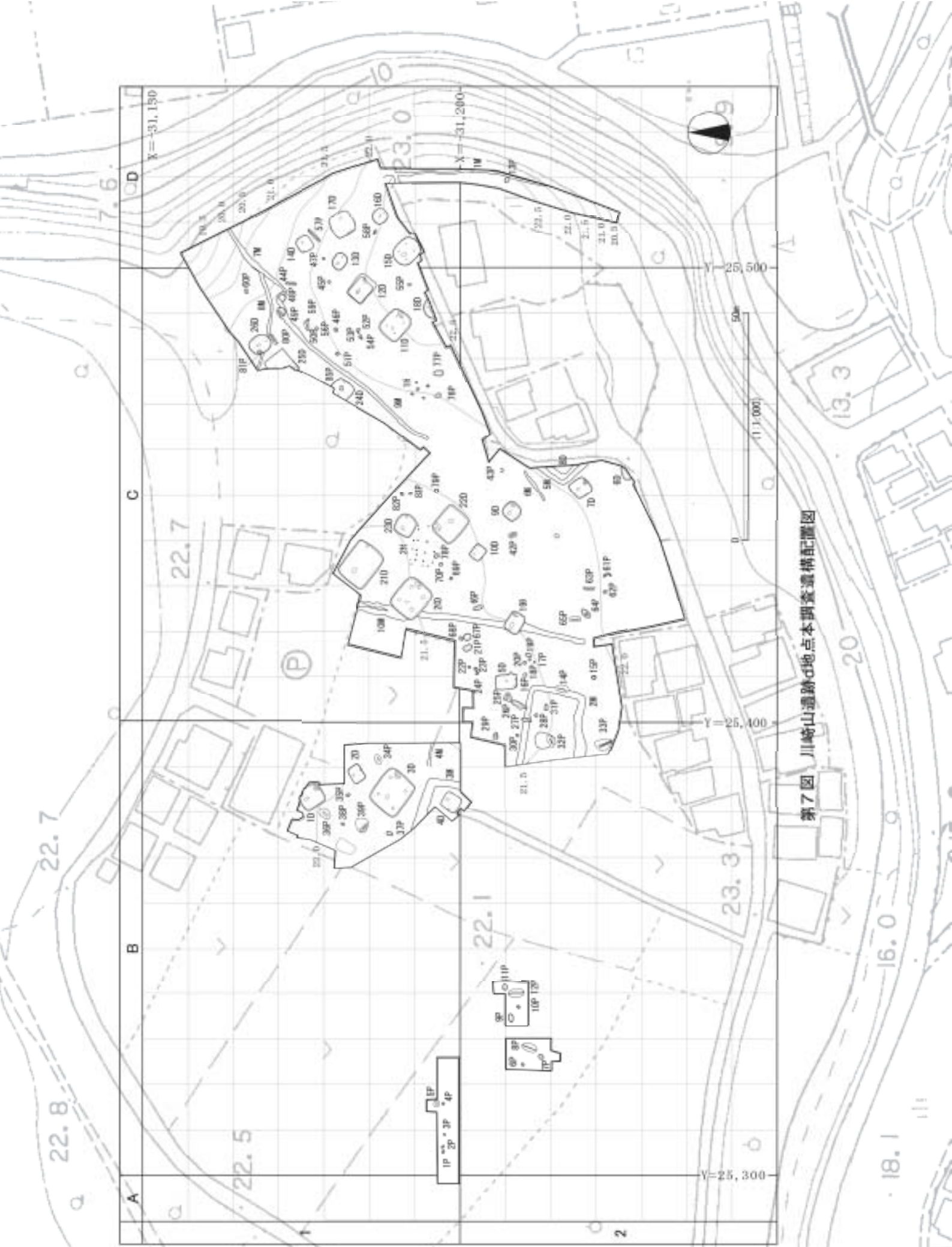
3 本調査の概要

(1) 調査の経過

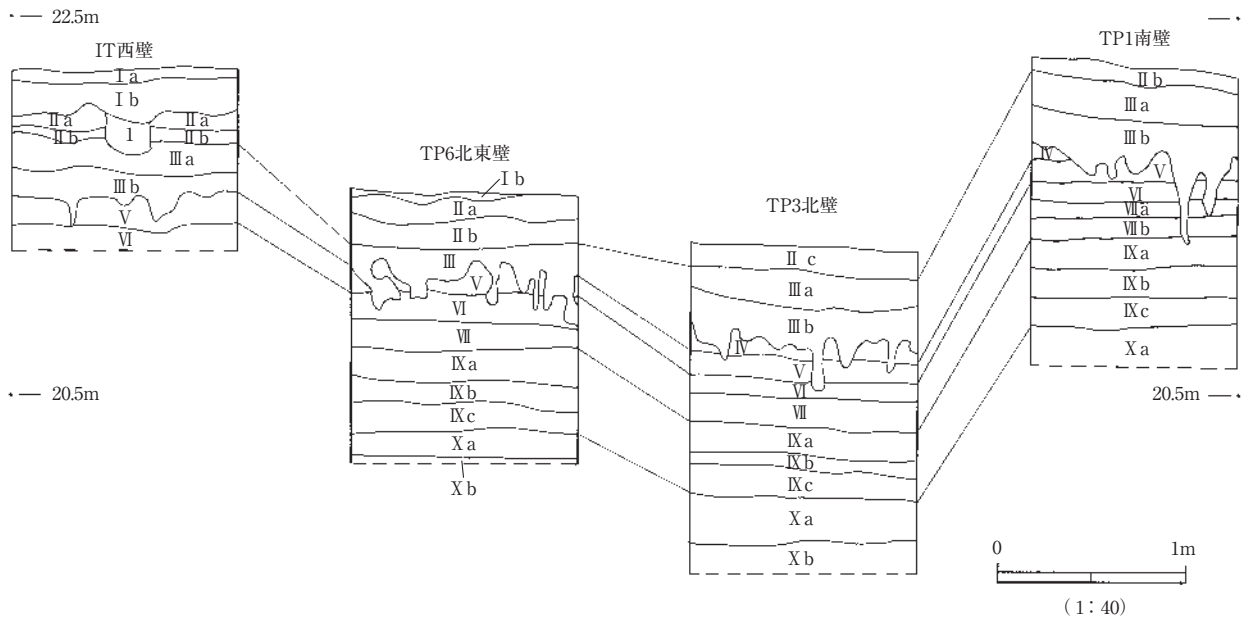
調査を開始した後も，調査区域内には使用中の駐車場が現存しており，一部伐採が終了していないなど障害物が残っていた。また，工事との兼ね合いや，廃土置き場の確保などに制約があった。その結果，第6図に示したように区域を8区に分割して行うこととなった。調査対象区域西端の1区から始めて，次に東端の2区へ進み，再び西寄りの3区へ戻る，というようにやや効率の悪い動きにならざるを得なかった。

平成14年5月8日調査開始，1区の調査区設定など。1区は3箇所に分かれているので，便宜的にそれぞれ1T・2T・3Tと名付けた。5月9・10日重機による1区の表土剥ぎ。13日重機2区表土剥ぎ。13日～20日重機3区表土剥ぎ。20日2区の調査開始。2区は，公園予定地内の排水管理設部をトレンチ状に掘削したもので，2区全体を4Tとした。21日～24日重機4区表土剥ぎ。28日3区調査開始。29日1区調査終了。30日2区調査終了。6月12日4区調査開始。20日降雨のため遺物水洗作業。基礎整理作業の開始。21日大和田中学校総合的学習のため中学1年生の見学者あり。7月9日～19日重機5区表土剥ぎ。19日5区調査開始。22日～31日重機6区表土剥ぎ。26日～31日4tキャリヤー廃土処理。30日近隣住民を主な対象とした遺跡見学会を実施。参加者245名。8月6日3区・4区調査終了。6区調査開始。9月9日5区調査終了。10日～12日重機・4tキャリヤー5区埋め戻し。13日埋め戻した5区に駐車場を設置（竹中土木の手配）。24日駐車場移転。13日～10月2日重機・4tキャリヤー7区表土剥ぎ。2日7区調査開始。11日6区調査終了。15日～30日重機・4tキャリヤー8区廃土移動・表土剥ぎ。29日8区調査開始。11月29日7区・8区調査終了。12月6日調査用機材等撤収。現場作業終了。

検出遺構は，縄文時代落とし穴状土坑17基・縄文時代土坑48基，弥生時代後期住居跡5軒，古墳時代初頭住居跡19軒・掘立柱建物跡2棟・土坑11基，古墳時代中期住居跡1軒，平安時代住居跡1軒，溝10条である。



第7図 川崎山通跡d地点本調査遺構配置図



第8図 川崎山遺跡d地点の層序

1T西壁 (第8図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他	
I a	判然	7.5YR3/2.5	富む	L	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	13	弱	細根 頗る富む	径2~3mm黄色スコリア	
I b	明瞭	7.5YR3/2	富む	SL	小亜角塊状	含む	小	26	弱	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化粒子 新期テフラ	
II a	判然	7.5YR4/3 7.5YR4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む		
II b	判然	7.5YR4/3, 4/4 まじり合う	含む	Si C	亜角塊状	頗る 富む	小	19	強	細根含む		
III a	漸変	7.5YR4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	19	強	細根含む	ソフトローム (上)	
III b	波状・明瞭	7.5YR4/4	含む	Si C	小亜角塊状	頗る	富む	小	18	強	細根含む	ソフトローム (下)
V	明瞭	7.5YR4/5	含む	Si C	亜角塊状	富む	中	27	強	細根含む	ハード, 径1mm赤色スコリア 径1mm暗灰色スコリア	
VI		7.5YR5/6	あり	Si C	亜角塊状	富む	中	26	強	細根あり	径1mm橙スコリア 径1mm暗灰色スコリア, 火山ガラスAT	
1	他と判然	7.5YR4/3 7.5YR4/4斑状	含む	Si C	小亜角塊状	頗る 富む	小	17	強	細根含む		

TP3北壁土層観察表 (第8図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
II c	漸変	7.5YR4/4	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	主根あり
III a	漸変	7.5YR4/4上下 より鈍い	含む	Si CL	亜角塊状	含む	小	16	強	細根富む	主根あり
III b	波状・明瞭	7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	強	細根富む	ソフトローム
IV	漸変	7.5YR4/5, 4/6	含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	26	強	細根富む	径1mm暗灰色スコリア 径1mm赤褐色スコリア
V	漸変	7.5YR4/5, 5/6	あり~ 含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	26	強	細根富む	径1mm暗灰色スコリア・青灰色スコリア・ 橙色スコリア, 火山ガラス
VI	漸変	7.5YR5/6	あり	LiC	小亜角塊状	富む	中	27	強	細根含む	スコリアVと同じ 火山ガラス多
VII	漸変	7.5YR4/4 7.5YR5/6斑状	あり~ 含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	26	強	細根含む	スコリアVと同じ
IX a	漸変	7.5YR4/5 7.5YR4/6斑状	含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	26	強	細根含む	スコリアVと同じだが, 青灰色スコリア 少なくなる。径2~3mm褐色スコリア
IX b	判然	7.5YR4/5	含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	25	強	細根あり	IXaと同じ
IX c	判然	7.5YR4/3	含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	25	強	細根あり	IXaと同じ
X a	漸変	7.5YR4/5	含む	LiC	小亜角塊状	富む	中	24	強	細根あり	スコリア激減 径1mm赤褐色 スコリアまばら
X b		7.5YR4/4	含む	LiC	小亜角塊状	含む	中	23	強~極強	なし	Xaと同じ

(2) 調査地点の土層について

本遺跡の土層について、確認調査及び本調査の結果を基に概観してみたい。

確認調査の結果では、基本層序として、Ⅰ表土層、Ⅱ黒褐色土層、Ⅲ褐色土（新期テフラ）層、Ⅳ暗褐色土層、Ⅴソフトローム層が挙げられ、Ⅱ～Ⅳ層は台地先端部で一部検出されたのみで、大部分のトレンチではⅠ層とⅤ層しか検出されず、地表下50cmでソフトローム層に達した。

本調査では、第8図に示したように、調査区西端の1T西壁で表土層からの分層を行ったところ、表土の黒褐色土の下に褐色土層が認められた。ソフトローム層上面まで地表下約40cm程度であった。土層観察表は1TとTP3のみ示したが、地点によって土層状態には違いがあり、TP1においてはⅣ～Ⅸa層に黒色スコリアが含まれるほか、Ⅶ層では色が7.5YR4/6で火山ガラスと黒色スコリアの多い部分をⅦa層とした。また、TP1とTP3においてはⅣ層とⅤ層を分離して把握することができた。

ローム層の層序については、西から東へ向かって、1T、TP6、TP3と、標高が次第に下がってゆく様子がよくわかる。鍵層であるⅥ層上面の標高で言うと、1Tで21.4m付近、TP6で21.0m付近、TP3で20.6m付近である。しかし、15D住居跡周辺の高まりに近い所に設定したTP1では、台地先端部であるにも関わらず、Ⅵ層は22.1mという高い位置にあった。表土の地形を見ても、3区及び20D住居跡・21D住居跡の付近と15D住居跡の付近の標高が高い。逆に5D・19D・10D・22D・23D・24D各住居跡の付近は周囲よりも低くなっている。台地上の平坦面のように見えるが、実際にはかなりの起伏があるということである。

引用・参考文献

- 1 八千代市史編さん委員会 1978 『八千代市の歴史』 八千代市
- 2 八千代市史編さん委員会 1991 『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』 八千代市
- 3 千葉県教育庁文化課 1982 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 - 昭和55年度 -』
- 4 千葉県教育庁文化課 1985 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 - 昭和58年度 -』
- 5 八千代市教育委員会 1988 『千葉県八千代市埋蔵文化財調査報告 昭和62年度』
- 6 八千代市教育委員会 1988 『千葉県八千代市市内遺跡群発掘調査報告 昭和63年度』
- 7 八千代市教育委員会 1989 『千葉県八千代市市内遺跡群発掘調査報告 平成元年度』
- 8 八千代市教育委員会 1992 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成3年度』
- 9 八千代市教育委員会 1993 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成4年度』
- 10 八千代市教育委員会 1994 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成5年度』
- 11 八千代市教育委員会 1996 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成7年度』
- 12 八千代市教育委員会 1997 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』
- 13 八千代市教育委員会 1998 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度』
- 14 八千代市教育委員会 1999 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度』
- 15 八千代市教育委員会 1999 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成11年度』
- 16 八千代市教育委員会 2000 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成12年度』
- 17 八千代市教育委員会 2001 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』
- 18 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
- 19 八千代市教育委員会 1995 『平成6年度 八千代市埋蔵文化財調査年報』
- 20 八千代市教育委員会 1996 『八千代市埋蔵文化財調査年報 - 平成6年度版 -』
- 21 八千代市教育委員会 1997 『八千代市埋蔵文化財調査年報 - 平成7年度版 -』
- 22 平野元三郎 1972 『名主山遺跡 村上団地第1期工事区域内調査 昭和46年7月～8月』 八千代市教育委員会
- 23 財団法人千葉県都市公社 1975 『八千代市村上遺跡群』 日本住宅公団東京支所, 財団法人千葉県都市公社
- 24 おおびた遺跡調査団 1975 『おおびた遺跡 - 八千代市少年自然の家建設地内遺跡 -』 八千代市教育委員会
- 25 八千代市教育委員会 1979 『萱田町川崎山遺跡発掘調査報告』
- 26 佐藤克巳ほか 1980 『阿蘇中学校東側遺跡』 八千代市遺跡調査会
- 27 八千代市教育委員会 1983 『千葉県八千代市北部遺跡群緊急発掘調査報告 - 昭和57年度調査の概要 -』
- 28 八千代市教育委員会 1984 『千葉県八千代市阿蘇中学校東側遺跡Ⅲ』 八千代市遺跡調査会
- 29 林勝則 1986 『千葉県八千代市平戸道地遺跡 - 農業道路敷設に伴う埋蔵文化財調査報告書 -』 八千代市教育委員会
- 30 八千代市遺跡調査会 1999 『千葉県八千代市川崎山遺跡 - 埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
- 31 八千代市上ノ山遺跡調査会他 2000 『千葉県八千代市上ノ山遺跡b・c地点発掘調査報告書』
- 32 八千代市遺跡調査会 2001 『千葉県八千代市上谷遺跡 (仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』 第1分冊
- 33 八千代市遺跡調査会 2001 『千葉県八千代市栗谷遺跡 (仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』 第1分冊
- 34 八千代市教育委員会 2002 『千葉県八千代市不特定遺跡調査報告書1』
- 35 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』
- 36 八千代市教育委員会 2003 『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』
- 37 財団法人千葉県文化財センター 1994 『千葉県文化財センター年報No.19 - 平成5年度 -』
- 38 財団法人千葉県文化財センター 1995 『千葉県文化財センター年報No.20 - 平成6年度 -』

- 39 財団法人千葉県文化財センター 1997 『千葉県文化財センター年報No.22 -平成8年度-』
- 40 財団法人千葉県文化財センター 1999 『千葉県文化財センター年報No.23 -平成9年度-』
- 41 財団法人千葉県文化財センター 1999 『千葉県文化財センター年報No.24 -平成10年度-』
- 42 財団法人千葉県文化財センター 2000 『千葉県文化財センター年報No.25 -平成11年度-』
- 43 財団法人千葉県文化財センター 2001 『千葉県文化財センター年報No.26 -平成12年度-』
- 44 財団法人千葉県文化財センター 2002 『千葉県文化財センター年報No.27 -平成13年度-』
- 45 財団法人千葉県文化財センター 1984 『八千代市権現後遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-』
- 46 財団法人千葉県文化財センター 1985 『八千代市北海道遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-』
- 47 財団法人千葉県文化財センター 1986 『八千代市ヲサル山遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-』
- 48 財団法人千葉県文化財センター 1987 『八千代市井戸向遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-』
- 49 財団法人千葉県文化財センター 1991 『八千代市白幡前遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-』
- 50 財団法人千葉県文化財センター 1993 『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡 -萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ-』
- 51 財団法人千葉県文化財センター 1994 『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他 -東葉高速鉄道埋蔵文化財調査報告書-』
- 52 財団法人千葉県文化財センター 1998 『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1 -八千代市島田込の内遺跡-』
- 53 財団法人千葉県文化財センター 1999 『主要地方道千葉竜ヶ崎線埋蔵文化財調査報告書 -八千代市雷遺跡・雷南遺跡-』
- 54 財団法人千葉県文化財センター 1974 『千葉ニュータウン文化財調査報告書Ⅲ』
- 55 財団法人千葉県文化財センター 1976 『千葉ニュータウン文化財調査報告書Ⅴ』
- 56 財団法人千葉県文化財センター 1978 『千葉ニュータウン文化財調査報告書Ⅵ』
- 57 財団法人千葉県文化財センター 1982 『千葉ニュータウン文化財調査報告書Ⅶ』
- 58 財団法人千葉県文化財センター 1984 『千葉ニュータウン文化財調査報告書Ⅷ』
- 59 財団法人千葉県文化財センター 1999 『千葉ニュータウン文化財調査報告書ⅩⅢ』
- 60 財団法人千葉県文化財センター 2002 『千葉ニュータウン文化財調査報告書ⅩⅤ -印西市向新田遺跡-』
- 61 財団法人千葉県文化財センター 1989 『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ -印西市鳴神山・白井谷奥遺跡-』
- 62 財団法人印旛郡市文化財センター 1993 『財団法人印旛郡市文化財センター年報9 -平成4年度-』
- 63 財団法人印旛郡市文化財センター 1994 『財団法人印旛郡市文化財センター年報10 -平成5年度-』
- 64 財団法人印旛郡市文化財センター 1999 『財団法人印旛郡市文化財センター年報14 -平成9年度-』
- 65 財団法人印旛郡市文化財センター 2001 『財団法人印旛郡市文化財センター年報17 -平成12年度-』
- 66 財団法人印旛郡市文化財センター 1988 『千葉県印旛郡白井町船橋カントリー倶楽部造成地内埋蔵文化財調査報告書 神々廻遺跡群』
- 67 財団法人印旛郡市文化財センター 1994 『千葉県印旛村群白井町木曾地遺跡発掘調査報告書 -昭和シェル給油所予定地内埋蔵文化財調査』
- 68 財団法人印旛郡市文化財センター 2000 『千葉県印西市向新田遺跡 -印西市道00-114号線埋蔵文化財調査委託-』
- 69 財団法人千葉市文化財調査協会 2001 『千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書』
- 70 財団法人千葉市文化財調査協会 1994 『財団法人千葉市文化財調査協会年報6 -平成4年度-』
- 71 財団法人船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター 1999 『平成10年度 船橋市内遺跡発掘調査報告書』
- 72 佐藤克巳 1978 『船尾城遺跡』 千葉県印旛郡印西町教育委員会
- 73 萩原恭一・佐々木稔 2001 「八千代市沖塚遺跡の再検討」『千葉県史研究』9号

II 遺構と遺物

1 縄文時代

縄文時代に属する遺構としては、落とし穴状土坑が代表である。その他大小の土坑が多数検出されているが、いずれも遺物を伴う例は少ない。

遺物は主に別時代の遺構の覆土や遺構外から出土した。量は少ないが、早期・前期・後期・晩期の土器片や草創期の尖頭器、石鏃などを得ている。

(1) 落とし穴状土坑

川崎山遺跡全体でもこの遺構は、際立った存在である。d地点では、この種の遺構を17基検出した。形態や計測値などは、第1表にまとめた。

5P土坑

位置 B1-20G。**特記事項** 平面形態が円形に近いもので、このような形態は今回の調査では唯一である。

8P土坑

位置 B2-22G。**覆土** 10層以下は埋め戻し土と考えられる。

12P土坑

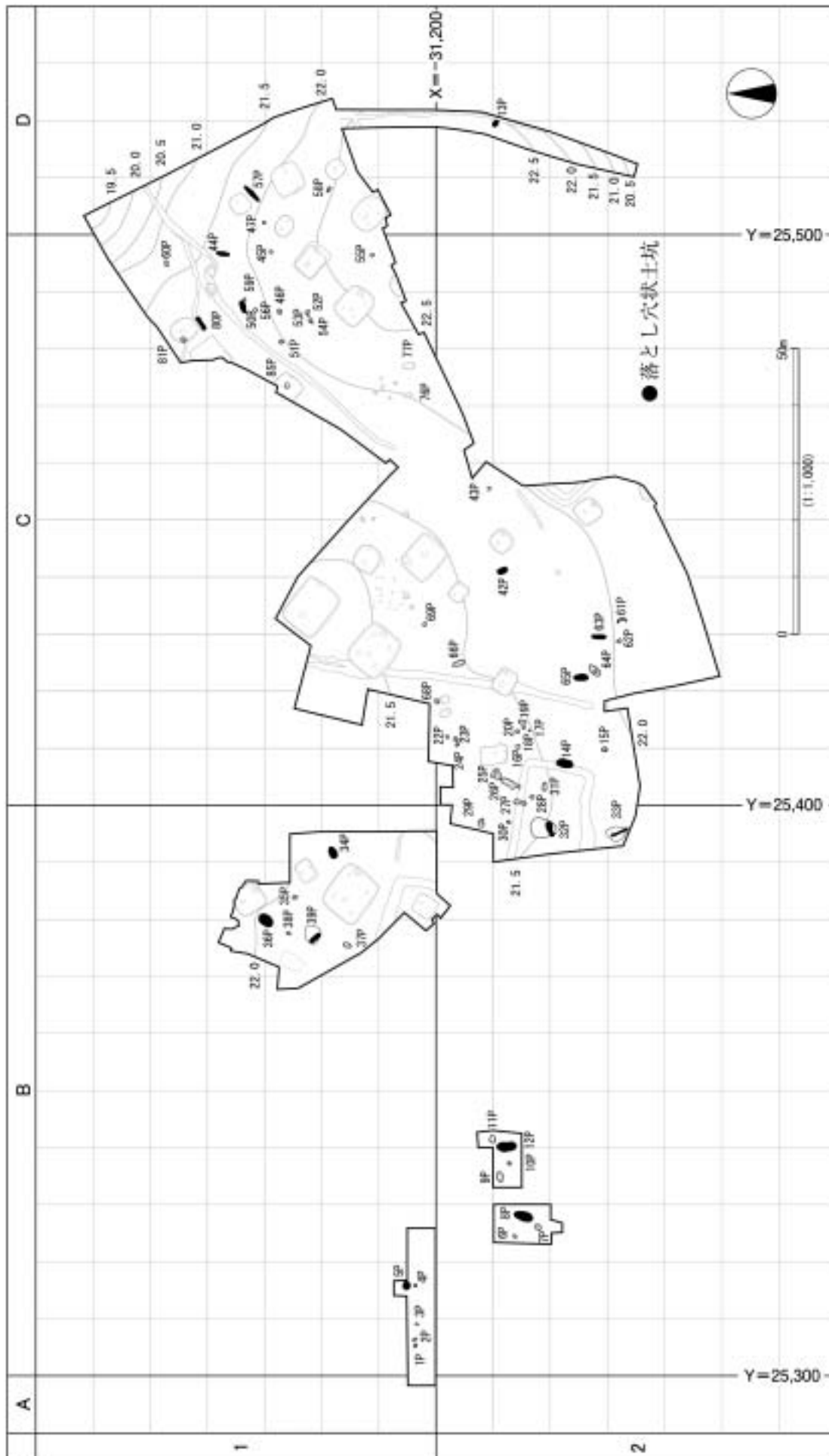
位置 B2-32・42G。**覆土** 8層以下は埋め戻し土と考えられる。

13P土坑

位置 D2-12G。**覆土** 7層以下が埋め戻し土と考えられる。**出土遺物** 縄文前期の興津式土器の破片が出土している。また10層や最下層で炭化物が出土した。

第1表 落とし穴状土坑計測表

遺構No.	平面形	規模(cm)	比率	長軸方向	底面形	規模(cm)	比率	長軸方向	断面形
5P	隅丸方形	146×130	1.1 : 1	N-76° -W	楕円形	146×130	1.9 : 1	N-77° -W	U字形
8P	長楕円形	344×164	2.1 : 1	N-18° -W	溝状	248×10	25 : 1	N-20° -W	V字形
12P	長楕円形	352×188	1.9 : 1	N-3.5° -W	中央部が太く北、南とも細くなる。	356×30 356×6	11.9 : 1 59 : 1	N-4° -W	V字形
13P	卵形	268×190	1.4 : 1	N-56° -W	楕円形	218×138	1.6 : 1	N-58° -W	長方形
14P	長楕円形	300×144	2.2 : 1	N-12° -E	不整長楕円形	200×10	20 : 1	N-15° -E	V字形
32P	いびつな長楕円形	180×40	4.5 : 1	N-68° -E	湾曲した長楕円形	126×4	32 : 1	N-66° -E	U字形
33P	長楕円形	310×32	9.7 : 1	N-23° -W	溝状	280×13	21.5 : 1	N-23° -W	V字形
34P	楕円形	216×136	1.6 : 1	N-30° -W	中央部が膨らむ長方形	76×30	2.5 : 1	N-25° -W	U字形
36P	楕円形	280×190	1.5 : 1	N-41° -E	長方形	138×42	3.3 : 1	N-44° -E	U字形
39P	長楕円形	232×84	2.8 : 1	N-42° -W	長楕円形	150×18	8.3 : 1	N-44° -W	U字形
42P	不整楕円形	190×114	1.7 : 1	N-25° -W	不整長方形	145×49	3 : 1	N-25° -W	V字形
44P	長楕円形	238×82	2.9 : 1	N-6° -E	ピットを有する溝状	240×9	26.7 : 1	N-7° -E	U字形 下層部ですばまりまた広がる。
50P	不整楕円形	228×106	2.2 : 1	N-72° -W	湾曲した楕円形	140×9	10 : 1	N-72.5° -W	V字形
57P	長楕円形	300×86	4.3 : 1	N-47° -E	溝状	396×16	24.8 : 1	N-46.5° -E	V字形
63P	長楕円形	252×82	3.1 : 1	N-3° -E	湾曲した溝状	150×6	25 : 1	N-3° -E	V字形
65P	楕円形	261×122	2.1 : 1	N-1° -E	長楕円形	180×12	15 : 1	N-1° -E	V字形
80P	隅丸長方形	270×64	4.2 : 1	N-57° -E	いびつな長楕円形	284×12	23.7 : 1	N-57° -E	U字形



第9図 縄文時代遺構の分布

14P土坑

位置 C2-3G。2Mに切られる。覆土 9層以下は、埋め戻し土と考えられる。

32P土坑

位置 B2-92G。覆土 風倒木痕と重複。風倒木痕より土坑の方が古いと判断したが、新旧関係の判断には苦慮した。19層・21層には暗褐色土が含まれる。炭化物を含む。

33P土坑

位置 B2-94・93G。覆土 風倒木痕と重複。風倒木痕より土坑の方が古いと判断した。11層・12層には黒褐色土が含まれる。10層以下埋め戻し土と考えられる。

34P土坑

位置 B1-99G。覆土 6層以下埋め戻し土と考えられる。長軸方向東壁際の、9・10層及び最下層の16層に当たるところに、黒褐色で粘りのある有機質の土が認められた。

36P土坑

位置 B1-78・77・87・88G。覆土 7層以下埋め戻し土と考えられる。最下層は黒褐色土。

39P土坑

位置 B1-78G。覆土 風倒木痕のような土坑と重複。風倒木痕の方が古いと判断したが、新旧関係の判断には苦慮した。このような風倒木痕との重複例となる32P・33Pの場合は、風倒木痕の方が新しいと判断したのであるが、39Pの場合は逆となった。

42P土坑

位置 C2-42G。特記事項 底面に小ピットを伴う。この種の土坑はj地点でも1基検出されている。

44P土坑

位置 C1-97G。覆土 覆土調査は、一部しかできなかった。

50P土坑

位置 C1-87G。覆土 8層以下埋め戻し土と考えられる。

57P土坑

位置 D1-7G。覆土 8層以下埋め戻し土と考えられる。

63P土坑

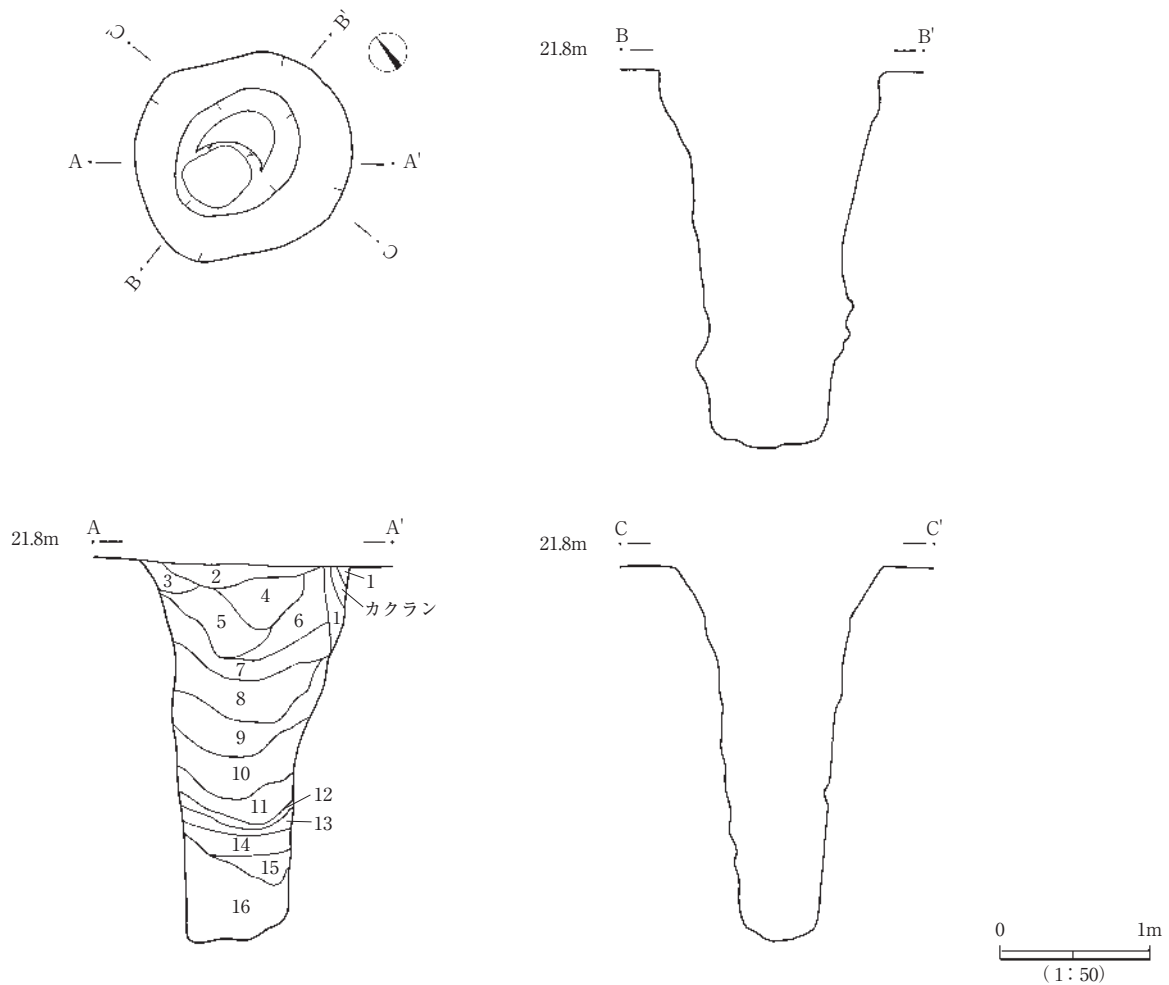
位置 C2-23G。覆土 5層以下埋め戻し土と考えられる。

65P土坑

位置 C2-23G。覆土 7層以下埋め戻し土と考えられる。

80P土坑

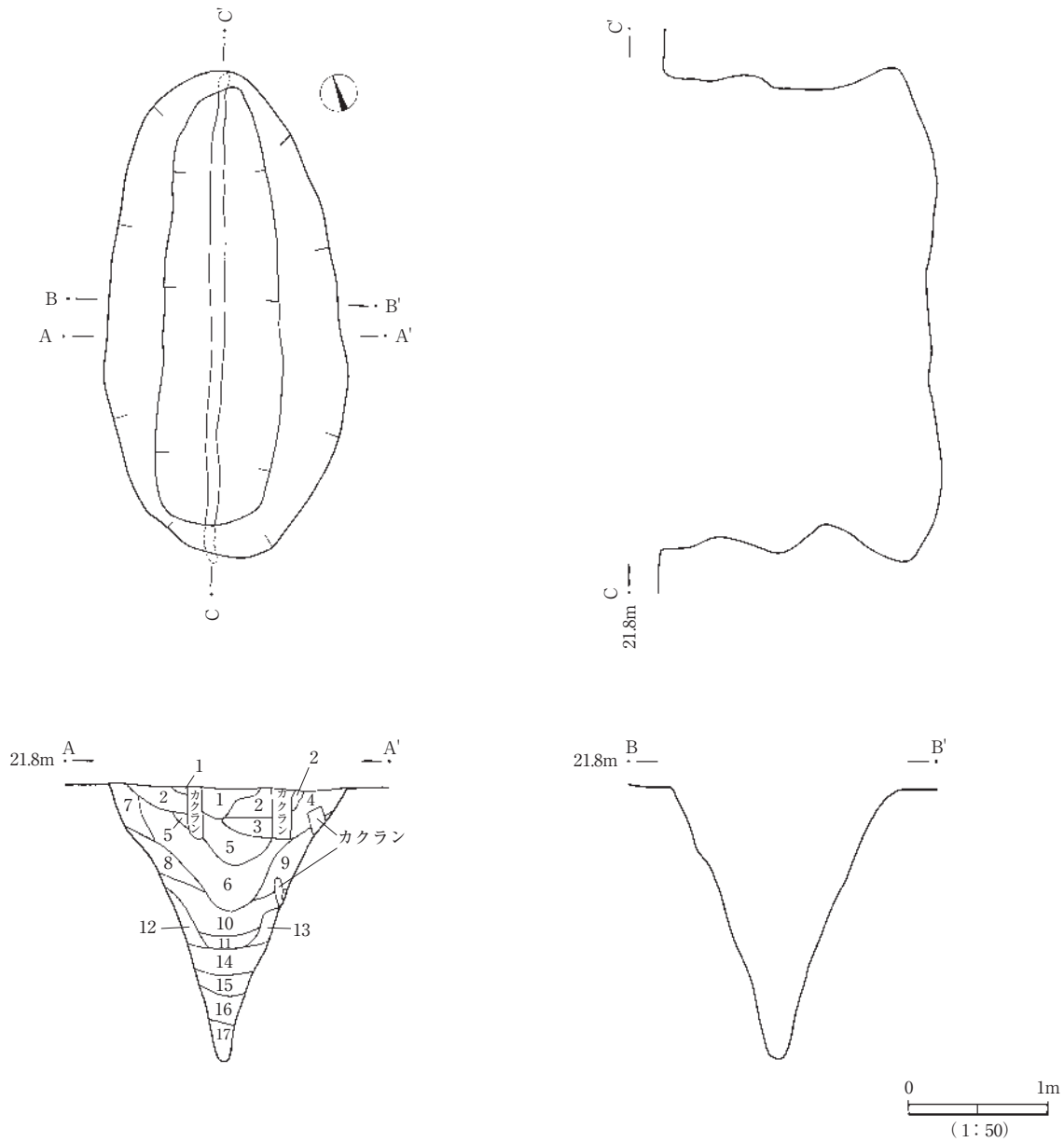
位置 C1-86G。覆土 6層以下埋め戻し土と考えられる。



第10図 5P土坑実測図

5P土坑土層観察表

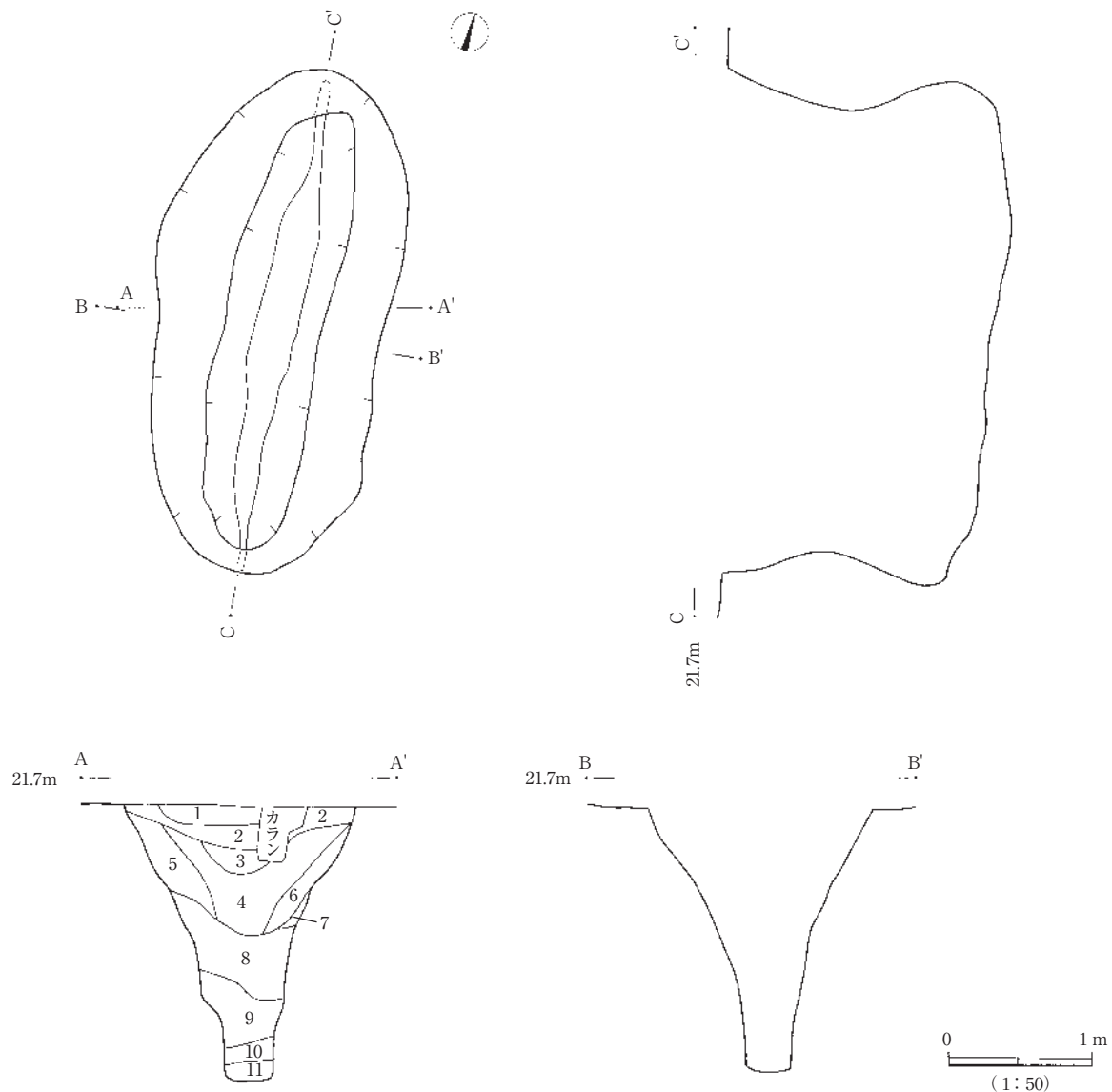
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	他と判然	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根含む	
2	明瞭	7.5Y R3/3, 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア 径0.5mm赤色スコリア, 火山ガラス?
3	5と明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根含む	
4	明瞭	7.5Y R3/3, 7.5Y R4/3斑状 7.5Y R3/2にじむ	富む	CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径1mm黄色スコリア 径0.5mm赤色スコリア
5	渐变	7.5Y R3/4	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
6	渐变	7.5Y R3/4 7.5Y R4/4, 4/3斑状	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	径2~3mm黄色スコリア
7	渐变	7.5Y R4/3	含む	Si C	亜角塊状	頗る 富む	小	17	強	細根含む	径2~3mm黄色スコリア
8	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si C	亜角塊状	富む	小	15	強	細根含む	径2~3mm黄色スコリア
9	渐变	7.5Y R4/3	含む	Si C	亜角塊状	含む	小	15	強	細根あり	径2~3mm黄色スコリア富む
10	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	亜角塊状	含む	小	16	強	細根あり	径2~3mm黄色スコリア富む 径30mmロームブロック
11	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根あり	径2~3mm黄色スコリア
12	明瞭	7.5Y R4/3主 7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根あり	径10mmロームブロック 径2~3mm黄色スコリア
13	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si C	亜角塊状	富む	小	16	強	細根あり	
14	判然	7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	16	強	なし	ロームまじり土
15	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	屑粒状	なし	0	4	強	なし	ロームまじり土
16		7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む~ 富む	Si C	屑粒状~ 小亜角塊状	なし	0~小	8	強	なし	ロームまじり土



第11図 8P土坑実測図

8P土坑土層

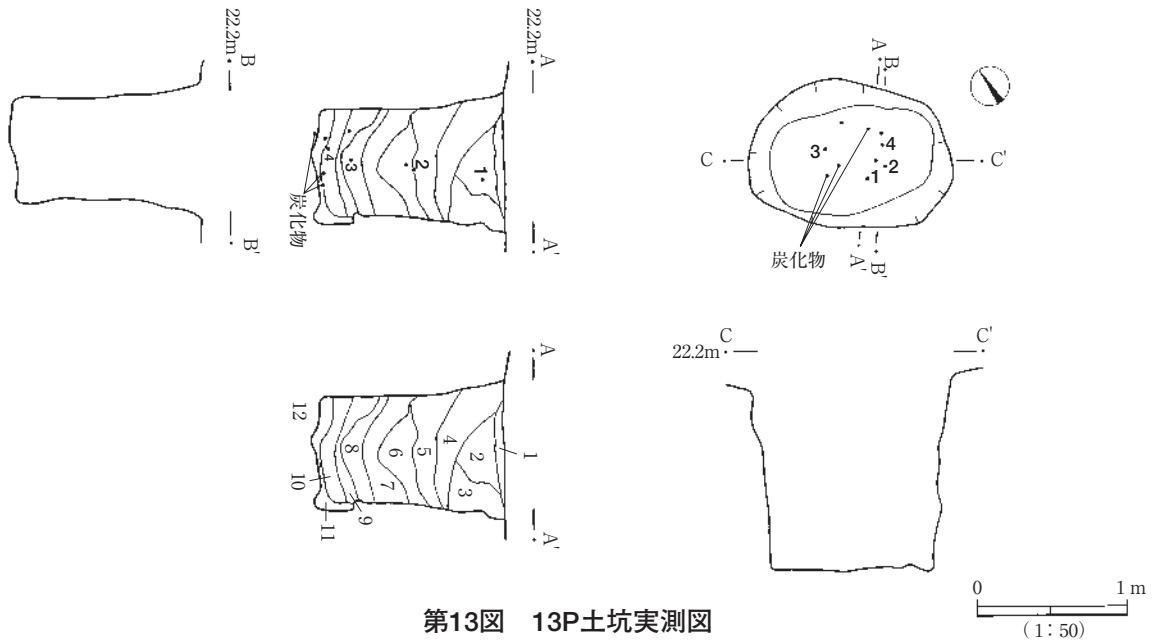
- | | | |
|-----|-----------------|--------------------------------------|
| 1. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | |
| 2. | 7.5YR4/3 (褐色土) | 暗褐色土斑状。ローム粒微。しまり強。粘性弱。 |
| 3. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 暗褐色土斑状。ローム粒微。しまり強。粘性弱。 |
| 4. | 7.5YR3/3 (暗褐色土) | ローム粒微。しまり強。粘性弱。 |
| 5. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | ローム粒少。褐色土斑状。しまり強。粘性やや弱。 |
| 6. | 7.5YR3/3 (暗褐色土) | ローム粒多。褐色土斑状。しまり強。粘性中。 |
| 7. | 7.5YR4/3 (褐色土) | ローム粒少。しまり強。粘性弱。 |
| 8. | 7.5YR4/4 (褐色土) | ローム粒少。暗褐色土斑状。しまり強。粘性やや強。 |
| 9. | 7.5YR4/6 (褐色土) | ローム粒少。暗褐色土斑状。しまり強。粘性やや強。 |
| 10. | 7.5YR4/4 (褐色土) | ローム粒多。径1~2cmロームブロック。暗褐色土斑状。しまり中。粘性強。 |
| 11. | 7.5YR4/3 (褐色土) | 径ローム粒多。径2~3cmロームブロック。しまり中。粘性強。 |
| 12. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径3cmロームブロック。しまりやや弱。粘性強。 |
| 13. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径3cmロームブロック。しまりやや弱。粘性強。 |
| 14. | 7.5YR5/6 (明褐色土) | 径4cmロームブロック多。しまり弱。粘性極強。 |
| 15. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径3cmロームブロック。しまり極弱。粘性極強。 |
| 16. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径1~2cmロームブロック。しまり極弱。粘性極強。 |
| 17. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径3cmロームブロック。しまり極弱。粘性極強。 |



第12図 12P土坑実測図

12P土坑土層

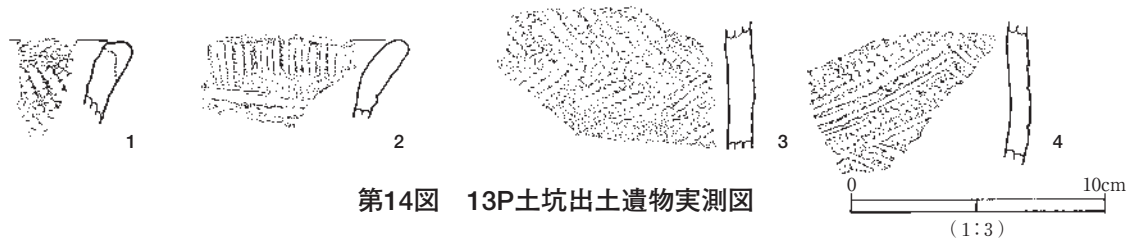
- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 1. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | ローム粒微。赤色スコリア微。しまり強。粘性弱。 |
| 2. | 7.5YR3/3 (暗褐色土) | ローム粒微。赤色スコリア微。しまり強。粘性弱。 |
| 3. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | 黒褐色土斑状。ローム粒少。赤色スコリア微。
しまり強。粘性弱。 |
| 4. | 7.5YR2/2 (黒褐色土) | ローム粒多。赤色スコリア微。しまり強。粘性やや弱。 |
| 5. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 暗褐色土斑状。ローム粒多。赤色スコリア微。
しまりやや強。粘性やや強。 |
| 6. | 7.5YR4/3 (褐色土) | 暗褐色土斑状。ローム粒多。赤色スコリア微。
しまり強。粘性やや強。 |
| 7. | 7.5YR4/6 (褐色土) | ローム粒多。しまりやや弱。粘性やや強。 |
| 8. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径3cm前後ロームブロック。しまり弱。粘性強。 |
| 9. | 7.5YR5/6 (明褐色土) | 径1~2cmロームブロック少。しまり極弱。粘性強。 |
| 10. | 7.5YR4/6 (褐色土) | 径1~2cmロームブロック少。しまり極弱。粘性強。 |
| 11. | 7.5YR4/6 (褐色土) | しまりやや強。粘性強。 |



第13図 13P土坑実測図

13P土坑土層観察表

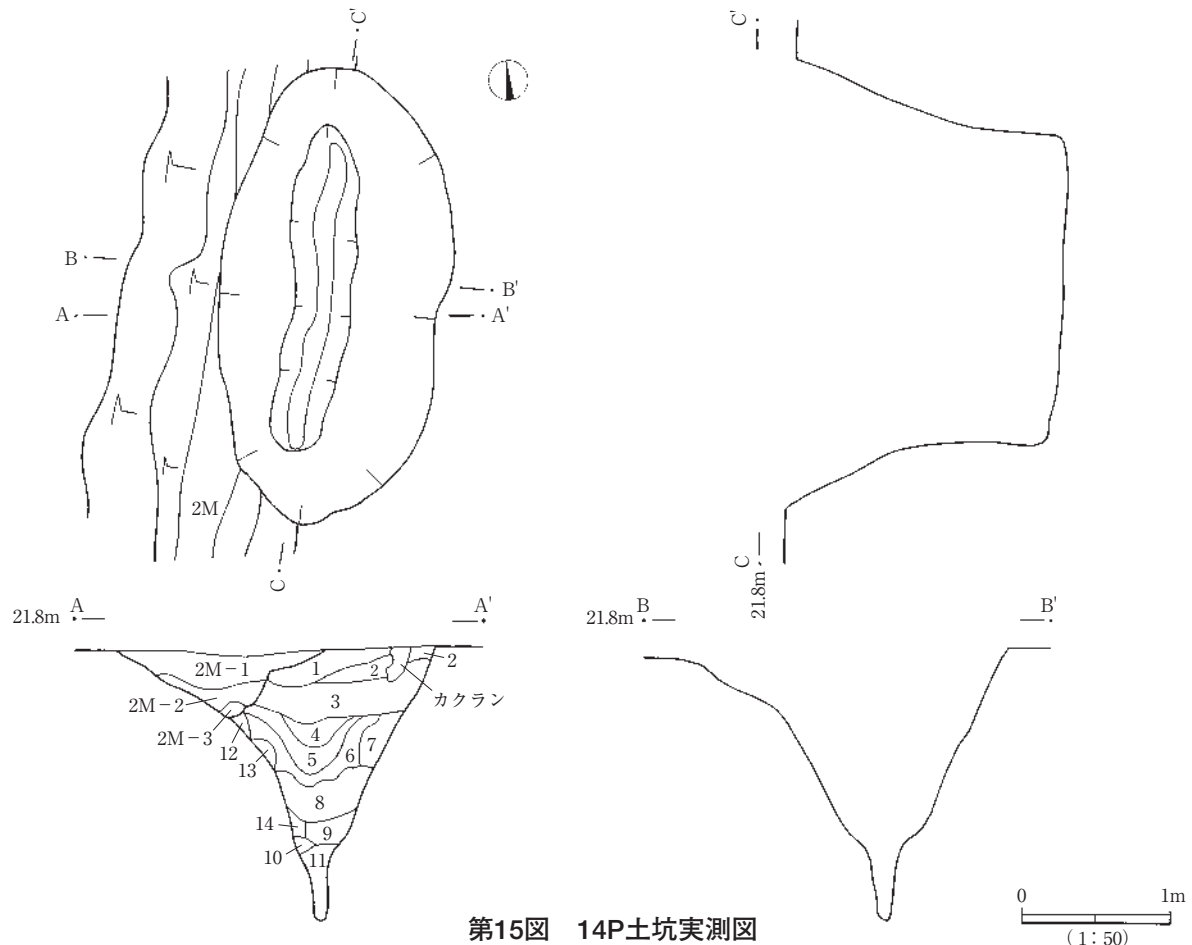
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	渐变	7.5Y R3/3, 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア
2	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2.5にじむ 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1~2mm黄色スコリア 径10mmロームブロック
3	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	垂角塊状	含む	小	15	強	細根含む	径10mmロームブロック
4	判然	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小垂角塊状	含む	小	18	強	細根富む	径1~5mm黄色スコリア 径10mmロームブロック 焼土粒子ごく微量
5	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小垂角塊状	富む	小	18	強	細根含む	径50mm以下ロームブロック
6	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	垂角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径50~20mmロームブロック 炭化物
7	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	屑粒状~ 小垂角塊状	含む	0~小	13	強	細根含む	径10~20mmロームブロック
8	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2.主 7.5Y R4/4まじる	富む	Si C	屑粒状~ 小垂角塊状	含む	0~小	17	強	細根含む	径5mm以下黄色スコリア 炭化物
9	明瞭	7.5Y R4/3, 3/3	含む	Si C	小垂角塊状	含む	小	14	強	細根含む	径10~30mmロームブロック
10		7.5Y R4/3	含む	Si C	垂角塊状	含む	小	19	強	細根あり	径10~30mmロームブロック 径2~3mm黄色スコリア 炭化物多
11		7.5Y R4/5	含む	Si C	小垂角塊状	富む	小	16	強	細根含む	崩落部か
12		7.5Y R4/3, 4/4	含む		小垂角塊状			20			炭化物含む



第14図 13P土坑出土遺物実測図

13P土坑出土遺物観察表

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	深鉢	口縁部	器高 <3.2>	外) 口唇部上端, 単節縄文LR。 口縁部, 単節縄文RL。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい橙色	前期後半	13P-3
2	深鉢	口縁部	口径 (12.0) 器高 <3.0>	外) 縦の短沈線, 横の沈線。 内) 横ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, にぶい褐色 内) にぶい褐色, 黒色	前期後半	13P-4
3	深鉢	胴部		外) 羽状縄文LRとRL。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色 内) にぶい黄褐色	前期後半	13P-1
4	深鉢か	胴部		外) 貝殻文(放射肋あり), 沈線。 内) ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) にぶい赤褐色	前期後半 典津式	13P-6



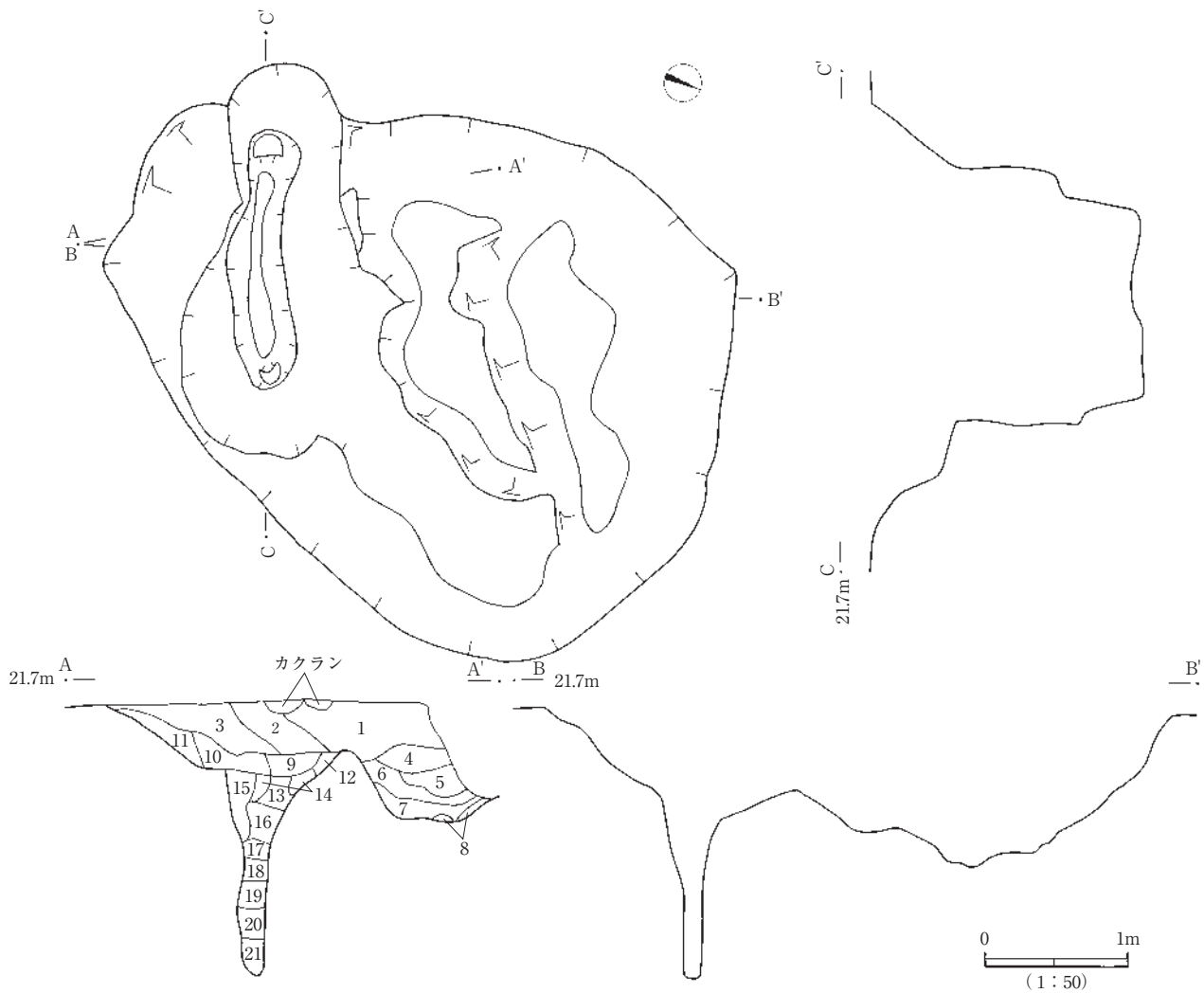
第15図 14P土坑実測図

14P土坑土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/2, 2/2	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア
3	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根含む	径1~3mm黄色スコリア 径1~2mm黒色スコリア
4	漸変	7.5Y R3/2, 3/2.5	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径1~3mm黄色スコリア 径1~2mm黒色スコリア
5	判然	7.5Y R3/2.5	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1~3mm黄色スコリア 径1~2mm黒色スコリア
6	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根あり	径1~5mm黄色スコリア
7	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	亜角塊状	含む	小	18	強	細根あり	径1~3mm黄色スコリア
8	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	14	強	細根あり	
9	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	7	強	細根あり	径50mmロームブロック
10	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	屑粒状~ 粒状	含む	0	10	強	細根あり	
11	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4主、 7.5Y R3/3少しまじる	含む	Si C	屑粒状	なし	0	10	強	細根あり	
12	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	強	細根あり	
13	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	19	強	細根あり	径5mm黄色スコリア
14	明瞭	7.5Y R5/6	なし	Si C	小亜角塊状	あり	中	25	強	細根あり	ATか。スコリア多 崩落した層であろう

2M溝土層観察表

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3	富む	L	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	ロームまじり
2	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3, 4/4	含む~ 富む	L	亜角塊状	あり	小	11	弱	細根含む	ロームまじり 上より多い
3		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	亜角塊状	含む	小	11	弱	細根含む	ローム主体

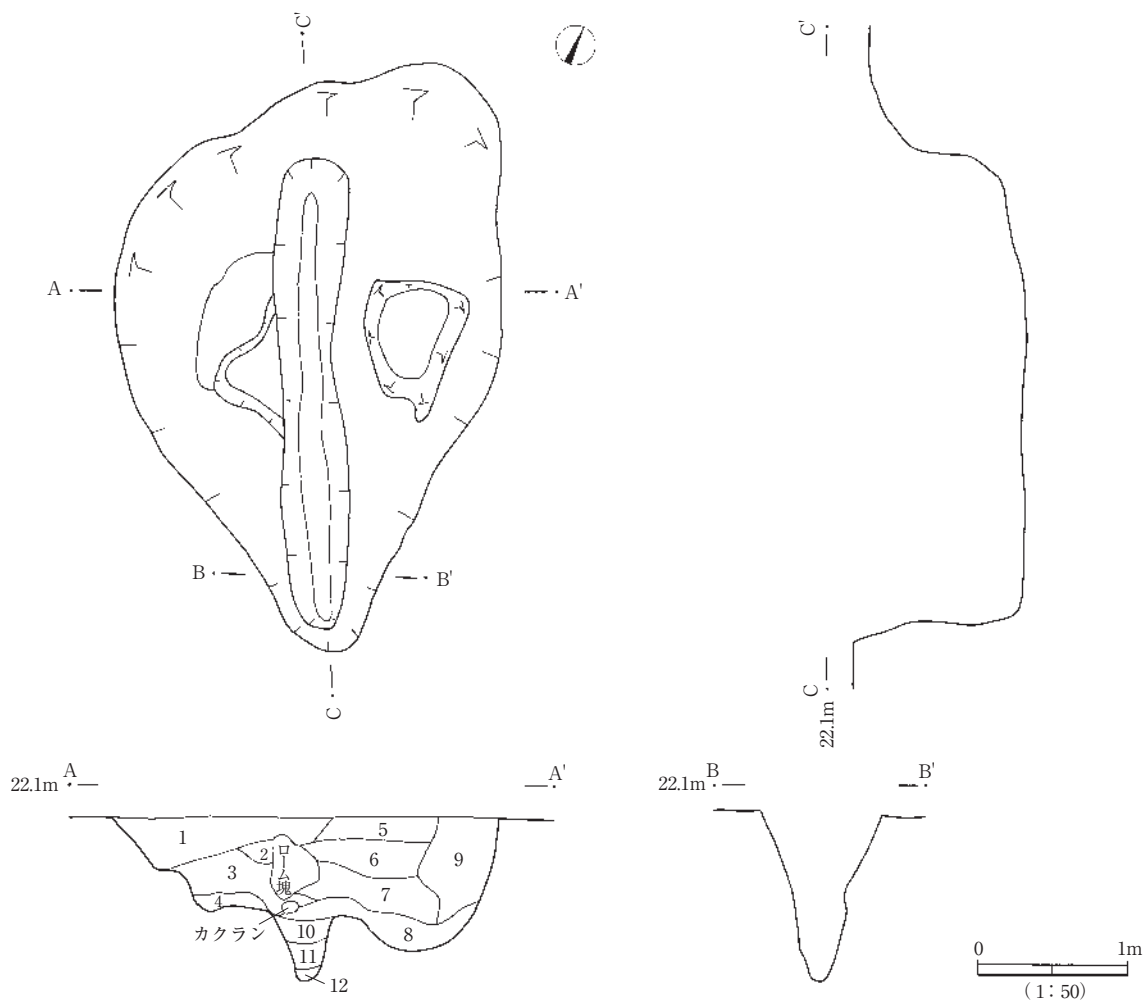


第16図 32P土坑実測図

32P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R4/4ローム土 7.5Y R4/3, 3/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1～3mm黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R3/3主 7.5Y R4/3	富む 含む～	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
3		7.5Y R3/3, 4/3, 4/4	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
4	1と明瞭 判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	22	中～強	細根含む	径1～3mm黄色スコリア
5	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1～3mm黄色スコリア
6	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根含む	径3～5cmロームブロック
7	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根含む	径3～5cmロームブロック含むが、 6より少ない
8		7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根あり	ローム主、火山ガラス
9	2と漸変 漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
10	3と漸変 明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径2～3mm黄色スコリア
11		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
12	他と漸変	7.5Y R4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径5cmロームブロック
13	9と漸変 判然	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中～強	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
14	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含	小	16	中	細根含む	径2～3mm黄色スコリア 径1～3cmロームブロック
15	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	13	強	細根含む	径1～5cmロームブロック
16	漸変	7.5Y R4/3	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根含む	径2～3mm黄色スコリア

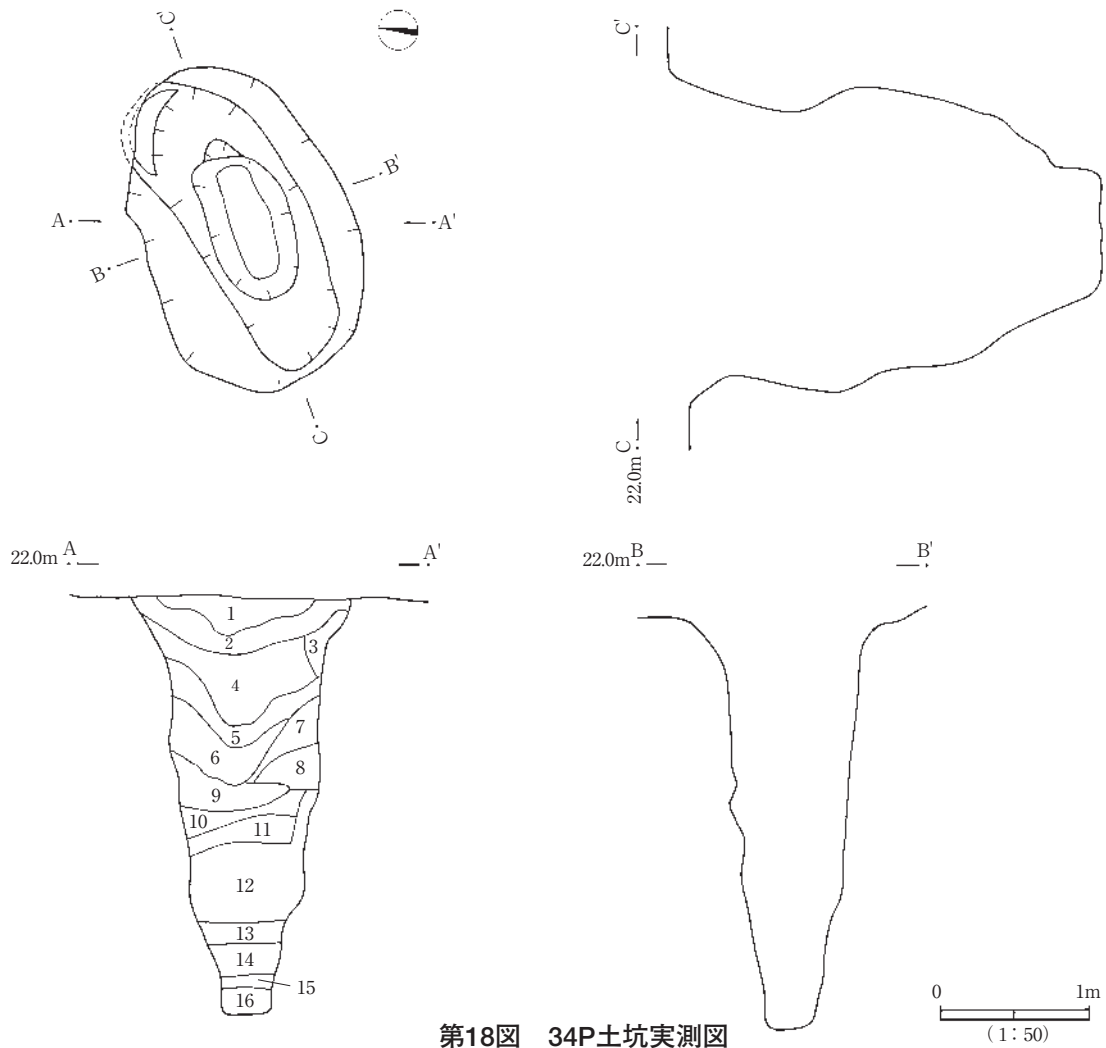
17	判然	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	12	強	細根含む	径2～3mm黄色スコリア
18	判然	7.5Y R4/3, 4/4	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	11	強	細根含む	径2～3cmロームブロック
19	明瞭	7.5Y R4/3, 3/3	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	13	強	細根含む	径2～3mm黄色スコリア 径2～3mm炭化物まばら
20	明瞭	7.5Y R4/4	富む	Si C	小亜角塊状	あり	中	27	強	細根あり	径1～2mm赤色スコリア 径0.5mm黒色スコリア, 火山ガラスあり
21		7.5Y R4/3, 3/3	含む～ 富む	Si C 富む	屑粒状	なし	0	3	強	細根あり	径5～10mmロームブロック



第17図 33P土坑実測図

33P土坑土層観察表

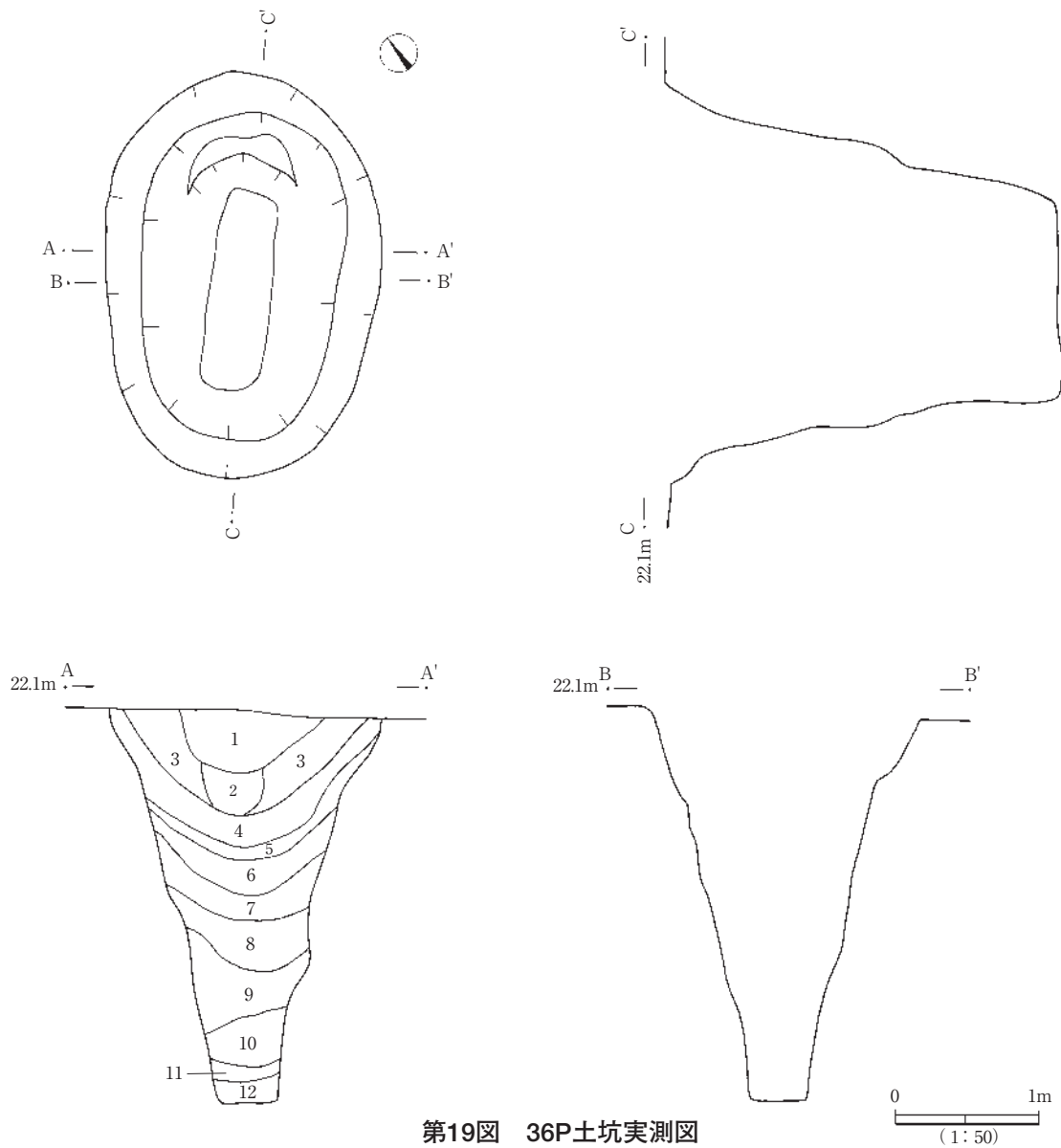
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中～強	細根含む	径1～3cmロームブロック
2	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1cmロームブロック
3	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1～2cmロームブロック
4	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根含む	径1～2cmロームブロック
5	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
6	漸変	7.5Y R3/3, 3/2.5, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根富む	径1～2mm黄色スコリア
7	判然	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径2～3mm黄色スコリア
8	判然	7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	径1～5cmロームブロック
9	他と判然	7.5Y R4/4, 4/3	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根富む	
10	8と判然	7.5Y R4/4	含む	Si C	屑粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	13	強	細根あり	
11	明瞭	7.5Y R4/4	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	0～小	19	強	細根含む	
12	明瞭	7.5Y R3/2ブロック状 7.5Y R3/2, 4/3 まじり合う	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	0～小	18	強	細根あり	



第18図 34P土坑実測図

34P土坑土層

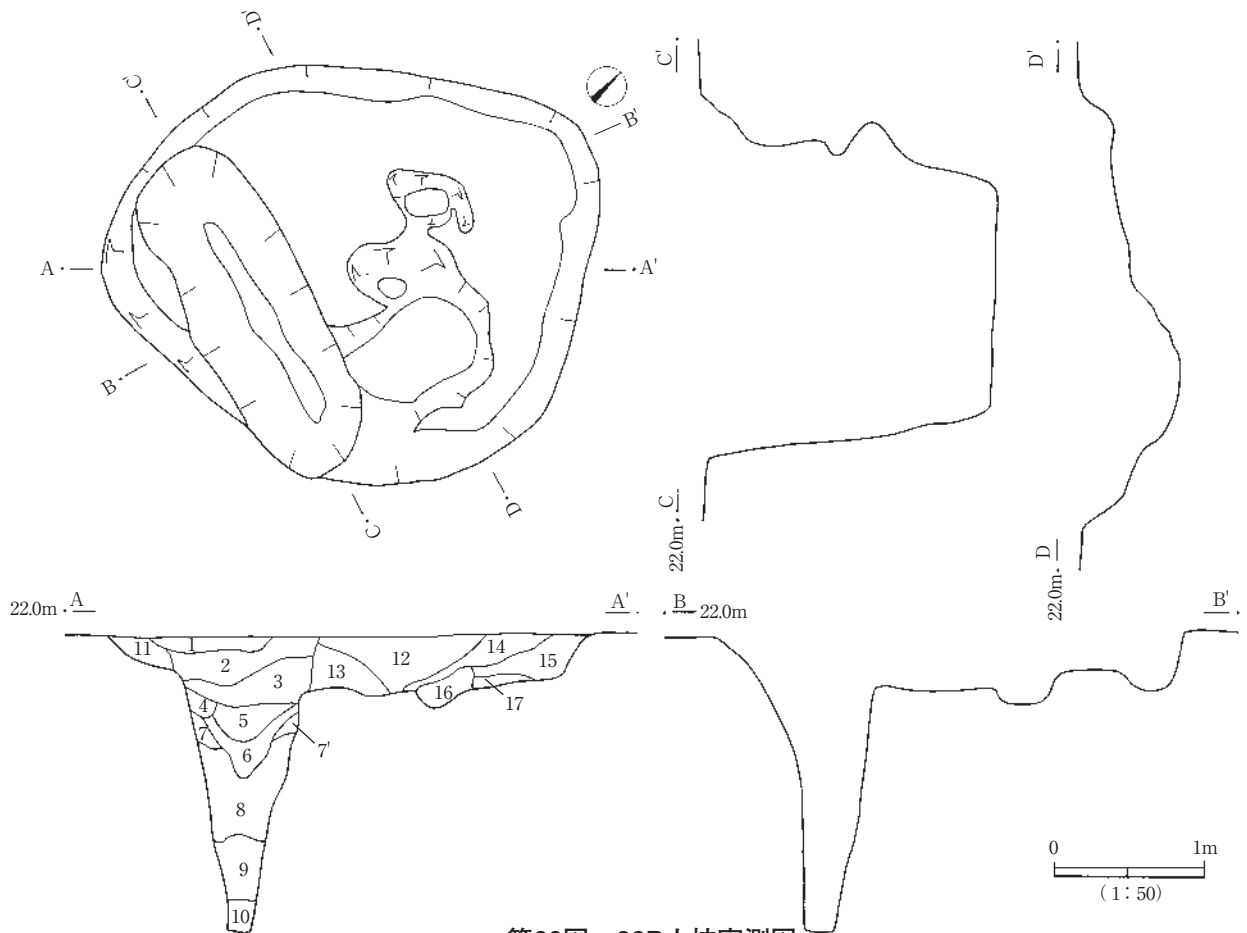
- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 1. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | 暗褐色土斑状。ローム粒少。しまり強。粘性やや強。 |
| 2. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状。ローム粒少。しまり強。粘性やや強。 |
| 3. | 7.5YR4/3 (褐色土) | ローム粒少。下部に部分的にロームブロック。
しまりやや強。粘性やや強。 |
| 4. | 7.5YR3/3 (暗褐色土) | ローム粒少。径0.5cm~1.5cmロームブロック。
しまりやや強。粘性やや強。 |
| 5. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | ローム粒少。径1cm以下ロームブロック微。
しまりやや弱。粘性強。 |
| 6. | 7.5YR4/3 (褐色土) | 下部に部分的に黒褐色土。ローム粒少。
径1cm以下ロームブロック微。しまりやや弱。粘性強。 |
| 7. | 7.5YR4/4 (褐色土) | ローム粒少。径0.2cm前後ロームブロック。
径1~3cmロームブロック。しまり弱。粘性強。 |
| 8. | 7.5YR4/6 (褐色土) | ローム粒少。径0.2cm前後ロームブロック。
径1~4cmロームブロック。しまり弱。粘性強。 |
| 9. | 7.5YR4/3 (褐色土) | ローム粒少。径1~3cmロームブロック多。
しまり弱。粘性強。 |
| 10. | 7.5YR4/4 (褐色土) | ローム粒少。径0.2cm前後ロームブロック。
径1~3cmロームブロック多。しまり弱。粘性強。 |
| 11. | 7.5YR4/3 (褐色土) | ローム粒少。径0.2cm前後ロームブロック。
径1~2cmロームブロック。しまり弱。粘性強。 |
| 12. | 7.5YR4/4 (褐色土) | しまり極弱。粘性強。 |
| 13. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 暗褐色土斑状。しまり強。粘性強。 |
| 14. | 7.5YR4/4 (褐色土) | しまり強。粘性強。 |
| 15. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径0.5cm~2cmロームブロック多。しまり弱。粘性強。 |
| 16. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径0.5cm以下ロームブロック。しまり極弱。粘性強。 |



第19図 36P土坑実測図

36P土坑土層

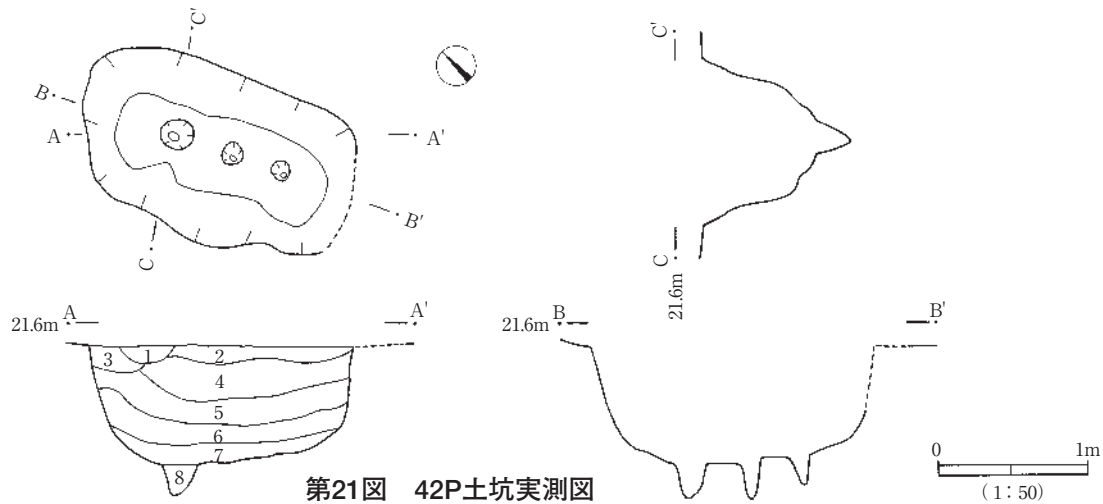
- | | | |
|-----|-----------------|---|
| 1. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | 下部に7.5YR3/3 (暗褐色土) 斑状。しまり強。粘性弱。 |
| 2. | 7.5YR3/3 (暗褐色土) | 7.5YR3/4 (暗褐色土) 斑状。径1~2mmローム粒。
しまり強。粘性弱。 |
| 3. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 7.5YR3/3 (暗褐色土) 斑状。径1~2mmローム粒。
しまり強。粘性弱。 |
| 4. | 7.5YR4/3 (褐色土) | 7.5YR3/4 (暗褐色土) 斑状。径2~3mmローム粒。
しまり強。粘性弱。 |
| 5. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 部分的に径1~2cmロームブロック微。しまり強。粘性弱。 |
| 6. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 7.5YR4/3 (褐色土) 斑状。径1~2cmロームブロック。
しまり中。粘性中。 |
| 7. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径2~10cmロームブロック多。しまり弱。粘性中。 |
| 8. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径1~5cmロームブロック多。しまり弱。粘性中。 |
| 9. | 7.5YR4/4 (褐色土) | ローム土主体。しまり強。粘性弱。 |
| 10. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 下部に径5~6cmロームブロック。しまり弱。粘性弱。 |
| 11. | 7.5YR4/4 (褐色土) | しまり弱。粘性弱。 |
| 12. | 7.5YR3/1 (黒褐色土) | しまり中。粘性弱。 |



第20図 39P土坑実測図

39P土坑土層観察表

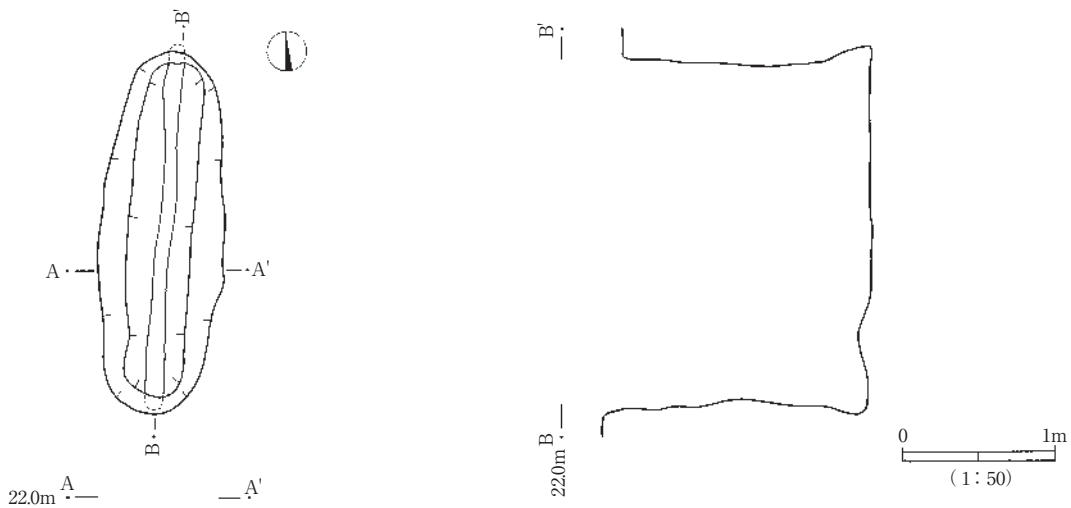
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	弱	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
2	漸変	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状 1より小さい斑	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根富む	
3	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	径0.5~3mm黄色スコリア
4	3と判然 明瞭	7.5Y R3/3, 4/3 7.5Y R4/4ローム	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根含む	ロームまじり
5	判然	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径0.5~2mm黄色スコリア
6	判然	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	13	強	細根含む	径1~2mm黄色スコリア
7	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	12	強	細根含む	ロームまじり
7'		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根含む	ロームまじり
8	6と明瞭 漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	13	強	細根含む	径2~3cmロームブロック 径1~2cmロームブロック 埋土であろう
9	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	6	強	細根含む	径3cmロームブロック 埋土であろう
10		7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む~ 富む	Si C	屑粒状	なし	0	7	強	細根あり	埋土であろう
11		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	弱	細根含む	
12	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	弱	細根富む	径0.5~1cmロームブロック
13		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根富む	径2~3mm黄色スコリア
14	12と判然 判然	7.5Y R4/3, 3/4	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径2~5mm黄色スコリア
15	明瞭	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4ローム	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	ローム含む
16	漸変	7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	径5cmロームブロック多
17		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1~2cmロームブロック



第21図 42P土坑実測図

42P土坑土層観察表

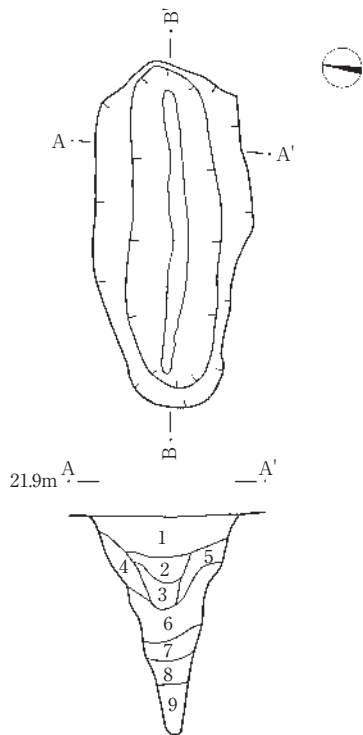
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1		7.5Y R3/2雲状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	
2	明瞭	7.5Y R3/3									
3	明瞭	7.5Y R4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	
4	2と漸変 漸変	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	弱	細根含む	火山ガラス?あり
5	漸変	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
6	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3 7.5Y R3/2.5雲状	含む~ 含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	24	中	細根含む	
7	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根あり	ロームまじり
8		7.5Y R4/3, 4/4	含む								底面ビット覆土



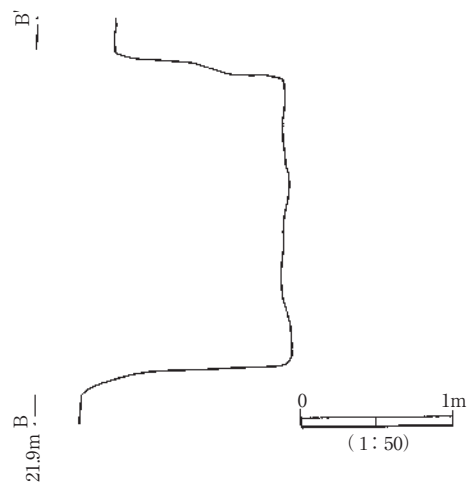
第22図 44P土坑実測図

44P土坑土層

- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。径0.5cm前後ロームブロック。しまり弱。粘性やや強。
- 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状。径4cm前後ロームブロック少。しまり弱。粘性やや強。
- 7.5YR4/4 (褐色土) 暗褐色土斑状。径4cm前後ロームブロック少。しまり弱。粘性やや強。
- 7.5YR4/4 (褐色土) 径3cm前後ロームブロック少。細かいロームブロック。しまり極弱。粘性中。
- 7.5YR4/4 (褐色土) 細かいロームブロック少。しまり極弱。粘性強。
- 7.5YR4/6 (褐色土) しまり弱。粘性強。

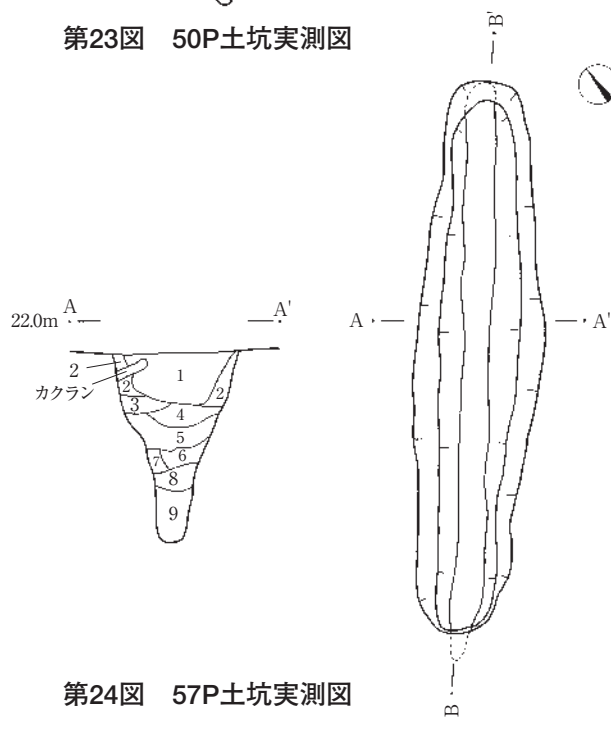


第23図 50P土坑実測図



50P土坑土層

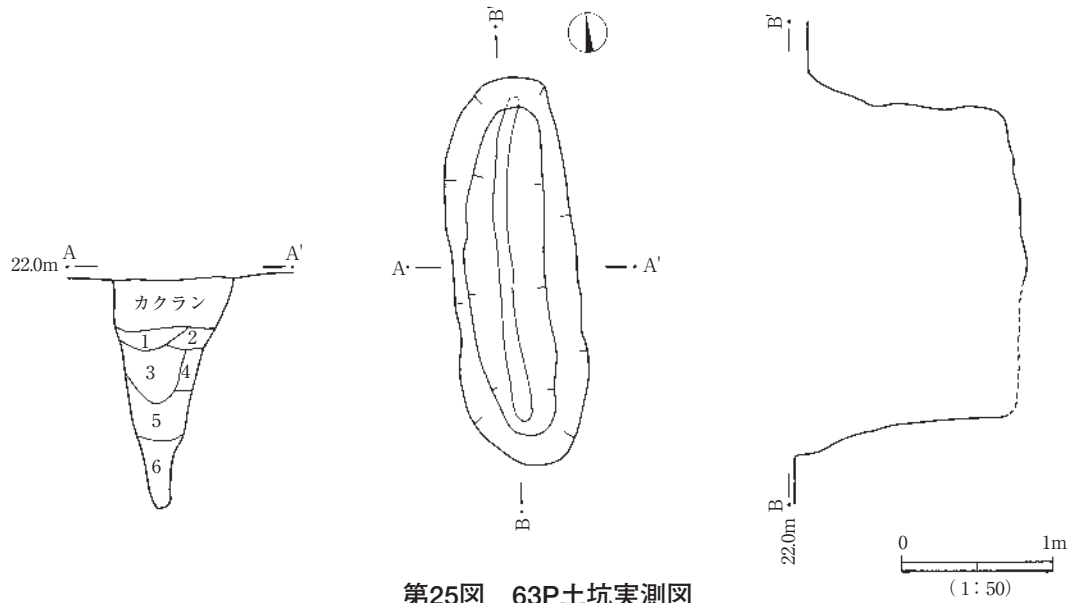
- | | | |
|----|-----------------|------------------------------------|
| 1. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状。しまり強。粘性弱。 |
| 2. | 7.5YR3/2 (黒褐色土) | 褐色土斑状。暗褐色土。 |
| 3. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状。径1~2mmローム粒。しまり中。粘性中。 |
| 4. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状。しまり強。粘性弱。 |
| 5. | 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状。しまり中。粘性弱。 |
| 6. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 暗褐色土斑状。径1~2mmローム粒。しまり中。粘性中。 |
| 7. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径1~2cmロームブロック。径2~3mmローム粒。しまり中。粘性強。 |
| 8. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径1~2cmロームブロック。しまり弱。粘性強。 |
| 9. | 7.5YR4/4 (褐色土) | 径2~3cmロームブロック。しまり極弱。粘性強。 |



第24図 57P土坑実測図

57P土坑土層観察表

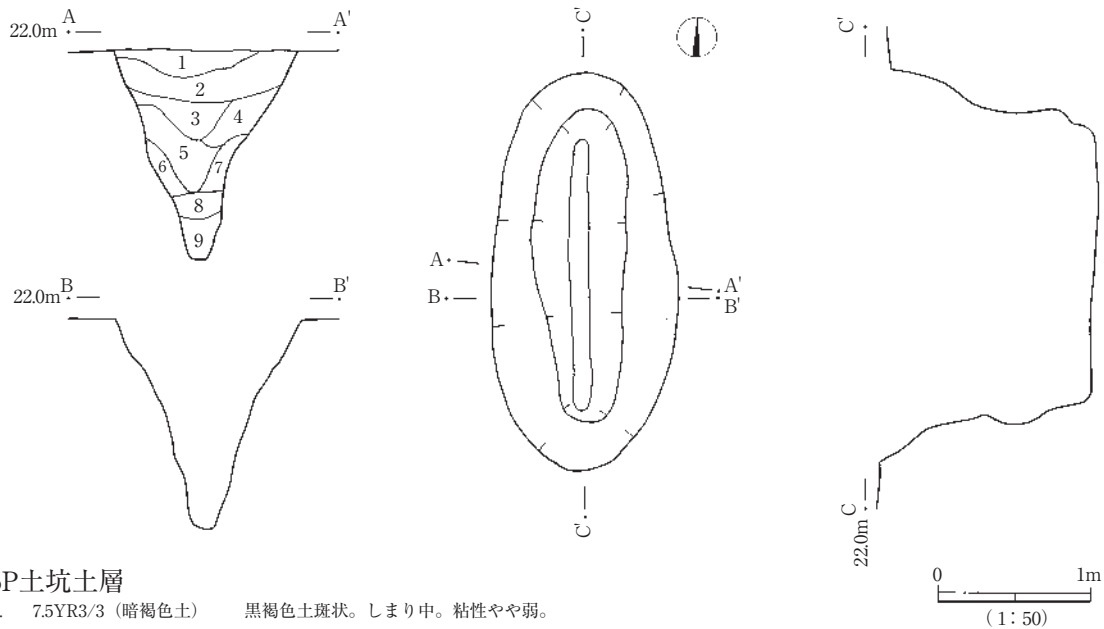
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3, 3/2 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	炭化材片
2	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13~18	中	細根富む	ロームまじり
3	明瞭	7.5Y R4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	ロームまじり
4	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中~強	細根含む	炭化材片
5	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	14	強	細根含む	
6	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	
7	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	
8	判然	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根含む	径3cm以下ロームブロック
9		7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	



第25図 63P土坑実測図

63P土坑土層観察表

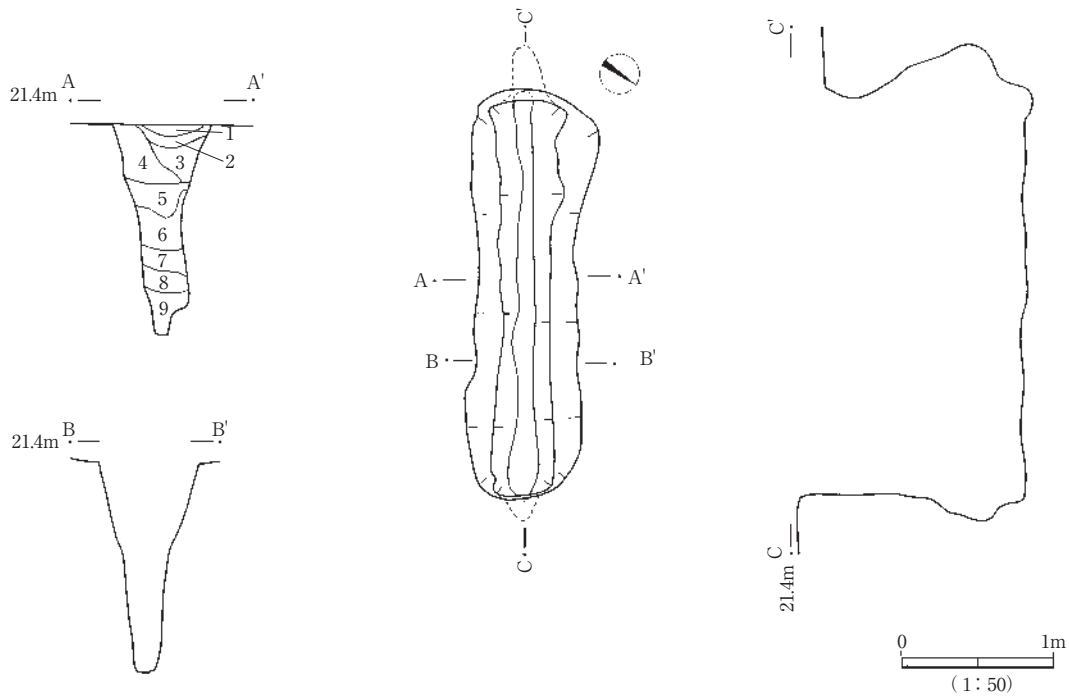
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
2	漸変	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	
3	判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径5mm以下黄色スコリア
4	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
5	漸変	7.5Y R4/4	含む	Si CL	屑粒状~ 小亜角塊状	含む	0~小	13	強	細根含む	径5cmロームブロック
6		7.5Y R4/4	含む	Si CL	粒状~ 屑粒状	なし	0	11	強	細根含む	



65P土坑土層

1. 7.5YR3/3 (暗褐色土) 黒褐色土斑状。しまり中。粘性やや弱。
2. 7.5YR3/4 (暗褐色土) しまり中。粘性やや弱。
3. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまり中。粘性やや弱。
4. 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状。しまり中。粘性中。
5. 7.5YR4/3 (褐色土) 明褐色土斑状。しまり中。粘性中。
6. 7.5YR4/4 (褐色土) しまり中。粘性やや強。
7. 7.5YR4/4 (褐色土) しまりやや弱。粘性やや強。
8. 7.5YR4/6 (褐色土) 径1cm以下ロームブロック。しまりやや弱。粘性やや強。
9. 7.5YR4/4 (褐色土) 径0.3cm以下ロームブロック。しまり弱。粘性やや強。

第26図 65P土坑実測図



第27図 80P土坑実測図

80P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
3	判然	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	径1mm黄色スコリア
4	漸変	7.5Y R4/3 7.5Y R3/3斑状	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
5	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	
6	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	屑粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	14	中	細根富む	径1～3cmロームブロック
7	明瞭	7.5Y R3.5/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	強	細根富む	
8	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根富む	
9		7.5Y R4/4	含む	Si CL	屑粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	17	強	細根富む	暗褐色粒子まばら

(2) その他の遺構

縄文時代に属すると考えた遺構は48基ある。

1P土坑

A・B2基の切り合いと判断した。

1P-A

位置 B1-10G。平面形態 楕円形。規模 (48) × (38) cm。深さ15cm。長軸方向 N-19° -E。底面形 ほぼ平坦。壁面 急傾斜で立ち上がる。覆土 AがBを切る。

1P-B

位置 B1-10G。平面形態 楕円形。規模 56cm程度。深さ16cm。底面形 すり鉢状。壁面 Aよりは緩やかに立ち上がる。

2P土坑

位置 B1-10G。平面形態 楕円形。規模 82×42cm。深さ13cm。長軸方向 N-28° -W。底面形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。

3P土坑

位置 B1-10G。平面形態 楕円形。規模 54×35cm。深さ15cm。長軸方向 N-26° -E。底面形 ほぼ平坦。壁面 急傾斜で立ち上がる。

4P土坑

位置 B1-20G。平面形態 ほぼ円形。規模 57×54cm。深さ18cm。底面形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。

6P土坑

位置 B2-22G。平面形態 楕円形。規模 74×53cm。深さ28cm。長軸方向 N-35° -E。底面形 凹凸のあるすり鉢状。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

7P土坑

位置 B2-22G。平面形態 楕円形。規模 129×99cm。深さ37cm。長軸方向 N-39° -E。底面形 ほぼ平坦。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

9P土坑

位置 B2-32G。平面形態 楕円形。規模 189×109cm。深さ21cm。長軸方向 N-77° -E。底面形 ほぼ平坦。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

10P土坑

A・B2基の切り合いと判断した。

10P-A

位置 B2-32G。平面形態 楕円形。規模 (48) × (37) cm。深さ18cm。長軸方向 N-52° -W。底面形 すり鉢状。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。覆土 AがBを切る。

10P-B

位置 B2-32G。平面形態 楕円形。規模 (64) × (54) cm。深さ16cm。長軸方向 N-79° -W。底面形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。

11P土坑

位置 B2-41・42G。平面形態 やや歪んだ楕円形。規模 142×105cm。深さ15cm。長軸方向 N-86° -W。底面形 平坦。壁面 緩やかに立ち上がる。

15P土坑

位置 C2-3・13G。平面形態 楕円形。規模 102×83cm。深さ14cm。長軸方向 N-3° -W。底面形 ほぼ平坦。壁面 緩やかに立ち上がる。

16P土坑

位置 C2-2・12G。平面形態 楕円形。規模 91×82cm。深さ32cm。長軸方向 N-72° -E。底面形 すり鉢状。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

17P土坑

位置 C2-12G。平面形態 楕円形。規模 42×37cm。深さ14cm。長軸方向 N-25° -E。底面形 すり鉢状。壁面 やや緩やかに立ち上がる。

18P土坑

位置 C2-12G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 61×50cm。深さ14cm。長軸方向 N-9° -W。底面形 ほぼ平坦。壁面 緩やかに立ち上がる。

19P土坑

位置 C2-12G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 143×78cm。深さ20cm前後。長軸方向 N-11° -E。底面形 ほぼ平坦。壁面 北壁は緩やか、他の壁面は急傾斜で立ち上がる。

20P土坑

位置 C2-12G。平面形態 ほぼ円形。規模 74×71cm。深さ18cm。底面形 ややすり鉢状。壁面 やや緩やかに立ち上がる。

22P土坑

位置 C2-11G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 66×56cm。深さ12cm。長軸方向 N-45° -E。底面形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。

23P土坑

位置 C2-11G。平面形態 楕円形。規模 97×76cm。深さ34cm。長軸方向 N-49° -E。底面形 すり鉢状で、北西側で一段深くなっている。壁面 緩やかに立ち上がる。出土遺物 石1点。

24P土坑

位置 C2-11G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 85×45cm。深さ18cm。長軸方向 N-45° -W。底面形 平坦。壁面 急傾斜で立ち上がる。

25P土坑

A・B2基の切り合いと判断した。

25P-A

位置 C2-2G。平面形態 楕円形。規模 213×120cm。深さ37cm前後。長軸方向 N-69° -E。底面形 東側の一段浅い部分は平面形が楕円形で深さ28cm、西側の深い部分は平面形の歪んだ楕円形で深さ37cm前後。壁面 北西壁は緩やか、南東壁は急傾斜で立ち上がる。覆土 AがBを切る。

25P-B

位置 C2-1・2G。平面形態 楕円形か。全体像わからない。規模 (114) × (100) cm。深さ24cm。壁面 緩やかに立ち上がる。

26P土坑

位置 C2-2G。平面形態 長楕円形。2Mに切られる。規模 (354) × 121~102cm。深さ8~39cm。長軸方向 N-24° -E。底面形 凹凸のあるすり鉢状。壁面 南東壁はやや急傾斜で立ち上がり、他はやや緩やか。

27P土坑

位置 C2-2G。**平面形態** 歪んだ楕円形。**規模** 227×80cm。深さ24cm。**長軸方向** N-9° -E。**底面形** すり鉢状。南側に一段浅い部分をもつ。**壁面** やや緩やかに立ち上がる。

28P土坑

位置 C2-2G。**平面形態** 不整形。**規模** 77×75cm。深さ31cm。**底面形** すり鉢状。**壁面** やや急傾斜な部分と、緩やかな部分とがある。

29P土坑

位置 B2-91G。**平面形態** 歪んだ楕円形。2基の重複か。**規模** 157×115cm。深さ48cm。**長軸方向** N-73° -W。**底面形** 丸底が2箇所。**壁面** やや急傾斜で立ち上がる。**覆土** 上層に焼土を含む。**性格** 覆土に焼土を含んでいたが、火床等の明瞭な燃焼の痕跡は無かった。

30P土坑

位置 B2-98G。**平面形態** 楕円形。**規模** 77×51cm。深さ20cm。**長軸方向** N-36° -E。**底面形** 凹凸のあるすり鉢状。**壁面** やや急傾斜で立ち上がる。

31P土坑

位置 C2-2G。**平面形態** 楕円形。**規模** 151×74cm。深さ13cm。**長軸方向** N-81° -W。**底面形** ほぼ平坦。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

35P土坑

位置 B1-88G。**平面形態** 楕円形。**規模** 100×65cm。深さ39cm。**長軸方向** N-28° -W。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

37P土坑

位置 B1-79G。**平面形態** 楕円形。**規模** 144×82cm。深さ24cm。**長軸方向** N-22° -E。**底面形** ほぼ平坦。**壁面** 急傾斜で立ち上がる。

38P土坑

位置 B1-78G。**平面形態** 歪んだ楕円形。**規模** 93×50cm。深さ22cm, 9cm。**長軸方向** N-25° -E。**底面形** 南側で一段深くなっている。すり鉢状。北側の浅い部分は平坦。**壁面** やや緩やかに立ち上がる。

43P土坑

位置 C2-51G。**平面形態** 楕円形か。確認調査のトレンチのため北側が削られている。**規模** (66)×71cm。深さ15cm。**長軸方向** N-0° -S。**底面形** 凹凸あり。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

45P土坑

位置 C1-98G。**平面形態** 楕円形。**規模** 69×57cm。深さ16cm。**長軸方向** N-50° -E。**底面形** すり鉢状。南側は掘りすぎ。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

46P土坑

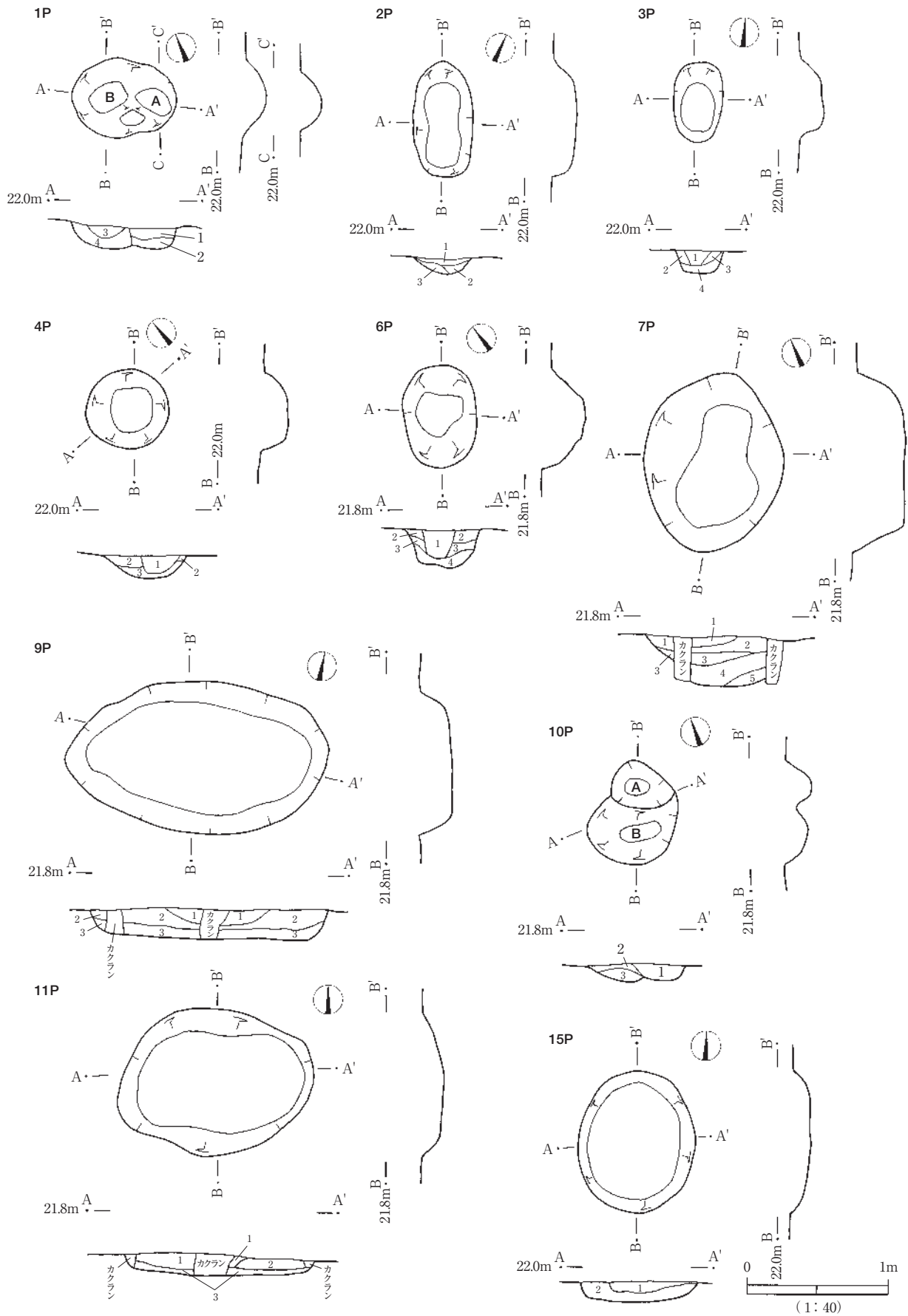
位置 C1-88G。**平面形態** 楕円形。**規模** 101×81cm。深さ50cm, 31cm。**長軸方向** N-48° -E。**底面形** ほぼ平坦。南西側に一段浅い部分あり。**壁面** やや緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 1点。赤彩壺の胴部破片。覆土上層からの出土で、後世の流れ込みと判断。

47P土坑

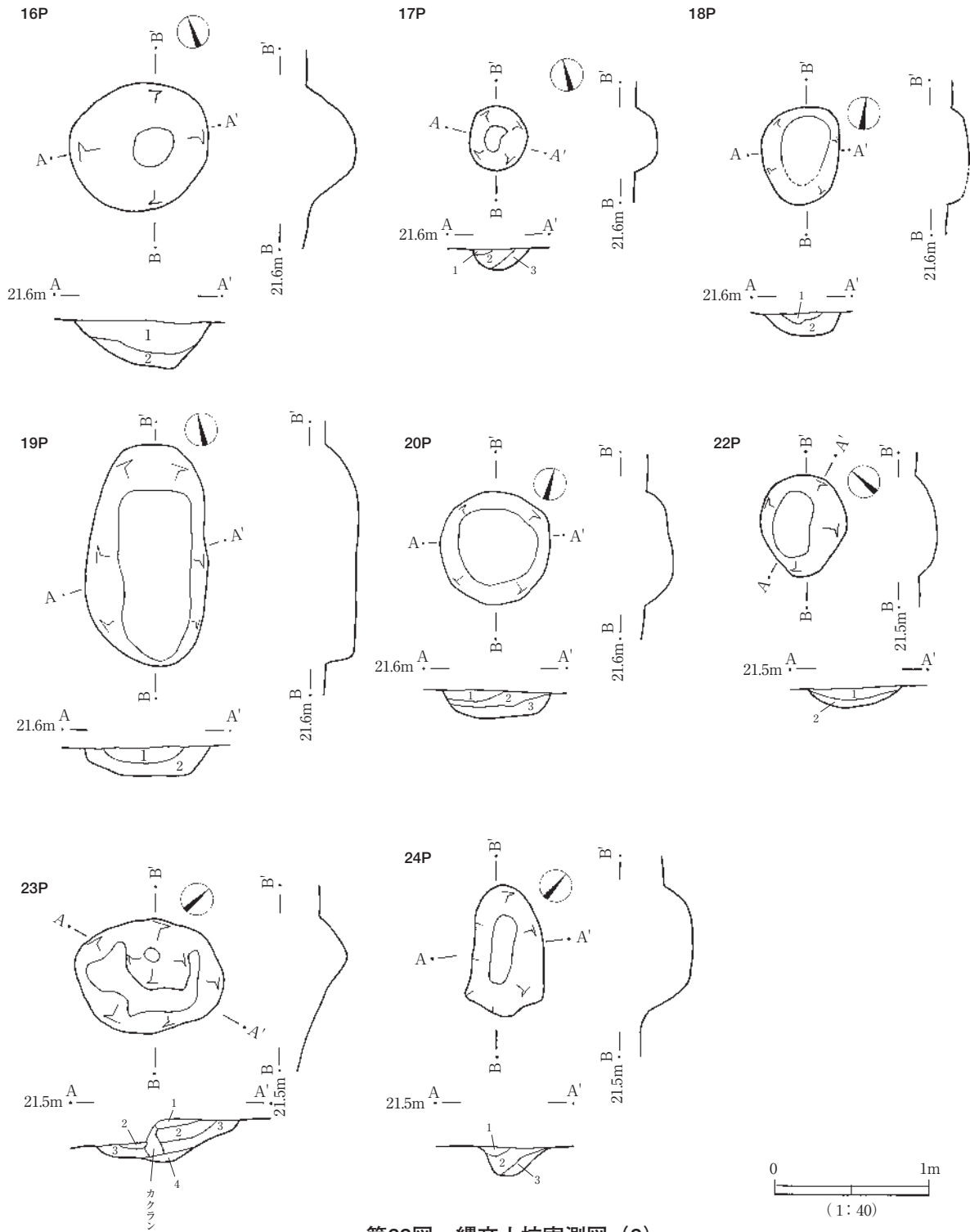
位置 D1-7・8G。**平面形態** 楕円形。**規模** 61×48cm。深さ8cm。**長軸方向** N-31° -E。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

51P土坑

位置 C1-88G。**平面形態** 楕円形。**規模** 77×67cm。深さ32cm, 20cm。**長軸方向** N-39° -E。



第28図 縄文土坑実測図 (1)



第29図 縄文土坑実測図 (2)

1P土坑土層

- 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒微。しまりやや弱。粘性強。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。やや弱。粘性やや強。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性強。

2P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。しまり弱。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。しまりやや弱。粘性強。

3P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。しまりやや弱。粘性強。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性強。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性強。
- 全掘時に掘り広がった部分。

4P土坑土層

- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム微。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム微。しまり中。粘性やや弱。
- 7.5YR4/6 (褐色土) ローム微。しまり弱。粘性強。

6P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。褐色土斑状。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。明褐色土斑状。しまりやや弱。粘性強。

15P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3主	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	
		7.5Y R3/2にじむ									
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	18	中	細根含む	

16P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	
2		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	

17P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む	
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
3	漸変	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	

18P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む					16			
2		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む					16			

19P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根富む	
2		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	

20P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	
3		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	24	中	細根含む	

7P土坑土層

- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。褐色土斑状。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。明褐色土斑状。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/6 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒微。明褐色土斑状。しまり中。粘性強。
- 7.5YR4/6 (褐色土) しまり中。粘性強。

9P土坑土層

- 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。褐色土斑状。しまりやや強。粘性やや強。
- 7.5YR4/4 (褐色土) 暗褐色土斑状。しまり強。粘性強。

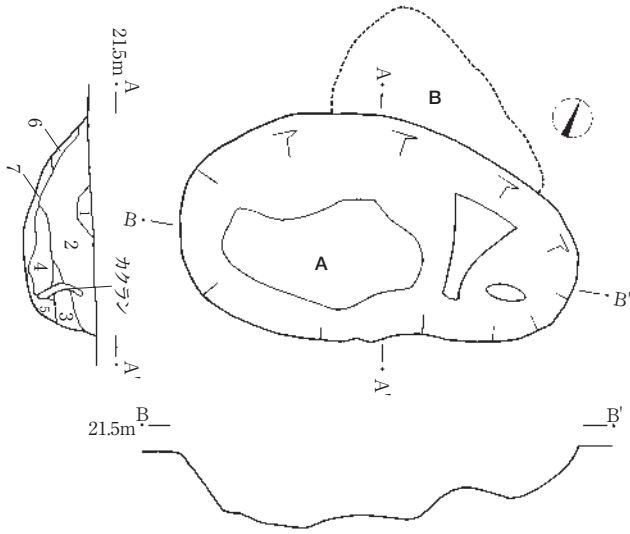
10P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性やや弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまり強。粘性強。

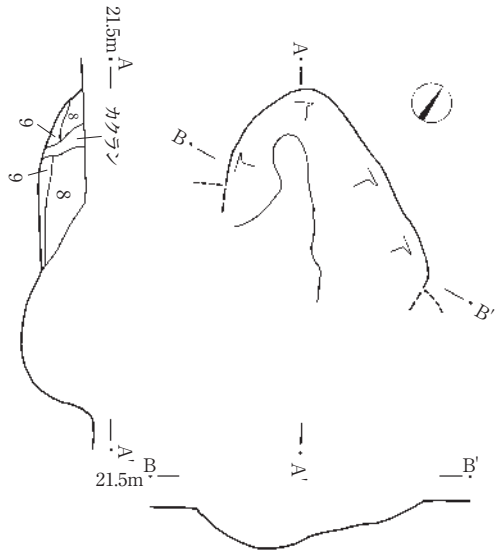
11P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。褐色土斑状。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。褐色土斑状。しまり中。粘性やや強。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまり中。粘性強。

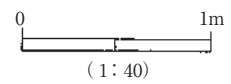
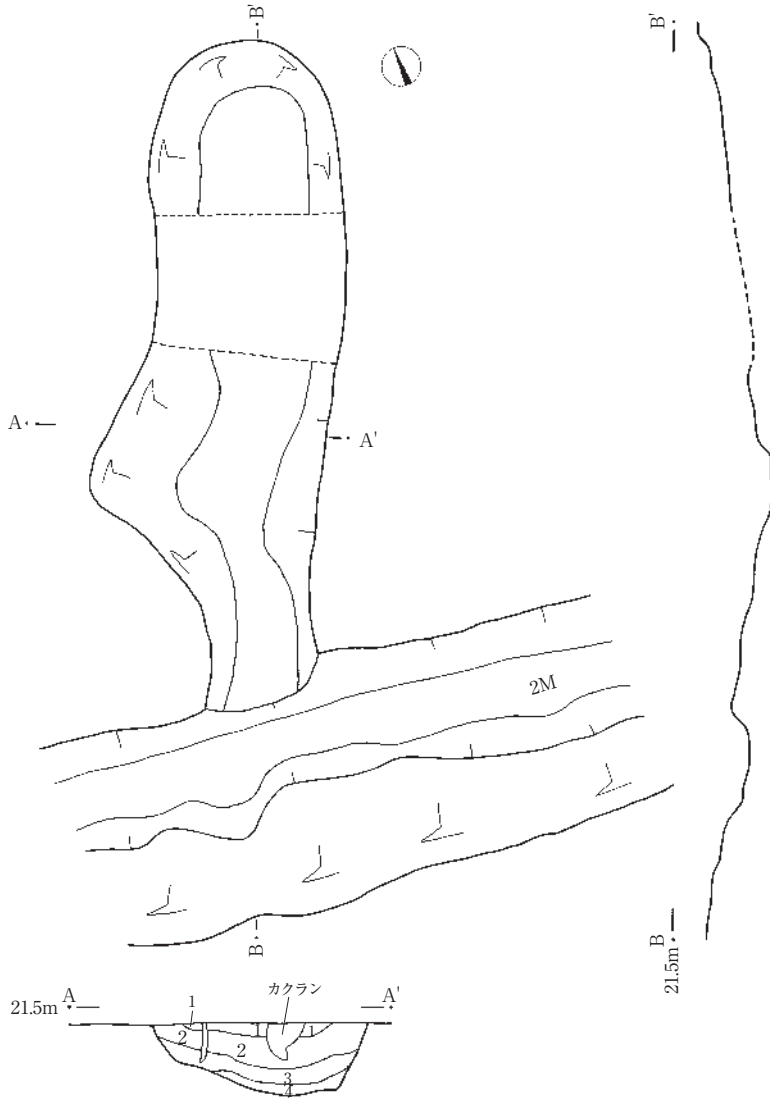
25P-A



25P-B

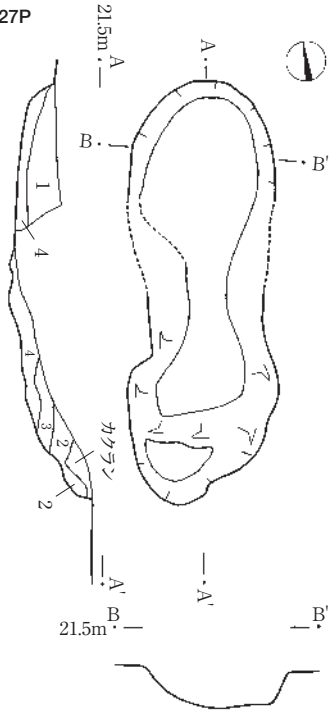


26P

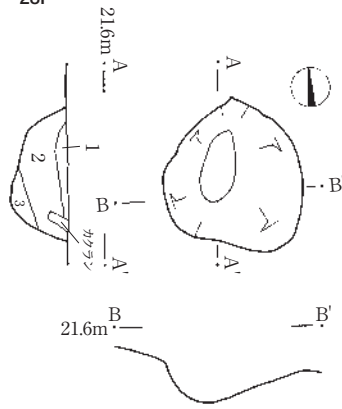


第30図 縄文土坑実測図 (3)

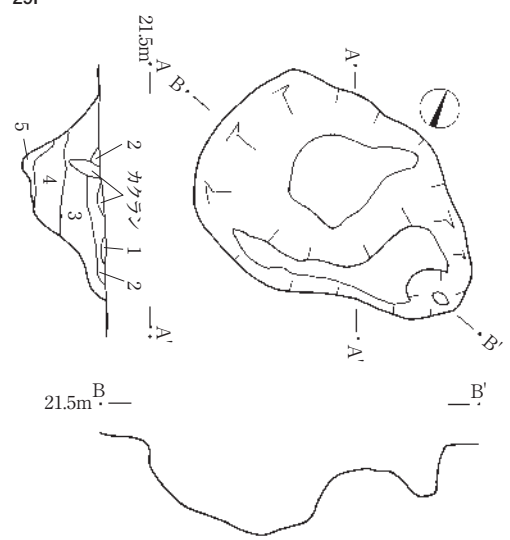
27P



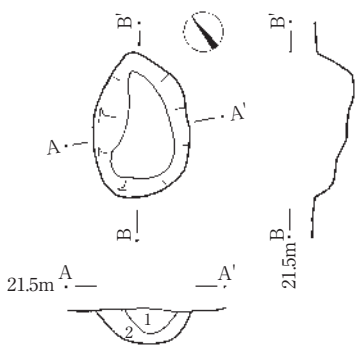
28P



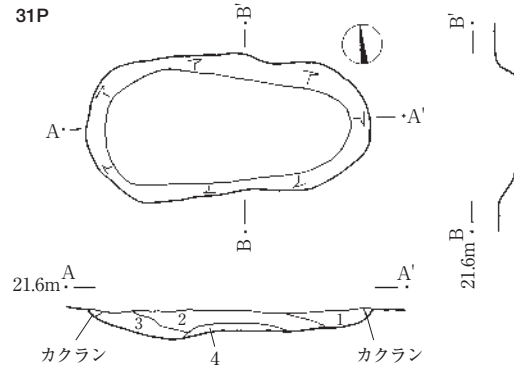
29P



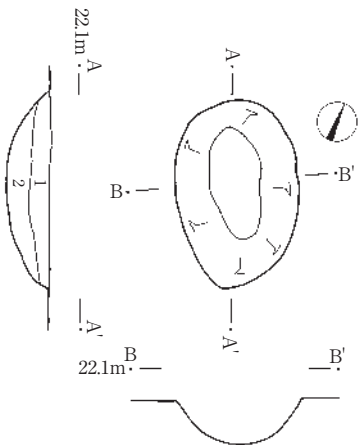
30P



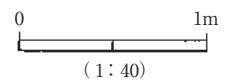
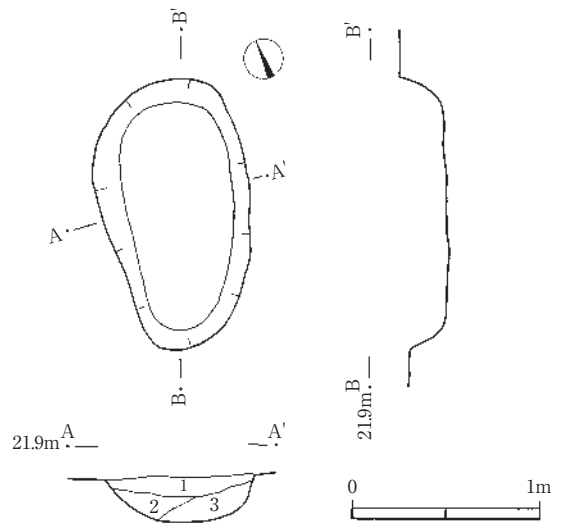
31P



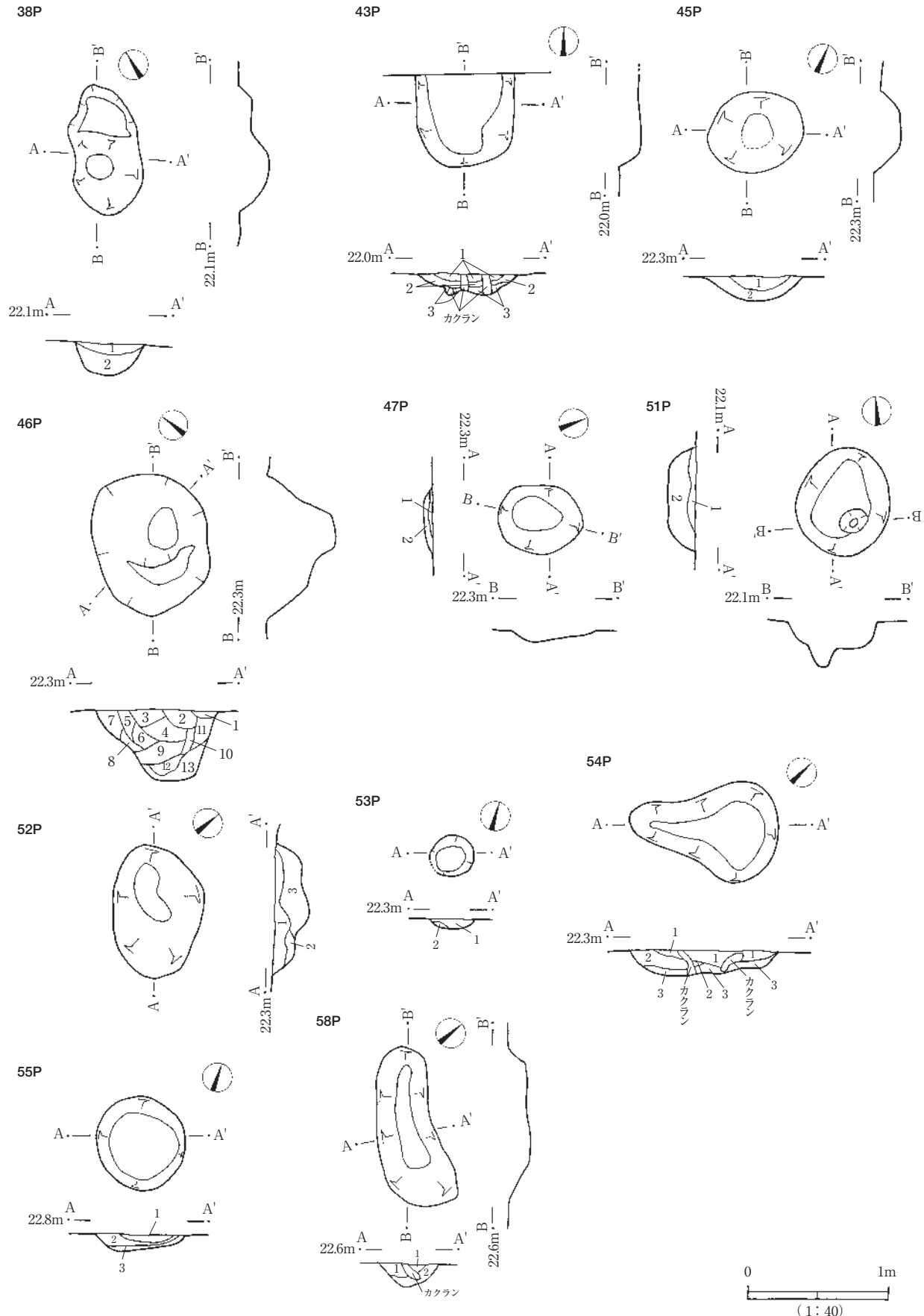
35P



37P



第31図 縄文土坑実測図 (4)



第32図 縄文土坑実測図 (5)

22P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
2		7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア

23P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3.5/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	23	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
3	判然	7.5Y R4/3斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根含む	
4	7.5Y R4/3主										
4		7.5Y R3/3									
		全掘時に掘り広がった部分									

24P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
2		7.5Y R4/3	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
3		全掘時に掘り広がった部分									

25P-A土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	23	中	細根富む	
2		7.5Y R3/3主	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根富む	径0.5mm黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R4/3斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根富む	
4	判然	7.5Y R3/2.5									
5	明瞭	7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根含む	
6	2と明瞭	7.5Y R3/2	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	
7	漸変	7.5Y R4/3									
8		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	
9		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む	

25P-B土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
8	漸変	7.5Y R4/4主	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根富む	
9		7.5Y R4/3にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根含む	

26P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根富む	
2		7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
3	判然	7.5Y R3/3, 3/2	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
4	判然	7.5Y R4/3斑状									
5		7.5Y R3/3, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	
6		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中～強	細根含む	

27P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1		7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	
2		7.5Y R3/3斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	
3	漸変	7.5Y R4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
4	明瞭	7.5Y R3/3斑状									
5		7.5Y R4/3, 3/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根あり	

28P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
2		7.5Y R3/2.5	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
3	明瞭	7.5Y R3/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
4	7.5Y R3/3主										
5		7.5Y R4/3									

29P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	5Y R 3/4	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	焼土粒子多く含む 炭化物含む
2		7.5Y R 3/4	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	焼土ブロック, 粒子, 炭化物
3	判然	7.5Y R 4/3 7.5Y R 4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中～強	細根富む	焼土粒子少
4		7.5Y R 4/3 7.5Y R 3/3斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中～強	細根富む	
5		7.5Y R 4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根含む	ロームまじり

30P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	
2		7.5Y R 4/3 7.5Y R 3/3にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	20	強	細根含む	

31P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R 4/3 7.5Y R 3/3にじむ	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	
2		7.5Y R 3/3 7.5Y R 4/3にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根富む	
3	判然	7.5Y R 4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中～強	細根富む	
4		7.5Y R 4/4主 7.5Y R 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中～強	細根富む	ロームまじり

35P土坑土層

- 7.5YR4/4 (褐色土) 暗褐色土斑状少。しまり弱。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状少。しまりやや弱。粘性弱。

37P土坑土層

- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒微。
- 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒微。暗褐色土斑状。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒微。ロームブロック。しまり中。粘性弱。

38P土坑土層

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) 褐色土斑状, ローム粒。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ロームブロック少, 暗褐色土。しまりやや弱。粘性弱。

43P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R 3/2	富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	
2		7.5Y R 3/2, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根富む	
3	明瞭	7.5Y R 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	

45P土坑土層

- 7.5YR3/2 (黒褐色土) 暗褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 黒褐色土斑状。ローム粒少。しまりやや弱。粘性中。

46P土坑土層

- 7.5YR4/4 (褐色土) 暗褐色土斑状。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 径1～2mmローム粒。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまり強。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまり弱。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状少。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状。しまり中。粘性中。
- 7.5YR4/4 (褐色土) しまり中。粘性中。
- 暗褐色土斑状。上部より多。しまり弱。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 下部やや褐色。しまり中。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 下部やや褐色。しまり弱。粘性弱。
- 7.5YR4/4 (褐色土) しまり弱。粘性中。
- 全掘時に掘り広がった部分

47P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R 3/3 7.5Y R 4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
2		7.5Y R 4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	

51P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
2		7.5Y R 3/3, 4/3 まじり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

52P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	
2	1と漸変	7.5Y R3/2, 3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	
3		7.5Y R3/3, 4/3, 3/2	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	

53P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
2		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

54P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/2, 3/3 7.5Y R4/3にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径2cmロームブロック
2	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1cm以下ロームブロック
3		7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

55P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
2	明瞭	7.5Y R4/3, 3/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根あり	
3		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根あり	

58P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	
2		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	

60P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4斑状 7.5Y R3/2雲状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	土器片あり
2	判然	7.5Y R3.5/3 7.5Y R4/4斑状	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	
3		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	

61P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3.5/3 7.5Y R4/4雲状	含む～富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
2	判然	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4雲状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	
3		7.5Y R4/4		Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中～強	細根含む	

62P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3.5 7.5Y R4/4斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1cmロームブロック
2	判然	7.5Y R4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
3		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中～強	細根含む	

64P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
2	漸変	7.5Y R3.5/3 7.5Y R4/4斑状	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
3	漸変	7.5Y R3.5/3 7.5Y R4/4斑状2より多	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
4	判然	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	強	細根あり	
5		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	
6		全掘時に掘り広がった部分									

底面形 南東側で一段深いピット状になっている。浅い部分はほぼ平坦。**壁面** 急傾斜で立ち上がる。

52P土坑

位置 C1-88G。**平面形態** 楕円形。**規模** 94×64cm。深さ25cm。**長軸方向** N-49° - W。**底面形** 凹み状。**壁面** やや緩やかに立ち上がる。

53P土坑

位置 C1-88G。**平面形態** ほぼ円形。**規模** 径30cm。深さ7cm。**長軸方向** N-56° - E。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

54P土坑

位置 C1-88G。**平面形態** 長三角形。**規模** 106×72cm。深さ17cm。**長軸方向** N-51° - E。**底面形** 凹凸あり。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

55P土坑

位置 C1-99G。**平面形態** 円形。**規模** 径65cm。深さ14cm。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 1点。ハケ目土器片。後世の流れ込みと判断。

58P土坑

位置 D1-9G。**平面形態** 歪んだ楕円形。**規模** 115×36~48cm。深さ16cm。**長軸方向** N-55° - W。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

60P土坑

位置 C1-96G。**平面形態** 楕円形。**規模** 113×72cm。深さ24cm。**長軸方向** N-71° - E。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。**出土遺物** 3点。縄文時代晩期。第33図。

61P土坑

位置 C2-34G。**平面形態** 三日月形。**規模** 173×45cm。深さ22cm。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

62P土坑

位置 C2-24G。**平面形態** 歪んだ楕円形。**規模** 89×66cm。深さ35cm。**長軸方向** N-21° - E。**底面形** すり鉢状。**壁面** やや急傾斜で立ち上がり、中場から緩やかになる。

64P土坑

位置 C2-23G。**平面形態** 楕円形。**規模** 261×129cm。深さ75cm、北側35cm、南側58cm。**長軸方向** N-43° - E。**底面形** 中央部で一段深くなり、すり鉢状。**壁面** 北東壁は緩やか、南西壁は急傾斜で立ち上がる。

66P土坑

位置 C2-21G。**平面形態** 楕円形。**規模** 218×91cm。深さ17cm。**長軸方向** N-18° - W。**底面形** 平坦。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

68P土坑

位置 C1-20・C2-11G。**平面形態** 楕円形。**規模** 98×83cm。深さ12cm。**長軸方向** N-61° - E。**底面形** すり鉢状。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

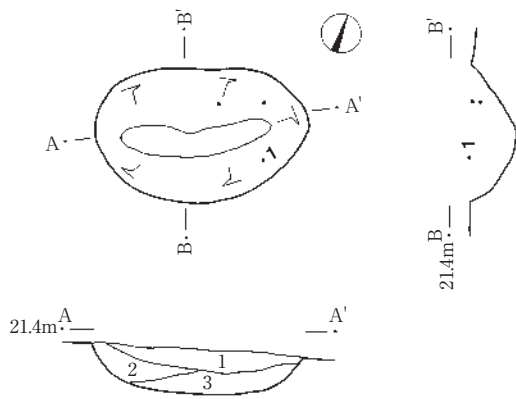
69P土坑

位置 C1-40G。**平面形態** 楕円形。**規模** 74×63cm。深さ17cm。**長軸方向** N-53° - W。**底面形** ほぼ平坦。**壁面** 緩やかに立ち上がる。

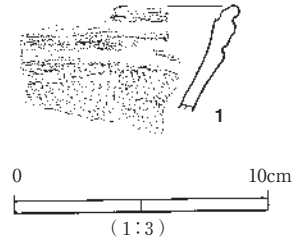
76P土坑

位置 C1-80G。**平面形態** 楕円形。**規模** 141×92cm。深さ18cm。**長軸方向** N-29° - W。**底面**

60P



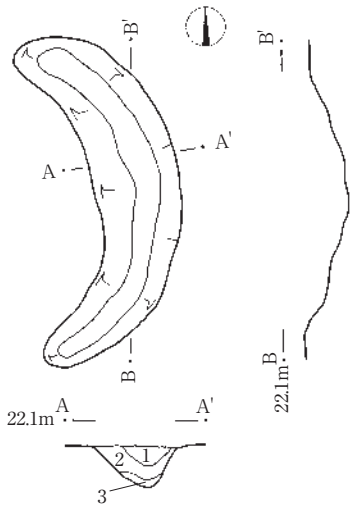
60P出土遺物



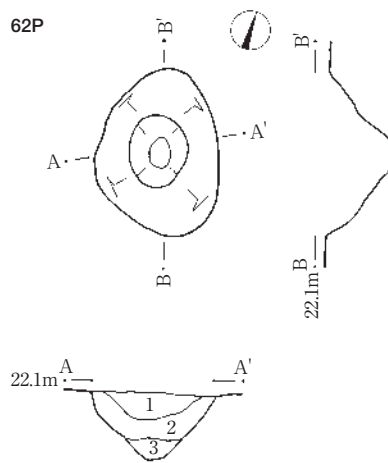
60P土坑出土遺物観察表

遺物No.	器形	部位	計測値 (cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	鉢か	口縁部付近か		外) 沈線, ミガキ, 捺糸文。 内) ナデ, ミガキ。	○緻密 ◎良好 ●外) 黒色, 内) 褐色	晩期	60P・1

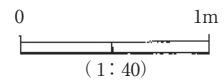
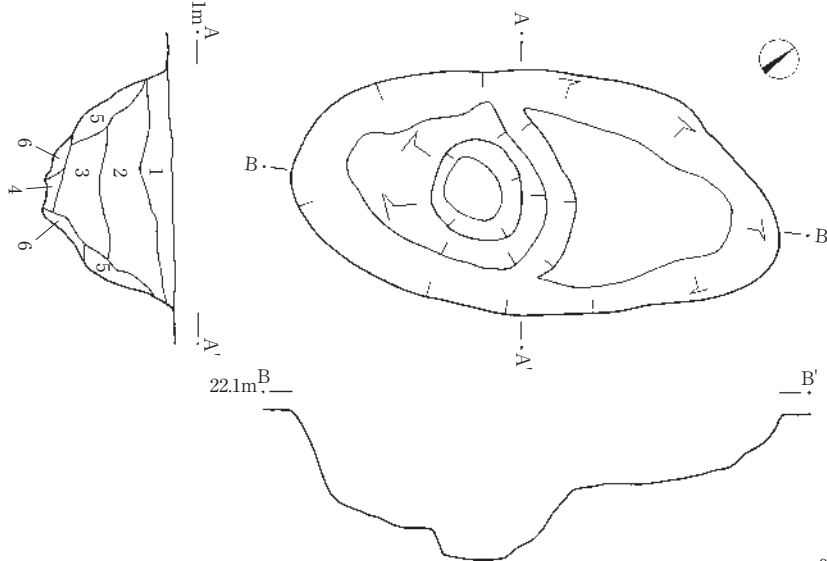
61P



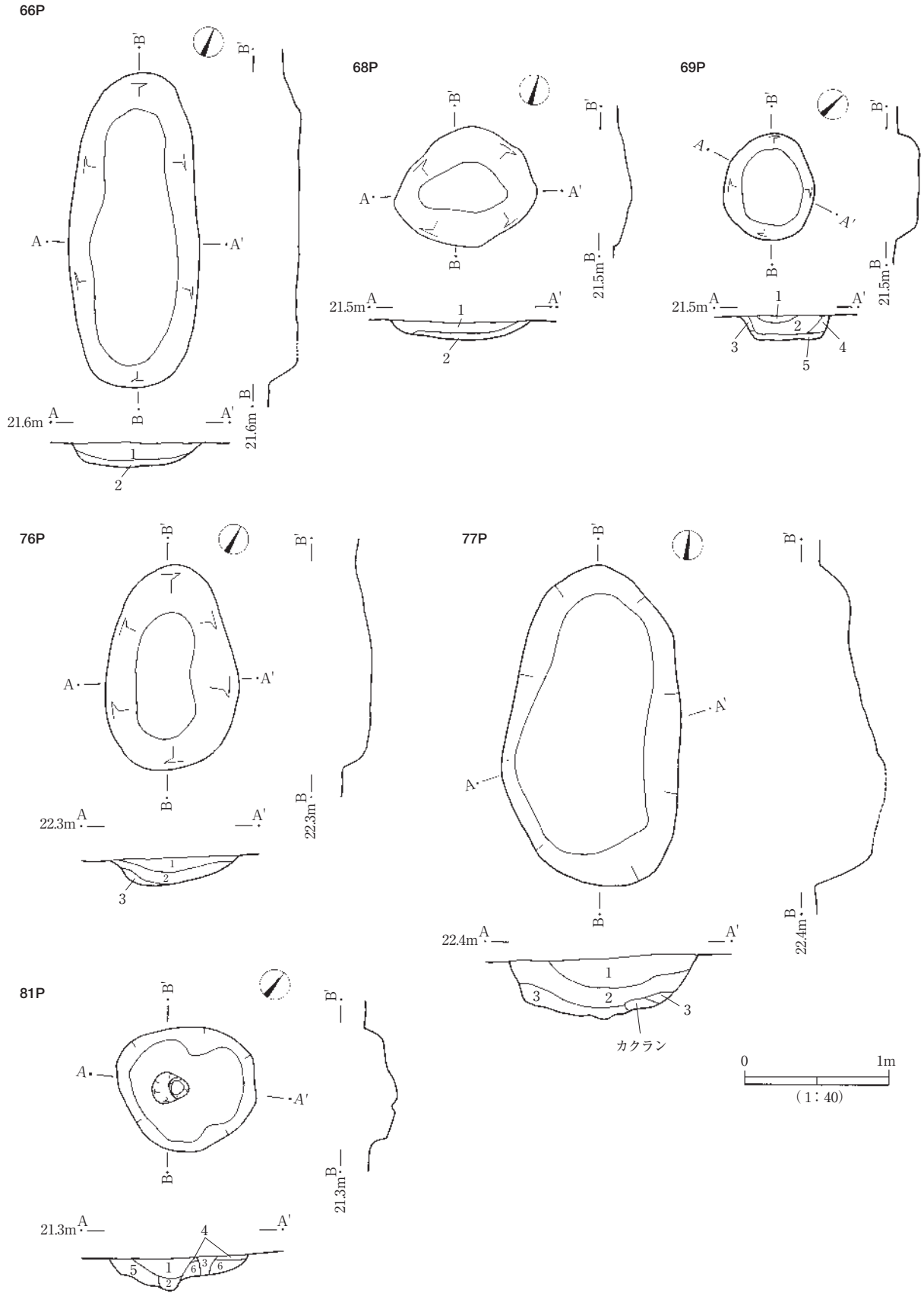
62P



64P



第33図 縄文土坑実測図 (6)



第34図 縄文土坑実測図 (7)

形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。

77P土坑

位置 C1-80G。平面形態 楕円形。規模 223×124cm。深さ45cm。長軸方向 N-1° -W。底面形 凹凸のあるすり鉢状。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

81P土坑

位置 C1-76G。平面形態 歪んだ楕円形。26D住居跡に切られる。規模 99×86cm。深さ19cm, 13cm, 22cm。検出時に平面では確認できなかったが、3基のピットが重複していると判断された。底面形 すり鉢状と平坦。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

66P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R4/3, 3.5/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	
2		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根あり	

68P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R4/3	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	
2		7.5Y R4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	

69P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R2/1.5	富む～ 頗る富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
2		7.5Y R2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
3	判然	7.5Y R3/2, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
4	2との差判然 明瞭	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
5		7.5Y R3/3 7.5Y R4/4ソフト ローム	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	

76P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	
2		7.5Y R4/4斑状	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
3	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

77P土坑土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根含む	
2		7.5Y R4/4斑状 部分的に7.5Y R3/2	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
3	判然 明瞭	7.5Y R4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む	径1cmロームブロック

81P土坑土層

- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒。しまり弱。粘性中。
- 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒。しまり極弱。粘性中。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) しまりやや弱。粘性中。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) しまり弱。粘性中。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。ロームブロック。しまり弱。粘性中。
- 7.5YR4/4 (褐色土) しまり弱。粘性やや強。

(3) 遺物

d地点で確認された縄文土器は約100点程度であった。早期，前期，後期，晩期の土器片を確認することができた。

早期は，撚糸文系土器で井草式・夏島式に属するものと考えられる。台地先端寄りの17D・8D・11D各住居跡の覆土等から出土した。

前期は浮島式土器，興津式土器である。波状貝殻文の土器が15D・17D住居跡覆土等から出土した。興津式土器は落とし穴状土坑の13P土坑覆土やその周辺など台地先端部で出土した。興津式に伴うと見られる縄文施文の土器も台地先端部で出土した。

中期は明確に捉えることができなかった。後期も希薄である。

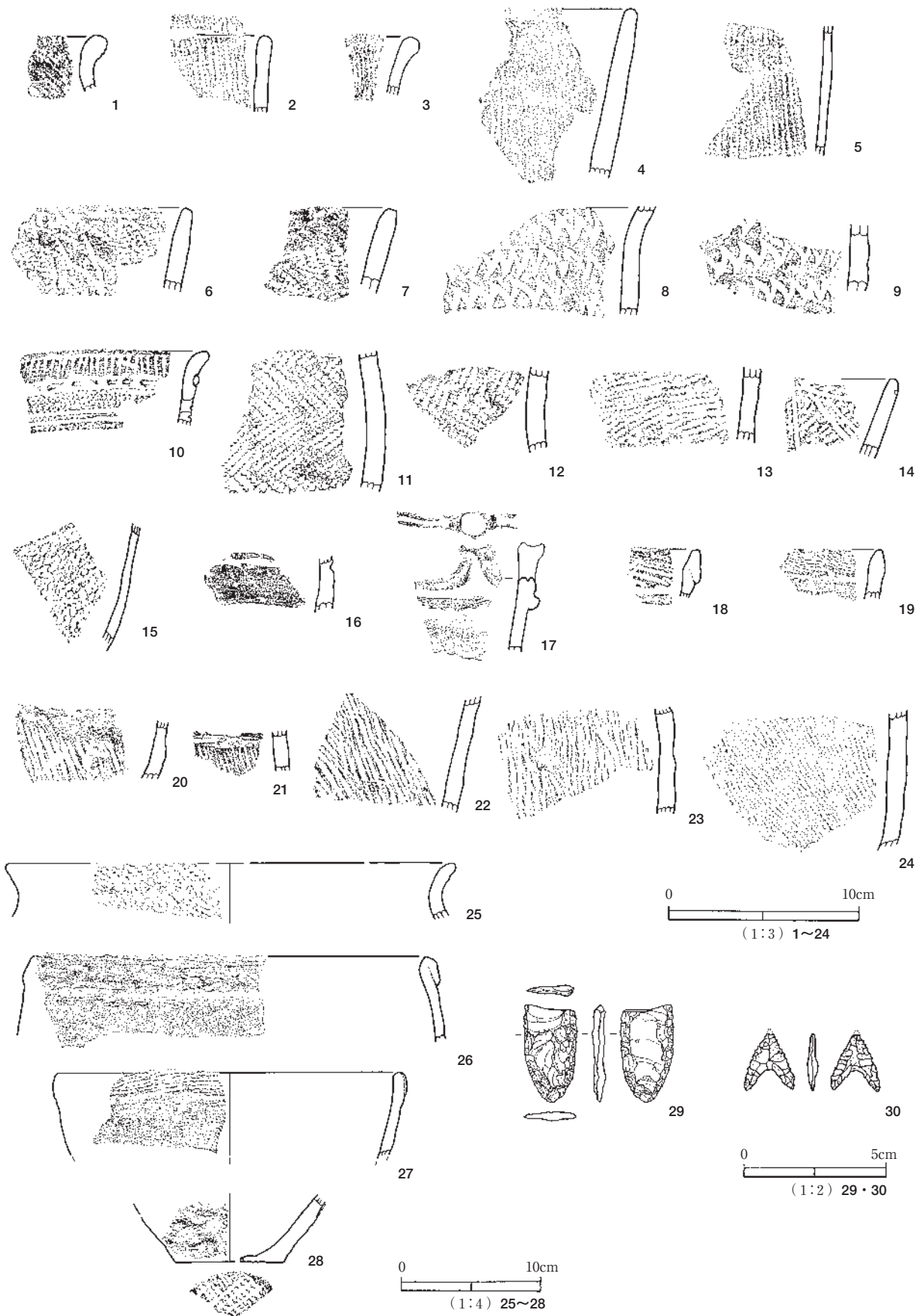
ややまとまっていたのは，晩期後半の土器片である。第35図17は大洞A式あるいは千網式段階の精製土器と考えられる。18～24，27は，同時期の撚糸文を施す粗製土器である。26は晩期中葉以降の無文粗製土器である。28の網代痕のある底部片もこれらと同時期のものであろう。出土地点は，48Pや7M等d地点の北東部に集中していた。またこの区域にある60Pからも晩期に属するとみられる土器片が出土している。この付近のC1-95・D1-5Gには埋没谷が存在するので，トレンチを掘ってみたが出土遺物は同図15のみであった。遺構は検出されなかった。

石器としては，第35図29の尖頭器1点が確認調査時に出土した。草創期のものと考えられる。

石鏃は6点出土した。同図30は遺構外の出土であるが，他の5点は7D・12D・17D・20D・22D各住居跡から出土したので，各住居の頁に掲載した。

縄文時代遺物観察表

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	深鉢	口縁部	器高 <2.9>	外) 単節縄文RL。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい褐色	井草Ⅰ式	11D一括
2	深鉢	口縁部	器高 <4.0>	外) 口唇部上端，縄文あるいは撚糸文か。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色	井草Ⅱ式か	C2-31-4G一括
3	深鉢	口縁部	器高 <3.0>	外) 撚糸文R。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色	内面，剥落。 夏島式	8D・2
4	深鉢	口縁部	器高 <8.8>	外) 不明瞭な撚糸文。 内) 肌荒れ状。	○砂粒 ◎やや不良 ●外) 灰褐色，にぶい橙色 内) にぶい褐色	夏島式～ 稲荷台式か	C1-88G一括
5	深鉢	胴部		外) 撚糸文L。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色	夏島式	17D・173-176
6	深鉢	口縁部	口径 (24.0) 器高 <4.4>	外) 波状貝殻文(放射肋あり)。 口唇部に短沈線。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●にぶい赤褐色	浮島式	15D・110-112
7	深鉢	口縁部		外) 波状貝殻文(放射肋あり)。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい橙色	浮島式	17D・88
8	深鉢	胴部		外) 波状貝殻文(放射肋なし)。 内) 肌荒れ状。	○赤褐色スコリア ◎やや不良 ●にぶい橙色，褐灰色， にぶい赤褐色。	浮島式	D1-19G一括
9	深鉢	胴部		外) 波状貝殻文(放射肋なし)。	○細砂粒，赤褐色スコリア ◎良 ●にぶい赤褐色	浮島式	17D・135
10	深鉢	口縁部	口径 (28.0) 器高 <3.9>	外) 縦の短沈線，半切竹管状施文具 による刺突文。貝殻腹縁文，平行沈 線。 内) ナデ，ミガキ。 焼成後穿孔。(補修孔か)	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色 内) にぶい黄褐色	興津式	4T・5
11	深鉢	胴部		外) 単節縄文RL・LRによる羽状縄文。 内) ナデ，ミガキ。	○雲母粒，砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色，にぶい褐色 内) 灰褐色		TP2・2，4， 13P・1
12	深鉢	胴部 屈曲部		外) 縄文LR・RLによる羽状縄文。 内) 横ミガキ	○白色粒子 ◎良 ●にぶい褐色		TP2一括
13	深鉢	胴部		外) 単節縄文LR。 内) ナデ，ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●にぶい橙色，灰白色		C2-54G一括



第35図 縄文時代の遺物

14	深鉢	口縁部	器高 <4.1>	外) 不明瞭な縄文, 沈線。 内) 横ミガキ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●橙色, にぶい橙色	堀之内1式	25D・135	
15	深鉢	胴部		外) 粗い縄文。 内) ミガキ。	○緻密, 赤褐色スコリア ◎良好 ●外) 褐灰色, にぶい褐色 内) にぶい褐色	加曾利B式の粗製か	C1-95G一括	
16	深鉢	胴上部		外) 沈線, ミガキ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●灰褐色	晩期 姥山Ⅲ式か	7M・18	
17	深鉢	口縁部 突起あり	器高 <3.7> 突起部 1.8	外) 三叉文, 沈線, 隆起, ミガキ。 内) ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい橙色, 褐灰色 内) 褐灰色	晩期後半	C1-89G一括	
18	深鉢か	口縁部	器高 <2.6>	外) 条痕文 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色	晩期後半の粗製	48P・6	
19	深鉢	口縁部	器高 <2.6>	外) 口縁部, 撚糸文。 内) 横ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色 内) 灰褐色	晩期後半の粗製	7M・3	
20	深鉢	胴上部		外) 撚糸文, 器面荒れている。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色 内) にぶい褐色	晩期後半の粗製	10M・25	
21	深鉢	胴上部		外) ナデ, 撚糸文R 内) ミガキ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●にぶい橙色	晩期後半の粗製	48P・9	
22	深鉢	胴部		外) 撚糸文R, 条痕文 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●橙色, 褐灰色, 灰褐色	晩期後半の粗製	48P・1	
23	深鉢	胴部		外) 撚糸文R, 条痕文 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●にぶい橙色	晩期後半の粗製 1と同一個体だろう	48P・2-11	
24	深鉢	胴下部		外) 撚糸文L 内) ナデ, ミガキ	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい赤褐色, 灰褐色 内) 灰褐色, 黒褐色	内面, 煤状物質付着。	C1-96G一括	
25	深鉢	口縁部	口径 (31.8) 器高 <4.1>	外) 単節縄文RL。 内) ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい橙色		15D・177	
26	深鉢	口縁部	口径 (27.8) 器高 <6.0>	外) 横ナデ, 斜ヘラケズリ。 内) 横ナデ, ミガキ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良好 ●にぶい橙色, にぶい褐色, 灰褐色	晩期	8M・14- C1-96G一括	
27	深鉢	口縁部	口径 (24.4) 器高 <6.1>	外) 口縁部, 撚糸文。ヘラ削り後ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 暗褐色, 灰褐色 内) にぶい褐色, 褐灰色	晩期後半の粗製	7M・13	
28	深鉢	底部	底径 (7.6) 器高 <4.7>	外) ヘラケズリ後ナデ。底部, 網代痕。 内) ナデ。	○砂粒 ◎やや不良 ●外) 褐灰色 内) にぶい褐色		C1-96G一括	
29	尖頭器。先端部欠損。3.4cm×1.9cm×0.5cm。4.1g。ガラス質黒色安山岩。						草創期	A1-98-4G一括
30	石鏃。先端部欠損。2.2cm×1.8cm×0.4cm。質量, 0.7g。チャート。							C1-88G一括

2 弥生時代

今回の調査で得られた弥生時代の遺構・遺物は、土器から判断して後期中葉から後葉に属するものと考えられる。印旛沼沿岸地域に見られる附加条縄文を施文した土器群が主体をなしている。住居跡5軒(13D・15D・16D・18D・26D)を調査した。後期終末と考えられる遺物は無く、古墳時代初頭との間に時間的な隔たりがあるらしい。

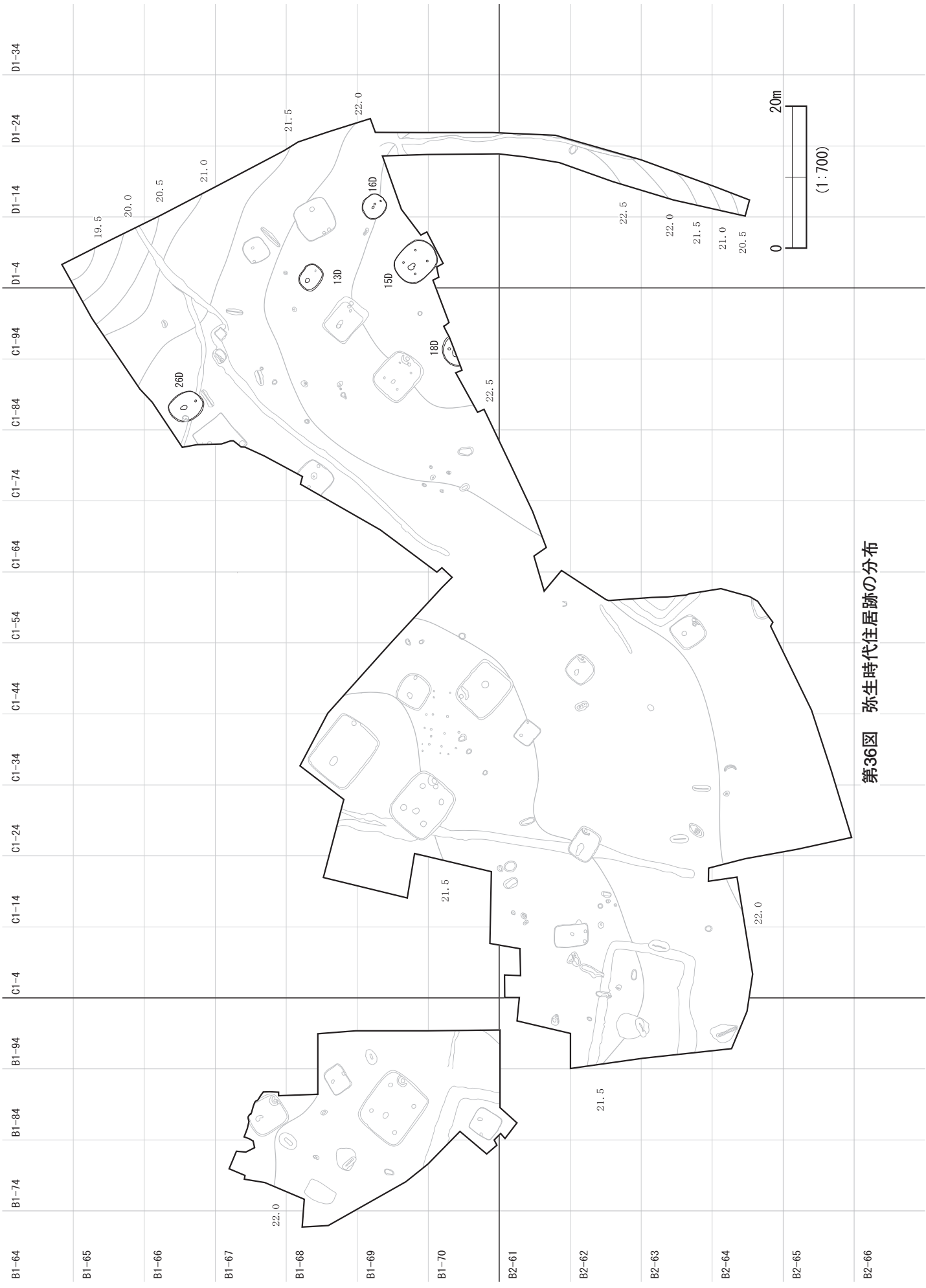
13D住居跡(第37図～39図)

位置 D1-8・C1-98G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向3.7m, 北東-南西方向3.05m。深さ26~38cm。**主軸方向** N-50°-W。**覆土** 一面のみの観察であるが、住居の南西と北東からほぼ均等に土砂が流入している。上層の1層は褐色土であるが、2~9層は黒褐色・暗褐色土が主体となり、5層が最も暗い黒褐色土である。3層に焼土粒子・炭化材片が含まれる。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がるが、上部ではやや緩やかになり、一部が崩壊したものと思われる。**柱穴・貯蔵穴** 相当するピットは無かった。**ピット** 4基確認した。P3は入り口施設関連と思われる。P1・P2は炉の周辺に位置し、床面上に据えられた施設の痕跡、あるいは生活痕跡と思われる。P1は上面径22cm, 底面14×10cm, 深さ6cm。P2は上面33×25cm, 底面16×11cm, 深さ7cm。P3は上面30×27cm, 底面11×10cm, 深さ38cm, P4は上面159×16~28cm, 底面148×12~22cm, 深さ4cm前後。**炉跡** 竪穴部中央の北西寄りで検出。平面形は楕円形で、長径46cm, 短径27cm。貼床層・ローム層を掘り込んだ後、ロームブロックを埋め戻して作っている。炉床は平坦で立ち上がりは緩やか。覆土は焼土を含む暗褐色土。**床面** ローム層を一旦掘り下げ、暗褐色土ブロックとロームブロックの混合土で厚さ2~5cm程埋め戻し、床材としていた。床表面は北西側で明らかに硬化している。

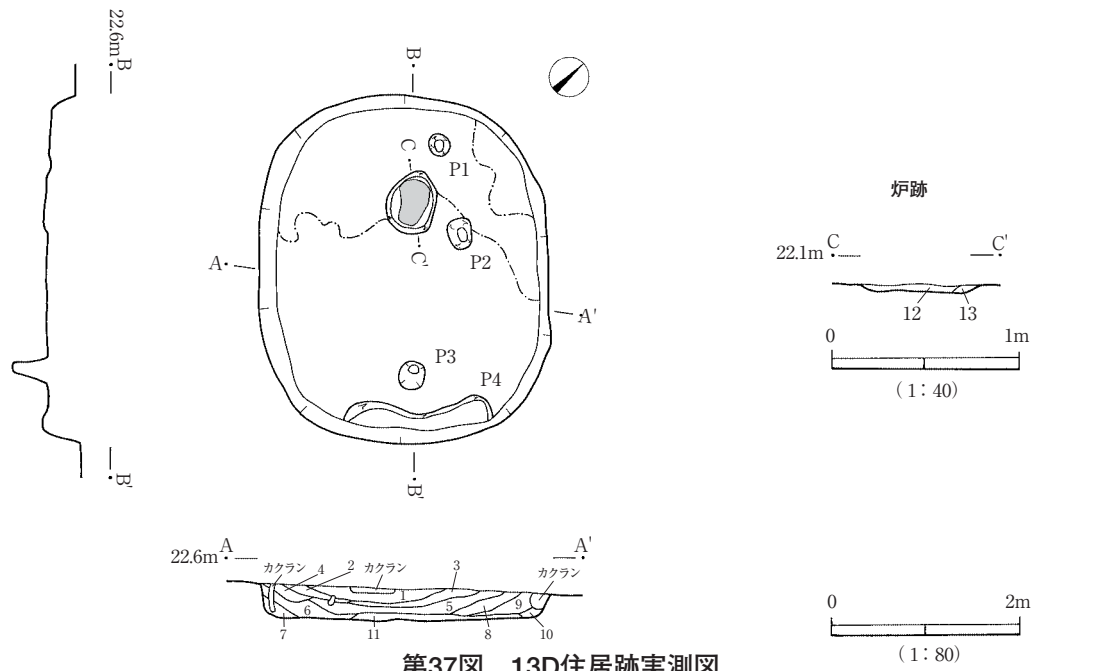
出土遺物 総数147点(土器片127点・軽石14点・石6点)出土。土器片のうち約50点は小細片であった。装飾壺(第39図13)等が出土しているが、覆土上層からの出土であり流れ込みと判断すべきであろう。本住居に伴うと考えられる遺物は破片が中心である(第39図1~7・16)。附加条縄文がつけられた甕が主体である。軽石も装飾壺等と同様、覆土の上層からの出土が多い。**炭化材** 住居中央部で出土した(第38図)。焼土とともに3層に含まれていた。

15D住居跡(第40図～43図)

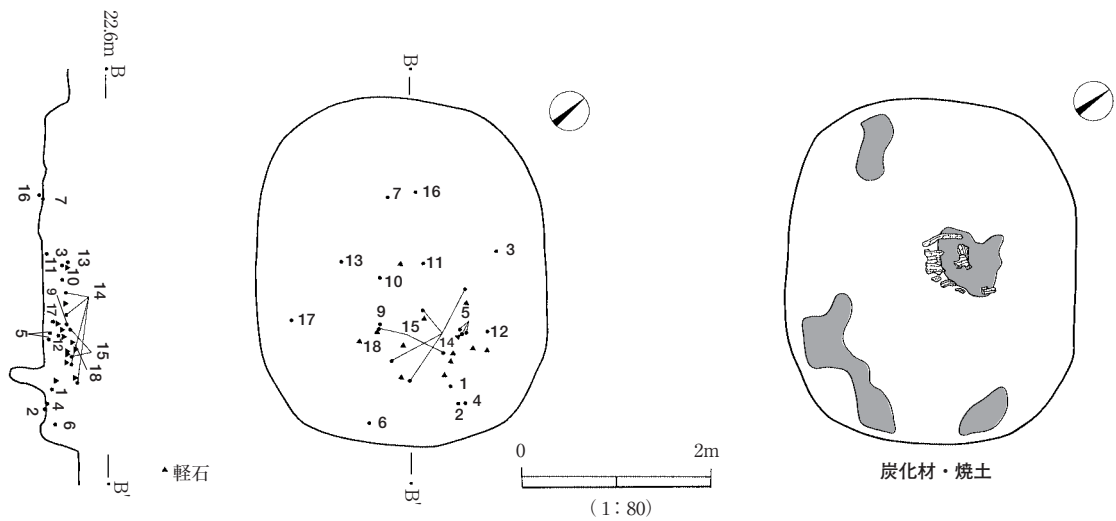
位置 D1-9・10G。**平面形態** 北西-南東方向に長い長楕円形(いわゆる小判型)。**規模** 北西-南東方向6.24m, 北東-南西方向4.96m。深さ17~38cm。南東から北西へ削られて浅くなる。**主軸方向** N-43°-W。**覆土** 埋まり始めの傾向としては住居の南東~北東側からの土砂の流入が多かったようである。褐色土, 暗褐色土が主体を占める。**壁面** 垂直に立ち上がる。**柱穴** P1・2・3・4の4基を確認。いずれも平面形が方形。柱間はP1~P2間2.34m, P1~P3間2.3m。覆土は主に暗褐色土とローム土の混合土でしまりは弱い。P1は上面23×20cm, 底面12×10cm, 深さ62cm。P2は上面25×20cm, 底面15×13cm, 深さ61cm。P3は上面44×42cm, 中場径22cm, 底面13×12cm, 深さ68cm。P4は上面24×21cm, 底面14×11cm, 深さ64cm。**貯蔵穴** P5が入り口施設関連あるいは貯蔵穴に相当するであろう。P6と統合し上面162×94cm, 底面70×23~44cm, 深さ7cmの規模となった。**ピット** 柱穴以外に15基確認した。P7は入り口施設関連か。上面26×22cm, 底面19×15cm, 深さ17cmで底面に深さ4cmの小ピットがある。P8・P9は炉に関する施設の痕跡か。P8は上面23×21cm, 底面径5cm, 深さ20cm。P9は上面16×10cm, 底面6×3cm, 深さ18cm。この他に比較的規模の大きいピットは、P17上面26×21cm, 底面5×4cm, 深さ22cm, P19上面18×16cm, 底面12×11cm, 深さ18cmである。他のピットは



第36図 弥生時代住居跡の分布



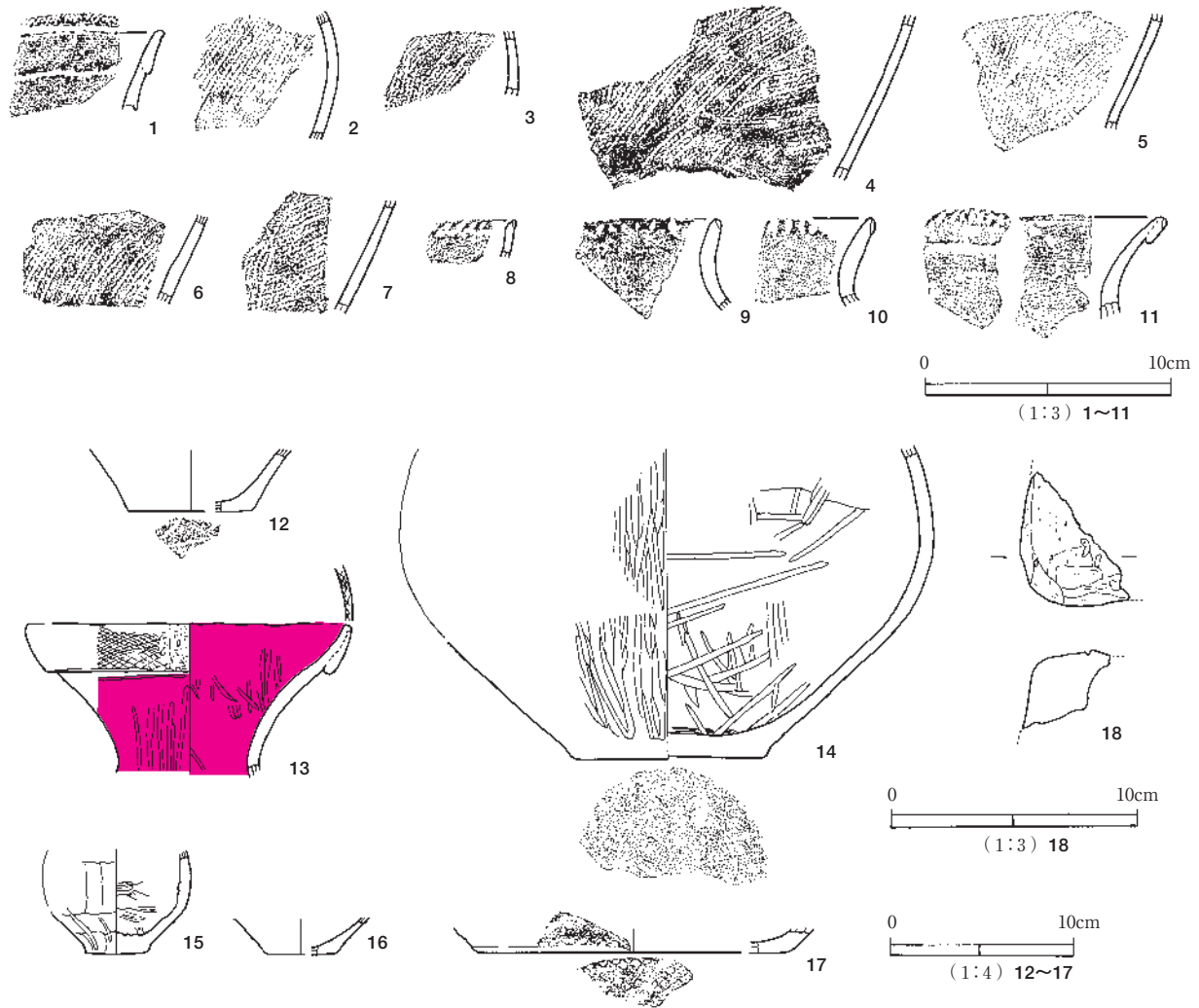
第37図 13D住居跡実測図



第38図 13D住居跡遺物出土状況図

13D住居跡土層観察表 (第37図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR4/3	含む	CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径5mm以下黄色スコリア
2		7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
3	1と明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根頗る富む	径2mm以下黄色スコリア・炭化材片・焼土粒子
4	2と漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
5	3と判然	7.5YR3/2, 2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア少 焼土粒子少
6	判然	7.5YR3/3, 4/4	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
7	漸変	7.5YR3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
8	5と漸変	7.5YR3/3, 4/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
9	判然	7.5YR3/3, 4/3	富む	Si C	亜角塊状	富む	小	18	強	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
10	漸変	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根富む	ローム混じり
11	5と判然	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	ローム混じり



第39図 13D住居跡出土遺物実測図

13D住居跡出土遺物観察表 (第39図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部	器高 <3.2>	外) 口唇部上端部, 縄文か。輪積痕。 ナデ。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ●良 ●外) 明褐色, にぶい褐色 内) 橙色		63
2	甕	胴中部		外) 附加条1種LR+R。	○細砂粒 ●良 ●外) にぶい橙色 内) にぶい褐色	内面, 剥落。	91
3	甕	胴上部		外) 附加条1種LR+R。 内) 横ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ●良 ●外) 灰褐色 内) 黒褐色		50
4	甕	底部付近		外) 附加条1種LR+R。	○細砂粒 ●良 ●外) 橙色, 黒色 内) 明赤褐色		80
5	甕	胴中部		外) 附加条1種LR+R。	○細砂粒 ●良 ●外) 暗褐色 内) にぶい褐色	内面, 剥落。	60-61-62
6	甕	胴下部		外) 附加条1種LR+R。 内) 肌荒れ状。	○細砂粒 ○やや不良 ●外) にぶい赤褐色 内) 明赤褐色		42
7	甕	胴下部		外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ。		内面, 煤状物質附着。	76
8	甕	口縁部	器高 <1.6>	外) 口唇部キザミ。 内) ナデ。	○細砂粒 ●良 ●暗褐色		一括

9	甕	口縁部 ～頸部	口径 器高 (14.0) <3.9>	外) 口唇部キザミ。縦ハケ後ナデ。 ミガキ。 内) 横ハケ後ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●黒褐色		28	
10	甕	口縁部	器高 <3.6>	外) 口唇部, 工具押圧によるキザミ。 横ナデ, 縦ハケ。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎やや不良 ●にぶい褐色		86	
11	複合口縁 甕	口縁部	器高 <4.2>	外) 口唇部キザミ。縦ハケ後ナデ。 内) 斜, 横ハケ後ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色		88	
12	甕か	底部	底径 器高 (6.8) <3.4>	外) ミガキ。底部, 木葉痕。 内) ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 褐色 内) 褐灰色		59	
13	複合口縁 壺	口縁部 ～頸部	口径 器高 頸部径 (17.8) <8.3> (7.7)	外) 口唇部上端～口縁部, 網目状 擦糸文。棒状浮文の痕跡あり。 縦ミガキ, 赤彩。 内) 縦, 斜ミガキ。赤彩。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色, 赤褐色 内) 暗赤褐色, 褐灰色	内外面, 剥落。	84	
14	壺	胴中部 ～底部	底径 器高 胴部最大径 (10.4) <16.8> (29.2)	外) 縦ミガキ。底部, ヘラケズリ後 ミガキ。 内) ナデ, 横ハケ後多方向のミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい橙色		24-43-44-90	
15	小型壺か	胴中部 ～底部	底径 器高 胴部最大径 3.5 <5.6> (8.1)	外) 縦ミガキ, 横ヘラケズリ。 底部, ミガキ。 内) 輪積痕。横, 斜ハケ, ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 橙色 内) 黒色		17-29	
16	小型壺か	底部	底径 器高 (3.8) <2.0>	外) ナデ。底部, ミガキ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 褐色 内) 明赤褐色	炉内出土	95	
17	焙烙か	底部	底径 器高 (17.0) <1.3>	ロクロ整形。 外) ミガキ。格子状の押し型文のよ うなもの。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色, 褐灰色 内) にぶい橙色		38	
18	砥石。欠損品。5.4cm×4.4cm×3.2cm。7.8g。軽石。灰黄褐色。							1

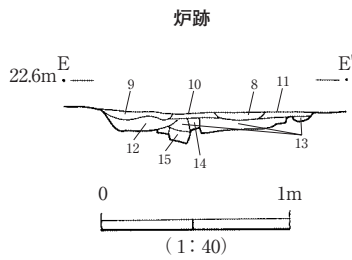
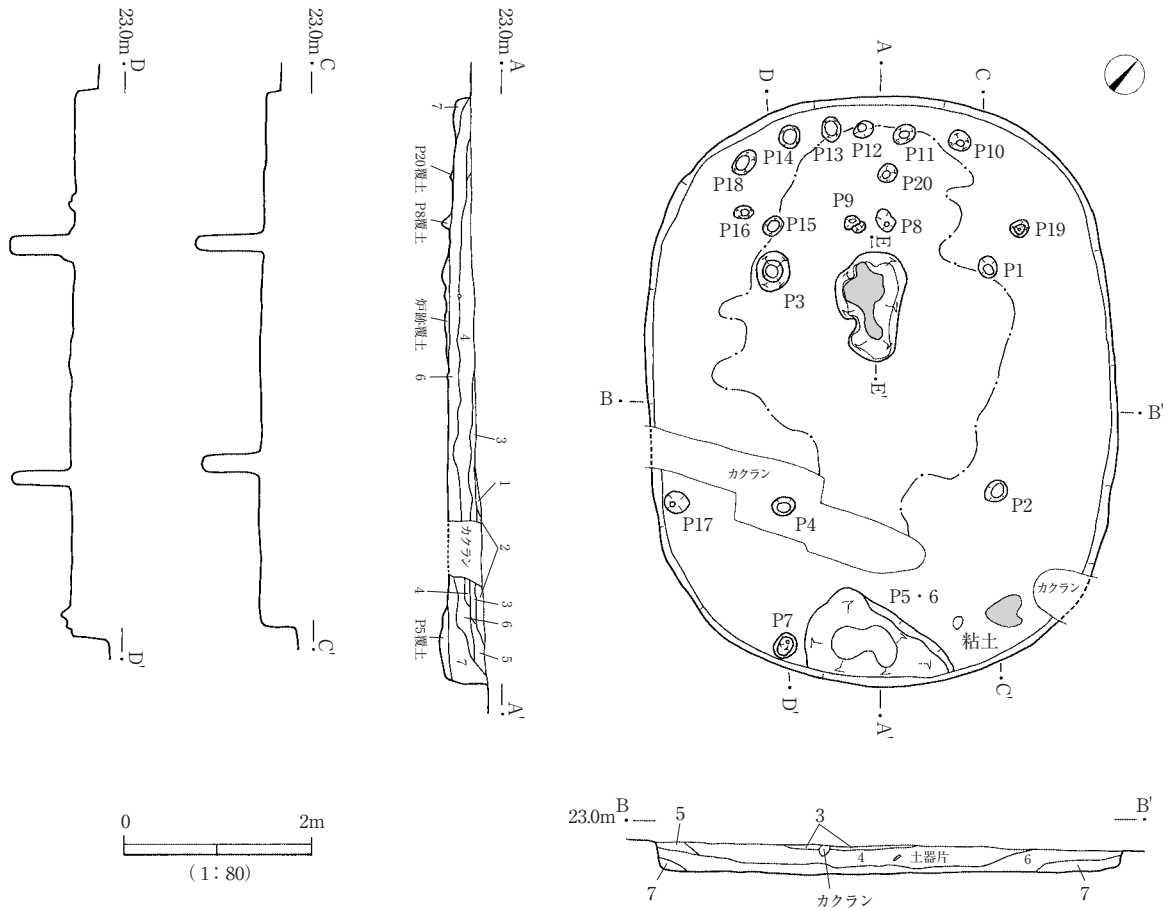
ごく小規模であり、深さのみ記す。P10は9cm, P11は4cm, P12は9cm, P13は4cm, P14は5cm, P15は5cm, P16は5cm, P18は5cm, P20は6cm。炉跡 P1～P3間中央寄りで検出。平面形は歪んだ楕円形で、長径106cm, 短径76cm。床面 ローム層を利用しており、貼床は検出できなかった。クラック帯の最上位に相当。柱穴で囲まれた内側及び炉の北西側が硬化。中央部では暗褐色土がしみ込んでいた。

出土遺物 総数865点(土器片831点・土製品3点・粘土塊8点・メノウ剥片7点・軽石4点・石11点)出土。附加条縄文がつけられた甕が中心となるが、第43図14のように頸部無文帯, S字状結節文, 附加条縄文という文様構成は、後期中葉の典型であり、一方第42図1のように2段の輪積痕の甕など後期後葉の様相を示すものが認められる。より新しい要素である装飾壺やハケ目の甕の破片も目立っているが、覆土の上層から出土したものである点は13Dと同様である。7のS字状結節文が複合口縁部に施された壺の破片は、同様のものが15D付近の地表面採集で得られている。他に土玉等の土製品, メノウの剥片等は本遺構に特有なものである。なお、第42図4の底部にある木葉痕については樹種鑑定を行い、トチノキに近似しているという結果が得られた(Ⅲ2参照)。

なお本住居跡からはメノウの剥片が出土しているため、住居調査終了後、住居内に旧石器の確認トレンチを設定しTP5として掘削調査した。深さ1.77m掘りIX層下部に達したが遺物は出土しなかった。

16D住居跡(第44図～45図)

位置 D1-19・9G。平面形態 やや北西-南東方向に長い楕円形。規模 北西-南東方向3.54m, 北東-南西方向3.3m。深さ10～16cm。主軸方向 N-48°-W。覆土 遺構が浅いので観察できる所は限られていた。1・3層に黒褐色が認められたが、大半は2層の暗褐色土が覆っている。2・4層に焼土が認められる。壁面 緩やかに立ち上がる。上部が崩落したものと思われる。柱穴 P2が柱穴か。上面26×24cm, 底面径8cm, 深さ50cm。覆土は、微量の黒褐色土を含む暗褐色土。柱痕や埋設土は確認できなかった。ピット P1は入り口施設関連と思われる。上面径22cm, 底面10×9cm, 深さ10cm。貯蔵穴 相当するピットは無い。炉跡 竪穴部中央のやや北西寄りで検出。平面形は楕円形で、長径



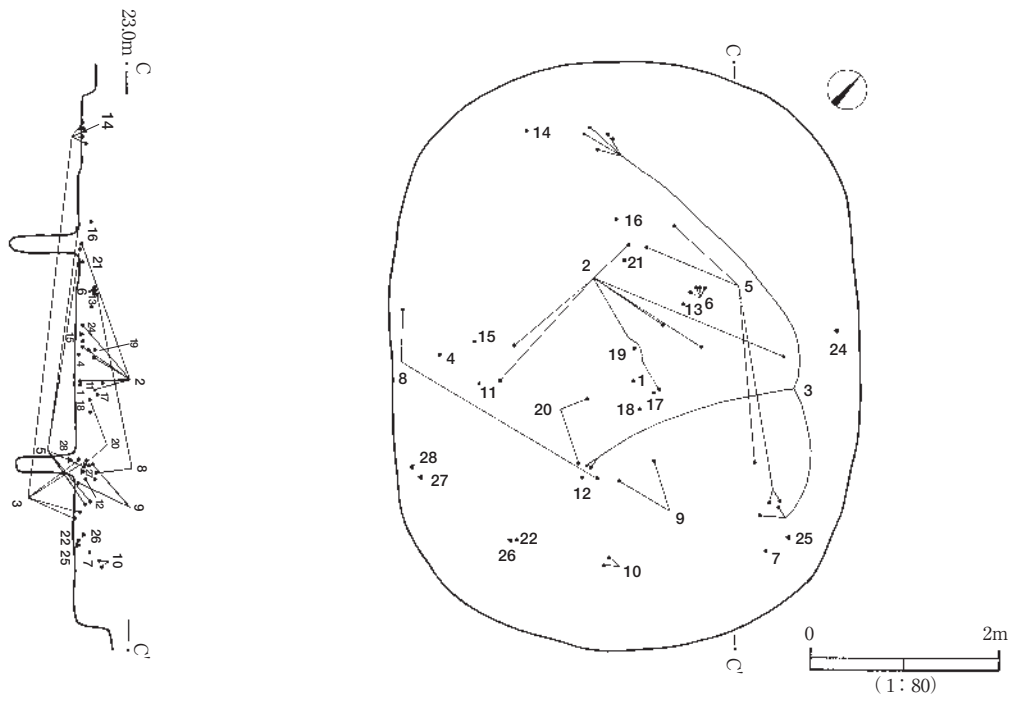
炉跡土層

- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| 8. 7.5YR3/4 (暗褐色土) | 褐色土斑状, 焼土粒少, 炭化物微。しまり弱。粘性中。 |
| 9. 7.5YR3/3 (暗褐色土) | 褐色土斑状, 焼土粒微, 0.3cm以下ロームブロック。しまり弱。粘性中。 |
| 10. 5YR3/4 (暗赤褐色土) | 暗褐色土斑状, 焼土粒, 焼土ブロック, 炭化物。しまり弱。粘性中。 |
| 11. 5YR3/4 (暗赤褐色土) | 暗褐色土斑状。焼土粒, 炭化物。しまり弱。粘性中。 |
| 12. 7.5YR3/3 (暗褐色土) | 焼土粒。 |
| 13. 5YR4/6 (赤褐色土) | 焼土粒にじむ。 |
| 14. 2.5YR4/6 (赤褐色土) | 被熱によりハードロームが赤化した部分。 |
| 15. 5YR4/6 (赤褐色土) | 被熱のため赤化。 |

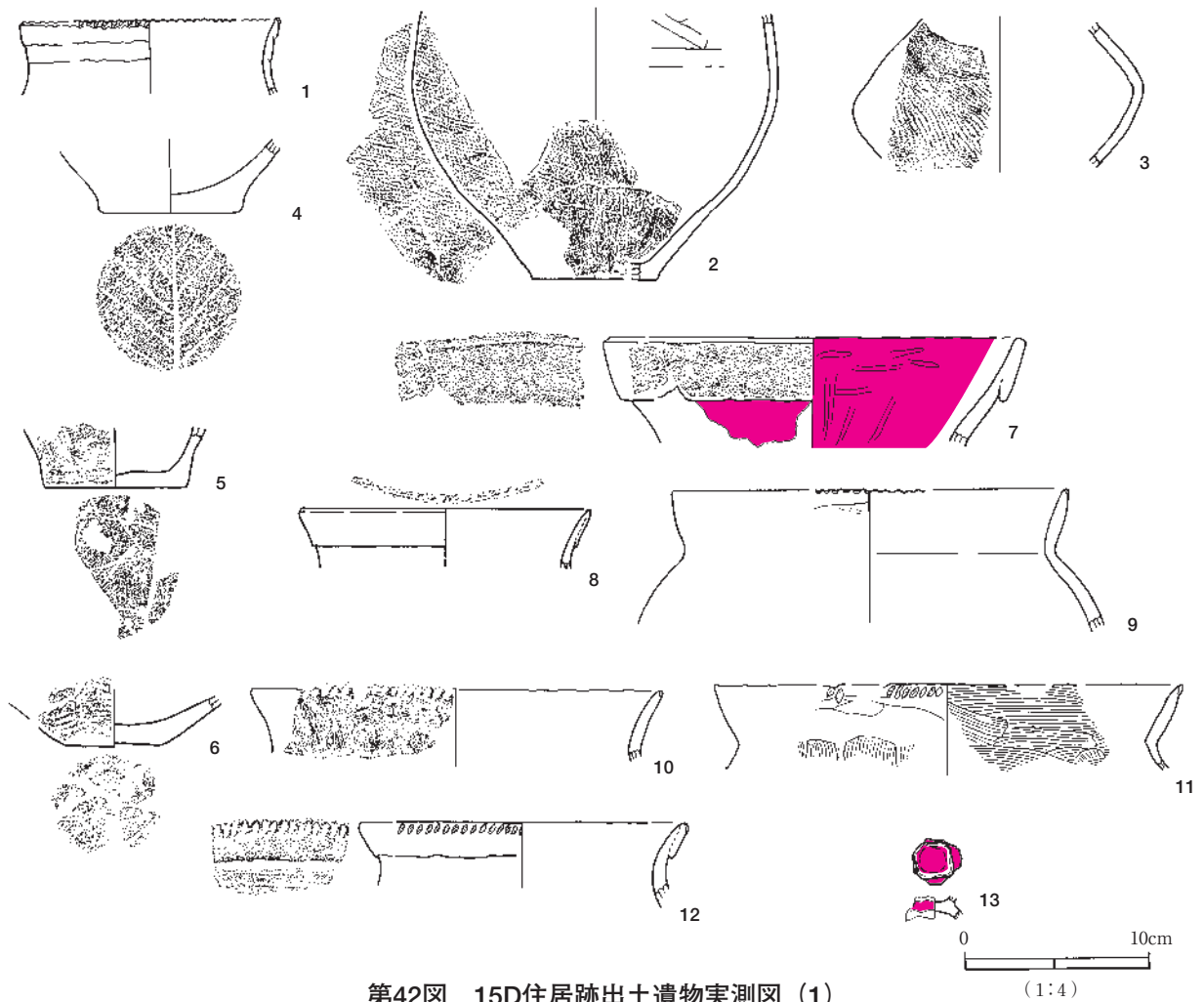
第40図 15D住居跡実測図

15D住居跡土層観察表 (第40図)

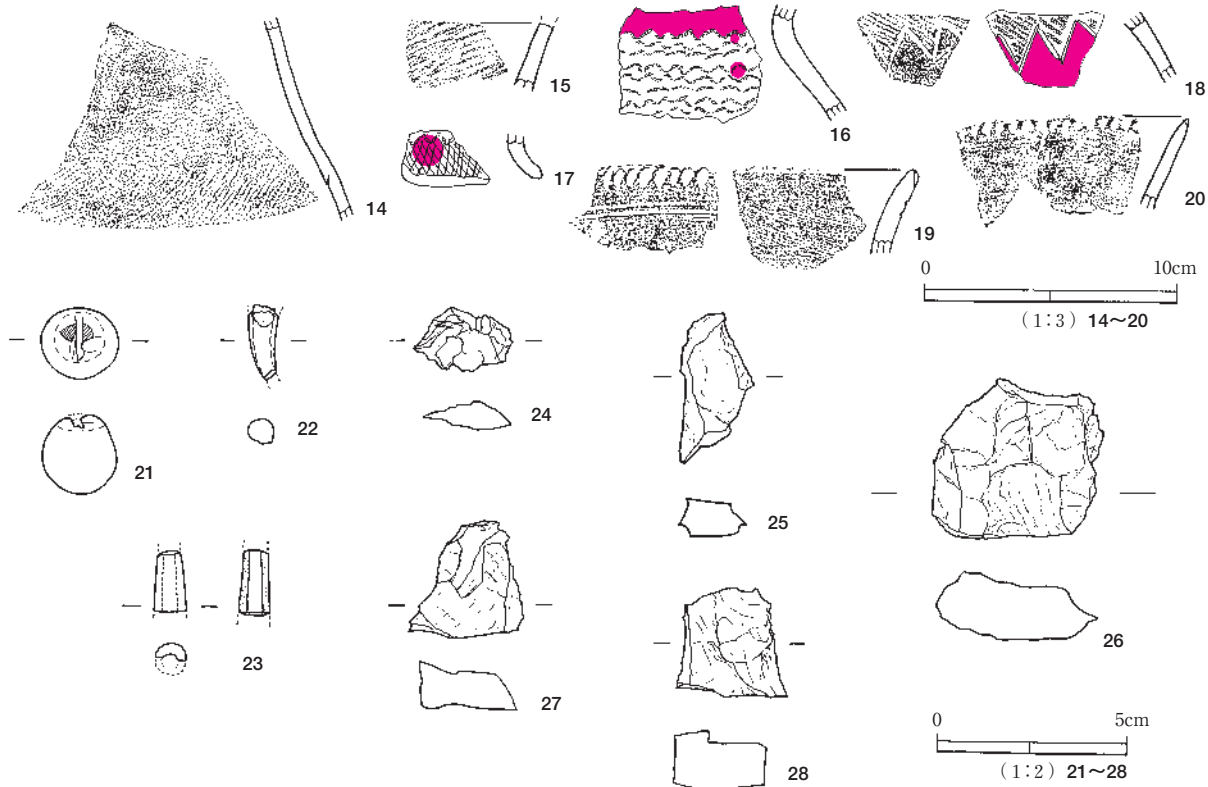
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR4/2	含む	Si L	小亜角塊状	含む	小	12	弱	細根富む	
2	判然	7.5YR3/3, 3/2, 4/3 まだら	含む～ 富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
3	判然	7.5YR3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根富む	径5mm以下黄色スコリア 径1mm焼土粒子少
4	明瞭	7.5YR3/3, 3/2, 7.5Y R 4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	
5	判然	7.5YR4/3, 4/4, 7.5YR4/5斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	
6	漸変	7.5YR4/3, 7.5YR4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径5mm以下黄色スコリア
7		7.5YR3/3, 4/3, 7.5YR4/4斑状	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	径5mm以下黄色スコリア



第41图 15D住居跡遺物出土状況図



第42图 15D住居跡出土遺物実測図 (1)



第43図 15D住居跡出土遺物実測図(2)

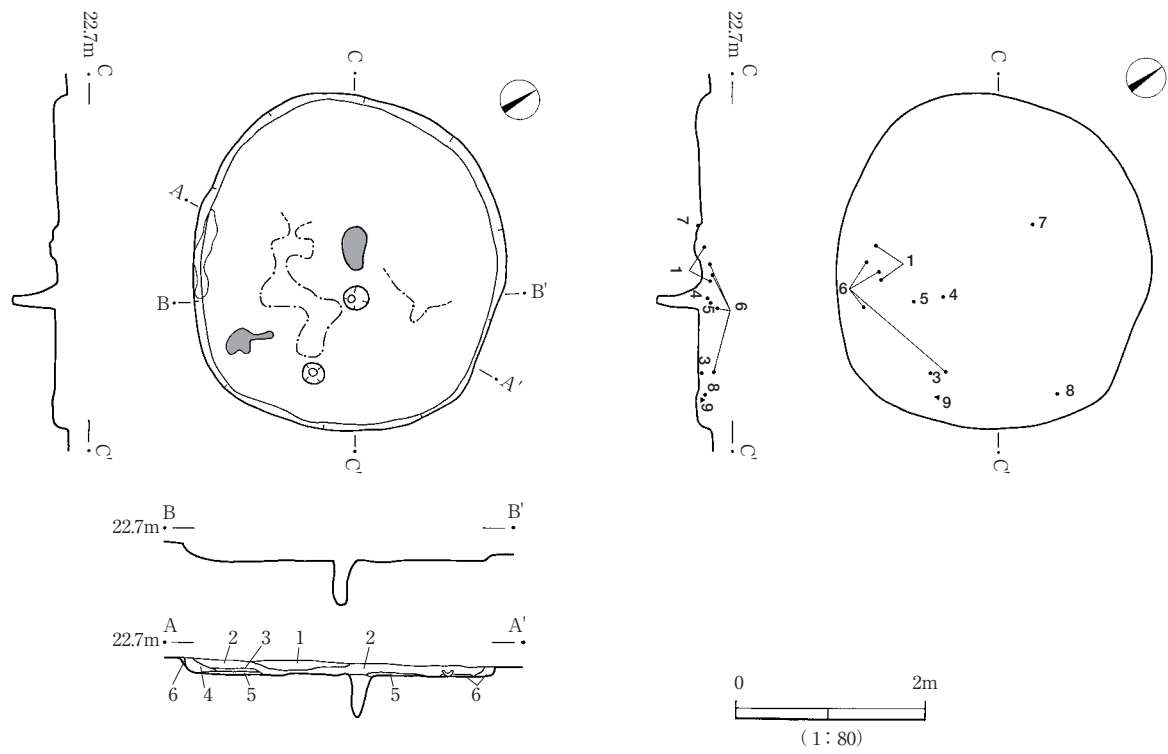
15D住居跡出土遺物観察表(第42・43図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部	口径 (14.2) 器高 <4.1>	外) 口唇部キザミ, 横ナデ。輪積痕。 内) 横ナデ。	○砂粒 ○良好 ●外) 褐灰色, 褐色 内) にぶい褐色, 褐灰色		314 272と同一個体。
2	甕	胴中部 ~底部	底径 (6.8) 器高 <14.4> 胴部最大径 20.0	外) 附加条1種RL+L。縦ヘラケズリ 底部, 木葉痕か。 内) 斜ヘラケズリ, ナデ, 輪積痕。	○白色粒子, 細砂粒 ○良好 ●褐灰色, 黒褐色, 明褐色		41-231-236-316- 377-398-403- 一括
3	壺	胴部	胴部最大径 16.0	歪みが激しい。 外) 斜ナデ, 単節縄文RL。 内) 横ナデ。	○砂粒 ○良好 ●外) 浅黄橙色, 褐灰色, 黒色 内) にぶい橙色		50~53-55-186- 189-270-315
4	甕	底部	底径 7.9 器高 <4.0>	外) 撫糸文R。底部, 木葉痕が 明瞭に残る。 内) ナデ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ○良 ●にぶい橙色, 灰褐色	木葉痕はトチノキ	321
5	甕か	底部	底径 (7.8) 器高 <3.2>	外) 横ヘラケズリ, ナデ。 底部, 木葉痕, 凹みあり。 内) ナデ。	○砂粒 ○良好 ●外) 灰褐色, にぶい褐色, にぶい橙色 内) 黒褐色, 橙色		184-187-195-245- 397
6	甕か	底部	底径 5.2 器高 <2.7>	外) ハケ後ナデ。 底部, ヘラケズリ。 内) ヘラナデ。	○砂粒 ○やや不良, 二次焼成か。 ●外) 明褐灰色, 褐灰色 内) 灰褐色, 褐灰色		22-23-24-242
7	複合口縁 壺	口縁部	口径 (23.2) 器高 <5.8>	外) 口唇部上端~口縁部, S字状 結節文, 横ハケ後ナデ。赤彩。 内) 横, 縦ミガキ, 赤彩。	○砂粒, 小石粒 ○良好 ●外) にぶい橙色, 赤褐色 内) にぶい赤褐色		178-一括
8	複合口縁 甕	口縁部	口径 (16.0) 器高 <3.3>	外) 口唇部上端, 不明瞭なキザミ。 口唇部上端に粘土を少量載せてその上 からキザミをつけたような状態。ナデ。 内) 横ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●外) 黒色 内) 黒色, にぶい橙色		122-269
9	甕	口縁部 ~胴上部	口径 (21.6) 器高 <7.8> 頸部径 (20.1)	外) 口唇部にキザミ。横ハケ, ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ○良 ●にぶい橙色, 灰褐色		209-353
10	甕	口縁部	口径 7.9 器高 <3.9>	外) 口唇部に工具押圧による キザミ。斜, 縦ハケ。 内) 横ハケ。	○砂粒 ○良 ●にぶい橙色, 灰褐色		167-168
11	甕	口縁部 ~頸部	器高 <4.5>	外) 口唇部, 工具押圧によるキザミ。 横ヘラケズリ, 縦ハケ。 内) 横ハケ。	○赤褐色スコリア, 砂粒 ○良 ●外) にぶい橙色 内) にぶい褐色		123

12	複合口縁 甕	口縁部	口径 器高	(18.0) <4.6>	外) 口唇部, キザミ, 横ナデ。 内) 横ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良好 ●にぶい橙色, にぶい褐色		165
13	ミニチュア		器高 残存径	<1.3> <2.7>	全面赤彩, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色		240
14	甕	頸部			外) ナデ, S字状結節文。 附加条1種LR+R。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 橙色 内) にぶい褐色, 黒色		102
15	甕	口縁部片	器高	<2.7>	外) 附加条1種LR+Rか。 内) 肌荒れ状。	○緻密 ◎良好 ●外) 暗褐色, にぶい褐色 内) 灰褐色		325
16	壺	肩部			外) S字状結節文, 赤彩。円形赤彩。 内) ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色, 褐灰色	内面, 剥落。	59 178一括 と同一個体か。
17	壺	頸部			外) 網目状撚糸文, S字状結節文, 円形赤彩。 内) 赤彩。	○砂粒 ◎良好 ●外) 黒色, 赤褐色 内) にぶい赤褐色		277
18	壺	胴上部			外) 縄文RL。沈線山形文。赤彩。 内) 肌荒れ状。	○砂粒 ◎良好 ●外) 褐灰色, 暗赤褐色。 内) にぶい褐色		360
19	甕	口縁部片	器高	<3.4>	外) 口唇部キザミ, 平行沈線。 内) 斜ハケ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色 内) にぶい褐色	外面, 煤状物 質付着。	381 114と同一個体。
20	甕	口縁部片	器高	<3.6>	外) 口唇部キザミ。横ナデ。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色, 灰褐色, 橙色		161-293
21	土玉。橋状のつまみがつくタイプだが、そのつまみ部分が欠損。 1.8cm×2.0cm×2.1cm。7.7g。					○細砂粒 ◎良好 ●橙色, 明赤褐色, 灰褐色		400
22	棒状土製品。欠損。1.95cm×0.8cm×0.65cm。1.1g。若干湾曲している。					○緻密 ◎良好 ●橙色		412
23	管状土製品。半欠。1.7cm×0.9cm×0.5cm。外面ミガキ。					○細砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色		一括
24	剥片。1.6cm×2.6cm×0.8cm。2.7g。暗褐色, 灰褐色, 灰色。メノウ。黄玉石が少量入る。栃木県茂木町産か。							1
25	剥片。3.9cm×2.0cm×1.0cm。6.9g。メノウ。24と同じ。							2
26	剥片。4.2cm×4.5cm×1.8cm。45.4g。メノウ。24と同じ。							273
27	剥片。3.1cm×3.1cm×1.2cm。11.0g。メノウ。24と同じ。							322
28	剥片。2.9cm×2.9cm×1.5cm。15.9g。メノウ。24と同じ。							420

46cm, 短径24cm。ローム層を掘り込んで作っている。火床は発達していない。覆土は少量の焼土粒子を含む暗褐色土主体。床面 貼床を施さない, ローム層の床面。床表面は炉の周辺でやや硬化しているが, 全体的に軟らかく, 北西側を掘り過ぎてしまった。

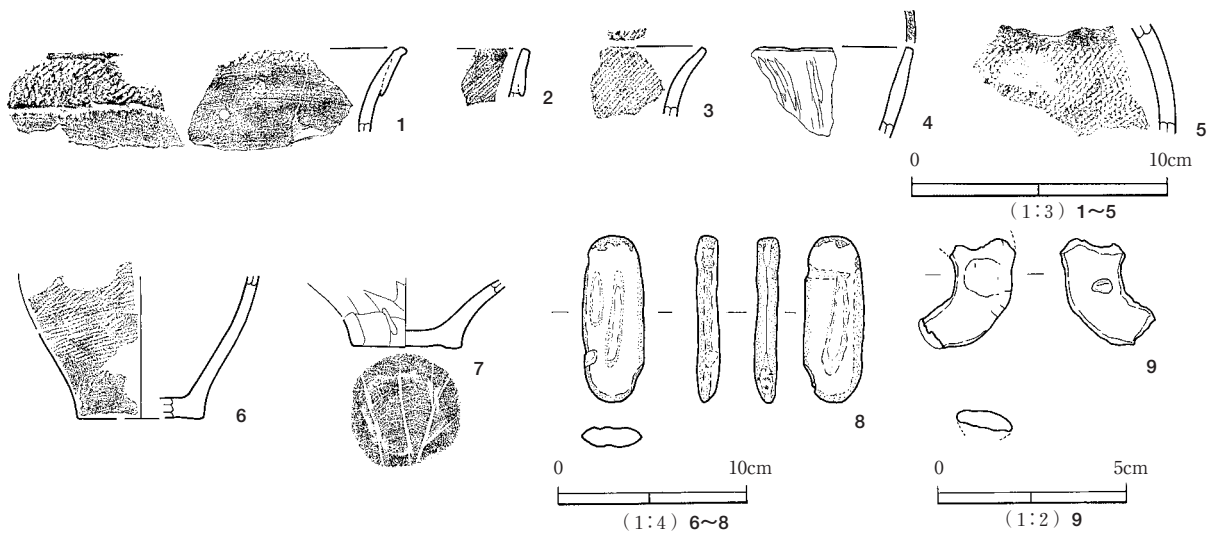
出土遺物 総数90点(土器片86点・土製品1点・砥石1点・石2点)出土。附加条縄文がつけられた甕の破片が主体である。第45図8は砥石としたが, 長辺側面の一方が若干鋭いエッジ状になっており, 穂摘具の可能性も指摘できよう。同図9の土製品は勾玉のような形をしており, 割れ口の面に舂圧痕のような窪みがある。



第44図 16D住居跡実測図，遺物出土状況図

16D住居跡土層観察表（第44図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5YR3/2, 3/3, 7.5Y R4/3斑状	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根富む	焼土粒子ごくまばら
2	明瞭	7.5YR3/3, 7.5Y R4/3斑状	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根含む	焼土粒子
3	判然	7.5YR3/2, 3/3	富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	
4	明瞭	7.5YR3/3 5YR4/4焼土	含む～ 富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	焼土
5	明瞭	7.5YR4/5, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	
6		7.5YR4/5, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	



第45図 16D住居跡出土遺物実測図

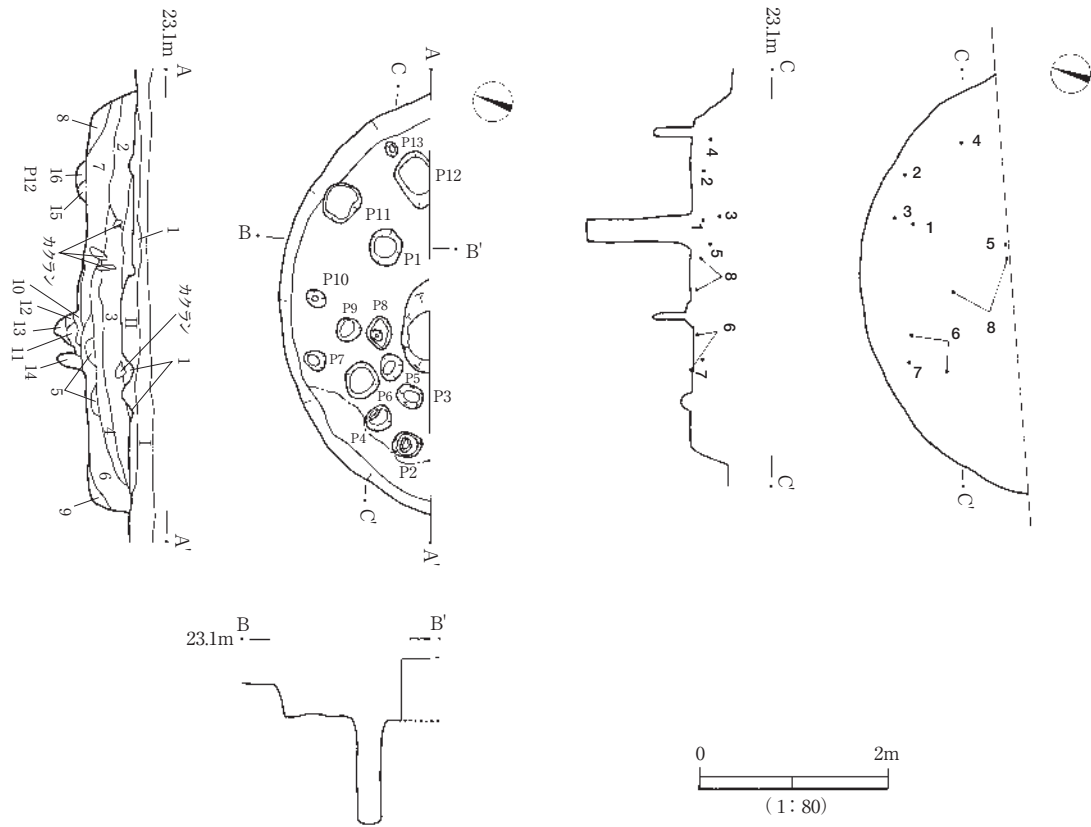
16D住居跡出土遺物観察表（第45図）

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁甕	口縁部	器高 <3.3>	外) 複合口縁部, 捺糸文R。 ミガキ。 内) 口唇部に捺糸文Rの押圧。 横ナデ, ミガキ。	○緻密 ◎良好 ●外) 黒色 内) 黒褐色		2-52
2	複合口縁甕	口縁部	器高 <1.9>	外) 口唇部上端にキザミ, 附加条1種 LR+R。 内) ミガキ。	○緻密 ◎良 ●外) 灰褐色 内) 黒褐色		一括
3	甕	口縁部	器高 <2.7>	外) 口唇部上端~口縁部, 附加条1種 LR+R。 内) ナデ。	○緻密 ◎良好 ●外) 黒色 内) 黒褐色		5
4	鉢か	口縁部	器高 <3.6>	外) 口唇部上端, 捺糸文R。縦 ミガキ。 内) 横ナデ。	○緻密 ◎良好 ●にぶい橙色		19
5	甕	胴上部		外) ナデ, 附加条1種LR+R。	○緻密 ◎良好 ●外) 黒色, にぶい橙色 内) 浅黄橙色, 黒褐色	内外面, 剥落。 外面, 煤状物 質付着。	17, 43
6	甕	底部	底径 (6.8) 器高 <7.6>	外) 単節縄文LR。ナデ。底部, ミガキ。 内) 横ハケ後ナデ, ミガキ。	○緻密, 小石粒 ◎良好 ●外) 黒色, 灰褐色 内) にぶい赤褐色, 黒色		6-10-14-16
7	甕か	底部	底径 6.0 器高 <3.7>	外) 斜, 横ヘラケズリ。ナデ, ミガキ。底部, 木葉痕。 内) ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい赤褐色 内) 黒褐色	内面, 剥落。	32
8	砥石。8.7cm×3.15cm×1.1cm。質量。47.7g。5箇所凹みと3箇所敲打部分が認められる。凹みを手に持ちやすくするための加工と考え、側面に明瞭なエッジが作り出されているため、穂摘具の可能性も指摘できる。砂岩。石英粒が多い。固結度が弱い。						3
9	土製品。2.8cm×2.4cm×0.6cm。2.9g。勾玉のように湾曲した土製品だが、全体像は不明。割れ口面に靱圧痕と思われる凹みがある。				○緻密 ◎良好 ●橙色		29

18D住居跡（第46図～47図）

位置 C1-90・100G。南西側の大半が調査区域外。**平面形態** おそらく北西-南東方向に長い長楕円形（いわゆる小判型）であろう。15Dに似た形態と考えられる。**規模** 不明。調査範囲は長軸4.4m, 短軸1.56m。深さ42~50cm。**主軸方向** 不明だがおそらく北西に軸方位をとる。**覆土** 暗褐色土, 黒褐色土が主体を占める。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がるが, 上部ではやや緩やかになり, 一部が崩落したものと思われる。**柱穴** P1が柱穴であろう。覆土は, しまり弱く小ロームブロックを含むローム土で, 上部に炭化材の微小片を含む。上面38×34cm, 底面径22cm, 深さ112cm。P8・10・13は補助的な柱穴であろうか。P8は上面34×26cm, 底面30×19cm, 深さ42cm, 底面に小ピットがあり底径4cm, 深さ6cm。P10は上面20×16cm, 底面径5cm, 深さ42cm。P13は上面14×11cm, 底面6×5cm, 深さ41cm。**ピット** その他のピットは9基確認した。深さのみ記す。P2は13cm, P3は12cm, P4は17.4cm, P5は11cm, P6は9cm, P7は14cm, P9は8cm, P11は6cm, P12は6~14cm。**炉跡** 調査範囲では検出できず, 不明。**床面** ローム層に床面を設けている。西側に柔らかい部分があるが, 全体的に硬化。

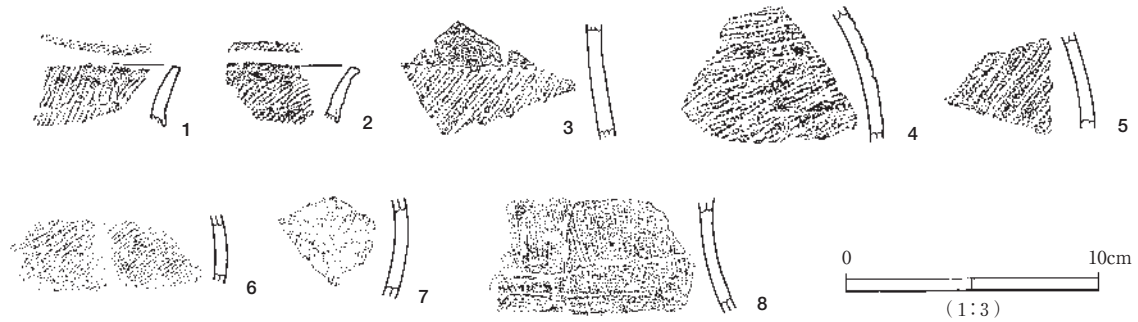
出土遺物 総数72点（土器片71点・軽石1点）出土。附加条縄文がつけられた甕が中心。



第46図 18D住居跡実測図，遺物出土状況図

18D住居跡土層観察表（第46図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
I (表土)	明瞭	7.5YR4/2	含む	CL	屑粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	14	弱	細根頗る 富む	
II	明瞭	7.5YR4/2, 4/3, 4/4	含む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	焼土，炭化物
1	明瞭	7.5YR2/2, 7.5YR3/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	以下住居覆土
2	漸変	7.5YR4/3, 7.5YR4/4斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径2mm黄色スコリアまばら
3	1と判然 明瞭	7.5YR3/3 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリアまばら
4	判然	7.5YR2/2, 7.5YR3/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根含む	径2mm以下黄色スコリア5より多 焼土粒子
5	明瞭	7.5YR3/3, 2/2, 4/4 まじり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根富む	径1mm以下黄色スコリア 焼土粒子
6	4と明瞭 漸変	7.5YR3/3, 7.5YR4/3斑状 4/4, 2/2にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
7	漸変	7.5YR3/3, 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
8	漸変	7.5YR4/3, 7.5YR4/4にじむ	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	ロームにじむ
9	6と漸変	7.5YR 4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根富む	ロームまじり
10	明瞭	7.5YR 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	焼土粒子
11	漸変	5YR4/6 2.5YR3/6	含む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
12	漸変	7.5YR3/4	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	焼土にじむ
13	漸変	7.5YR3/3, 4/3	含む～ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
14	漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
15	漸変	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
16	漸変	7.5YR4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1cmロームブロック



第47図 18D住居跡出土遺物実測図

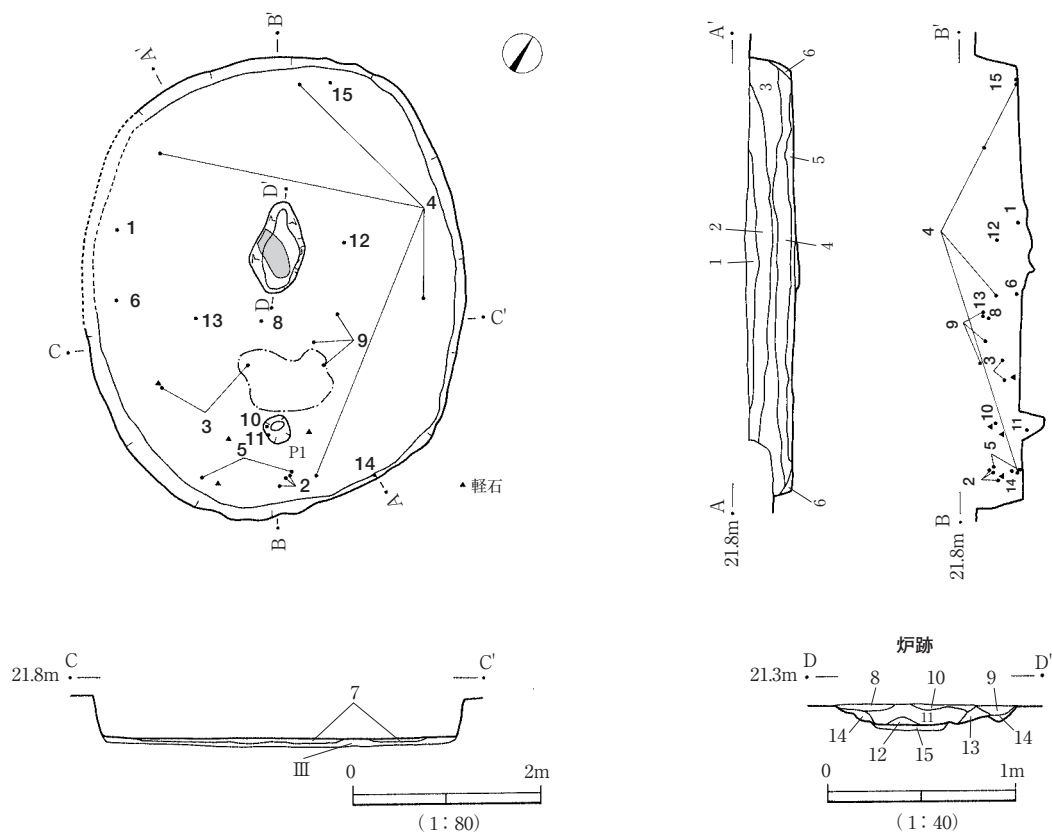
18D住居跡出土遺物観察表（第47図）

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁 甕	口縁部	器高 <2.4>	外) 口唇部上端～複合口縁部, 単節縄文LRに見えるが, おそらく附加条縄文。 内) ナデ。	○細砂粒, 白色粒子 ◎良好 ●黒褐色		3
2	甕	口縁部	器高 <2.3>	外) 口唇部上端～複合口縁部, 単節縄文LRに見えるが, おそらく附加条縄文。 横ナデ。 内) ナデ。	○細砂粒, 白色粒子 ◎良好 ●黒褐色		18
3	甕	胴上部		外) ナデ, 附加条1種LR+R。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 褐灰色, 黒色 内) 灰褐色		2
4	甕	胴上部		外) 附加条1種LR+R。 内) 肌荒れ状。	○細砂粒 ◎良 ●外) 黒色 内) にぶい黄褐色		1
5	甕	胴上部		外) 附加条1種LR+R。 内) ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒色 内) 灰褐色		7 1と同一個体 だろう。
6	甕	胴部		外) 附加条1種LR+R。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 黒色, 黒褐色 内) にぶい赤褐色		14-21
7	甕	胴部		外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色, 灰褐色 内) 褐灰色		15
8	甕	胴上部		外) 横ナデ, 縦ハケ。 内) 横ハケ, ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色, 灰褐色 内) にぶい褐色		13-19?・9-一括

26D住居跡（第48図～49図）

位置 C1-86G。**平面形態** 北西-南東方向に長い楕円形。南西壁の西コーナー付近に26Dより古いピットが存在した。**規模** 北西-南東方向4.8m, 北東-南西方向4.0m。深さ42~52cm。**主軸方向** N-32°-W。**覆土** 住居北西及び南東からほぼ均等に土砂が流入していた。黒褐色が主体。**壁面** 褐色土～ソフトロームから成る。**柱穴・貯蔵穴** 相当するピットは無い。**ピット** 1基確認した。P1は入り口施設関連と思われる。上面30×28cm, 底面14×7cm, 深さ23cm。**炉跡** 住居中央のやや北西寄りで見出。平面形は長楕円形で, 上面96×60cm, 底面84×40cm。火床範囲50×22cm。火床はにじむように赤く, 赤色化したブロックが混じる。**床面** P1の北西に硬化面が認められるが, 安定したものではなく, ブロック状でこわれやすい。径1~2cmの円形の褐色土プランが広範囲に認められる。貼床は不明確であるが, 南半を中心に暗褐色土と褐色土の混じりあった土が厚さ2~3cm程認められた。

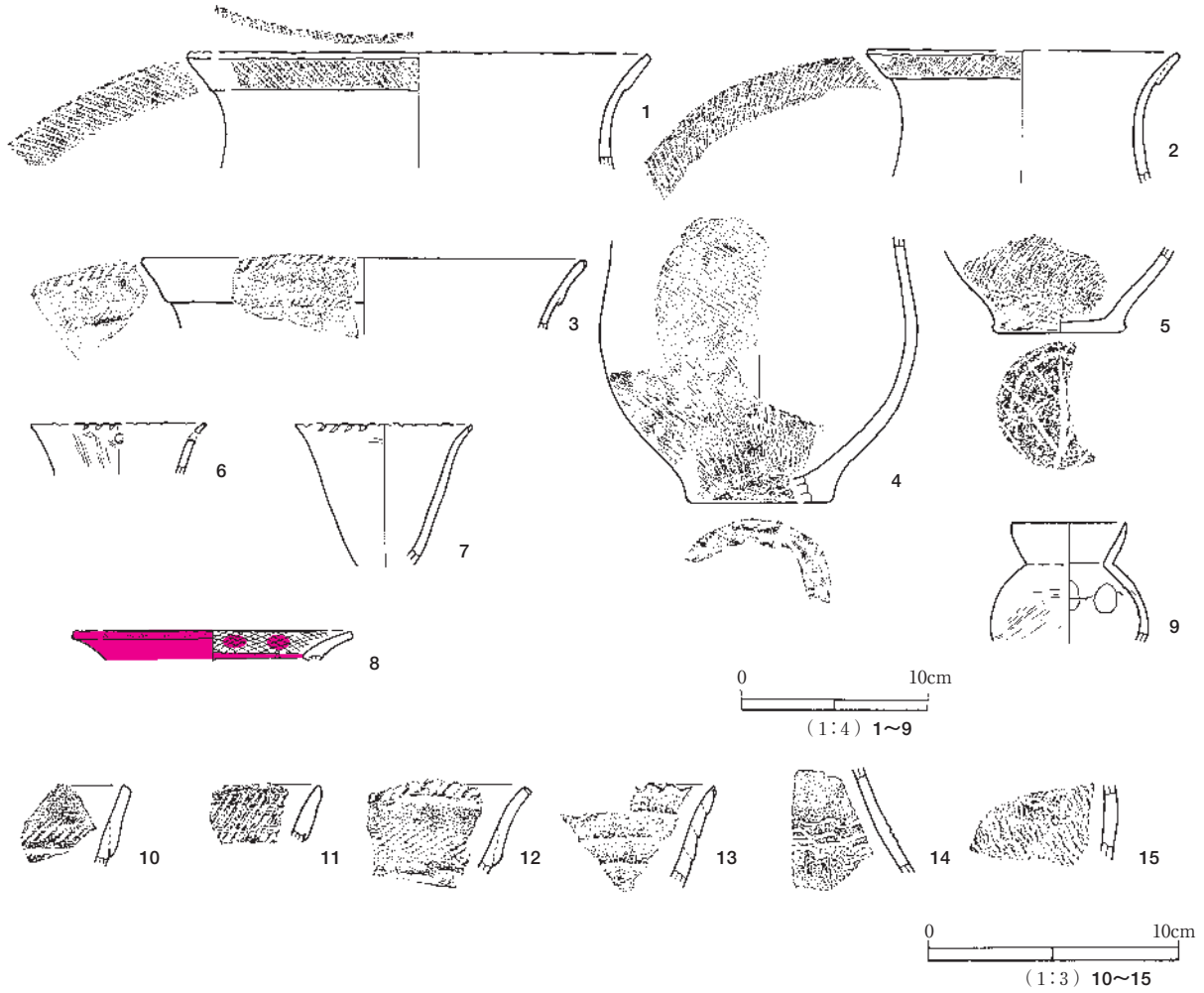
出土遺物 総数191点（土器片187点, 軽石4点）出土。附加条縄文がつけられた甕の破片が中心で, 1~5は比較的良好な資料である。6・7は同一個体で, 形態的に古い様相である。逆に8・9は新しいものであり, 覆土上層からの出土である。



第48図 26D住居跡実測図，遺物出土状況図

26D住居跡土層観察表（第48図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	径0.5mm黄色スコリアまばら
2	判然	7.5Y R3/2 7.5Y R3/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
3	判然	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア。炭化材片
4	判然	7.5Y R2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
5		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	炉の上では焼土がにじむ
6	他と明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中～強	細根含む	
7	判然	7.5Y R3/3, 4/3, 4/4	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根富む	
Ⅲ		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	ソフトローム
炉跡											
8		7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	径0.5mm焼土粒子
9	5と明瞭	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径0.5mm焼土粒子
10	判然	7.5Y R3/3, 5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	径2mm以下焼土粒子多量
11	判然	2.5YR3/3焼土主体	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	焼土，径1cm焼土ブロック
12		2.5YR3/6 2.5YR3/4	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	弱	細根含む	径2～3cm焼土ブロック
13		5Y R3/4, 7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
14		7.5Y R3/2	富む	Si CL	屑粒状～ 小亜角塊状	なし	0～小	-	中	なし	
15	他と明瞭	2.5Y R3/4	富む	SL	屑粒状～ 粒状	なし	0	11	0	細根含む	火床



第49図 26D住居跡出土遺物実測図

26D住居跡出土遺物観察表 (第49図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部	口径 (24.3) 器高 <6.2>	外) 口唇部, 口縁部, 附加条1種RL+L。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●褐灰色, 黒色		35
2	複合口縁甕	口縁部 ~頸部	口径 (16.6) 器高 <7.0>	外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 黒色 内) 灰褐色		7-8-9
3	甕	口縁部	口径 (24.0) 器高 <3.8>	外) 口唇部上端, キザミ。単節縄文LR。隆起帯縄文状。横ナデ。 内) 横ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) 黒褐色, 灰褐色	P1内出土。	23, 26
4	甕	胴中部 ~底部	底径 (7.8) 器高 <14.0> 胴部最大径 (17.0)	外) 撚糸文Lに見えるが, 附加条縄文か。S字状結節文。底部, 木葉痕か。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 浅黄橙色, 黒色, にぶい褐色, 橙色 内) にぶい褐色, 灰褐色		1-36-56-70
5	甕	底部	底径 (7.0) 器高 <4.6>	外) 附加条1種LR+R。Z字状結節文。底部, 木葉痕。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 灰褐色, 橙色 内) にぶい褐色	内面, 剥落	6-21
6	小鉢か	口縁部 ~胴下部	口径 (9.4) 器高 <7.5>	外) 口唇部に刻み。ハケ後ナデ。 内) 縦, 斜ハケ後ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色, にぶい橙色 内) にぶい褐色, 黒色		34
7	小鉢か	口縁部	器高 <2.7>	外) 口唇部に刻み。縦ヘラ。 内) 横ナデ。穿孔1箇所ある。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい褐色		一括 上と同一個体
8	壺	口縁部	口径 (15.2) 器高 <1.6>	外) 口唇部上端に無節縄文R, 赤彩, ミガキ。 内) 網目状撚糸文, 円形赤彩2箇所。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 明赤褐色 内) 浅黄橙色, にぶい褐色		30

9	小型壺	口縁部 ～胴中部	口径 (6.2) 器高 <6.3> 頸部径 (4.7) 胴部最大径 (8.5)	外) ハケ後ミガキ。 内) 指頭圧痕、輪積み痕。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色		58-60-62-一括
10	複合口縁 甕	口縁部	器高 <3.2>	外) 単節縄文LR。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 黒色 内) 橙色		15
11	複合口縁 甕	口縁部	器高 <2.3>	外) 口唇部上端, 撚糸文。複合口縁部, 附加条1種LR+R。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●褐灰色		86 P-1内
12	甕	口縁部	器高 <3.5>	外) 口唇部, 縄文の押圧。単節縄文 LR。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) にぶい赤褐色		50
13	甕	口縁部	器高 <4.1>	外) 口唇部に押圧による刻み。 輪積み痕。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒色 内) 灰褐色		32-一括
14	甕	胴上部		外) S字状結節文, 撚糸文Lに見える が, 附加条縄文か。 内) 横ミガキ。	○緻密 ◎良好 ●外) にぶい橙色, 灰褐色 内) にぶい橙色		83 1-36-56-70と同一 個体か。
15	甕	胴部		外) 撚糸文Lに見えるが, 附加条縄文か。 内) 横ナデ, ミガキ。	○緻密 ◎良 ●灰褐色, にぶい橙色		72 1-36-56-70と同一 個体か。

3 古墳時代

古墳時代に属すると考えられる遺物は、大きく2つの時期に分けられる。古墳時代の初頭に属するものと、中期に属するものである。前者の遺物を主体的に出土する遺構は住居跡19軒であり、今回の調査区の中で最多である。中期に属する遺物を主体的に出土した住居跡は1軒である。

今回「古墳時代初頭」とした時期については、時代区分論とも関わって議論されているところである。「古墳出現期」と呼ばれる時期に相当するようであるが、この時期については弥生時代終末に含める考え方もあり、まだ検討の余地がある。また、出土遺物の中には前期に属すると判断されるような資料も散見される。以上のような問題を含んでいるということを指摘しておきたい。

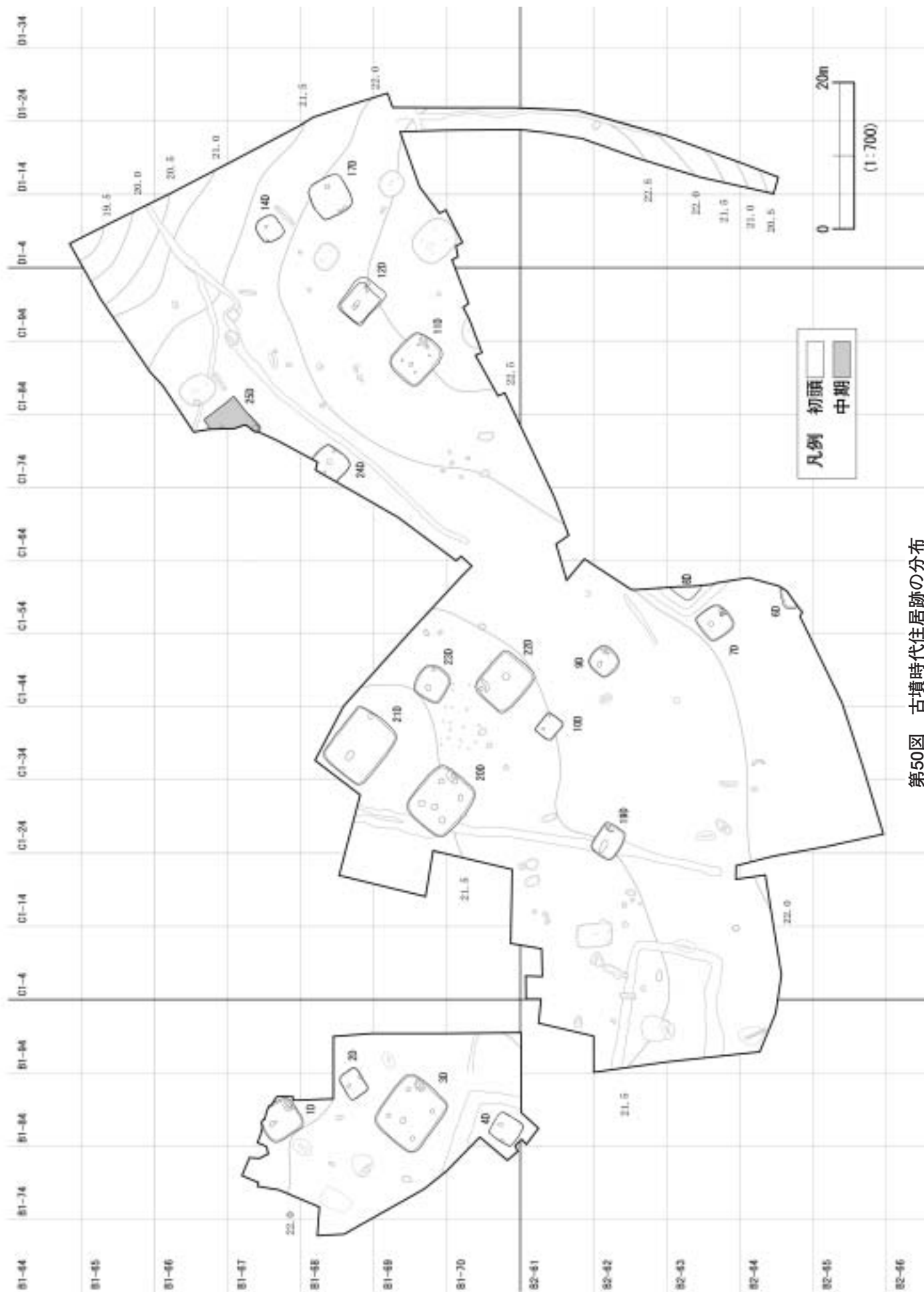
住居跡の他には、掘立柱建物跡2棟と土坑11基がある。遺物が少なく、所属時期の決定が困難であるが、弥生時代後期～古墳時代中期に属する遺構と判断した。

(1) 古墳時代初頭

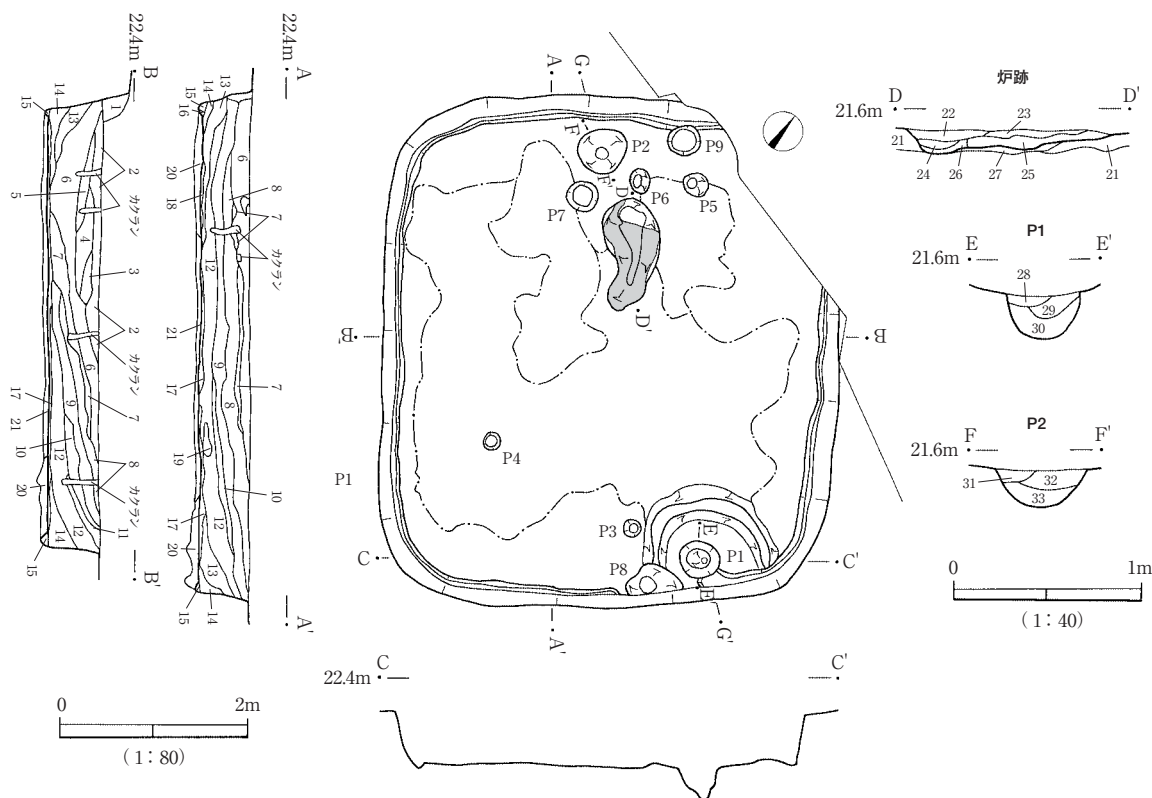
1D住居跡（第51図～53図）

位置 B1-87・88G。北東隅は調査範囲外のため調査できなかった。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向5.41m、北東-南西方向4.83m。深さは52cm前後。**主軸方向** N-33°-W。**覆土** 土層断面の観察から、住居の埋没は南西からの土の流入が激しく、大半はその土で占められていることがわかる。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がるが、上部ではやや緩やかになり、一部が崩落したものと思われる。**壁溝** 幅7～12cm、深さ4～11cm。南東壁際のP1、P8付近以外では、巡っていると思われる。貼床を掘り込んで作っている。**柱穴** 相当するピットは無かった。**貯蔵穴** P1、P2が相当すると思われる。P1は南東隅近くで検出した。長さ210cmの弧状の周堤帯をもつ。平面形はほぼ円形で、東側部分がピット状に深くなっていた。長径42cm、短径39cm、平坦部分の深さ22cm、ピット状の掘り込みの深さ32cm。P2は北西壁際の中央に位置し、歪んだ円形で、長径52cm、短径48cm、深さ19cm。覆土は暗褐色土と褐色土で、32層は焼土粒・炭化材を少量含む。**ピット** 7基確認した。P3、P8は入り口施設関連と思われる。P4、P5、P6、P7、P9は床面上に据えられた施設の痕跡、あるいは生活痕跡と思われる。P4以外は、炉の北側に集中している。P9は貼床調査時に検出。床面からの深さは、P3が22cm、P4が5cm前後、P5が6cm、P6が11cm、P7が8cm、P8が13cm、P9が13cm。**炉跡** 住居中央の北東壁寄りで検出。平面形は歪んだ楕円形で、長径96cm、短径60cm。炉床面の深さ12cm。貼床層を掘り込んだ後、ローム土を埋め戻して基層としていた。炉床面は貼床材が被熱のためブロック状になり赤化している。炉範囲外の南側にも赤化部が広がる。覆土は黒褐色土に多くの焼土粒子を含む。基層の掘り込み底面、炉床面とも、すり鉢状。**床面** 北西壁際以外の壁側部分を中心に、ローム層を一旦掘り下げ、黒褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し、床材としていた。床表面は住居中央で硬化している。特に、炉跡をはさむ東側と西側が顕著に硬化している。

出土遺物 総数101点（土器片93点、軽石2点、石5点、瓦1点）出土。代表的遺物が装飾壺とハケ目の甕という象徴的なものである。覆土中層で少量、下層を中心に出土した。甕は下層から中層まで散らばって出土していることから、6層以下は住居跡廃絶時に短期間で人為的に埋め戻していると思われる。生活段階に伴うものと判断できる良好な遺物は無い。きわめて近い時期の流入・廃棄によるものだろう。南東壁際中央、P8の南側で砥石として利用したと思われる軽石が出土している。**炭化材** 焼土とともに北西隅で粉状の炭化材を検出。西壁と平行に並んでいた。



第50図 古墳時代住居跡の分布



第51図 1D住居跡実測図

1D住居跡土層観察表 (第51図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1 (表土)	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si L	小垂角塊状	あり	小	22	弱	細根含む	径0.5~2mm黄色スコリア 径1~3mm焼土粒子, 炭化材片
2	漸変	7.5YR3/3, 3/4, 4/3	含む~ 富む	Si L	小垂角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径10mmロームブロック 径1~2mm黄色スコリア
3	判然	7.5YR3/4	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径5mm以下黄色スコリア
4	漸変	7.5YR3/3, 4/3, 3/2 含む~ 富む	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径5mm以下黄色スコリア
5	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径5mm以下黄色スコリア 4より減少
6	明瞭	7.5YR4/3, 4/4, 3/3	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1~8cmロームブロック 径2~3mm黄色スコリア
7	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1~3cmロームブロック 径2~3mm黄色スコリア
8	明瞭	7.5YR4/3 部分的に7.5YR3/2	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1cmロームブロック 径1~3mm黄色スコリア
9	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径10mmロームブロック 径1~3mm黄色スコリア
10	判然	7.5YR4/3, 3/3	含む~ 富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1cmロームブロック 径1~5mm黄色スコリア
11	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1~3mm黄色スコリア
12	漸変	7.5YR4/3, 3/3 部分的に3/2	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1~8cmロームブロック 径1~2mm黄色スコリア
13	判然	7.5YR3/3, 4/3 部分的に4/4, 3/2	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1cmロームブロック 径1~2mm黄色スコリア
14		7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径1cmロームブロック少 径1~2mm黄色スコリア
15	明瞭	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	-	含む	小	16	強	なし	ローム混じり 壁溝覆土
16		7.5YR4/4	含む	Si CL	-		小	-	強	なし	壁溝覆土
17		7.5YR4/3, 3/3	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	21	中	なし	径0.5~1cmロームブロック 径1~2mm黄色スコリア 径1mm焼土粒子 床面直上, 床の一部含む
18											17の中で焼土を多く含む部分, 炭化材片 径0.1~1cm焼土粒子ブロック
19		7.5YR3/2	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根含む	浮いたような黒褐色土所々に混じるが, ここは大きな塊として見えるので分けた 径0.5~2mm黄色スコリア

貼床

No.	色調	しまり	粘性	その他
20	7.5YR4/3 7.5YR3/2斑状	やや強	やや弱	
21	7.5YR4/6 部分的に7.5YR3/2	強	やや弱	ロームブロック

1D 炉跡土層

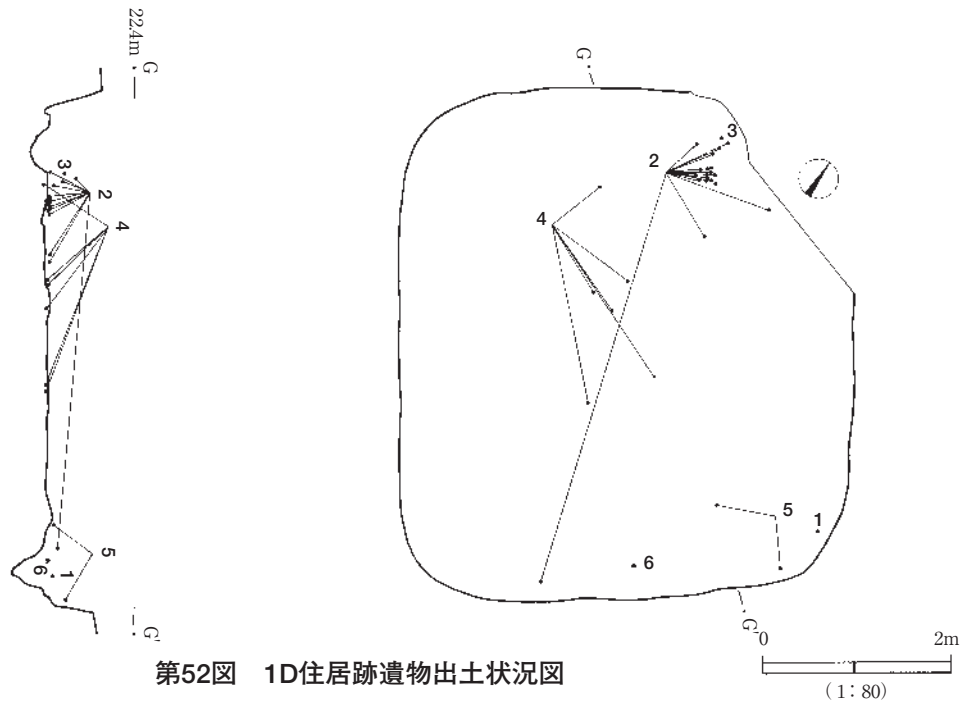
- 22. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 焼土粒, ローム粒, 炭化物小片。しまりやや弱。粘性弱。
- 23. 5YR5/6 (明赤褐色土) 7.5YR3/2 (黒褐色土) 斑状, 焼土粒多。しまりやや弱。粘性弱。
- 24. 5YR3/4 (暗赤褐色土) 径1~2cmロームブロック, 焼土粒多。しまりやや弱。粘性弱。
- 25. 5YR5/6 (暗赤褐色土) 炉跡基層。焼土粒, 7.5YR4/6 (褐色土) 少。しまり強。粘性弱。
- 26. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 炉跡基層。焼土粒。しまり強。粘性やや強。
- 27. 7.5YR4/4 (褐色土) 被熱により赤化, 貼床層の赤化部。焼土粒少, ロームブロック。しまり弱。粘性やや弱。

1D P1土層

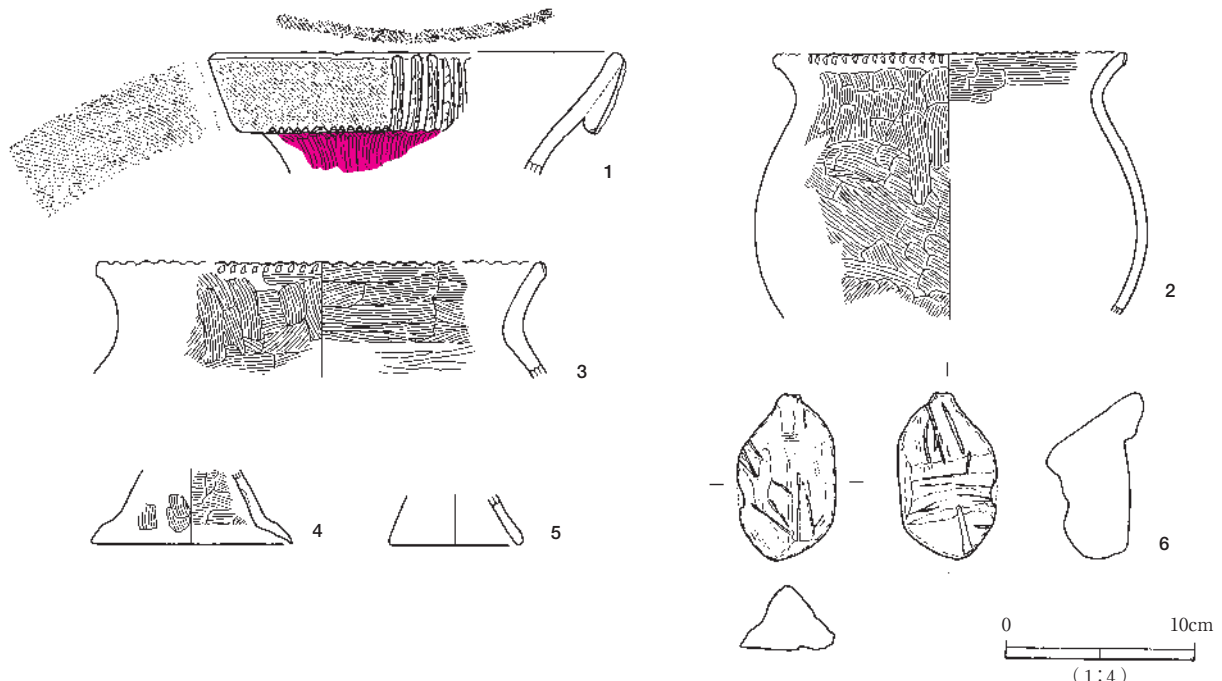
- 28. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒, 黒褐色粒。しまり弱。粘性弱。
- 29. 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒, 径0.5cm前後ロームブロック微。しまり極弱。粘性中。
- 30. 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒。しまり極弱。粘性中。

1D P2土層

- 31. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒。しまりやや強。粘性弱。
- 32. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 焼土粒・炭化物少, ローム粒多。しまりやや弱。粘性中。
- 33. 7.5YR4/4 (褐色土) ローム粒多, ロームブロック多。しまりやや弱。粘性やや強。



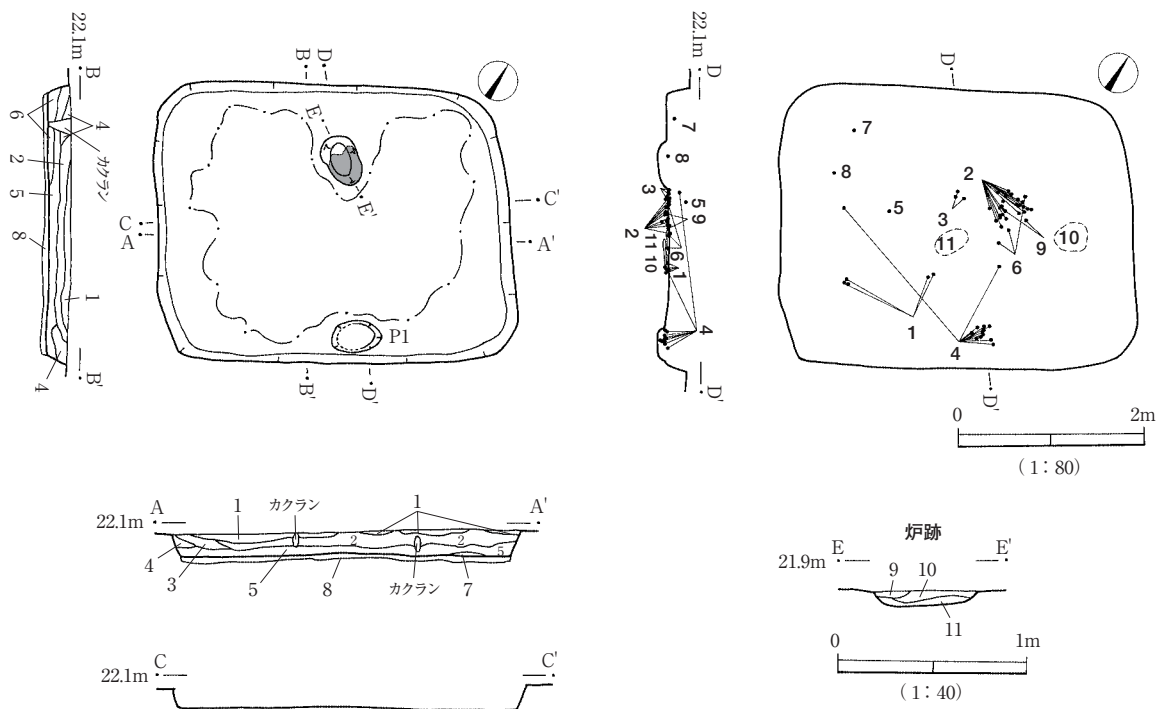
第52図 1D住居跡遺物出土状況図



第53図 1D住居跡出土遺物実測図

1D住居跡出土遺物観察表 (第53図)

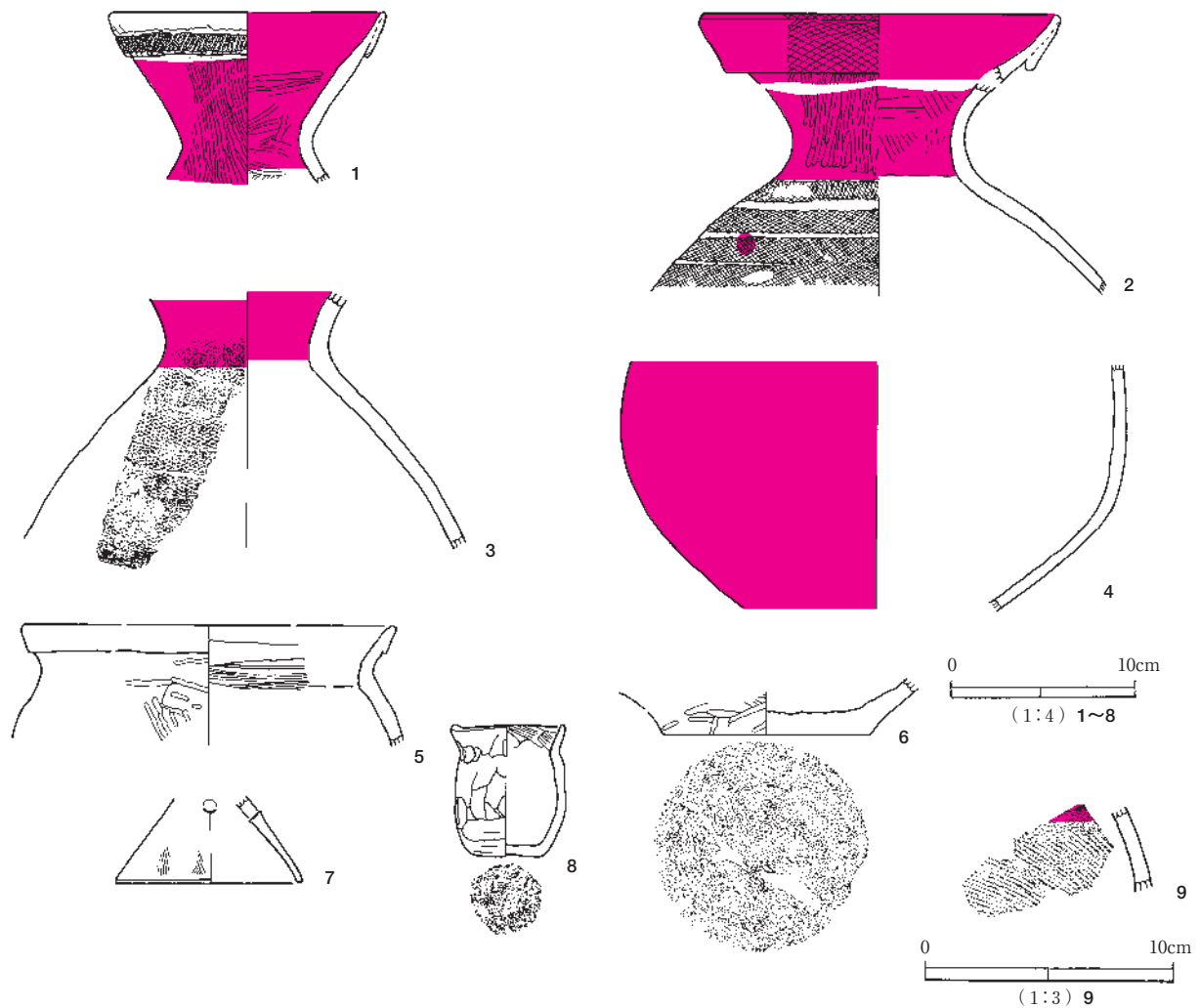
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (22.0) 器高 <6.5>	外) 口唇部・口縁部、単節縄文LR。下端を工具端面による押圧で刻む。棒状浮文が5本残存。斜ハケ、縦ミガキ。 内) ナデ、ミガキ。	○緻密、細砂粒 ◎良好 ●外) 赤色 (赤彩)、橙色 内) 明褐色、褐色	内面、剥落。	15
2	甕	口縁部～胴下部	口径 19.0 器高 <13.9> 胴部最大径 (21.0)	外) 口唇部、キザミ。縦ハケ。 内) 頸部以上、横ハケ、胴部ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●橙色、灰褐色、褐色		11-27-28-29-30-32-33-34-35-36-44-48-50-51-53
3	甕	口縁部～頸部	口径 23.8 器高 <6.2>	外) 口唇部、キザミ。縦、横ハケ。 内) 頸部以上、横ハケ。胴部ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒色 内) 灰褐色		57
4	台付甕	脚部	底径 7.2 器高 <6.2>	外、内) ミガキ。	○緻密、細砂粒 ◎良好 ●灰褐色、にぶい褐色		23-24-25-26-47-75
5	高坏	脚部	底径 (10.6) 器高 <3.9>	外) 縦ハケ、ナデ。 内) 横ハケ、横ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい褐色		13-14
6	砥石	長さ8.6cm、幅5.2cm、厚さ3.4cm、質量21.5g。明瞭な擦痕、溝状の研ぎ痕あり。軽石。灰白色。 産地は浅間山以外、海浜部と推定。					62



第54図 2D住居跡実測図、遺物出土状況図

2D住居跡土層観察表 (第54図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR4/2	含む	S L	小垂角塊状	含む	0~小	16	なし	細根富む	径1mm黄色スコリア
2	判然	7.5YR4/3, 3/3, 3/2 7.5YR4/4混じり合う	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	18	弱	細根富む	径1~2mm黄色スコリア
3	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	16	弱	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア
4	判然	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	17	3より強い 弱	細根含む	径0.5~2mm黄色スコリア
5	漸変	7.5YR4/3, 4/4, 3/2	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア
6		7.5YR3/3, 3/2	富む	Si C	小垂角塊状	富む	小	18	弱~中	細根富む	径0.5~3mm黄色スコリア
7	他と明瞭	7.5YR4/3, 3/3	含む~ 富む	Si C	小垂角塊状	富む	小	21	中	細根含む	径1~3mm黄色スコリア、ルームにじむ、床の一部か、焼土粒子、焼土ブロック (タマ状、ジャリジャリしている) が上部にみえる
貼床											
No.	色調		しまり		粘性		その他				
8	7.5YR4/4 暗褐色土斑状		強		やや弱						



第55図 2D住居跡出土遺物実測図

2D住居跡出土遺物観察表 (第55図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部～頸部	口径 (15.0) 器高 <9.3> 頸部径 (7.0)	外) 横ナデ, 単節縄文LR, キザミ。赤彩, 縦ミガキ。 内) 赤彩。横, 斜ミガキ, 斜ハケ。	○砂粒 ○良 ●明赤褐色, 褐灰色		1-2-3-9-85
2	壺	口縁部～胴上部	口径 (19.8) 器高 <15.0> 頸部径 9.4	外) 口唇部上端, 口縁部, 胴上部に網目状捺糸文。円形赤彩。縦ミガキ。赤彩。 内) ミガキ, 横ナデ。赤彩。	○細砂粒 ○良 ●外) 明赤褐色(赤彩), にぶい褐色, 浅黄褐色, にぶい橙色, 橙色 内) 明赤褐色(赤彩), 橙色	内面, 剥落。	144-145-149-151 -156-157-160-163-164-202-238-244 -245-246-248-249-271-277-285-288 -303 (頸部～胴上部) 150-210-237, 243-319 (口縁部)
3	壺	頸部～胴上部	頸部径 (9.0)	外) 網目状捺糸文。ミガキ。赤彩。 内) ナデ, ミガキ。赤彩。	○細砂粒 ○良 ●明赤褐色, 橙色		90-91-92-93
4	壺	胴上～中部	胴部最大径 27.4	外) ミガキ。赤彩。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ○良 ●外) 暗赤褐色 内) にぶい橙色	内面, 剥落, 亀裂。	72-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-88-171-256-344
5	複合口縁壺	口縁部～頸部	口径 (20.4) 器高 <6.5>	外) 横ナデ, 縦, 横ミガキ。 内) 横ナデ, 横ハケ。	○細砂粒 ○良好 ●外) 赤褐色 内) にぶい橙色		12
6	壺	底部	底径 11.6 器高 <3.0>	外) 横, 斜めミガキ。底面, ヘラケズリ後, ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ○不良 ●外, 内) にぶい橙色	内面, 剥落。	118-127-153
7	高坏	脚部	底径 (10.2) 器高 <4.6>	外) 縦, 斜ハケ後ナデ, ミガキ。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●外) 灰褐色, 褐灰色 内) オリーブ黒色		15
8	小型壺	略完形	口径 6.2 底径 3.6 器高 7.1	外) ナデ, 縦, 横ミガキ。 内) 斜ハケ, ナデ。	○赤褐色スコリア, 細砂粒 ○良好 ●にぶい赤褐色		89
9	壺	胴上部		外) 単節縄文RL, S字状結節文, 赤彩。 内) ナデ。	○細砂粒 ○良 ●外) 赤色, 橙色 内) 褐灰色		196-140

2D住居跡（第54図～55図）

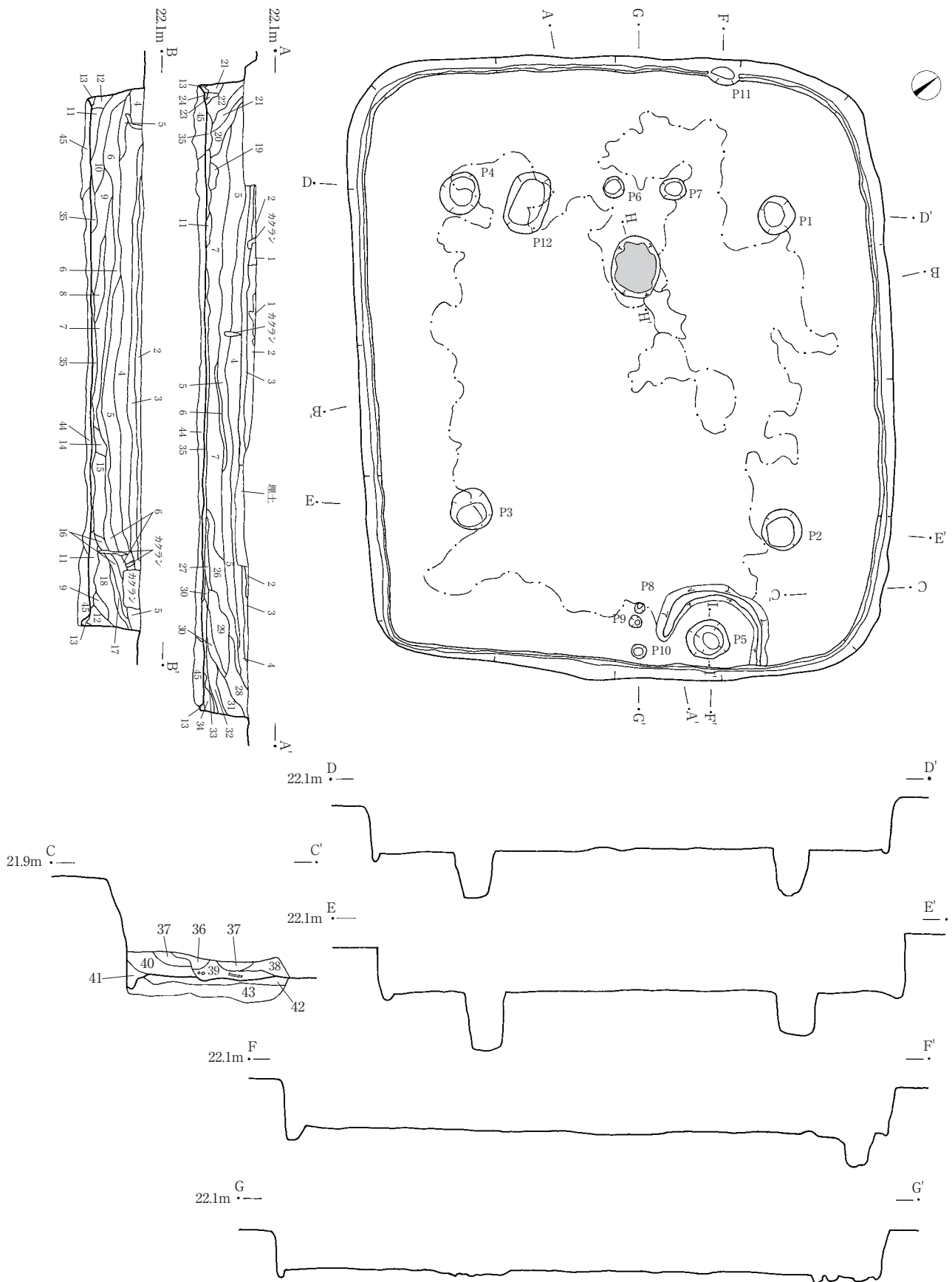
位置 B1-88・98G。**平面形態** 北東-南西方向に長い隅丸長方形。**規模** 北東-南西方向3.7m，北西-南東方向2.9m。深さ20～26cm。**主軸方向** N-32°-W。**覆土** 暗褐色土・黒褐色土・褐色土が混じり合った土が主体。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がるが，上部ではやや緩やかになり，一部が崩落したものと思われる。**壁溝・柱穴・貯蔵穴** いずれも検出されなかった。**ピット** 1基確認した。入り口施設関連と思われる。上面51×33cm，底面径28cm，深さ6～7cmの浅い窪み。覆土は暗褐色土。検出できなかった。**炉跡** 上面55×35cm，底面37×21cm，平面形は楕円形。中央やや北西壁寄りのところに作られていた。貼床層を掘り込んだ後，暗褐色土を埋め戻している。基層の掘り込み底面はすり鉢状で，炉床面には凹凸があった。火床はあまり発達していない。**床面** ローム層を均一に一旦掘り下げ，暗褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し，床材としていた。床表面は竪穴部中央で硬化している。炉跡の周囲は軟弱な床である。

出土遺物 総数463点（土器片461点・瓦1点・鉄製品1点）出土。2cm角以下に細かく砕いたと思われる土器片群が2箇所出土した（第54図10・11）。主に壺の破片らしい。5層内と思われる。

8の小型壺はほぼ床面上で出土。住居廃絶時に遺棄されたか，廃絶に極めて近い時期の流入・廃棄によるものだろう。

3D住居跡（第56図～64図）

位置 B1-89・79G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向8.95m，北東-南西方向7.65m，深さ74cm前後。**主軸方向** N-52°-W。**覆土** 上層の1～3層は黒褐色土主体，中層以下に厚く堆積する4・5・7層等は暗褐色土・褐色土が主体。床面直上の11層に焼土・炭化材・炭化米が多量含まれる。覆土をある程度掘り下げた段階で，壁際に黒褐色土が明瞭な帯状に見えることに気づき，堆積状況を確認するためC-C'面を分層した。その結果A-A'，B-B'面では確認できなかった壁際の黒褐色土の三角堆積（第56図40層）と，その上に焼土を含む土（同図37層等）が堆積している状況を確認した。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がるが，上部ではやや緩やかになり，一部が崩落したものと考えられる。**壁溝** 貼床を掘り込んで作っている。全周する。幅7～20cm，深さ3～13cm。北西壁に深くなる場所があるが，これはP11とした。**柱穴** 柱痕跡もしくは埋設土の残る柱穴は4本確認した。平面では整った長方形に配置されており，柱痕跡間の距離から見た柱間は，短辺のP2・P3間で4.3m，長辺P1・P2間で4.6m。覆土は，上部に炭化物を含む暗褐色土層，下部にローム土を含む層，その周りにロームブロックを含む柱材埋設土で構成されていた。P1は上面径52cm，底面36×28cm，柱痕跡径24cm，深さ70cm。P2は上面58×56cm，底面42×40cm，柱痕跡28×23cm，深さ68cm。P3は上面60×58cm，底面42×32cm，柱痕跡21×20cm，深さ84cm。P4は上面63×57cm，底面41×33cm，柱痕跡31×26cm，深さ68cm。**貯蔵穴** P5が相当する。南西壁際中央からやや北に寄った位置で検出した。平面形は楕円形。上面60×56cm，底面26×20cm，深さ46cm。覆土中からは略完形の小型器台（第63図21）と土玉（第64図26）が出土した。P5を囲んで明瞭な周堤帯が設けられていた。**ピット** 柱穴・貯蔵穴以外に7基確認した。P6・P7は炉に関連するものか。P6の深さ9cm，P7の深さ8cm。P8・P9・P10は入り口施設関連か。深さは順に12cm・11cm・5cmである。P11は壁溝と重なるもので深さ20cm。P12は硬化面の下から検出した。上面90×60cm，底面68×40cm，深さ残存33cm。**炉跡** 上面87×70cm，深さ6cm，平面形は楕円形。中央から北西のP1・P4間に寄った位置に作られていた。貼床層・ローム層を掘り込んだ後，ロームブロックを埋め戻して基層とし，この上にローム土の炉床を作る。掘り方は底面が平坦で炉床は凹凸がある。立ち上がりは北東側で緩やか，南西側で急。**床面** 壁側を中心にローム層を一旦



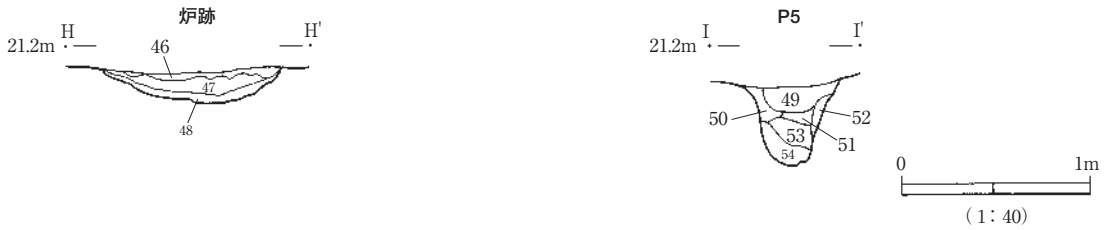
第56図 3D住居跡実測図

3D住居跡土層観察表 (第56図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/2	富む	L	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根富む	径0.5~1mm焼土粒子
2	判然	7.5YR2/2, 3/2	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	16	弱	細根富む	径0.5mm以下黄色スコリア多い 径2mm黄色スコリア少
3	判然	7.5YR3/2, 3/3	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア
4	漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根含む	径1~2cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
5	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根含む	径1~3mmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
6	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	弱~中	細根含む	径2~3cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
7	判然	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱~中	細根含む	径1~5cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
8	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根有り	径3mm以下黄色スコリア
9	漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1~0.5cmロームブロック, 径3mm以下 黄色スコリア, 径1~2mm炭化材片
10	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	径1~2cmロームブロック 3mm以下黄色スコリア多 径1~5mm焼土粒子ブロック
11	他と明瞭	7.5YR3/3 2.5YR4/6焼土	含む~ 富む	Si C	屑粒~ 小亜角塊状	富む	0~小	9~14	中	細根富む	焼土, 炭化材
12	他と明瞭	7.5YR3/3 3/2まじり	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 焼土粒子, ローム土滲む
13	12, 34と明瞭	7.5YR4/3	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根有り	ローム土まじり
14	他と明瞭	7.5YR3/3, 4/3 7.5YR4/4	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	径1cmロームブロック 暗褐色土とロームがまじりあった土
15	14と明瞭 他と判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	径1~3cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア, 炭化材片
16	6, 17と明瞭	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根有り	径1~4cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
17	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根富む	径1~2cmロームブロック 径1~2mm黄色スコリア
18		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1~4cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
19	7と明瞭	7.5YR3/3, 2/2 2.5YR4/6焼土	富む	Si C	屑粒~ 小亜角塊状	含む	0~小	15	中	細根含む	径1~2cmロームブロック 焼土, 炭化材片
20	明瞭	7.5YR4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	径0.5~1cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア多
21	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径0.5mmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア多
22	判然	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア, 21より少
23	漸変	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア少
24		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根有り	ローム土まじり
25	19, 11と明瞭 20, 35と判然	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根有り	径1~2mm黄色スコリア 焼土粒子, 炭化材片
26	他と明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	径1cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
27	他と判然	7.5YR3/3	富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	20	-	-	径3mm以下黄色スコリア 炭化材片, ローム土にじむ
28	漸変	7.5YR4/3	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
29	明瞭	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	21	中	細根有り	径1~4cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア少
30	明瞭	7.5YR3/3 2.5YR4/6焼土	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根有り	焼土粒子, 炭化材片 径0.5cmロームブロック
31	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径4mm以下黄色スコリア多 焼土粒子
32	判然	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア 径1~3cmロームブロック
33	明瞭	7.5YR3/3, 4/4	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	中~強	細根含む	径3mm以下黄色スコリア少 ロームにじむ
34		7.5YR3/3, 3/2	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中~強	細根有り	径3mm以下黄色スコリア少 径1cmロームブロック
35	他と判然	7.5YR3/3	富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	22	強	細根有り	径2mm以下黄色スコリア
36	明瞭	7.5YR4/3, 3/3	含む~ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根有り	径1~3mm黄色スコリア 焼土粒子
37	明瞭	2.5YR4/6焼土主体 7.5YR3/3, 3/2	含む~ 富む	L	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根有り	焼土主体
38	明瞭	7.5YR3/3	富む 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根有り	径1~5mm黄色スコリア
39	明瞭	5YR3/4 ピンクがかった	富む 富む	L	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	焼土粒子, 砂, 灰?, 鉄片, 土器片
40	明瞭	7.5YR2/2	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根富む	径1~5mm黄色スコリア
41	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	径1~5mm黄色スコリア
42	判然	7.5YR4/4, 4/3	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	24	強	細根有り	径2~3cmロームブロック
43		7.5YR4/3, 3/3 7.5YR4/4	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根有り	ローム, 褐色土, 暗褐色土まじり

3D貼床

No	色調	しまり	粘性	その他
44	7.5YR4/4 部分的に7.5YR3/3少	やや強	弱	
45	7.5YR4/3 7.5YR3/3斑状	弱	中	径1cm前後ロームブロック



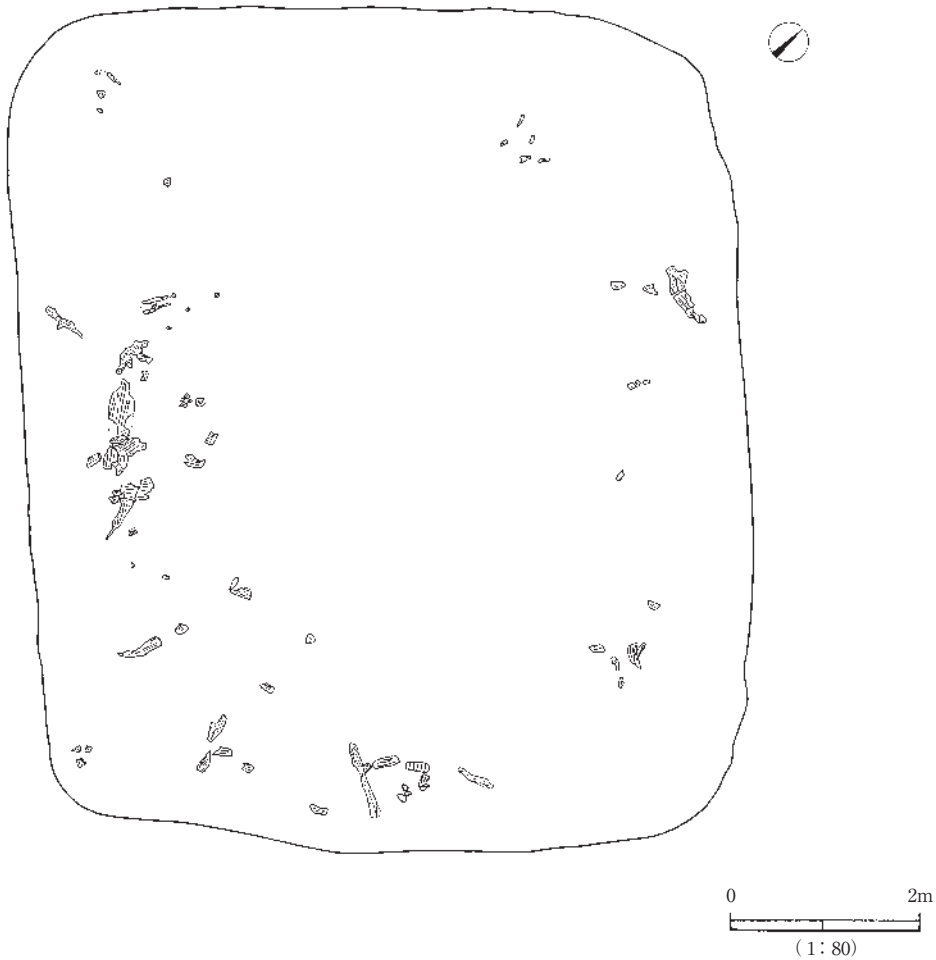
第57図 3D住居跡炉跡・P5断面図

炉跡土層

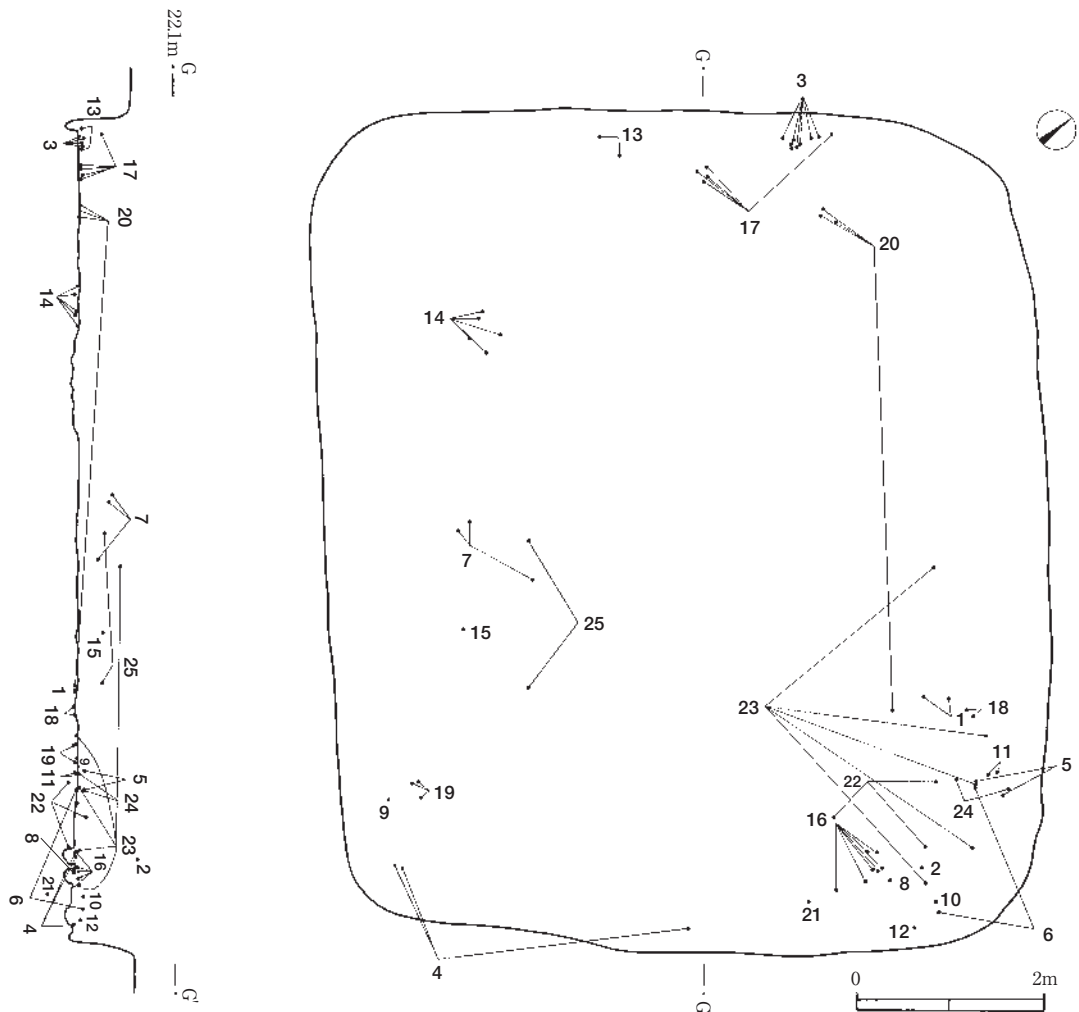
- 46. 5YR4/3 (にぶい赤褐色土) 焼土粒微, 炭化物微。しまり中。粘性やや弱。
- 47. 5YR5/8 (明赤褐色土) 炉床面。ローム主体, 被熱により赤化。しまり強。粘性弱。
- 48. 7.5YR5/6 (明褐色土) 炉基層。ローム主体, 上部被熱により赤化。しまり強。粘性弱。

P5土層

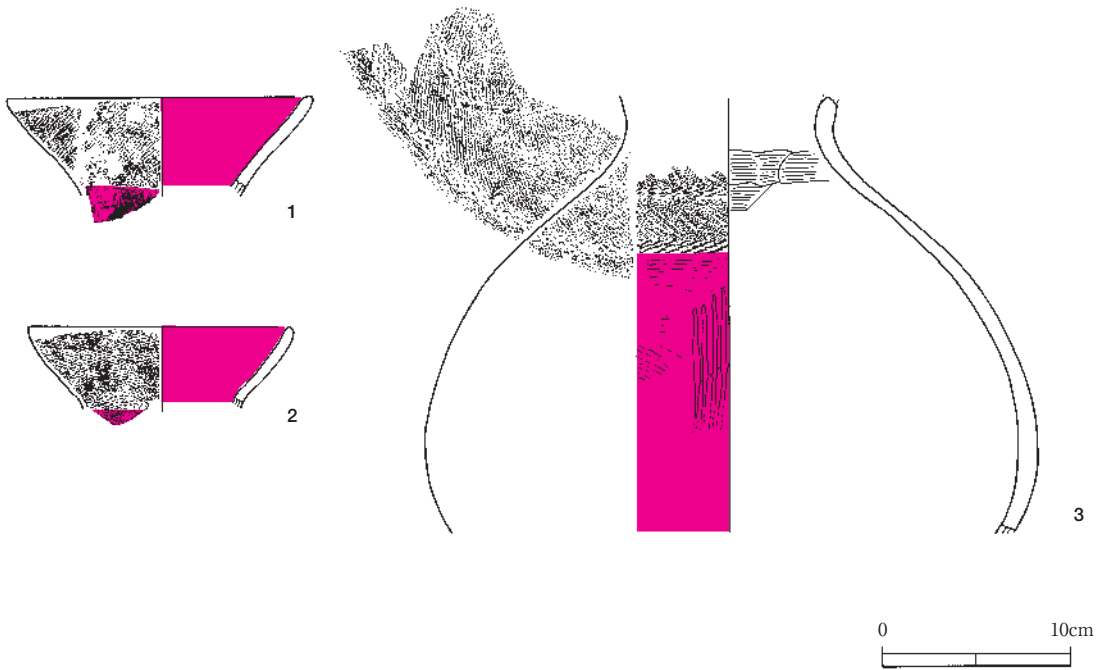
- 49. 7.5YR4/3 (褐色土) ローム斑状。しまり弱。粘性やや強。
- 50. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒。しまり弱。粘性やや強。
- 51. 7.5YR3/1 (黒褐色土) しまり弱。粘性やや強。
- 52. 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒多。しまり弱。粘性やや強。
- 53. 7.5YR3/2 (黒褐色土) しまり弱。粘性やや強。
- 54. 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム斑状。しまり弱。粘性やや強。



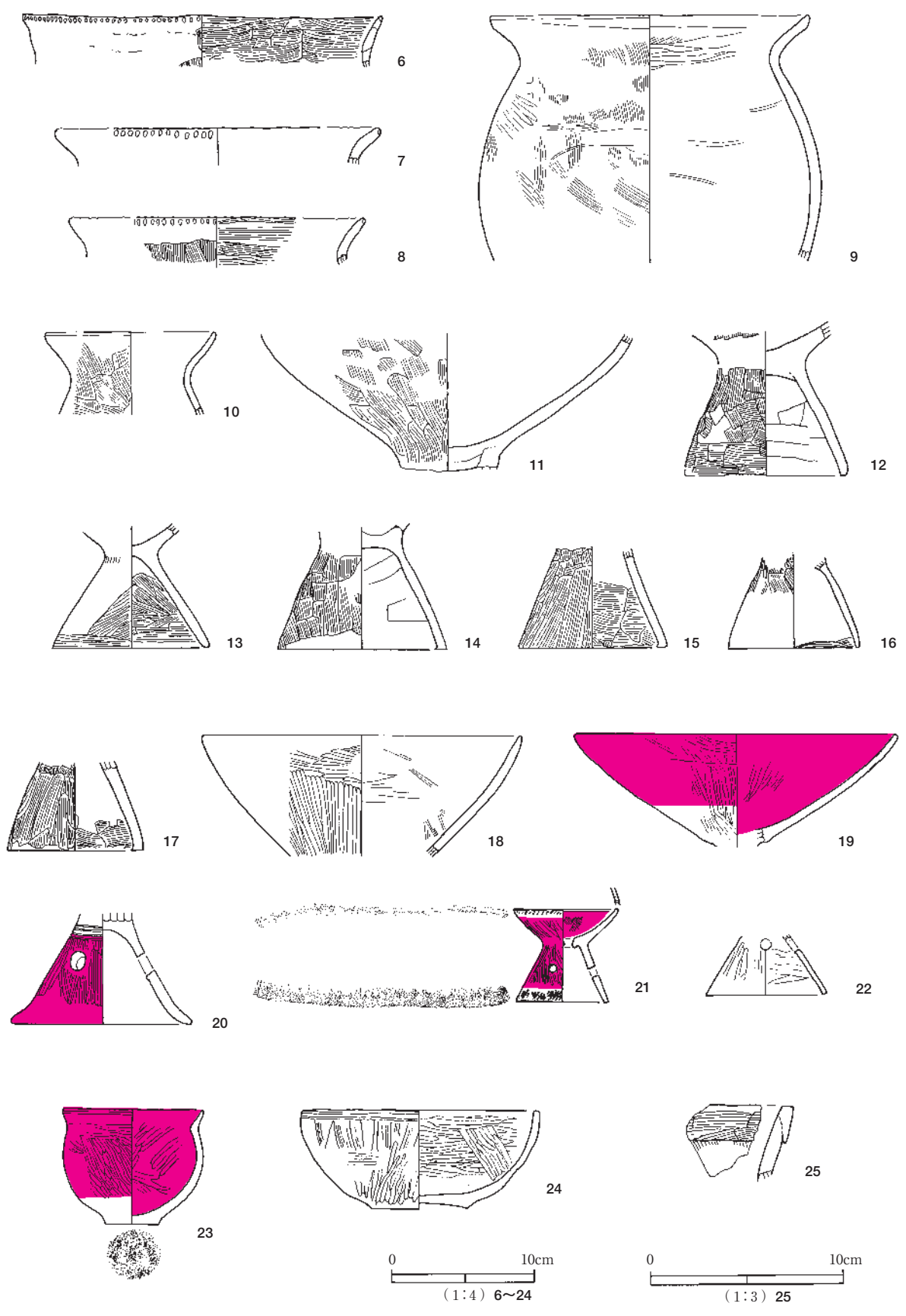
第58図 3D住居跡炭化材出土状況図



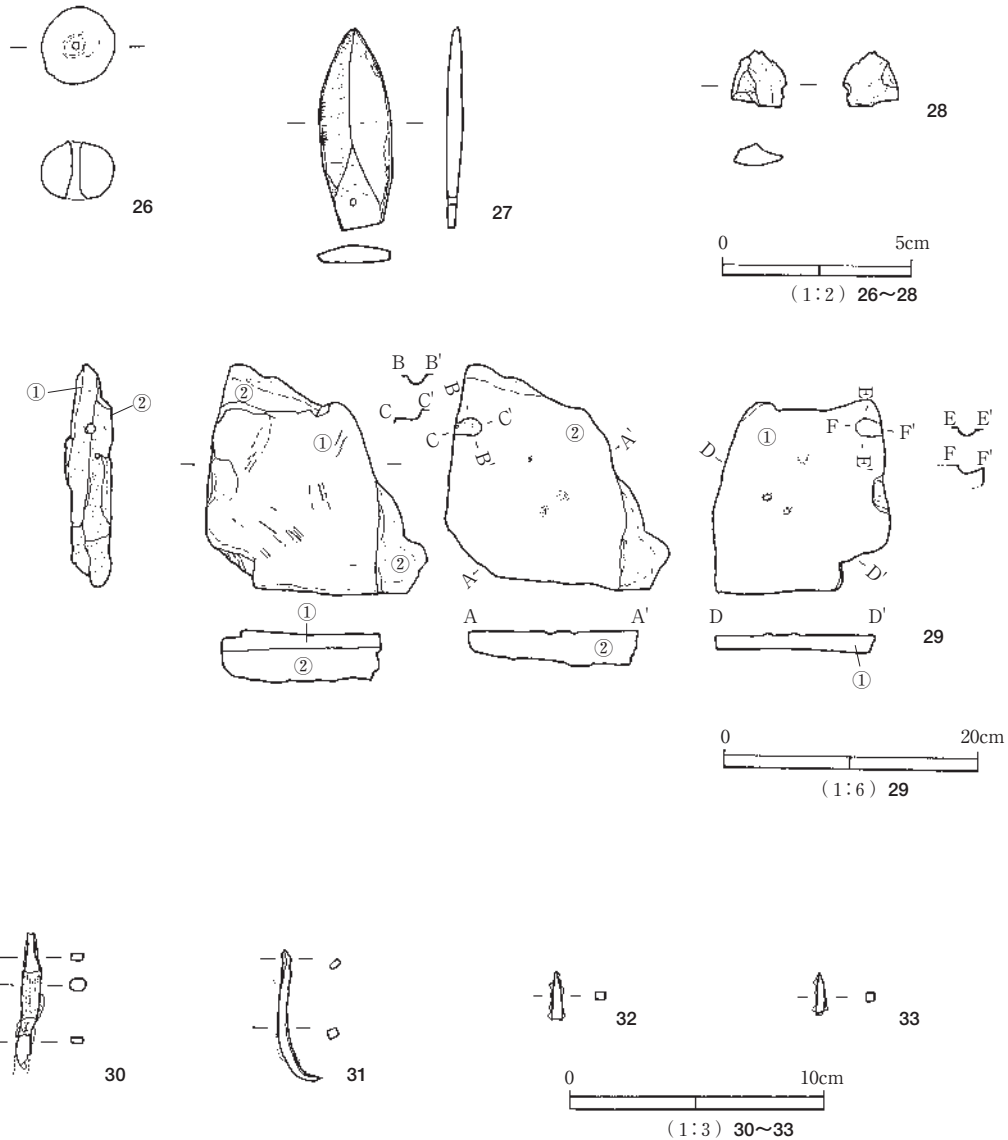
第59图 3D住居跡遺物（土器）出土状況図



第60图 3D住居跡出土遺物実測図（1）



第63图 3D住居跡出土遺物実測図(3)



第64図 3D住居跡出土遺物実測図 (4)

3D住居跡出土遺物観察表 (第60・62~64図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	壺	口縁部	口径 (16.4) 器高 <5.2>	外) 口唇部, 単節縄文RL。口縁部単節縄文RL, S字状結節文を施す。文様からした下, 赤彩。 内) ミガキ, 赤彩。	○砂粒 ◎良好 ●外) にぶい橙色, 赤色 内) 赤色	内外面, 剥落。	344-345
2	壺	口縁部 ~頸部	口径 (14.0) 器高 <4.4>	外) 口縁部網目状撚糸文(単軸絡条体第5類) 頸部以下赤彩ナデ。 内) ナデ, 赤彩。	○砂粒 ◎良好 ●外) にぶい橙色, 赤色 内) 赤色		93
3	壺	頸部~ 胴中部	頸部径 (11.0) 器高 <23.0> 胴部最大径 (32.4)	外) 単節縄文RL, S字条結節文を施紋する。横, 斜ハケ後, 横, 縦ミガキ。無文様帯を赤彩。 内) 横ハケ, ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 黒褐色 内) 黒褐色	外面, 荒れている。内面, 剥落。	352-354-355-356 357-358-359-360
4	壺	胴下部		外) 縦ミガキ, 赤彩, 下部黒色化。 内) 横ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 赤褐色, 橙色, 黒色 内) 浅黄褐色, 橙色, 黒褐色	厚さ1~1.2cm, 胴部最大径50cmを超える大型の壺破片。	383-384-385, 19D・57
5	台付甕か	口縁部 ~胴中部	口径 (23.0) 頸部 (20.0) 器高 <18.8> 胴部最大径 (26.3)	外) 口唇部, キザミ。ナデ, 縦・横ハケ。 内) 横・斜ハケ, 横ナデ。ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●褐灰色, 灰褐色, 黒褐色		333-339, 303も?
6	台付甕か	口縁部	口径 25.0 器高 <3.6>	外) 口唇部, キザミ。ナデ, 縦ハケ。 内) 縦ハケ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色, 橙色		313-335

7	台付甕か	口縁部	口径器高 (22.8) <2.6>	外) 口唇部に刺突, ナデ。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色 内) にぶい褐色		34-129-146
8	台付甕か	口縁部	口径器高 (20.8) <3.3>	外) 口唇部に刺突, ナデ, 縦ヘラ。 内) 横ナデ, 横ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色 内) にぶい褐色		416
9	甕	口縁部～胴中部	口径器高 (22.4) <17.0>	外) 横ナデ, 縦, 斜ハケ, ミガキ。 内) ハケ後, 横ナデ, 横ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●明赤褐色, 灰褐色, にぶい褐色	外面, 剥落。白黄の付着物あり。内面, 激しく剥落。	380
10	甕	口縁部～頸部	口径器高 (12.0) <5.8>	外) ナデ, 斜, 横, ハケ。 内) 横ナデ。	○細砂粒 ◎やや脆い ●外) 浅黄橙色 内) 灰褐色		314
11	台付甕	胴下部	上部径 下部径 器高 (26.0) 6.8 <9.6>	外) 縦, 斜ヘラ。 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色, 黒褐色 内) 黒褐色	外面, 煤状物質付着。	336-396
12	台付甕	脚部	底径器高 (11.2) <10.7>	外) 多方向のハケ調整。 内) ヘラナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎やや脆い ●外) にぶい橙色 内) にぶい橙色, 橙色		388
13	台付甕	脚部	底径器高 10.9 <8.6>	外) 脚部, 斜, 横ハケ, ナデ。 内) 斜め, 横ハケ, ナデ。 甕底部, ミガキ。	○細砂粒, 赤色スコリア ◎良好 ●外) にぶい赤褐色 内) にぶい橙色	甕底部内面, 剥落。	239-364
14	台付甕	脚部	底径器高 11.8 <8.5>	外) 縦ハケ, ナデ。 内) ナデ, 横ヘラナデ。	○細砂粒 ◎やや脆い ●外) 明褐灰色 内) 赤褐色		138-142-258-259 -366-369
15	台付甕	脚部	底径器高 10.4 <6.9>	外) 縦ハケ。 内) ナデ, 横ハケ。	○細砂粒 ◎良好 ●灰褐色		196
16	台付甕	脚部	底径器高 9.2 <6.3>	外) 縦ハケ, ナデ。 内) 横ナデ, 横ハケ。	○砂粒 ◎脆い ●にぶい黄橙色		282-283-287-305 -306-307-308-309
17	台付甕	脚部	底径器高 9.5～10.1 <6.0>	外) 縦ハケ。 内) ナデ, 横ハケ。	○細砂粒 ◎良好 ●灰褐色, 褐灰色		260-261-361-362 -363
18	高坏	坏部	口径器高 (22.4) <8.2>	外) ナデ。横・縦ミガキ。 内) 斜, 縦ハケ後, 横ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●褐灰色, にぶい橙色		341-342
19	高坏	坏部	口径器高 (22.6) <7.8>	外) 斜ハケ, ナデ, 縦ミガキ。赤彩。 内) ナデ, 縦ミガキ。赤彩。	○細砂粒, 赤色スコリア ◎良好 ●外) 橙色, 灰褐色 内) にぶい赤褐色		373-374-378
20	高坏	脚部	底径器高 12.6 <7.5>	外) 縦ミガキ, ナデ。上部に沈線。 透孔は3孔。 内) 赤彩。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 明赤褐色, にぶい赤褐色 内) 赤褐色, にぶい褐色		345-347-350
21	器台	完形	口径器高 底径 7.5 6.5 6.4	外) 口唇部, 口縁部, 脚裾部, 単節 縄文LR。無文帯, 赤彩, 斜, 縦ミガキ。 内) 受部赤彩。脚部, ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●橙色, にぶい橙色, 赤色	P5内出土。	412
22	器台	脚部	底径器高 (8.4) <4.0>	外) 縦ミガキ。 内) 横ナデ。 透孔は3孔残存。推定4孔。	○細砂粒 ◎良好 ●明赤褐色, にぶい橙色		284-419-420
23	鉢	口縁部～底部	口径底径器高 胴部最大径 10.0 3.9 <8.0> 9.8	外, 内) ナデ, 横, 斜ミガキ, 赤彩。	○砂粒 ◎良好 ●外) 赤褐色, 褐灰色 内) にぶい橙色	内外面, 剥落。	315-334-340-401 118
24	碗	口縁部～底部	口径底径器高 (16.8) 6.4～6.8 <6.9>	外) 横ナデ, 横ハケ, 縦ミガキ。 内) 横ナデ, 横, 斜ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色, 黒色		331-338
25	壺	複合口縁	器高 <4.0>	外) 横, 縦ハケ。 内) ナデ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎良好 ●にぶい黄橙色		215, 212
26	土玉。完形。径1.9×1.5。質量5.7g。貫通孔あり。				○緻密 ◎良 ●外) 黒色	P5内出土。	414
27	剣形石製模造品。5.3cm×2.0cm×0.4cm。質量6.2g。貫通孔あり。緑色片岩。灰色。埼玉県西部産あるいは茨城県北部産						224
28	剥片。1.50cm×1.45cm×0.6cm。質量0.9g。チャート。灰色。						172
29	鋳型か。①15.1cm×14.0cm。厚さ, 1.0～1.6cm。②18.3cm×17.6cm。厚さ2.5cm。質量, ①・②1331.3g。砂岩。石英粒多い。固結度弱い。						387
30	鉄製品。刀子か。基部～柄部欠損。5.2cm×0.5cm。基部, 幅0.5cm, 厚さ0.2cm。木質付着。						117
31	鉄製品。釘状。5.2cm×0.4cm。厚さ0.2cm～0.4cm。ねじれて曲がっている。						218
32	鉄製品。釘状。1.9cm×0.4cm。厚さ0.35cm。						一括
33	鉄製品。釘状。1.7cm×0.3cm。厚さ0.3cm。						一括

掘り下げ、暗褐色土ブロックとロームブロックの混合土を埋め戻し、床材としていた。特に壁側では暗褐色土ブロックの割合が高い。床表面は、柱穴で囲まれた住居中央部で顕著に硬化している。

出土遺物 総数654点（土器片618点・陶器1点・土玉1点・剥片2点・石製品2点・軽石7点・軽石微小片多数・泥岩1点・石13点・鉄製品2点・鉄滓7点）出土。装飾壺・台付甕・高坏・器台等を出土した。ハケ目の施された台付甕が目立つ。第63図21の小型器台は貯蔵穴P5から出土した。土玉もP5から出土した。4は厚手で大きな壺の破片であるが、19Dの出土遺物と接合した。

P5脇東コーナー付近の床面には、微小な軽石の集積と砂利及び焼土を含んだ暗褐色土の集積とが見られた。また南コーナー付近とP4付近の床面には鉄滓の集中範囲があった。鉄製品も出土したが出土位置は覆土上層である。石製品のうち第64図29は板状に割れる砂岩を利用した鋳型と思われる。しかし石の大きさに比べて、型になる部分は長さ20mm、厚さ8～14mmと小さく、またこれによって作成できるのは滴のような形の物質であるが、その製品の類例がわからない。あるいは未製品なのかもしれない。また合わせ面の一方に凸部、他方に凹部があり、丁度双方がはまるようになっている。意図的に作られた凹凸かと思われたが、この合わせ面は割れ口のままであり型部以外には加工の痕跡が無い。この凹凸は偶然できたものであろうか。27は剣形の石製模造品であるが、後世の流れ込みであろう。石製模造品としては他に25D住居跡から勾玉形が出土している（第124図12）。

炭化材 73点出土した。うち71点について樹種の同定を行い、ほとんどがクヌギ節の細片であるという結果を得た（Ⅲ1参照）。炭化米も多量出土した。

4D住居跡（第65図～66図）

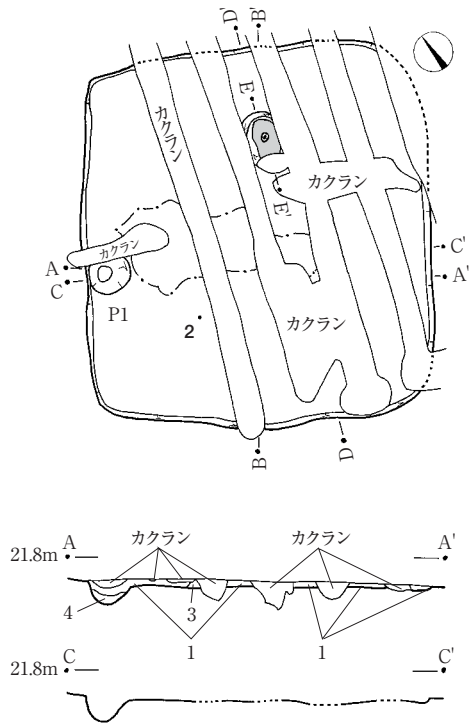
位置 B1-90・B2-81G。**平面形態** 隅丸方形。北東・南西にやや長い。**規模** 北西-南東方向3.71m、北東-南西方向4.02m、深さ4～8cm。**主軸方向** N-33°-E。**覆土** 残存状態の悪い遺構であり、覆土の観察にも困難を伴った。暗褐色土・黒褐色土主体の1層が大半を占める。**壁面** 竪穴上部の削平が著しいため、立ち上がり不明。現状は傾斜して広がる。**壁溝・柱穴・貯蔵穴** いずれも検出されなかった。**ピット** P1は上面45×<36>cm、底面径16cm、深さ27cm。**炉跡** 上面<48>×<33>cm、底面<38>×<25>cm、深さ10cm、平面形は楕円形。住居中央部の北東壁寄りのところに作られていた。攪乱に一部切られている。火床は床面とほぼ同じ高さで発達している。3層で焼土ブロックを多量に含む褐色の覆土があった。基層の掘り込み底面はピットを持つすり鉢状。炉床面には凹凸があった。床面攪乱が激しいため詳細不明。床表面はP1から東側の住居中央部にかけて硬化している。

出土遺物 総数34点（土器片31点、陶磁器1点、石1点、鉄製品1点）出土。ハケ目のある甕の破片や赤彩壺などの破片があるが、いずれも小片である。**炭化材** 1点出土。

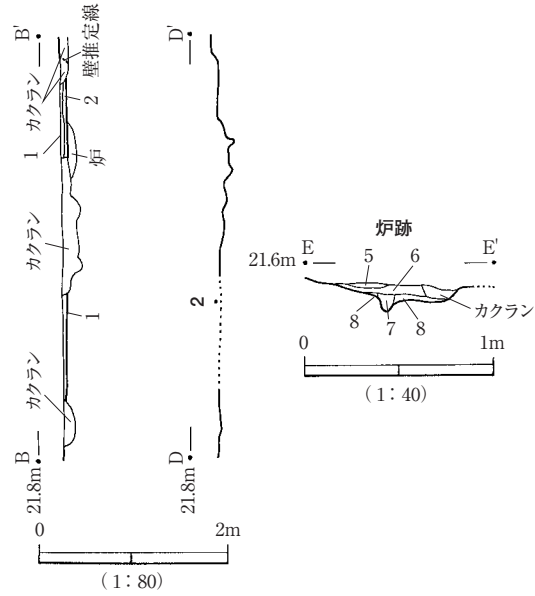
6D住居跡（第67図～68図）

位置 C2-54G。南側大半は調査区域外。**平面形態** おそらく隅丸方形。**規模** 調査部分で北西-南東方向1.22m、北東-南西方向3.16m。深さは37cm前後。**主軸方向** 不明。おそらく北西に軸方位をとる。**覆土** 上層は黒褐色土・暗褐色土主体。**壁面** 丸みをもって立ち上がる。一部掘り過ぎて垂直にしてしまった。**壁溝・柱穴・貯蔵穴** いずれも検出されなかった。**ピット** 2基確認した。P1は上面32×26cm、底面8×4cm、深さ10cm。覆土は褐色土。P2は上面18×17cm、底面尖底、深さ16cm。覆土上層・下層から1点ずつ土器片が出土。**炉跡** 調査範囲内では検出されなかった。**床面** ソフトロームから成る軟弱な床面で、硬化面は認められなかった。一部掘り過ぎてしまった。

出土遺物 総数27点（土器片26点・剥片1点）出土。いずれも小片である。



第65図 4D住居跡実測図

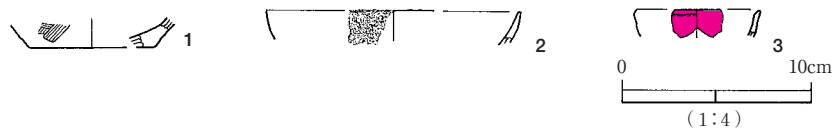


4D炉跡土層

- 5. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 焼土粒。しまり弱。粘性やや弱。
- 6. 7.5YR4/6 (褐色土) 炉床面。焼土ブロック多。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 7. 5YR4/4 (にぶい赤褐色土) 炉基層。焼土粒。しまり中。粘性弱。
- 8. 7.5YR4/6 (褐色土) 炉基層。焼土粒少。しまり中。粘性弱。

4D住居跡土層観察表 (第65図)

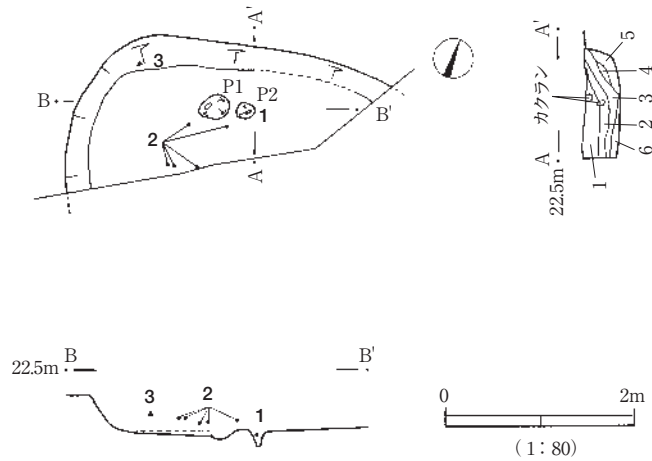
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5YR3/3, 3/2	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根富む	径2mm以下黄色スコリア, 炭化材片全体を覆っている土。
2		7.5YR3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	弱	細根含む	ロームまじり
3		7.5YR3/3, 4/4	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	弱	細根富む	径2～3cmロームブロック
4	1と漸変	7.5YR3/3, 4/3, 4/4	含む～富む	Si C	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1mm黄色スコリア 炭化材小片, 焼土粒子, P1覆土



第66図 4D住居跡出土遺物実測図

4D住居跡出土遺物観察表 (第66図)

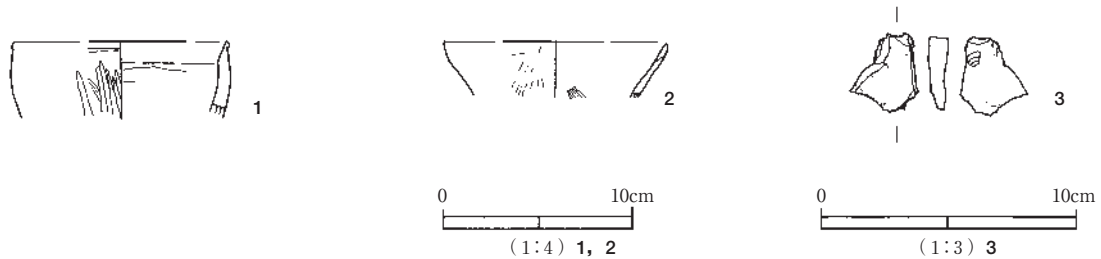
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	底部	口径高 (6.8) 器高 <1.5>	外) 斜, 横ハケ。底面, ミガキ。 内) ナデ	○砂粒 ○良好 ●外) 灰褐色 内) 褐灰色		一括1点
2	碗	口縁部	口径高 (13.4) 器高 <1.8>	外) ナデ, 口唇部ヘラ切り。 内) ナデ。	○細砂粒, 赤色スコリア ○良好 ●灰褐色, 灰褐色		4
3	碗	口縁部	口径高 (6.8) 器高 <1.4>	外, 内) ミガキ, 赤彩。	○砂粒 ○良好 ●にぶい赤褐色		一括1点



第67図 6D住居跡実測図，遺物出土状況

6D住居跡土層観察表（第67図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5YR2/2, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア少
2	明瞭	7.5YR3/2, 3/3まだら	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア少
3	漸変	7.5YR4/3, 3/3	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア少
4	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア少
5		7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	強	細根含む	ソフトロームに似る
6	5に似る3と判然	7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根含む	



第68図 6D住居跡出土遺物実測図

6D住居跡出土遺物観察表（第68図）

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	鉢	口縁部 ~胴部	口径 (11.4) 器高 <4.0> 胴部最大径 (11.7)	外) 横ナデ，縦ミガキ。口唇部に削り出し。 内) 横ミガキ。	○砂粒 ●良好 ●にぶい橙色		7-8-22, 6-16, 一括
2	碗か	口縁部	口径 (11.9) 器高 <2.9>	外) 縦ハケ後，横ナデ。部分的に輪積み痕を残す。 内) 斜ハケ後，横ナデ。	○黒褐色スコリア ●良好 ●橙色	P2内出土。	23
3	剥片。		2.9cm×2.6cm×0.8cm。質量4.9g。	珪化木。栃木県茂木町産か。			13

7D住居跡（第69図～70図）

位置 C2-53・43G。**平面形態** 隅丸方形。**規模** 北西-南東方向3.54m，北東-南西方向3.6～3.84m，深さ34～40cm。**主軸方向** N-34°-W。**覆土** 攪乱が多く認められた。1・4層が黒色土。**壁面** ほぼ垂直。ソフトロームから成る。北東壁がわかりにくかった。**壁溝** 幅7～12cm，深さ5～8cm。全周せず一部途切れる。**柱穴** 明確に柱穴と言えるようなピットは無かった。**貯蔵穴** P1が相当する。上面54×46cm，底面34×30cm，深さ24cm。平面形は楕円形，底面は平坦な整った形のピットである。中からは第70図5・7等の遺物がまとまって出土した。**ピット** 4基確認した。P4は入り口施設関連と思われる。この周囲の床は高くなっている。上面24×14cm，底面16×8cm，深さ12cm。P2は上面34×22cm，底面16×12cm，深さ19cm。P3は上面23×12cm，底面8×6cm，深さ16cm。南西脇に高まりがある。P5は貼床調査時に検出。覆土の上に一部硬化面が乗っていた。上面30×15cm，底面尖底，深さ30cm。**炉跡** 上面70×64cm，底面38×36cm，平面形は楕円形。中央やや北西壁寄りのところに作られていた。貼床層を掘り込んだ後，ロームブロック混じりのローム土を埋め戻している。基層の掘り込み底面はすり鉢状，炉床面は緩やかな窪みで，火床は明瞭に発達していた。**床面** クラック帯付近を床面としている。ローム層を壁際と住居中央部を浅くそれ以外を深く一旦掘り下げ，暗褐色土・褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し，床材としていた。床表面は炉の南東側で硬化している。特にP1付近の硬化が著しい。またP1の北～西は床が高くなっているが，明瞭な周堤帯にはならなかった。

出土遺物 総数404点（土器片393点・陶器3点・石鏃1点・石4点・鉄製品3点）出土。2Dと同様，2cm角以下に細かく砕いたと思われる土器片群が，南西壁付近で出土した。図示した代表的遺物には無文の壺が多く，やや新しい段階のものと考えられる。

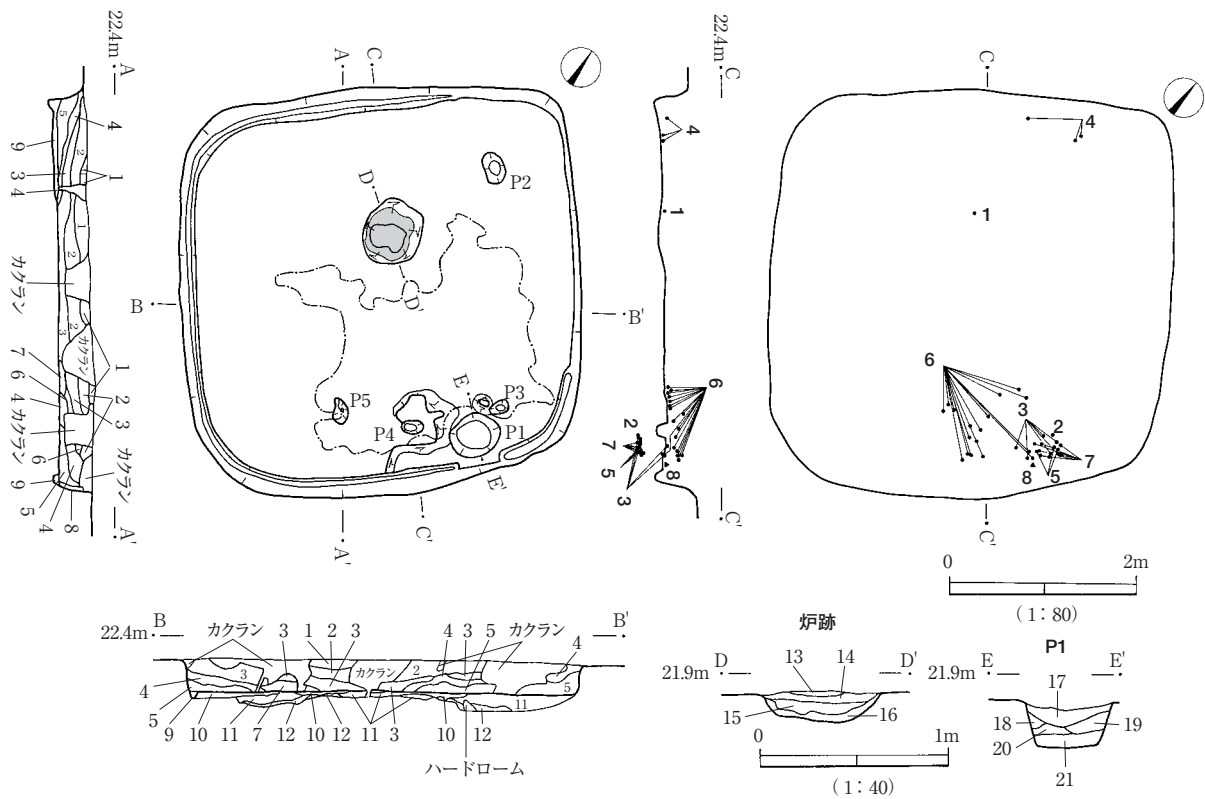
8D住居跡（第71図～72図）

位置 C2-53・52G。ほとんどが調査区域外で，住居跡の西コーナー付近のみを調査した。**平面形態** 隅丸（長）方形と推定。**規模** 調査部分で北西-南東方向3.16m，北東-南西方向3.4m，深さ68cm前後。深さから判断して，本遺跡内の規模の大きな住居跡の部類になると考えられる。**主軸方向** 不明。おそらく北西に軸方位をとる。**覆土** 全体的に黒褐色・暗褐色系の土が占めていた。6層に炭化材・焼土が含まれていた。まとまった焼土は西コーナー付近の床面直上にあった。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。主にソフトロームから成るが，床面近くでハードロームに変化してくる。北西壁には攪乱が見られた。**壁溝** 幅7～25cm，深さ7cm。全周せず，西コーナーから南西壁にかけて認められた。**柱穴・貯蔵穴・ピット・炉跡** いずれも調査範囲内では検出されなかった。**床面** ローム層を北西壁際と住居中央側を浅くそれ以外を深く一旦掘り下げ，暗褐色土・褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し，床材としていた。貼床の深さは8～16cmで，下面はAT層に達していた。硬化面は認められなかった。

出土遺物 総数12点（土器片12点）出土。複合口縁の甕，台付甕の脚部，高坏の坏部が主な遺物である。複合口縁の甕は，若干古い段階のものである。**炭化材** 9点出土。炭化材は北西壁に直交する状態で並んで出土しており，11D等と同様のあり方と推察される。

9D住居跡（第73図～75図）

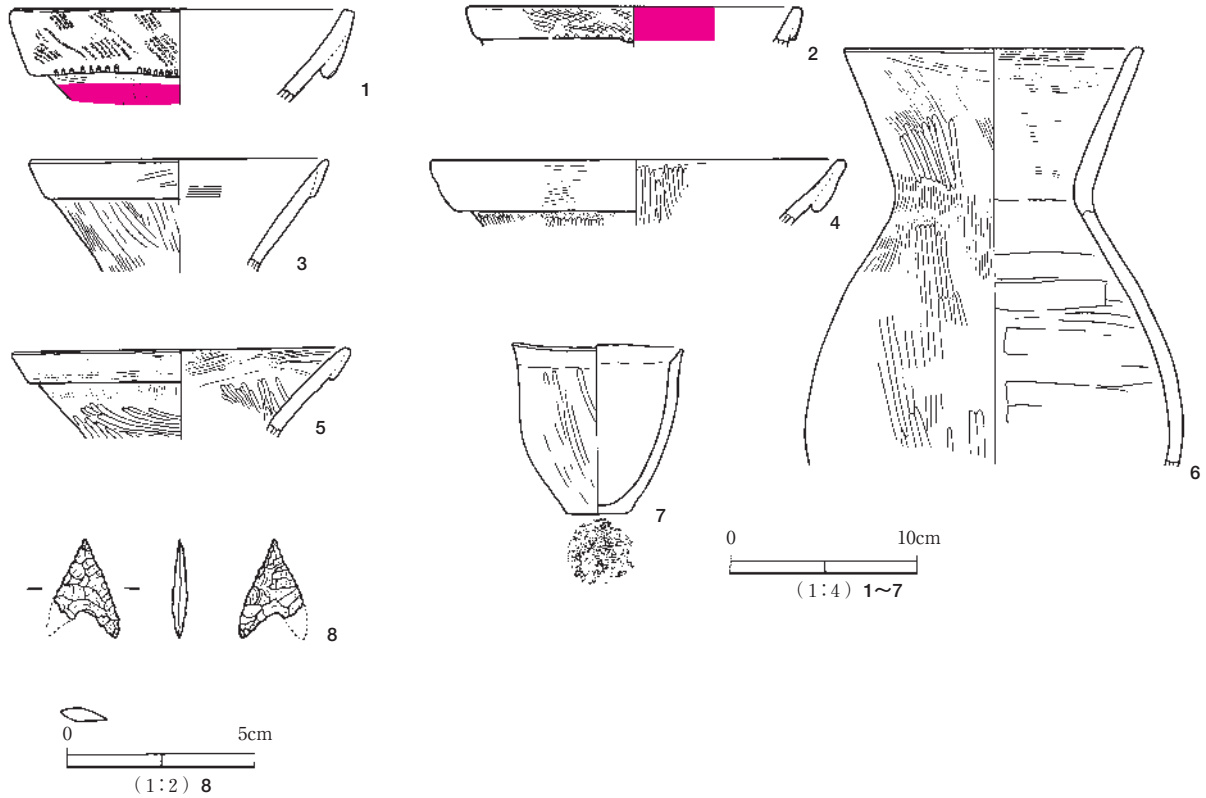
位置 C2-42・41G。**平面形態** 隅丸方形。**規模** 北西-南東方向3～3.12m，北東-南西方向3.04～3.1m，深さ70～78cm。**主軸方向** N-44°-W。**覆土** 1・2層が黒褐色系の土で以下は暗褐色・褐色系の土。住居の北西半分の範囲，床面上4～6cmのところ焼土・炭化材が残存していた。焼土・炭化材片は他にP1の覆土で認められた。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。褐色土～ソフトローム～ハード



第69図 7D住居跡実測図，遺物出土状況図

7D住居跡土層観察表（第69図）

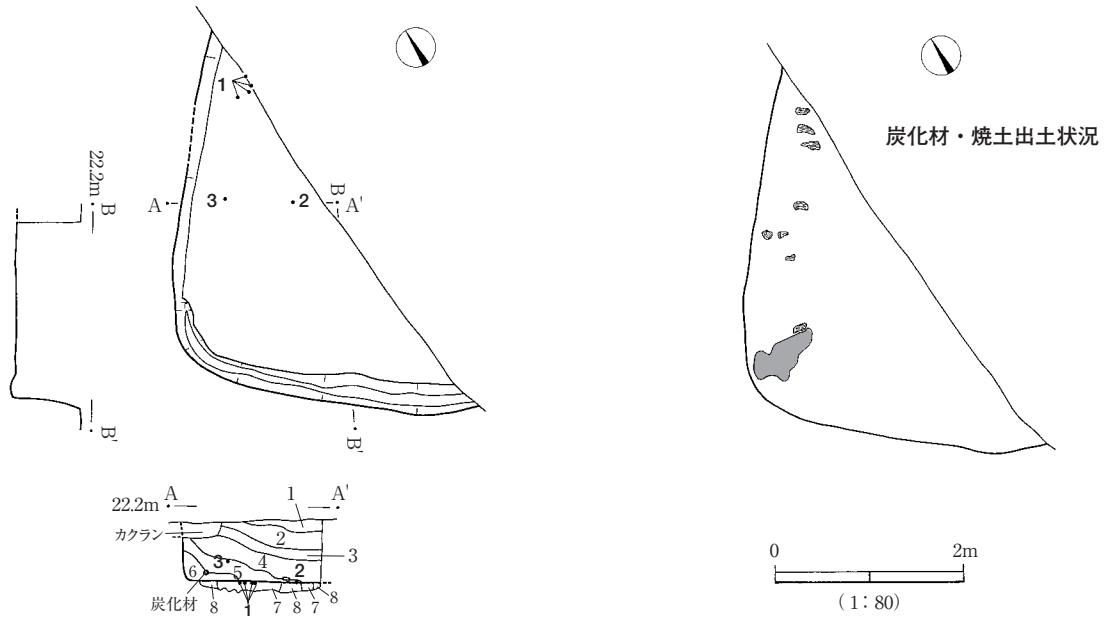
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他	
1	明瞭	7.5YR3/2, 2/2	富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア	
2	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	径0.5~2mm黄色スコリア	
3	明瞭	7.5YR3/3, 4/3 7.5YR4/4まだら	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根含む	径1cmロームブロック	
4	明瞭	7.5YR3/2 7.5YR3/3まだら	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	弱	細根含む	径0.5~5mm黄色スコリア	
5	判然	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根含む	径5mm黄色スコリア	
6	3に似る 不明瞭	7.5YR3/3, 4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根含む		
7		7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	弱	細根含む	径1cmロームブロック	
8		7.5YR4/4 ソフトロームに似る	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む		
9		7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	壁溝覆土	
貼床												
10		床の硬い部分	7.5YR3/3, 4/3, 4/4 混じり合った土	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根含む	径2~3cmロームブロック, まばら
11		床のやわらか い部分, など	7.5YR3/3, 4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径2~5cmロームブロック, まばら
12			7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
炉跡												
13	明瞭		7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	黄色スコリア焼土粒子まばら
14			5YR4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	焼土主体, 焼土粒子ブロック, 下面は 火床
15	明瞭		2.5YR4/6, 5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	
16			7.5YR4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	径2~3cmロームブロック
P1												
17	明瞭		7.5YR3/2, 3/3	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 径1cmロームブロック
18			7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	12	中	細根含む	径0.5~1cmロームブロック
19	他と判然		7.5YR3/3	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
20	他と判然 明瞭		7.5YR3/3, 3/2	富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 炭化材片
21			7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中~強	細根含む	土器片含む



第70図 7D住居跡出土遺物実測図

7D住居跡出土遺物観察表 (第70図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部	口径 18.4 器高 <4.8>	外) 口縁部, 単節縄文LR。下端を施文具押圧によるキサミ。頸部, 赤彩。ハケ後ミガキ。 内) ミガキ。	○砂粒 ○不良 ●外) 淡橙色, 赤色 (赤彩部) 内) 灰褐色	内外面, 剥落。	107
2	複合口縁壺	口縁部	口径 (18.0) 器高 <2.0>	外) 口唇部, 口唇部, 網目状捺糸文を施す。下端に押圧による刻み。 内) ミガキ, 赤彩。	○細砂粒 ○良好 ●外) にぶい橙色 内) 赤褐色 (赤彩部)		148
3	複合口縁壺	口縁部	口径 (16.0) 器高 <6.0>	外) 横ハケ後ナデ, 縦ハケ。 内) 横ハケ後ナデ。	○砂粒 ○良 ●浅黄橙色		99-100-144-149 -153-154
4	複合口縁壺	口縁部	口径 (22.2) 器高 <3.5>	外) 横ナデ, 斜ハケ後, 縦ミガキ。 内) 横ナデ後, 縦ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●灰褐色, にぶい褐色, 浅黄橙色		88-135-136
5	複合口縁壺	口縁部	口径 (18.2) 器高 <4.7>	外) 横ハケ後ナデ, 縦ハケ後ミガキ。 内) 横ハケ後ミガキ。	○砂粒 ○良好 ●橙色, にぶい橙色, 灰褐色		147-150-152
6	壺	口縁部~ 胴上部	口径 (15.8) 頸径 (10.5) 器高 <22.0>	外) 横ハケ後ナデ, 斜, 縦ハケ後縦ミガキ。 内) 横ハケ後ミガキとナデ。横ヘラナデ 工具痕あり。	○砂粒 ○良好 ●灰褐色, 橙色, にぶい橙色		35-37-38-41-48- 56-57-65-66-67- 68-72-74-76-79- 121-122-123-124
7	鉢	略完形	口径 9.0 底径 3.4 器高 9.1	外) 口縁部横ナデ。胴部, 縦ミガキ。 底面, ナデ。 内) ナデ。	○白色粒子, 赤褐色スコリア, 砂粒 ○不良 ●橙色	内外面, 剥落著しい。	142-143-145-146 -151-155-157- 一括
8	石鏃。一部欠損。2.6cm×1.7cm×0.35cm。質量1.1g。チャート						58



第71図 8D住居跡実測図，遺物出土状況図

8D住居跡土層観察表（第71図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/2, 2/2	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア多い
2	判然	7.5YR2/2, 3/2	富む	Si L	亜角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径0.5~2mm黄色スコリア多い
3	明瞭	7.5YR3/2, 3/3	富む	Si L	亜角塊状	富む	小	18	弱	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア多い
4	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア多い
5	明瞭	7.5YR4/3	含む	Si CL	亜角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア多い
6	判然	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径0.5~3mm黄色スコリア多い 炭化材片含む，焼土粒子
貼床											
7		7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根有り	径0.5cm以下のロームブロック
8		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根有り	径0.5cm以下のロームブロック



第72図 8D住居跡出土遺物実測図

8D住居跡出土遺物観察表（第72図）

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部 ~頸部	口径 (15.8) 器高 <5.2>	外) 口唇部，工具押圧によるキザミ。 複合口縁部に，ナデ，指頭圧痕が 残る。縦ハケ。 内) 横ハケ，ナデ。	○胎土 ○焼成 ●色調 ○細砂粒 ○良好 ●外) 灰褐色 内) にぶい赤褐色，灰褐色		4-5, 8-9一括
2	台付甕	脚部	底径 9.2~9.9 器高 <7.9>	外) 縦ハケ。 内) 甕部ミガキ，脚部横へら削り。	○胎土 ○焼成 ●色調 ○細砂粒 ○良好 ●外) 灰褐色 内) 甕部，褐灰色，脚部， 赤褐色		6
3	高坏	坏部	口径 (10.2) 器高 <4.1>	外) 斜ミガキ，縦ハケ。 内) 斜ミガキ。	○胎土 ○焼成 ●色調 ○細砂粒 ○やや脆い ●外) にぶい褐色 内) にぶい赤褐色，赤褐色		7一括

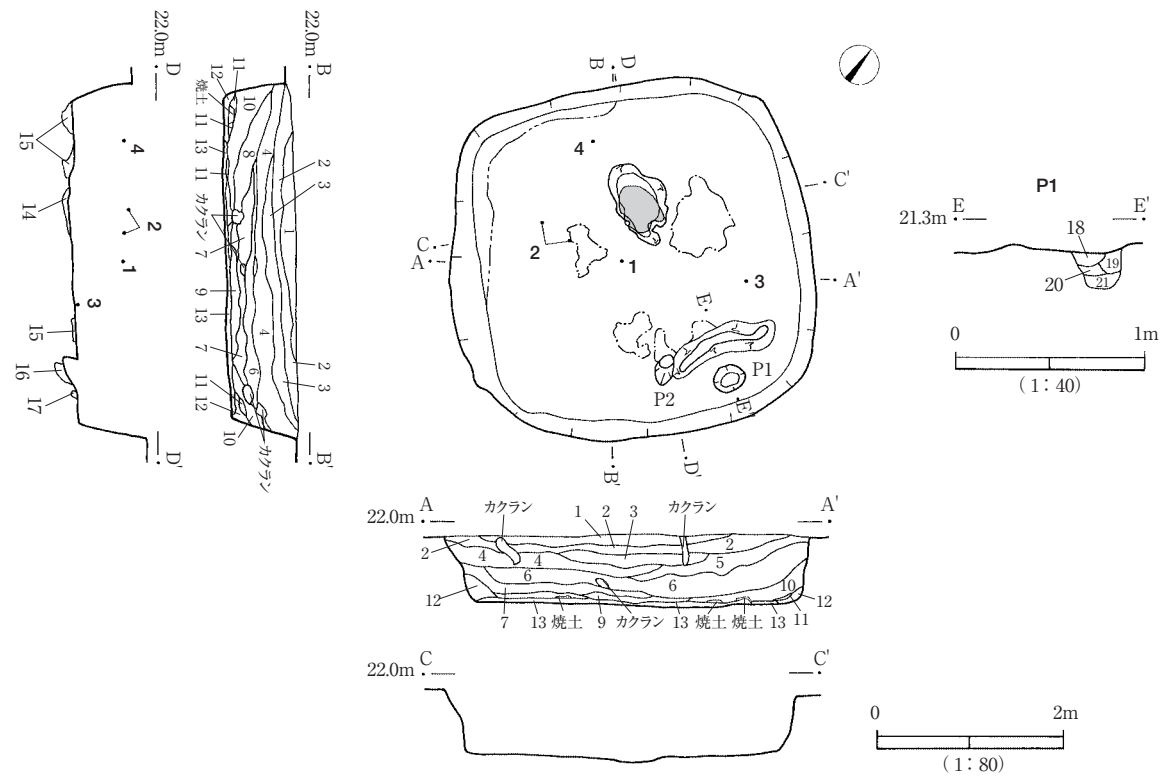
ロームから成る。しっかりした掘り込みで明瞭な壁である。**壁溝・柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** P1が相当する。上面33×28cm, 底面18×13cm, 深さ19cm。平面形は楕円形, 整った形のピットである。P1の北西に周堤帯が作られている。**ピット** P2は入り口施設関連と思われる。上面31×18cm, 底面径14cm, 深さ15cm。**炉跡** 上面93×58cm, 底面70×40cm, 平面形は不整な楕円形。住居中央部の北西壁寄りのところに作られていた。自然層を掘り込んだ後, ロームブロックを埋め戻している。基層の掘り込み底面は緩やかなすり鉢状, 炉床面はごく浅い緩やかな窪みで凹凸がある。火床は明瞭で53×34cmの範囲が赤色化していた。**床面** ローム層を一旦掘り下げ, 暗褐色土・褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し, 床材としていた。住居北半及びP1・P2周辺に相当するところがやや深く掘られていた。床表面は, 炉の周辺とP1北西側の周堤帯付近で硬化している。本遺構の周堤帯はやや直線的で, 規模は幅30cm, 長さ1.2m, 高さ4～5cmである。

出土遺物 総数46点(土器片46点)出土。装飾壺や頸部の屈曲の弱い甕等が出土した。第75図3は異質な土器である。厚手で作りが粗く器形も他に例が無い。**炭化材** 49点出土。北西壁近くに偏っていた。樹種同定の結果, ハンノキ亜属, トネリコ属が多く次いでクヌギ節となっており, 他の住居跡とは異なった傾向となっている(Ⅲ1参照)。

10D住居跡(第76図～77図)

位置 C2-31G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向3.16m, 北東-南西方向2.7m, 深さ12～28cm。住居北西部は確認調査トレンチのため浅くなっている。**主軸方向** N-52°-W。**覆土** 暗褐色土・褐色土が主体。1層に焼土粒子・炭化材が含まれていた。明瞭ではなかったが, 3層の土が住居中央に盛土状に堆積している点の特徴である。人為的に埋められたのであろう。**壁面** 褐色土・ソフトロームから成るが, 捉えにくく掘りすぎた部分が多い。捉えることができた部分は垂直な壁となった。**壁溝・柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 位置的にはP1が相当するが, 上面30×27cm, 底面14×8cm, 深さ10cm, 円形の小ピットである。**炉跡** 上面44×40cm, 底面35×26cm。平面形は円形。住居中央部から北コーナー寄りのところに作られていた。ローム層を掘り込んだ後, 褐色土・暗褐色土を埋め戻している。基層の掘り込み底面はすり鉢状, 炉床面はごく浅い緩やかな窪みである。赤色化した火床が認められた。炉の覆土は北半に炭化材片が多く, 南半に焼土が多く認められた。**床面** ローム層を北側は深く南側は浅く掘り下げ, 暗褐色土・褐色土の混合土を埋め戻し床材としていた。床表面は住居中央で硬化しているが, しまりがよいという程度のものである。

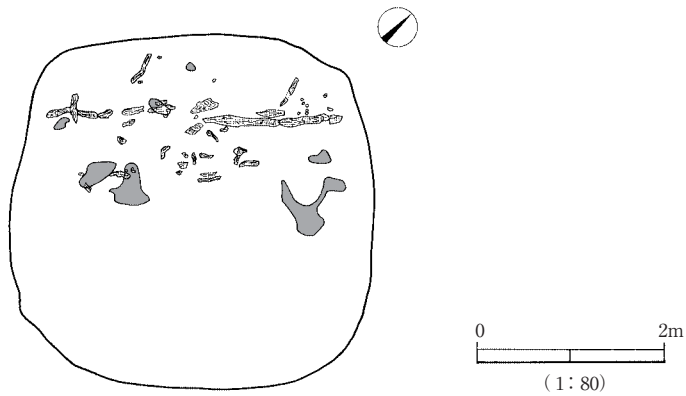
出土遺物 総数75点(土器片72点・石3点)出土。ハケ目のつけられた土器片や網目状撚糸文の土器片が認められたが, 小破片が中心で図示できるものは少なかった。第77図1の埴は, 定型化したものであり, 明らかに新しい様相を示している。**炭化材** 炉跡から1点出土した。



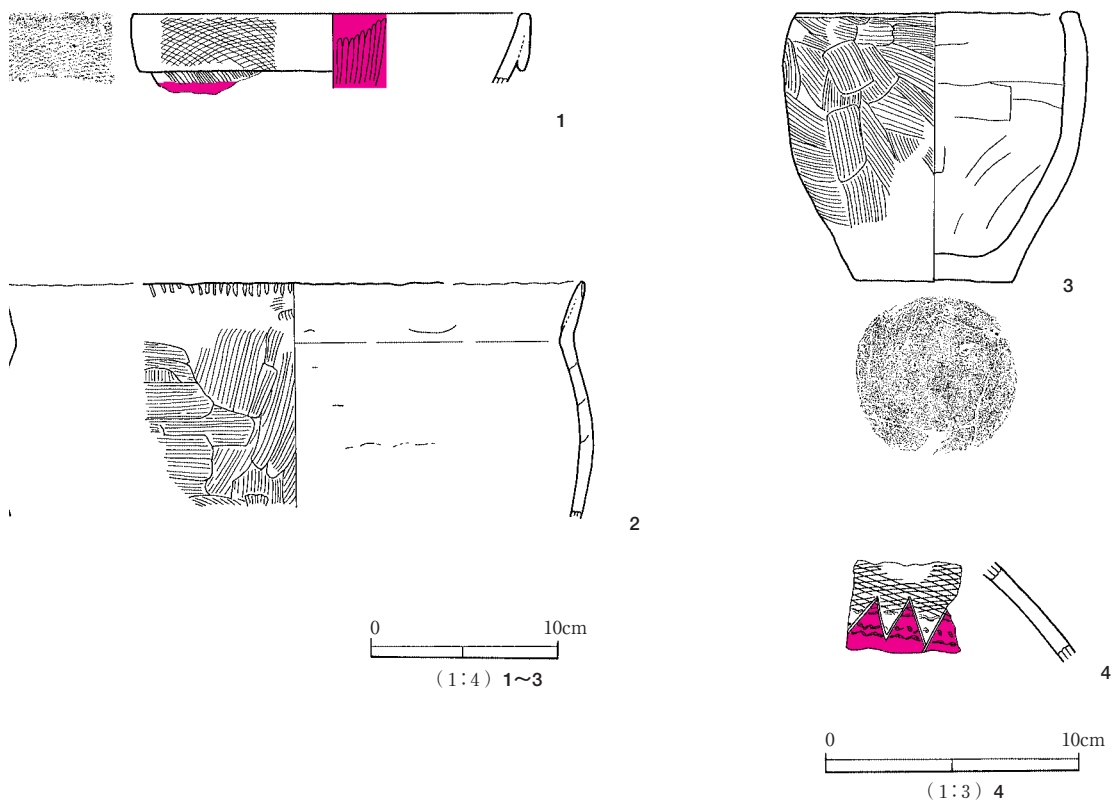
第73図 9D住居跡実測図

9D住居跡土層観察表 (第73図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5YR2/2, 3/2	富む	Si L	小垂角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	径0.5~1mm黄色スコリア
2	明瞭	7.5YR3/2, 3/3 7.5YR4/3, 雲状	富む	Si CL	垂角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	径0.5~1mm黄色スコリア
3	明瞭	7.5YR4/3, 3/3 混じり合う	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア
4		7.5YR3/3, 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径5mm黄色スコリア 径0.5~1mm黄色スコリア
5	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	-	-	-	-	-	-
6	明瞭	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	18	中	細根富む	径1cm以下のロームブロックまばら 径1mm黄色スコリア
7	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	18	中	細根富む	径5mm以下黄色スコリア
8	6と明瞭	7.5YR4/3	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径1~2cmロームブロック 径5mm以下黄色スコリア
9	他と明瞭	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1~3cmロームブロック 焼土粒子少
10	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	14	中	細根富む	径1mm黄色スコリア
11	判然	7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	15	中	細根含む	焼土, 炭化材含む
12		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径2mm黄色スコリア ローム混じり
13	9と判然	7.5YR3/3, 4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	あり	小	22	中	細根有り	ロームまじり, 床面直上
貼床											
14		2.5YR4/6, 5YR6/8	含む~ 富む	S L		含む	中	24	0	細根有り	火床。ハードロームが焼けた部分。灰か 炭化物片含む黒色土がこびりつく
15		7.5YR3/2, 3/3 7.5YR4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	垂角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	ロームブロック, 径3mm以下 貼床
16		7.5YR3/2, 3/3 7.5YR4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	垂角塊状	含む	小	24	中	細根含む	P2内, 貼床の土に似る 径5cm以下のロームブロック
17		7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	カクラン的やわらかい土
P1											
18	明瞭	7.5YR3/2, 3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	22	弱	細根含む	焼土粒子, 炭化材片 径2mm以下黄色スコリア
19	明瞭	7.5YR3/3, 4/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	疎	中	細根含む	ローム混じり
20	明瞭	7.5YR3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	疎	中	細根含む	焼土粒子, 炭化材片
21		7.5YR4/3	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	疎	中	細根有り	



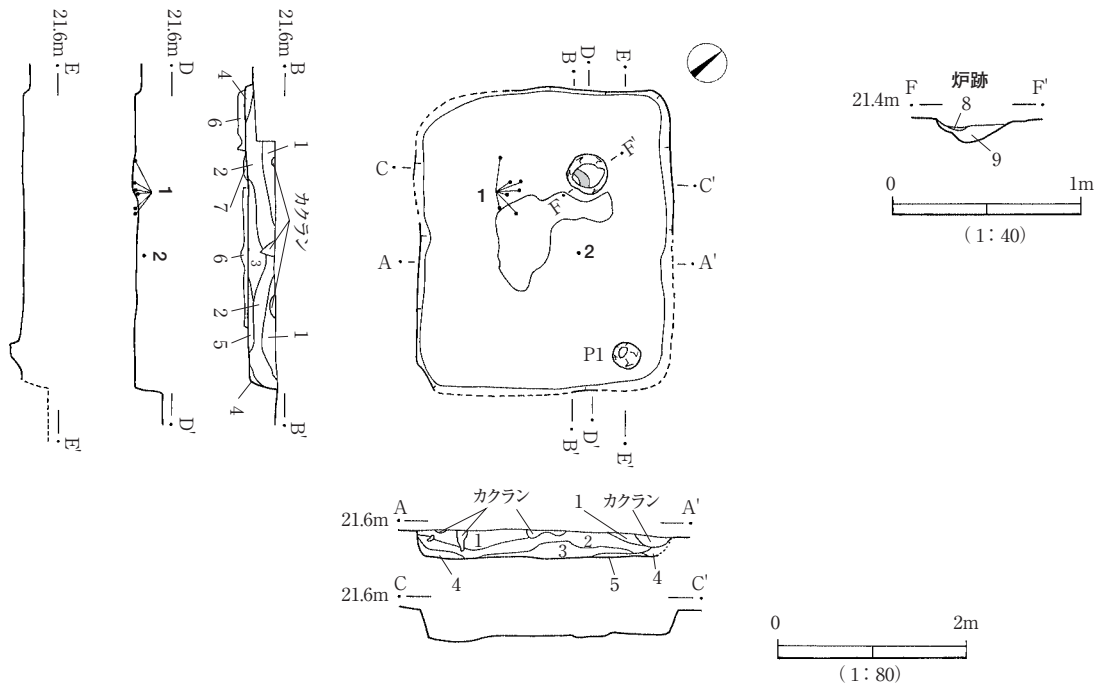
第74図 9D住居跡炭化材・焼土出土状況図



第75図 9D住居跡出土遺物実測図

9D住居跡出土遺物観察表 (第75図)

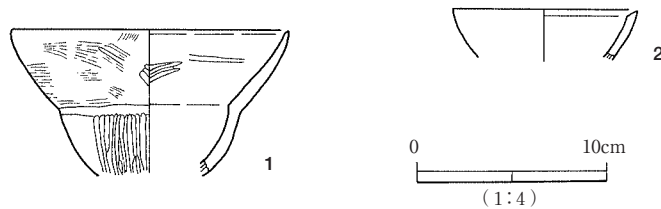
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (21.0) 器高 <3.7>	外) 網目状燃糸文(単軸絡条体第5類)斜ハケ、赤彩。口唇部、網目状燃糸文を施す。 内) 縦ミガキ、赤彩。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 浅黄橙色、赤色 ●内) 赤色		44
2	甕	口縁部～胴中部	口径 (30.8) 器高 <12.3> 胴部最大径 (31.6)	外) 口唇部に刺突。口縁部、横ハケ後横ナデ。胴部、縦、斜ハケ後、横ハケ。内) 横ハケ後、横ナデ。輪積み痕を残す。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色、灰赤色 ●内) 灰赤色、赤灰色	煤状物質付着。	9-32
3	鉢	口縁部～底部1/2	口径 (15.0) 底径 8.0 器高 14.3 胴部最大径 (16.0)	外) 多方向のハケ、ナデ。底面、ナデ。内) 横ヘラナデ、斜ナデ。	○細砂粒 ミガキ。 ●灰褐色、にぶい褐色 ●にぶい橙色	◎やや脆い	46
4	壺	胴上部	器高 <4.0>	外) 網目状燃糸文(単軸絡条体第5類)と、S字状結節文の文様帯を山形文で区画するが、外を磨り消さないで、赤彩。 内) 縦ミガキ、赤彩。	○赤褐色スコリア、細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい橙色、赤色 ●内) 赤色		1



第76図 10D住居跡実測図

10D住居跡土層観察表 (第76図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	19	弱	細根富む	径0.5mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化材片
2		7.5YR3/3, 4/3, 4/4 7.5YR3/2混じり合っ たような土	含む～ 富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	弱	細根富む	径1cm以下黄色スコリア
3	漸変	7.5YR3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	弱	細根富む	径5mm以下黄色スコリア 径2～3cmロームブロック
4	2と明瞭	7.5YR4/4, 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
5	2・3と判然	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む		23	中	細根含む	床の一部含むか
6		7.5YR3/3, 4/3, 4/4 まだらな色調	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	貼床
7		5YR4/3焼土	含む	CL	小亜角塊状	富む	小	16	弱	細根含む	焼土粒子含む, 下面に火床有り 炉跡覆土
炉跡											
8	明瞭	2.5YR4/6	含む	Si L	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根含む	焼土主体。火床
9		5YR4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	



第77図 10D住居跡出土遺物実測図

10D住居跡出土遺物観察表 (第77図)

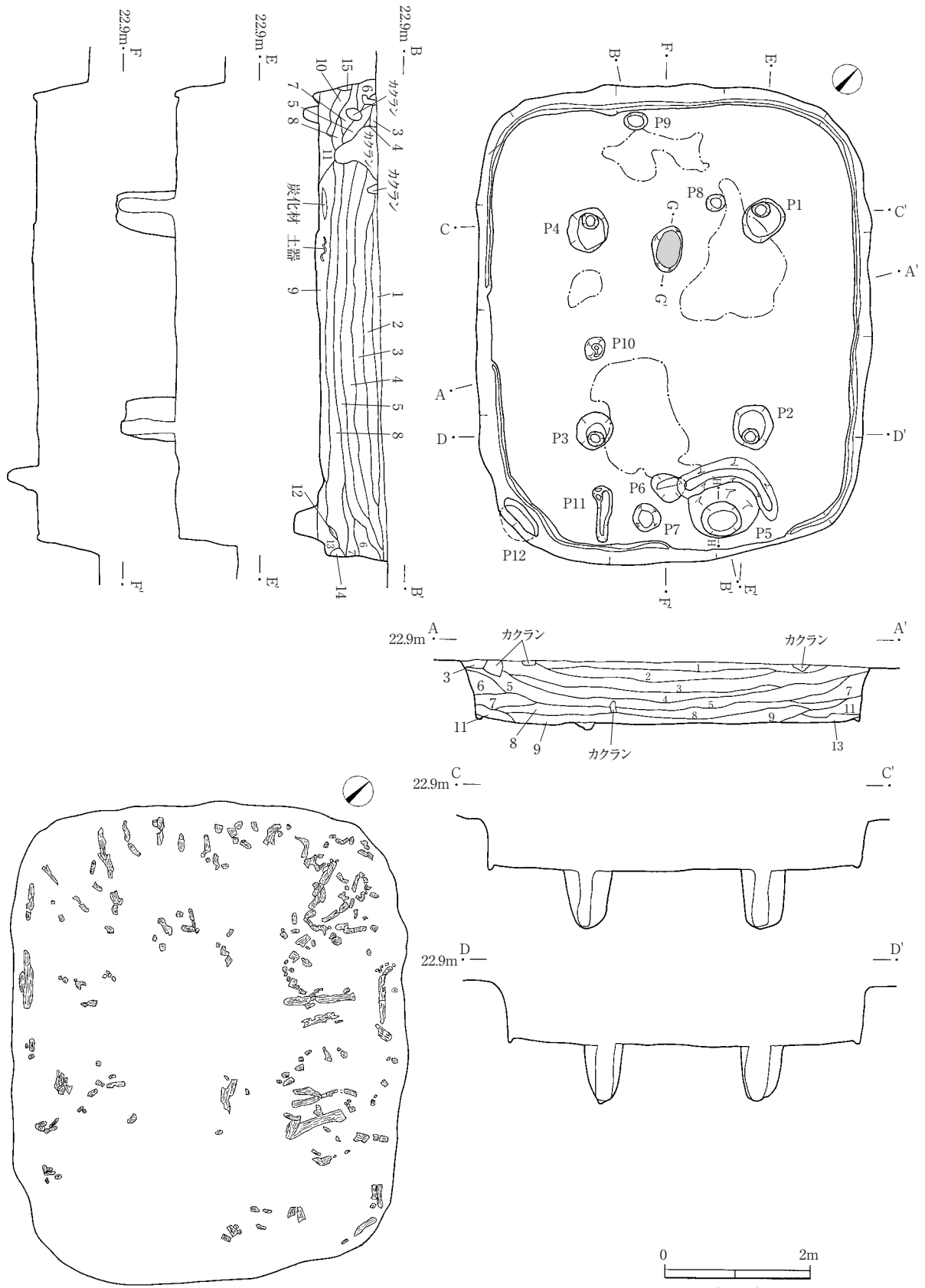
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	埴	口縁部 ～胴部	口径 14.8 器高 <7.6>	外) 横ナデ。斜, 縦ミガキ。 内) 横ナデ, 斜ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●外) 黒褐色 内) にぶい褐色		7-8-9-10-12-13- 14一括
2	鉢	口縁部	口径 (9.8) 器高 <2.6>	外) ナデ。 内) ナデ後, ミガキ。	○砂粒 ○良好 ●褐灰色		26

11D住居跡（第78図～82図）

位置 C1-89・99G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向6.58m，北東-南西方向5.44m。深さは68～88cm。**主軸方向** N-47°-W。**覆土** 黒褐色土主体の層が2～5層と厚く堆積している。最も黒色味の強いのは4層。床面に近い9・10・12・13層に焼土・炭化材片が含まれ，12層が特に多い。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がり，上部ではやや緩やかになり，一部が崩落したものと思われる。**壁溝** 幅12cm前後，深さ3～11cm。南東壁際のP5の南と，南西壁際中央以外を巡っている。壁溝の下場はローム層。**柱穴** 柱痕跡もしくは埋設土の残る柱穴は4本確認した。平面では短辺P2・P3間がやや狭い長方形に配置されており，柱痕跡間の距離から見た柱間は，短辺のP1・P4間で2.46m，P2・P3間で2.11m，長辺P1・P2間で3.06m，P3・P4間で2.94m。P1上面62×52cm，底面48×45cm，深さ84cm，柱痕跡26×24cm，深さ80cm。P2上面63×56cm，底面45×36cm，深さ72cm，柱痕跡30×16cm，深さ76cm。P3上面52×50cm，底面30×28cm，深さ79cm，柱痕跡径24cm，深さ77cm。P4上面60×56cm，底面50×40cm，深さ82cm，柱痕跡28×22cm，深さ78cm。柱痕穴の覆土は，上層では焼土粒子・炭化材片を含む暗褐色土層，下層ではロームブロックを含むしまりの極く弱い褐色土層，柱材埋設土はロームブロックを主体とするしまりの強い褐色土である。**貯蔵穴** P5が相当する。南東壁際中央やや東コーナー近くで検出した。覆土は暗褐色土・黒褐色土。上面53×49cm，底面40×28cm，深さ41cm。長さ176cmの弧状の周堤帯をもつ。P12も貯蔵穴の可能性がある。南コーナー壁溝の外側，壁を掘り込んだもの。上面68×20cm，底面66×34cm。**ピット** 他に6基確認した。P6は南東壁側の立ち上がりが傾斜するので，入り口関連施設と思われる。覆土は褐色土主体。上面48×42cm，底面35×8cm，深さ42cm。P7，P8，P9，P10は床面上に据えられた施設の痕跡，あるいは生活痕跡と思われる。P7は深さ8cm，P8は深さ10cm，P9は深さ20cm，P10は深さ14cm。P11は間仕切りの溝か。上面84×24cm，深さ6～15cm。**炉跡** 中央から北西のP1・P4間に寄った位置に設置されていた。平面形は長径63cm，短径44cmの楕円形で，炉床面の深さ4cm。貼床層を掘り込んでいる。炉床はほぼ平坦の浅い皿状の窪みである。掘り方については調査しておらず不明。**床面** 壁際を中心に，地山ローム層を一旦掘り下げ，暗褐色土ブロックとロームブロックの混合土を埋め戻し，床材としていた。床表面はP6・P10間の付近と炉の周辺が硬化している。

出土遺物 総数975点（土器片938点・粘土塊3点・軽石12点・石18点・鉄4点）出土。装飾壺の他，ハケ目の壺・甕・台付甕・小型土器等が出土している。図示した遺物は主にP5の周辺と炉の周辺に集中していた。床面直上というよりは，若干浮いた状態で出土した遺物が多い。特に11などは破片化し壁際の堆積土に乗った状態で出土したようである。住居が廃絶された直後の土砂の流入の後に土器等の廃棄が行われたようである。18は一見台付甕の脚部であるが，甕部の底部付近に焼成前に作られた縁がある。つまり甕部の底近くに穴があいていたことになり，台付甕とは考えにくい。器台の類であろうか。軽石の碎片はP5の周辺の床面付近に集中して出土した。鉄製品は釘状のものと鉄滓とが出土したが，いずれも覆土上層からの出土であった。

炭化材 本住居からは炭化材が多量出土した。その出土状況を見ると，主に住居の壁面に平行しているものと，直交しているもの，対角線上にあるものが認められる。これらは木材が使われていた状況を反映している可能性がある。11D以外にも炭化材を多量出土した遺構があるが，それらの中で11Dが最も状態が良好である。樹種同定の結果，クヌギ節がほとんどで，木取りとしてはみかん割材，角材が多いことがわかった（Ⅲ1参照）。

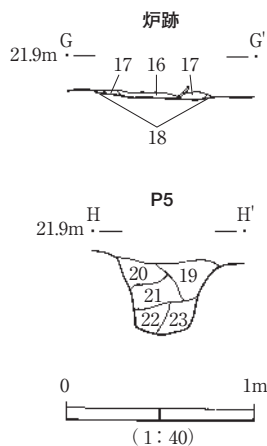


炭化材出土状況

第78図 11D住居跡実測図

11D土層観察表（第78図）

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/3主体, 7.5YR3/1	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	
2	判然	7.5YR3/1 7.5YR3/3班状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径1mm以下黄色スコリアまばら
3	明瞭	7.5YR3/1 7.5YR3/3班状	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径1mm以下黄色スコリア, 2より多
4	判然	7.5YR3/1	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア, 3より多
5	判然	7.5YR3/1と3/3 混じり合う	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア, 4より多 焼土粒子まばら
6	漸変	7.5YR3/3 4/3班状, 4/4にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア まばら
7	漸変	7.5YR3/3 7.5YR4/3, 班状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア, 6より多
8	5と漸変 判然	7.5YR3/3	富む	CL	亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア, 5と同じ くらい 焼土粒子まばら
9	他と判然	7.5YR3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径1cm以下ロームブロック, 黄色スコリア 焼土, 焼土粒子, ブロック, 炭化材
10	明瞭	7.5YR4/3	含む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根含む	径1cm以下ロームブロック, 黄色スコリア 含む, 炭化材, 焼土粒子
11		7.5YR4/3, 3/3 まだらに混じり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径1cm以下ロームブロック
12	明瞭	7.5YR3/2炭含む土, 3/3, 2.5YR4/6焼土	含む～ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根含む	焼土, 炭化材
13	明瞭	7.5YR3/3, 3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径1cm以下ロームブロック, 黄色スコリア 焼土粒子, 炭化物
14		7.5YR4/3 7.5YR4/4ローム	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径4mm以下黄色スコリア
15	他と明瞭	7.5YR4/5, ソフトローム	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根有り	



炉跡土層

- 16. 5YR4/4 (にぶい赤褐色土) 暗褐色土斑状, 径1cm以下焼土ブロック, 径1cm以下焼土ブロック。しまり中。粘性やや弱。
- 17. 5YR3/4 (暗赤褐色土) ローム粒。しまり中。粘性やや弱。
- 18. 7.5YR3/3 (暗褐色土) しまり中。粘性やや弱。

P5土層

- 19. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒多。炭化材 (T160)。しまり弱。粘性やや弱。
- 20. 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒, 炭化物, 褐色土斑状。しまり弱。粘性やや弱。
- 21. 7.5YR2/2 (黒褐色土) ローム粒少。しまり弱。粘性やや弱。
- 22. 7.5YR3/4 (暗褐色土) しまり弱。粘性やや弱。
- 23. 7.5YR4/3 (褐色土) ロームブロック微。しまり弱。粘性やや弱。

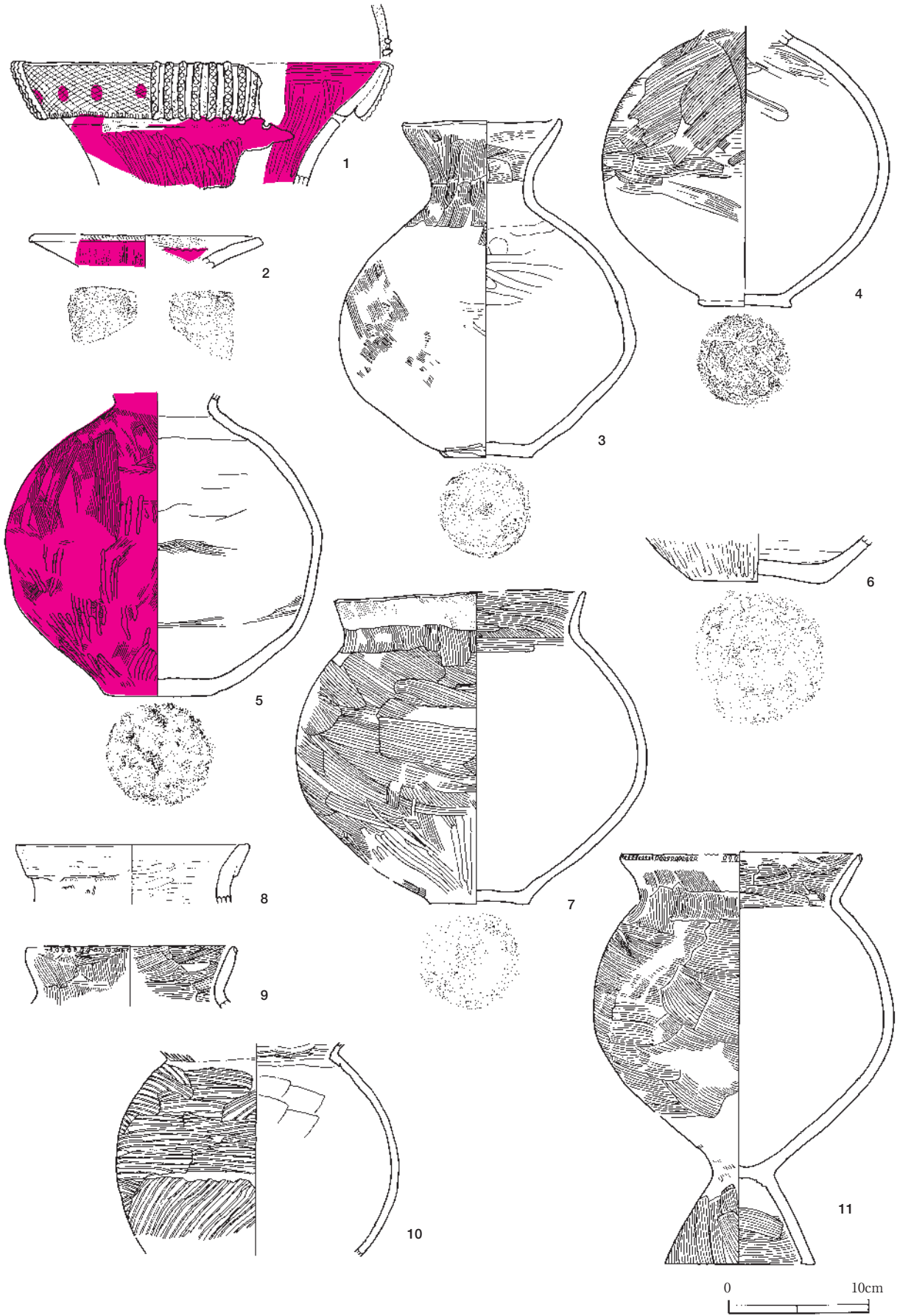
第79図 11D住居跡炉跡・P5断面図

12D住居跡（第83図～87図）

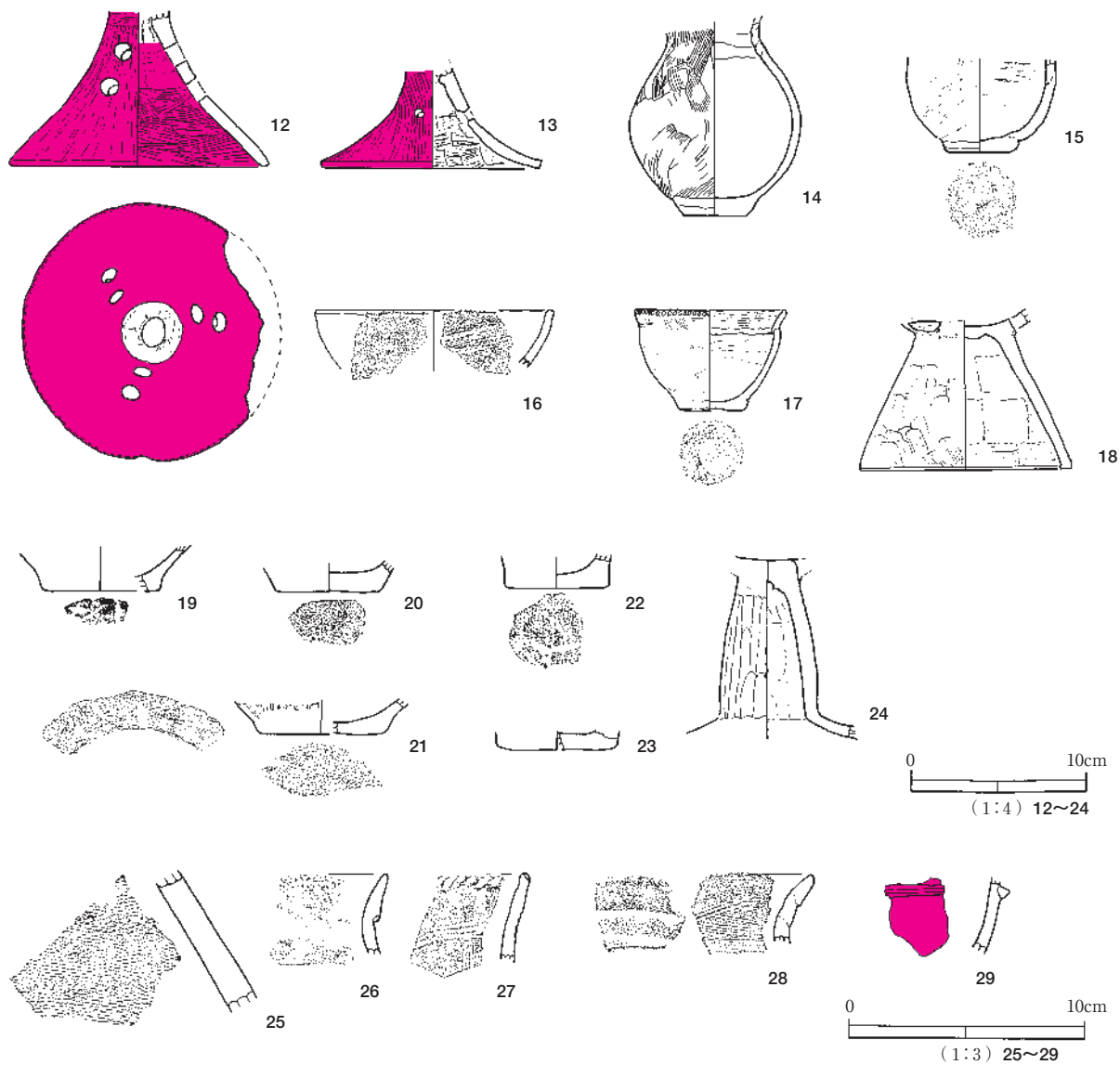
本住居跡には拡張した痕跡があり, 古い住居を埋めて新しい住居の床が構築されていた。このため, 古い住居の床面の状況をも確認することができた。拡張後の新しい住居跡をA, 拡張前の古い住居跡をBとして以下に記す。

12D-A住居跡

位置 C1-98・99G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向5.86m, 北東-南西方向4.4~4.76m。深さ48cm前後。**主軸方向** N-51°-W。**覆土** 土層調査の段階ではB住居跡の存在に気づかなかった。2~9層までがA住居跡の覆土に当たる。上層の3~5層が黒褐色土主体で5層が最も黒い。5・6・9層に焼土粒子と炭化材片が含まれる。10~12層はA住居の貼床の土であり, 特に10層はB住居を埋めた土の主体でもある。7層とよく似た特徴の土なのでA住居跡の床面を認識することができなかった。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がり, 上部ではやや緩やかな所もあり, 一部が崩落したものと思われる。**壁溝** 検出されなかった。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** P1が



第81图 11D住居跡出土遺物実測図(1)



第82図 11D住居跡出土遺物実測図 (2)

11D出土遺物観察表 (第81・82図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (26.8) 器高 <8.9>	外)口唇上端RL縄文, キザミのある棒状付文, 網目状捺糸文, 円形赤彩, キザミ, 縦ハケ後ナデ・縦ミガキ, 赤彩。 内)横・縦ミガキ, 赤彩。	○細砂 ○良 ●外) 橙色, 赤褐色 内) 赤褐色	内面, 剥落。	543-544
2	壺	口縁部	口径 (16.9) 器高 <2.3>	外) 口唇部上端, 捺糸文Rによる無節縄文。ヘラケズリ後ミガキ。赤彩。 内) 無節縄文, S字状結節文, 赤彩。	○砂粒 ○良好 ●外) 暗赤褐色 内) にぶい橙色, にぶい赤褐色		100
3	壺	略完形	口径 11.6 底径 6.6 器高 24.3 頸部径 7.5 胴部最大径 21.4	外)縦, 斜ハケ, ミガキ, ナデ。底部, ミガキ。 内) 横ハケ, 横ミガキ, 輪積痕。	○砂粒 ○良好 ●外) 橙色, 暗赤褐色 (赤彩?) 内) にぶい褐色, 褐灰色	内面, 剥落。	301-178-183-188 ~190-265~271- 273-274-277-278 -280~282-284~ 292-298-434-436 ~438-441-443
4	壺	頸部付近~底部 1/2	底径 6.7 器高 <19.8> 頸部径 (5.9) 胴部最大径 (20.7)	外)斜・横ハケ。 内)ヘラナデ。	○砂粒 ○良好 ●黒色, 褐灰色, にぶい褐色, にぶい橙色	内面, 剥落。	380-373~378-381 ~384-371-365~ 367-475-478-175
5	壺	頸部~底部	底径 8.2 器高 <21.8> 頸部径 7.4 胴部最大径 22.8	外) 縦, 斜ハケ後ナデ, 縦ミガキ。赤彩。底部, ヘラケズリ後ナデ。 内) 横ハケ, 横ナデ。	○赤褐色スコリア ○やや不良 ●外) にぶい赤褐色, にぶい橙色 内) 浅黄橙色, 黒色		297-163-164-388 -168-289-388-390 ~397-399-402- 405-411-419-499 -526-527

6	壺	底部	底径 器高	9.4 <3.5>	外) 縦ミガキ。底部, ヘラケズリ, ミガキ。 内) ナデ, 亀裂。	○赤褐色スコリア, 白色, 黒色 粒子, 砂粒 ◎良 ●外) にぶい橙色, 内) にぶい褐色		30
7	甕	口縁部~ 底部 3/4	口径 底径 器高 頸部径	18.2 7.3 22.5 17.0	外) 斜・縦ハケ, 横ナデ, 縦ミガキ。 内) 横・斜ハケ, ナデ, ミガキ。	○細砂 ◎良好 ●外) 黒色, 褐灰色, にぶい橙色 内) 褐灰色, にぶい褐色		312-293~296-300 -304-306-307~311-313-321-323- 326-334-338~340-344-354-446-448 -449-452-455-465-483
8	複合口縁 甕	口縁部	口径 器高	(16.9) <2.6>	外) 横ナデ, 縦ハケ後横ナデ。 内) 横ミガキ, ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色		35
9	甕	口縁部	口径 器高	(15.2) <4.4>	外) 口唇部にキザミ。横, 縦ハケ。 内) 横, 斜ハケ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色		111-115
10	甕	頸部~ 胴下部	器高 頸部径 胴部最大径	<15.3> 12.4 20.3	外) 斜, 横, 粗いハケ。 内) 横ハケ, 斜ヘラナデ。	○砂粒, 小石粒 ◎不良 ●外) 浅黄褐色, にぶい褐色 内) 灰褐色, にぶい褐色		398-401-403-404 -407~410-412~ 418-503-507-513
11	台付甕	口縁部~ 底部 4/5	口径 底径 器高 頸部径 胴部最大径	17.5 10.8 29.4 (14.5) (21.6)	外) 口唇にキザミ, 縦ハケ後横ナデ, 縦・ 横・斜ハケ。脚部, 縦ハケ。 内) 横ハケ, ナデ。脚部, ナデ, 横 ハケ。	○細砂 ◎良好 ●外) 黒色, 褐灰色, にぶい褐色 内) にぶい褐色, 灰褐色	内面, 剥落。	327-182-187-302 -316~320-322-328-329-331-332 335-343-348~352-355~359-361- 459-462~464-466-472
12	器台	脚部	底径 器高	14.7 <8.8>	外) 横ナデ, 縦ミガキ, 赤彩。 内) 横ヘラナデ, 横ハケ, 赤彩 透孔3孔, 2段組。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 赤色, 橙色 内) 明赤褐色		420
13	器台	脚部	底径 器高	12.7 <5.7>	外) 縦ミガキ。 内) 横ナデ, 横ハケ。 透孔4孔。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい赤褐色, 明赤褐色 内) 浅黄褐色		302
14	小形壺	頸部~ 底部 4/5	口径 底径 器高 胴部最大径	(5.3) 3.8 <11.2> 9.8	口唇部の割口を擦って再利用している。 外) 縦・斜ハケ, ナデ。底部, ミガキ。 内) 輪積痕, ナデ。	○雲母, 砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, にぶい赤褐色, 褐灰色, 赤彩か? 内) にぶい赤褐色		423~425-422- 254
15	小型壺 か	胴中部 ~底部	底径 器高	4.3 <5.3>	外) 斜ヘラケズリ。底部, ヘラ ケズリ, ミガキ。 内) 横ナデ。	○長石, 白色・赤色・黒色粒子 ◎良 ●外) にぶい褐色, 褐灰色 内) にぶい褐色		101-97-161
16	碗	口縁部	口径 器高	(13.6) <3.3>	外) ナデ。 内) ナデ, ヘラケズリ。	○白色粒子, 細砂粒 ◎良 ●にぶい褐色		244
17	小型鉢	口縁部 ~底部 2/3	口径 底径 器高	8.7 3.7 5.7	外) 口唇部キザミ, 斜ハケ後横ナデ, 縦ミガキ。底部, ミガキ。 内) 横ハケ後ナデ。輪積痕。	○白色粒子, 赤褐色スコリア, 細砂粒		433-535
18	器台	脚部	底径 器高	12.1 <9.1>	外) 縦ハケ, ナデ。 内) 受部, ミガキ。脚部, ナデ, ヘラナデ, 横ハケ。	○白色粒子, 砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, 橙色, 灰褐色 内) 甕部, 灰褐色 脚部, 橙色		166-426
19		底部	底径 器高	(7.0) <2.6>	外) 横ナデ。底部, 木葉痕。 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) にぶい赤褐色 内) にぶい黄褐色		9
20		底部	底径 器高	(6.0) <1.8>	外) ナデか。木葉痕をナデ, ミガキ で消している。 内) ナデ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 褐灰色, にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色		158
21	小型壺	底部	口径 底径 器高 胴部最大径	(5.3) 3.8 <11.2> 9.8	外) 頸部の割れ口が磨耗している。 再利用している。縦, 斜ハケ, ナデ。底部 ミガキ。 内) ナデ。輪積痕。	○砂粒 ◎良 ●外) 灰褐色 内) 褐灰色, 黒色		214
22		底部	底径 器高	(6.0) <1.9>	外) 横ヘラケズリ後ナデ。底部, 木葉痕。 内) ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良好 ●にぶい赤褐色		99
23		底部片	底径 器高	(6.8) <1.1>	外) ミガキ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 黒色, 灰褐色, 内) にぶい褐色	外面, 煤状の黒色 物質付着。	70
24	高坏	脚部	器高	<10.0>	外) 横ナデ, 縦ハケ後縦ミガキ。 内) 坏部, ナデ。脚部, 横ヘラ, ナデ。	○砂粒 ◎良 ●褐色		62
25	壺	胴上部			外) 撚糸文Rを用いた網目状撚糸文。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色 内) 灰褐色		93
26	複合口縁 甕	口縁部	器高	<3.3>	外) 口唇部上端~口縁部に絡糸体 圧痕, 附加糸1種RL+L。押圧, 横ナデ。 内) 横, 斜ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●にぶい褐色		80
27	甕	口縁部	器高	<3.7>	外) 口唇部上端刻み。平行沈線文。 内) ハケ, ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 褐灰色, にぶい褐色 内) にぶい褐色		89
28	甕	口縁部	器高	<2.9>	外) 輪積痕。 内) 斜・横ハケ。	○細砂 ◎良 ●にぶい褐色		107
29		胴部			外) 隆線, ナデ。赤彩。 内) ナデ。肌荒れ状。	○緻密 ◎良 ●外) 明赤褐色, 内) にぶい褐色		82

相当する。南東壁際中央から北東に寄った位置で検出した。平面形は楕円形。覆土はしまりの弱い暗褐色土が主体。上面64×56cm、底面41×23cm、深さ10cm。**ピット** P2は間仕切り溝であろう。平面形はL字型。上面76×21cm及び56×19cm、底面72×14cm及び44×16cm、深さ6cm。P3はP2の南西に位置する。上面52×17cm、底面40×12cm、深さ6cm。**炉跡** 中央やや北西寄りで見出した。上部を貼床とともに削り過ぎてしまい、残存規模で63×56cm、深さ17cmである。平面形は楕円形。貼床層を掘り込んだ後、6層の黒褐色土・暗褐色土・褐色土を埋め戻し炉床としている。掘り方も炉床もすり鉢状で立ち上がりは緩やかである。**床面** 12D-Bを拡張し、さらに12D-Bの床を埋め立てて作られている。12D-Bの床から4～12cm上の位置となる。拡張部には貼床が薄く認められる。床表面は軟弱。

出土遺物 12D全体で総数864点（土器片721点・砥石2点・軽石116点・石鏃1点・泥岩5点・石18点・鉄製品1点）出土。ほとんどがA住居跡の覆土からの出土である。第86図1・2の良好な壺は、ともに床面の出土である。8は小片であるが、甌と考えられる。他に12・13の附加条縄文の土器片や11の2本同時施文具による渦巻文の土器等古い様相の土器片が紛れ込んでいる。

軽石は東コーナー付近の覆土上層を中心に出土している。鉄製品が1点出土している。

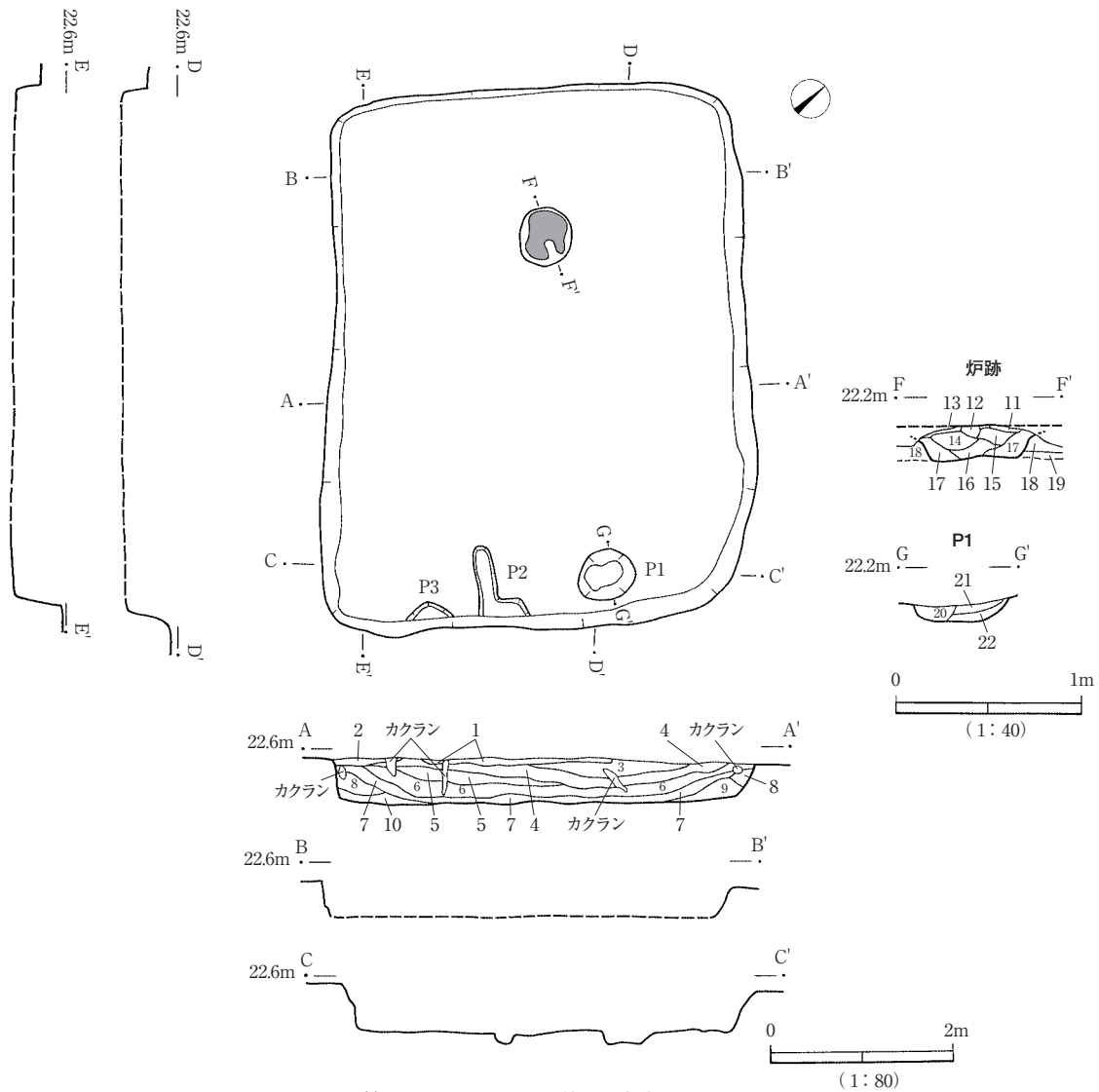
第88図には12D付近で出土した土器底部破片を掲載した。附加条縄文が施されている。やや重厚な作りである。

12D-B住居跡

位置 C1-98・99G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向4.8m、北東-南西方向3.99m。深さ44～64cm。**主軸方向** N-48°-W。**覆土** 本住居跡の覆土はほとんどA住居跡に属するものである。**壁面** 立ち上がりはほとんど残存せず、不明。**壁溝** 北西壁と南西壁の南コーナー付近で見出された。貼床を掘り込んで作っていた。幅11cm前後、深さ6cm前後。**柱穴** 見出されなかった。**貯蔵穴** P4が相当する。東コーナー近くで見出した。上面47×40cm、底面28×26cm、深さ96cm。**ピット** P14には柱痕が認められたが、位置から考えて入り口施設であろう。上面44×36cm、底面34×23cm、深さ23cm。柱痕部は上面24×16cm、底面4×3cm、深さ27cm。覆土は柱痕部がしまりの弱い褐色土、柱材埋設土がロームブロックを含む土。その他のピットの深さは、P5が19cm、P6が13cm、P7が9cm、P8が8cm、P9が5cm、P10が7cm、P11が7cm、P12が22cm、P13が10cmである。P15は貼床調査時に見出したもので、上面56×40cm、底面27×22cm、残存部の深さ12cm。**炉跡** 中央やや北西寄りで見出した。真上にA住居の炉があった。規模は131×58cm、炉床の深さ8cmである。平面形は楕円形。貼床層・ローム層を掘り込んだ後、ロームブロックを埋め戻し炉床としている。炉床は浅いすり鉢状で立ち上がりは緩やかである。**床面** 北西部の壁側を中心に地山ローム層を一旦掘り下げ、暗褐色土ブロックとロームブロックの混合土を埋め戻し床材としていた。特に北西側では暗褐色土ブロックの量が多い。床表面は壁際以外の部分、炉の周辺を中心に硬化していた。

14D住居跡（第89図～91図）

位置 D1-7G。台地先端部。**平面形態** やや北東-南西方向に長い隅丸長方形。**規模** 北東-南西方向3.46m、北西-南東方向3.28m、深さ8～18cm。台地先端側が削られて浅くなっている。**主軸方向** N-56°-E。**覆土** 遺構が浅いため覆土観察面も限定される。1層の黒褐色土、2層の暗褐色土が主体となる。5層に見られる焼土粒子は炉の影響である。**壁面** 南西壁の残りが良く、垂直に近い急傾斜で立ち上がっている。**壁溝・柱穴** 見出されなかった。**貯蔵穴** P1が相当する。西コーナー付近で見出した。平面形は円形。上面38×30cm、底面18×17cm、深さ35cm。6層暗褐色土から土器片が出土した。



第83図 12D-A住居跡実測図

12D-A住居跡土層観察表 (第83図)

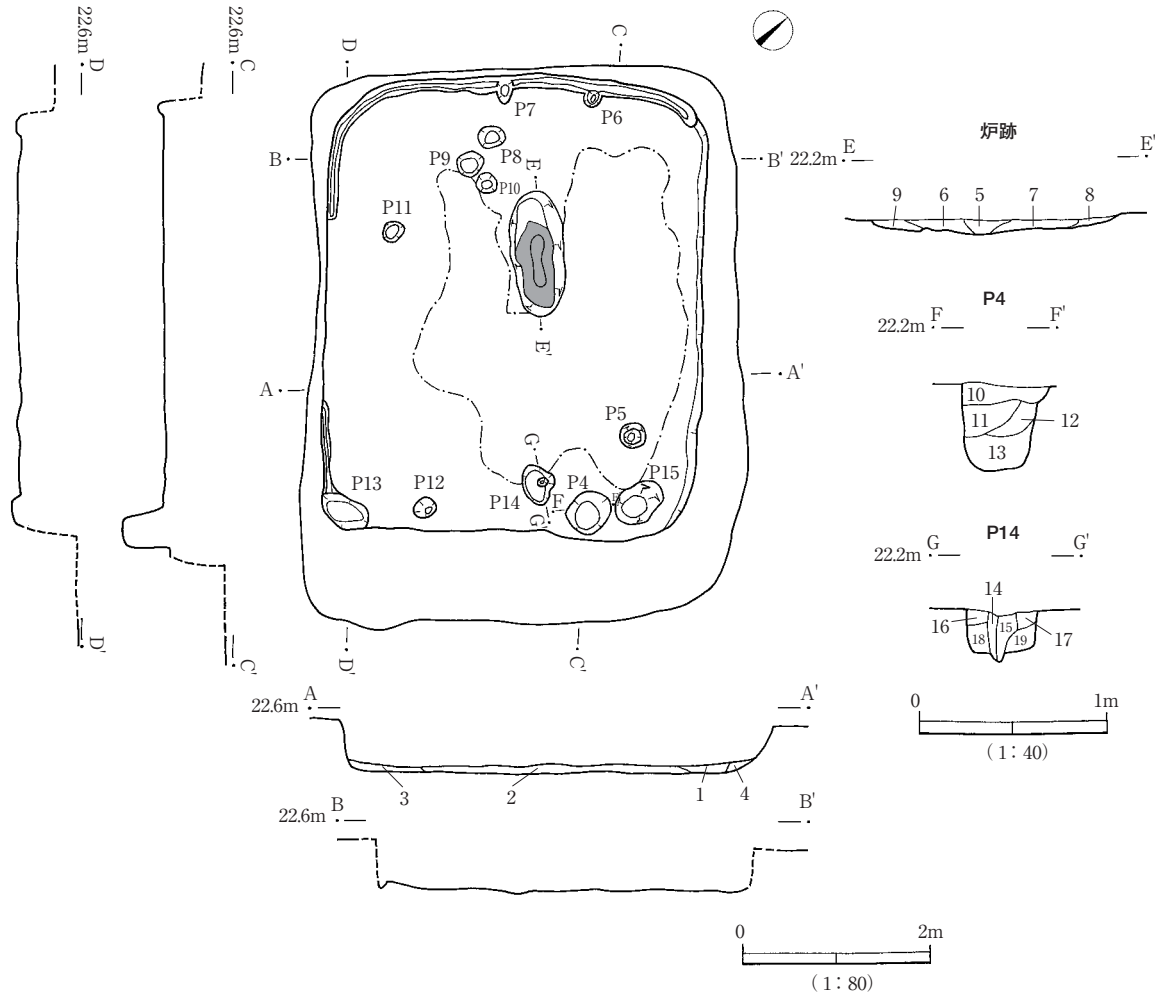
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1								16			確認調査グリッドの埋土
2	明瞭	7.5YR3/2, 3/3, 4/3 4/4不均一に混じり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	カクランか
3	明瞭	7.5YR3/2, 7.5YR3/3班状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	径1mm以下黄色スコリア
4	明瞭	7.5YR3/2 7.5YR3/3班状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	弱	細根富む	径5mm黄色スコリア
5	判然	7.5YR3/1	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化物片
6	判然	7.5YR3/2, 3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化物片
7	漸変	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根含む	
8	判然	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根含む	径5mm以下黄色スコリア
9		7.5YR3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化物粒子
10		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根含む	径1cmロームブロック

12D-A 炉跡土層

11	7.5YR2/3 (極暗褐色土)	暗赤褐色土斑状。しまり弱。粘性中。
12	7.5YR3/2 (黒褐色土)	褐色土斑状, 焼土粒。しまり弱。粘性中。
13	7.5YR3/3 (暗褐色土)	黒褐色土斑状。しまり弱。粘性中。
14	5YR3/4 (暗赤褐色土)	炉跡基層。焼土粒主体, 暗褐色土斑状。
15	5YR4/3 (にぶい赤褐色土)	炉跡基層褐色土斑状, 焼土粒。しまり弱。粘性中。
16	5YR3/2 (暗赤褐色土)	炉跡基層。細かい焼土ブロック。焼土粒微。
17	7.5YR3/4 (暗褐色土)	炉跡基層。褐色土斑状, 焼土粒微。しまり弱。粘性中。
18	7.5YR4/3 (褐色土)	貼床層。暗褐色土斑状。しまり弱。粘性中。
19	7.5YR3/4 (暗褐色土)	貼床層。12DB炉の焼土粒にじむ。焼土粒微。褐色土斑状。

12D-A P1土層

20	7.5YR4/4 (褐色土)	暗褐色土斑状, 径0.3cm以下ロームブロック, 炭化材微。
21	7.5YR3/4 (暗褐色土)	しまり弱。粘性中。 径0.5~1.5cmロームブロック少。炭化材微。しまり弱。粘性中。
22	7.5YR3/4 (暗褐色土)	径0.3cm以下ロームブロック。しまり弱。粘性中。



第84図 12D-B住居跡実測図

12D-B住居跡土層観察表 (第84図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si C	小亜角塊状	富む	小	18	強	細根含む	
2	判然	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根含む	径1cmロームブロック
3		7.5YR3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1cmロームブロック
4		7.5YR4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	20	強	細根含む	径1~2cmロームブロック

炉跡土層

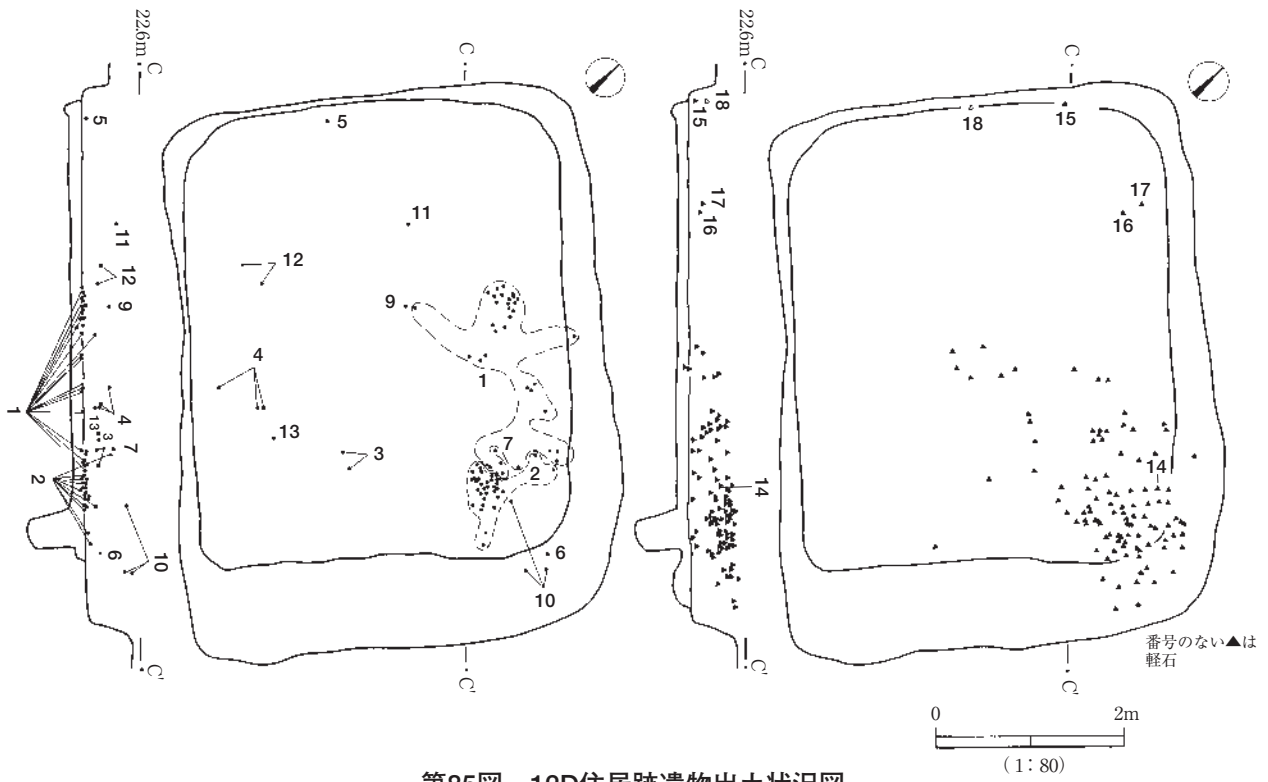
5	7.5YR3/4 (暗褐色土)	焼土粒少, 径0.5cmロームブロック。しまり弱。粘性中。
6	7.5YR3/3 (暗褐色土)	焼土粒多。しまり弱。粘性中。
7	7.5YR4/4 (褐色土)	焼土粒。しまりやや弱。粘性中。
8	7.5YR4/3 (褐色土)	焼土粒, 細かい焼土ブロック。しまりやや弱。粘性中。
9	7.5YR4/3 (褐色土)	焼土粒微。しまり弱。粘性中。

P14土層

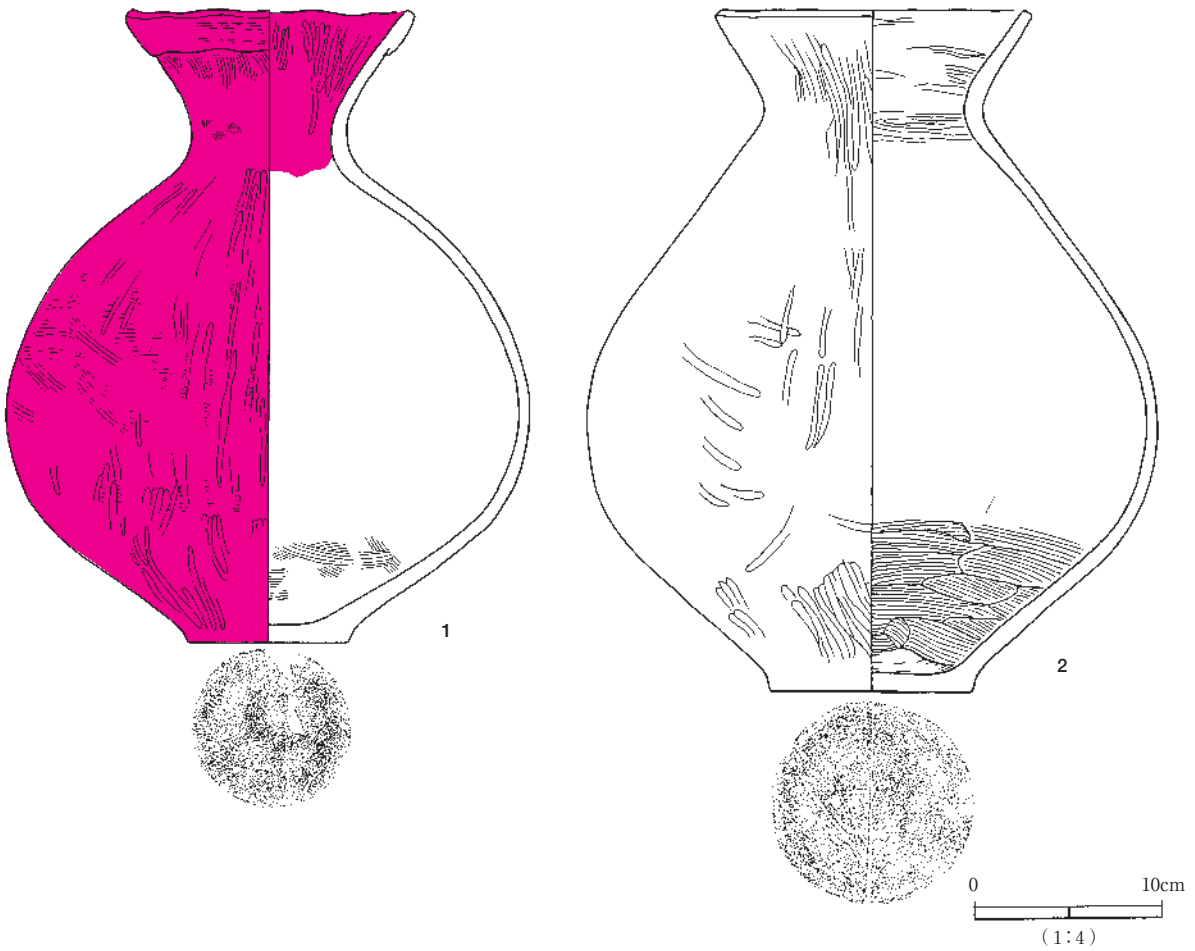
14	7.5YR4/4 (褐色土)	
15	7.5YR4/4 (褐色土)	径1cmロームブロック。しまり極弱。粘性やや弱。
16	7.5YR4/4 (褐色土)	径1cmロームブロック少。しまりやや弱。粘性やや弱。
17	7.5YR4/4 (褐色土)	柱材埋設土。径1cmロームブロック少。しまりやや強。粘性やや弱。
18	7.5YR4/4 (褐色土)	柱材埋設土。細かいロームブロック多。しまり中。粘性やや弱。
19	7.5YR4/6 (褐色土)	柱材埋設土。径1cmロームブロック少。しまり中。粘性やや弱。

P4土層

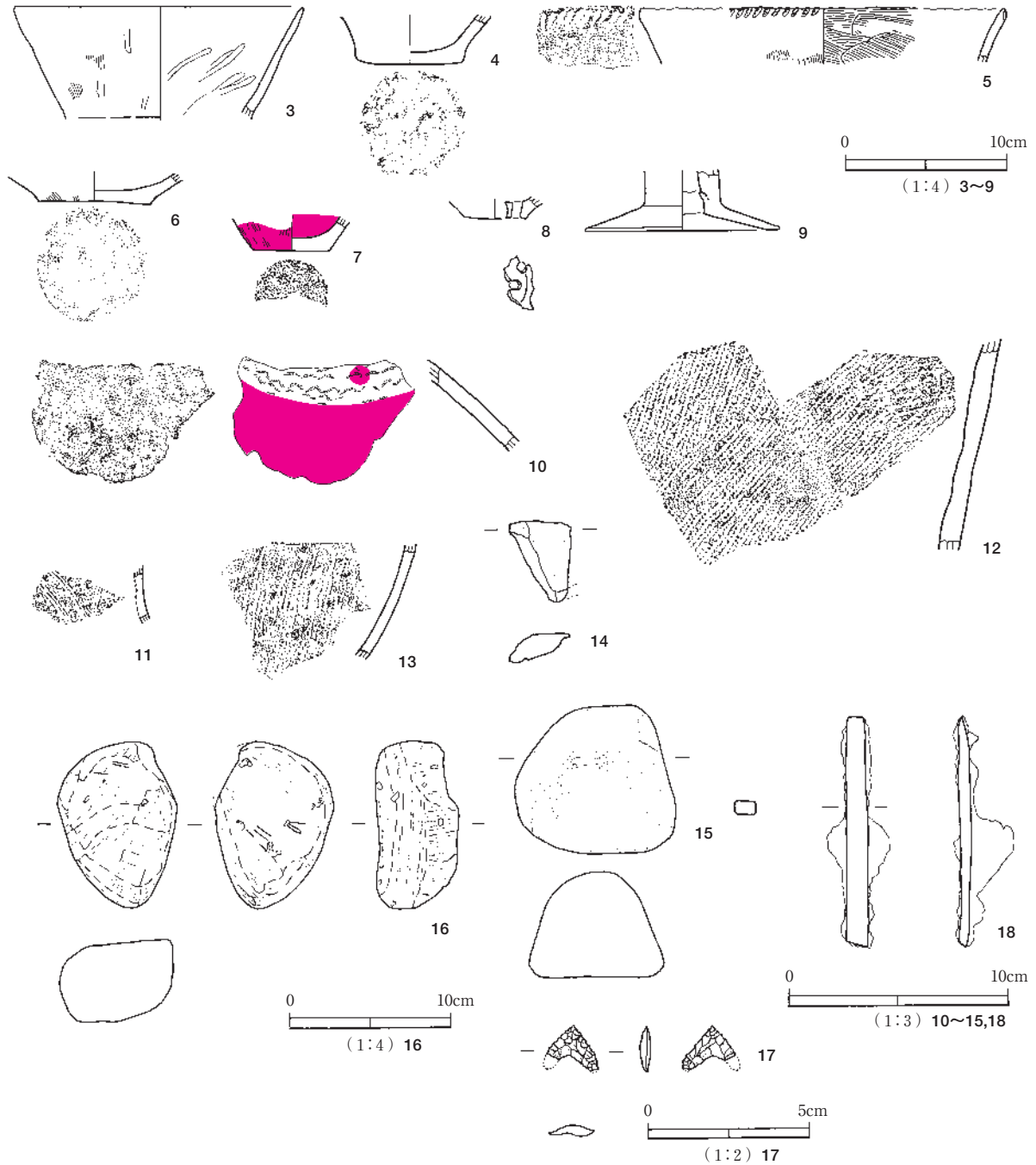
10	7.5YR3/3 (暗褐色土)	褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや強。
11	7.5YR3/2 (黒褐色土)	ローム粒多。しまりやや弱。粘性やや強。
12	7.5YR3/3 (暗褐色土)	ローム粒多。しまりやや弱。粘性やや強。
13	7.5YR3/3 (暗褐色土)	径2~4cmロームブロック。しまり弱。粘性やや強。



第85図 12D住居跡遺物出土状況図



第86図 12D住居跡出土遺物実測図 (1)

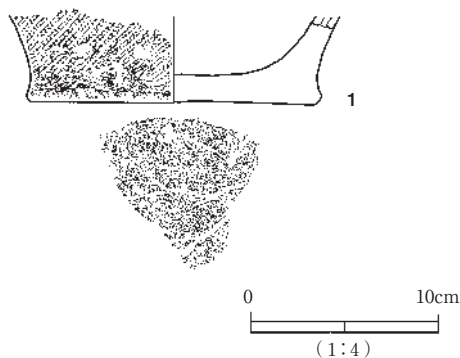


第87図 12D住居跡出土遺物実測図 (2)

12D住居跡出土遺物観察表 (第87図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	略完形	口径 15.2 底径 8.4 器高 33.6 頸部径 8.2 胴部最大径 27.6	外) 縦ハケ後ナデ。多方向のハケ後, 縦ミガキ。底部以外, 赤彩。 底部, 木葉痕後ミガキ。 内) 縦ミガキ, ナデ, 横ハケ後ナデ, 頸部以上赤彩。	○細砂粒 ○良好 ●外) 赤褐色 ●内) 赤褐色, 橙色, にぶい橙色	-240-241-242-243-246-247-248-250 -252-253-255-256-257-258-259-260 -261-262-264-265-268-269-270-271 -272-274-276-278-279-281-282-295 -297-300-301-303	137-206-230-238
2	壺	口縁部~頸部, 胴上部~底部	口径 16.8 底径 10.8 器高 <36.1> 頸部径 (11.6) 胴部最大径 (30.2)	外) ハケ後, 縦, 斜ミガキ。ナデ。 底部, 木葉痕。 内) 横ハケ後横ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●にぶい橙色, 橙色	280-302-306~310-314~316-319~ 322-328-331~335-340-342-343-345 -346-368-370-373-374-378-384-386 389-409-413-415-428-429	317-183-184-192-
3	壺か	口縁部	口径 (18.0) 器高 <6.9>	外) 横ナデ。縦ハケ後, ミガキ。 内) 横ナデ, 斜ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●外) にぶい橙色 ●内) 褐色, にぶい橙色		90-91

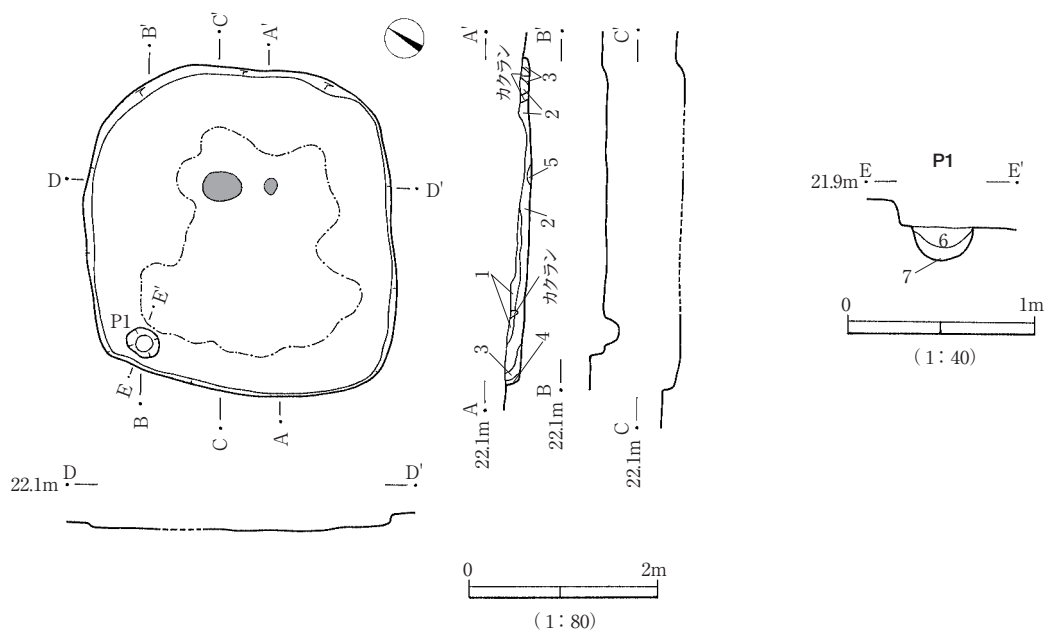
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
4	壺	底部	口径 6.7 器高 <3.0>	外) 縦, 斜ヘラ削り。底面, 木葉痕。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色 内) 赤褐色		236-237-239
5	甕	口縁部片	口径 (22.6) 器高 <3.3>	外) キザミ。横ナデ, 縦ハケ。 内) 横, 斜ハケ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒色 内) にぶい橙色		201
6	甕か	底部	口径 (7.0) 器高 <2.0>	外) 斜ハケ後, ナデ。底面, ヘラ削り。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色 内) 褐灰色		286
7	小型壺か	底部	口径 (4.6) 器高 <2.2>	外) 縦ハケ後, ナデ。底面, ヘラ削り。 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 明赤褐色(赤彩), 浅黄橙色 内) にぶい赤褐色(赤彩)		59
8	甕か	底部片	底径 (4.0) 器高 <1.3>	底面, 貫通孔2箇所。	◎良好 ●外) 灰褐色 内) 浅黄橙色		一括
9	高坏	脚部	底径 (12.0) 器高 <3.7>	外) ナデ。底部ナデ, ミガキ。 内) 輪積み痕, 凸凹。	○砂粒 ◎良 ●外) 灰褐色, 橙色 内) 橙色		138
10	壺	胴上部片		外) S字状結節文, 赤彩, ミガキ。 内) 横ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい橙色, 赤褐色 内) にぶい橙色	内面, 剥落。	73-80, 74
11	甕か	頸部小片		外) 平行沈線文	○砂粒, 石英粒多量 ◎良 ●にぶい橙色	内面, 剥落。	117
12	甕	胴下部片		外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ。	○砂粒, 石英粒多量 ◎良好 ●外) にぶい橙色, 褐灰色 内) 橙色	内面, 剥落が激しい。	103-106
13	甕	胴下部片		外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色 内) 灰褐色	内面, 剥落。	94
14	砥石。欠損品。3.7cm×2.8cm×1.3cm。17.3g。擦痕あり。砂岩。灰黄色, オリーブ褐色。石英粒多い。						62
15	砥石。6.7cm×7.4cm×4.8cm。322.7g。擦痕あり。閃緑岩。明緑灰色, 暗緑灰色, 褐色。						209
16	砥石。10.3cm×7.3cm×5.1cm。54.8g。溝状の研ぎ痕はないが, 面取りの擦っている。軽石。灰褐色。浅間山以外, 海浜部産。						2
17	石鏃。1.4cm×1.55cm×0.35cm。0.5g。黒曜石。						1
18	鉄製品。鑿か。一部欠損。10.6cm×0.8~1.0cm。						210



第88図 12D住居跡付近出土遺物実測図

12D住居跡付近出土遺物観察表 (第88図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	底部	底径 7.9	外) 附加条1種LR+R。 底部, 木葉痕か。	○砂粒, 石英多量 ◎やや不良 ●外) 浅黄橙色 内) にぶい橙色	内面, 剥落。	一括



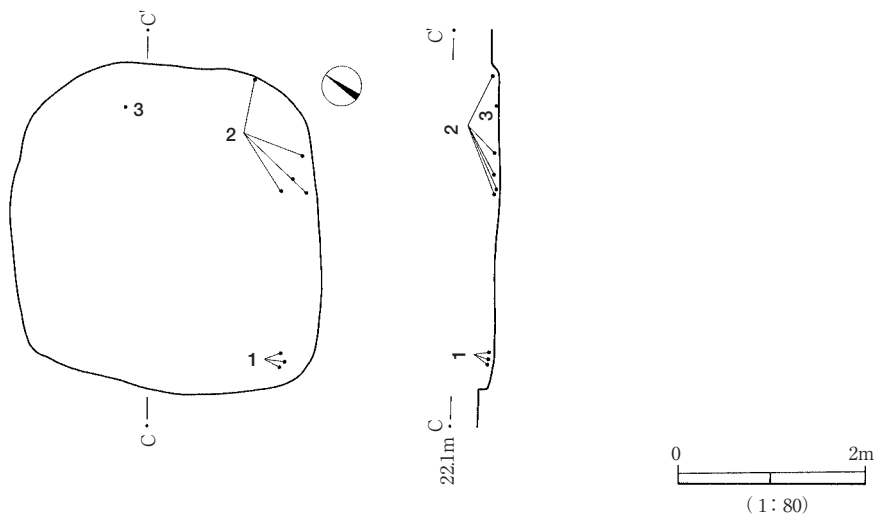
第89図 14D住居跡実測図

14D土層観察表 (第89図)

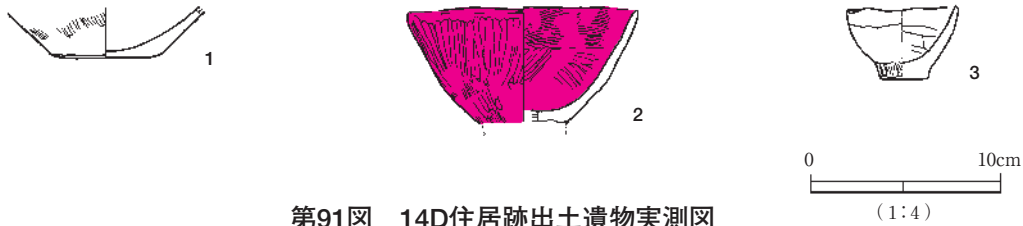
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5YR3/2 7.5YR3/3斑状	富む	Si L	亜角塊状	富む	小	18	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
2	判然	7.5YR3/3 7.5YR4/3斑状	富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	径1~2mm黄色スコリア
3	明瞭	7.5YR4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	
4		7.5YR4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	
5	2と漸変	7.5YR3/3	富む	Si L	小亜角塊状	富む	小	15	弱	細根富む	焼土粒子, 灰の影響

P1土層

- 6 7.5YR3/3 (暗褐色土) 7.5YR4/4 (褐色土) 斑状。しまり弱。粘性中。
- 7 7.5YR4/4 (褐色土) しまり弱。粘性中。



第90図 14D住居跡遺物出土状況図



第91図 14D住居跡出土遺物実測図

14D住居跡出土遺物観察表 (第91図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	底部	底径 5.6 器高 <2.8>	外) 斜ハケ後ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 灰褐色 内) 黒色		55-56-57
2	高坏	坏体部	口径 (12.2) 底径 (4.5) 器高 <6.1>	外) 縦ミガキ, 赤彩。 内) 横ハケ, 斜, 横ミガキ, 赤彩。	○細砂粒 ◎良 ●赤褐色		8-63~66
3	小鉢	完形	口径 6.0 底径 2.7 器高 3.8	外) 縦ハケ後, 横縦ナデ。 内) 横ナデ後, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色, にぶい褐色 内) にぶい赤褐色, 明灰褐色		27

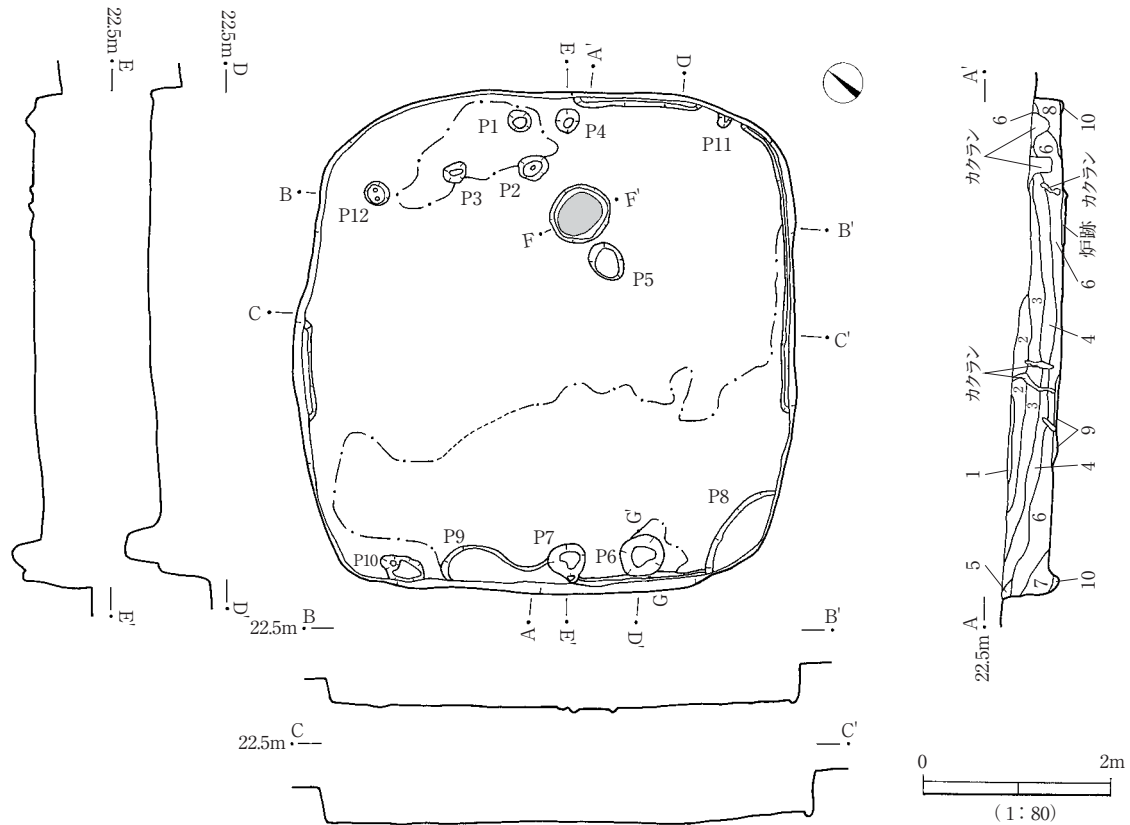
炉跡 中央やや北寄りに作られていた。平面形は楕円形。規模は42×31cmであるが、床面が軟らかかったため掘り過ぎてしまい、正確な上場は不明。貼床層を掘り込んで作られていた。掘り方の形状・土層を記録しておらず不明。**床面** 他の住居跡とは異なり、住居中央を中心に地山ローム層を掘り下げ、暗褐色土とローム土の混合土を埋め戻し、床材としていた。床表面は、中央部で軟らかく、掘り過ぎてしまった。周縁部はソフトロームの自然層で顕著に硬化していた。

出土遺物 総数107点(土器片105点・石2点)出土。小破片が中心で図示できる遺物は少なかった。3は小型土器の完形品である。

17D住居跡 (第92図~96図)

位置 D1-8・18G。台地先端部。**平面形態** 隅丸方形。**規模** 北東-南西方向5.29m, 北西-南東方向5.28m, 深さ28~52cm。南西壁側は深く, 北東壁側は浅くなる。**主軸方向** N-62°-E。**覆土** 下層は6層を中心に暗褐色土, 褐色土を主体とし, 上層は3層の黒色土を中心に黒褐色系の土が主体であった。**壁面** 垂直気味に立ち上がる。南西壁は高く, 北東側は低くなる。**壁溝** 部分的に検出された。幅4~10cm, 深さ3~6cm。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** P6が相当する。南コーナー付近で検出した。周堤帯は伴わず, 周囲の床面にはむしろ軟弱な部分が認められた。平面形は円形。上面46×43cm, 底面26×21cm, 深さ33cm。**ピット** P7は南西壁際中央にあり, 入り口関連施設と考えられる。上面44×40cm, 底面20×18cm, 深さ30cm。壁際に底面8×4cm, 深さ20cmの小ピットが伴っている。他のピットの深さは, P1が14cm, P2が8cm及び30cm, P3が10cm, P4が12cm, P5が10cm, P8が6cm, P9が6cm, P10が8cm及び18cm, P11が10cm, P12が10cm及び30cm, 34cmである。**炉跡** 住居中央部の北東壁寄りのところに作られていた。平面形は楕円形。規模は65×61cm, 炉床の深さ5cm。貼床とローム層を掘り込んだ後, ロームブロックを埋め戻したらしい。地山まで被熱によって赤化していた。**床面** 南西壁以外の壁側を中心に, ローム層を一旦掘り下げ, 暗褐色土にロームブロック・褐色土を含む混合土で埋め戻し, 床材としていた。床表面は南西壁側とP1・P2・P3付近で硬化している。

出土遺物 総数374点(土器片336点・軽石30点・石鏃1点・泥岩4点・石3点)出土。図示した遺物は南コーナー付近に集中する傾向がある。軽石の小片も同様であった。20は貝巢穴痕泥岩で, 穿孔性の貝によって穴が掘られた泥岩である。今回の調査でこの種の泥岩が10点ほど確認されている。20は最も



第92図 17D住居跡実測図

17D住居跡土層観察表 (第92図)

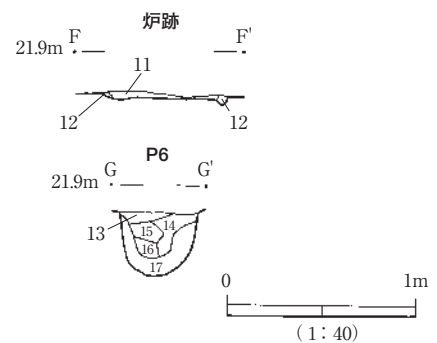
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR3/3, 7.5YR2/2少	富む	Si L	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	攪乱
2	明瞭	7.5YR2/2, 7.5YR3/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径0.5mm以下黄色スコリア
3	判然	7.5YR2/1主体, 2/2	頗る富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
4	判然	7.5YR2/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
5	漸変	7.5Y R 4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	
6	判然	7.5YR3/3, 4/3, 7.5YR4/4斑状	含む~富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
7		7.5YR4/3, 3/3, 4/4	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根富む	径5mm黄色スコリア ロームにじむ
8	6と判然	7.5YR4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	ロームにじむ
9	6と明瞭	7.5YR 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根含む	
10	7と漸変	7.5YR 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根含む	

炉跡土層

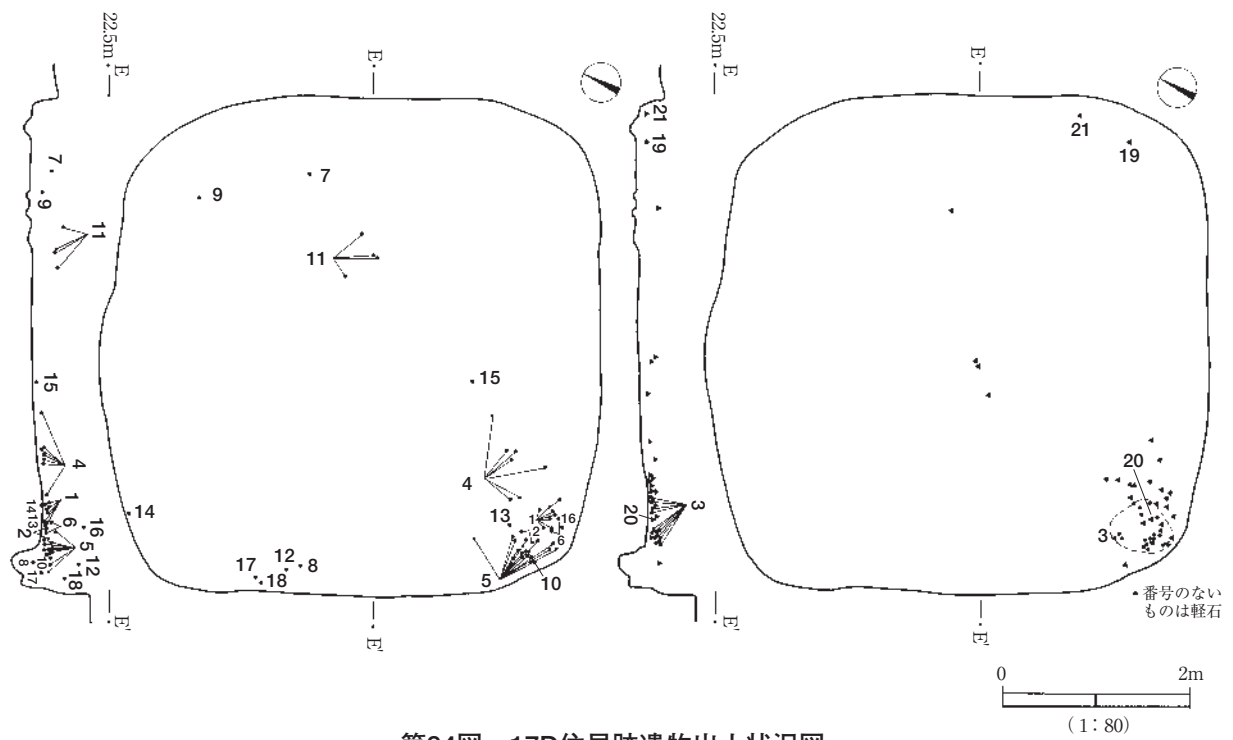
- 11 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状。全体に焼土粒にじむ。しまりやや弱。粘性弱。
- 12 7.5YR4/3 (褐色土) 焼土粒少。しまりやや弱。粘性弱。

P6土層

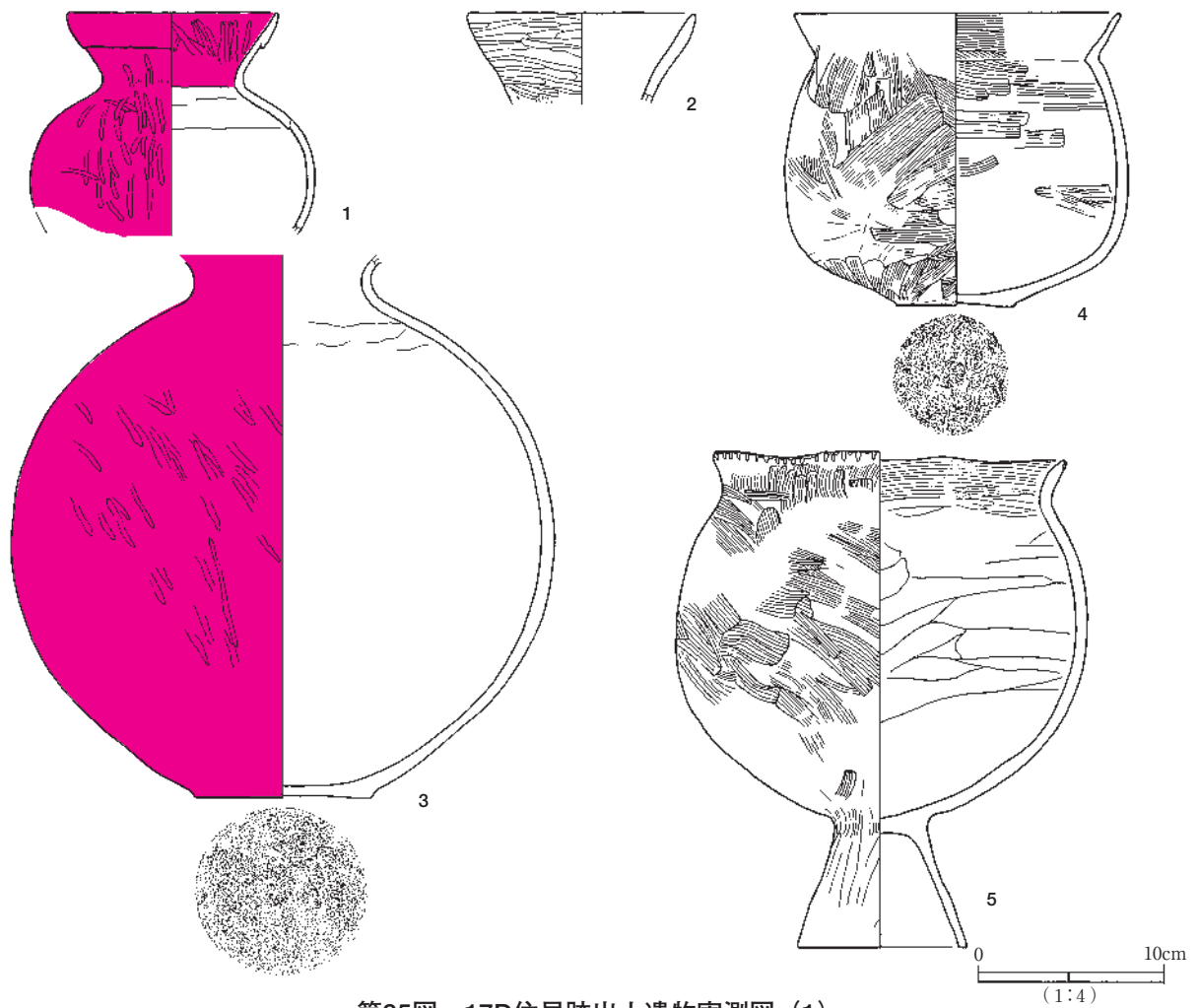
- 13 7.5YR4/3 (褐色土) しまりやや弱。粘性弱。
- 14 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒多。しまり弱。粘性中。
- 15 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒多。しまり弱。粘性中。
- 16 7.5YR3/3 (暗褐色土) しまり弱。粘性中。
- 17 7.5YR3/4 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまり弱。粘性中。



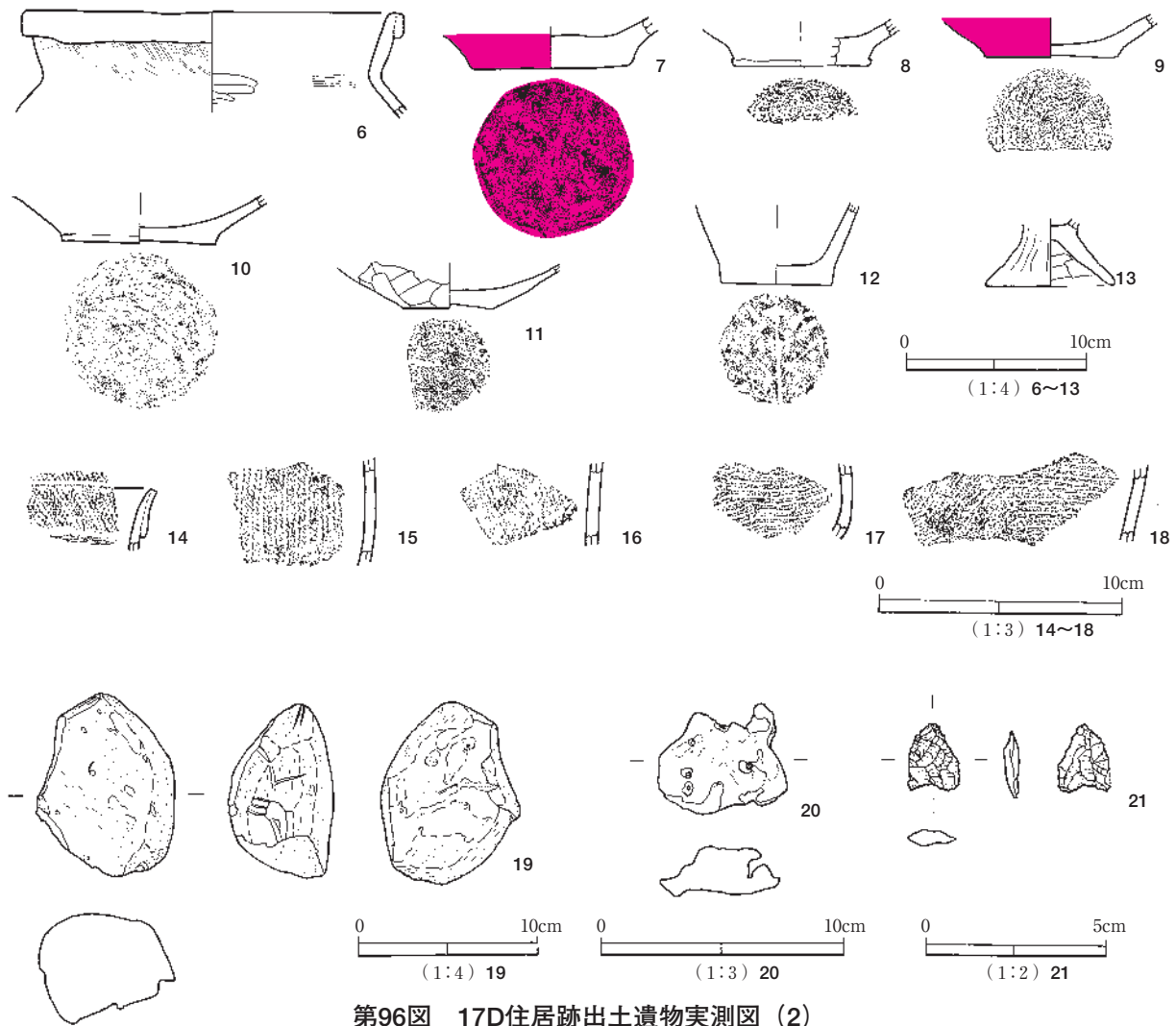
第93図 17D住居跡炉跡・P6断面図



第94図 17D住居跡遺物出土状況図



第95図 17D住居跡出土遺物実測図 (1)

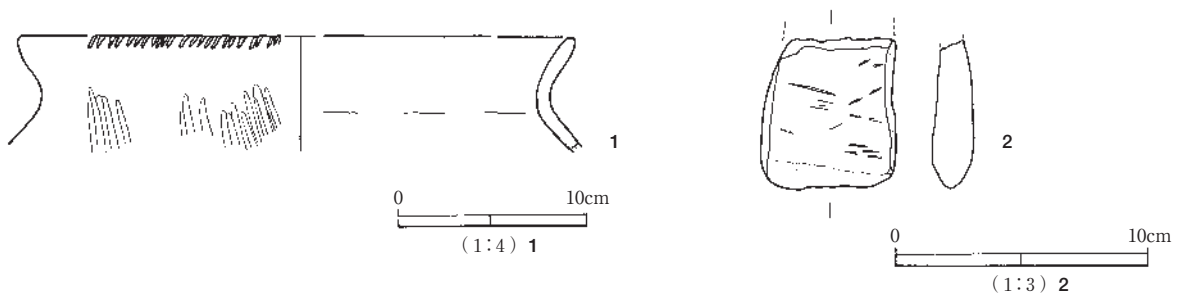


第96図 17D住居跡出土遺物実測図(2)

17D住居跡出土遺物観察表(第95・96図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁 甕	口縁部 ~胴中部	口径 (11.4) 器高 <11.9> 頸部径 (7.4) 胴部最大径 (15.2)	外) 横ナデ, 縦ハケ後縦ミガキ。 赤彩。 内) 赤彩, 縦・斜ミガキ, ナデ。 輪積み痕。	○赤褐色スコリア, 細砂粒 ◎良好 ●外) 赤褐色, 赤色 内) 赤色, 灰赤色		183-74-75-76- 78-79-181-200
2	壺	口縁部	口径 (12.2) 器高 <4.9>	外) 縦ハケ後横・斜ミガキ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, 黒色 内) にぶい橙色	内面, 剥落。	90-209
3	壺	頸部~ 胴下部, 胴下部~ 底部	底径 9.4 器高 <29.3> 頸部径 (9.4) 胴部最大径 (29.2)	外) 赤彩, 斜・縦ミガキ。 底部, ミガキ。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 明赤褐色, 黒色, 灰赤色 内) にぶい橙色	外面, 黒色の 付着物。 内面, 剥落。	190-77-93-95- 96-97-186-187- 188-189-206-207- 208, 81-82-117-202- 203-212
4	甕	口縁部 ~底部	口径 (17.6) 底径 6.4 頸部径 (15.1) 胴部最大径 (18.3)	外) ナデ, 多方向のハケ。底部, ミガキ。 内) 横ハケ後, ナデ, ミガキ。	○うす茶色の粒子, 細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) 褐灰色		48-51-62-64- 65-66-75-83-84- 130
5	台付甕	略完形	口径 19.0 底径 9.2 器高 <26.5> 頸部径 17.8 胴部最大径 22.2	外) 口唇部キザミ。縦ハケ, 横・斜ハケ, 縦ミガキ。 内) 横ハケ後横ナデ, 横ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒色, にぶい橙色 内) 橙色, 灰褐色		91-92-94-99-101- 102-104-105- 114-117-185-210- 218-219-220- 220-222-223- 224-227-230-231
6	複合口縁 甕	口縁部 ~頸部	底径 (21.2) 器高 <5.9>	外) 横ナデ, 縦ハケ。 内) ナデ, 横ミガキ, 横ハケ。	○砂粒 ◎良 ●明赤褐色, 浅黄褐色		184-204

7	壺	底部	底径 器高	8.6 <2.5>	外) 赤彩, ミガキ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 赤褐色 内) にぶい橙色	内面, 剥落。	141
8	甕か	底部	底径 器高	(7.6) <2.6>	外) ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 灰褐色 内) 橙色		249
9	壺	底部	底径 器高	(7.3) <2.5>	外) 赤彩, ミガキ。底部, ヘラ。 ケズリ後ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●外) 赤褐色, 底部, にぶい橙色 内) 橙色	内面, 剥落。	179
10	壺か	底部	底径 器高	8.6 <2.6>	外) ミガキ。底部, ヘラケズリ後 ミガキ。 内) ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 黒色, 褐灰色 内) 橙色	内面, 剥落。	229
11	壺か	底部	底径 器高	5.0 <2.5>	外) ヘラケズリ。底部, ナデ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色, にぶい橙色 内) にぶい褐色		145-147-148-151
12	甕	底部	底径 器高	6.2 <4.6>	外) ヘラケズリ後横ナデ。 底部, 木葉痕。 内) ナデ。	○赤褐色スコリア ◎良 ●浅黄橙色, にぶい橙色		164
13	小型台付 甕か	脚部	底径 器高	7.2 <3.6>	外) 縦ミガキ。 内) 横ヘラケズリ。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい赤褐色, 灰褐色		89
14	複合口縁 甕	口縁部片			外) 附加条1種RL+L。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) 橙色, 黒色		172
15	甕	胴部片			外) 附加条1種LR+R。 内) ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良好 ●外) 褐灰色 内) にぶい赤褐色		131
16	甕	胴部片			外) 撚糸文Rか。 内) ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい褐色 内) 黒色		192
17	甕	胴部片			外) 附加条1種LR+R。 内) ヘラケズリ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, 黒褐色 内) にぶい褐色		166
18	甕	胴部片			外) 附加条1種LR+R。 内) ヘラケズリ後ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●にぶい橙色, 褐灰色		165
19	砥石。10.0cm×7.7cm×6.0cm。80.8g。面取りのなすり痕。軽石。浅黄橙色。にぶい黄褐色。							19
20	貝巢穴痕泥岩。4.6cm×5.3cm×2.1cm。22.5g。被熱のため、赤みを帯びる。固結度弱い。房総半島海岸部・房州石か？							80
21	石鏝。一部欠損。1.8cm×1.4cm×0.4cm。0.9g。黒曜石。							18



第97図 17D住居跡付近出土遺物実測図

17D住居跡付近出土遺物観察表 (第97図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.	
1	甕	口縁部 ～頸部	口径 器高	(29.6) <6.1>	外) 口唇部, キザミ。横ナデ, 縦 ミガキ。 内) 横ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●外) 褐灰色, 灰褐色 内) にぶい橙色		D1-18G一括
2	砥石。5.95cm×5.25cm。厚さ, 1.65cm。質量, 85.7g。流紋岩。灰白色, 灰褐色。							D1-18G一括

状態が良いものである。

第97図は17D住居跡付近から出土した甕と砥石である。

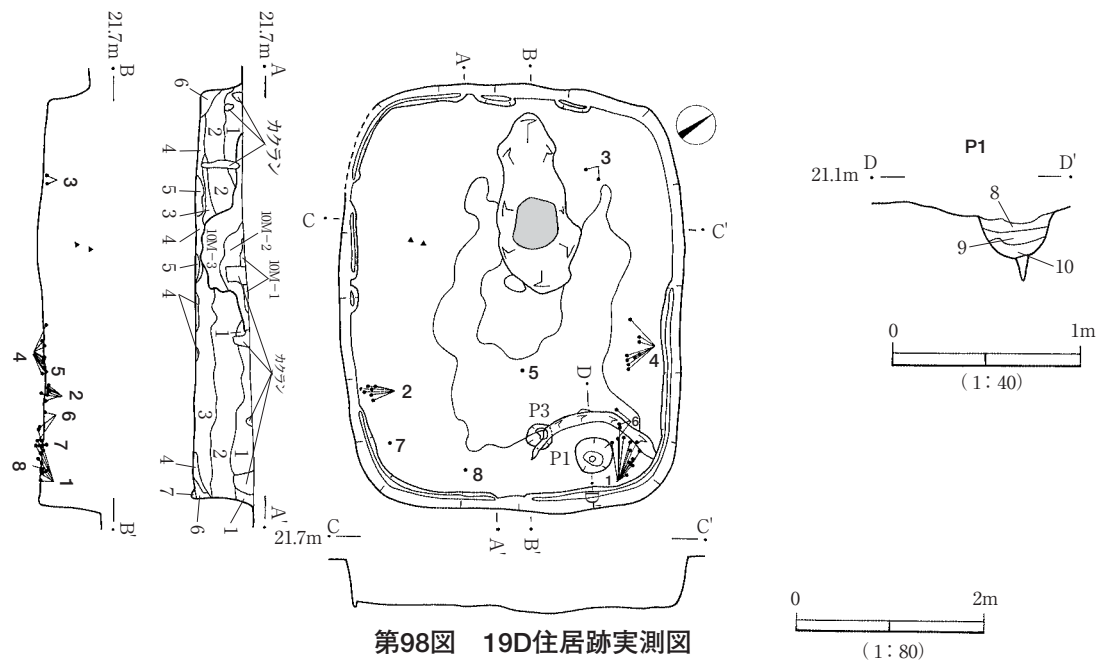
19D住居跡（第98図～100図）

位置 C2-22・12・21G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。壁及び覆土の一部が10Mによって切られる。**規模** 北東-南西方向3.2m，北西-南東方向3.8m，深さは44～62cm。**主軸方向** N-54°-W。**覆土** 暗褐色土・褐色土・ロームブロック・黒褐色土が混じり合った土が主体。一面のみの観察であるが，壁際以外は層界が波状を示しつつほぼ水平に堆積している。床面の直上に焼土・炭化材を含んだ土が堆積する。**壁面** 垂直に立ち上がる。ソフトローム～ハードロームから成る。**壁溝** 断続的に検出した。幅5cm，深さ3～8cm。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** P1が相当する。東コーナー付近に作られている。平面形は円形で，底面に小ピットを伴う。上面径40cm，底面20×14cm，深さ23cm。小ピットは径8cm，深さ13cmで尖底。周囲には若干の高まりと段差が弧状に認められる。周堤帯から形状を変えた姿とすることができる。**ピット** P3は貼床調査時に，P1周囲の段差の下から検出した。上面径28cm，底面12×9cm，床面からの深さ30cm。P2は欠番である。**炉跡** 住居中央の北西寄りに作られる。平面形は長楕円形。規模は上面192×52～88cm，底面は火床で56×44cm。焼土混じりの黒色土を除去したところ，長大な窪みを認識することができたが，窪みの深さは極く浅い微妙なものであった。**床面** 南西・南東壁側を深くして全体的にローム層を掘り込み，黒褐色土の上に褐色土・暗褐色土が乗るように埋め戻し，床材としていた。床表面は全体的に明瞭で，炉を挟み込むようにU字型に硬化していた。

出土遺物 総数235点（土器片220点・陶器片4点・瓦1点・砥石1点・軽石2点・石6点・鉄製品1点）出土。1は器形の異質な壺。6は略完形の器台。透かし孔が小さく位置が高いなど定型化以前のものと考えられる。**炭化材** 39点出土した。樹種同定の結果，クヌギ節のみかん割り材が主体であった（Ⅲ1参照）。

20D住居跡（第101図～105図）

位置 C1-29・30・39・40G。北西部分を10Mに切られる。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向8.42m，北東-南西方向7.24m，深さ52～74cm。**主軸方向** N-50°-W。**覆土** 一面のみの観察であるが，北東と南西方向から均等に土砂が流入したようである。床面直上には11層が土層断面で見えるよりも実際には広く存在していた。その上の10層に焼土が多く含まれる。中層の5層が最も暗い黒褐色土である。**壁面** 垂直気味に立ち上がる。一部で上部がやや緩やかになっており，崩落したものと考えられる。**壁溝** 幅8～22cm，深さ7～18cm。全周する。ローム層まで掘り込んでいる。**柱穴** 柱痕もしくは柱材埋設土の残る柱穴は，P1～P4の4本を確認した。平面では整った長方形に配置されており，柱痕間の距離からみた柱間は，長辺P1・P2間で4.04m，短辺P1・P4間で3.44mである。覆土は炭化材片を含む土層とロームブロックを含む柱材埋設土を確認した。P1の上面径86cm，底面68×60cm，深さ76cm。P2の上面76×70cm，底面径48cm，深さ85cm。P3の上面84×64cm，底面56×50cm，深さ77cm。P4の上面82×76cm，底面68×42，深さ82cm。**貯蔵穴** P6が相当する。南東壁中央からやや北に寄った所にあった。上面76×70cm，底面35×26cm，深さ43cm。底面に小ピットを伴う。平面形は楕円形。P6を囲むように段状遺構があり，床面よりも6cmほど低くなっている。**ピット** P7は入り口施設と考えられる。覆土には，しまりの弱い暗褐色土が棒状，斜めに入り，その周りにはしまりのやや強い暗褐色土であった。梯子材が埋められていた痕跡であろう。上面70×61cm，底面25×20cm，深さ



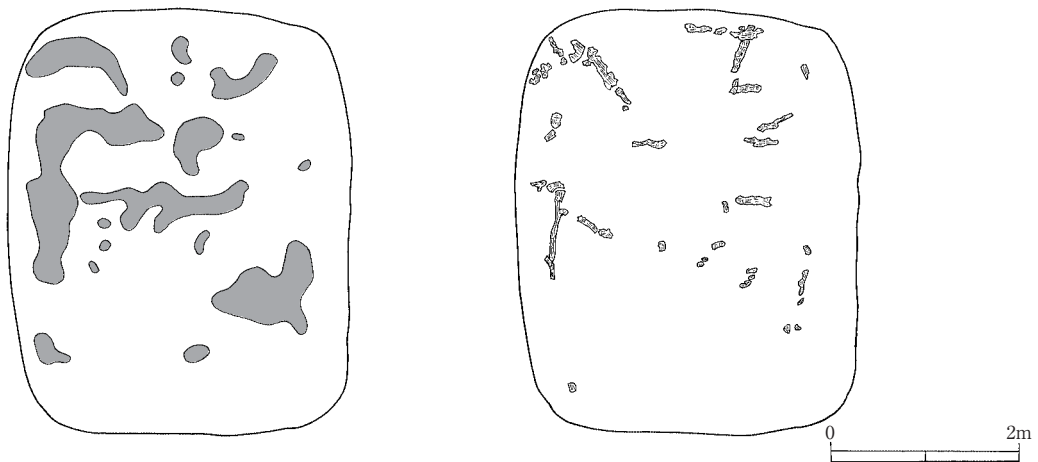
第98図 19D住居跡実測図

19D住居跡土層観察表 (第98図)

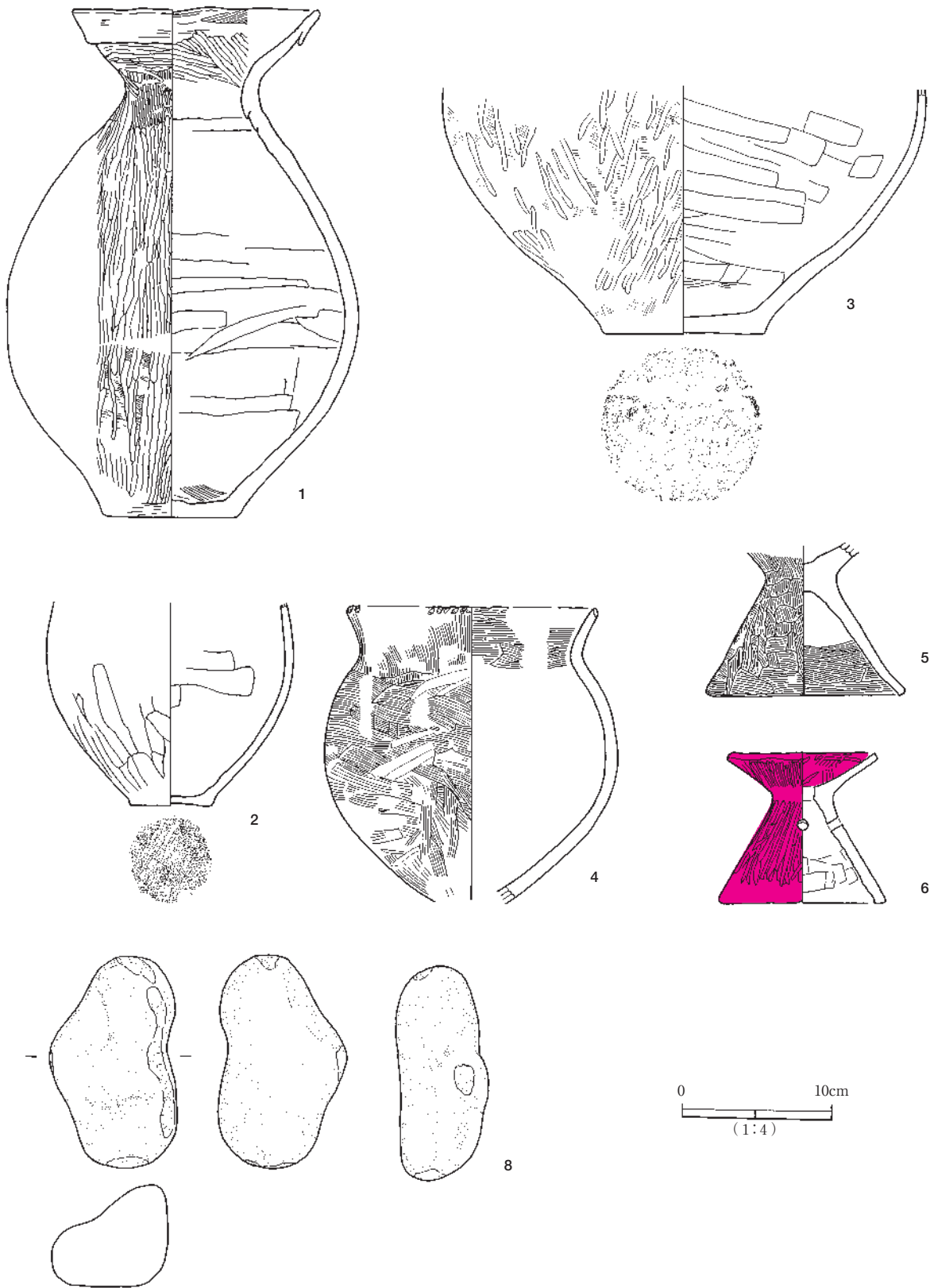
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/3主, 4/3, 3/2, まじり合った土	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径1cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
2	明瞭	7.5Y R4/3主, 3/3, 3/2, まじり合った土	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16~24	中	細根富む	径1~3cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
3	明瞭	7.5Y R3/3, 2.5/2, 3/2, 4/3, まじり合った土	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	径3cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
4		7.5Y R3/3主, 2.5Y R4/6焼土	含む~富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	焼土炭化材
5											4の中の特に焼土, 炭化材の多い部分
6	4と判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
7											壁溝覆土
P-1											
8	明瞭	7.5Y R4/3, 3/3	含む~富む	CL	屑粒状~小亜角塊状	含む	0~小	8	中	細根含む	焼土炭化材片 1 径1cmロームブロック
9	明瞭	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	10	中	細根含む	径2mm以下粒子粒子
10		7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根含む	径2cmロームブロック

10M土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む	L	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	径1mm以下焼土粒子
2	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2, まじり合う	富む	L	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	径3mm以下黄色スコリア 焼土粒子
3		7.5Y R3/3	富む	L	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	径1~3cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア 焼土粒子, 炭化材片



第99図 19D住居跡炭化材・焼土出土状況図



第100图 19D住居跡出土遺物実測図

19D住居跡出土遺物観察表 (第100図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部～底部 3/4	口径 (16.6) 底径 9.2 器高 33.9 頸部径 8.9 胴部最大径 (23.5)	外) 横ハケ後ミガキ。縦, 斜ハケ後, 多方向のミガキ。 内) 横, 斜ハケ後横, 斜ミガキ, ナデ, 横ヘラナデ。輪積痕。 粘土屑付着。	○砂粒, 白色粒子 ○良 ●外) 橙色, にぶい橙色, 褐灰色 ●内) 褐色, にぶい褐色, にぶい赤褐色, 褐灰色		125-217~129-116-118-131-133~137-139-141-142
2	壺	胴中部～底部	底径 5.8 器高 <13.6>	外) ナデ, 縦, 斜ヘラ 内) 横ヘラナデ。	○細砂粒 ○良 ●にぶい褐色, 黒色, 褐灰色	内面, 剥落。	51-58~63-144
3	壺	胴中部～底部	底径 10.8 胴部最大径 (32.4)	外) 多方向のハケ後, 縦, 斜ミガキ。	○細砂粒 ○良 ●外) にぶい赤褐色, 灰赤色 ●内) 赤灰色, 橙色	内外面, 剥落。	86-87
4	甕	口縁部～胴下部	口径 (16.8) 器高 <19.6> 頸部径 (14.8) 胴部最大径 (19.4)	外) 口唇部キザミ, 縦ハケ, 横ハケ後斜ミガキ。 内) 横ヘラケズリ, ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ○良 ●外) 黒褐色 ●内) 褐灰色		45-93-97-98-99-105-106-108-110
5	台付甕	脚部	底径 13.3 器高 <10.0>	外) 多方向のハケ。 内) 甕部, ナデ, 脚部, ナデ, 横ハケ。	○砂粒 ○良 ●外) にぶい橙色 ●内) 甕部, 褐灰色 脚部, にぶい赤褐色		64
6	器台	略完形	口径 10.2 底径 11.3 器高 10.0	外) 縦ミガキ。赤彩。 内) 受部, ミガキ。脚部ヘラナデ。透かし孔, 4箇所。	○細砂粒 ○良好 ●外, 受部内) 赤色, 灰赤色 ●内) 褐灰色		115-119-120
7	壺	胴下部				3D-4と接合。 3D参照。	57
8	敲石。		14.2cm×8.4cm×6.8cm。943.8g。4箇所	に敲打痕が認められる。被熱。花崗岩。粒が細かい。灰褐色, 黒褐色, 暗褐色, 褐色。			143

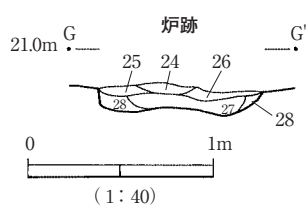
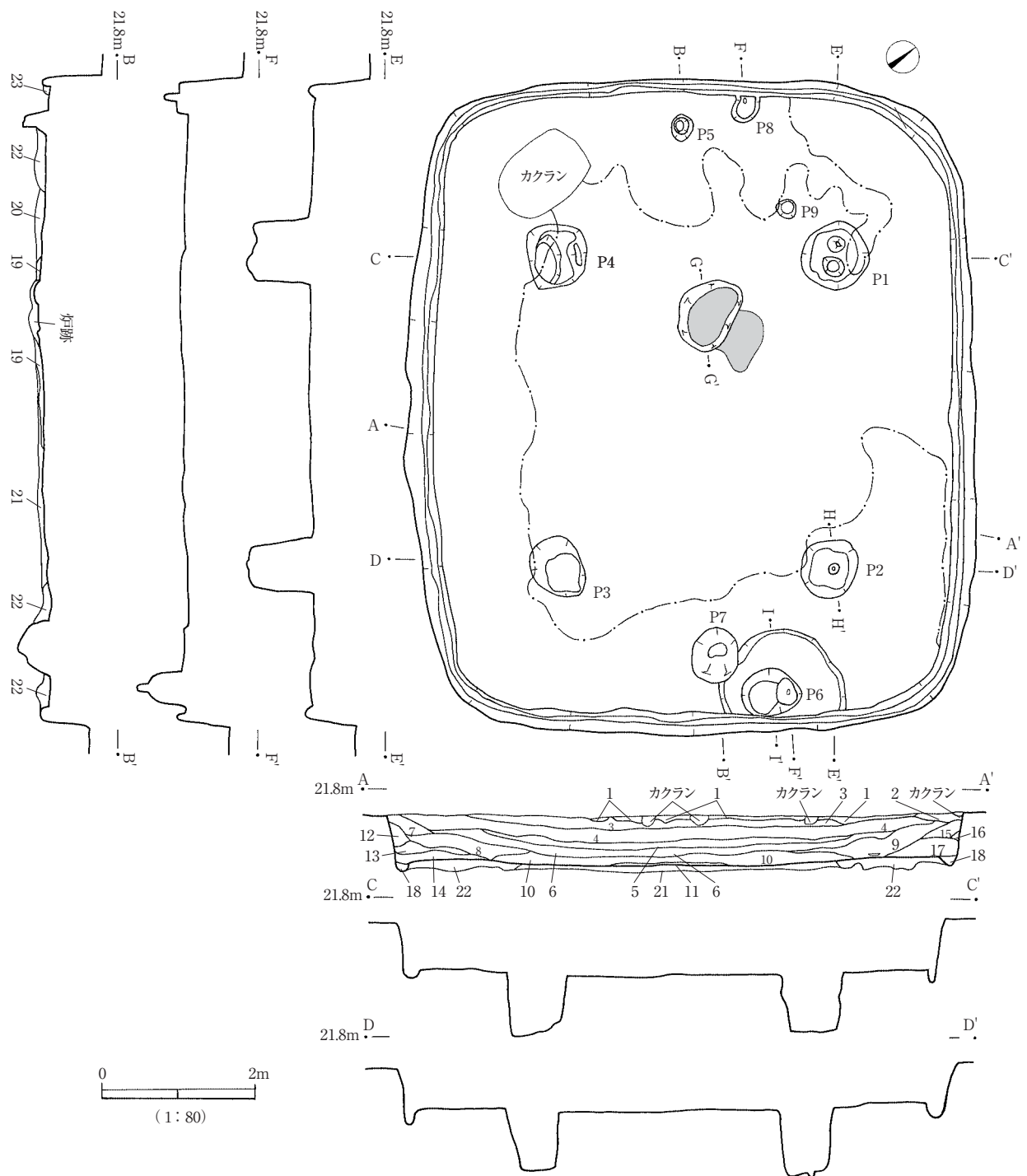
40cm。P5は北西壁際中央付近にある。補助的な柱穴か。上面34×28cm, 底面13×10cm, 深さ30cm。P8は上面35×33cm, 底面30×22cm, 深さ11cm。小ピットを伴う。P9は深さ8cmの小ピットであった。炉跡 住居中央ややP1・P4間寄りに作られていた。平面形は歪んだ楕円形。上面96×76cm, 深さ6cm。貼床層を掘り込んだ後, ローム土とロームブロックを埋め戻している。基層の掘り込み底面は平坦で立ち上がりは急, 炉床面は平坦で立ち上がりは緩やか。炉床面は焼けて赤化している。床面 壁側を中心にローム層を一旦掘り下げ, 暗褐色土・黒褐色土・ローム土・ロームブロックの混合土を埋め戻し, 床材としていた。中心部はローム土主体, 壁側は黒褐色土主体である。北西壁では壁よりも20~30cm内側に明瞭な掘り方のラインが検出され, あたかもそこに壁が作られたかのようであった。すなわち拡張の痕跡と受け取れるが, この他には拡張を示す現象は無く拡張幅も小さいので, 住居構築中に行われた住居規模の変更のような行為を示すものかもしれない。床表面は柱穴で囲まれた部分の外側が硬化している。住居中央部はやや低くなっていた。

出土遺物 総数979点(土器片793点・陶器片3点・軽石162点・石鏃1点・剥片2点・泥岩1点・石16点・粘土塊1点)出土。22D住居跡に次ぐ遺物出土量である。装飾壺や甕の他, 器台を初めとする小型土器がまとまっている。7の器台は19D住居跡のものと似ている。器台・埴(9)共に定型化以前のものであろう。軽石の破片は東コーナー付近にまとまっていた。**炭化材** 70点出土した。樹種同定の結果, クヌギ節の細片とみかん割り材が主体であった(Ⅲ1参照)。

なお, 本住居跡では剥片が2点出土したため, 住居調査終了後, 旧石器確認のためのテストピットを本遺構内に設定し, TP6として調査したが, 遺物は出土しなかった。

21D住居跡 (第106図~108図)

位置 C1-38・39・28G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向9.08m, 北東-南西方向7.12m, 深さ30~40cm。**主軸方向** N-51°-W。**覆土** 一面のみの観察であるが, 北西と南東方向から均等に土砂が流入したようである。黒褐色系の土が多く堆積し, 中層の3層が最も暗い黒褐色土である。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がり, 上部ではやや緩やかになる。一部が



カクラン土層

- | | | |
|-----|------------------|-----------------------------|
| 24. | 5YR3/2 (暗赤褐色土) | 焼土粒多。黒褐色土斑状。しまり中。粘性やや弱。 |
| 25. | 5YR3/3 (暗赤褐色土) | 焼土粒多。しまりやや弱。粘性やや弱。 |
| 26. | 5YR4/4 (にぶい赤褐色土) | 焼土粒少。しまりやや弱。粘性やや弱。 |
| 27. | 5YR4/4 (にぶい赤褐色土) | カクラン基層。焼土ブロック多。しまりやや強。粘性弱。 |
| 28. | 5YR3/4 (暗赤褐色土) | カクラン基層。ロームブロック多。しまりやや弱。粘性弱。 |

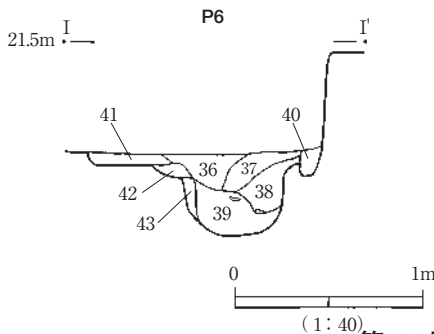
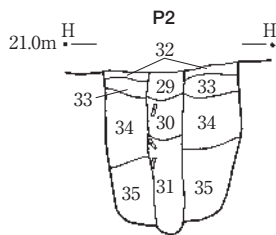
第101図 20D住居跡実測図

20D住居跡土層観察表 (第101図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	5YR3/3焼土含む	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根富む	径2mm以下焼土粒子
2	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア 径1mm以下焼土粒子
3	漸変	7.5Y R3/1.5 7.5Y R3/3斑状(少)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
4	判然	7.5Y R3/1.5	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア 3より多い
5	判然	7.5Y R3/1	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
6	漸変	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア 径2mm以下焼土粒子
7	漸変	7.5Y R3/3, 3/2 にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
8		7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア多
9	漸変	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア多
10	判然	7.5Y R3/3, 3/2 にじむ わずかに赤味	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径5mm以下黄色スコリア多 径5mm以下焼土粒子多
11		7.5Y R4/3, 4/4, 3/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径2cmロームブロック 径2mm以下黄色スコリア
12	判然	7.5Y R4/3, 3/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
13	判然	7.5Y R3/3, 3/2.5	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア多
14		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1～3cmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア多
15	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根富む	径3mm以下黄色スコリア
16	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	強	細根含む	
17	判然	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径5mm以下黄色スコリア
18		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア ロームまじり

貼床

No	色調	しまり	粘性	その他
19	7.5YR3/2	中	やや弱	細かいロームブロック, 焼土粒微
20	7.5YR3/3 褐色土斑状	中	弱	ロームブロック
21	7.5YR4/4 暗褐色土斑状	中	弱	ロームブロック
22	7.5YR3/2 暗褐色土斑状	中	やや弱	ロームブロック
23	7.5YR4/3	やや弱	弱	ロームブロック



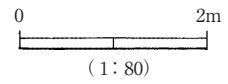
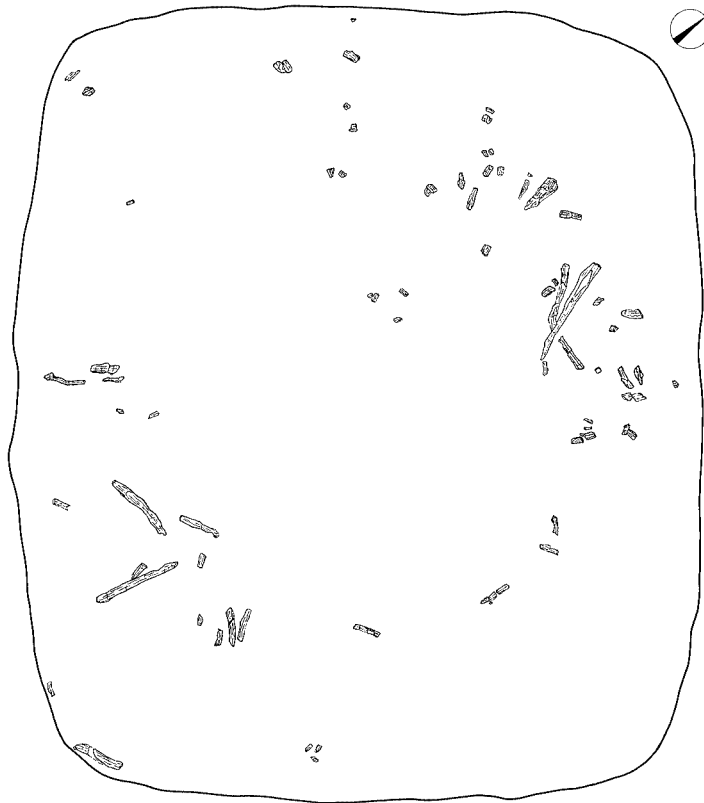
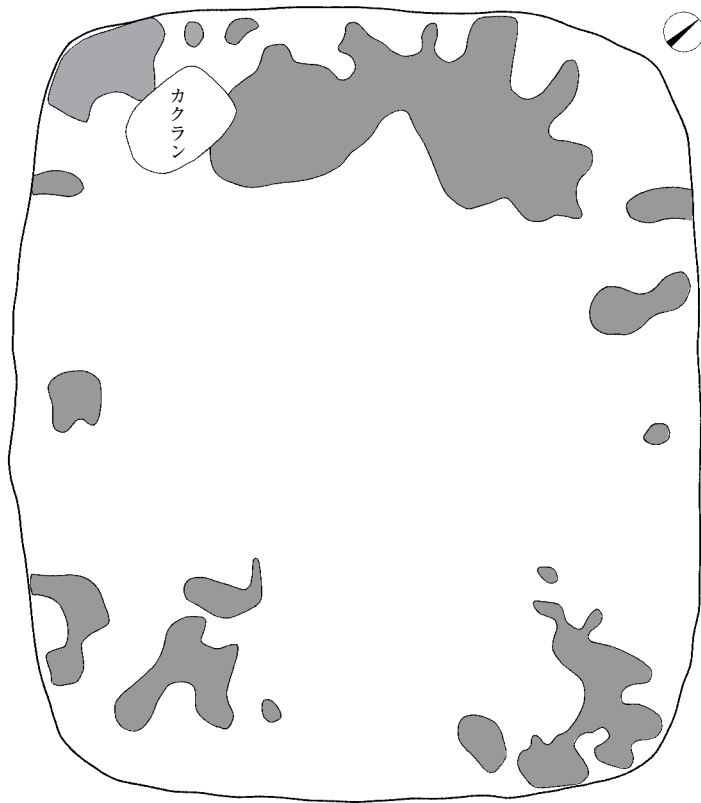
第102図 20D住居跡P2・P6断面図

P2土層

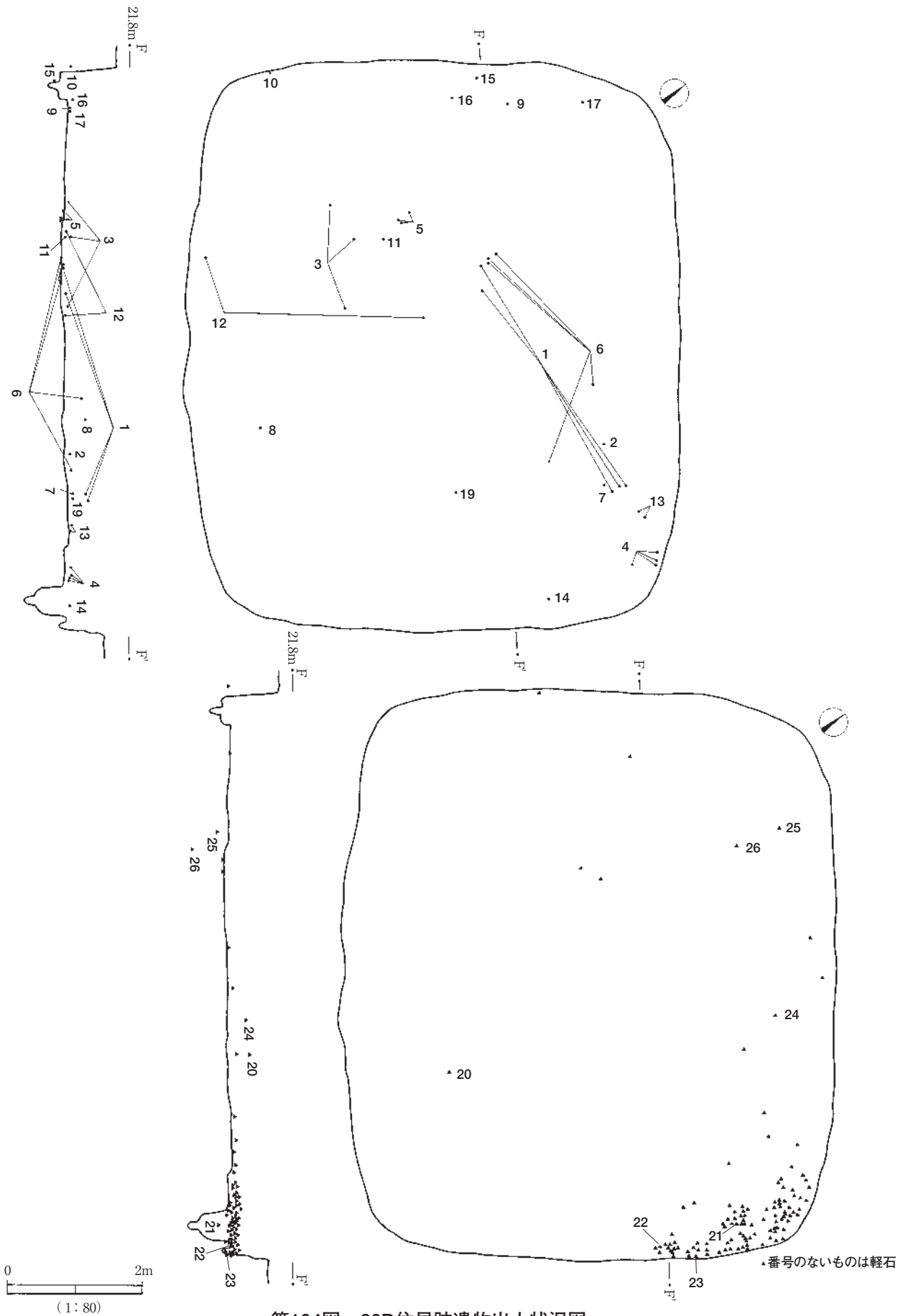
- 29. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 焼土粒微。炭化材小片。しまりやや弱。粘性やや強。ローム粒多。しまり弱。粘性やや強。
- 30. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ロームブロック多。しまり極弱。粘性やや強。
- 31. 7.5YR4/3 (褐色土) ロームブロック多。しまり極弱。粘性やや強。
- 32. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 柱柱材埋設土。焼土粒微。ロームブロック小片。しまり中。粘性やや強。
- 33. 7.5YR4/6 (褐色土) 柱柱材埋設土。径2～4cmロームブロック多。しまりやや強。粘性やや強。
- 34. 7.5YR4/4 (褐色土) 柱柱材埋設土。径2～4cmロームブロック。しまり中。粘性やや強。
- 35. 7.5YR4/3 (褐色土) 柱柱材埋設土。径2～4cmロームブロック。しまりやや弱。粘性やや強。

P6土層

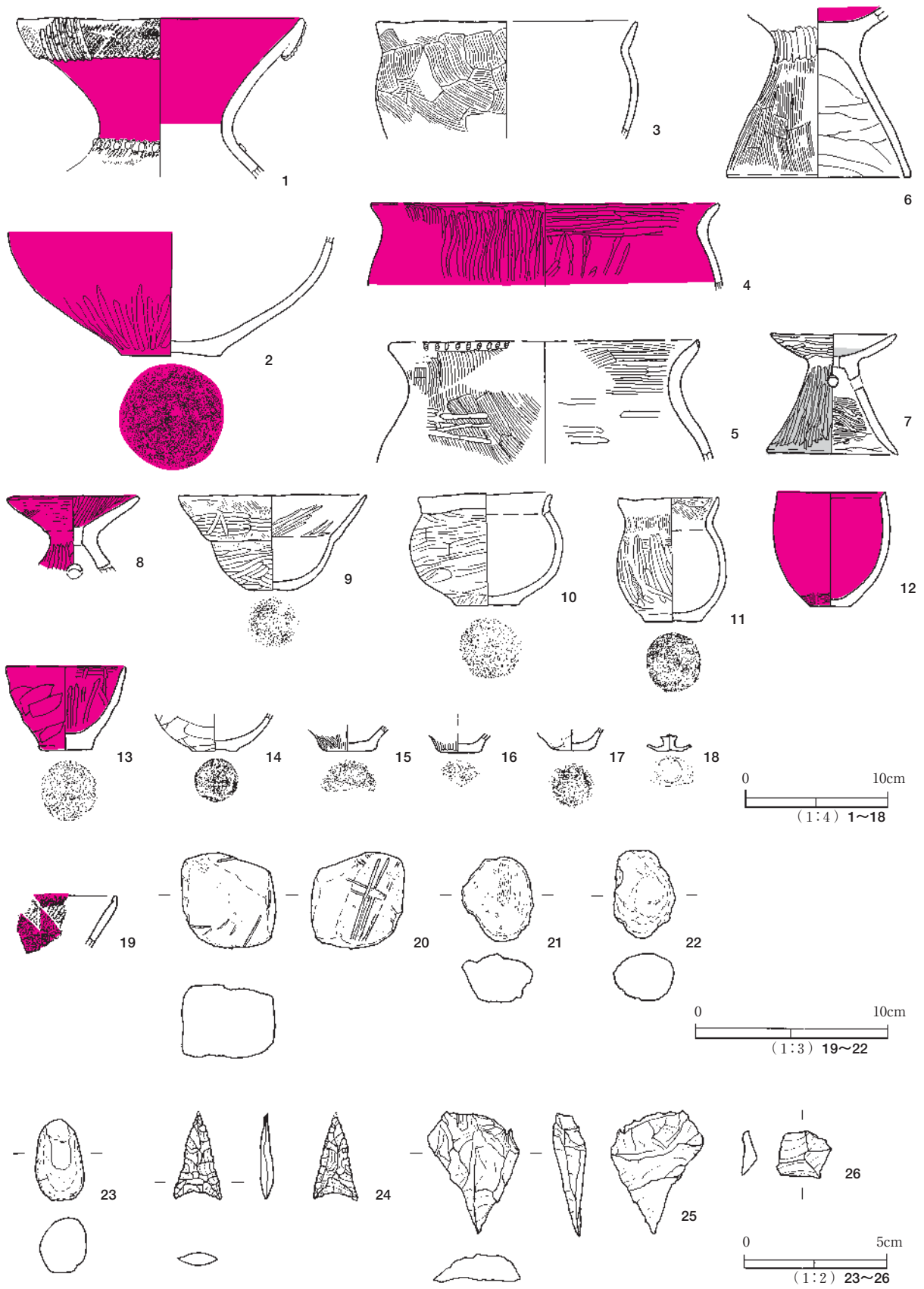
- 36. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 焼土ブロック斑状。しまり中。粘性中。
- 37. 7.5YR4/3 (褐色土) 黒褐色土斑状。しまりやや弱。粘性中。
- 38. 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒多, 径0.5～2cmロームブロック多。しまりやや弱。粘性中。
- 39. 7.5YR4/3 (褐色土) ローム粒少。しまりやや弱。粘性中。
- 40. 7.5YR4/4 (褐色土) 壁溝覆土。上部で黒褐色土斑状。しまりやや弱。粘性中。
- 41. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒微。しまり中。粘性中。
- 42. 7.5YR3/2 (黒褐色土) ローム粒。しまりやや弱。粘性中。
- 43. 7.5YR4/3 (褐色土) 径0.3cm以下ロームブロック斑状。しまりやや弱。粘性中。



第103図 20D住居跡焼土・炭化材出土状況図



第104図 20D住居跡遺物出土状況図



第105图 20D住居跡出土遺物実測図

20D住居跡出土遺物観察表 (第105図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部～頸部	口径 20.4 頸部径 9.4 器高 <11.1>	外) 単節縄文LR, S字状結節文, 棒状浮文4単位。刻み, 縦ミガキ, 円形浮文, 赤彩。 内) 頸部以上赤彩。	○砂粒 ◎良 ●赤褐色, にぶい褐色	外面, 剥落。 内面, 剥落が激しい。	34-70-105-202-203
2	壺	胴下部～底部	底径 7.0 器高 <8.4>	外) 縦ミガキ。赤彩。	○砂粒 ◎良 ●外) 黒色, 橙色, にぶい赤褐色 内) にぶい橙色, 褐灰色	外面, 剥落。 内面, 剥落が激しい。	106
3	甕	口縁部～胴上部	口径 (18.2) 器高 <8.2> 胴部最大径 (18.4)	外) 縦, 斜ハケ, ナデ。 内) 横ナデ, ミガキ, 工具痕。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 灰褐色, にぶい褐色 内) にぶい橙色		45-46-188
4	甕	口縁部～胴上部	口径 (24.7) 器高 <6.0> 頸部径 (23.1)	外) 横ナデ後縦ミガキ。赤彩。 内) 横, 縦ミガキ。赤彩。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 赤褐色, 極暗褐色 内) にぶい赤褐色		330-328-331-456
5	台付甕	口縁部～胴上部	口径 (22.0) 器高 <8.4> 頸部径 (19.2)	外) 口唇部に工具押圧によるキザミ。 縦, 斜ハケ後横ナデ, ミガキ。 内) 横ハケ後横ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 灰赤色, 黒色 内) 灰褐色, 黒褐色		243-277-278
6	台付甕	脚部	底径 (13.1) 器高 <11.9>	外) 縦ミガキ, 縦ハケ。 内) 脚部, 横ヘラケズリ, ナデ。 甕部, 赤彩, ナデ。	○砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, にぶい赤褐色 内) 甕部, 赤褐色 脚部, にぶい褐色, にぶい赤褐色	甕部内面, 剥落。	49-69-299-301-302
7	器台	口縁部～底部	口径 (8.9) 底径 9.4 器高 8.4	外) 受部, 横ミガキ。脚部, 縦ミガキ。黒彩, 透かし孔4箇所。 内) 受部, ナデ。脚部, 横ハケ, ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 受部, にぶい褐色 脚部, 黒色, にぶい赤褐色 内) 受部, 黒色, にぶい褐色。 脚部, 黒色		104
8	器台	脚下部	口径 9.4 器高 <5.2>	外) 赤彩, ハケ後ナデ縦ミガキ。 内) 受部, 赤彩, 縦ミガキ。 脚部, ナデ。透かし孔は3箇所。	○砂粒 ◎良 ●外) 赤褐色 内) 受部, 赤色。 脚部, にぶい褐色	内外面, 剥落。	283
9	罎	口縁部～底部	口径 (13.3) 底径 3.4 器高 6.6	外) 斜, 縦ハケ後横, 縦ミガキ。 内) ナデ後ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色 内) 黒色	内外面, 剥落。	128
10	小壺	略完形	口径 8.9～9.1 底径 4.4 器高 7.9 胴部最大径 10.7	外) 横, 斜ハケ後ナデ, ミガキ。 内) 横ナデ, ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●オリープ黒色, にぶい褐色 にぶい褐色		129
11	小型甕	略完形	口径 (7.2) 底径 4.0 器高 8.7 頸部径 (6.0) 胴部最大径 (7.7)	外) ナデ, 多方向のハケ後縦, 斜ミガキ。 内) 横ハケ, ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい褐色	内面, 剥落。	127
12	小型鉢	口縁部～底部	口径 (7.7) 底径 3.0 器高 7.9	外) ミガキ, 横ハケ。赤彩。 底部, ヘラケズリ。 内) 赤彩。	○砂粒 ◎やや不良 ●外) にぶい赤褐色, 黒色, にぶい褐色 内) にぶい赤褐色	内外面, 剥落。	192-198
13	小型鉢	口縁部～底部	口径 (8.5) 底径 3.8 器高 6.0	底部外面以外, 赤彩。 外) ヘラケズリ, ナデ。 底部, ナデ。 内) 横, 縦ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●赤褐色, 底外面にぶい褐色	内外面, 剥落。	150-483
14	小型鉢	胴下部～底部	底径 3.1 器高 <2.6>	外) 横ヘラケズリ, ミガキ。底部ヘラケズリ後ミガキ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, 灰褐色 内) 褐灰色, 暗赤褐色	内面, 剥落。	130
15	小型土器	底部	底径 (4.0) 器高 <1.8>	外) ナデ, ミガキ。底部, ミガキ。 内) ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 褐灰色, にぶい褐色 内) にぶい褐色		437
16	小型土器	底部	底径 (3.1) 器高 <1.3>	外) ミガキ。 内) ミガキ。	○緻密 ◎良 ●外) にぶい褐色 内) にぶい赤褐色	内面, 剥落。	168
17	小型土器	底部	底径 3.5 器高 <1.6>	外) ナデ, ミガキ。底部, ミガキ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色 内) 暗褐色		157
18	蓋	蓋の摘み	器高 1.1	ロクロ整形。 内) 糸切り痕。	○緻密 ◎良好 ●灰褐色		一括
19	鉢か	口縁部	器高 <2.8>	外) 単節縄文RL。沈線。赤彩。 内) ナデ, 赤彩。	○細砂粒 ◎良 ●にぶい褐色, 赤褐色		67
20	砥石。	5.0cm×4.9cm×3.8cm。21.1g。溝状の研ぎ痕あり。軽石。黒褐色。被熱で黒色化。浅間山以外・海浜部産。					2

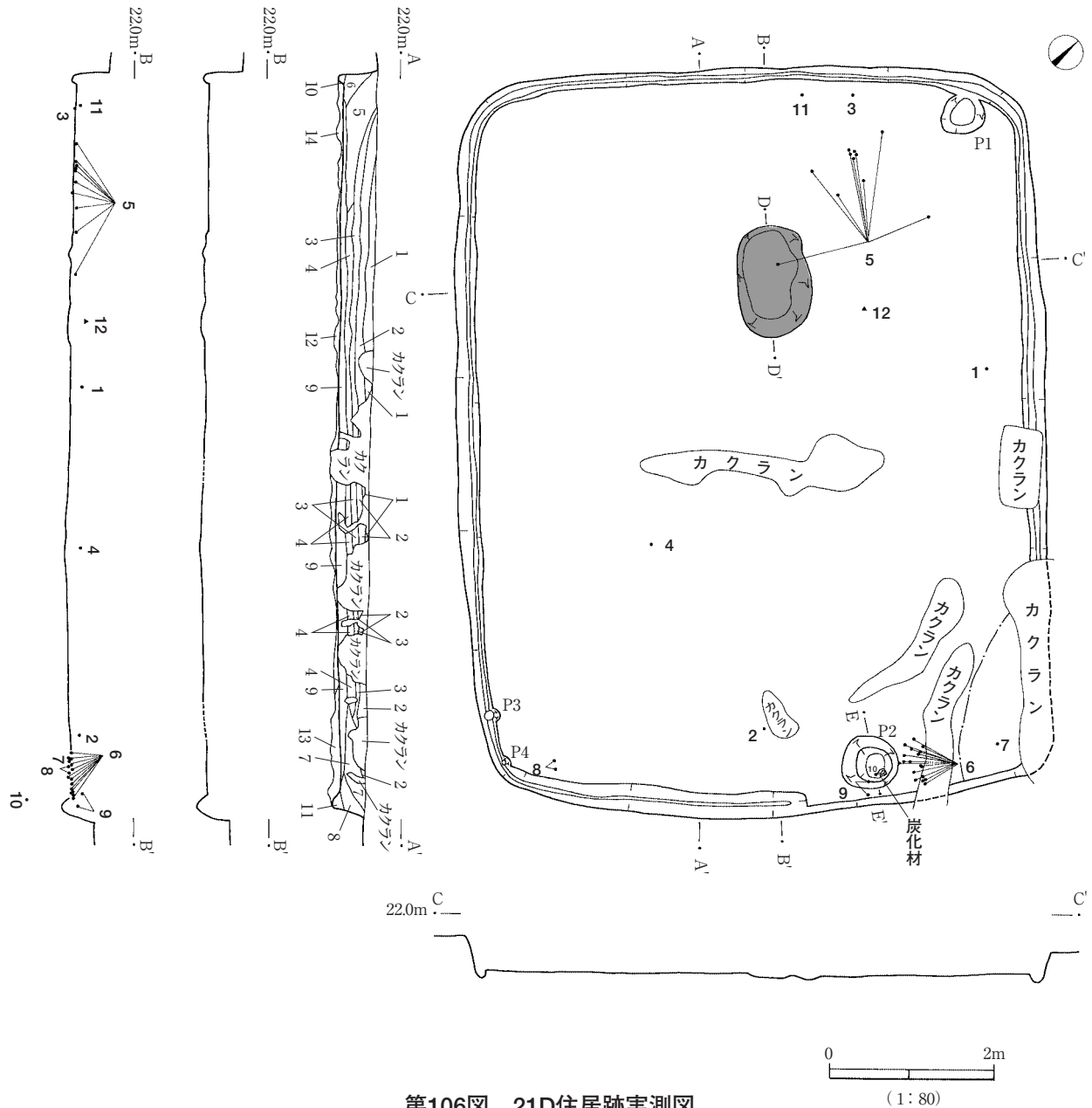
21	砥石か。4.4cm×3.7cm×2.5cm。7.9g。擦痕あり。被熱のため赤みを帯びる。軽石。にぶい赤褐色、淡橙色。	545
22	軽石。4.55cm×3.25cm×2.4cm。7.4g。擦痕認められず。灰黄褐色。	308
23	軽石。2.8cm×1.6cm×1.9cm。2.1g。被熱のためヒビ。黒色化。にぶい橙色、褐灰色	448
24	石鏝。完形。3.0cm×1.7cm×0.45cm。1.5g。チャート。暗灰色。	50
25	剥片。4.25cm×3.2cm×0.9cm。9.4g。ガラス質黒色安山岩。灰色。おそらく栃木県武子川・姿川産。	544
26	剥片。1.7cm×1.9cm×0.5cm。1.4g。珪質岩。灰白色。浅黄色。	465

崩落したものと考えられる。**壁溝** 幅6～19cm、深さ7～12cm。ほぼ全周するが、南東壁のP2付近では途切れ、東コーナー付近では攪乱を受ける。大部分で貼床よりも深く掘られている。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** P2が相当する。南東壁際中央からやや北に寄った所にあった。上面68×62cm、底面34×30cm、深さ46cm。平面形はほぼ円形。覆土下層の褐色土から第108図10の小型鉢が出土した。覆土はしまり弱く、人為的埋め戻し土と考えられる。**ピット** P1は上面56×52cm、底面36×28cm、深さ12cm。底面に凹凸がある。P3・P4は南コーナー付近の壁溝内で検出した小ピット。P3の深さ9cm。P4の深さ10cm。**炉跡** 住居中央の北西壁寄りに作られていた。平面形は楕円形。規模は136×88cm。貼床層及びローム層を掘り込んだ後、ロームブロックを埋め戻して基層とし、この上にローム土・ロームブロックによる炉床を作る。掘り方は基層底面がすり鉢状で立ち上がりはやや急、炉床面は凹凸があり立ち上がりは緩やか。炉の覆土は焼土粒子・焼土ブロックを含む暗赤褐色土であった。**床面** 壁側を中心にローム層を一旦掘り下げ、ローム土にロームブロック及び暗褐色土を斑状に含む混合土で埋め戻し、床材としていた。壁側では暗褐色土を多量に含んでいた。床表面は東コーナー付近でやや硬化している。

出土遺物 総数374点（土器片367点・土製品1点・剥片1点・石4点・鉄滓1点）出土。壺及び甕の他、小型土器が出土した。9は20Dのものと同じように、定型化以前の埴である。土製品は小型の杓子型土製品である。**炭化材** P2内から1点出土したのみである。

22D住居跡（第109図～114図）

位置 C1-50・40・C2-41G。**平面形態** 北西-南東方向に長い隅丸長方形。**規模** 北西-南東方向6.3～6.6m、北東-南西方向5.3m、深さ42～56cm。**主軸方向** N-53°-W。**覆土** 全体的に暗褐色系の土が占めている。一面のみの観察であるが、当初北西方向からの土砂の流入が多かったことがわかる。2層が最も暗い黒褐色土である。**壁面** ほぼ垂直な立ち上がり。暗褐色土～ソフトロームから成る。**壁溝** 幅6～24cm、深さ5～15cm。全周する。比較的明瞭。覆土の上に貼床の土が乗っているのを観察できる部分があった。**柱穴** P2・P4・P6が柱穴らしい位置にあるが、いずれも浅く明確に柱穴と言えるようなピットではなかった。P2の上面36×28cm、尖底、深さ20cm。P4の上面37×32cm、底面22×15cm、深さ7cm。P6の上面30×26cm、尖底、深さ16cm。**貯蔵穴** P1が相当する。北コーナー付近にあった。上面58×56cm、底面は有段で最深部が14×8cm、深さ75cm。平面形は円形。P1を囲むように周堤帯が弧状に作られていた。**ピット** 貼床調査時にP1付近で2基、炉の火床調査時に1基検出した。P7の上面53×38cm、底面33×8～14cm、深さ25cm。P8は不整形、上面60×16～27cm、底面42×2～12cm、深さ18cm。P9は炉の火床の下にあった。覆土は暗褐色土で焼土をほとんど含まない。上面24×17cm、底面10×5cm、深さ火床下部から20cm。P3・P5は欠番。**炉跡** 住居中央やや南東よりに作られていた。平面形は円形。上面径98cm、炉床面40×32～9cm。火床は焼けて橙色になった明瞭なもので、平面形は楕円形、規模は82×62cm。火床の橙色化は厚さ7～8cmに及んでいた。炉の構築は、ローム層を掘り込んだ後、ローム土のみを埋め戻したらしい。基層の掘り込み底面はすり鉢状、炉床面は緩やかな窪みである。**床面** ローム層まで住居の壁側を深く中央部を浅く掘り下げ、暗褐色土・褐色土・黒褐色土とロ



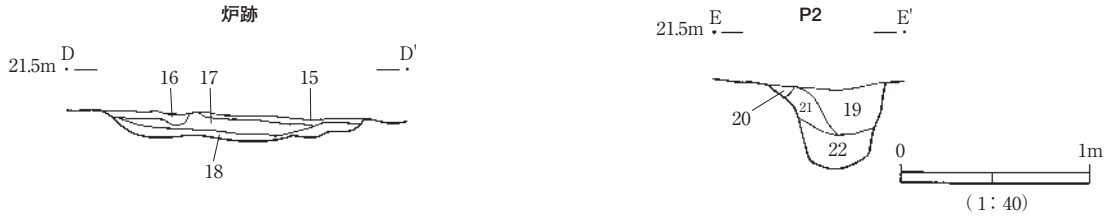
第106図 21D住居跡実測図

21D住居跡土層観察表 (第106図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/1 7.5Y R3/3斑状	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリアまばら
2	判然	7.5Y R3/1.5	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリアまばら
3	判然	7.5Y R2.5/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む 主根あり	径2mm以下黄色スコリア
4	判然	7.5Y R3/2, 2.5/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径2mm以下黄色スコリア多 径1mm以下焼土粒子少
5	2と漸変 明瞭	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	径1mm以下黄色スコリア
6		7.5Y R3/3, 7.5Y R4/3にじむ	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱~中	細根含む	
7	2・3・4と判然 漸変	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む 主根あり	径3mm以下黄色スコリア 径1mm以下焼土粒子
8		7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根富む	径1mm黄色スコリア
9	4と判然	7.5Y R3/3, 4/3, 4/4まじり合う	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径1cmロームブロック
10	6と判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	壁溝覆土
11	8と判然	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	壁溝覆土

貼床

No.	色調	しまり	粘性	その他
12	7.5YR4/4 暗褐色土斑状 部分的に黒褐色土少	やや弱	やや弱	
13	7.5YR3/4 褐色土斑状	やや弱	弱	ローム粒
14	7.5YR4/3 褐色土斑状	中	弱	ローム粒



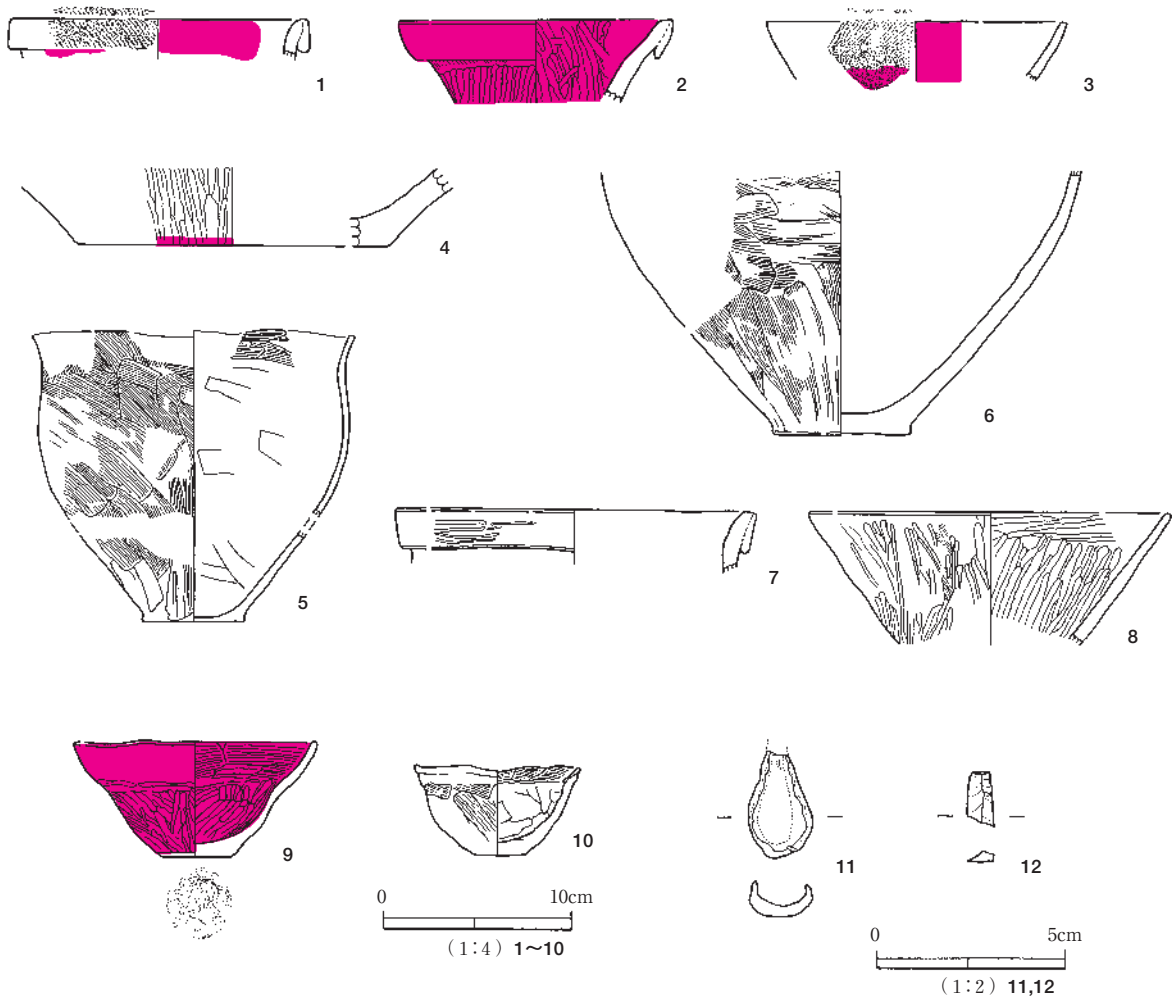
炉跡土層

- 15. 5YR3/2 (暗赤褐色土) 焼土粒, 焼土ブロック。しまり弱。粘性弱。
- 16. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 焼土粒 (1層より多)。しまり弱。粘性弱。
- 17. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 炉跡床面。被熱のため赤化, 黒褐色土斑状。焼土ブロック, 焼土粒。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 18. 7.5YR4/4 (褐色土) 炉跡基層。暗褐色土斑状。焼土粒。しまりやや弱。粘性中。

P2土層

- 19. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 焼土粒少, ローム粒少。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 20. 7.5YR3/3 (暗褐色土) 褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 21. 5YR3/6 (暗赤褐色土) 褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 22. 7.5YR4/4 (褐色土) 0.5cm以下ロームブロック微。しまり弱。粘性中。

第107図 21D住居跡炉跡・P2断面図



第108図 21D住居跡出土遺物実測図

21D住居跡出土遺物観察表 (第108図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (16.0) 器高 <2.2>	外) 口唇部上端～複合口縁部, 単節縄文RL。赤彩。底部, ミガキ。 内) ナデ, 赤彩。	○細砂粒 ○やや不良 ●外) 浅黄橙色, にぶい赤褐色 内) 浅黄橙色, にぶい赤褐色 灰褐色		45
2	複合口縁壺	口縁部	口径 (14.6) 器高 <4.4>	外) ナデ, 斜ハケ後縦ミガキ, 赤彩。 内) 斜め, 縦ミガキ, 赤彩。	○細砂粒 ○良好 ●にぶい赤褐色		70
3	鉢か	口縁部	口径 (16.0) 器高 <3.2>	外) 口唇部上端～口縁部, 単節縄文LR。Z字状結節文, 赤彩。 内) ミガキ, 赤彩。	○緻密 ○良 ●外) 黄橙色, 明赤褐色 内) 赤褐色	内面, 剥落。	133
4	壺	底部	底径 (17.0) 器高 <4.1>	外) 縦ミガキ, 赤彩か。底部, ミガキ。 内) ナデ, ミガキ。	○赤褐色スコリア, 砂粒 ○良 ●にぶい褐色, 灰褐色		38
5	甕	口縁部～底部	口径 (17.0) 底径 (5.4) 器高 <15.5>	外) 斜, 縦ハケ, ミガキ。 内) 横ハケ, 斜ハケ, 斜ヘラナデ。	○砂粒 ○良好 ●外) にぶい橙色, 褐灰色 内) にぶい赤褐色, 褐灰色		111-112-114～ 119-139, 110-121一括
6	甕	胴下部～底部	底径 7.4 器高 <13.9>	外) 多方向のハケ, ナデ。底部, ミガキ。 内) ミガキ。	○細砂粒, 白色粒子 ○良 ●外) 黒色, にぶい橙色, 褐灰色 内) 褐灰色, 黒色, にぶい褐色	外面, 煤状物質付着。 内面, 剥落。	76-78-80-81-84 ～86-100-150～ 152-155-159～ 162-165-166
7	複合口縁甕	口縁部	底径 (19.0) 器高 <3.3>	外) 横ハケ後ナデ, 横ミガキ。 内) 横ナデ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ○良好 ●外) 黒褐色 内) にぶい褐色, 灰褐色		180
8	高坏	坏体部	口径 (19.6) 器高 <6.9>	外) 縦, 斜ハケ後縦, 斜ミガキ。 内) 横, 縦ミガキ。	○黒色粒子, 細砂粒 ○良好 ●外) 明赤褐色, 橙色, 褐灰色 内) にぶい褐色		66-67
9	柑	口縁部～底部 1/3	口径 (12.9) 底径 3.7 器高 <6.1>	外) 多方向のミガキ, 赤彩。底部, ヘラケズリ後ミガキ。 内) 横ハケ後横ミガキ。縦, 横ミガキ。赤彩。	○砂粒 ○良好 ●外) 赤褐色, 明赤褐色 底部, にぶい赤褐色 内) 赤褐色		21-22
10	小型鉢	略完形	口径 8.7 底径 2.5 器高 4.8	外) 斜ハケ後ナデ。輪痕。底部, ナデ。 内) 横ハケ, 縦ミガキ。	○砂粒 ○良 ●褐色		176
11	杓子形土製品。完形。2.8cm×1.7cm×0.9cm。2.2g。				○緻密 ○良 ●にぶい赤褐色		30
12	剥片。1.5cm×0.7cm×0.3cm。0.4g。黄玉石。黒褐色。						60

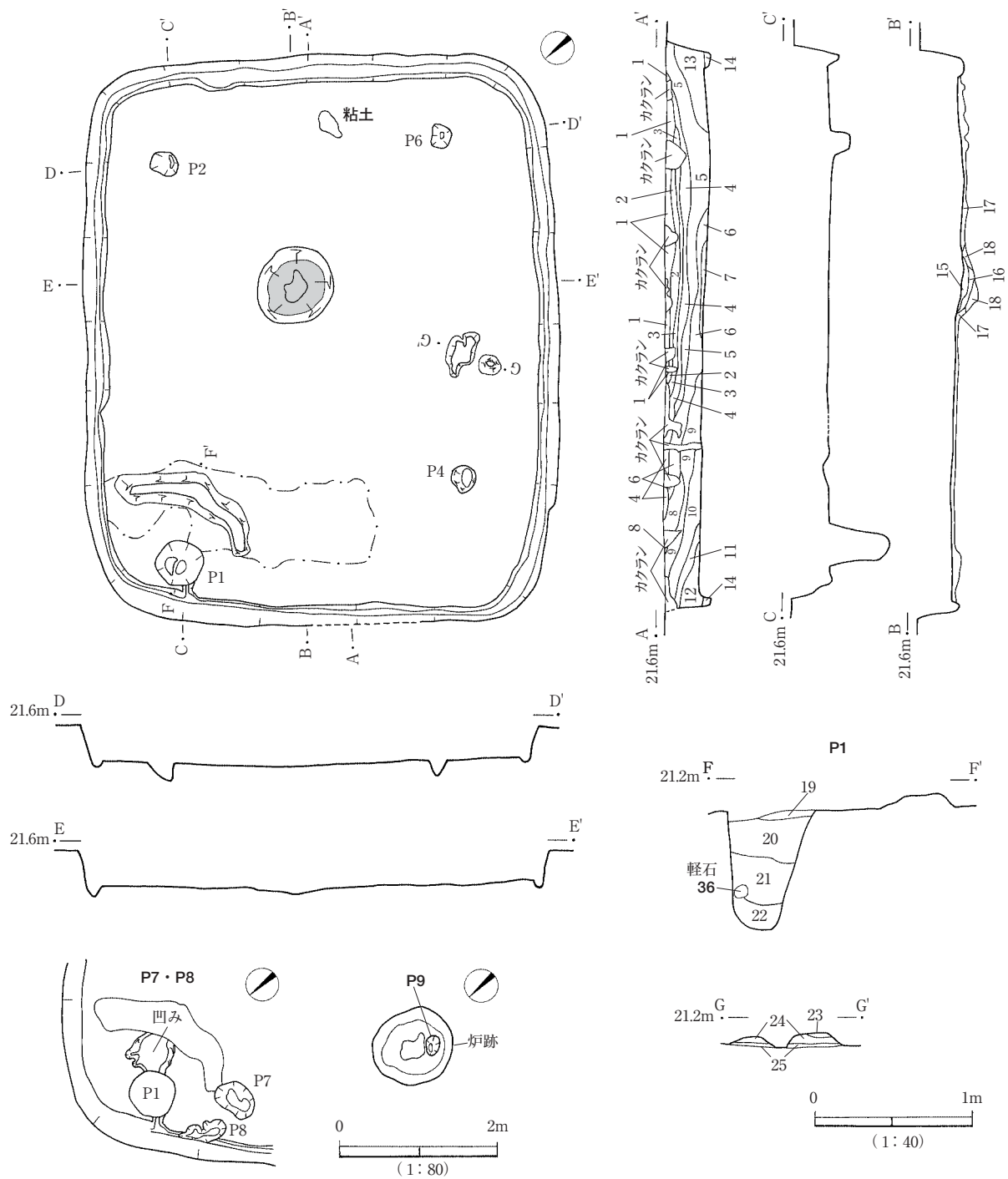
ームブロックの混合土を埋め戻し, 床材としていた。床表面はP1・周堤帯の付近で硬化している。P1の周堤帯の他に, 南西壁中央付近にも硬い土の高まりが認められた。床面上の何らかの施設の痕跡としておく。

出土遺物 総数1814点 (土器片1770点・陶器片3点・軽石16点・石鏃1点・剥片1点・泥岩3点・石16点・鉄製品4点) 出土。今回の調査で最も多くの遺物を出土した。周堤帯の南側付近と, 南東壁中央付近に遺物が集中する傾向がある。装飾壺・甕・台付甕・高坏・器台・小型土器に, 古墳時代初頭の範囲の中で, 古い様相をもった土器群とより新しい様相を示す土器群とが認められるようである。

炭化材 56点出土した。樹種同定の結果, クヌギ節の細片が最も多かった (Ⅲ1参照)。

23D住居跡 (第115図～117図)

位置 C1-49・50G。**平面形態** 隅丸方形。**規模** 北西-南東方向4.65m, 北東-南西方向4.46m, 深さ50～56cm。**主軸方向** N-58°-W。**覆土** 床面直上には9～12層の焼土・炭化材・炭化米を含む土が堆積し, その後暗褐色系の土が住居の北西側と南東側両方から均等に入り, 覆土上層には黒褐色系の土が堆積し, 1層が最も暗い土となっていた。**壁面** 垂直気味に立ち上がる。上部でやや傾斜が変わり, 一部が崩落していると思われる。**壁溝** 幅4～10cm, 深さ4～12cm。全周する。南東壁際のみ地山を, それ以外は貼床を掘り込んで作られている。底部は波打っていて平らではない。細い木を埋めていたピットの連続なのかもしれない。特に南西壁側ではその様子が明瞭に観察できる。**柱穴** P2・P3・P4・P5は, 柱穴とするには浅く, 位置に規則性がない。**貯蔵穴** P1が相当する。東コーナー付近にある。平面形は楕円形, 上面56×44cm, 底面19×18cm, 深さ30cm。覆土はローム粒子を多く含む暗褐色土が主体であった。**ピット** P2は上面36×32cm, 底面26×25cm, 深さ15cm。P3は上面径22cm, 底面15×14cm,

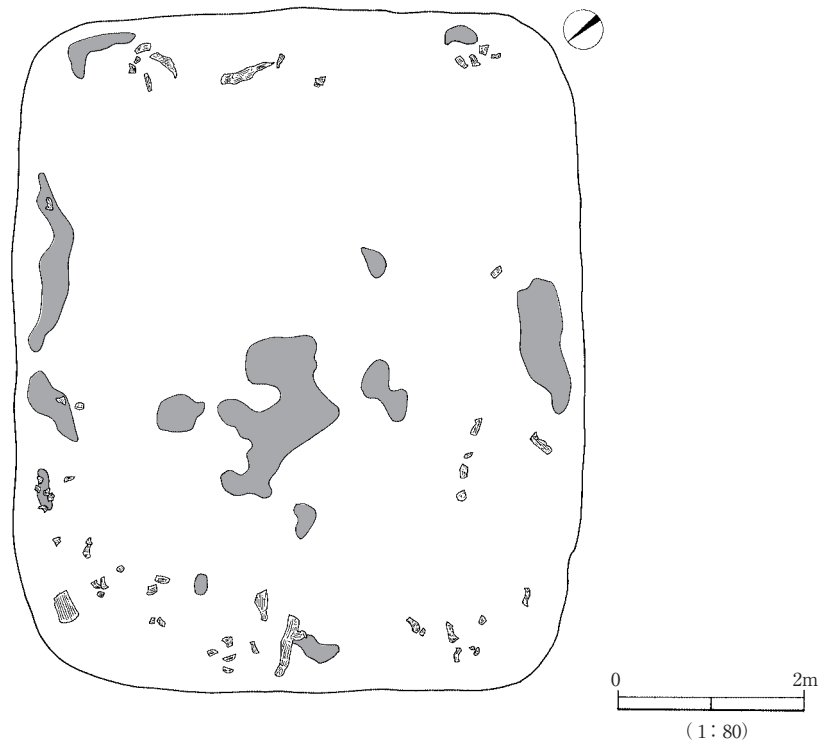


第109図 22D住居跡実測図

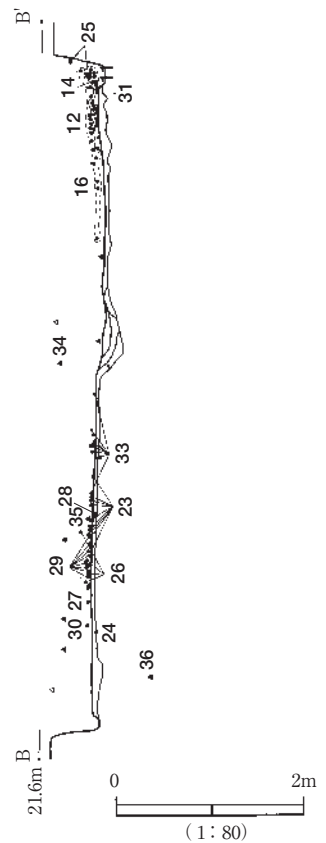
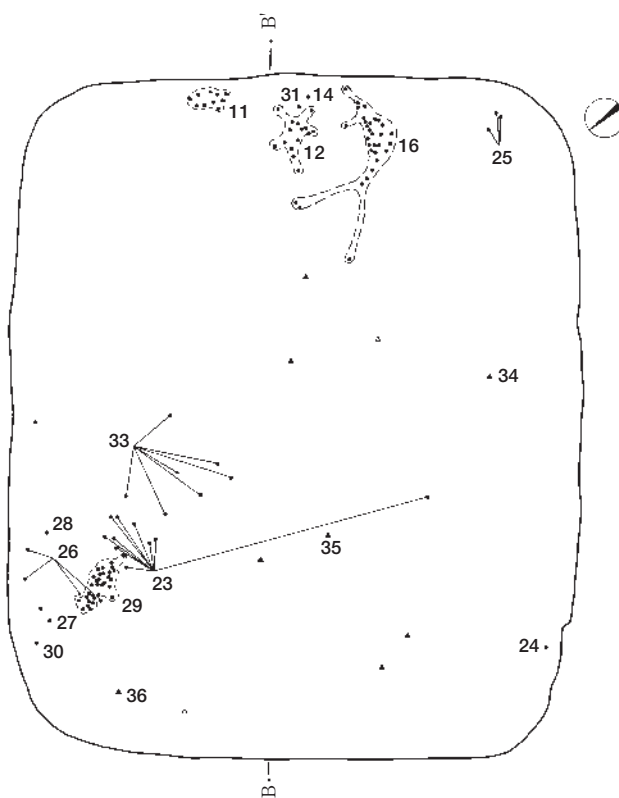
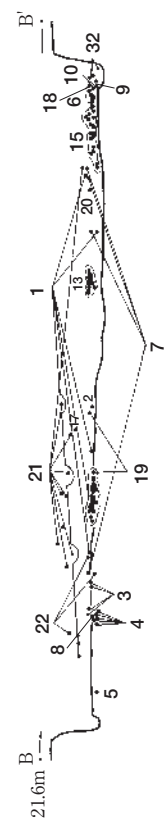
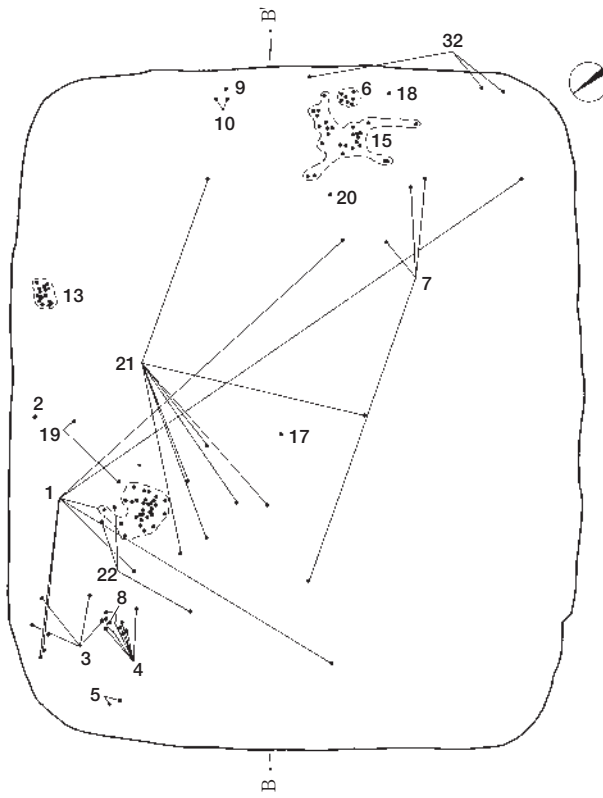
22D住居跡土層観察表 (第109図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	渐变	7.5Y R3/1.5	富む	Si CL	垂角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
2	判然	7.5Y R3/1	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
3	明瞭	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	16	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
4	判然	7.5Y R3/2, 3/3 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径0.5mm黄色スコリア 径3~5mm黄色スコリアまばら
5	渐变	7.5Y R3/3 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径1mm以下黄色スコリア 径1mm以下焼土粒子
6	明瞭	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア 径3mm以下焼土粒子

7		7.5Y R3/3 5YR4/3焼土	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径3mm以下焼土, 焼土粒子
8	明瞭	7.5Y R3/3 7.5YR4/3斑状	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1mm以下黄色スコリア
9	渐变	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア 径1mm以下焼土粒子 径2mm以下炭化物
10	判然	7.5Y R3/2 7.5YR4/3雲状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア 径2mm以下焼土粒子
11	判然	7.5Y R3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア 径1cmロームブロック
12		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
13	判然	7.5Y R3/3, 7.5Y R3/2にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア 径2mm以下焼土粒子
14		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根あり	径5mm以下黄色スコリア
炉跡											
15	判然	2.5YR4/6焼土	なし	Si L	小亜角塊状	含む	小	20	0	0	径5cm焼土ブロック
16		5YR3/4 2.5YR4/6焼土まじり	含む	Si L	小亜角塊状	含む	小	17	0	0	径1cm焼土ブロック 径3mm以下焼土粒子
貼床											
17	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3, 4/4 3/2まじり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17～26	弱～中	細根あり	径1～4cmロームブロック
18		7.5Y R4/3	含む	L	屑粒状～ 小亜角塊状	なし	0～小	16	弱	0	径1～2cmロームブロック
P1											
19	渐变	7.5Y R3/1, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根含む	炭化材片 径1～2mm黄色スコリア
20	渐变	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	径3mm以下黄色スコリア
21	渐变	7.5Y R3/1, 3/3	富む	Si CL	屑粒状～ 小亜角塊状	含む	0～小	10～16	中	細根含む	炭化材片, 焼土, 軽石あり
22		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	10	強	細根含む	
G-G'											
23	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根あり	
24	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	19	中	細根あり	径1～2mm黄色スコリア



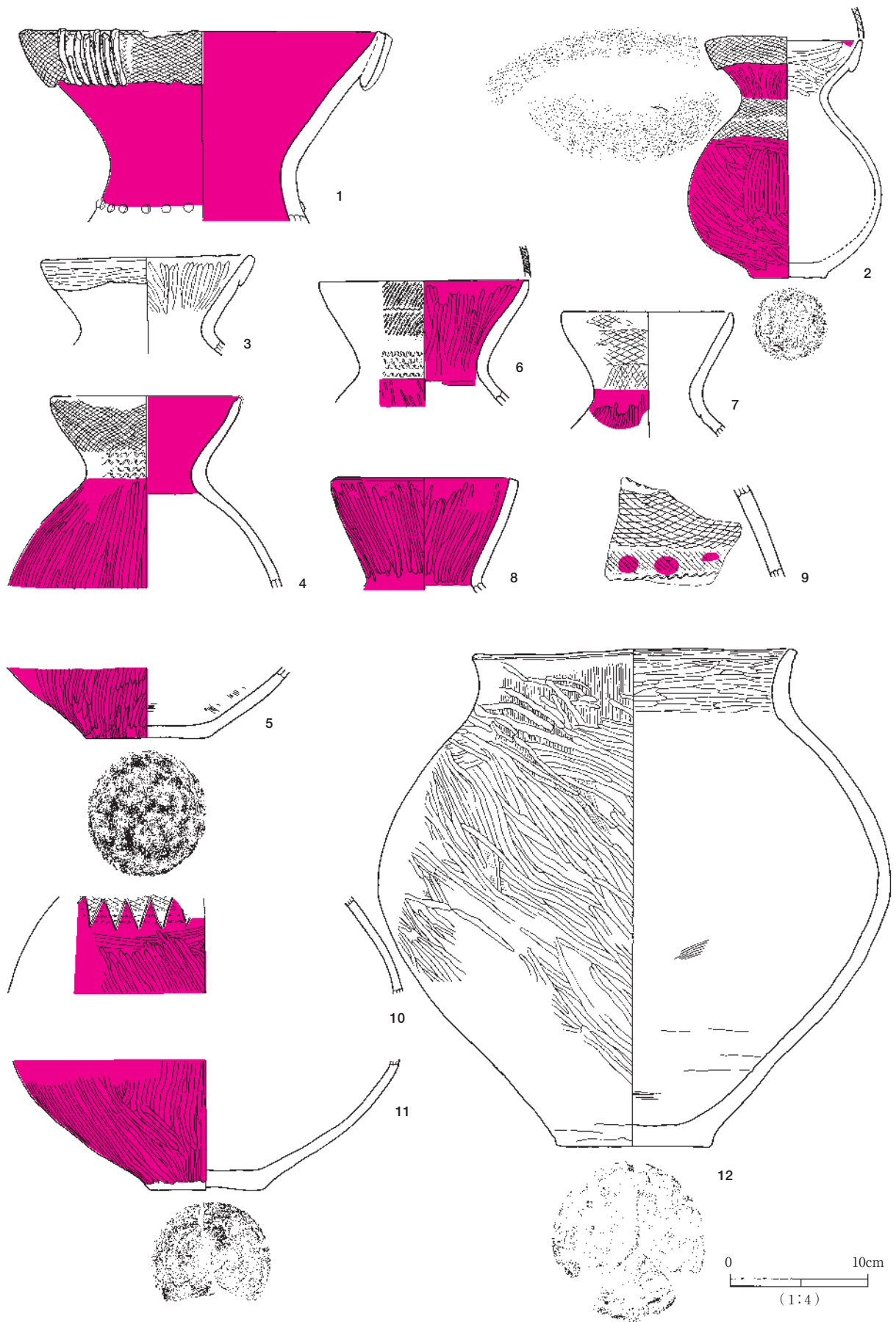
第110図 22D住居跡炭化材・焼土出土状況図



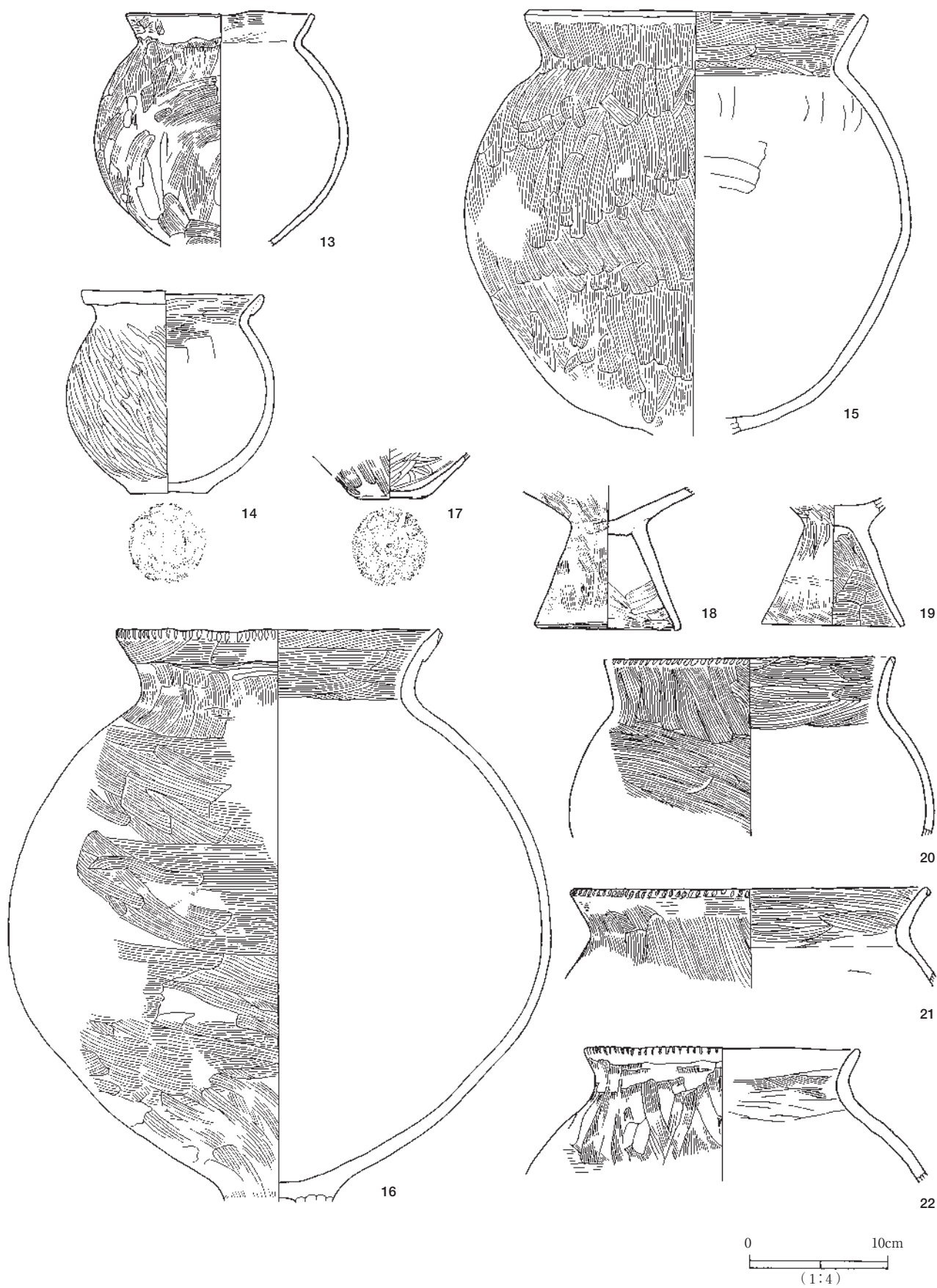
▲番号のないものは軽石
△鉄滓

(1: 80)

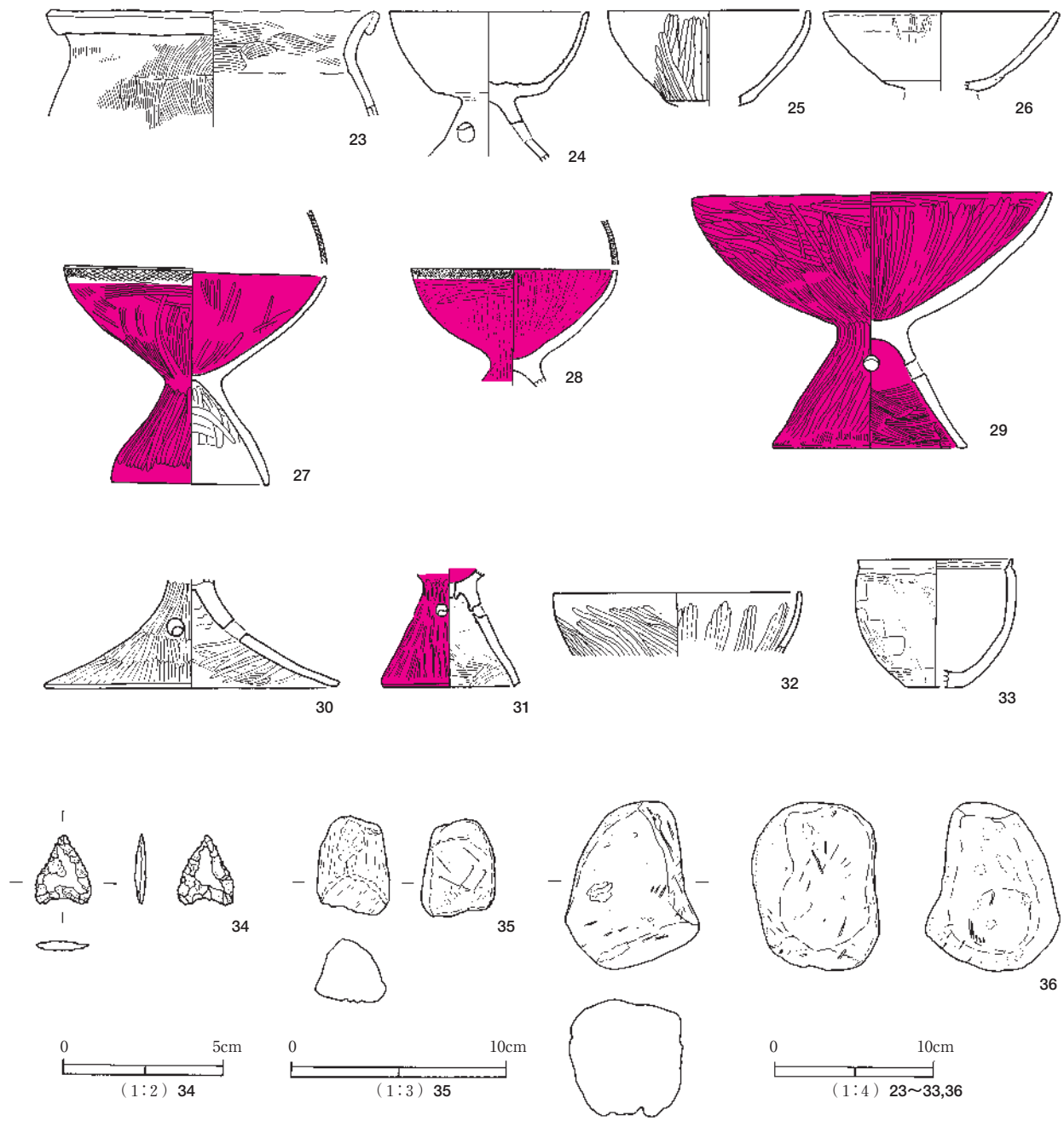
第111図 22D住居跡遺物出土状況図



第112图 22D住居跡出土遺物実測図(1)



第113图 22D住居跡出土遺物実測図(2)



第114図 22D住居跡出土遺物実測図(3)

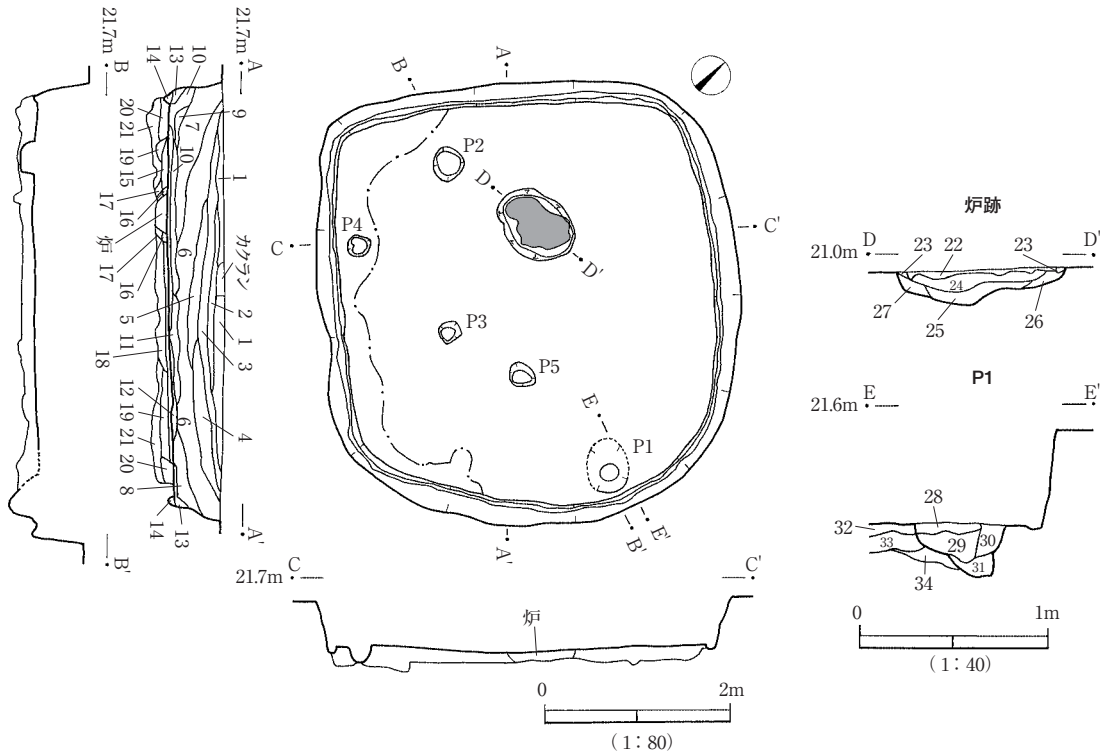
22D住居跡出土遺物観察表 (第112~114図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	複合口縁壺	口縁部 ～頸部	口径 (26.6) 器高 <13.8> 頸部径 13.5	外) 口唇部上端に網目状捺糸文。 口縁部に棒状浮文、円形浮文。 赤彩、ミガキ。 内) 赤彩・ミガキ。	○砂粒、赤褐色スコリア ●良好 ●外) にぶい橙色、赤褐色 内) 赤褐色		83-150他
2	複合口縁壺	略完形	口径 11.5 底径 5.5 器高 17.4 頸部径 6.3 胴部最大径 14.1	外) 網目状捺糸文、赤彩。 多方向のミガキ。底部、ヘラ ケズリ後ミガキ。 内) 横・斜ミガキ。	○砂粒 ●良好 ●外) 赤褐色、橙色、黒色 内) 黒褐色、褐灰色		697
3	複合口縁壺	口縁部 ～頸部	口径 15.6 器高 <7.2> 頸部径 9.7	外) 横ミガキ、ハケ後ナデ、ミガキ。 内) 縦ミガキ、横ナデ。	○砂粒、赤褐色スコリア ●良好 ●にぶい橙色、黒褐色		684-669-678-687
4	壺	口縁部 ～胴中部	口径 (13.8) 器高 <14.0> 頸部径 (8.5)	外) 網目状捺糸文、S字状結節文、 縦ミガキ、赤彩。 内) 赤彩、ナデ。	○砂粒、赤褐色スコリア ○やや不良 ●外) 橙色、にぶい赤褐色 内) にぶい橙色	内外面、剥落。	1161-1162-1164 ～1169-1181
5	壺	胴下部 ～底部	底径 8.8 器高 <5.2>	外) 縦ハケ後縦ミガキ、赤彩。 内) 横ハケ後ナデ、ミガキ。	○砂粒、赤褐色スコリア ○やや不良 ●外) 橙色、にぶい赤褐色 内) にぶい橙色	内面、剥落。	1172-1173 上と同一個体。
6	壺	口縁部 ～頸部	口径 15.4 器高 <9.0> 頸部径 9.4	外) 口唇上端、頸部以上に単節縄文 L R、S字状結節文、Z字状結節文 赤彩、ミガキ。 内) 縦ミガキ、頸部以上赤彩。 ナデ。	○細砂粒 ●良好 ●外) 浅黄褐色、明赤褐色 内) 赤色、黄褐色、灰褐色		1046-1047-1048- 1049-1050-1106- 1107
7	壺	口縁部 ～頸部	口径 (12.6) 器高 <9.0> 頸部径 (7.8)	外) 網目状捺糸文、ミガキ、赤彩。 内) 横ナデ、ミガキ。	○細砂粒 ●良好 ●赤褐色、にぶい橙色	内面、剥落。	413-156-164-165
8	壺	口縁部 ～頸部	口径 (13.6) 器高 <8.4> 頸部径 (8.3)	外) 斜ハケ後縦ミガキ、赤彩。 内) 横ナデ後縦ミガキ。頸部以上 赤彩。	○細砂粒 ●良好 ●外) にぶい赤褐色、黒色 内) にぶい赤褐色、にぶい橙色	内面、剥落。	1163
9	壺	胴上部		外) S字状結節紋、捺糸文Rによる無 節縄文。網目状捺糸文、円形赤彩。 内) ナデ、ミガキ。	○細砂粒 ●良好 ●外) にぶい橙色、赤褐色 内) 浅黄褐色		955
10	壺	胴上部		外) 網目状捺糸文、S字状結節文 沈線による山形文。横・斜ミガキ。 赤彩。 内) ナデ	○赤褐色スコリア、砂粒 ○やや不良 ●外) 浅黄褐色、にぶい赤褐色 内) 浅黄褐色		950-953
11	壺	胴下部 ～底部	底径 8.4 器高 <9.3>	外) 縦・斜ミガキ、赤彩。底部、 ヘラケズリ後ミガキ。 内) ナデ。	○赤褐色スコリア、砂粒、小石粒 ○やや不良 ●外) にぶい赤褐色、にぶい褐色 褐色 底部、浅黄褐色 内) 浅黄褐色		933～936-938- 939-942-944～ 946 上と同一個体。
12	甕	口縁部 ～底部 1/2	口径 (23.4) 底径 11.3 器高 <35.9> 胴部最大径 37.0	外) 多方向のハケ後、斜・縦 ミガキ、ナデ。 内) 横ハケ後横ミガキ、ナデ。 底部、ヘラケズリ後ミガキ。	○砂粒、白色粒子 ●良好 ●にぶい褐色、褐灰色、 にぶい橙色		962-963-964-966 -967-968-969- 970-971-972- 1081-1082-1083- 1084-1085-1116
13	甕	口縁部 ～胴下部	口径 13.8 器高 <16.8> 頸部径 11.9 胴部最大径 (18.5)	外) 多方向のハケ、ナデ、ミガキ。 内) 横ハケ後ナデ、ミガキ。	○細砂粒 ●良好 ●外) 黒褐色、にぶい褐色 内) にぶい橙色、黒色	内面、剥落。	928-900～903- 906～909-911- 912-914～918- 921-924-468-469
14	複合口縁甕	略完形	口径 13.5 底径 5.8 器高 14.6 頸部径 11.1 胴部最大径 15.1	外) 横ハケ後横ナデ。斜ミガキ。 底部ヘラケズリ。 内) 横ミガキ、ヘラケズリ。	○細砂粒 ●良好 ●外) 灰褐色 内) 褐灰色、灰褐色		698
15	台付甕	口縁部 ～底部	口径 25.2 器高 <30.3> 頸部径 22.4 胴部最大径 (32.6)	外) 縦・斜ハケ後、ナデ。 内) 横ハケ、ヘラナデ、ナデ。	○砂粒 ●良好 ●にぶい褐色、褐灰色、 にぶい褐色		979-961-981-994- 1014-1015-1020-1030-1035-1037- 1039-1064-1065-1067-1068-1070- 1072-1078-1112-1113-1115-1117- 1119-1125-1133-1140
16	複合口縁台付甕	口縁部 ～胴中部 胴下部	口径 (23.6～25.2) 器高 <41.0> 頸部径 20.0 胴部最大径 (39.6)	外) 口唇部にキザミ。横ハケ、多方向 のハケ、ミガキ、ナデ。 内) 横ハケ、ナデ、ミガキ。	○砂粒 ●良好 ●外) にぶい褐色、黒色、灰褐色 内) 灰褐色、褐灰色、にぶい褐色		1102-1105-1005-1025-1028-1031- 1033-1034-1041～1045-1081-1090- 1130、494-959-978-1008-1009- 1012-1018-1021-1023-1036-1093- 1100-1101-1103-1126-1129
17	甕	底部	底径 4.8 器高 <3.3>	外) 縦ハケ。底部、ミガキ。化粧土 のような状態。凹みあり。 内) 多方向のミガキ。	○砂粒 ●良好 ●外) 褐灰色、灰褐色 内) 黒色		439
18	台付甕	脚部	底径 10.7 器高 <10.2>	外) 縦ハケ、横ナデ。 内) 甕部、ミガキ。脚部、横ナデ。 斜・横ヘラナデ。	○砂粒 ●良好 ●外) 黒色、にぶい褐色 内) 坏部、黒色、褐色 脚部、褐灰色		700
19	台付甕	脚部 2/3	底径 10.4 器高 <9.3>	外) 縦・斜ミガキ、ナデ、縦・斜 ハケ 内) 縦・横ハケ。	○砂粒、赤褐色スコリア ●良好 ●外) にぶい褐色、にぶい褐色 内) 甕部、黒色 脚部、灰褐色、にぶい褐色		638-757
20	甕	口縁部 ～胴中部	口径 (21.0) 器高 <12.9> 頸部径 (19.7)	外) 口唇部、工具押圧による キザミ。斜ハケ。 内) 横ハケ。	○砂粒 ●良好 ●外) 黒色、灰褐色、褐色、 にぶい褐色 内) 褐灰色、黒褐色、にぶ い褐色		1001

21	甕	口縁部 ～頸部	口径 器高 頸部径 (26.2) <7.1> (23.2)	外) 口唇部, 工具押圧による キザミ。 横ナデ, 縦・斜ハケ。 内) 横ハケ, ナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 暗褐色, 黒褐色 内) にぶい褐色, 灰褐色		253-201-202-263 -58-342-281- 532-305-264-202 -201
22	甕	口縁部 ～胴上部	口径 器高 頸部径 (20.0) <9.7> (18.4)	外) 口唇部, 工具押圧によるキザミ。 横ナデ, 縦・斜ハケ後横ナデ。 内) 横ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) にぶい橙色, 黒色 内) 橙色	内面, 剥落。 外面, 煤状物質 付着。	653-746-808
23	複合口縁 甕	口縁部 ～胴上部	口径 器高 頸部径 (20.7) <7.2> (17.7)	外) 斜・縦ハケ, ナデ。 内) 横ナデ, 横, 斜ハケ。	○砂粒 ◎良 ●明赤褐色		212-722-729-730- 745-747-754-805-806-819~821-823 -850
24	高坏	坏部 ～脚上部	口径 器高 12.4 <9.3>	外) ミガキ。 内) 坏部, ミガキ。脚部, ミガキ。 透孔, 2箇所残存。推定, 3箇所。	○白色粒子, 砂粒 ◎不良 ●外) 黒色, にぶい黄褐色 内) 坏部, 黒色, にぶい褐色 脚部, 褐灰色	外面, 剥落。 坏部内面, 剥落。	701
25	高坏	口縁部 ～体下部	口径 器高 (12.8) <5.8>	外) 縦ミガキ, ナデ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい橙色, 灰褐色 内) 橙色		328-174-516
26	高坏	坏体部 I/2	口径 器高 (14.7) <4.9>	外) 縦ミガキ。輪積痕。ナデ。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 明赤褐色, 明褐灰色 内) 褐灰色, にぶい橙色		671-680-681-712
27	高坏	略完形	口径 底径 器高 16.4 9.8 13.3	外) 坏部, 口唇部上端に細かい 単節縄文LR, 網目状捺糸文。 横・縦ミガキ, 赤彩。 脚部, 縦ミガキ, 赤彩。 内) 脚部, 縦・斜ミガキ, ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 赤褐色, 橙色 内) にぶい赤褐色, 橙色		695
28	高坏	坏部 ～脚上部	口径 器高 12.9 <7.3>	外) 口唇部上端～口縁部, 単節縄文 LR。縄文帯以外赤彩。横・縦ミガ キ。 内) 縦ミガキ, 赤彩。	○砂粒 ◎良好 ●外) 明黄褐色, にぶい赤褐 色, 黒色。 内) 坏部, 褐灰色, にぶい 赤褐色, 脚部, 褐灰色		696
29	高坏	略完形	口径 底径 器高 22.4 12.2 15.9	全面, 赤彩。 外) 坏部, 横・斜ミガキ。脚部, 縦ハケ後, 縦ミガキ。 内) 坏部, 横ミガキ, 縦ミガキ。 脚部, 横ハケ, ナデ。透孔4箇所。	○細砂粒 ◎良好 ●明赤褐色, 灰褐色		704-702-705~708 -710-711-713~721-723-724-776- 777-779~781-784-810-877-880-888
30	高坏	脚部	口径 底径 器高 18.4 <6.6>	外) 縦ミガキ 内) 斜ハケ後横ミガキ。 透孔, 3箇所。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 赤褐色, 褐色, にぶい褐色 内) 明赤褐色, 黒褐色, 橙色		694
31	器台	脚部	口径 底径 器高 8.6 <7.2>	外) ハケ, 縦ミガキ。赤彩。 内) 受部, 赤彩。脚部, 横・斜ハケ, ナデ。 透孔, 2箇所。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい赤褐色 内) にぶい褐色		699
32	高坏か	口縁部	口径 器高 (15.5) <3.9>	外) 横ナデ後斜ミガキ。 内) 横ナデ後縦ミガキ。	○赤褐色スコリア, 細砂粒 ◎良好 ●外) 浅黄褐色, にぶい赤褐色 内) 浅黄褐色		1134-1176-1179
33	小型鉢	口縁部 ～底部 3/4	口径 底径 器高 9.7 (3.4) <7.9>	外) 横・斜ハケ後横ナデ, 横ミガキ。 内) 横ナデ, 横ミガキ。	○細砂粒 ◎良 ●外) 黒色, にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色, 褐灰色		583-643-644-647 -665-666-768- 773-511-590-589 -636-1189
34	石鏃。完形。2.2cm×1.6cm×0.3cm。1.1g。チャート。灰色。						72
35	砥石。4.5cm×3.35cm×2.9cm。5.3g。擦痕あり。軽石。灰黄色。						204
36	砥石。10.3cm×8.3cm×7.3cm。111.2g。擦痕あり。軽石。灰白色, にぶい黄褐色。					P1内出土	1190

深さ12cm。P4は上面23×22cm, 底面18×17cm, 深さ15cm。P5は貼床調査時に検出した。上面30×24cm, 底面20×14cm, 深さ22cm。炉跡 住居中央やや北西壁寄りに設置されていた。規模は89×66cm, 平面形は歪んだ楕円形。貼床層を掘り込んでから, ローム土・ロームブロックを埋め戻し, 炉床を築いていた。掘り込み底面は, 中央では地山を掘り込んでいる。覆土は22層で炭化米を少量含む。炉床面は赤化し一部ブロック状になっているが, しっかりした床は無かった。床面 ローム層を掘り込み, 特にP1周辺と北西壁側を深く掘り, 暗褐色土にロームブロックを混ぜた土で埋め戻し, 床材としていた。他の住居と異なり, 暗褐色土を主体とする貼床である。硬化面は認められない。南西壁沿いに暗褐色土に黒褐色土を斑状に含む軟らかい面がある。

出土遺物 総数376点(土器片373点・磨石1点・石2点)出土。装飾壺・甕・高坏の脚部が主な遺物である。炭化材 炭化材は1点のみ確認した。炭化米は主に10~12層で出土した。炭化米の存在に気づいたのは, ベルト除去中であるため, 広がりにはわからない。



第115図 23D住居跡実測図

23D住居跡土層観察表 (第115図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R2/2	富む	CL	小垂角塊状	富む	小	17	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
2	判然	7.5Y R3/2	富む	CL	小垂角塊状	富む	小	19	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R3/2, 3/3 まだら	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	17	弱	細根含む	径1mm黄色スコリア
4	漸変	7.5Y R3/3, 4/3 まだら	含む～ 富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
5	漸変	7.5Y R3/3, 4/3 にじむ	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径1～2mm黄色スコリア
6	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1cm ロームブロック 径2～3mm黄色スコリア
7	漸変	7.5Y R3/3, 4/3 にじむ	富む	Si CL	垂角塊状	富む	小	21	中	細根含む 主根含む	径5mm以下黄色スコリア
8	6と判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1～2cm ロームブロック 径3mm以下黄色スコリア
9	7と明瞭 漸変	2.5YR4/6 5YR3/2	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	焼土, 焼土粒子多
10	漸変	5YR3/2	富む	CL	小垂角塊状	富む	小	19	中	細根含む	径1～2mm焼土粒子多 径1～2mm炭化材片
11	判然	7.5Y R2/2, 3/2	富む	CL	小垂角塊状	富む	小	17	中	細根含む	径1～2mm焼土粒子 径2～3mm炭化材片
12	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小垂角塊状	富む	小	23	中	細根富む	焼土粒子, 黄色スコリア, 炭化材片
13	判然	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	19	中	細根富む	
14		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小垂角塊状	含む	小	19	中	細根富む	径1cm ロームブロック

貼床

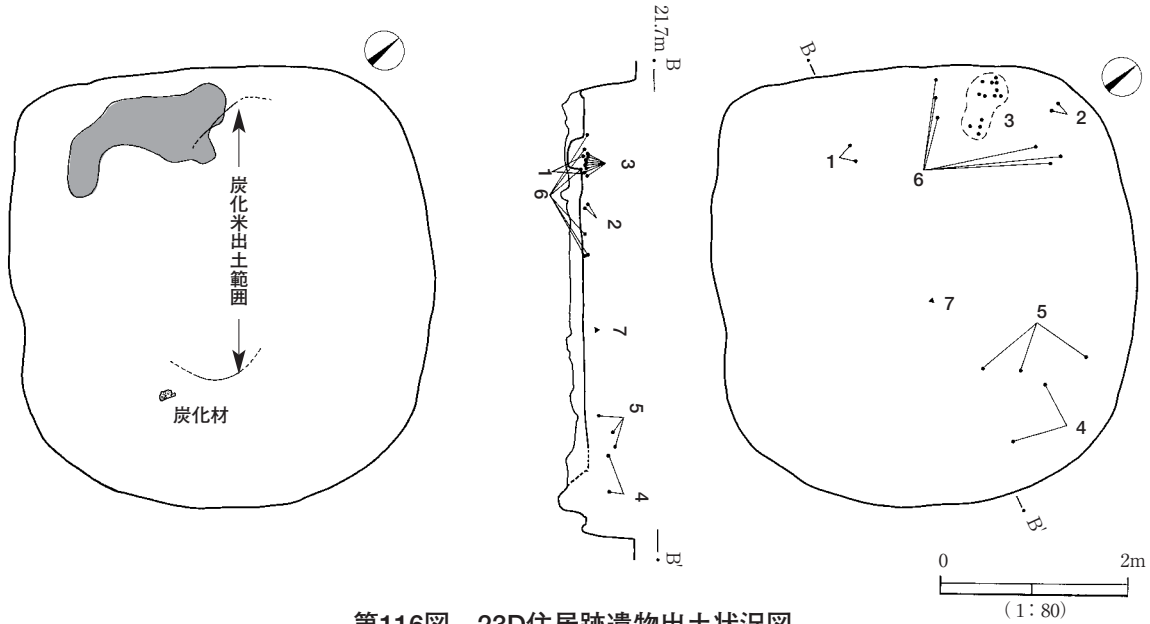
No	色調	しまり	粘性	その他
15	7.5YR3/2 褐色土斑状	やや強	中	径0.5cm以下ロームブロック
16	5YR3/2	中	中	15層の被熱により赤化した部分 焼土粒少
17	5YR3/2	中	中	18層の被熱により赤化した部分 焼土粒少
18	7.5YR3/4	中	中	炉側では焼土粒微 ローム粒多, 径0.5cm以下ロームブロック
19	7.5YR3/3	やや強	中	径1～3cmロームブロック
20	7.5YR3/1	やや強	中	径1～2cmロームブロック, ローム粒
21	7.5YR4/4	中	中	径1～3cmロームブロック多

炉跡土層

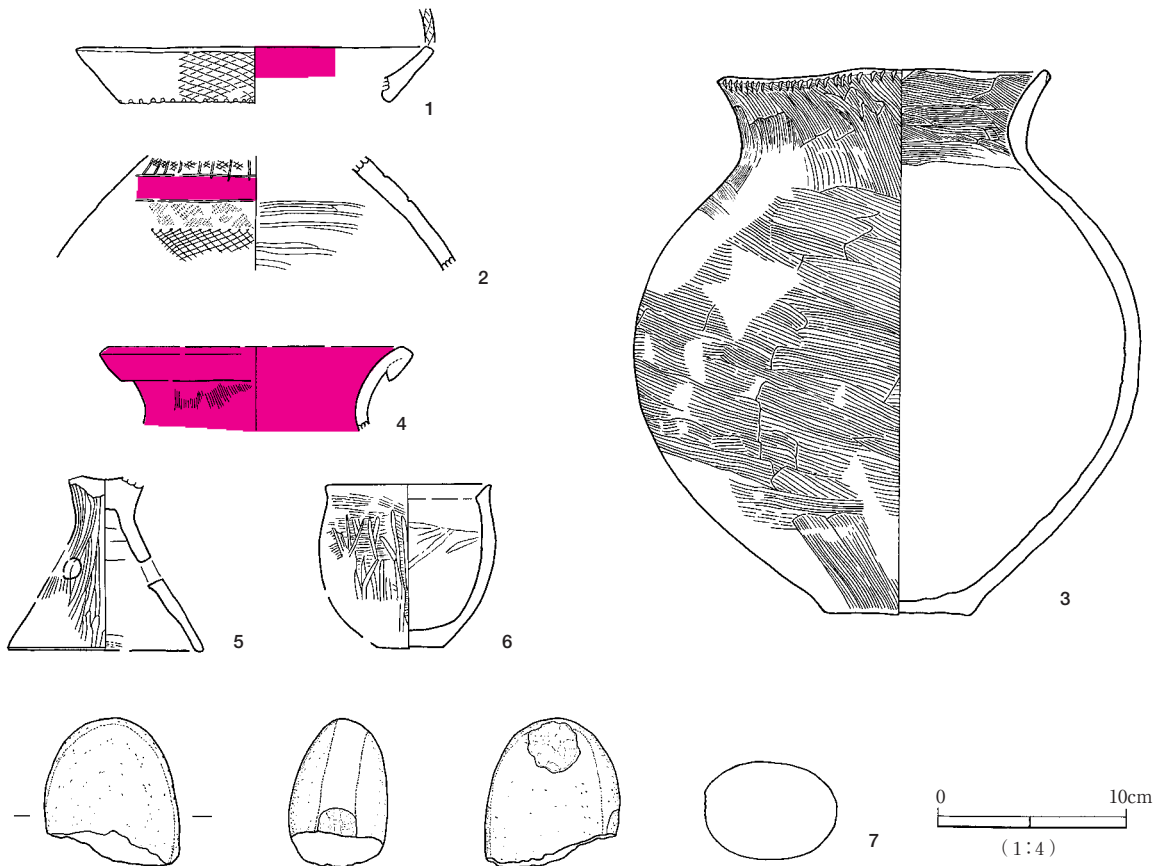
- 22. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 焼土粒多。炭化米少。しまり中。粘性弱。
- 23. 5YR3/2 (暗赤褐色土) 焼土粒。しまりやや強。粘性弱。
- 24. 5YR3/6 (暗赤褐色土) 炉跡床面。焼土ブロック・焼土粒多。しまり中。粘性中。
- 25. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 炉跡基層。細かい焼土ブロック、ロームブロック。しまりやや弱。粘性中。
- 26. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 炉跡基層。細かい焼土ブロック、ロームブロック。しまりやや強。粘性弱。
- 27. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 炉跡基層。細かい焼土ブロック、焼土粒微。しまりやや強。粘性弱。

P1土層

- 28. 7.5YR4/3 (褐色土) 径1cmロームブロック微。しまり中。粘性やや弱。
- 29. 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒多。しまり中。粘性やや弱。
- 30. 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒多。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 31. 7.5YR4/3 (褐色土) 暗褐色土斑状。ローム粒。しまり中。粘性やや弱。
- 32. 7.5YR4/4 (褐色土) 貼床層。径1cmロームブロック多。しまり強。粘性やや弱。
- 33. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 貼床層。暗褐色土斑状。径ローム粒。しまり中。粘性やや弱。
- 34. 7.5YR4/3 (褐色土) 貼床層。径1cmロームブロック。しまり中。粘性やや弱。



第116図 23D住居跡遺物出土状況図



第117図 23D住居跡出土遺物実測図

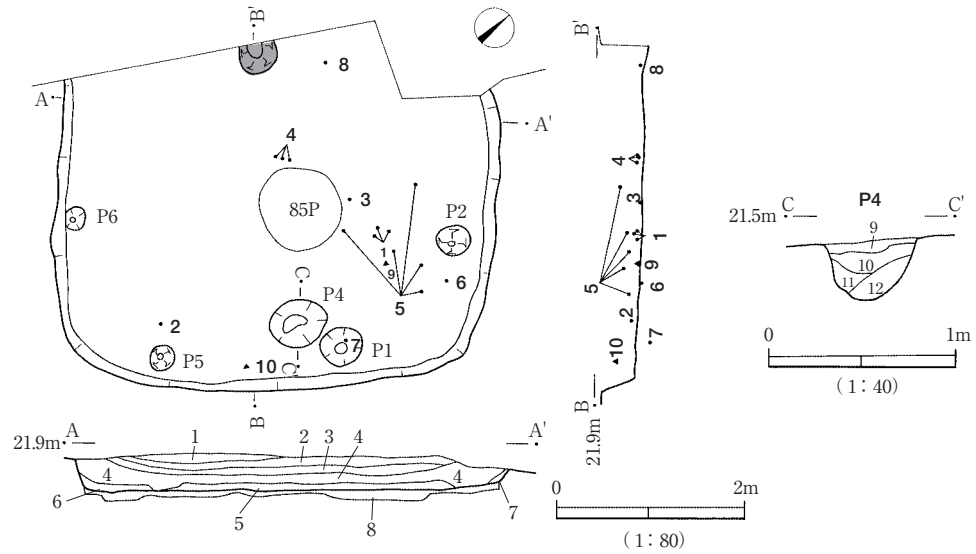
23D住居跡出土遺物観察表 (第117図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.	
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (19.0) 器高 <3.0>	外) 口唇部上端～複合口縁部, 網目状撫糸文, キザミ。 内) 赤彩。	○砂粒 ◎不良 ●外) 浅黄橙色, にぶい褐色, にぶい赤褐色 内) にぶい赤褐色	内外面, 剥落。	70-71	
2	壺	胴上部	頸部付近径 (12.0)	外) 沈線文, 網目状撫糸文, 単節縄文LR。赤彩。肌荒れ状。 内) ナデ, 横ミガキ。	○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎やや不良 ●外) にぶい黄橙色, 灰赤色 内) にぶい褐色, 橙色		181-184	
3	甕	口縁部～底部 2/3	口径 (17.7) 底径 8.0 器高 <29.0> 頸部径 (15.2) 胴部最大径 26.8	外) 口唇部に工具押圧によるキザミ斜ハケ。 底部, ミガキ。 内) 横ハケ, ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●褐灰色, にぶい橙色, にぶい褐色, 黒色	内外面, 底部, 剥落。	123-125-127-130-137-149-150-157-159-162-167-168-193	
4	複合口縁壺	口縁部	口径 (16.7) 器高 <4.5>	外) ナデ, 縦・斜ハケ後ミガキ。赤彩。 内) 横ハケ後ナデ, ミガキ。赤彩。	○砂粒 ◎良 ●外) 赤黒色, にぶい赤褐色 内) にぶい赤褐色	内外面, 剥落。	17-24	
5	高坏	脚部	底径 10.6 器高 <9.2>	外) 縦ミガキ, 一部赤彩か。 内) ナデ, 横ハケ。透孔, 三方か。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい褐色, 灰褐色, 赤褐色 内) にぶい褐色, 灰褐色		25-39-53	
6	鉢	口縁部～底部 2/3	口径 (8.8) 底径 3.5 器高 <8.6> 胴部最大径 (9.4)	外) 横ナデ, 横・斜ハケ後, 縦ミガキ。底面ミガキ。 内) 横ナデ, 斜ミガキ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 褐灰色, 赤橙色 内) にぶい褐色		61-62-64-115-117-118, 一括小片1点	
7	敲石。欠損。7.8cm×7.2cm×5.1cm。5.3g。敲打痕2箇所。安山岩。浅黄色, にぶい黄色。							113

24D住居跡 (第118図～120図)

位置 C1-78G。約1/3が区域外。**平面形態** 隅丸方形。85Pに床面の一部を切られる。**規模** 北東-南西方向4.1m, 北西-南東方向は調査範囲で2.8~3.8m, 深さ35cm。**主軸方向** N-50°-W。**覆土** 北東側と南西側からほぼ均等に土が流入している。黒色・黒褐色系の土が大半を占め, 1層が最も黒色味が強い。**壁面** 丸みをもって立ち上がり, 北東壁・南東壁は若干なだらか, 他の部分はほぼ垂直に立ち上がる。褐色土から成る。**壁溝** 検出されなかった。**柱穴** P1・P2・P5・P6は壁際にあり, 規則正しく並んでいるように見える。柱穴の可能性を指摘できるが, いずれも小規模なピットである。P1は上面43×41cm, 底面13×10cm, 深さ21cm。P2は上面35×32cm, 底面径6cm, 深さ12cm。P5は貼床調査時に検出した。上面28×24cm, 底面径7cm, 深さ17cm。P6は上面23×20cm, 底面径5cm, 深さ16cm。**貯蔵穴** 認定できるピットは無かった。**ピット** P4は貼床調査時に検出したが, 入り口施設関連と思われる。上面60×55cm, 底面25×12cm, 深さ40cm。P3は明らかに本住居跡とは異なる遺構であるため, 整理段階で85Pとした。**炉跡** 調査区域外にかかっている。平面形はおそらく楕円形であろう。38×<34>cm, 明確な火床は無かったが炉床と思われる面までの深さは約7cmとなった。焼土の色は薄かったが, 断ち割ってみると厚さ11cmに及んでいた。**床面** 掘削はソフトローム上面付近までしか達していない。壁側と住居中央が浅く, 深い部分がドーナツ型になるような掘り方である。そこへ暗褐色土と褐色土の混合土を埋め戻し, 床材としていた。炉の東方に若干硬化した所があったが, 面的には広がらず全体的に軟弱な床面であった。

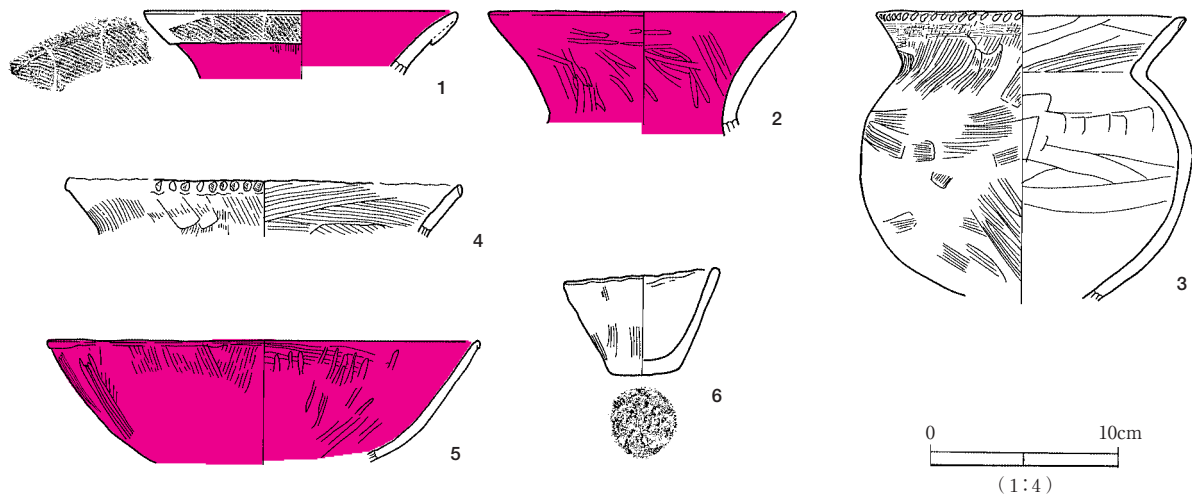
出土遺物 総数125点 (土器片119点・石製品2点・軽石2点・石2点) 出土。壺・台付甕・高坏・小型土器が出土した。



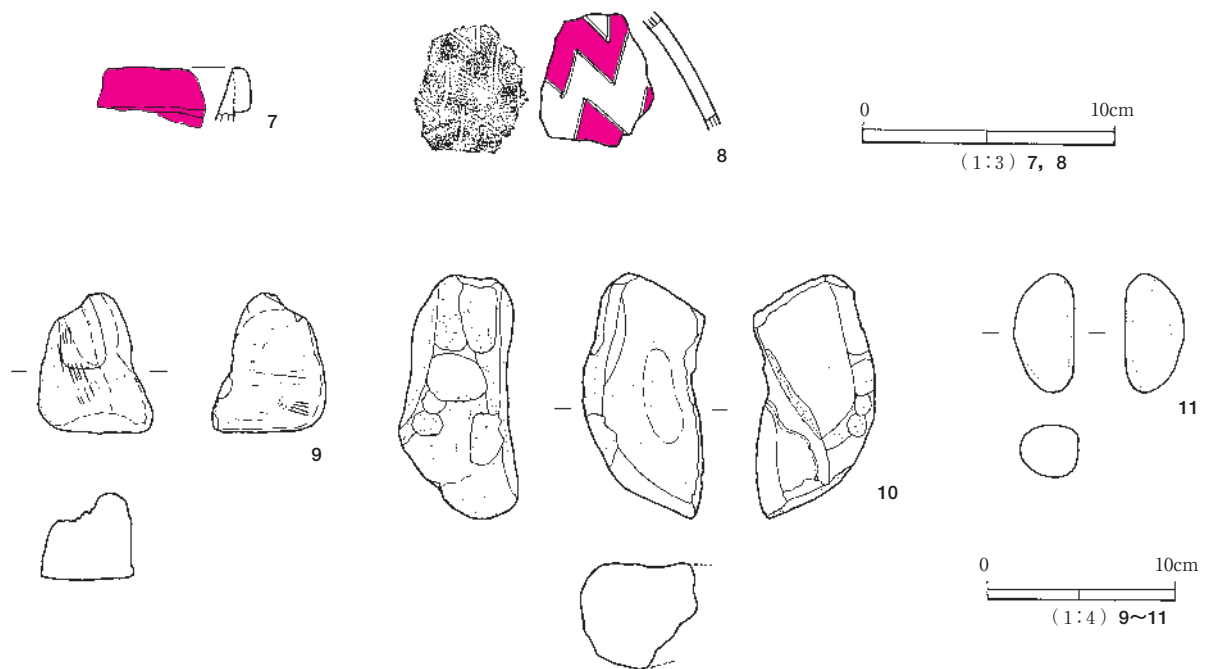
第118図 24D住居跡実測図

24D住居跡土層観察表 (第118図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R2/1.5	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径0.5mm黄色スコリア
2	判然	7.5Y R2/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	径0.5mm黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む 主根含む	径1mm以下黄色スコリア
4	判然	7.5Y R3/3, 3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
5		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	
6		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	
7		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
貼床											
8		7.5Y R3/3, 4/3, 4/4	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む 主根あり	
P4											
9	判然	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	
10	明瞭	7.5Y R3/4	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	
11	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	ロームまじり
12		7.5Y R3/3主, 7.5Y R3/2, 4/4	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中～強	細根富む	



第119図 24D住居跡出土遺物実測図 (1)



第120図 24D住居跡出土遺物実測図 (2)

24D住居跡出土遺物観察表 (第120図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.	
1	複合口縁壺	口縁部	口径 (16.8) 器高 <3.5>	外) 単節縄文RL。縦ハケ後ミガキ。赤彩。口唇部上端に縄文。 内) ミガキ。赤彩。	○細砂粒 ○良 ●外) 浅黄橙色, 赤褐色 内) 赤褐色		25-26-27	
2	壺	口縁部 ~頸部	口径 (16.4) 器高 <6.6>	外) 横・斜ミガキ。赤彩。 内) 横・斜ミガキ。赤彩。	○細砂粒 ○良 ●赤褐色		3	
3	台付甕	口縁部 ~底部	口径 16.3 器高 <15.4> 頸部径 13.0 胴部最大径 17.0	外) 口唇部キザミ, 多方向のハケ後横ナデ。 内) 横・斜ハケ後ナデ。ヘラナデ。	○砂粒 ○良好 ●にぶい橙色, 橙色, 黒色 褐灰色		46	
4	甕	口縁部	口径 (21.1) 器高 <2.9>	外) 口唇部, 工具によるキザミ。縦ハケ後ナデ。 内) 横ハケ。	○砂粒 ○良好 ●にぶい赤褐色		14-15-16	
5	高坏	口縁部	口径 (23.2) 器高 <6.4>	外) 縦ハケ後, 縦ミガキ。赤彩。 内) 横ハケ後, 縦ミガキ。赤彩。	○緻密 ○良 ●赤色		21-23-28-35-36	
6	小鉢	完形	口径 8.4 底径 3.6 器高 4.9~5.7	外) 縦ハケ後ナデ。 内) ナデ。	○細砂粒 ○良 ●外) 褐灰色, にぶい褐色 内) にぶい褐色		48	
7	複合口縁壺	口縁部	器高 <2.2>	外) ミガキ, 赤彩。 内) 横ハケ, 赤彩。	○細砂粒 ○不良 ●赤褐色, 浅黄橙色		70	
8	壺	胴上部		外) 沈線による山形文。赤彩。 内) ナデ。	○砂粒, 赤褐色スコリア ○良 ●外) 赤褐色, 浅黄橙色 内) 橙色		61	
9	砥石。7.4cm×6.0cm×4.6cm。55.2g。擦痕あり。軽石。にぶい黄橙色。							47
10	砥石。12.9cm×6.5cm×5.6cm。533.5g。擦られた面と敲打痕が認められる。被熱。砂岩。灰オリーブ色, 暗赤褐色。							45
11	磨石。6.25cm×3.15cm×2.7cm。78.5g。両端及び全体に擦ったような痕あり。砂岩。灰オリーブ色。						貼床内出土。	一括

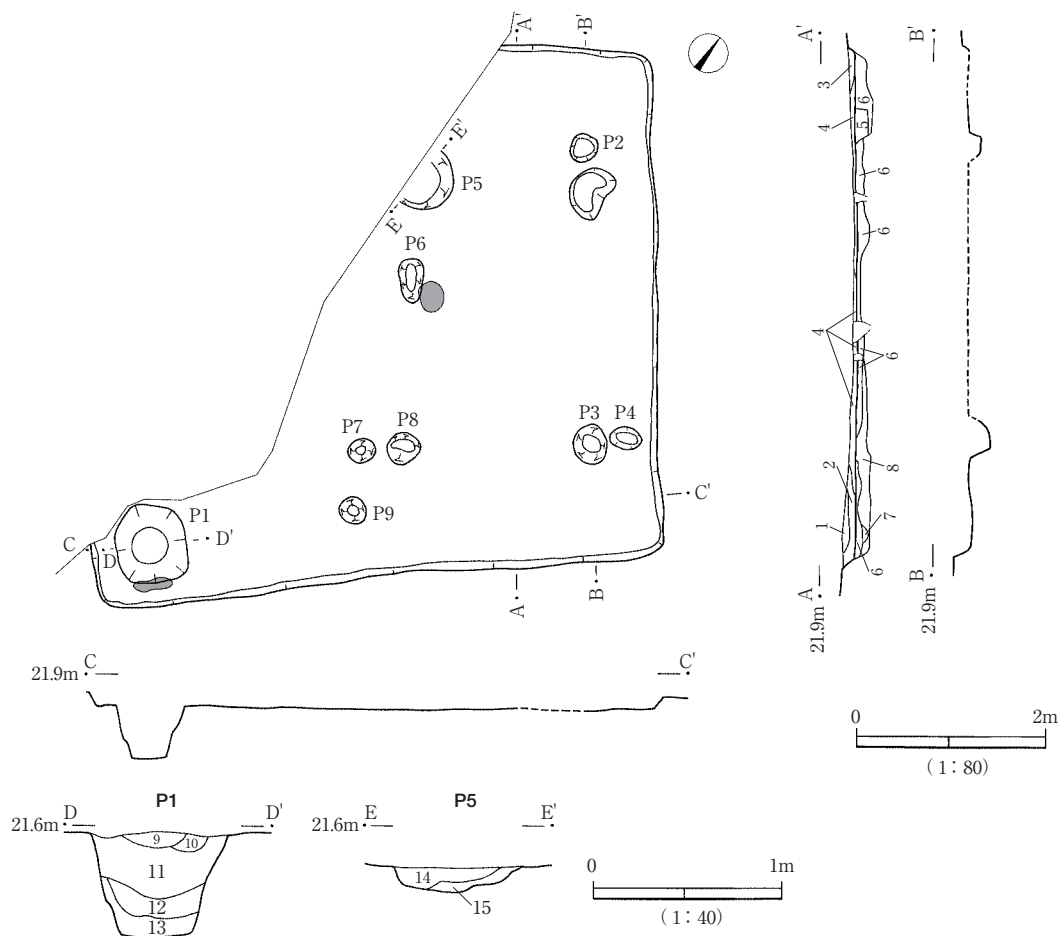
(2) 古墳時代中期

古墳時代中期の集落は、d地点の北側に当たるc地点において24軒が検出され、分布の中心となっている。d地点の25Dが現在のところ最南端の1軒ということになる。古墳初頭に比べ、集落の位置が北へ移動したと示している。

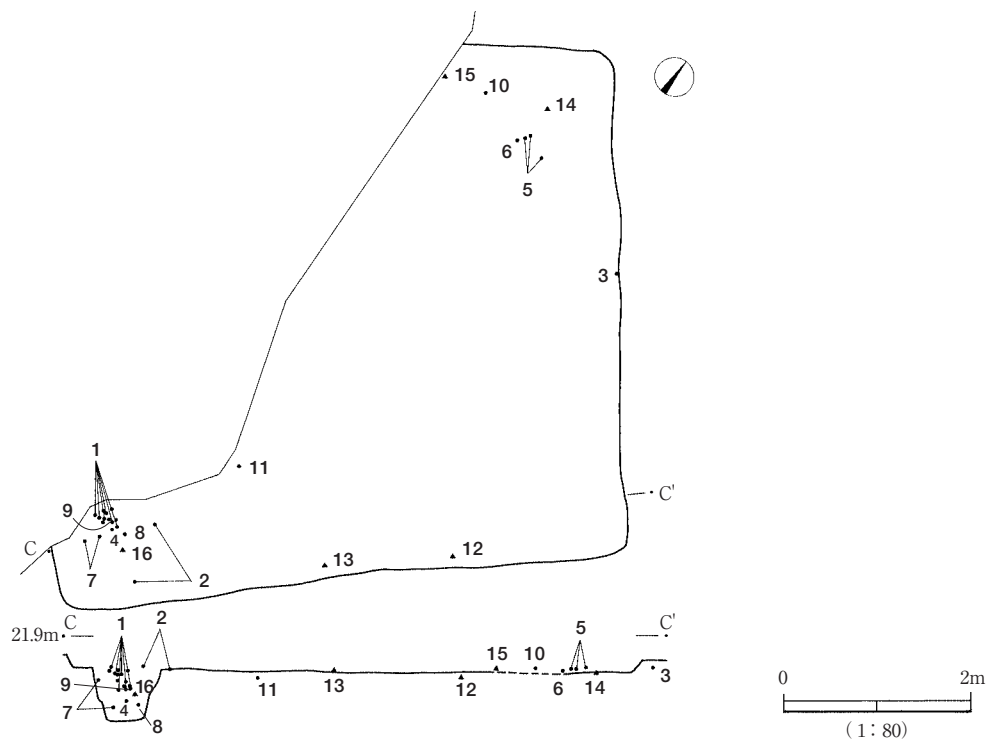
25D住居跡（第121図～124図）

位置 C1-76・77・86・87G。西側半分弱は調査範囲外。**平面形態** 方形。**規模** 北西-南東方向5.2m，北東-南西方向5.9m。深さは18cm前後。**主軸方向** 不明。**覆土** 褐色土・暗褐色土が主体であるが，表土剥ぎの際削ってしまったところには黒褐色土が存在した。**壁面** 褐色土から成り，やや不明瞭。状態の良いところは垂直に立ち上がる。**柱穴** P2・P3は位置的に良いが，規模は大きくない。P2は上面26×22cm，底面20×18cm，深さ10cm。P3は上面40×35cm，底面径20cm，深さ22cm。貼床調査で検出したP10も位置的には可能性がある。上面51×37cm，底面40×20cm，深さ23cm。しかしいずれも明確な柱穴とは言えない。**貯蔵穴** P1は，南コーナーに位置し，高坏や埴が出土しており好例である。上面84×73cm，底面径39cm，深さ56cm。底面は平坦。**ピット** 柱穴の可能性のあるもの・貯蔵穴以外に6基確認した。P4は上面34×20cm，底面24×10cm，深さ16cm。P5～P9は貼床調査で検出した。規模及び床面からの深さは，P5が上面残存長径68cm，底面残存長径48cm，深さ27cm，P6が上面47×24cm，底面28×10cm，深さ23cm，P7が上面28×25cm，底面9×7cm，深さ22cm，P8が上面35×33cm，底面24×11cm，深さ24cm，P9が上面30×28cm，底面13×12cm，深さ21cm。**炉跡** 竪穴部中央ににじむような薄い焼土を認めたが，炉とは認定できなかった。**床面** 軟弱な床面で硬化面は認められず，北東部分を広範囲に掘りすぎてしまった。全体的に貼床と考えられ，褐色土・暗褐色土・黒褐色土の混合土から成る。深いところで15cmである。

出土遺物 総数229点（土器片223点・石製品1点・軽石4点・石1点）出土。P1覆土中から高坏の脚部・埴等が出土した。軽石は砥石として使用されたものと考えられるが，前時期の軽石とは産地が異なる可能性があり，軽石流通の変化を示す事例かもしれない。第124図12は石製模造品の勾玉であろうが，やや厚手の作りである。3D住居跡から出土した剣形石製模造品（第64図27）と合わせて，工房跡が検出されたh地点の製品との比較をしてみると，勾玉形については厚手の作りというところに共通点があるが，剣形については稜がはっきりしているd地点のものに対してh地点のものは扁平な作りであり，異なった印象を受ける。



第121图 25D住居跡実測図



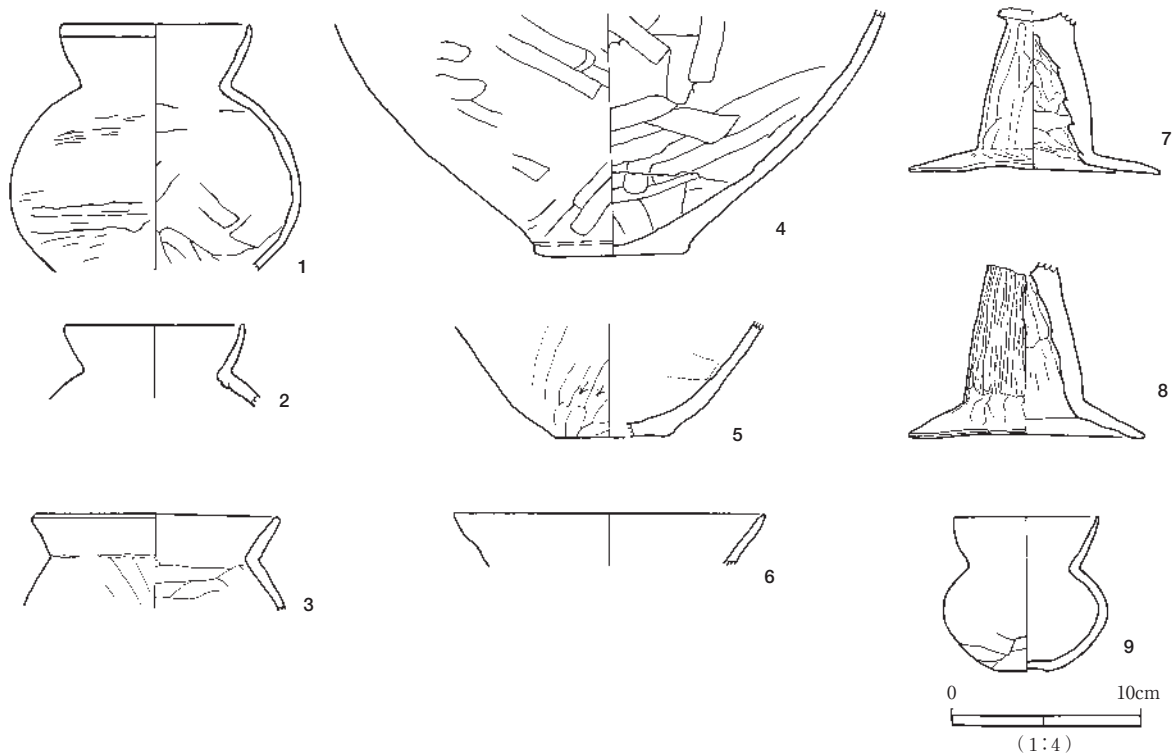
第122图 25D住居跡遺物出土状況図

25D住居跡土層観察表（第121図）

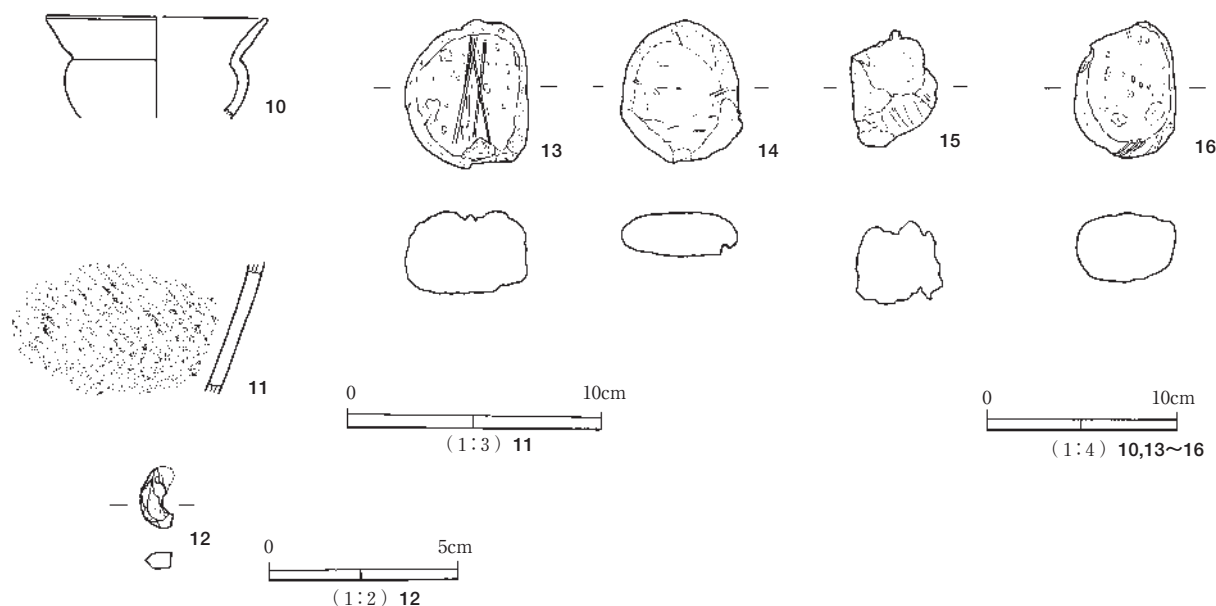
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	径0.5mm黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	弱～中	細根含む	
4	判然	7.5Y R3/3, 4/3, 4/4	含む～富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
5	判然	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	
6	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4, 3/2, 3/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	
7	漸変	7.5Y R3/2, 4/3 まだらにまじり合う	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	
8		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	

P1											
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
9	明瞭	7.5Y R3/2, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根富む	
10	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	弱	細根富む	
11	漸変	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	弱	細根富む	下部に軽石
12	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	14	弱	細根富む	炭化材片
13		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根含む	

P5											
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
14	判然	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根富む	
15		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	弱～中	細根含む	



第123図 25D住居跡出土遺物実測図（1）



第124図 25D住居跡出土遺物実測図 (2)

25D住居跡出土遺物観察表 (第123・124図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.	
1	壺	口縁部～胴下部	口径 (10.2) 器高 <13.0> 胴部最大径 (15.6)	外) ナデ, ミガキ。 内) ナデ, 斜ヘラナデ。	○砂粒 ◎良好 ●外) にぶい赤褐色 ●内) 灰褐色		147-148-149-150 -151-152-153- 154-155-156-158 -161-162-164	
2	壺	口縁部～頸部	口径 9.6 器高 <4.4>	外, 内) 横ナデ, 頸部内面に輪積み痕を残す。	○細砂粒, 赤色スコリア ◎良好 ●褐色		136-138	
3	甕	口縁部～頸部	口径 (13.4) 器高 <5.0>	外, 内) 横ナデ, 斜・横ヘラケズリ。	○砂粒 ◎良好 ●外) 灰褐色 ●内) にぶい橙色		115 68, 93, 97	
4	甕	胴下部～底部	口径 8.2 器高 <12.5>	外, 内) ナデ, 斜・横ヘラナデ。	○褐色スコリア, 細砂粒 ◎良好 ●褐色	黒色の煤状物質付着。 内面剥落。	160	
5	甕	胴下部～底部	口径 (6.0) 器高 <6.1>	外) 斜・横ヘラ削り。 内) ナデ後, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 黒褐色, にぶい褐色 ●内) 黒褐色		35-46-57	
6	甕	口縁部	口径 (16.4) 器高 <2.8>	外) 横ナデ, ミガキ。 内) 横ナデ, ミガキ。	○細砂粒 ◎良好 ●黒褐色		113, 33, 78	
7	高坏	脚部	底径 13.4 器高 <8.8>	外) 縦・斜ミガキ。 内) ナデ。輪積み痕を残す。	○砂粒 ◎良好 ●褐色, にぶい橙色		139-163	
8	高坏	脚部	底径 12.6 器高 <9.3>	外) 縦・斜めミガキ。 内) ナデ, 縦ヘラケズリ。坏部との接着面に貫通孔あり。	○砂粒 ◎良好 ●灰褐色, 褐色		159	
9	柑	略完形	口径 (7.8) 底径 2.2 器高 8.2 胴部最大径 8.7	外) ナデ, 斜・横ヘラナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) 暗褐色 ●内) 灰褐色	内面, 剥落。	157	
10	柑	口縁部～胴部	口径 (11.8) 底径 2.2 器高 5.3 胴部最大径 9.7	外, 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良好 ●外) にぶい赤褐色, 褐色 ●内) にぶい赤褐色, 黒褐色		8 9, 10, 11	
11	甕	胴下部		外) 撚糸文LとRによる羽状縄文, 器面荒れている。 内) ナデ。輪積み痕を残す。	○砂粒多量, 雲母 ◎不良 ●外) 灰黄色 ●内) 褐色		170	
12	勾玉形石製模造品。欠損。1.6cm×0.9cm×0.4cm。0.7g。滑石。灰色, 暗赤褐色。							166
13	砥石。7.8cm×6.4cm×4.35cm。59.7g。溝状の研ぎ痕あり。軽石。灰黄褐色, 褐灰色。							110
14	砥石。7.5cm×6.3cm×2.3cm。20.3g。扁平。擦痕あり。軽石。浅黄色。							111
15	軽石。6.1cm×4.6cm×4.3cm。27.5g。擦痕不明瞭。被熱, ガラス発泡。灰黄褐色。							119
16	砥石。7.2cm×5.25cm×3.7cm。37.1g。擦痕あり。被熱。軽石。灰黄褐色, 灰白色, 淡橙色。浅間山産か。							146

(3) 掘立柱建物跡・土坑

本遺跡の主体を成す時代である、弥生時代後期から古墳時代中期に属すると考えられる遺構として、掘立柱建物跡と土坑がある。掘立柱建物跡は2棟、土坑は12基である。

1H掘立柱建物跡（第126図）

調査時には71P～75Pと呼称していた。22D・23Dと11D・24Dの間は、調査区が狭まっているが、住居跡が分布しない空間のように見える。その竪穴住居の空白地帯にこの掘立柱建物跡が存在するのは、意味のあることかもしれない。全ピットの底面に段があるので、建替えが行われた可能性がある。柱痕はP2で確認できた。

位置 C1-79・80G。**平面形態** 1間×1間。P5の位置が中心からずれているが、一体のものとして捉え、5基のピットから成ると考えた。**規模** P1上面67×46cm、深さ55cm。P2上面48×40cm、深さ79cm。P3上面60×43cm、深さ58cm。P4上面69×53cm、深さ52cm。P5上面82×60cm、深さ68cm。それぞれのピットの最深部を中心としてピット間の長さを測ると、P1-P2間2.75m、P3-P4間2.85m、P1-P3間2.50m、P2-P4間2.67mで、わずかであるが北西-南東方向が長い。**長軸方向** N-66°-W。

2H掘立柱建物跡（第127図）

調査時には84Pと呼称していた。ピットの規模が小さいので必ずしも「建物」にはならないかもしれない。20D・21D・22Dという規模の大きな住居が集中する特殊な空間に存在しており、小片ではあるが3点の弥生後期～古墳初頭と思われる土器片がピット覆土から出土したので、古墳初頭に関連のある遺構ではないかと想定した。しかし、22D・23Dに近接しており、調査時には気付かなかったが重複の可能性も否定できない。主軸の方向性も違っており、やや時期は異なるのかもしれない。

位置 C1-40・39・50G。**平面形態** 18基の小ピットから成る。**規模** P1上面24×22cm、深さ21cm。P2上面17×13cm、深さ14cm。P3上面25×22cm、深さ35cm。P4上面28×25cm、深さ36cm。P5上面30×28cm、深さ39cm。P6上面29×25cm、深さ19cm。P7上面径28cm、深さ19cm。P8上面27×24cm、深さ30cm。P9上面26×22cm、深さ44cm。P10上面24×21cm、深さ21cm。P11上面20×18cm、深さ18cm。P12上面28×24cm、深さ30cm。P13上面28×26cm、深さ32cm。P14上面34×30cm、深さ36cm。P15上面22×20cm、深さ20cm。P16上面22×18cm、深さ17cm。P17上面径26cm、深さ26cm。P18上面33×28cm、深さ36cm。**長軸方向** N-81°-W。

21P土坑

位置 C2-11G。**平面形態** 楕円形。底面は長方形。**規模** 206×134cm。深さ60cm。**長軸方向** N-29°-W。**底面形** ほぼ平坦。**壁面** 急傾斜で立ち上がる。

48P土坑

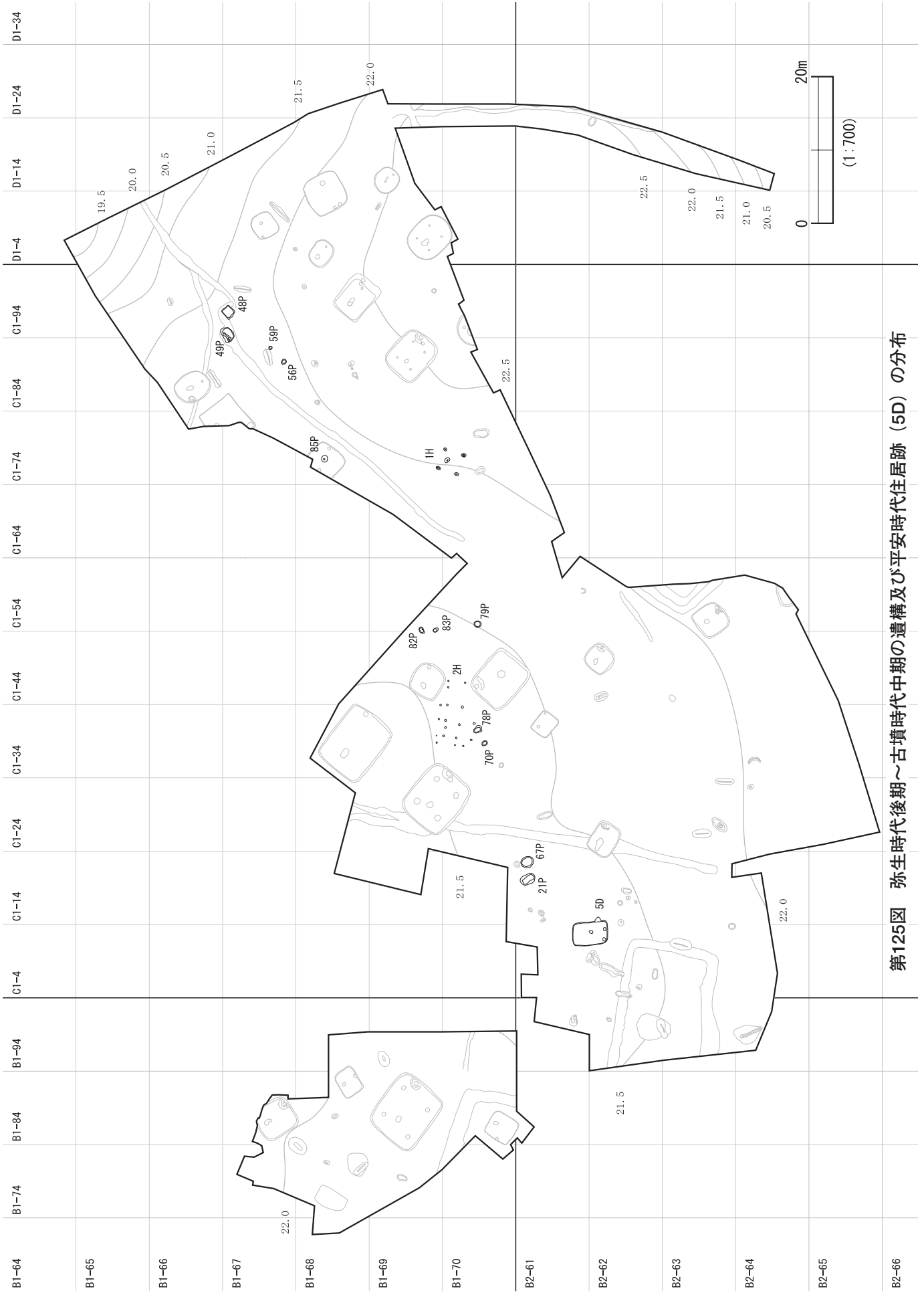
位置 C1-97G。**平面形態** 方形。9Mに切られる。**規模** 140～160×130～140cm。深さ67～72cm。**長軸方向** N-48°-E。**底面形** ほぼ平坦。**壁面** 急傾斜で立ち上がる。**遺物** 12点出土。

49P土坑

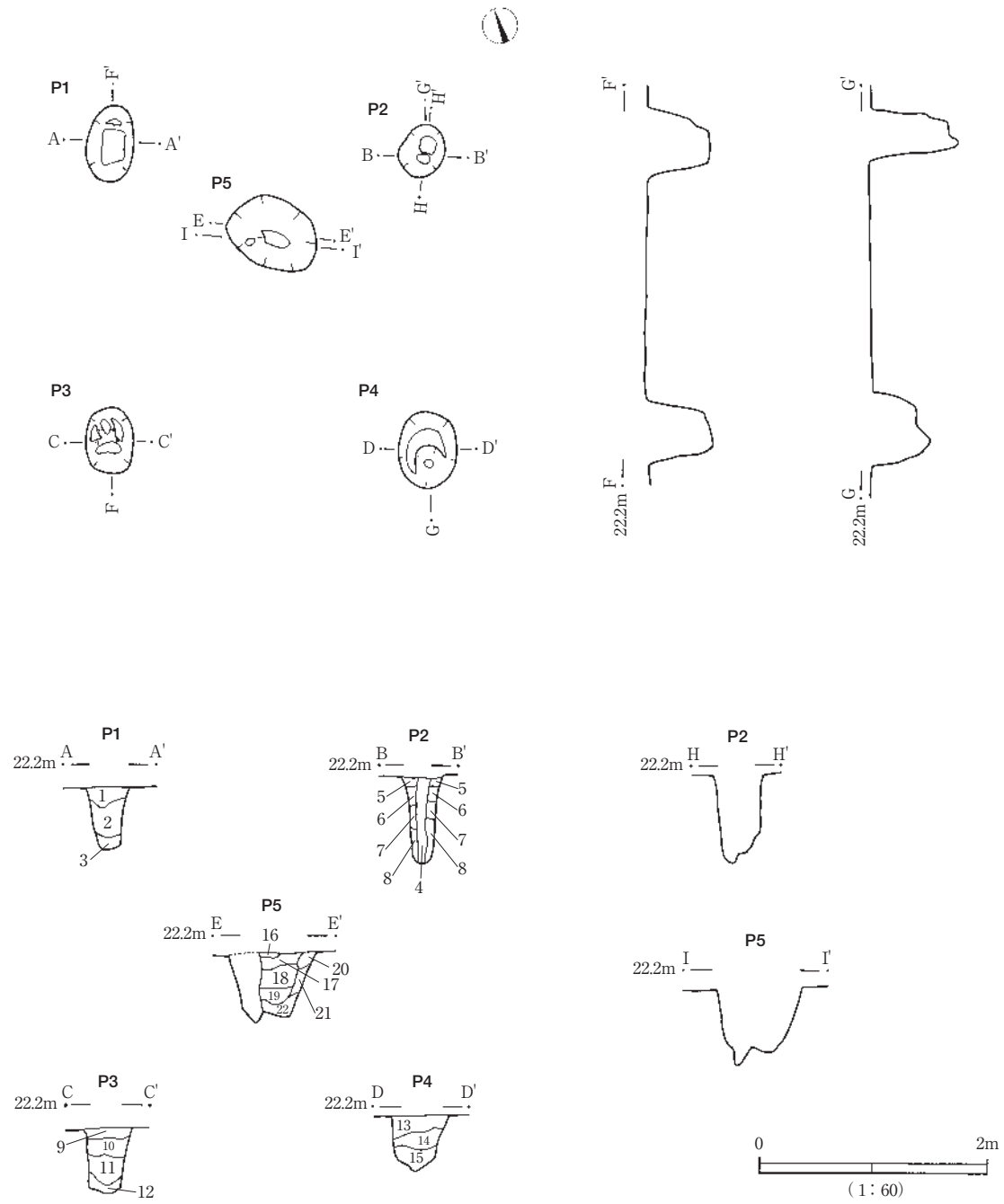
位置 C1-86・87・96・97G。**平面形態** 不整形。 **規模** 160～236×160～180cm。深さ70～80cm。**長軸方向** N-61°-E。**底面形** 有段。浅い部分は平坦、深い部分は丸底。**壁面** 急傾斜で立ち上がり、中場から緩やかになる。**遺物** 17点出土。

56P土坑

位置 C1-87G。**平面形態** 楕円形。**規模** 73×65cm。深さ63cm。**長軸方向** N-41°-W。**底面形** 凹凸あり。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**性格** 柱穴か。59Pと関連もつか。



第125図 弥生時代後期～古墳時代中期の遺構及び平安時代住居跡(5D)の分布



第126图 1H掘立柱建物跡実測図

1H掘立柱建物跡土層観察表（第126図）

P1土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	
	渐变	7.5Y R4/3にじむ									
2		7.5Y R3/3主 7.5Y R3/2.5, 4/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	
3		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中～強	細根含む	

P2土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
4		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	弱	細根富む	
5		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
6		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	
7		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	
8		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	

P3土層観察表

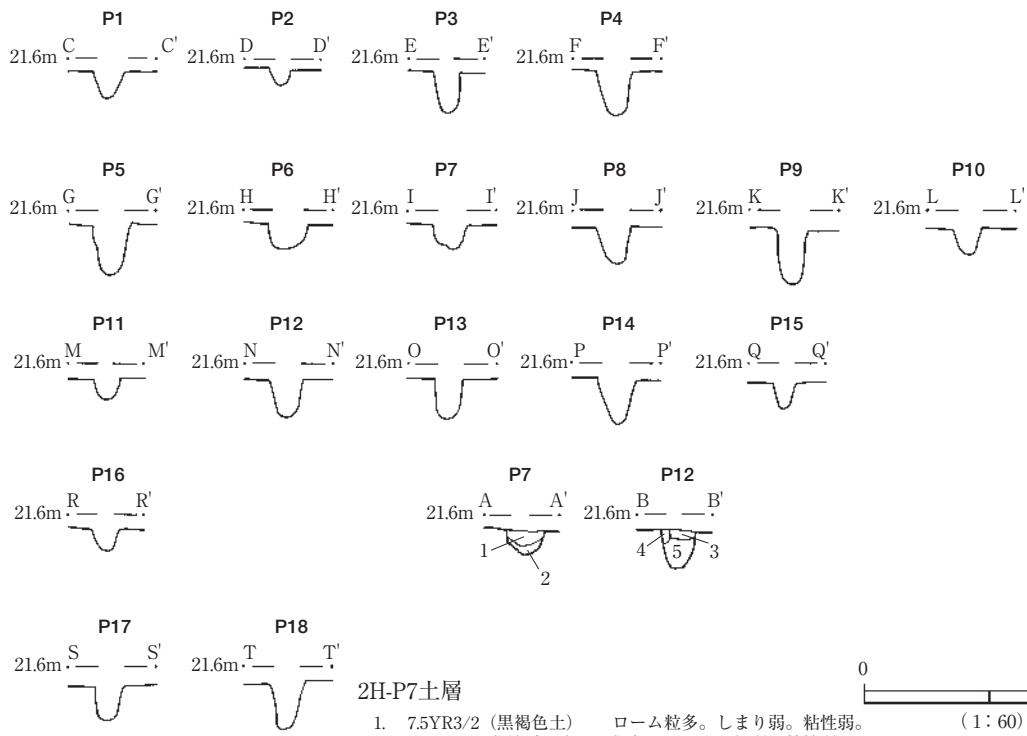
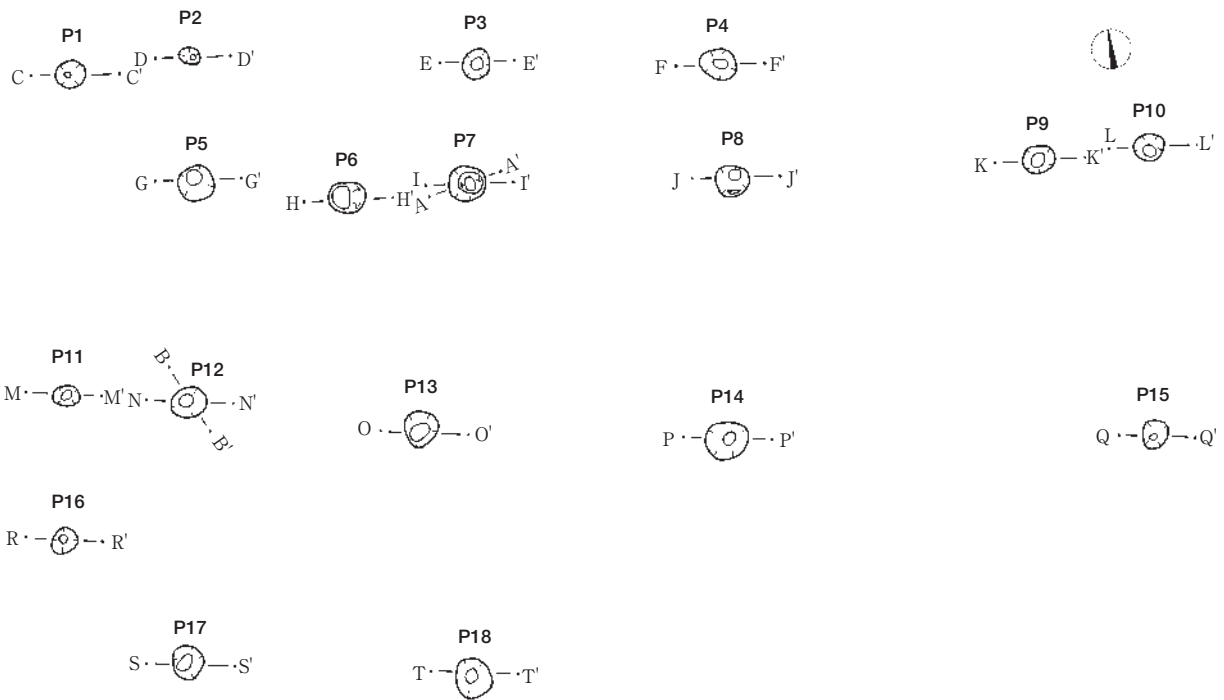
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
9		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	
	渐变										径5mmロームブロック 径3mm以下黄色スコリア 径1cmロームブロック
10		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
11		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	
12		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

P4土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
13		7.5YR3/3, 4/3, 3/2, 4/4, まじり合った土	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
14		7.5YR3/3, 2/2, まじり合った土	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
15		7.5Y R3/3, 4/3, まじり合った土	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

P5土層観察表

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
16		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	
	明瞭										
17		7.5Y R3.5/3, 3/3 7.5Y R4/4斑状	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根含む	
18		7.5Y R3/3, 4/3 7.5Y R4/4斑状	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	
19		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
20		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根含む	
21		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根富む	
22		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根あり	



2H-P7土層

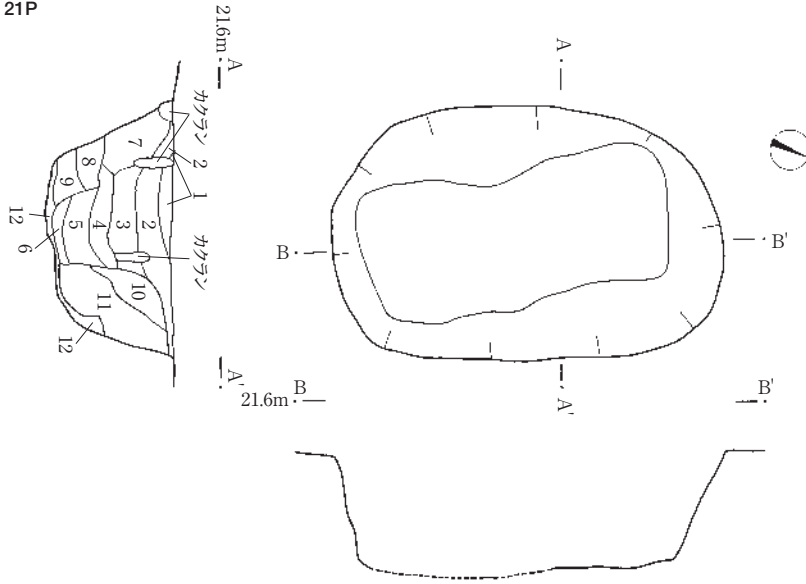
1. 7.5YR3/2 (黒褐色土)	ローム粒多。しまり弱。粘性弱。
2. 7.5YR3/1 (黒褐色土)	褐色土。しまり極弱。粘性弱。

P12土層

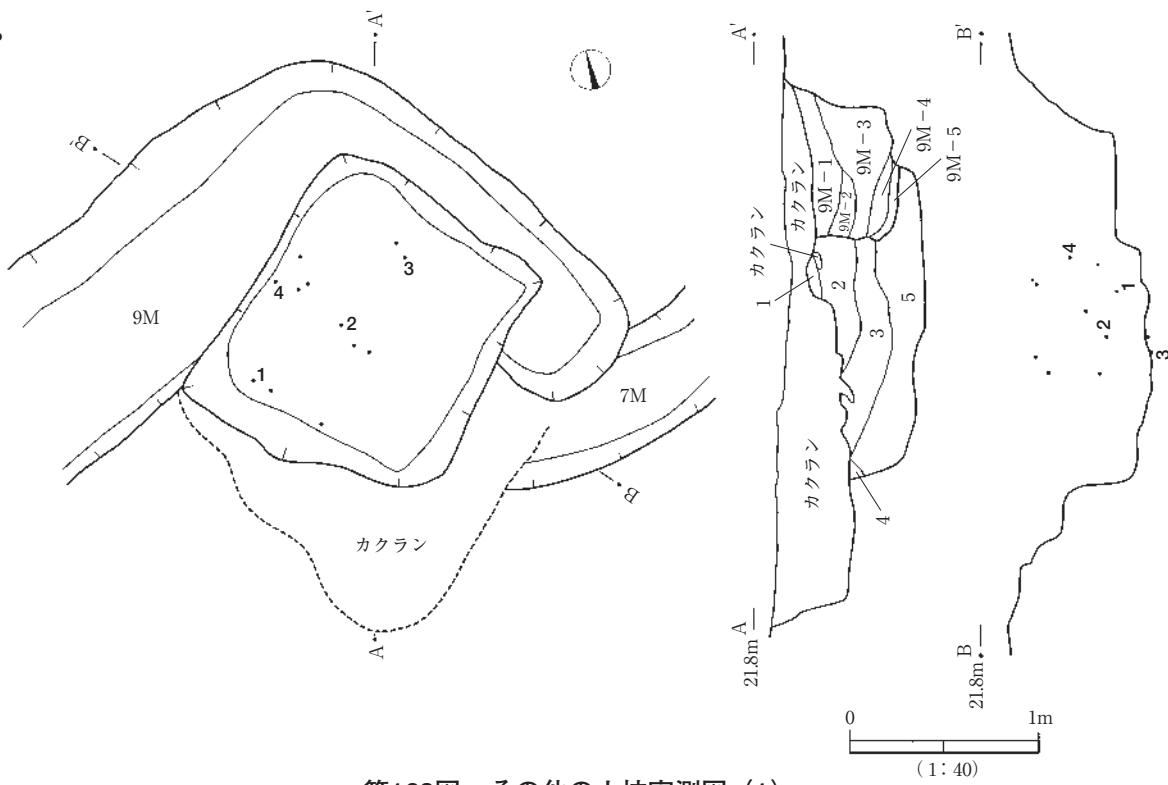
3. 7.5YR3/2 (黒褐色土)	ローム粒多。しまり弱。粘性弱。
4. 7.5YR4/3 (褐色土)	しまりやや弱。粘性弱。
5. 7.5YR3/1 (黒褐色土)	褐色土少。しまり弱。粘性弱。

第127図 2H掘立柱建物跡実測図

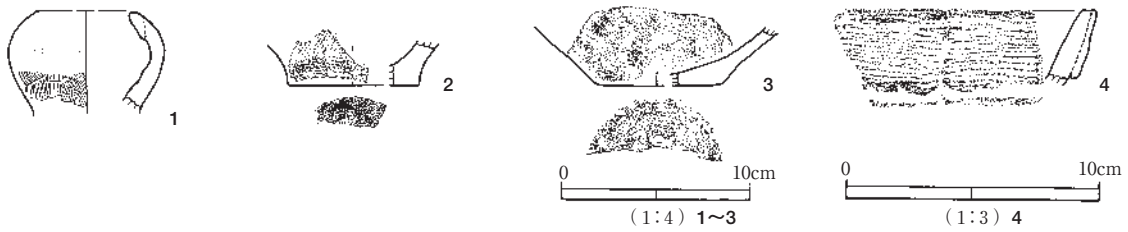
21P



48P



第128図 その他の土坑実測図 (1)



第129図 48P土坑出土遺物実測図

21P土坑土層観察表 (第128図)

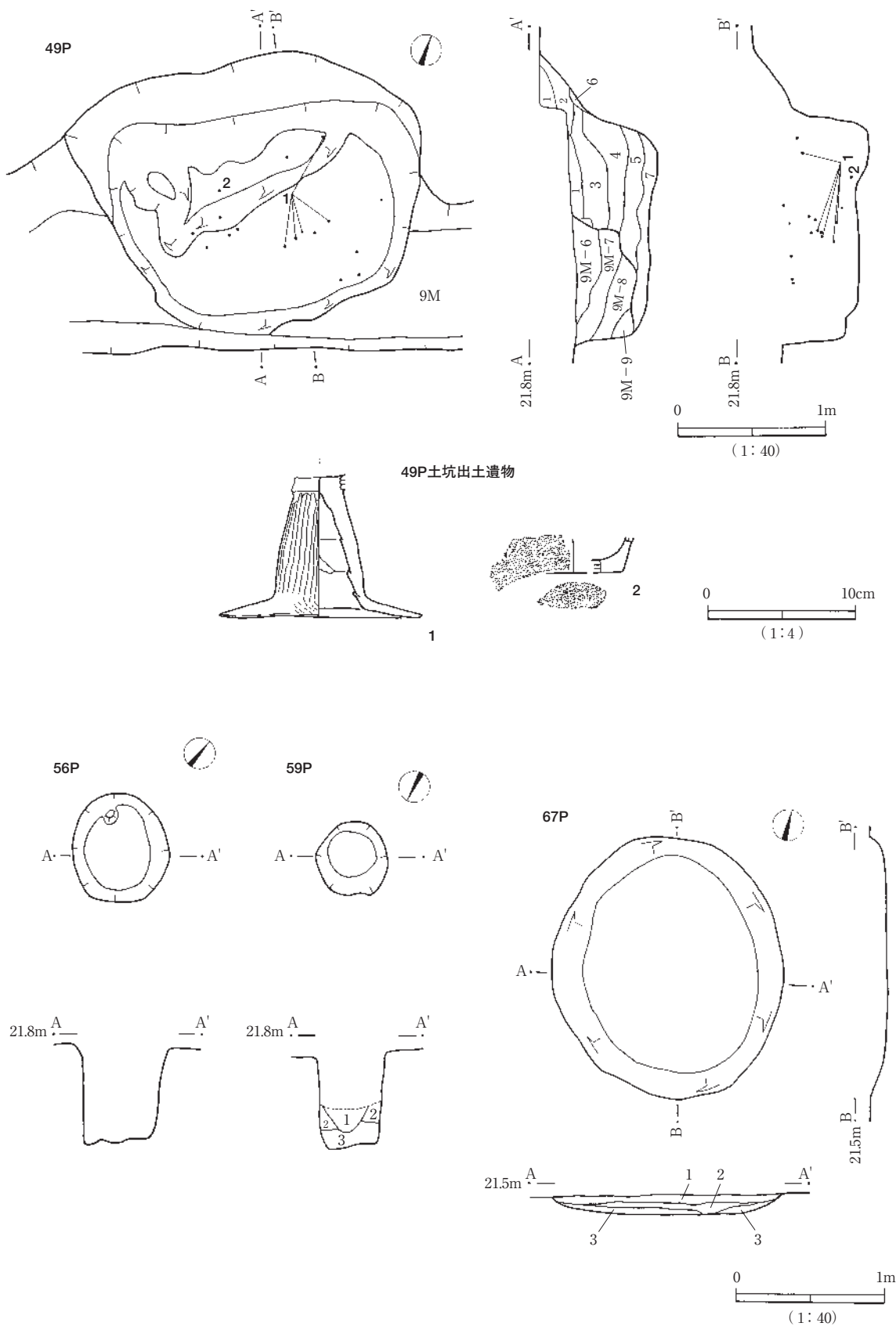
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	渐变	7.5Y R3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	
2	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根含む	
3	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	炭化物
4	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根あり	炭化物
5	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	22	中	細根含む	
6		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根あり	ロームまじり
7	2と明瞭 3と渐变 4と明瞭 8と渐变	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4斑状	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	20	強	細根あり	ロームまじり
8	渐变	7.5Y R4/3	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	20	強	細根あり	ロームまじり
9	12と明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	21	強	細根あり	ロームまじり
10	渐变	7.5Y R4/3 7.5Y R4/4斑状	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	17	強	細根あり	ロームまじり
11	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根あり	ロームまじり
12		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	23	強	細根あり	ロームまじり 掘りすぎ含むか

48P土坑土層観察表 (第128図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	主根あり 細根富む	
2	渐变	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	11	中	主根あり 細根富む	
3		7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
4	明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根富む	
5	3と渐变	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根富む	
9M-1	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	11	弱	細根富む	
9M-2	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根富む	炭化材片
9M-3	明瞭	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	12	弱	細根富む 主根あり	炭化材片
9M-4	明瞭	7.5Y R3/3, 3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	弱	細根富む	
9M-5		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	

48P土坑出土遺物観察表 (第129図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	異形器台	受部口縁	口径 (5.0) 器高 <5.5> 受部最大径 (8.2)	外) 横ナデ, 縦・斜ハケ。 内) ナデ。	○細砂粒 ○良 ●外) におい褐色, 灰褐色 内) におい橙色		8
2	甕か	底部	底径 (6.8) 器高 <3.0>	外) ヘラ削り。底部, ヘラ削り後 ナデ, ミガキ。 内) ハケ後ヘラナデ。	○細砂粒 ○良 ●外) 橙色, におい橙色, 黒色 内) におい橙色		5
3	甕	底部	底径 (7.0) 器高 <2.2>	外) 附加条LR+R, 横ナデ。	○細砂粒 ○良 ●におい赤褐色	内面, 剥落。	12
4	複合口縁 甕か	口縁部	器高 <2.9>	外) 撚糸文R。 内) 横ミガキ。	○細砂粒 ○良好 ●外) におい橙色。 内) 褐灰色		7- C1-97G一括



第130図 その他の土坑実測図 (2)

49P土坑土層観察表 (第130図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
2	判然	7.5Y R4/3, 3/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	
3	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
4	判然	7.5YR3/3, 3/2, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
5		7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	径2cm以下ロームブロック
6	他と明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
7											全掘時に掘り広がった部分
9M-6	漸変	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	富む	小	15	中	細根富む	9M-1～5は, 48P参照
9M-7	漸変	7.5Y R3/3, 3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	
9M-8	漸変	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	
9M-9		7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	13	中	細根富む	

49P土坑出土遺物観察表 (第130図)

遺物No	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo
1	高環	脚部	底径 (13.7) 器高 <9.6>	外) 縦ミガキ。 内) 脚部, 輪積痕, ナデ。 坏部, ミガキ。	○白色物質, 砂粒。 ◎良 ●にぶい橙色, 黒色, 明赤褐色		6-2-8-9-10
2	甕	底部	底径 (6.7) 器高 <2.4>	外) 斜, 横ナデ。底部, 木葉痕。 内) ナデ。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい橙色 内) 浅黄褐色		17

59P土坑土層観察表 (第130図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5Y R4/3, 3/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	12	中	細根富む	
2	明瞭	7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	10	中	細根富む	ローム土 径1cmロームブロック
3		7.5YR4/3, 3/3, 3/2	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径1cmロームブロック

67P土坑土層観察表 (第130図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/2主 7.5Y R3/1雲状 7.5Y R4/3斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径1mm焼土粒子 径1～2cm焼土ブロック 土器片
2	明瞭	7.5Y R3/1上より多 7.5Y R3/2主 7.5Y R4/4	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径0.5mm焼土粒子
3		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

70P土坑土層観察表 (第131図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/1	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径1mm以下黄色スコリア
2	判然	7.5Y R2/1	頗る富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径10cmロームブロック
3		7.5Y R3/2, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア

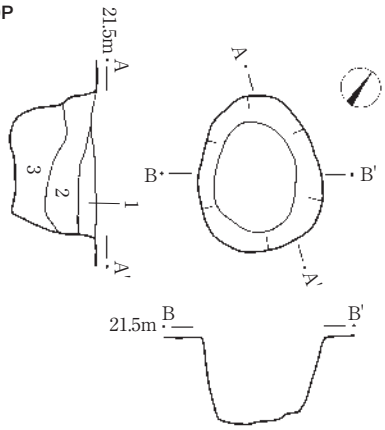
78P土坑土層観察表 (第131図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R3/2, 2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R3/2, 3/3 7.5Y R4/3にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
4	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R4/3にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	強	細根含む	径2mm以下黄色スコリア
5		7.5Y R4/5	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	強	細根あり	

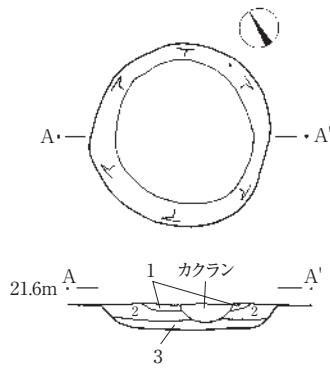
78P土坑出土遺物観察表 (第131図)

遺物No	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ◎焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo
1	壺	口縁部	器高 <3.1>	外) 口唇部上端, 網目状捺糸文。 複合口縁部, 棒状浮文, 網目状捺糸文。 内) 縦ミガキ, 赤彩。	○細砂粒 ◎良 ●外) にぶい橙色, 灰褐色 内) にぶい赤褐色		一括
2	複合口縁壺	口縁部付近	器高 <5.8>	外) 横ナデ, ミガキ, 縦ハケ後ナデ。赤彩。 内) 縦ミガキ。赤彩。	○砂粒 ◎良 ●にぶい赤褐色		一括

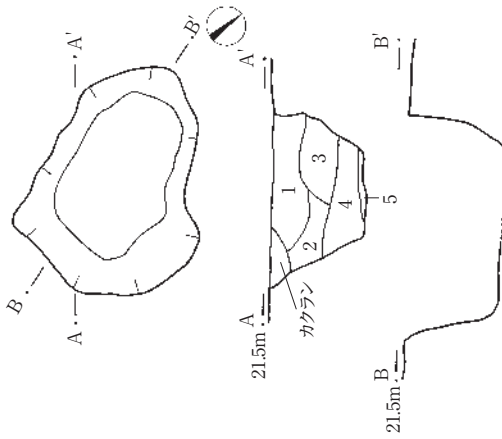
70P



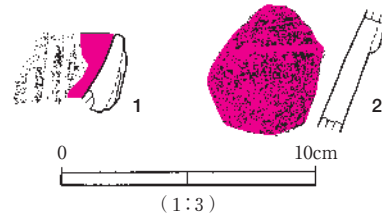
79P



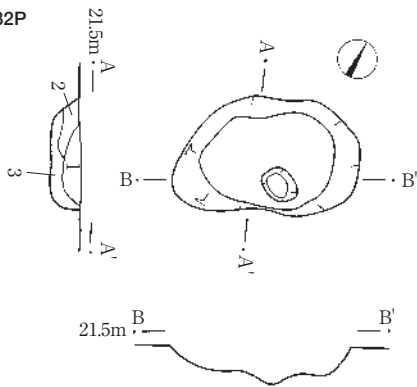
78P



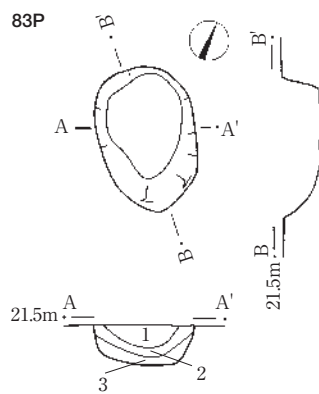
78P土坑出土遺物



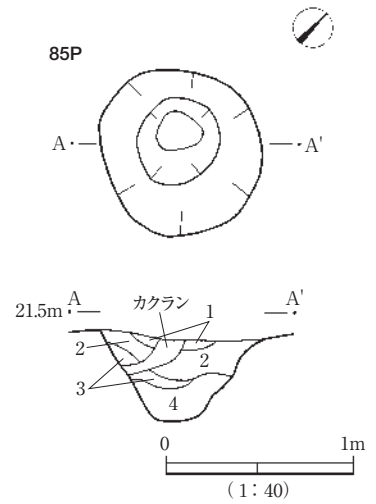
82P



83P



85P



第131図 その他の土坑実測図 (3)

59P土坑

位置 C1-87G。平面形態 歪んだ円形。規模 径49cm。深さ62cm。底面形 ほぼ平坦。壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。性格 柱穴か。56Pと関連もつか。

67P土坑

位置 C2-11G。平面形態 楕円形。規模 176×156cm。深さ11cm。長軸方向 N-21° - W。底面形 平坦。壁面 緩やかに立ち上がる。出土遺物 1点出土。

70P土坑

位置 C1-40G。平面形態 楕円形。規模 81×65cm。深さ46cm。長軸方向 N-29° - W。底面形 ほぼ平坦。壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。遺物 1点出土。

78P土坑

位置 C1-40G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 126×72~94cm。深さ50cm。長軸方向 N-16° - W。底面形 平坦。壁面 急傾斜で立ち上がる。遺物 3点出土。

79P土坑

位置 C1-60G。平面形態 ほぼ円形。規模 径94cm。深さ14cm。底面形 すり鉢状。壁面 緩やかに立ち上がる。遺物 1点出土。

82P土坑

位置 C1-59G。平面形態 歪んだ楕円形。規模 100×59cm。深さ21cm。長軸方向 N-62° - E。底面形 一段深い窪みをもつすり鉢状。壁面 南西側やや緩やか、他は急傾斜で立ち上がる。

83P土坑

位置 C1-49・59G。平面形態 楕円形。規模 77×52cm。深さ21cm。長軸方向 N-36° - W。底面形 すり鉢状。壁面 南東側は緩やか、他は急傾斜で立ち上がる。

85P土坑

位置 C1-78G。24Dに含まれるが24Dより新しい。平面形態 円形に近い楕円形。規模 90×82cm。深さ50cm。長軸方向 N-70° - W。底面形 ほぼ平坦。壁面 やや急傾斜で立ち上がる。

79P土坑土層観察表 (第131図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R2/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	
2	判然	7.5Y R3/2 7.5Y R4/3にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	中	細根富む	径3mm以下黄色スコリア
3		7.5Y R3/2 7.5Y R4/4斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径3mm以下黄色スコリア

82P土坑土層 (第131図)

- 7.5YR3/3 (暗褐色土) ローム粒。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR2/3 (極暗褐色土) ローム粒。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) ローム粒。褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや弱。

83P土坑土層 (第131図)

- 7.5YR2/3 (極暗褐色土) 暗褐色土斑状。ローム粒。しまりやや弱。粘性弱。
- 7.5YR3/4 (暗褐色土) 極暗褐色土斑状。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 7.5YR4/4 (褐色土) しまり中。粘性中。

85P土坑土層観察表 (第131図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5Y R3/2	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	18	弱	細根富む	径3mm以下黄色スコリア
3	明瞭	7.5Y R3.5/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	弱～中	細根富む 主根含む	
4		7.5Y R4/3, 4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径1cmロームブロック

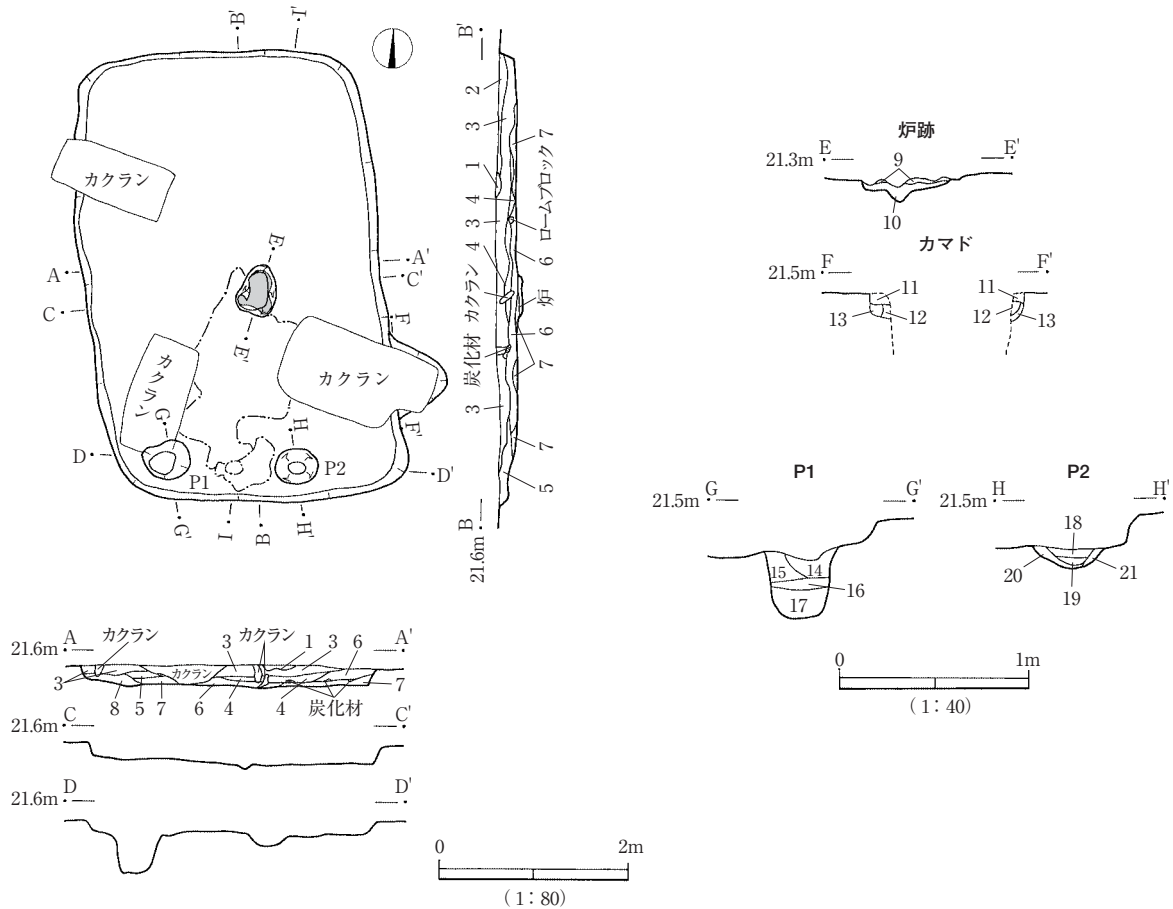
4 平安時代

平安時代の住居跡を1軒のみ検出した（位置は第125図参照）。該期の住居跡は川崎山遺跡全体で5軒と少ない。d地点5D住居跡は特に孤立した状態である。9世紀代のものと思われるが、より細かい年代を決定するに至っていない。

5D住居跡（第132図～135図）

位置 C2-1・2・11・12G。**平面形態** ほぼ南北方向に長い隅丸長方形。**規模** 南北方向4.8m、東西方向3.19m。深さ23cm前後だが南壁際では10cm前後。**主軸方向** N-3°-W。**覆土** 上層の3・4・5層は暗褐色土を主体とする。床面直上の6・7・8層に焼土・炭化材が多く含まれる。**壁面** 垂直に近い急傾斜で立ち上がる。**壁溝** 検出されなかった。**柱穴** 相当するピットは無かった。**貯蔵穴** P1が相当すると考える。不整な楕円形で、上面50×41cm、底面29×23cm、深さ37cm。**ピット** P2は楕円形で、上面46×38cm、底面18×13cm、深さ12cm。**炉跡** 上面56×42cm、底面44×19cm、深さ2cm、平面形は不整な楕円形。中央やや南東寄りのところで検出。貼床層・自然層を掘り込んだ後、ローム土を埋め戻して基層とし、さらにこの上にローム土による炉床を作る。掘り方は底面に凹凸があり、北側で急に南側で緩やかに立ち上がる。炉床も凹凸があり、立ち上がりは急である。**カマド** 東壁の南寄りに位置している。攪乱によって破壊されており、煙道と袖のごく一部が残るのみである。**床面** 南壁際以外のローム層を一旦掘り下げ、全面に暗褐色土とロームブロックの混合土を埋め戻し、床材としていた。南壁際は10cm前後高い。床表面は炉の南側で硬化している。特に南壁際のP1とP2の間では、被熱のため赤色ブロック状になっている。硬化面と赤化面の間に円形のやわらかい面がある。

出土遺物 総数142点（土器片118点・陶器片2点・瓦1点・砥石4点・石4点・鉄製品11点・支脚片か2点）出土。土器片は、須恵器片3点や混入した弥生土器片数点以外は、すべて土師器であった。図示したように良好な土器に乏しかった。陶器・瓦はごく新しいものと判断した。砥石4点は同一個体が割れたものであろう。砂岩と鑑定されたが、きめの細かい石である。鉄製品には図示したように良好なものが含まれる。「支脚片か」とした2点のうちの大きい方の破片（取り上げNo89）は、大きさ9.9×5.2cm、厚さ2.1cmの板状の焼けた粘土塊である。スサが入ったように径1～4mmの空洞がある。色は片面が赤褐色、もう一面が黒色と明瞭に分かれている。**炭化材** 155点出土した。古墳時代初頭の住居からの出土状態とは異なり、細かい材が集積されたかのような状態や規則性の無い状態という印象を受けた。東壁中央付近に集積した材の中には、現場での観察で長さ6～7cmに切りそろえたかのように見える材があった。樹種同定の結果、クヌギ節がほとんどで、古墳時代初頭のものと同通していることが判明した（Ⅲ1参照）。



第132図 5D住居跡実測図

5D住居跡土層観察表 (第132図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5YR4/2	含む	S L	屑粒~ 小亜角塊状	含む	0~小	13	0	細根含む	
2	判然	7.5YR3/3, 7.5YR4/3雲状少	含む~ 含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径1mm黄色スコリア, 焼土粒子
3	判然	7.5YR3/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径0.5~1mm黄色スコリア 焼土粒子
4		7.5YR3/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア 焼土粒子, 炭化材, 炭化材片
5	判然	7.5YR3/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリア, 焼土粒子, 砂 混じり粘土, 黄色がブロック状に入る
6	判然	7.5YR3/3, 2.5YR4/6焼土	含む~ 含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	焼土, 炭化材, 炭化材片
7	判然	7.5YR3/3, 3/2	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	焼土粒子, 炭化材片
8		7.5YR3/3, 4/3	含む~ 含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	焼土粒子, 炭化材片

炉跡土層

- 9. 7.5YR4/8 (赤褐色土) 炉床面。ローム主体, 被熱により赤化している。しまり強。粘性弱。
- 10. 7.5YR4/4 (褐色土) 炉基層。焼土粒。しまりやや強。

カマド跡土層

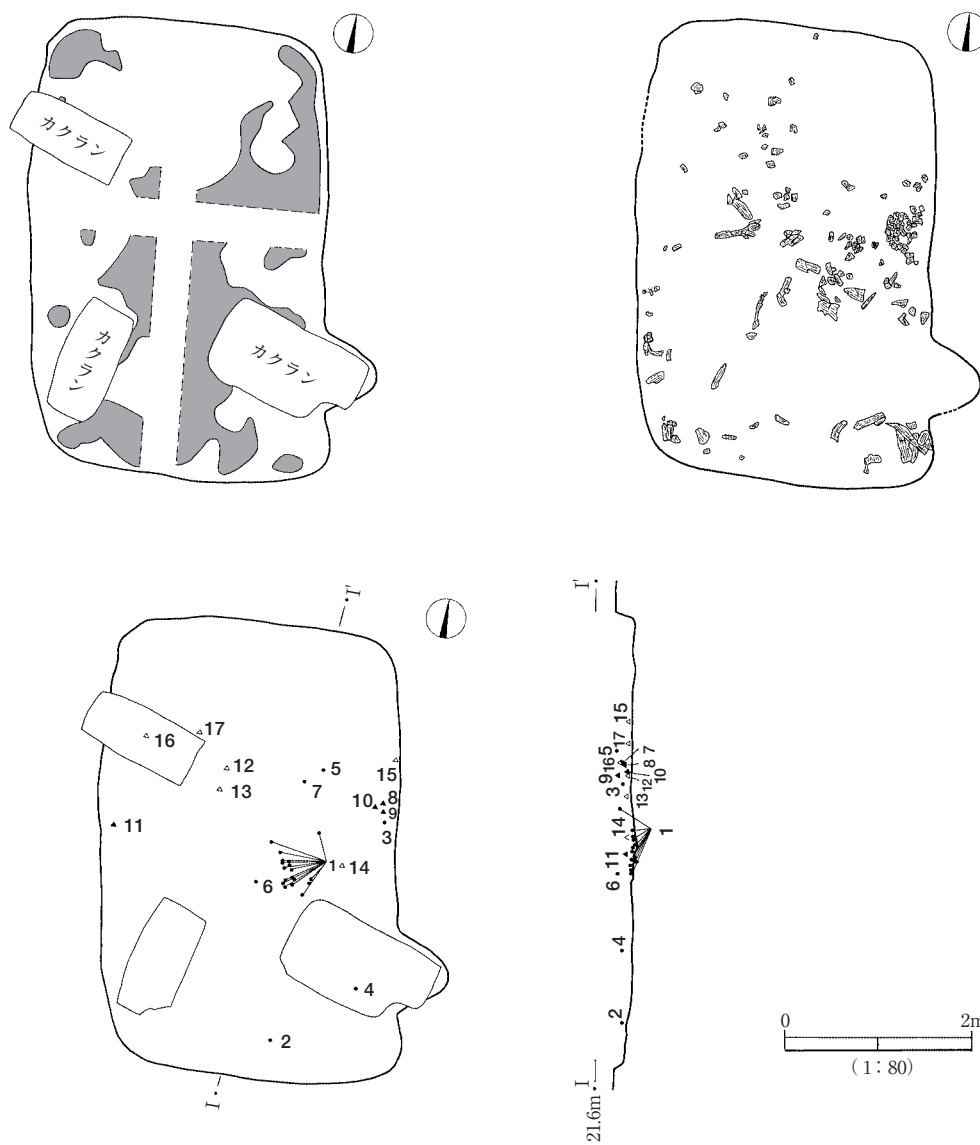
- 11. 7.5YR3/4 (暗褐色土) 焼土粒少。山砂少。しまりやや弱。粘性中。
- 12. 5YR3/6 (暗赤褐色土) 山砂。しまりやや弱。粘性弱。
- 13. 7.5YR4/3 (褐色土) 褐色土斑状。山砂多。しまりやや弱。粘性中。

P1土層

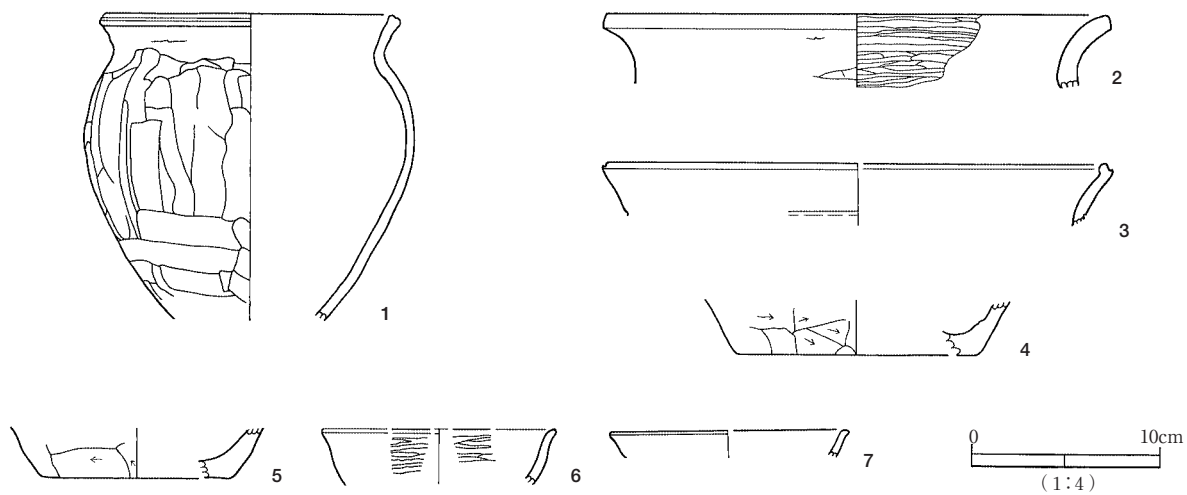
- 14. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 焼土粒。しまり極弱。粘性やや弱。
- 15. 7.5YR3/3 (暗褐色土) 焼土粒微。しまり極弱。粘性やや弱。
- 16. 5YR3/6 (暗赤褐色土) 焼土粒多。しまり極弱。粘性やや弱。
- 17. 7.5YR4/4 (褐色土) 焼土粒微。しまり極弱。粘性やや弱。

P2土層

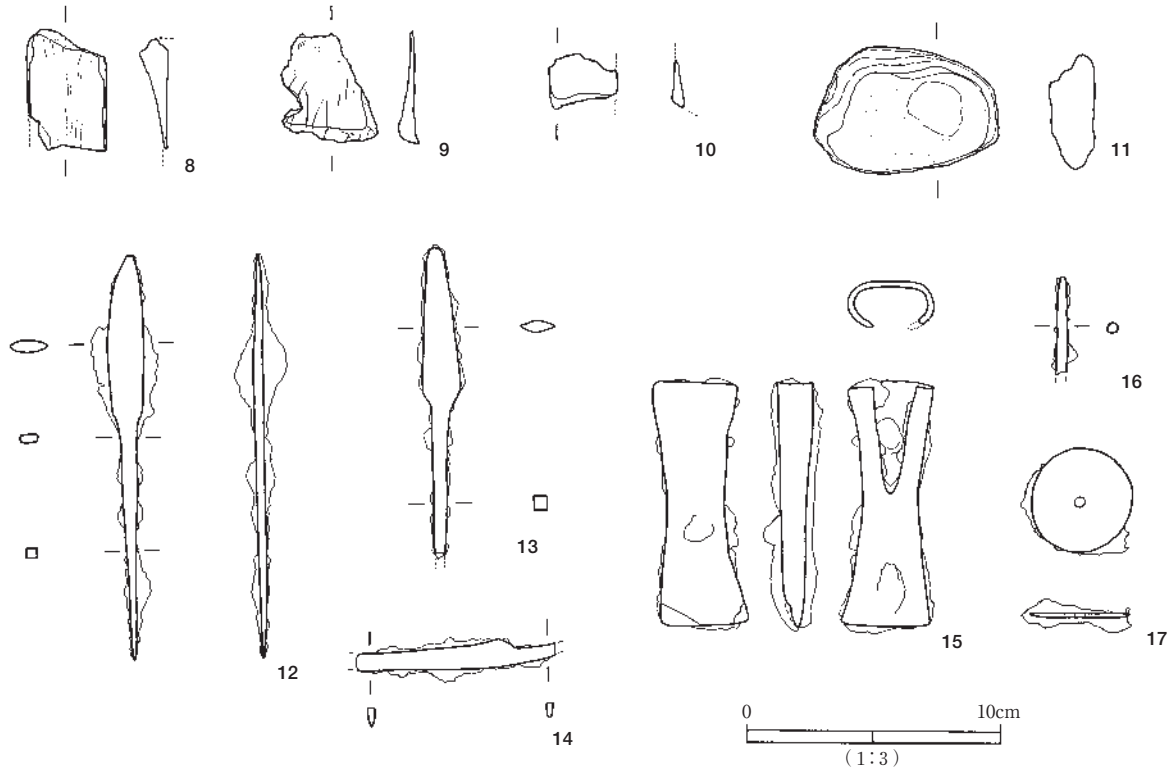
- 18. 5YR3/3 (暗赤褐色土) 焼土粒。しまり極弱。粘性やや弱。
- 19. 5YR3/4 (暗赤褐色土) 焼土粒多。しまり極弱。粘性やや弱。
- 20. 5YR3/4 (暗赤褐色土) 焼土粒少。しまり極弱。粘性やや弱。
- 21. 7.5YR3/2 (黒褐色土) 焼土粒少。しまり極弱。粘性やや弱。



第133図 5D住居跡遺物出土状況図



第134図 5D住居跡出土遺物実測図 (1)



第135図 5D住居跡出土遺物実測図 (2)

5D住居跡出土遺物観察表 (第134・135図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部～胴下部	口径 16.0 器高 <16.2> 胴部最大径 17.6	外) 口縁部横ナデ。胴部上半, 縦ヘラケズリ, 下半, 横ヘラケズリ。 内) 口縁部横ナデ。	○緻密, 雲母細片 ●良好 ●暗灰色		42-45-46-49-50-51-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-90
2	甕	口縁部	口径 (26.8) 器高 <3.9>	外) 横ナデ, 縦ヘラケズリ。 内) 横ミガキ, 縦ヘラケズリ。	○砂粒 ●良好 ●暗褐色		6
3	甕	口縁部	口径 (27.0) 器高 <3.3>	外, 内) 横ナデ。	○細砂 ●良好 ●黒色		62
4	甕	底部	底径 13.0 器高 <2.9>	外) 横ヘラケズリ。	○砂粒 ●良好 ●暗褐色		8
5	甕	底部	底径 10.2 器高 <2.7>	外) 横ヘラケズリ。 内) ナデ。	○砂粒 ●良好 ●にぶい褐色		24
6	坏	口縁部	口径 (12.4) 器高 <2.9>	外, 内) 横ミガキ。	○緻密 ●良好 ●オリーブ黒色		44
7	坏	口縁部	口径 (12.8) 器高 <1.4>	外, 内) 横ミガキ。	○緻密 ●良好 ●オリーブ黒色		39
8	砥石。欠損。4.8cm×3.2cm×1.15cm。質量14.6g。粒が細かい。被熱。砂岩。灰褐色, にぶい赤褐色, 黒色。					60, 26一括, 61は同一個体。	60
9	砥石。欠損。4.3cm×3.8cm×0.65cm。質量7.5g。線刻あり。砂岩。灰褐色, にぶい赤褐色。						26一括
10	砥石。欠損。2.7cm×2.1cm×0.5cm。質量2.4g。砂岩。黒色。						61
11	砥石か。欠損。7.2cm×5.0cm×1.8cm。質量85.4g。脆い。黒雲母片岩。茨城県筑波山南西産。						73
12	鉄鎌。完形。全長16.0cm, 刃部長さ6.6cm, 柄長さ1.7cm, 刃部幅0.4~1.4cm, 柄幅0.2cm, 刃部厚さ0.4cm, 柄幅0.3cm~0.4cm。						32
13	鉄鎌。基部破損。9.6cm×2.3~3.5cm。厚さ1.4cm。						33
14	刀子。両端欠損。全長<7.9cm>, 刃部長さ<6.2cm>, 柄長さ<1.7cm>, 刃部幅0.7cm~1.1cm, 柄部幅0.5cm, 刃部厚さ0.2cm, 柄厚さ0.2cm						36
15	鉄斧。略完形。9.6cm×2.3~3.5cm。厚さ1.4cm。						59
16	棒状鉄製品。欠損。紡錘車の軸部か。長さ<3.85cm>, 径0.4cm						30
17	円盤形鉄製品。紡錘車か。径3.9cm, 厚さ0.2cm。中央に孔あり。						34

5 その他の遺構・遺物

その他の遺構としては溝状遺構がある。その他の遺物としては遺構外出土の遺物を取り上げる。

(1) 溝状遺構

d地点では10条の溝状遺構を確認した。ほとんど近世以降に属するものと推定するが、5M溝と6M溝についてはより古いものかもしれない。

1M溝 (第7図)

調査区東端の2区4Tで検出された、南北方向の溝で北端は攪乱で不明瞭になる。覆土はやわらかく、ごく新しい時代の溝と考えられる。

2M溝 (第136図)

4区で検出された。西に開く「コ」字形に掘られており、南西端で2条に分かれている。覆土から出土した砥石を図示した。溝・砥石ともごく新しいものと考えられる。なお、土層断面は14P土坑の断面にも含まれている(第15図)。

3M溝 (第138図)

3区南部で検出された。「L」字形に掘られている。幅広の溝である。

4M溝 (第140図)

3M溝同様、3区南部で検出された。細い根切り溝のようなものと考えられる。

5M溝 (第141図)

8D住居跡を囲むように「L」字形に検出された。他の溝とは形態的に異なっており、他の溝とは違った性格のものである可能性はあるが、結論を出すには至らなかった。

6M溝 (第142図)

5Mの北西で検出された。全長8.04mで両端とも終息している。浅いため他の部分は削られてしまったのかもしれないが、あるいは5M溝と同様に他の溝とは異なった性格のものかもしれない。

7M溝 (第143図)

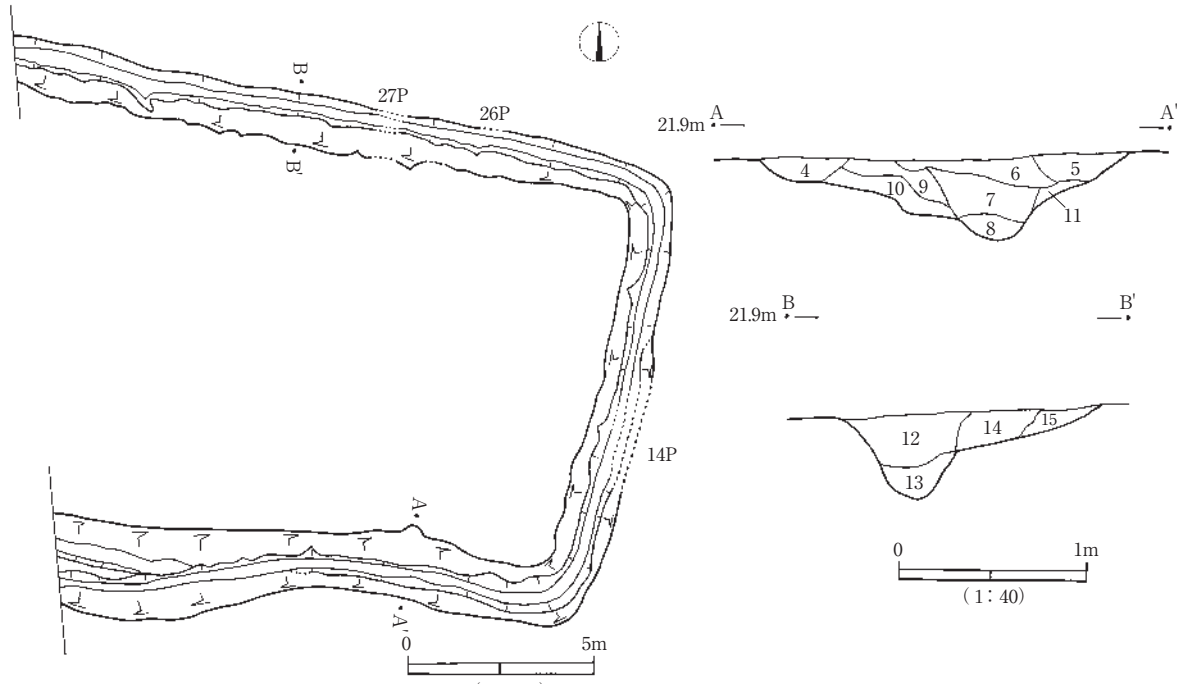
6区で検出された、台地縁辺部から台地下方に向かってのびてゆく溝である。南西端は48P土坑・9M溝と接している。また8M溝と交わっている。イモ穴のようなものも途中に含んでおり、根切りを兼ねた地境の溝と考えられる。

8M溝 (第144図)

6区から8区に亘って検出された浅い溝である。東端は7M溝に切られるかたちで交わる。

9M溝 (第145図)

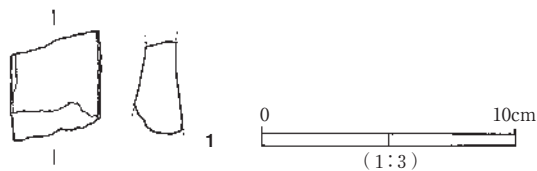
6区から8区に亘って検出された。北東端は7M溝と48P土坑に接している。南西端はC1-70Gで明確に終息している。しっかりと掘られた短軸断面逆台形～方形の溝である。根切りを兼ねた地境の溝であろう。西端付近で、ウシ成獣の上腕骨・橈骨・尺骨(いずれも右、同一個体)が出土している。なお、土層断面は48P土坑・49P土坑の断面にも含まれている(第128・130図)。



第136図 2M溝実測図

2M溝土層観察表 (第136図)

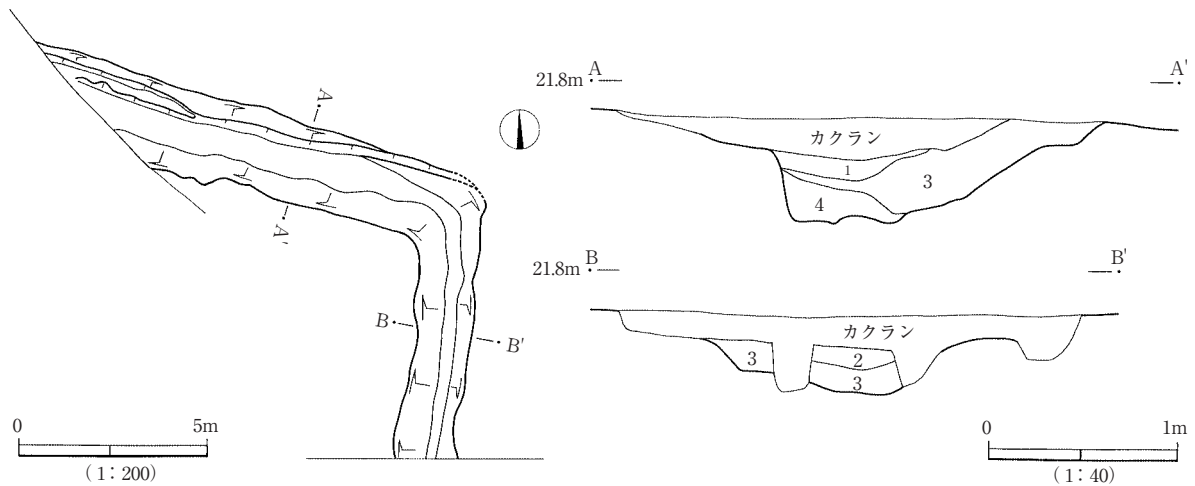
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
4		7.5Y R3/3主 4/4ブロック状	富む	L	小亜角塊状	含む	小	16	小	細根含む	1~3は, 14P参照
5	判然	7.5Y R3/2ブロック状, 7.5Y R3/3主 7.5Y R4/3	含む~ 富む	L	小亜角塊状	含む	小	13	小	細根含む	
6	明瞭	7.5Y R3/3 7.5Y R3/2.5雲状 4/4ブロック状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	小	細根含む	
7	明瞭	7.5Y R4/3	含む	L	小亜角塊状	含む	小	13	小	細根含む	径1cmロームブロック
8		7.5Y R4/3 4/4ブロック状	含む	LiC	小亜角塊状	富む	小	16	強	細根含む	
9	判然	7.5Y R4/3	含む	L	小亜角塊状	含む	小	16	小	細根含む	
10		7.5Y R4/3 4/4ブロック状	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	強	細根含む	
11	他と明瞭	7.5Y R4/4	含む	Si C	小亜角塊状	富む	小	13	強	細根含む	ローム土主体
12	明瞭	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	12	中	細根富む	径1~5mm黄色スコリア
13		7.5Y R3/3, 4/4	含む~ 富む	LiC	小亜角塊状	富む	小	13	強	細根富む	径2~3cmロームブロック
14	1と判然 判然	7.5Y R3/3	富む	CL	屑粒状~ 小亜角塊状	富む	0~小	13	中	細根富む	径1~5mm黄色スコリア多 径1~2mm炭化物
15		7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	径2~3cmロームブロック



第137図 2M溝出土遺物実測図

2M溝出土遺物観察表 (第137図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	砥石	欠損品	4.3cm×3.5cm×1.9cm	質量, 33.8g。緻密な石, 被熱。流紋岩。にぶい褐色。			13



第138図 3M溝実測図

3M溝土層 (第138図)

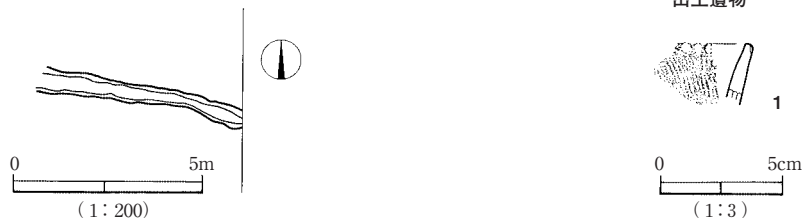
1. 7.5YR3/4 (暗褐色土) ロームブロック多。しまり弱。粘性弱。
2. 7.5YR3/4 (暗褐色土) ロームブロック。しまり弱。粘性弱。
3. 7.5YR3/3 (暗褐色土) 細かいロームブロック少。しまり弱。粘性弱。
4. 7.5YR3/3 (暗褐色土) 1層より大きいロームブロック多。しまり極弱。粘性弱。



第139図 3M溝出土遺物実測図

3M溝出土遺物観察表 (第139図)

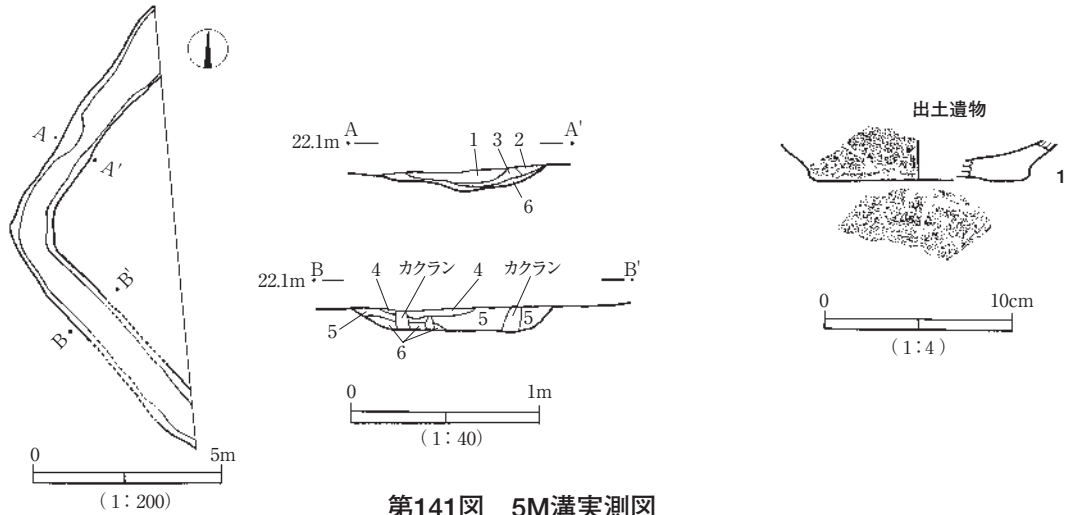
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	須恵器坏	底部	底径 (9.6) 器高 <2.1>	ロクロ。底面は糸切り後ナデ。	○緻密 ○良好 ●黄灰色		13
2	陶器灯明皿	口縁部	口径 (9.6) 器高 <1.2>	外) 上半に鉄軸。 内) 全面に鉄軸。	○緻密 ○良好 ●外) にぶい赤褐色, 橙色 内) にぶい赤褐色	近世	一括



第140図 4M溝実測図

4M溝出土遺物観察表 (第140図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	甕	口縁部	器高 <2.4>	外) 口唇部に工具圧痕による刻み。 縦ハケ。 内) 横ハケ。	○緻密 ○良好 ●外) 灰褐色 内) にぶい褐色		一括



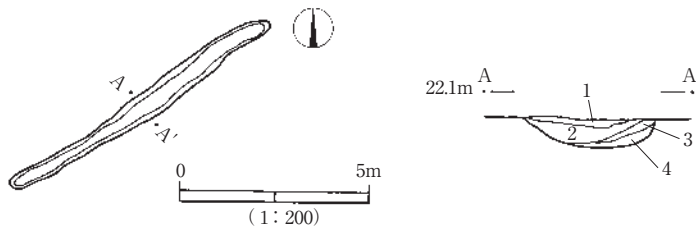
第141図 5M溝実測図

5M溝土層観察表 (第141図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	他と明瞭	7.5Y R3.5/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根あり	径5mm以下黄色スコリア
2	漸変	7.5Y R4/3, 3/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根あり	
3		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根あり	
4	判然	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	
5		7.5Y R3/3, 3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	20	中	細根富む	径1mm以下黄色スコリア
6	他と漸変	7.5Y R4/3, 3/3 まじり合う	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	23	中	細根あり	

5M溝出土遺物観察表 (第141図)

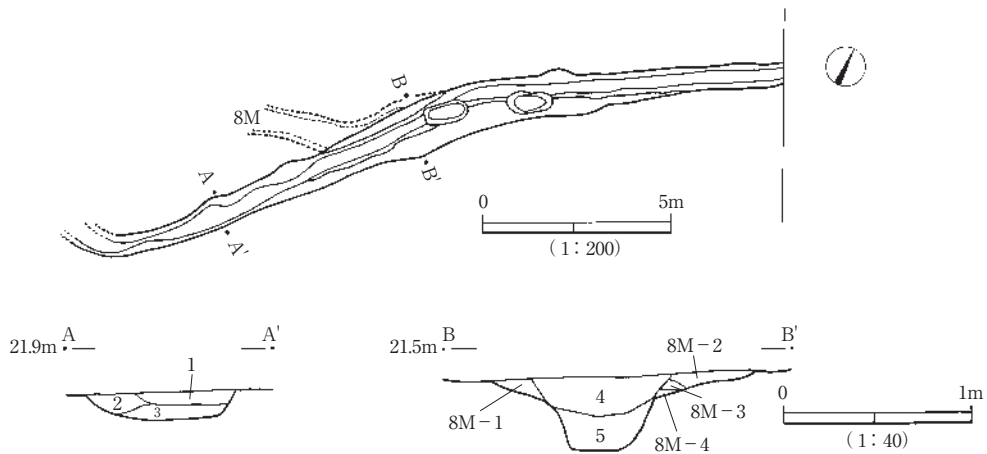
遺物No	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo
1	甕	底部	底径 (10.8) 器高 <2.1>	外) 縦ハケ後ミガキ。底部, ミガキ。	○砂粒, 橙色スコリア ◎良 ●にぶい橙色	内面, 剥落。	1-2-3-4



第142図 6M溝実測図

6M溝土層観察表 (第142図)

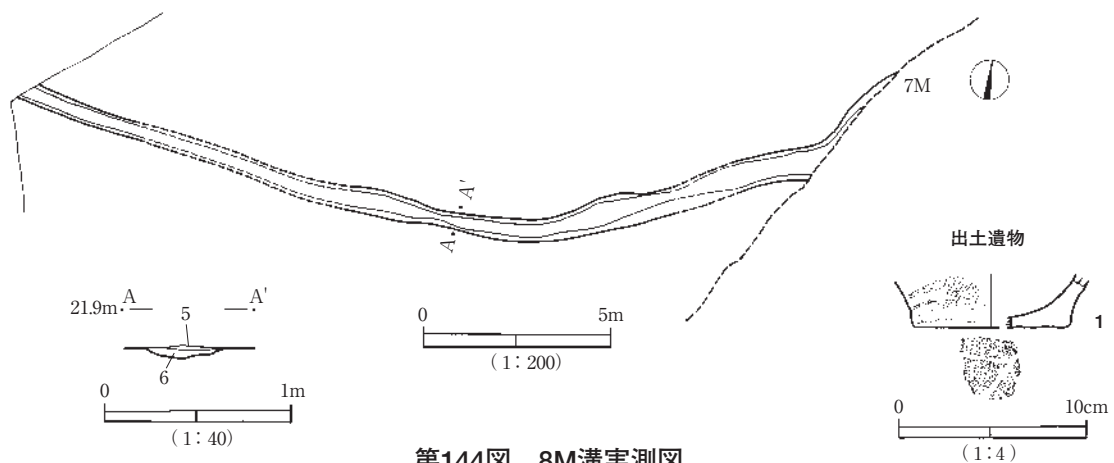
No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/2, 3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	
2		7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	25	弱	細根含む	径5mm以下黄色スコリア
3	漸変	7.5Y R3/3, 4/3	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	
4											全掘時に掘り広がった部分



第143図 7M溝実測図

7M溝土層観察表 (第143図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	弱	細根富む	
2	漸変	7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	
3		7.5Y R4/3	含む	CL	小亜角塊状	富む	小	14	中	細根富む	
4	漸変	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根富む	径2mm以下黄色スコリア
5		7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根 頗る富む 主根あり	ロームまじり



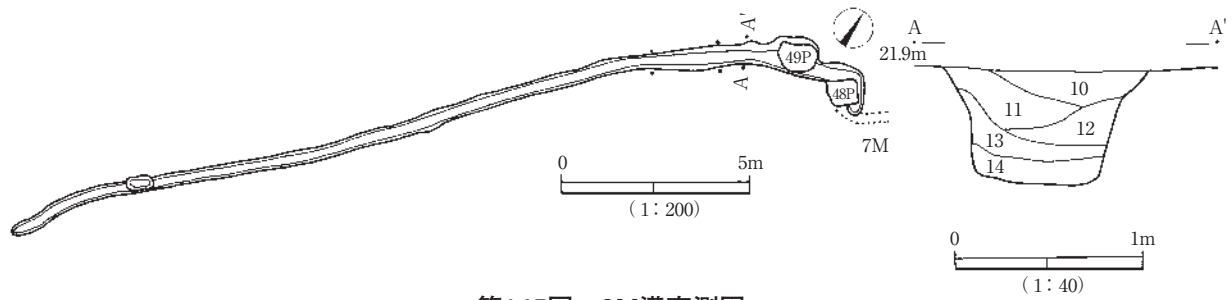
第144図 8M溝実測図

8M溝土層観察表 (第143・144図)

No	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	7M-4と判然	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	第143図
2	明瞭	7.5Y R3/3, 4/3	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	17	中	細根富む	第143図
3	明瞭	7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	第143図
4		7.5Y R4/4	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	第143図
5	明瞭	7.5Y R3/2	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	
6		7.5Y R4/3	含む	Si CL	小亜角塊状	富む	小	16	中	細根富む	

8M溝出土遺物観察表

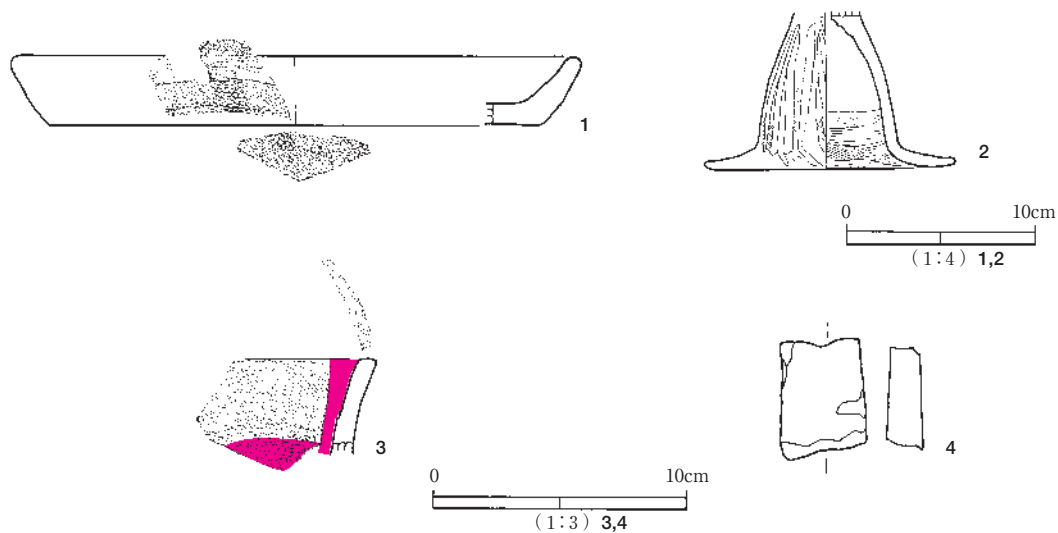
遺物No	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調 ○細砂粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) にぶい赤褐色 内) にぶい褐色	備考	現地取り上げNo.
1	甕	底部	底径 (8.2) 器高 <2.8>	外) 附加条1種LR+R。底部, 木葉痕。 内) ナデ。			1



第145図 9M溝実測図

9M溝土層観察表 (第145図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
10	渐变	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根富む	1~9については48P・49P参照。
11	渐变	7.5Y R3/3	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根富む 主根あり	炭化材片
12	渐变	7.5Y R3/3, 4/3	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	炭化材片 径2mm以下黄色スコリア
13	渐变	7.5Y R3/3	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	
14		7.5Y R3/3, 4/4	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	14	中	細根富む	



第146図 9M溝出土遺物実測図

9M溝出土遺物観察表 (第146図)

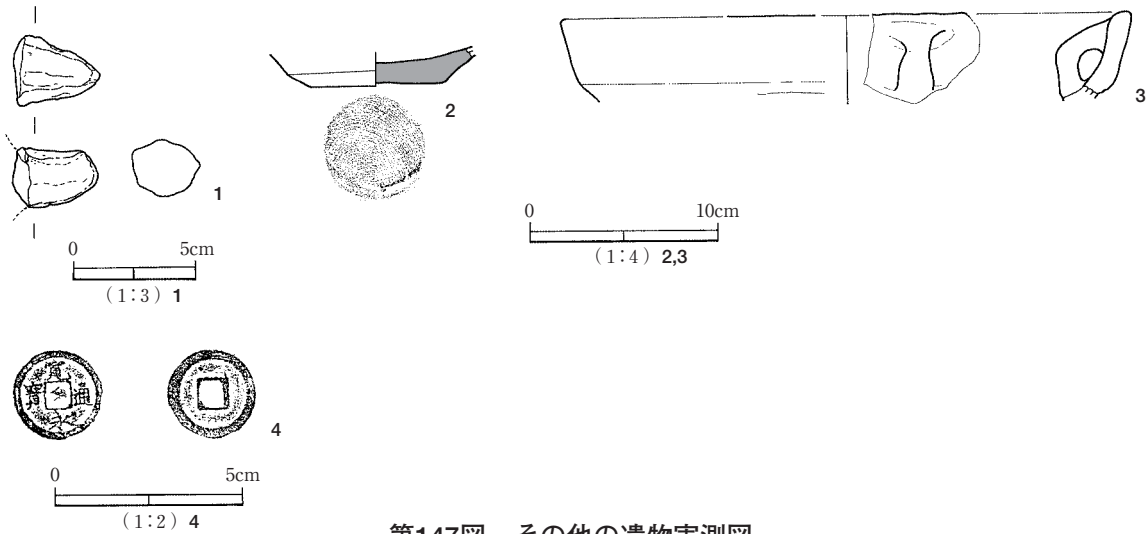
遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	炮烙か	口縁部 ~底部	口径 (30.2) 底径 (25.8) 器高 3.7	外) ミガキ。 内) 横ナデ。	○緻密 ○良 ●黒色		41
2	高坏	脚部	底径 (13.3) 器高 <8.2>	外) 斜ハケ後縦ミガキ。 内) ナデ, 輪積痕, 横ハケ。	○細砂粒 ○良好 ●にぶい赤褐色, 橙色, 黒色		8
3	鉢か	口縁部	器高 <3.8>	外) 口唇部上端, 無節縄文。赤彩。 縦ミガキ。 内) 無節縄文, S字状結節文, 赤彩。	○緻密 ○良 ●外) にぶい赤褐色 内) にぶい橙色, にぶい赤褐色		43
4	砥石。欠損。		4.6cm×3.4cm。厚さ1.5cm。質量38.5g。	擦痕はあまり目立たない。流紋岩。にぶい赤褐色, 灰褐色。			51

10M溝 (第7図)

7区で検出された南北方向の溝である。なお、土層断面は19D住居跡の断面に含まれている。

(2) その他の遺物

第147図は遺構外で出土した遺物である。遺構外出土遺物のうち縄文時代に属するもの・12D住居跡付近で出土したもの・17D住居跡付近で出土したものは別に掲載した。1は甑の把手である。古墳時代後期と推定される。該期の遺構は今回の調査では検出していない。川崎山遺跡全体でもc地点で2軒調査されているのみである。2は須恵器坏の底部で、9世紀代と考えられる。5D住居跡の北東約25m付近での出土である。3は内耳土器である。4は寛永通宝である。



第147図 その他の遺物実測図

その他の遺物観察表 (第147図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ●焼成 ●色調	備考	現地取り上げNo.
1	土師器甑	把手	長さ 2.3 幅 3.4 厚さ 2.7	外) ミガキ。沈線状の整形痕あり。	○細砂粒 ●良 ●にぶい褐色	質量, 14.6g。	B1-89G一括
2	須恵器坏	底部	底径 5.3 器高 <1.5>	ロクロ成形。底部, 糸切痕。 内) ナデ。	○雲母 ●やや不良 ●外) にぶい橙色 内) 灰白色	二次焼成を受けている。	C1-30-4G一括
3	内耳土器	口縁部 把手	口径 (30.0) 器高 <4.7>	外) 横ナデ。 内) ナデ。	○細砂粒, 緻密 ●良 ●外) にぶい橙色, 黒色 内) にぶい橙色, 灰褐色		B2-12-1G一括
4	寛永通宝		径23.9mm, 厚さ1.2mm, 口径縦6.6mm, 横6.1mm。2.5g。				A1-100-4G一括

Ⅲ 分析委託

1 川崎山遺跡d地点住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生・佐々木由香（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

八千代市萱田町川崎山遺跡d地点の焼失住居跡から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。遺跡は下総台地、印旛沼水系の新川右岸の台地上に位置する。標高は約20～24mである。分析の対象とした住居跡は、d地点に検出された弥生時代後期～平安時代の住居跡26軒のうち、古墳時代初頭の焼失住居跡6軒（3D・9D・11D・19D・20D・22D）と平安時代（9世紀）の焼失住居跡1軒（5D）の計7軒である。

古墳時代初頭の炭化材試料数は総計448点、平安時代の試料数は156点である。炭化材の残存は比較的良好で、形状や木取りが観察できる試料が多かったため、出土位置ごとに分類を行い、観察可能な材については木取りと法量を記録した。さらに人間活動に伴う天然林の二次林化や二次林の拡大とその利用を考える上で、同時期に大量に利用されていたクヌギ節の年輪幅を記録することを試みた。

ここでは7軒の焼失住居内に出土した、すべての炭化材の樹種同定を行うことによって、住居内出土の樹種組成、古墳時代初頭と平安時代の2時期における樹種の比較、木取りの傾向、出土位置と樹種傾向を検討した。

(2) 試料と方法

各住居跡の試料数は、3Dが71点、9Dが49点、11Dが163点、19Dが39点、20Dが70点、22Dが56点、5Dが156点の計604点である。

同定用の試料は、形状をできるだけ維持して取り上げた炭化材を十分に乾燥させた後、同定可能な部位を観察して一部採取した。またその際に木取りおよび残存径（丸木材は直径のみ）、幅、厚さを記録した。焼失時、埋没過程や取り上げ後の割れなどにより木取りが不明な材は細片とした。さらに同定用の試料を用いて、連続して計数できる範囲で成長方向の幅（放射径）とその年輪数を記録した。

同定は、まず炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、横断面の特徴から同定可能なクヌギ節やアカガシ亜属は、この段階で同定を決定した。それ以外の試料は横断面、接線断面、放射断面の3方向の断面を作成し、走査電子顕微鏡で材組織を拡大して観察を行い同定した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定して試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

炭化材の残片は、八千代市教育委員会に保管されている。

(3) 結果

同定結果の一覧を、表1に示した。表2では各住居跡から検出された樹種、表3では木取りと樹種の比較をした。また各住居跡の樹種別の産出状況を図1～3に示した。

各住居跡の樹種選択

全体から検出された樹種は、モミ属の針葉樹1分類群、イヌシデ節・ハンノキ亜属・ハンノキ属・アカガシ亜属・クヌギ節・コナラ亜属（コナラ節?）・クリ・ケヤキ・ヤマグワ?・サクラ属・キハダ・

表1 炭化材観察表(1)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
3D	T01	細片		計測不可能				クスギ節	6	6	1.00	図面位置不明
3D	T02	欠番										取り上げNo.はあり
3D	T03	細片		計測不可能				クスギ節	19	17	1.12	
3D	T04	削り出し丸材			4.0	4.0		クスギ節	16	17	0.94	
3D	T05	細片		計測不可能				クスギ節	24	26	0.92	
3D	T06	細片		計測不可能				クスギ節	13	8	1.63	
3D	T07	細片		計測不可能				クスギ節	11	10	1.10	
3D	T08	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T09	細片		計測不可能				クスギ節	11	18	0.61	
3D	T10	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
3D	T11	細片		計測不可能				ハンノキ重属	-	-	-	
3D	T12	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
3D	T13	細片		計測不可能				クスギ節	21	12	1.75	
3D	T14	細片		計測不可能				クスギ節	8	12	0.67	
3D	T15	細片		計測不可能				クスギ節	21	15	1.40	
3D	T16	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T17	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T18	細片		計測不可能				クスギ節	21	17	1.24	
3D	T19	細片		計測不可能				クスギ節	11	11	1.00	
3D	T20	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T21	細片		計測不可能				クスギ節	31	35	0.89	
3D	T22	みかん割り材	II	計測不可能				クスギ節	12	8	1.50	
3D	T23	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T24	細片		計測不可能				クスギ節	5	3	1.67	
3D	T25	細片		計測不可能				クスギ節	7	5	1.40	
3D	T26	柵目板			4.0	1.5		クスギ節	24	11	2.18	
3D	T27	柵目板片		計測不可能				クスギ節	15	5	3.00	
3D	T28	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	推定直径3cm
3D	T29	細片		計測不可能				クスギ節	13	10	1.30	
3D	T30	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T31	細片		計測不可能				クスギ節	20	16	1.25	
3D	T32	細片		計測不可能				クスギ節	15	12	1.25	
3D	T33	角材?			5.5	5.0		クスギ節	29	28	1.04	
3D	T34	細片		計測不可能				クスギ節	8	8	1.00	
3D	T35	細片		計測不可能				クスギ節	9	6	1.50	
3D	T36	細片		計測不可能				クスギ節	15	9	1.67	
3D	T37	丸木材?		計測不可能				クスギ節	20	12	1.67	
3D	T38	細片		計測不可能				クスギ節	16	11	1.45	
3D	T39	丸木材?		4.5				サクラ属	-	-	-	
3D	T40	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T41	細片		計測不可能				クスギ節	12	11	1.09	
3D	T42	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T43	細片		計測不可能				クスギ節	6	8	0.75	
3D	T44	柵目材			3.5	1.5		クスギ節	16	18	0.89	
3D	T45	角材			3.5	3.5		クスギ節	-	-	-	
3D	T46	みかん割り材		7.5				クスギ節	18	16	1.13	
3D	T47	みかん割り材	II	6.5				クスギ節	12	16	0.75	
3D	T48	半割材	II	11.0				クスギ節	14	10	1.40	加工痕残存
3D	T49	細片		計測不可能				クスギ節	12	14	0.86	
3D	T50	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T51	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T52	細片		計測不可能				クスギ節	12	14	0.86	
3D	T53	柵目材			8.0	1.5		クスギ節	14	13	1.08	枝?
3D	T54	半割材?		16.5				クスギ節	-	-	-	柵目材?
3D	T55	欠番							-	-	-	取り上げNo.はあり
3D	T56	細片	II	計測不可能				クスギ節	24	11	2.18	
3D	T57	丸木材	II	10.0				クスギ節	25	20	1.25	
3D	T58	柵目板	II		15.5	2.5		クスギ節	19	8	2.38	
3D	T59	角材			6.5	6.5		クスギ節	22	33	0.67	加工痕残存
3D	T60	細片		計測不可能				クスギ節	18	17	1.06	
3D	T61	柵目材?	II	計測不可能				クスギ節	20	11	1.82	
3D	T62	柵目板片	II	計測不可能				クスギ節	-	-	-	
3D	T63	細片		計測不可能				ハンノキ重属	-	-	-	
3D	T64	角材?			5.5	4.0		クスギ節	27	26	1.04	加工痕残存
3D	T65	細片		計測不可能				クスギ節	11	5	2.20	
3D	T66	柵目板片		計測不可能				クスギ節	10	6	1.67	
3D	T67	柵目板片		計測不可能				不可(保存悪)	-	-	-	
3D	T68	柵目材			5.5	0.5		ハンノキ重属	-	-	-	
3D	T69	半割材		8.5				クスギ節	14	13	1.08	
3D	T70	細片		計測不可能				クスギ節	21	19	1.11	
3D	T71	細片		計測不可能				クスギ節	24	10	2.40	
3D	T72	板目板			22.0	3.0		クスギ節	18	16	1.13	
3D	T73	板目材				17.0	○	クスギ節	20	30	0.67	図面位置不明
同定数	71点										クスギ節:平均年輪幅	1.31mm
9D	T01	細片		計測不可能				クスギ節	19	18	1.06	
9D	T02	柵目材			1.0	2.5		クスギ節	23	22	1.05	
9D	T03	みかん割り材		1.5				トネリコ属	15	30	0.50	
9D	T04	細片		計測不可能				トネリコ属	-	-	-	
9D	T05	細片		計測不可能				トネリコ属	12	20	0.60	
9D	T06	細片		計測不可能				ハンノキ重属	-	-	-	
9D	T07	柵目材			1.5	4.0		クスギ節	21	18	1.17	
9D	T08	丸木材		3.0				トネリコ属	15	24	0.63	芯持ち
9D	T09	丸木材		3.0				ハンノキ重属	-	-	-	
9D	T10	みかん割り材		2.5				キハダ	28	11	2.55	
9D	T11	丸木材		2.0				クスギ節?	-	-	-	
9D	T12	丸木材		1.5				クスギ節	9	3	3.00	
9D	T13	細片		計測不可能				クスギ節	7	2	3.50	推定直径2cm
9D	T14	細片		計測不可能				クスギ節	6	2	3.00	
9D	T15	細片		計測不可能				トネリコ属	-	-	-	
9D	T16	みかん割り材		2.0				ハンノキ重属	-	-	-	
9D	T17	丸木材		2.0				クスギ節	10	2	5.00	
9D	T18	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
9D	T19	細片		計測不可能				キハダ	13	4	3.25	
9D	T20	丸木材		3.0				トネリコ属	15	19	0.79	
9D	T21	みかん割り材		1.5				トネリコ属	19	22	0.86	
9D	T22	みかん割り材		1.5				トネリコ属	9	9	1.00	
9D	T23	みかん割り材		2.8				トネリコ属	20	21	0.95	
9D	T24	丸木材		3.5				トネリコ属	17	20	0.85	
9D	T25	細片		計測不可能				トネリコ属	12	14	0.86	
9D	T26	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
9D	T27	細片		計測不可能				イヌシデ節	-	-	-	
9D	T28	細片		計測不可能				イヌシデ節	-	-	-	
9D	T29	細片		計測不可能				ハンノキ重属	-	-	-	

表1 炭化材観察表(2)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
9D	T30	細片		計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T31	丸木材		3.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T32	細片		計測不可能				トネリコ属	15	14	1.07	
9D	T33	細片		計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T34	丸木材	III	3.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T35	丸木材		3.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T36	細片	III	計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T37	細片		計測不可能				イヌシデ属	-	-	-	
9D	T38	みかん割り材		1.5				トネリコ属	16	17	0.94	
9D	T39	丸木材		5.0				トネリコ属	20	17	1.18	
9D	T40	みかん割り材		2.5				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T41	板目材			8.5	1.0		クスギ節	12	6	2.00	
9D	T42	みかん割り材		2.8				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T43	細片		計測不可能				不可(保存悪)	-	-	-	
9D	T44	細片	III	計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T45	丸木材	III	5.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T46	丸木材	III	3.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T47	丸木材	III	2.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T48	みかん割り材		3.5				ハンノキ亜属	-	-	-	
9D	T49	細片		計測不可能				トネリコ属	8	9	0.89	
同定数	48点								クスギ節: 平均年輪幅		2.47mm	
									トネリコ属: 平均年輪幅		0.86mm	
11D	T001	細片		計測不可能				クスギ節	26	40	0.65	
11D	T002	角材			5.5	5.0		クスギ節	30	35	0.86	
11D	T003	細片		計測不可能				クスギ節	28	20	1.40	
11D	T004	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T005	角材			4.0	2.5		クスギ節	20	19	1.05	
11D	T006	丸木材?		4.0				クスギ節	15	4	3.75	
11D	T007	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T008	丸木材		1.0				タケ亜科	-	-	-	推定直径1cm
11D	T009	角材			4.0	3.0		クスギ節	-	-	-	
11D	T010	丸木材		2.0				クスギ節	10	2	5.00	直径2cm 芯持ち
11D	T011	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T012	細片		計測不可能				クスギ節	18	14	1.29	
11D	T013	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T014	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T015	細片		計測不可能				ハンノキ属	-	-	-	
11D	T016	細片		計測不可能				クスギ節	18	20	0.90	
11D	T017	細片		計測不可能				クスギ節	35	24	1.46	
11D	T018	細片		計測不可能				クスギ節	12	9	1.33	
11D	T019	細片		計測不可能				クスギ節	15	11	1.36	
11D	T020	細片		計測不可能				クスギ節	24	30	0.80	
11D	T021	板目材			7.0	3.0		クスギ節	18	14	1.29	
11D	T022	角材			2.5	2.5		クスギ節	25	21	1.19	
11D	T023	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T024	角材			2.5	2.0		クスギ節	22	30	0.73	
11D	T025	みかん割り材		3.5				クスギ節	13	18	0.72	
11D	T026	細片		計測不可能				クスギ節	16	13	1.23	
11D	T027	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T028	細片		計測不可能				クスギ節	23	22	1.05	
11D	T029	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	一部ぬか目
11D	T030	角材			2.5	2.5		クスギ節	13	12	1.08	
11D	T031	細片		計測不可能				クスギ節	30	31	0.97	
11D	T032	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T033	細片		計測不可能				クスギ節	9	16	0.56	
11D	T034	みかん割り材		3.5				クスギ節	18	20	0.90	
11D	T035	細片		計測不可能				クスギ節	16	15	1.07	
11D	T036	丸木材		4.0				クスギ節	18	5	3.60	
11D	T037	細片		計測不可能				クスギ節	23	16	1.44	
11D	T038	細片		計測不可能				クスギ節	16	19	0.84	
11D	T039	細片		計測不可能				クスギ節	28	14	2.00	
11D	T040	細片		計測不可能				クスギ節	20	11	1.82	
11D	T041	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T042	丸木材	II	2.0				ヤマグワ?	-	-	-	
11D	T043	丸木材	II	2.5				ヤマグワ?	-	-	-	
11D	T044	細片		計測不可能				ヤマグワ?	-	-	-	
11D	T045	細片		計測不可能				クスギ節	20	13	1.54	
11D	T046	細片		計測不可能				クスギ節	30	17	1.76	
11D	T047	細片		計測不可能				クスギ節	33	20	1.65	
11D	T048	みかん割り材	I	4.5				クスギ節	18	16	1.13	
11D	T049	細片		計測不可能				クスギ節	19	16	1.19	
11D	T050	みかん割り材		3.0				クスギ節	26	4	6.50	推定直径4cm
11D	T051	細片	I	計測不可能				クスギ節	20	9	2.22	
11D	T052	細片	II	計測不可能				クスギ節	15	28	0.54	ぬか目
11D	T053	みかん割り材	II	計測不可能				クスギ節	10	3	3.33	
11D	T054	みかん割り材		計測不可能				クスギ節	15	14	1.07	
11D	T055	細片		計測不可能				クスギ節	12	7	1.71	
11D	T056	細片		計測不可能				クスギ節	25	16	1.56	
11D	T057	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T058	細片		計測不可能				クスギ節	15	15	1.00	
11D	T059	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T060	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T061	細片		計測不可能				クスギ節	30	27	1.11	
11D	T062	細片		計測不可能				クスギ節	20	17	1.18	
11D	T063	角材			5.0	5.0		クスギ節	29	27	1.07	
11D	T064	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T065	細片		計測不可能				クスギ節	18	7	2.57	
11D	T066	細片	II	計測不可能				クスギ節	28	27	1.04	
11D	T067	細片		計測不可能				クスギ節	19	14	1.36	
11D	T068	細片	II	計測不可能				クスギ節	18	23	0.78	
11D	T069	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T070	細片	II	計測不可能				クスギ節	13	11	1.18	
11D	T071	細片	II	計測不可能				クスギ節	15	15	1.00	
11D	T072	細片		計測不可能				クスギ節	13	15	0.87	
11D	T073	細片	II	計測不可能				クスギ節	23	30	0.77	
11D	T074	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T075	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T076	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T077	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T078	細片		計測不可能				クスギ節	16	15	1.07	
11D	T079	細片		計測不可能				クスギ節	22	19	1.16	
11D	T080	細片		計測不可能				クスギ節	15	12	1.25	
11D	T081	細片		計測不可能				クスギ節	25	32	0.78	

表1 炭化材観察表(3)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
11D	T082	細片		計測不可能				クスギ節	12	11	1.09	
11D	T083	細片		計測不可能				クスギ節	15	6	2.50	
11D	T084	細片		計測不可能				クスギ節	16	11	1.45	
11D	T085	細片		計測不可能				クスギ節	16	9	1.78	
11D	T086	細片		計測不可能				クスギ節	30	17	1.76	
11D	T087	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T088	細片		計測不可能				クスギ節	12	10	1.20	
11D	T089	細片		計測不可能				クスギ節	12	9	1.33	
11D	T090	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T091	細片		計測不可能				クスギ節	15	21	0.71	
11D	T092	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T093	細片		計測不可能				クスギ節	18	20	0.90	
11D	T094	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T095	細片		計測不可能				クスギ節	14	14	1.00	
11D	T096	細片		計測不可能				クスギ節	20	21	0.95	
11D	T097	細片		計測不可能				クスギ節	20	17	1.18	
11D	T098	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T099	細片		計測不可能				クスギ節	17	11	1.55	
11D	T100	細片		計測不可能				クスギ節	15	16	0.94	
11D	T101	細片		計測不可能				クスギ節	12	12	1.00	
11D	T102	細片		計測不可能				クスギ節	13	13	1.00	
11D	T103	細片		計測不可能				クスギ節	13	13	1.00	
11D	T104	細片		計測不可能				クスギ節	23	30	0.77	
11D	T105	細片		計測不可能				クスギ節	15	15	1.00	
11D	T106	角材?			3.5	3.5		クスギ節	14	27	0.52	
11D	T107	細片	I	計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T108	細片		計測不可能				クスギ節	33	28	1.18	
11D	T109	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T110	細片		計測不可能				クスギ節	19	14	1.36	
11D	T111	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T112	細片	I	計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T113	柁目材	I		7.5	3.0		クスギ節	11	11	1.00	
11D	T114	細片		計測不可能				クスギ節	30	19	1.58	
11D	T115	みかん割り材?		6.5				クスギ節	-	-	-	
11D	T116	細片	I	計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T117	細片	I	計測不可能				クスギ節	13	20	0.65	
11D	T118	角材			4.5	4.5		クスギ節	18	19	0.95	
11D	T119	柁目材	II		8.5	2.5		クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T120	柁目材	II		7.0	3.5		クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T121	柁目板	II		14.0	3.0		クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T122	半割材	II	7.5				クスギ節	22	26	0.85	
11D	T123	板目材	II		6.5	2.5		クスギ節	8	13	0.62	
11D	T124	板目材	II	計測不可能				クスギ節	15	17	0.88	
11D	T125	半割材	II	8.5				クスギ節	-	-	-	
11D	T125	半割材	II					ハンノキ属	-	-	-	
11D	T126	みかん割り材	I	8.0				クスギ節	-	-	-	
11D	T127	みかん割り材		9.0				クスギ節	-	-	-	
11D	T128	みかん割り材		7.0				クスギ節	30	20	1.50	
11D	T129	角材	II		5.0	5.0		クスギ節	14	7	2.00	
11D	T130	柁目材	II		7.5	2.0		クスギ節	25	13	1.92	
11D	T131	みかん割り材		5.5				クスギ節	22	22	1.00	
11D	T132	角材		5.0	3.0			クスギ節	16	27	0.59	
11D	T133	みかん割り材		6.5				クスギ節	12	12	1.00	
11D	T134	みかん割り材		8.0				クスギ節	16	20	0.80	
11D	T135	みかん割り材		9.0				クスギ節	18	18	1.00	
11D	T136	柁目材			8.0	2.5		クスギ節	-	-	-	
11D	T137	丸木材			4.0	2.0		クスギ節	7	2	3.50	直径1.5cm 芯持ち丸木材
11D	T138	細片	II	計測不可能				クスギ節	14	13	1.08	
11D	T139	みかん割り材		5.5				クスギ節	18	14	1.29	
11D	T140	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
11D	T141	丸木材		8.0				クスギ節	23	28	0.82	
11D	T142	柁目材	II		5.5	2.0		クスギ節	-	-	-	
11D	T143	みかん割り材	II	6.5				クスギ節	11	21	0.52	
11D	T144	細片	II	計測不可能				クスギ節	25	20	1.25	
11D	T145	みかん割り材	II	5.5				クスギ節	-	-	-	
11D	T146	柁目材	II		7.5	3.0		クスギ節	28	17	1.65	
11D	T147	細片	II	計測不可能				クスギ節	24	8	3.00	
11D	T148	細片		計測不可能				クスギ節	23	20	1.15	
11D	T149	細片		計測不可能				クスギ節?	-	-	-	
11D	T150	みかん割り材		4.5				クスギ節	6	8	0.75	
11D	T151	角材			5.0	3.5		クスギ節	23	9	2.56	
11D	T152	丸木材		5.5				ハンノキ属	-	-	-	
11D	T153	細片	I	計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T154	みかん割り材	I	4.5				クスギ節	24	24	1.00	
11D	T155	角材	I		3.0	4.5		クスギ節	21	28	0.75	
11D	T156	みかん割り材		5.0				クスギ節	-	-	-	
11D	T157	みかん割り材		6.5				クスギ節	25	25	1.00	
11D	T158	丸木材	I	5.0				クスギ節	22	14	1.57	
11D	T159	細片		計測不可能				クスギ節	15	7	2.14	
11D	T160	細片		計測不可能				クスギ節	20	21	0.95	
11D	T161	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
11D	T162	柁目材			4.0	1.5		クスギ節	18	5	3.60	
11D	T163	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	加工痕残存
同定数	163点								クスギ節：平均年輪幅 1.39mm			
19D	T01	みかん割り材		3.9				クスギ節	10	8	1.25	
19D	T02	丸木材		6.5			○	クスギ節	15	8	1.88	
19D	T03	みかん割り材		6.0			○	クスギ節	15	5	3.00	
19D	T04	みかん割り材		3.5				クスギ節	15	24	0.63	
19D	T05	みかん割り材		1.2			○	クスギ節	16	15	1.07	
19D	T06	細片						クスギ節	10	8	1.25	現物は大きい
19D	T07	みかん割り材		2.5			○	クスギ節	8	5	1.60	
19D	T08	みかん割り材		3.6			○	クスギ節	22	15	1.47	
19D	T09	みかん割り材		3.5				クスギ節	19	24	0.79	
19D	T10	細片						クスギ節	-	-	-	
19D	T11	みかん割り材		2.5				クスギ節	19	19	1.00	
19D	T12	みかん割り材		1.9				クスギ節	10	10	1.00	
19D	T13	細片						クスギ節	10	8	1.25	
19D	T14	細片						クスギ節	-	-	-	
19D	T15	細片						クスギ節	14	18	0.78	
19D	T16	細片						クスギ節	9	18	0.50	
19D	T17	みかん割り材		2.2				クスギ節	10	5	2.00	
19D	T18	細片						シキミ	-	-	-	
19D	T19	柁目材			2.7	1.0		クスギ節	27	20	1.35	

表1 炭化材観察表(4)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
19D	T20	細片						クスギ節	20	14	1.43	
19D	T21	細片						クスギ節	12	13	0.92	
19D	T22	みかん割り材		5.1				クスギ節	11	10	1.10	
19D	T23	細片						クスギ節	14	12	1.17	
19D	T24	角材?			3.6	2.2		クスギ節	17	12	1.42	
19D	T25	みかん割り材		3.0				クスギ節	19	21	0.90	
19D	T26	みかん割り材		4.0				クスギ節	20	18	1.11	
19D	T27	みかん割り材		2.5				クスギ節	23	18	1.28	
19D	T28	みかん割り材		5.0				クスギ節	20	8	2.50	
19D	T29	みかん割り材		計測不可能			○	クスギ節	-	-	-	
19D	T30	みかん割り材		3.2				クスギ節	27	23	1.17	
19D	T31	みかん割り材		3.2				クスギ節	26	25	1.04	
19D	T32	みかん割り材		1.8				クスギ節	22	12	1.83	
19D	T33	みかん割り材		3.5				クスギ節	20	15	1.33	
19D	T34	みかん割り材		2.8				クスギ節	11	8	1.38	
19D	T35	みかん割り材		4.3				クスギ節	-	-	-	
19D	T36	丸木材		10.0			○	クスギ節	-	-	-	
19D	T37	みかん割り材		4.0				クスギ節	15	11	1.36	
19D	T38	細片		計測不可能				ススキ属	-	-	-	直径0.5cmの程が集積
19D	T39	みかん割り材		3.5				クスギ節	17	11	1.55	
同定数	39点										クスギ節: 平均年輪幅 1.32mm	
20D	T01	板目材		計測不可能				クリ	10	5	2.00	
20D	T02	細片		計測不可能				クスギ節	18	10	1.80	
20D	T03	細片		計測不可能				クスギ節	15	9	1.67	
20D	T04	細片		計測不可能				クスギ節	8	4	2.00	
20D	T05	丸木材		6.0				クスギ節	-	-	-	
20D	T06	柱目材			6.0	2.5		クスギ節	-	-	-	
20D	T07	柱目材			6.0	2.5		クスギ節	11	6	1.83	
20D	T08	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T09	板目材			4.0	2.5		クスギ節	21	12	1.75	
20D	T10	細片		計測不可能				クスギ節	7	5	1.40	
20D	T11	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T12	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
20D	T13	みかん割り材		5.5				クスギ節	24	19	1.26	
20D	T14	細片		計測不可能				クリ	12	3	4.00	
20D	T15	みかん割り材		4.5				クリ	14	3	4.67	
20D	T16	細片		計測不可能				モミ属	-	-	-	
20D	T17	細片		計測不可能				クスギ節	23	5	4.60	
20D	T18	みかん割り材		6.0				クスギ節	10	13	0.77	
20D	T19	細片		計測不可能				クスギ節	12	11	1.09	
20D	T20	みかん割り材		5.5				クスギ節	25	18	1.39	
20D	T21	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T22	角材			5.0	3.0		クスギ節	25	9	2.78	
20D	T23	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T24	細片		計測不可能				クスギ節	10	5	2.00	
20D	T25	細片		計測不可能				クスギ節	10	4	2.50	
20D	T26	細片		計測不可能				クスギ節	10	12	0.83	
20D	T27	細片		計測不可能				クスギ節	7	7	1.00	
20D	T28	みかん割り材		4.5				クスギ節	12	10	1.20	
20D	T29	みかん割り材		8.0				クスギ節	-	-	-	
20D	T30	みかん割り材		4.0				クスギ節	23	7	3.29	
20D	T31	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T32	柱目材			5.5	2.5		クスギ節	-	-	-	
20D	T33	みかん割り材		3.5				クスギ節	30	9	3.33	
20D	T34	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T35	みかん割り材		4.5				クスギ節	17	8	2.13	
20D	T36	細片		計測不可能				クスギ節	10	7	1.43	
20D	T37	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T38	半割材		7.0				クスギ節	10	6	1.67	
20D	T39	細片		計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
20D	T40	半割材		6.5				ハンノキ亜属	-	-	-	
20D	T41	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T42	細片		計測不可能				クスギ節	11	9	1.22	
20D	T43	細片		計測不可能				クスギ節	9	4	2.25	
20D	T44	みかん割り材		5.5				クスギ節	23	6	3.83	
20D	T45	半割材		10.5				クスギ節	14	9	1.56	
20D	T46	みかん割り材		5.5				クスギ節	24	15	1.60	
20D	T47	みかん割り材		5.0				クスギ節	21	10	2.10	
20D	T48	みかん割り材		6.0				クスギ節	20	6	3.33	
20D	T49	みかん割り材		5.0				クスギ節	21	18	1.17	
20D	T50	板目材			6.0	2.5		クスギ節	13	9	1.44	
20D	T51	板目材			6.0	2.5		クスギ節	17	11	1.55	
20D	T52	板目材			7.5	3.5		クスギ節	-	-	-	
20D	T53	丸木材		6.0				クスギ節	-	-	-	
20D	T54	みかん割り材		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
20D	T55	半割材		9.0				クスギ節	22	16	1.38	
20D	T56	みかん割り材		5.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
20D	T57	細片		計測不可能				ハンノキ亜属	-	-	-	
20D	T58	みかん割り材		3.0				ハンノキ亜属	-	-	-	
20D	T59	みかん割り材		5.0				クスギ節	23	6	3.83	
20D	T60	みかん割り材		6.0				クスギ節	40	19	2.11	
20D	T61	柱目材			4.0	1.0		クスギ節	-	-	-	
20D	T62	みかん割り材		4.5				クスギ節	35	17	2.06	
20D	T63	丸木材		10.0				クスギ節	16	16	1.00	
20D	T64	細片		計測不可能				クスギ節	12	5	2.40	
20D	T65	丸木材		7.0				クスギ節	15	15	1.00	
20D	T66	板目材			3.5	1.5		クスギ節	9	7	1.29	
20D	T67	みかん割り材		4.5				クスギ節	15	9	1.67	
20D	T68	板目材			3.5	1.5		ケヤキ	12	6	2.00	
20D	T69	細片		計測不可能				ハンノキ属	-	-	-	
20D	T70	みかん割り材		4.5				クスギ節	17	14	1.21	
同定数	70点										クスギ節: 平均年輪幅 1.90mm	
22D	T01	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T02	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T03	みかん割り材		4.0				クスギ節	26	20	1.30	
22D	T04	みかん割り材		3.0				クスギ節	22	12	1.83	
22D	T05	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T06	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T07	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T08	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T09	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T10	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	

表1 炭化材観察表(5)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
22D	T11	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T12	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T13	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T14	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T15	細片		計測不可能				クスギ節	20	19	1.05	
22D	T16	細片		計測不可能				クスギ節	14	5	2.80	
22D	T17	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T18	細片		計測不可能				クスギ節	11	6	1.83	
22D	T19	細片		計測不可能				クスギ節	11	7	1.57	
22D	T20	細片		計測不可能				クスギ節	10	7	1.43	
22D	T21	柾目材			9.0	2.5		クスギ節	-	-	-	
22D	T22	細片		計測不可能				クスギ節	13	19	0.68	
22D	T23	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T24	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T25	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T26	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	ぬか目
22D	T27	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T28	細片		計測不可能				クスギ節	9	8	1.13	
22D	T29	細片		計測不可能				クスギ節	22	15	1.47	
22D	T30	細片		計測不可能				クスギ節	21	11	1.91	
22D	T31	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T32	細片		計測不可能				クスギ節	4	4	1.00	
22D	T33	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T34	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T35	みかん割り材		2.0				クスギ節	8	7	1.14	
22D	T36	半割材		4.0				クスギ節	30	9	3.33	
22D	T37	丸木材		1.6				クスギ節	-	-	-	
22D	T38	細片		計測不可能				クスギ節	16	13	1.23	
22D	T39	細片		計測不可能				クスギ節	12	10	1.20	
22D	T40	細片		計測不可能				クスギ節	19	20	0.95	
22D	T41	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T42	細片		計測不可能				クスギ節	22	7	3.14	
22D	T43	細片		計測不可能				クスギ節	16	22	0.73	
22D	T44	みかん割り材		3.5				クスギ節	35	29	1.21	
22D	T45	細片		計測不可能				クスギ節	14	20	0.70	
22D	T46	細片		計測不可能				クスギ節	14	19	0.74	
22D	T47	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T48	細片		計測不可能				クスギ節	26	57	0.46	
22D	T49	細片		計測不可能				クスギ節	9	10	0.90	
22D	T50	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T51	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T52	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T53	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
22D	T54	細片		計測不可能				クスギ節	11	10	1.10	
22D	T55	細片		計測不可能				クスギ節	11	10	1.10	
22D	T56	細片		計測不可能				クスギ節	10	8	1.25	
同定数	56点											クスギ節： 平均年輪幅 1.38mm
5D	T001	みかん割り材		9.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T002	みかん割り材		2.5				クスギ節	-	-	-	
5D	T003	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T004	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T005	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T006	みかん割り材		3.5				クスギ節	23	11	2.09	
5D	T007	みかん割り材		2.5				クスギ節	18	11	1.64	
5D	T008	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T009	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T010	みかん割り材		1.5				クスギ節	13	10	1.30	
5D	T011	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T012	丸木材		11.0				クスギ節	21	25	0.84	
5D	T013	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T014	細片		計測不可能				クスギ節	23	18	1.28	
5D	T015	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T016	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T017	細片		計測不可能				クスギ節	12	11	1.09	
5D	T018	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T019	細片		計測不可能				クスギ節	16	20	0.80	
5D	T020	みかん割り材		2.5				クスギ節	25	18	1.39	
5D	T021	細片		計測不可能				クスギ節	16	21	0.76	
5D	T022	細片		計測不可能				クスギ節	12	5	2.40	
5D	T023	みかん割り材		4.0				クスギ節	25	24	1.04	
5D	T024	細片		計測不可能				クスギ節	11	16	0.69	
5D	T025	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T026	みかん割り材		5.0				クスギ節	15	10	1.50	
5D	T027	半割材		1.8				クスギ節	5	7	0.71	
5D	T028	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T029	細片		計測不可能				クスギ節	20	13	1.54	
5D	T030	細片		計測不可能				クスギ節	11	14	0.79	
5D	T031	細片		計測不可能				クスギ節	12	13	0.92	
5D	T032	細片		計測不可能				クスギ節	11	10	1.10	
5D	T033	細片		計測不可能				クスギ節	16	24	0.67	
5D	T034	みかん割り材		2.2				クスギ節	21	21	1.00	
5D	T035	細片		計測不可能				クスギ節	20	22	0.91	
5D	T036	みかん割り材		2.5				クスギ節	22	21	1.05	
5D	T037	丸木材		5.6				クスギ節	15	17	0.88	
5D	T038	みかん割り材		1.6				クスギ節	18	8	2.25	
5D	T039	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T040	丸木材		7.0				クスギ節	8	3	2.67	
5D	T041	丸木材		9.2				クスギ節	-	-	-	
5D	T042	みかん割り材		3.4				クスギ節	23	21	1.10	
5D	T043	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T044	丸木材		5.0				クスギ節	7	5	1.40	
5D	T045	みかん割り材		2.8				クスギ節	11	11	1.00	
5D	T046	みかん割り材		計測不可能				クスギ節	11	17	0.65	
5D	T047	みかん割り材		計測不可能				クスギ節	10	16	0.63	
5D	T048	みかん割り材		3.8				クスギ節	-	-	-	
5D	T049	丸木材		4.8				クスギ節	22	17	1.29	
5D	T050	みかん割り材		3.2				クスギ節	18	18	1.00	
5D	T051	みかん割り材		3.4				クスギ節	15	14	1.07	
5D	T052	みかん割り材		4.8				クスギ節	12	4	3.00	
5D	T053	半割材		3.2				クスギ節	18	21	0.86	
5D	T054	みかん割り材		2.5				クスギ節	-	-	-	
5D	T055	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T056	みかん割り材		5.8				クスギ節	-	-	-	

表1 炭化材観察表(6)

遺構	遺物番号	木取り	タイプ	残存径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	樹皮	樹種	放射径(mm)	年輪数	年輪幅平均(mm)	備考
5D	T057	細片		計測不可能				クスギ節	9	9	1.00	
5D	T058	半割材		2.5				クスギ節	11	12	0.92	
5D	T059	細片		計測不可能				クスギ節	16	16	1.00	
5D	T060	細片		計測不可能				クスギ節	18	14	1.29	
5D	T061	細片		計測不可能				クスギ節	16	16	1.00	
5D	T062	細片		計測不可能				不可	-	-	-	
5D	T063	細片		計測不可能				クスギ節	12	12	1.00	
5D	T064	みかん割り材		2.2				クスギ節	20	14	1.43	
5D	T065	みかん割り材		1.6				クスギ節	11	11	1.00	
5D	T066	みかん割り材		2.8				クスギ節	14	20	0.70	
5D	T067	丸木材		6.4				クスギ節?	-	-	-	
5D	T068	細片		計測不可能				クスギ節	13	18	0.72	
5D	T069	細片		計測不可能				広葉樹A	-	-	-	
5D	T070	丸木材		10.4				クスギ節	14	19	0.74	
5D	T071	みかん割り材		2.8				クスギ節	-	-	-	
5D	T072	みかん割り材		2.4				クスギ節	23	23	1.00	
5D	T073	みかん割り材		2.4				クスギ節	22	16	1.38	
5D	T074	みかん割り材		2.6				クスギ節	16	10	1.60	
5D	T075	半割材		3.2				クスギ節	12	14	0.86	
5D	T076	細片		計測不可能				クスギ節	6	9	0.67	
5D	T077	半割材		1.8				クスギ節	12	16	0.75	
5D	T078	丸木材		5.0				クスギ節	11	15	0.73	
5D	T079	丸木材		3.0				クスギ節	16	16	1.00	
5D	T080	細片		計測不可能				クスギ節	10	8	1.25	
5D	T081	細片		計測不可能				クスギ節	14	14	1.00	
5D	T082	細片		計測不可能				クスギ節	14	8	1.75	
5D	T083	細片		計測不可能				クスギ節	16	11	1.45	
5D	T084	柱目材			2.8	1.5		クスギ節	-	-	-	
5D	T085	みかん割り材		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T086	みかん割り材		2.5				クスギ節	10	14	0.71	
5D	T087	細片		計測不可能				不可	-	-	-	
5D	T088	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	推定直径2.5cm 小枝
5D	T089	半割材		1.4				クスギ節	15	18	0.83	
5D	T090	丸木材		4.4				クスギ節	11	19	0.58	
5D	T091	細片		計測不可能				ハンノキ属	-	-	-	
5D	T092	丸木材		1.6				クスギ節	10	15	0.67	
5D	T093	細片		計測不可能				クスギ節	10	7	1.43	
5D	T094	細片		計測不可能				樹皮	-	-	-	厚み7mm
5D	T095	丸木材		2.4				クスギ節	11	13	0.85	
5D	T096	丸木材		3.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T097	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T098	丸木材		2.0				クスギ節	11	14	0.79	
5D	T099	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T100	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T101	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T102	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T103	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T104	半割材		3.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T105	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T106	細片		計測不可能				クスギ節	11	6	1.83	
5D	T107	細片		計測不可能				クスギ節	10	9	1.11	
5D	T108	みかん割り材		2.0				クスギ節	12	12	1.00	
5D	T109	みかん割り材		1.8				クスギ節	20	17	1.18	
5D	T110	みかん割り材		2.5				クスギ節	-	-	-	
5D	T111	丸木材		1.6				クスギ節	11	8	1.38	
5D	T112	細片		計測不可能				クスギ節	15	12	1.25	
5D	T113	丸木材		6.4				クスギ節	19	17	1.12	
5D	T114	みかん割り材		2.8				クマノミズキ類	-	-	-	
5D	T115	みかん割り材		3.0				クスギ節	13	14	0.93	
5D	T116	細片		計測不可能				クスギ節	20	11	1.82	
5D	T117	丸木材		5.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T118	丸木材		2.4				クスギ節	-	-	-	
5D	T119	細片		計測不可能				ケヤキ	-	-	-	
5D	T120	みかん割り材		2.0				クスギ節	18	15	1.20	
5D	T121	丸木材		5.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T122	みかん割り材		2.8				クスギ節	15	19	0.79	
5D	T123	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T124	みかん割り材		2.0				環孔材	-	-	-	保存悪い
5D	T125	みかん割り材		3.2				クスギ節	15	12	1.25	
5D	T126	細片		計測不可能				クスギ節	8	8	1.00	
5D	T127	みかん割り材		1.5				クスギ節	15	13	1.15	
5D	T128	丸木材		2.4				クスギ節	7	10	0.70	
5D	T129	みかん割り材		1.5				クスギ節	18	7	2.57	
5D	T130	丸木材		2.4				クスギ節	13	10	1.30	
5D	T131	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T132	半割材		4.5				クスギ節	28	16	1.75	
5D	T133	半割材		3.6				クスギ節	-	-	-	
5D	T134	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T135	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T136	細片		計測不可能				クスギ節	12	17	0.71	
5D	T137	細片		計測不可能				クスギ節	20	22	0.91	
5D	T138	丸木材		4.8				クスギ節	11	13	0.85	
5D	T139	細片		計測不可能				クスギ節	22	23	0.96	
5D	T140	細片		計測不可能				クマノミズキ類	-	-	-	
5D	T141	みかん割り材		2.4				クスギ節	20	15	1.33	
5D	T142	みかん割り材		1.5				クスギ節	20	19	1.05	
5D	T143	みかん割り材		1.0				クスギ節	11	15	0.73	
5D	T144	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T145	丸木材		6.0				クスギ節	-	-	-	
5D	T146	細片		計測不可能				クスギ節	11	12	0.92	
5D	T147	みかん割り材		2.2				クスギ節	12	13	0.92	
5D	T148	細片		計測不可能				クスギ節?	-	-	-	
5D	T149	みかん割り材		2.2				クスギ節	18	18	1.00	
5D	T150	細片		計測不可能				クスギ節	15	11	1.36	
5D	T151	丸木材		5.0				クスギ節	16	14	1.14	
5D	T152	みかん割り材		3.0				クスギ節	21	19	1.11	
5D	T153	丸木材		2.4				クスギ節	-	-	-	
5D	T154	丸木材		8.2				コナラ亜属(コナラ節?)	-	-	-	
5D	T155	細片		計測不可能				クスギ節	-	-	-	
5D	T156	みかん割り材		1.2				クスギ節	13	11	1.18	
同定数	154点											クスギ節： 平均年輪幅 1.14mm

トチノキ・サワフタギ節・トネリコ属の落葉広葉樹14分類群，アカガシ亜属・シキミの常緑広葉樹2分類群，分類群を特定できなかった広葉樹A，タケ亜科とススキ属の単子葉類2分類群の計20分類群が検出された。このほかに保存が悪く分類群を特定できなかった環孔材，樹皮，同定不可があった。

大きな傾向として古墳時代初頭の5軒（3D・11D・19D・20D・22D）と平安時代の1軒（5D）は，クヌギ節が圧倒的に多く，そのほかに複数の樹種が少数産出した。このような結果から，古墳時代初頭と平安時代の住居内の樹種利用には共通性が高く，時代による変化はほとんど見られなかった。強いて相違点を上げるならば，針葉樹のモミ属と常緑広葉樹のアカガシ亜属・シキミが古墳時代初頭の住居跡から検出されたが，平安時代の住居跡からは針葉樹と常緑広葉樹は検出されなかった点である。しかし平安時代の住居跡出土の炭化材は，古墳時代初頭の住居跡と比較して材の保存状態が悪いため，樹種によっては保存されにくく，検出されるには至らなかった可能性がある。クヌギ節以外ではハンノキ亜属が，古墳時代初頭と平安時代の5住居跡から共通して検出された。それ以外の樹種は，共通性は低く住居跡ごとに異なる傾向が見られた。

古墳時代初頭の9D住居跡は，他の住居跡と同様にクヌギ節が多いものの，試料数ではハンノキ亜属とトネリコ属の点数がクヌギ節を上回りやや異なる傾向がみられた。しかしこれは，9Dの住居跡内のごく一部分のみに炭化材が残存していたため，全体の樹種利用の傾向よりも一部分の樹種構成が強くなった可能性もある。

クヌギ節の年輪幅

クヌギ節（クヌギかアベマキ）は，現生では関東地方の自然植生である照葉樹林や落葉広葉樹林の中に生育しているか，開発や災害などで破壊された跡地に成立する二次林で主要樹種として生育していることが多い。弥生時代以降，遺跡周辺で二次林が成立したといわれているが（千野1991），当遺跡で圧倒的に多く使用されていたクヌギ節の材は，天然林と二次林のどちらに生育していたものを利用しているかは不明である。二次林の光環境の良い環境で育つ個体は，天然林で育つ個体よりも成長が良いと考えられている。そこで，成長度を比較するために年輪幅を記録した。

しかし，住居内から出土した炭化材は部位の不明な破片がほとんどであり，材の中心から樹皮までの年輪幅を計測できていないため今回の数値から結論は出せないが，今後の資料蓄積と参考資料となることを目的に行った。表4に各住居跡出土の炭化材の最小年輪幅・最大年輪幅・平均年輪幅の値を記した。

古墳時代初頭の6軒から出土した炭化材の平均年輪幅は，1.31mm～2.47mmの範囲内であった。平安時代の1軒から出土した炭化材の平均年輪幅は，1.14mmであった。今後天然林と二次林に生育する現生のクヌギ節の平均年輪幅がどの位であるかデータを比較していく必要があるが，身近な材では5mm前後が多いように思える。それに比べると本試料の年輪幅の数値は，炭化材が熱で収縮していることを考慮してもかなり狭いと思われる。つまり，単純に平均年輪幅のみを考慮すると，成長速度が遅く，生育条件の悪い森林に生育していたことが考えられる。

このデータの評価は，今後も同様な調査事例の増加を待ち，検討してゆく必要がある。

炭化材の出土位置と樹種との関連

樹種同定された材は出土時に個体ごとに試料番号が付けられたものである。そのため，出土位置やその後の形態観察によって同一材と推定出来る材が少なくない。こうした材はグルーピングして，図上に示した（図1～3）。クヌギ節に関しては，密に分布しているためグルーピングを行わなかった。その結果，9Dを除いて，クヌギ節以外の樹種の産出数は1～3点と少ない。この数から，クヌギ節が選択

表2 各住居跡の樹種組成

樹種	時期・遺構		古墳時代初頭				平安時代	合計
	3 D	9 D	11D	19D	20D	22D	5 D	
モミ属					1	4		5
クスギ節	66	11	157	37	59	48	145	523
ハンノキ属			2		1		1	4
ハンノキ亜属	3	17	1		5		1	27
ケヤキ					1		1	2
クリ					3			3
サワフタギ節						1	2	3
アカガシ亜属						1		1
トチノキ						1		1
コナラ亜属(コナラ節?)							1	1
広葉樹A							1	1
イヌシデ節		3						3
キハダ		2						2
トネリコ属		15						15
ヤマグワ?			3					3
サクラ属	1							1
シキミ				1				1
タケ亜科			1					1
ススキ属				1		1		2
環孔材							1	1
樹皮							1	1
同定不可	1	1					2	4
合計	71	49	164	39	70	56	156	605

試料番号を1としてカウントした

ススキ属とタケ亜科は集積を1としてカウントした

11DT125からはハンノキ属とクスギ節が検出されたので11Dの合計は1点多い164となっている

的に利用されていたことがわかる。

出土位置から炭化材の性格を検討すると、大きく分類して建築材と推定できる2つのタイプの材がある。ひとつは梁や桁などと考えられる住居のプランに平行して出土した材、もうひとつは垂木や柱などと考えられるプランに対して直交ないし中心にむかって放射方向に出土した材である。もっとも材の保存状況が良好な11Dでは、方向性をもって出土した材として直交方向にやや大きいヤマグワ?の丸木材が1個体出土したものの、前者後者共にクヌギ節が優占しており、部材の区別なくクヌギ節が選択的に利用されたことがわかる。他の住居跡もクヌギ節が部材の区別なく選択的に用いられている。しかし、9Dのみハンノキ亜属とトネリコ属が多産した。図1のように住居跡のプランと並行して建築材と推定されるハンノキ亜属の材が出土している。出土位置と木取り、形状から同一材と推定できる材をまとめていくと、クヌギ節とハンノキ亜属とトネリコ属はほぼ同数の出土となったが、クヌギ節は小木が多く、他の2分類群に対して材積量が少なかった。9Dのみ他の住居跡と材選択の傾向が異なるといえる。

その他の住居跡内出土材には、一定の方向性を持った材でその他の構成部材や木製品などと考えられる材や、屋根材か壁材と考えられる単子葉類であると現場調査段階で判断された材がある。

単子葉類では、ススキ属(いわゆる茅)が2軒から、タケ亜科が1軒から集積した状況で産出したが、取り上げ後の状況では性格を判断することができなかった。

木取りと樹種との関連

各住居跡の木取りと樹種の傾向を表3に示す。大きな傾向としてクヌギ節は丸木をはじめ、みかん割り材・角材・板目材・柁目材などとさまざまな木取りで使用されていたのに対し、その他の材は丸木材とみかん割り材が主に用いられていた。特に角材はクヌギ節のみにみられた傾向で、加工痕の残存するものも含まれていた。ただし、みかん割り材はその産出状況から焼失時や埋没過程で自然に割れたものと人為的に割られたものと明確に区別できないものが多く含まれていたため、実際は丸木材が多い可能性がある。

木取りのバリエーションの豊富さから、加工する樹種としてはクヌギ節が選択的に利用されていた。

材組織記載

モミ属 *Abies* マツ科 写真図版1 1a~1c (22D T31)

仮道管・放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁には単壁孔が目立ち、接線壁には数珠状肥厚がある。放射組織の上下端に放射仮道管は認められない。分野壁孔は小型である。放射組織の細胞高は比較的高い。

広葉樹A broad-leaved tree A 写真図版1 2a~2c (5D T69)

小型の管孔が単独または2~4個が放射方向に複合して散在し、年輪界はやや不明瞭な散孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は階段穿孔で階段数は不明、内腔にはらせん肥厚が密にある。放射組織はほぼ同性、1~3細胞幅、細胞高は比較的高い。

モチノキ属に類似するが、細胞幅の広い放射組織は不明で、横断面において管孔の分布数や配列もやや異なるように思える。

クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 写真図版1 3a~3c (9D T37)

放射組織が集合する部分と2~数個の小型の管孔が放射方向に複合し配列する部分とがある散孔材。

表3 各住居跡出土炭化材の木取りと樹種

3 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
クスギ節	2	3	3	4	1	7	3	43	66
ハンノキ亜属							1	2	3
サクラ属	1								1
同定不可						1			1
合計	3	3	3	4	1	8	4	45	71
9 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
クスギ節	3					3		5	11
ハンノキ亜属	7		4					6	17
イヌシデ節								3	3
キハダ			1					1	2
トネリコ属	4		5					6	15
同定不可								1	1
合計	14	0	10	0	0	3	0	22	49
11 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
クスギ節	6	2	21	13		9	3	103	157
ハンノキ属								2	2
ハンノキ亜属	1								1
ヤマグワ?	2							1	3
タケ亜科	1								1
合計	10	2	21	13	0	9	3	106	164
19 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
クスギ節	2		24	1		1		9	37
シキミ								1	1
ススキ属								1	1
合計	2	0	24	1	0	1	0	11	39
20 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
モミ属								1	1
クスギ節	4	3	19	1		4	5	23	59
ハンノキ属								1	1
ハンノキ亜属		1	2					2	5
ケヤキ							1		1
クリ			1				1	1	3
合計	4	4	22	1	0	4	7	28	70
22 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
モミ属								4	4
クスギ節		1	4			1		42	48
アカガシ亜属								1	1
サワフタギ節	1								1
トチノキ								1	1
ススキ属								1	1
合計	1	1	4	0	0	1	0	49	56
5 D									
樹種/木取り	丸木材	半割材	みかん割り材	角材	削り出し	桁目材	板目材	細片	合計
クスギ節	26	9	46			1		63	145
ハンノキ属								1	1
ハンノキ亜属								1	1
ケヤキ	1								1
サワフタギ節			1					1	2
コナラ亜属(コナラ節?)	1								1
広葉樹A								1	1
環孔材			1						1
樹皮								1	1
同定不可								2	2
合計	28	9	48			1	0	70	156

木取りに?とした材もそれぞれの木取りの数に含めた

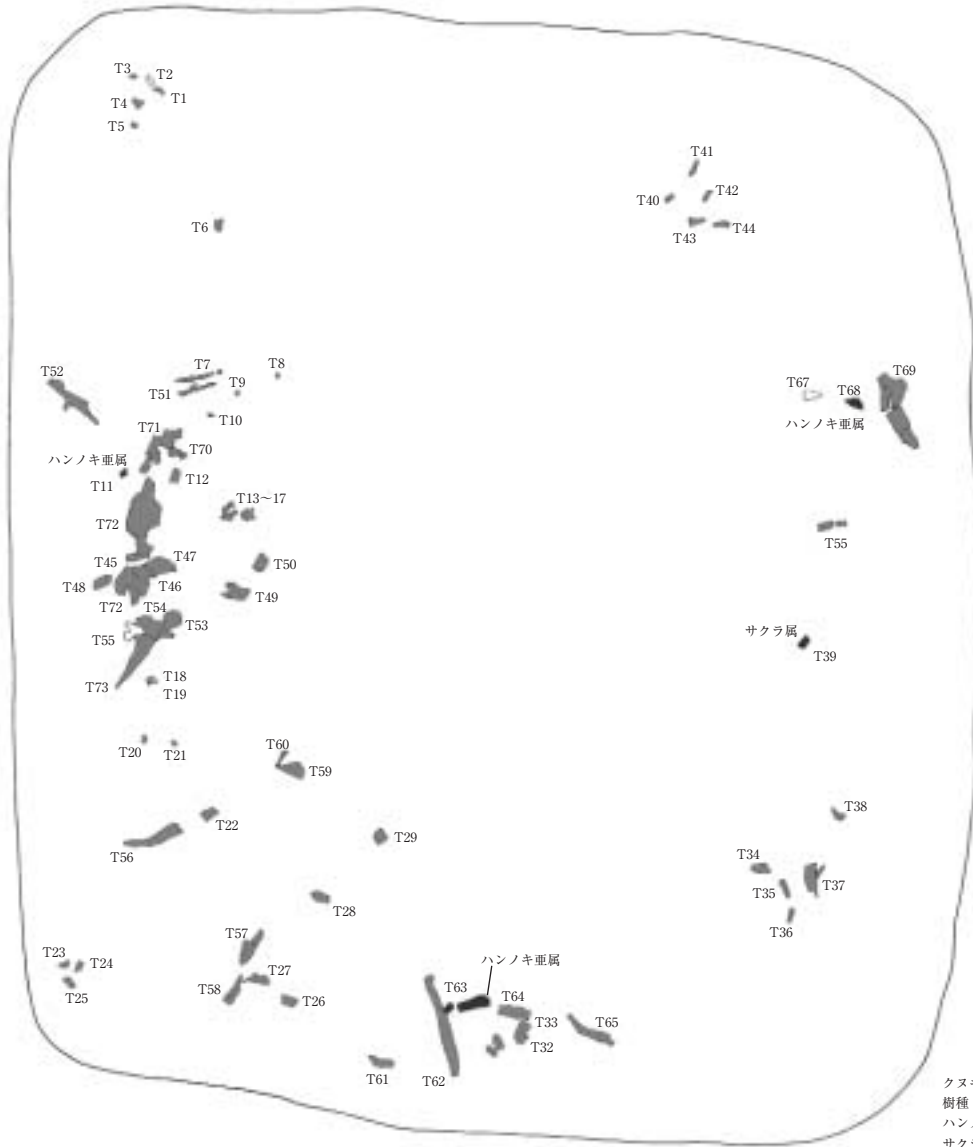
板目材, 板目板, 板目材片などはすべて板目材に統一してカウントした(桁目材も同様)

試料番号を1としてカウントした

ススキ属とタケ亜科は集積を1としてカウントした

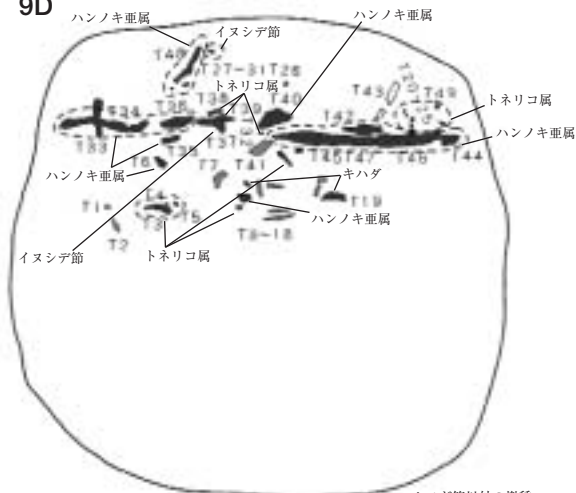
図 1

3D



クスギ節以外の樹種
 樹種・最小個体数・試料数
 ハンノキ亜属 3 3
 サクラ属 1 1

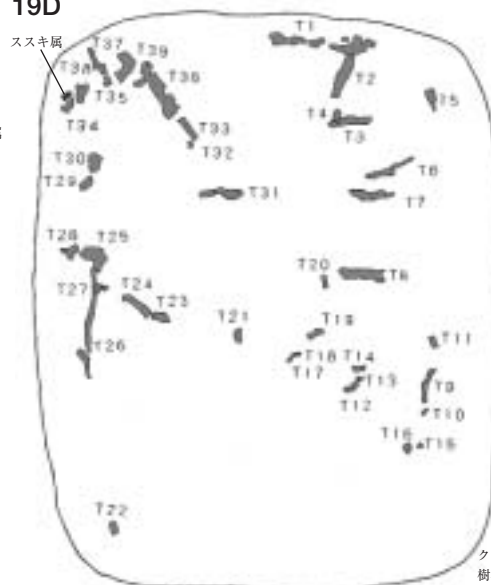
9D



クスギ節以外の樹種
 樹種・最小個体数・試料数
 ハンノキ亜属 10 17
 イヌシデ節 2 3
 キハダ 2 2
 トネリコ属 7 15
 同定不可 1 1

■ クスギ節 (クスギ節?を含む)
 ■ その他樹種
 □ 同定不可・欠番・樹皮・環孔材
 ○ クスギ節以外の樹種で出土状況から同一材と推定できる材

19D



クスギ節以外の樹種
 樹種・最小個体数・試料数
 シキミ 1 1
 ススキ属 1 1

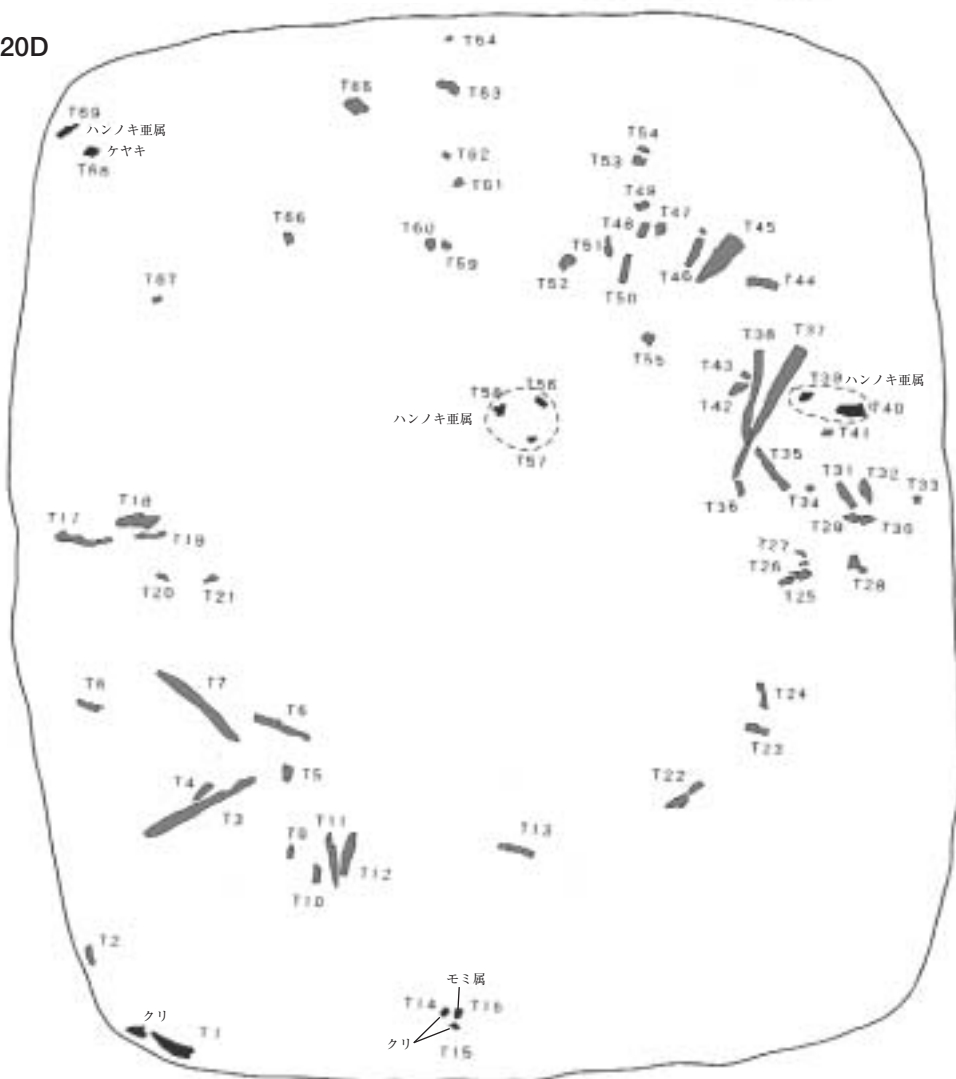
11D



クスギ節以外の樹種
樹種・最小個体数・試料数

ハンノキ属	1	1
ハンノキ亜属	1	1
ヤマグワ?	1	3
タケ亜科	1	1

20D



クスギ節以外の樹種
樹種・最小個体数・試料数

モミ属	1	1
ハンノキ属	1	1
ハンノキ亜属	3	5
ケヤキ	1	1
クリ	3	3

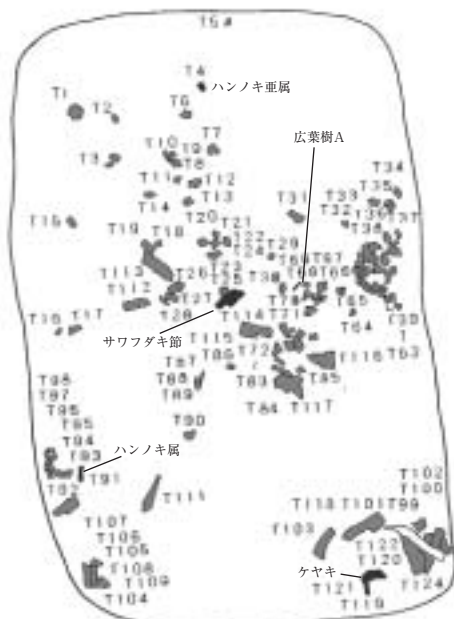
図 3



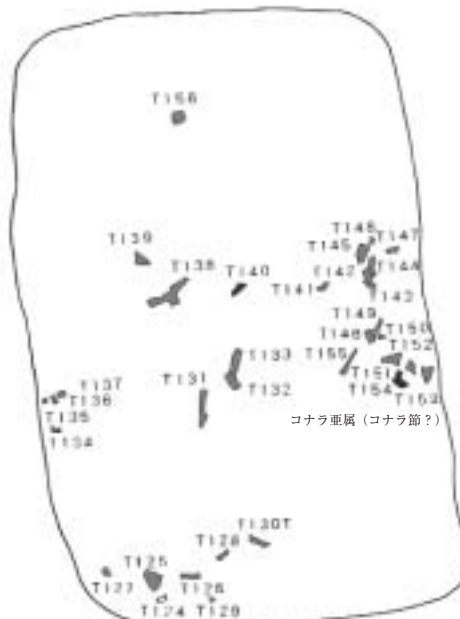
クスギ節以外の樹種
樹種・最小個体数・試料数

モミ属	2	4
アカガシ亜属	1	1
サワフダキ節	1	1
トチノキ	1	1
ススキ属	1	1

5D-1



5D-2



クスギ節以外の樹種
樹種・最小個体数・試料数

ハンノキ属	1	1
ハンノキ亜属	1	1
ケヤキ	1	1
サワフダキ節	1	2
コナラ亜属 (コナラ節?)	1	1
広葉樹A	1	1
環孔材	1	1
樹皮	1	1
同定不可	2	2

道管の壁孔は小型で交互状に密在，穿孔は単穿孔，内腔の一部にかすかならせん肥厚が認められたがほとんど不明である。放射組織はほぼ同性，1～2細胞幅，道管との壁孔はやや大きい。集合放射組織があり，穿孔も単穿孔であることから，イヌシデ節と同定した。

クマシデ属は暖帯および温帯の山地に生育する落葉高木または大形低木であり，そのうちイヌシデ節には山野に普通のイヌシデとアカシデと乾いた山稜に生育するイワシデがある。

ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 写真図版2 4a～4c (11D T152)

集合状の放射組織の帯を挟み，小型の管孔が放射方向に2～数个複合し多く散在する散孔材。道管の壁孔は交互状，穿孔は横棒数が20～30本ほどの階段穿孔である。放射組織は同性，単列と集合状があり，道管との壁孔は小さく交互状に密在する。

ハンノキ亜属は暖帯から亜寒帯の陽光地に生育する落葉樹で7種が含まれる。低地の湿地に普通のハンノキ，川岸に生育するカワラハンノキ，山中に生育するミヤマカワラハンノキ・ヤハズハンノキ・ケヤマハンノキなどがある。材組織からこれらを識別することはできていない。ハンノキとケヤマハンノキは高木になり，材質は硬さ・重さは中庸，切削性に優れるが保存性は低い。

ハンノキ属 *Alnus* カバノキ科 写真図版2 5a～5c (11D T125)

前述のハンノキ亜属とはほぼ同様の材組織であるが，管孔の分布はやや疎らで，集合状放射組織は不明である。従って集合放射組織の出現が少ないヤシャブシ亜属の可能性が高いが，観察した試料の横断面は狭いのでハンノキ属の同定レベルに留めた。

なおヤシャブシ亜属は山地に生育する落葉小高木または低木で，寒帯から温帯上部に生育するミヤマハンノキ，暖帯から温帯の山中の痩せ地や崩壊地に生育するヤシャブシ・ヒメヤシャブシ・オオバヤシャブシがある。

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真図版2 6a～6c (22D T41)

集合放射組織を挟み小型～中型の単独管孔が放射方向に配列する放射孔材。道管の壁孔は小さく交互状，穿孔は単穿孔である。放射組織は同性，単列と広放射組織とがあり，道管との壁孔は孔口が大きく柵状・交互状である。

コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 写真図版3 7a～7c (11D T17) 8 (3D T9) 9 (11D T132)

年輪の始めに大型の管孔が主に1配列し，その後は小型・厚壁で孔口が円形の管孔が単独で放射方向に配列し，広放射組織をもつ環孔材。道管の壁孔は交互状，穿孔は単穿孔である。放射組織は同性，単列と集合状がある。

クヌギ節は落葉性のいわゆるナラ類で，そのうちのクヌギとアベマキが属する。いずれも暖帯の山林や二次林に多い。

コナラ属コナラ亜属 (コナラ節?) *Quercus* subgen. *Quercus* (sect. *Prinus?*) ブナ科 写真図版3 10 (5D T154)

前述のクヌギ節と類似した環孔材で，広放射組織も認められた。しかし，孔圏外の小型管孔は非常に径が小さく火炎状に配列しコナラ節の管孔配列に似ていたが，小型管孔の壁はやや厚い。コナラ節に類

似していたが、保存が悪く小破片であるためコナラ亜属の同定に留めた。

コナラ節は暖帯から温帯に生育し二次林にも多い落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真図版3 11a~11c (20D T1)

年輪の始めに大型の管孔が密に1~3層ほど配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状・柵状である。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真図版4 12a~12c (20D T68)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、その後は小型の管孔が多数集合して接線状・斜状・塊状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~5細胞幅の紡錘形、上下端や縁に大型の結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

ヤマグワ? *Morus australis* Poiret? クワ科 写真図版4 13a~13c (11D T42)

11DT42と11DT44は、1年輪を含まない破片で、年輪幅は広いようである。中型の管孔が単独や2~数個が複合して散在し、小型の管孔も混在している。道管の壁孔はやや大きくて交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~5細胞幅の紡錘形、平伏細胞と方形細胞が混在し、道管との壁孔は大きく交互状に配列している。このような形質から、ヤマグワの晩材部と思われる。なお、11DT43は2年輪ある破片で、年輪始めの管孔はやや大きい事が確認された。

サクラ属 *Prunus*バラ科 写真図版4 14a~14c (3D T39)

小型の管孔が単独や複合してやや密に分布し、年輪界でやや径が減少する散孔材。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~4細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 写真図版5 15a~15c (9D T10)

年輪の始めに大型の管孔が1~3層配列し、孔圏外では小型の管孔が多数複合して斜状・接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は同性、主に3~4細胞幅で細胞高も揃った紡錘形である。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 写真図版5 16a~16c (22D T47)

小型の管孔が単独または2~数個が複合して均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔はやや大きい。

シキミ *Illicium anisatum* L. シキミ科 写真図版5 17a~17c (19D T18)

非常に小型で多角形の管孔が密に分布し、年輪始めの管孔は放射方向にやや長く伸びて大きい散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、1~2細胞幅、2細胞幅部分は平伏細胞からなり、直立細胞は接線断面において大きなレンズ形を呈し、道管

との壁孔は交互状・階段状である。

サワフタギ節 *Symplocos* sect *Palura* ハイノキ科 写真図版 6 18a~18c (5D T140)

小型の管孔が主に単独で均一に分布する散孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は横棒数が多い階段穿孔である。放射組織は異性、主に2細胞幅、多列部は平伏細胞からなり上下端に方形・直立細胞が単列で伸び、平伏細胞から方形・直立細胞への移行は明瞭である。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 写真図版 6 19a~19c (9D T5)

中型の管孔が1~2層配列し、その後は主に放射方向に2~3個が複合した小型で厚壁の管孔が散在する環孔材。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、1~2細胞幅である。

タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 写真図版 6 20 (11D T8)

節があり、直径約1cmの稈である。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置し、維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が発達している。特に稈の外周に位置する維管束鞘は非常に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在し、稈を堅く支持している様子がわかる。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であり、稈が直立するタケ類の可能性が高い。

タケ亜科は12属が含まれ、中国や東南アジアから移入され栽培により広まったものが多い。ササ類は多くの野生種があり、タケ類ではハチク・マダケは日本に野生していた可能性があるといわれる。稈の破片や組織のみからは属や種を識別することは難しい。

ススキ属 *Miscanthus* イネ科 写真図版6 21 (19D T38)

直径5mmの草本性の稈で、同様な稈が不規則に集積していた。稈の外周には厚い厚壁細胞層に囲まれた維管束が1~2層あり、それより内側に散在する維管束の周囲の厚壁細胞層は薄い。

ススキ属は大型になる多年草で一般にはカヤ(茅)と呼ばれ、約7種ある。日本全土の平地から山地の陽地に普通に見られ刈って屋根を覆う材料とされてきたススキ、北海道から九州の湿地に生育するオギ、東北南部から近畿北部の山中の陽地に生育するカリヤス、関東南部以西の堤防の草地に生育するトキワススキなどがある。現時点では稈の組織から種を識別することはできていない。

(4) まとめ

古墳時代初頭の6軒と平安時代1軒の住居跡から出土した炭化材約600点を樹種同定した結果、クヌギ節が最も多く利用されていた。樹種による残りやすさの違いというバイアスや、炭化材が焼失時あるいは埋没過程で割れて同じ部材を重複して数えている可能性もあるが、単純に材積量からみてもクヌギ節は圧倒的に多かった。当遺跡の産出樹種の特徴として、クヌギ節ほど多くはないがハンノキ亜属(ハンノキ属)が5軒の住居跡から産出したことがあげられる。そのほかに少数ではあるが、各住居跡から1~6分類群の広葉樹材が検出された。このような産出樹種の傾向は、当遺跡では古墳時代初頭と平安時代の住居跡に共通して見られることが明らかとなった。

また今回は木取りの観察を行ったが、クヌギ節は角材や板目材・柁目材・みかん割り材など木取りのバラエティに富み、加工痕が明瞭に残存している材が多かったのに対し、その他の材は丸木やみかん割り材が主体というようにクヌギ節とその他の材で差異がみられた。さらにクヌギ節の角材の中には建築

材と考えられる加工痕が残存している材もみられた。現生の材でみるとクヌギ材は通直に生育しやすいため、割りやすさと加工しやすさという面から選択利用されていたと考えられる。

また出土位置から壁材・垂木・桁などと推定される建築部材によって樹種の差異はみられなく、クヌギ節が優占した。構成部材によって樹種の違いがみられないことは、埼玉県朝霞市岡・向山遺跡の弥生時代後期の4号住居跡でも指摘されている（藤根1994）。また、壁材や屋根材と推定できる、タケ亜科とススキ属が同定できた。

今までに知られている関東地方の台地や丘陵では、縄文時代の建築材としてクリが頻繁に利用されるが、弥生時代や古墳時代になるとクリに代わってクヌギ節・コナラ節が多く産出し、奈良・平安時代では再びクリが多くなる傾向が知られている（千野1991, 藤根1994, 鈴木ほか1996, 藤根・植田2001, 植田2002など）。当遺跡では、古墳時代初頭の住居跡にクヌギ節が多く産出したことから関東地方の典型的な建築材の樹種利用の傾向と一致するが、平安時代もクヌギ節が多く利用されていた点では他の遺跡とやや異なる傾向であった。

時代による樹種利用の傾向が指摘される一方で、遺跡の位置や立地環境、そして同遺跡内でも住居跡によって異なる樹種選択がなされている事例がある。

古墳時代初頭と限定できる住居跡出土炭化材の同定例はほとんどないが、古墳時代前期の関東地方で地域ごとの樹種傾向をみると、群馬県南部を一部含み下総台地から武蔵野台地ではクヌギ節が多く、長野県、栃木県、群馬県、千葉県の一部ではコナラ節、千葉市付近の台地と多摩丘陵では常緑広葉樹が多い傾向があり、これは木材を選択入手していた遺跡周辺の植生を反映した結果と考えられている（千野1988, 1991）。

八千代市川崎山遺跡では、集落周辺の植生を直接示す自然木や花粉などのデータに欠けること、木製品などを含めて用材選択が明らかになっていないため周辺植生との比較は難しい。しかし、遺跡周辺の新川低地内に位置する千葉市内野第1遺跡ではボーリング調査の結果、縄文時代晩期～古墳時代頃とされる花粉分析の結果が得られている（鈴木2001）。また遺跡に近い勝田でボーリングコアに含まれる花粉分析が行われている（稲田ほか1999）。これらの花粉分析の結果を基に遺跡周辺の植生を推定すると、台地上でコナラ亜属を中心とした落葉広葉樹にアカガシ亜属を主体とした照葉樹林、スギを主体とした針葉樹林の分布が拡大し、低地部ではハンノキ属やトネリコ属などの湿地林は林分を狭めた時期とされている。内野第1遺跡の古墳時代前期の住居跡の建築材と考えられる炭化材の樹種同定では、4軒中、1軒はコナラ節、2軒はクヌギ節が優占し、残り1軒はコナラ節とクヌギ節の両方が優占していた（藤根・植田2001）。こうした花粉分析の結果から周辺植生では照葉樹林が拡大しているものの、川崎山遺跡や内野第1遺跡の住居材にアカガシ亜属などの常緑広葉樹がほとんど利用されていない。この結果のみからは、従来指摘されてきたような植生と樹種選択の対応関係が薄いともいえそうであるが、花粉分析を行った堆積物は14C年代のみで帰属年代を決定しているボーリング試料であるため、今後当地域で考古学の遺物層序に対応して帰属年代が明らかな花粉分析や自然木の分析を行い、対応関係を検討していく必要がある。また用材傾向として、川崎山遺跡では内野第1遺跡で多用されていたコナラ節はコナラ節？とした1点のみのため、同地域でも集落や時期によって用材に差がみられる原因は、今後の検討課題である。

住居跡の建築材の用材傾向から、弥生時代以降の関東地方にはクヌギ節が多く生育する二次林が拡大していたと解釈されている（千野1991）。しかし焼失住居跡の試料ではクヌギ節が多産する場合があるが、弥生時代中期の千葉市浜野川遺跡群の自然木や木製品（能城・鈴木1988・1989）、古墳時代前期の千葉市村田服部遺跡の自然木（鈴木・能城1985）、弥生時代終末から古墳時代初頭の茂原市国府関遺跡

の木製品（能城・鈴木1993）などに占めるクヌギ節の割合は、かえって少ない。したがって、必ずしも遺跡周辺に二次林が拡大していたのではなく、川崎山遺跡のような住居構築材には選択的にクヌギ節を利用していたと考えられる。

今回計測したクヌギ節の平均年輪幅は、古墳時代初頭のものは1.31～2.47mmであった。単純に計算して、10年間で2 cm程度の成長速度であるため、開けた陽のあたる空間にいち早く発芽し、成長速度が速い二次林的な環境下で生育していた材とは断定できないと思われる。山内（1985）は試料数が少ないものの、古墳時代の住居跡建築材のクヌギ材の平均年輪幅が1.5mmと1.9mmと極めて狭かったと指摘しているが、この要因は成長速度が遅くなる大径木の辺縁部の材を利用した可能性が高いのではないかと解釈している。

二次林的ではなく、成長速度の悪い材が生育する森林の有無を実証するためには、残りの良好な炭化材や低地遺跡で出土する自然材、遺跡周辺の植生を反映していると考えられる杭などの年輪数と径の大きさの関係を調査することによって、明確になっていくものと考えられる。

今後の課題として今回取り上げ後の炭化材の検討を行ったが、炭化材は取り上げ時に破損してしまうことが多いため、失われる情報も少なくない。こうした遺物に対しては、考古学調査側と自然科学分析側が連携して出土時におおよその樹種傾向や木取り、年輪数の記録を行った上で試料採取する必要がある。

集落の住居跡の建築材は、大きな材を利用し数量も多いことから、資材の供給源である遺跡周辺の森林の様相や、利用の継続による森林への影響などを理解する上で、今後も資料の蓄積が必要と思われる。住居跡の炭化材同定例は、近年やや増加しているものの地域ごとの用材選択については未だ不明な点が多い。こうした悉皆的な同定を行うことによって樹種選択の傾向が明らかになっていくと考えられる。

謝辞

炭化材の樹種同定にあたり、能城修一博士（森林総合研究所組織材質研究室）から有益な助言とご教示を頂きました。ここに記して感謝いたします。

引用文献

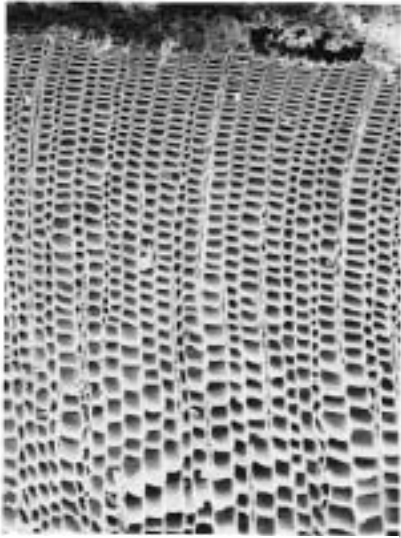
- 稲田 晃他 1999「八千代市勝田川低地における4500年前以降の植生変遷」『日本植生史学会第14回大会講演要旨集』 41-44
- 植田弥生 2002「加茂遺跡D地点竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定」『市原市加茂遺跡D地点』 192-198 図版100-105 財団法人 市原市文化財センター
- 鈴木 茂 2001「花粉化石」『千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書』第III分冊 190-201 財団法人千葉市文化財調査協会
- 鈴木三男・能城修一 1985「千葉市村田服部遺跡（古墳時代前期）出土木材の樹種」『Ann.Sci.Kanazawa Univ. Vol.22』 11-69
- 鈴木三男・能城修一・車崎正彦 1996「炭化材の樹種同定」『下戸塚遺跡の調査—早稲田大学安部野球場跡地埋蔵文化財調査報告書—第2部 弥生時代から古墳時代前期』早稲田大学埋蔵文化財調査室編 693-707 早稲田大学
- 千野裕道 1998「子ノ神遺跡出土の炭化物について」『子ノ神遺跡IV』 187-197 厚木市教育委員会
- 千野裕道 1991「縄文時代に二次林はあったか—遺跡出土の植物性遺物からの検討—」『研究論集 X』 214-249 東京都埋蔵文化財センター

- 能城修一・鈴木三男 1988「浜野川遺跡群出土木材の樹種」『千葉市浜野川遺跡群』 101-121 図版23-35 千葉県文化財センター
- 能城修一・鈴木三男 1989 「浜野川遺跡群出土木材の樹種・続報」『千葉市浜野川神門遺跡』 128-141 図版45-51千葉県文化財センター
- 能城修一・鈴木三男 1993 「国府関遺跡から出土した木製品の樹種」『千葉県茂原市国府関遺跡群』 285-306 図版71-85 千葉県茂原土地改良事務所 茂原市教育委員会 財団法人長生郡市文化財センター
- 藤根 久 1994「住居跡出土の炭化材樹種同定」『岡・向山遺跡』 156-167 埼玉県朝霞市教育委員会・朝霞市遺跡調査会
- 藤根 久・植田弥生 2001「出土木材の樹種」『千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書 第III分冊』 202-215 財団法人千葉市文化財調査協会
- 八千代市史編さん委員会 1986『八千代市の歴史 資料編 自然I』 八千代市
- 八千代市史編さん委員会 1998『八千代市の歴史 資料編 自然II』 八千代市
- 山内 文 1985「三番耕地遺跡の炭化材」『三番耕地・十八番耕地・十二番耕地・神山』 51-52 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

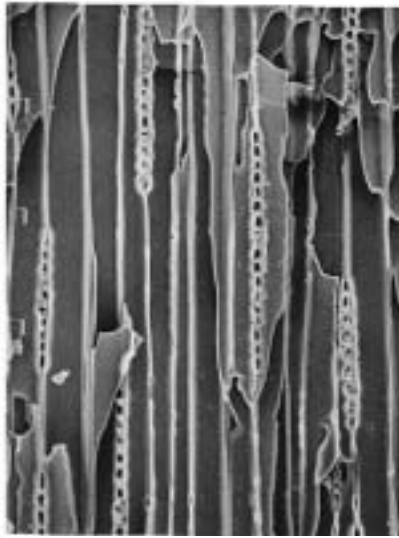
表4 住居跡出土クスギ節の年輪幅 (単位mm)

住居跡	最小値	最大値	平均値	時期
3D	0.61	3.00	1.31	古墳時代初頭
9D	0.50	5.00	2.47	古墳時代初頭
11D	0.52	6.50	1.39	古墳時代初頭
19D	0.50	3.00	1.32	古墳時代初頭
20D	0.77	4.60	1.90	古墳時代初頭
22D	0.46	3.33	1.38	古墳時代初頭
5D	0.58	3.00	1.14	平安時代

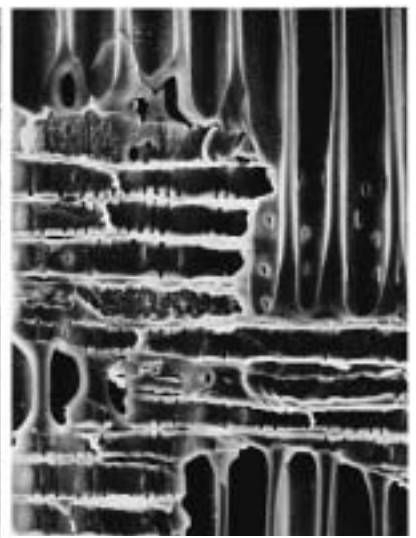
図版1 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



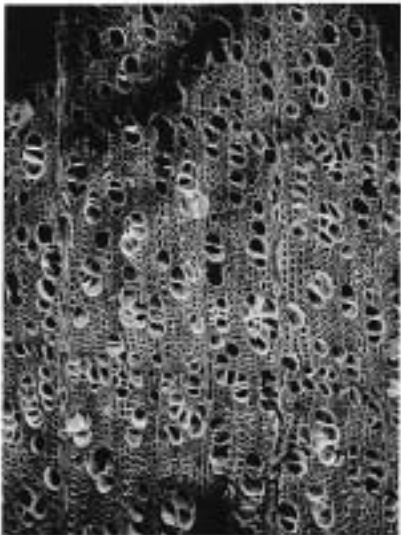
1a モミ属 (横断面)
22D T31 bar:0.5mm



1b モミ属 (接線断面)
22D T31 bar:0.1mm



1c モミ属 (放射断面)
22D T31 bar:0.1mm



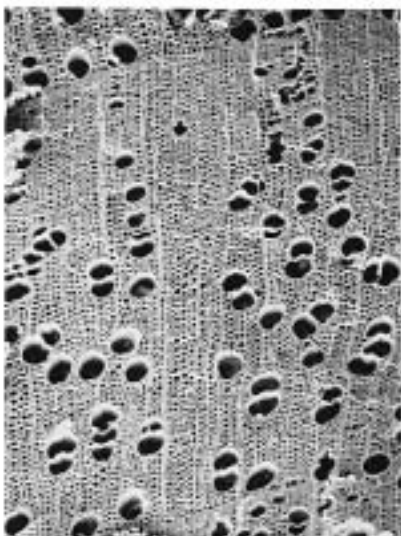
2a 広葉樹A (横断面)
5D T69 bar:0.5mm



2b 広葉樹A (接線断面)
5D T69 bar:0.1mm



2c 広葉樹A (放射断面)
5D T69 bar:0.1mm



3a イヌシデ節 (横断面)
9D T37 bar:0.5mm

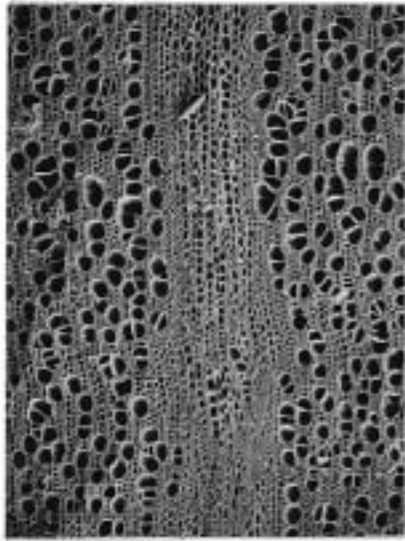


3b イヌシデ節 (接線断面)
9D T37 bar:0.1mm



3c イヌシデ節 (放射断面)
9D T37 bar:0.1mm

図版2 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



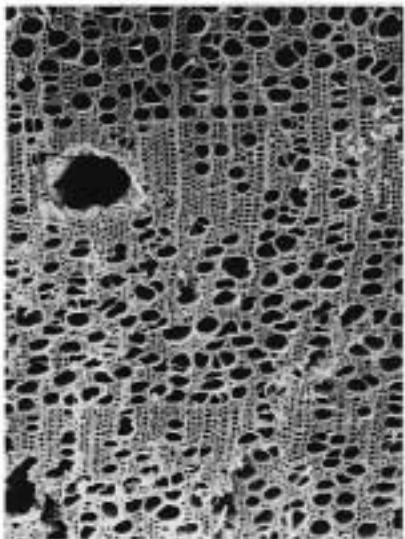
4a ハンノキ亜属 (横断面)
11D T152 bar:0.5mm



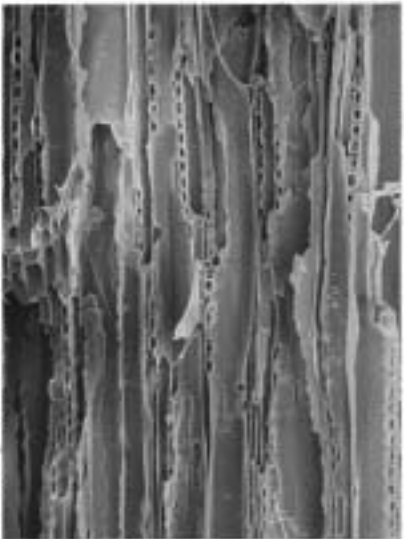
4b ハンノキ亜属 (接線断面)
11D T152 bar:0.1mm



4c ハンノキ亜属 (放射断面)
11D T152 bar:0.1mm



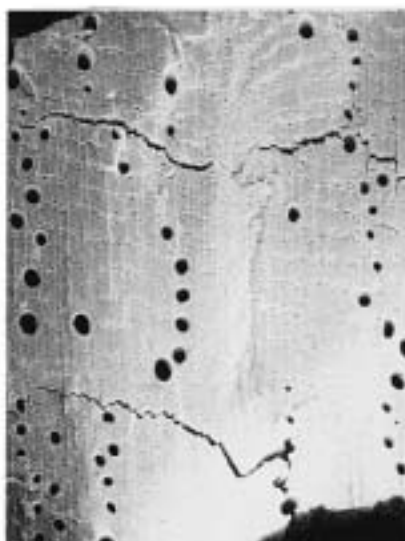
5a ハンノキ属 (横断面)
11D T125 bar:0.5mm



5b ハンノキ属 (接線断面)
11D T125 bar:0.1mm



5c ハンノキ属 (放射断面)
11D T125 bar:0.1mm



6a アカガシ亜属 (横断面)
22D T41 bar:1.0mm



6b アカガシ亜属 (接線断面)
22D T41 bar:0.1mm

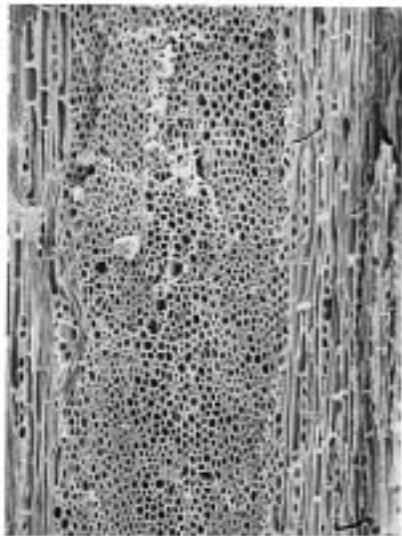


6c アカガシ亜属 (放射断面)
22D T41 bar:0.1mm

図版3 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



7a クスギ節 (横断面)
11D T17 bar:1.0mm



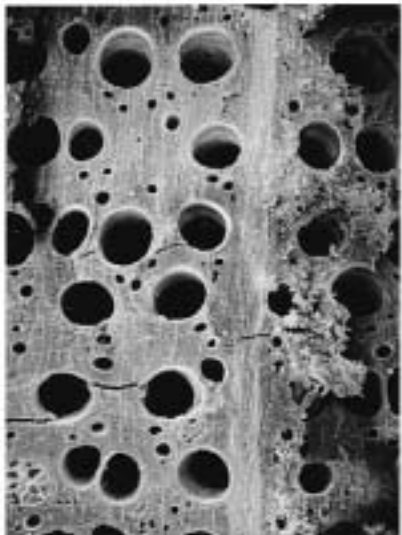
7b クスギ節 (接線断面)
11D T17 bar:0.1mm



7c クスギ節 (放射断面)
11D T17 bar:1.0mm



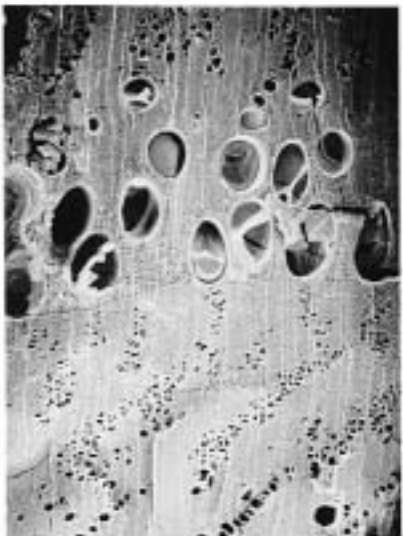
8 クスギ節 (横断面)
3D T9 bar:1.0mm



9 クスギ節 (横断面)
11D T132 bar:1.0mm



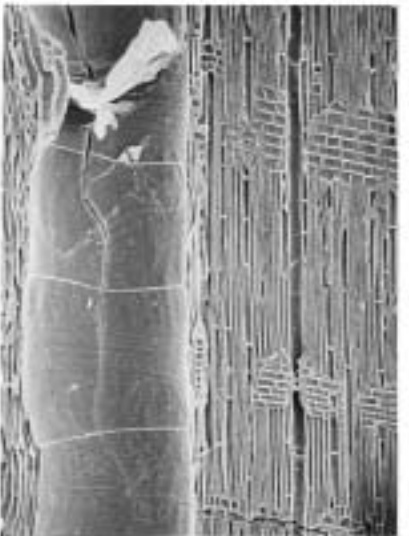
10 コナラ亜属 (コナラ節?) (横断面)
5D T154 bar:0.5mm



11a クリ (横断面)
20D T1 bar:1.0mm

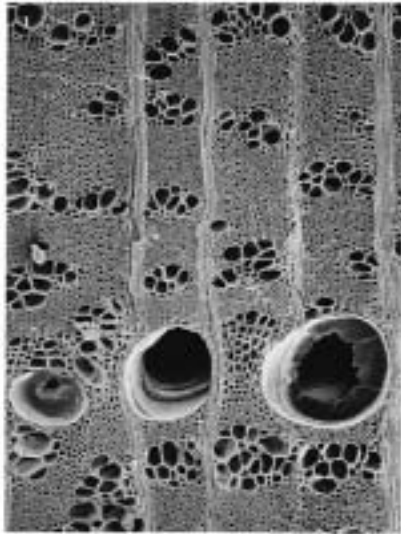


11b クリ (接線断面)
20D T1 bar:0.1mm



11c クリ (放射断面)
20D T1 bar:0.5mm

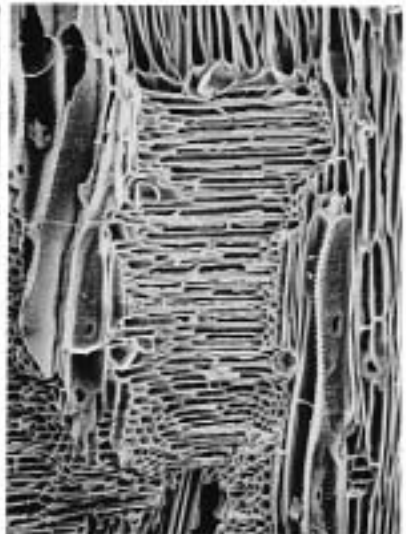
図版4 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



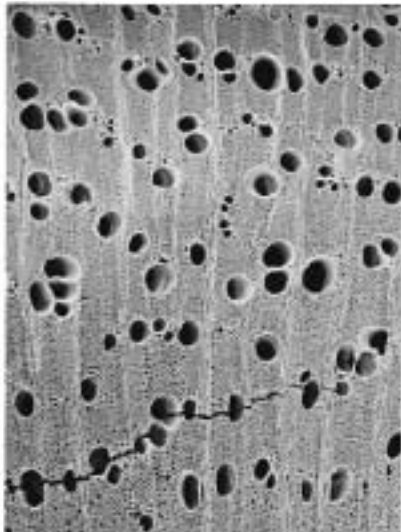
12a ケヤキ (横断面)
20D T68 bar:0.5mm



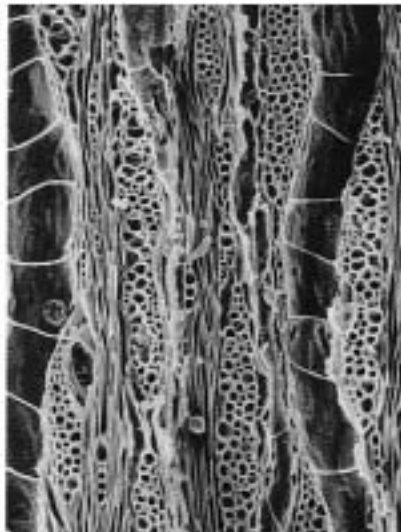
12b ケヤキ (接線断面)
20D T68 bar:0.1mm



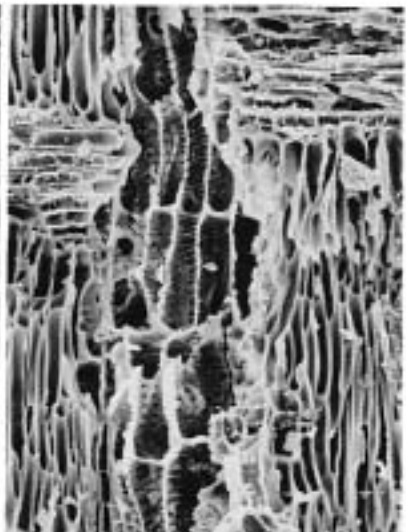
12c ケヤキ (接線断面)
20D T68 bar:0.1mm



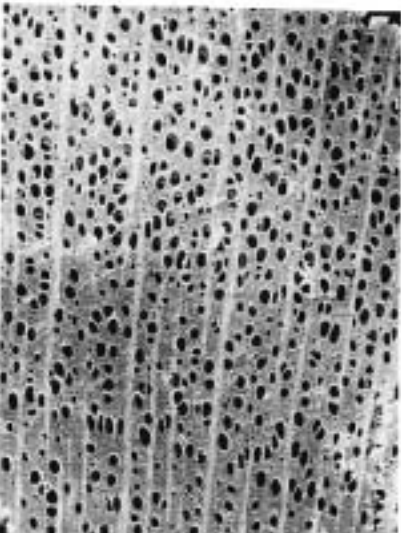
13a ヤマグワ? (横断面)
11D T42 bar:0.5mm



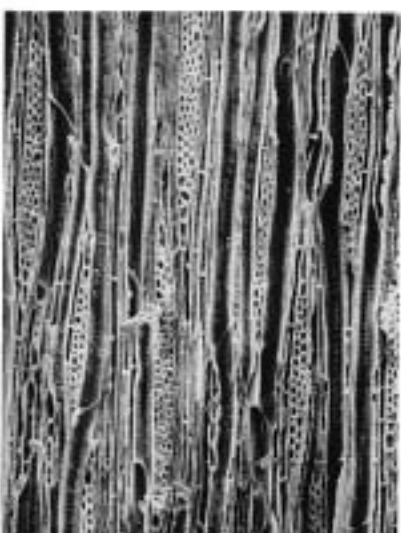
13b ヤマグワ? (接線断面)
11D T42 bar:0.1mm



13c ヤマグワ? (放射断面)
11D T42 bar:0.1mm



14a サクラ属 (横断面)
3D T39 bar:0.5mm

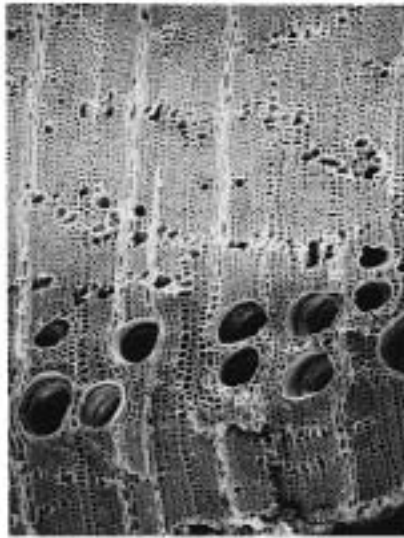


14b サクラ属 (接線断面)
3D T39 bar:0.1mm



14c サクラ属 (放射断面)
3D T39 bar:0.1mm

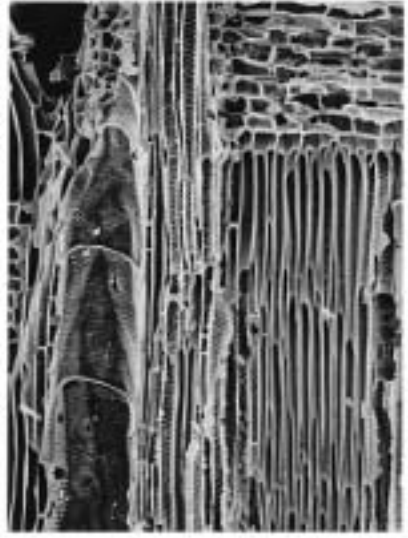
図版5 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



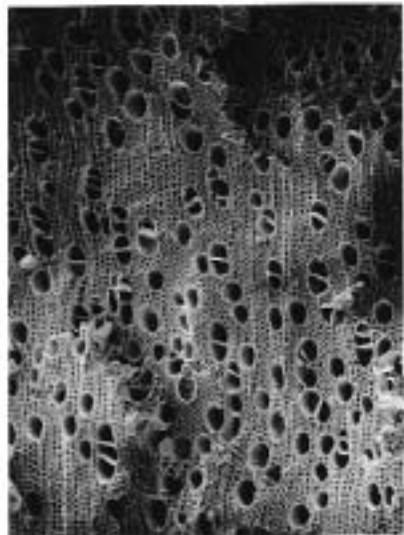
15a キハダ (横断面)
9D T10 bar:0.5mm



15b キハダ (接線断面)
9D T10 bar:0.1mm



15c キハダ (放射断面)
9D T10 bar:0.1mm



16a トチノキ (横断面)
22D T47 bar:0.5mm



16b トチノキ (接線断面)
22D T47 bar:0.1mm



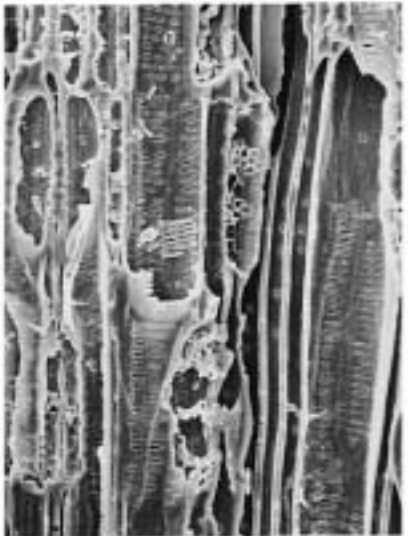
16c トチノキ (放射断面)
22D T47 bar:0.1mm



17a シキミ (横断面)
19D T18 bar:0.5mm

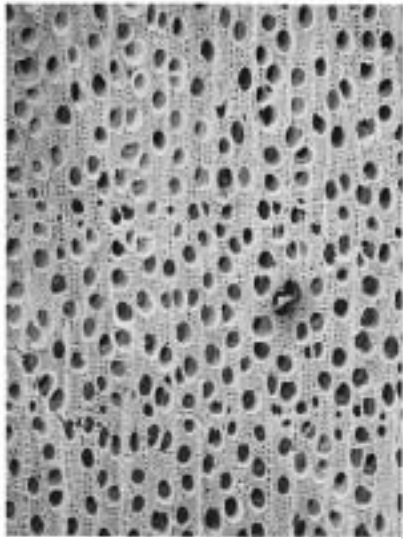


17b シキミ (接線断面)
19D T18 bar:0.1mm

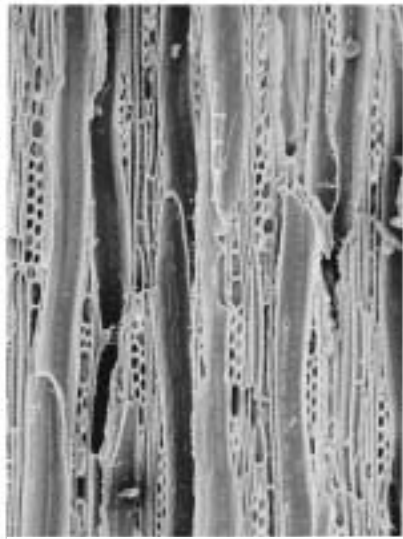


17c シキミ (放射断面)
19D T18 bar:0.1mm

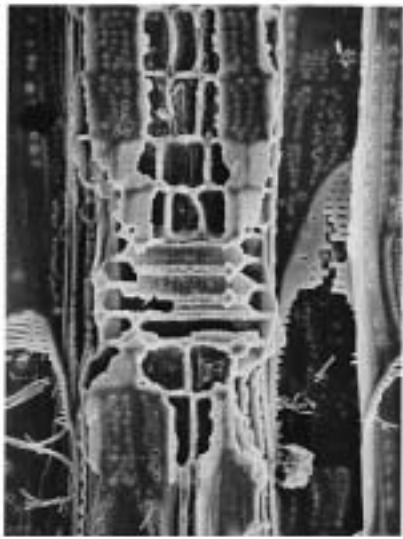
図版6 川崎山遺跡住居跡出土炭化材の走査電子顕微鏡写真



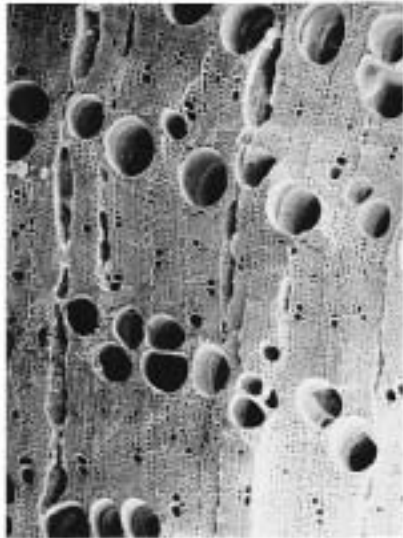
18a サワフタギ節 (横断面)
5D T140 bar:0.5mm



18b サワフタギ節 (接線断面)
5D T140 bar:0.1mm



18c サワフタギ節 (放射断面)
5D T140 bar:0.1mm



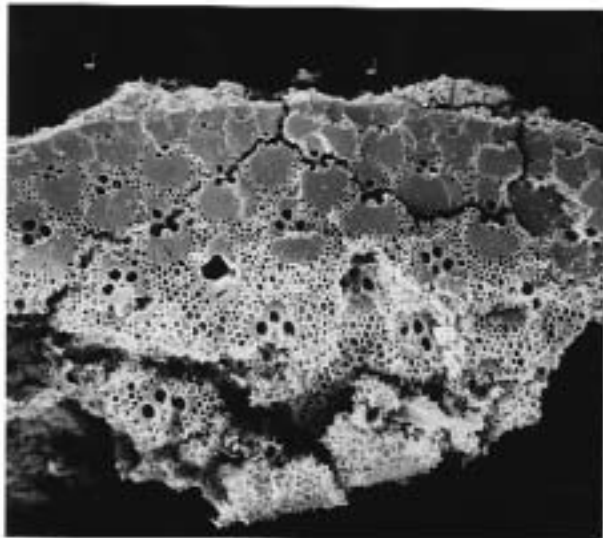
19a トネリコ属 (横断面)
9D T5 bar:0.5mm



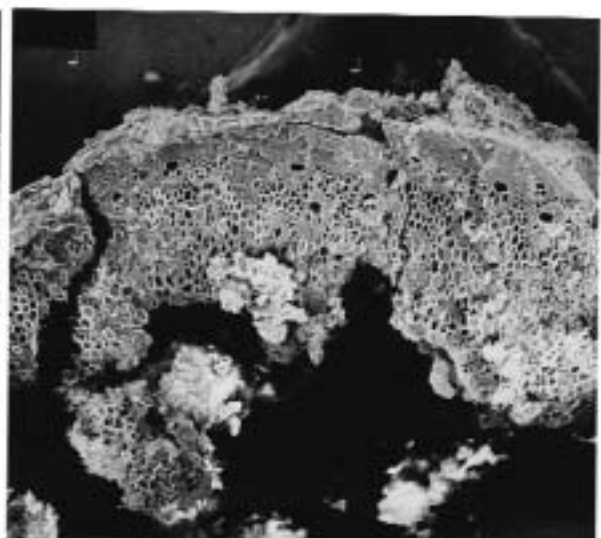
19b トネリコ属 (接線断面)
9D T5 bar:0.1mm



19c トネリコ属 (放射断面)
9D T5 bar:0.1mm



20 タケ亜科 (横断面)
11D T8 bar:1.0mm



21 ススキ属 (横断面)
19D T38 bar:1.0mm

2 川崎山遺跡d地点出土土器木葉痕の樹種

佐々木由香（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

八千代市川崎山遺跡d地点の出土土器の底部について木葉痕の樹種を報告する。底部には土器製作時に底部に敷いたと考えられる葉の痕が明瞭に残存していた。葉縁の痕跡は残存していなかったものの、葉脈の痕跡が良好に残存していたため、葉の樹種同定を行い、製作した季節を推定した。

(2) 試料と方法

対象とした木葉痕がついた土器は、弥生時代後期に比定される15D住居跡から出土した1点である(15D No.321)。器種は撚糸文が施された甕で、底部の直径は7.9cmである。底部全体に木葉痕がついていた。底部ほぼ中央に中脈があり、左右に側脈が4～5本みえる。葉縁はみえない。側脈の幅は1.15～1.50cmであった。

同定方法は木葉痕を観察して、おおよその樹種を推定した後、当社および森林総合研究所に保管されている現生樹木のさく葉標本を用いて肉眼および実体顕微鏡で比較を行った。

(3) 結果

木葉痕の樹種は、形状から落葉広葉樹と同定された。葉脈の特徴として、基部に近づくほど中脈から側脈がほぼ直線的に伸びるが、上部ではやや下部に湾曲して伸びる。側脈から「く」の字状に上下に細脈が伸び、中央部で網脈とつながる。これらの特徴と側脈の幅からカシワ・ナラガシワ・トチノキなどの可能性が考えられるが、葉縁が観察できないことから種の同定は難しい。落葉広葉樹の現生種と対照した限りではトチノキがもっとも近似していた。また、対照に用いた現生のトチノキのさく葉標本のうち、最も大きいものは長さが45cm、幅が17cm、側脈幅は最大で1.30cmであった。木葉痕の側脈幅は最大1.50cmであるため、土器が焼成された時の収縮を加味してさらに広いことになる。現生のトチノキの葉と木葉痕の比較を写真で示す。

(4) 考察

葉は一般的に土器を製作する際に回転を円滑に行うために底部に当てて用いたと考えられている。

木葉痕を観察すると、葉脈の明瞭な裏面が土器底部に残されていた。つまり土器の製作台もしくは地面と接するのは滑らかな葉の表であり、土器の回転をやすくする効果があったと推定できる。

葉の採取または落下した葉が拾われた季節は、広く考えても初夏から晩秋の間と考えられ、葉をそのまま土器製作に使用したと仮定すると、その期間に土器製作が行われたことになる。

川崎山遺跡の住居跡出土炭化材の同定結果では、トチノキは22D住居跡から炭化材の細片として1点出土している(本報文P182)。また樹種同定からはカシワやナラガシワと同定できないが、両者が含まれるコナラ節?とされる材が1点出土している。こうした用材にも使用される樹種は、遺跡周辺に生育していたことが考えられる。

低地遺跡など植物遺体が良好に残存した遺跡以外では、木葉痕のように限られた痕跡から生活環境を復元することになる。低地遺跡でない限り、葉は腐食・分解され残存しない。土器底部の圧痕を観察し、複数の個体で樹種を明らかにしていくことで土器製作時に使用した葉の大きさ、樹種などに選択がみられるか検討していく必要がある。

謝辞

森林総合研究所組織材質研究室能城修一氏には、標本の実見にあたりお世話になった。同定にあたり、当社三村昌史氏に協力いただいた。

参考文献

丑野 毅 2000「遺物に残された痕跡」『第2回考古科学シンポジウム』 東京大学原子力研究総合センター・東京大学総合研究博物館・東京大学埋蔵文化財調査室 p41～51

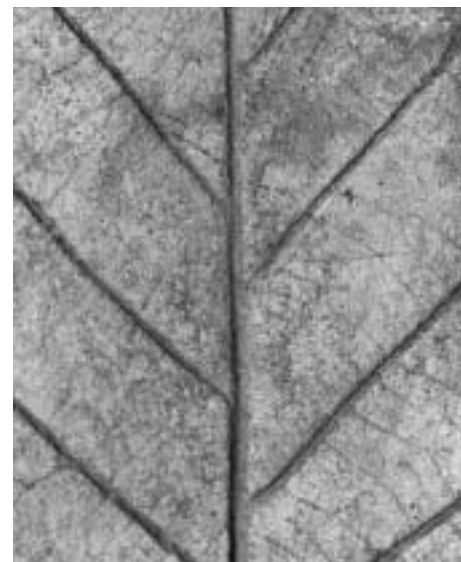
丑野 毅 2001「遺物に残された痕跡」『Ouroboros』第5巻9号 東京大学総合研究博物館 p12～14

佐竹義輔他編 1989『日本の野生植物』木本II 平凡社

平井信二 1996『木の大本科一解説編一』 朝倉書店



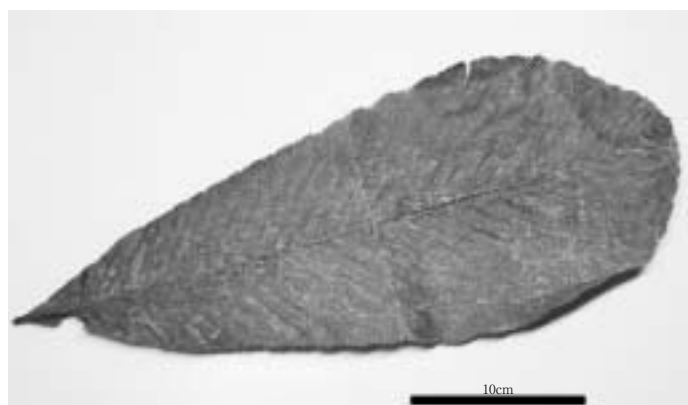
木葉痕がついた底部



木葉痕の拡大



トチノキの葉の拡大（裏面）



トチノキの葉の一枚

3 川崎山遺跡d地点出土石器・石製品石材の岩種鑑定

川崎山遺跡d地点から出土した石器・石製品の一部について、有限会社考古石材研究所の柴田徹氏にその石材岩種について鑑定を委託した。その結果は下表のとおりである。

No.	図No.	遺構No.・ グリッドNo.	器種名	石材の岩種	特徴など	産地推定
1	35図29	A1-98-4G 一括	尖頭器	ガラス質 黒色安山岩		
2	35図30	C1-88G 一括	石鏃	チャート		
3	43図24	15D 1	剥片	メノウ	黄玉石が少量入る。	栃木県茂木町か
4	45図8	16D 3	砥石か	砂岩	石英粒多い。固結度 が弱い。	
5	53図6	1D 62	砥石	軽石		浅間山以外・海
6	64図27	3D 224	石製 模造品	緑色片岩		埼玉県西部あるいは 茨城県北部
7	64図28	3D 172	剥片	チャート		
8	64図29	3D 387	鋳型か	砂岩	石英粒多い。固結度 が弱い。	
9	なし	3D 185		岩石ではない	海綿状骨針含む。 粘土の焼けたもの。	
10	68図3	6D 13	剥片	珪化木		栃木県茂木町か
11	70図8	7D 58	石鏃	チャート		
12	87図14	12D 62	砥石	砂岩	石英粒多い。	
13	87図15	12D 209	砥石	閃緑岩		
14	87図16	12D 2	砥石	軽石		浅間山以外・海
15	96図20	17D 80	貝巢穴痕 泥岩	泥岩	固結度弱い	房総半島海岸部 房州石か。
16	97図2	D1-18G一括	砥石	流紋岩		
17	100図8	19D 143	敲石	花崗岩	粒が細かい。被熱	
18	105図20	20D 2	砥石	軽石	被熱で黒色化	浅間山以外・海
19	105図24	20D 50	石鏃	チャート		
20	105図25	20D 544	剥片	ガラス質 黒色安山岩		多分栃木県武子川 ・姿川
21	105図26	20D 465	剥片	珪質岩		
22	108図12	21D 60	剥片	黄玉石	被熱。第43図24 (15D)に類似	
23	114図34	22D 72	石鏃	チャート		
24	117図7	23D 113	敲石	安山岩		
25	120図10	24D 45	砥石	砂岩	被熱	
26	120図11	24D 一括	磨石	砂岩		
27	124図12	25D 166	石製 模造品	滑石		
28	124図15	25D 119	砥石か	軽石	被熱。ガラス発泡	
29	124図16	25D 146	砥石	軽石	被熱	浅間山か
30	135図9	5 D 26	砥石	砂岩	粒が細かい。被熱	
31	135図11	5 D 73	砥石か	黒雲母片岩		茨城県筑波山南西
32	137図1	2 M 13	砥石	流紋岩	被熱	
33	146図4	9 M 51	砥石	流紋岩		
34	なし	B2-22-1G 一括	剥片	メノウ	被熱か	茨城県山方町あるいは 栃木県茂木町
35	なし	B2-22-1G 一括	焼礫	石英斑岩	被熱	

IV まとめ

今回の調査によって、第148図に示したように川崎山遺跡の台地の東部分については、ほぼ全貌が明らかになったと言ってよい。遺跡全体についても考慮にいれながら、若干のまとめをしておきたい。

1 各時代の概要

(1) 旧石器時代

旧石器時代については、d地点では新発見を加えることはできなかった。現在までのところ、該期の中心はc地点の調査区北東部にある。ここではⅥ～Ⅶ層下面からⅩ層上面に亘って、合計8点から成る小規模な遺物集中箇所が検出された。ナイフ形石器や石核各1点などが出土した。また住居跡覆土や表面採集で7点の遺物を得ている。他にa地点でナイフ形石器1点が出土している。全地点を通じてあまり濃密な分布は無かったようである。

(2) 縄文時代

縄文時代は草創期から晩期に至る遺物が確認された。d地点では特に晩期後半の遺物を加えることができた。この種の遺物としては、八千代市内では、高津新山遺跡で撚糸文粗製土器が、本郷台遺跡で浮線文の土器片が出土しているが、出土例は極めて少ないものである。

d地点では中期・後期が希薄であったが、別の地点でそれを補うような時期の遺物が出土している。地点を変えながら断続的に縄文人の活動の痕跡が残っているのである。

遺構としては落とし穴状土坑が主体で、台地全体に約39基が分布している。d地点では17基を確認しており、比較的密度が濃い。3～4基がまとまって存在しているように見えるが、形態差が時期差や対象動物の違いを反映する可能性があり、形態別に分布状況を見る必要があるだろう。その中で13P土坑は興津式土器を出土しており、時期と形態を関係付けるうえで貴重である。

(3) 弥生時代

弥生時代後期から古墳時代中期が、川崎山遺跡の中心を成す時期である。

弥生時代後期は、台地先端部に住居跡が展開している。印旛沼沿岸地域に主体的な土器を出土し、後期中葉から後葉の時期が中心である。a・c・h地点でも該期の住居跡が検出されd地点も含めて合計25軒となる。台地の東端から北にかけて分布している。

(4) 古墳時代

古墳時代初頭についてはd地点の調査で多くの資料を得たと言ってよい。d地点は19軒の住居跡を検出し、該期の濃密な地点であった。装飾壺の流入、小形器台成立時の様相などの実態が明らかとなった。土製品や石製品、鉄製品のほか軽石や鉄滓が多数出土することも確認できた。また炭化材の樹種同定によって、当時の周辺環境に関するデータを得ることができたのも大きな成果である。

該期の住居跡はc地点でも南部分を中心に10軒検出され、d地点と合わせて合計29軒となる。台地の南寄りが分布の中心である

古墳時代中期についてはd地点では住居跡1軒のみであったが、遺物は比較的豊富であった。川崎山における該期の集落が台地の南には広がっていないことがわかった。分布の中心はc地点で、24軒を検出した。またh地点では石製模造品の工房跡が検出されている。合計31軒で、台地の北寄りに分布し前時代よりも集落の位置が北にずれていることがわかる。

古墳時代後期になると住居跡数は激減し、c地点の2軒のみとなる。何らかの理由で土地利用に大きな変化が生じたことは確実である。



第148図 川崎山遺跡における遺構の分布

(5) 平安時代以降

平安時代についてはd地点では住居跡1軒のみであったが、鉄製品の比較的良好な資料を得ることができ、また炭化材の樹種同定も行うことができた。該期の住居跡は川崎山全体で5軒検出されているが、d地点の1軒は孤立した存在である。小型の住居跡であるが長方形でカマドと炉が存在しており、炭化材の集積と鉄製品・鉄滓の出土に対し、坏などの日用品的な遺物が乏しいこと等を考えると、通常の住居ではなく作業場のような性格をもっていたのかもしれない。

平安時代には再び居住地としての土地利用が始まったものの、住居群が多数展開するような状況ではなかったということである。

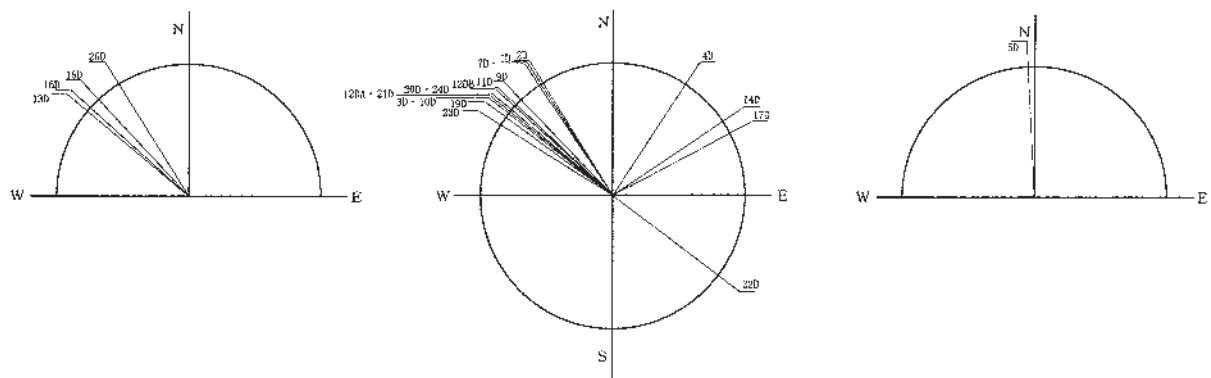
その後は再び居住地としての土地利用は廃れ、近世以降は畑地として利用されていたものと思われる。e地点の西を南北に走る道路は、成田街道の大和田宿と萱田の飯綱神社（飯綱権現）とを結ぶ古道で、「権現道」と呼ばれていた。国道や都市計画道路が整備される以前までは主要な道路であったらしく、古くから人々の往来が少なからずあったものと想像される。

2 住居跡について

(1) 住居跡の主軸方向について

d地点の各住居跡の主軸方向を第149図に示した。弥生時代後期・古墳時代初頭ともに主軸方向は同じ傾向をもっており、ほとんどが北西-南東方向の 30° ～ 60° の範囲にはいる。22D住居跡は角度的には同じだが、炉の位置が反対となっており、20D住居跡に対峙するかのような在り方である。これらに対し14D・17D住居跡は約 90° ずれているが、この2軒は台地東端に位置しており、東方の崖を意識してこのようになったのであろうか。4D住居跡も約 90° ずれの範囲内である。

また、川崎山遺跡においては住居跡の重複する例が少ない。弥生時代後期の13D住居跡や26D住居跡の覆土上層から古墳時代初頭や中期の遺物が出土していることと考え合わせると、古墳時代には弥生時代の住居跡が窪みとして認識でき、そこはゴミ捨て場あるいはその他の利用をし、住居を作る空間としては避けたということなのであろう。



第149図 川崎山遺跡d地点住居跡の主軸方向

(2) 周堤帯について

古墳時代初頭の住居跡の一部に、土手状の高まりとなる周堤帯が貯蔵穴を取り囲むように構築されている。この高まりは他に「凸堤」・「土堤状遺構」・「畝状隆起」などとも呼ばれている。弥生時代には無かった要素であり、古墳時代初頭～前期の時期の中で出現・消滅して行き、後続の時代にも見られないものである。

その特徴で分類すると、A明瞭なもの（①1D・3Dは半円形，②11D・22Dは弧状，③9Dは直線的），B不整形の高まり（7D），C弧状あるいは半円形の段差（19D・20D），D周堤帯が無く貯蔵穴があるもの（①貯蔵穴規模の大きいものは12D-B・17D・21D・23D，②小さいものは10D・12D-A・14D），E貯蔵穴の無いもの（2D・4D・24D）となる。明瞭に構築された段階（A）と形骸化・省略化された段階（B・C），12D-Bから12D-Aへの拡張時に見られるような貯蔵穴の小規模化などが時間差を考慮するうえでのヒントとなるだろう。

周堤帯と貯蔵穴の組み合わせは，実用的な観点で構築されたものとの印象をもつが，それにしては竪穴住居跡に一般的でなく，むしろ稀なケースである。周堤帯に囲まれた空間を祭祀の場と想定する説があり，川崎山遺跡d地点の3D住居跡では貯蔵穴内から器台と土玉が出土し，祭祀空間説を裏付けるものかもしれない。また全体としては周堤帯と貯蔵穴の脇のコーナー付近に遺物集中が見られるという傾向がある。

3 遺物について

(1) 弥生時代後期の土器群について

古い様相を示す土器としては，26D住居跡の6・7（同一個体）が，宮ノ台式の終末頃かと推定される。また古く且つ異系統の土器として，小片であるが12D住居跡の11は平行沈線による渦巻文の一部と考えられ，足洗式の系統と推察される。

前述したように，川崎山遺跡の弥生時代後期の土器の主体は，印旛沼沿岸地域の後期中葉から後葉の土器様相を示している。但し，印旛沼水系新川の上流に当たり，東京湾水系との分水嶺に近いという立地の特殊性がある。そのことが土器様相にも微妙に影響していると考えられる。

第150図に主な土器を示した。全形を窺える資料は無いが，破片資料から推察すると，まず口縁部は複合口縁が主体である。但し複合部が痕跡的なものも含まれる（第150図1・7）。口縁部の文様は附加条縄文が圧倒的である。撚糸文かと思えるものも散見される（同図8）。口唇部にも同じ附加条縄文が施文されるか無文である。刻みを付ける例は少ない（同図5・7）。複合部の下端に刻みを付ける例は11D出土遺物（同図6）に見られるが，少ない。

複合口縁の下の頸部は無文帯となる。そして肩部に多段の結節文が施され（同図10・11・13），胴部には附加条縄文が施文される。縄文は底部までは達しない（同図13～16）。結節文が巡る例もある（同図15）。

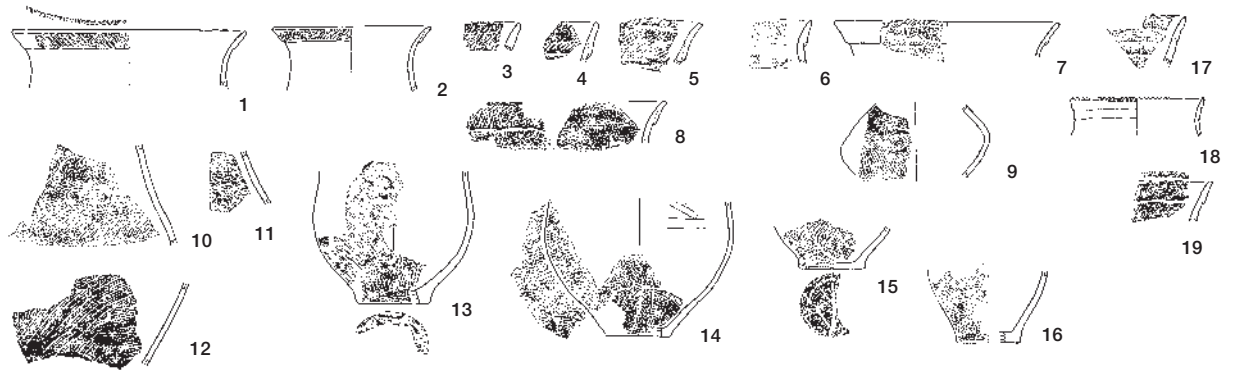
口縁に多段の輪積み痕を残すものは同図17～19に示したが，少なかった。口唇部には刻みや縄文が施されている。

櫛描文の土器は1点も見出せなかった。また，権現後遺跡などで多く見られる胴部に輪積み痕の段を1段持つものも無かった。

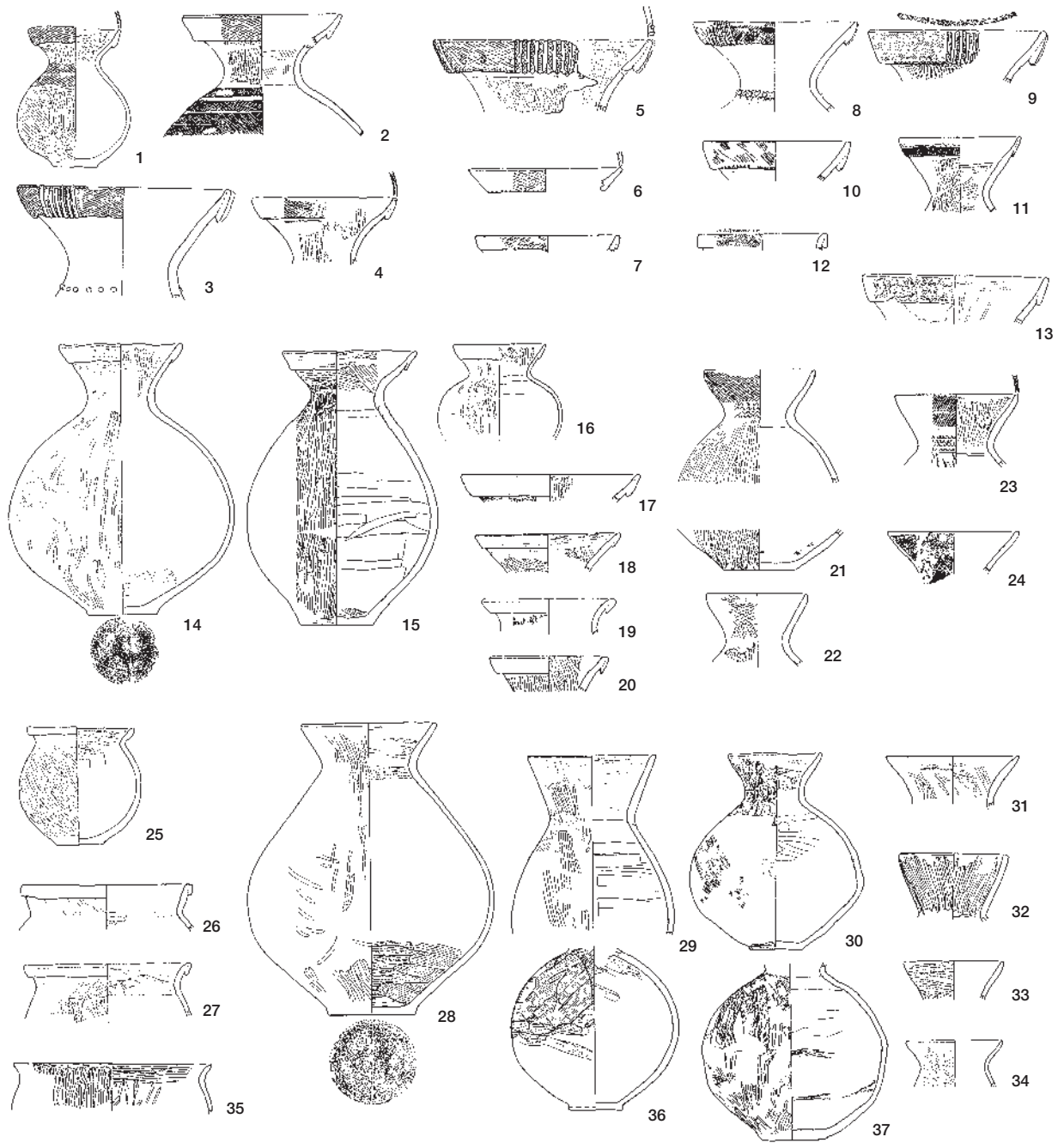
弥生時代終末と考えられる口縁部下端付近に貼り瘤をもつ土器や無文土器なども見出せなかった。したがって土器の様相としては，次の時代との間に断絶があるということになる。

なお，川崎山遺跡の南に隣接する上ノ山遺跡のb地点3号住居跡の土器は，胴部に段をもつ甕や高坏，無頸壺などのほか装飾壺の破片も含まれる。南関東系の影響が強い土器群と解釈されている。川崎山遺跡の土器様相とは異なっており，川崎山遺跡の空白期を埋める時期のものかもしれない。

弥生時代後期の土器群の器形はほとんどが甕であり，第150図9のようにやや屈曲が激しいものもあるが，例外的である。日常品はほとんど持ち去られていると解釈すべきかもしれないが，土器以外の遺物も含めてバラエティに欠けると言わざるを得ない。



第150図 川崎山遺跡d地点の弥生時代後期土器



第151図 川崎山遺跡d地点の古墳時代初頭の壺形土器

(2) 古墳時代初頭の土器群について

この時期の土器については、住居跡単位で特徴をもっている例がいくつかある。3D住居跡では台付甕の脚部が多く、あわせて口唇部に刻みや刺突(押捺)が付けられた甕の口縁部も多いことから、口唇に刻みのあるハケ調整の台付甕が多かったものと思われる。また高坏の破片資料や縄文施文の小型器台が出土している。11D住居跡では重厚な装飾壺の口縁部のほか、全形を窺えるハケ調整の素口縁壺や甕、台付甕が出土している。12D住居跡では複合口縁・赤彩・無文の壺と、素口縁・無文の壺が出土した。20D住居跡では小型土器が卓越し、器台・埴・甕・壺・鉢等の種類が出土している。22D住居跡は遺物数最多であるが、種類も多い。装飾壺・素口縁壺・甕・台付甕のほか、各種形態の高坏が出土している点が興味深い。

以上一部の住居跡の土器を見ただけでも、弥生時代後期の内容に比べ器種は格段に豊富となっている。これは土器以外の遺物についても同様である。装飾壺を初めとする南関東系の土器群が流入しており、弥生時代後期段階の印旛沼沿岸地域の土器の系統は一掃されてしまったかのような状況である。

次に土器の主要器種について分類しながら、d地点の特徴をまとめておきたい。なお、全形を窺える資料は少ないという制約の中での分類である。

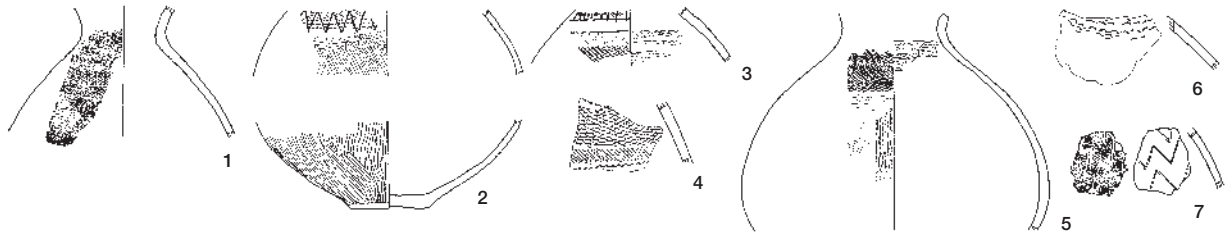
壺形土器には複合口縁のものと同素口縁のもの2種類がある。複合口縁壺には文様と赤彩によって華やかな印象を受ける装飾壺と、赤彩されるが無文となるものがある。

装飾壺は、複合口縁部に網目状捺糸文が施されるもの(第151図1~7)、縄文が施されるもの(同図8~12)、結節文が施されるもの(同図13)がある。このうち網目状捺糸文の壺が主体を占めている。その典型である同図1は小型の例で、頸部下半から肩部に2段の網目状捺糸文帯が巡る。2は少なくとも4段巡る。3の頸部には円形浮文が巡る。8の縄文の例にも同じように円形浮文が巡っている。5~7の複合口縁部下端には刻みがある。縄文の施される8~10にも口縁下端の刻みがある。また複合部の幅が広いものが主体であるが、7・12のような幅の狭いものがある。複合口縁部の文様と口唇部の文様は一致する例がほとんどだが、重厚な作りの同図5は口唇部が縄文、口縁部が網目状捺糸文となっている。この種の壺の胴部と考えられるのが第152図に示したもので、1は肩から胴上部にかけて4段の網目状捺糸文帯が無文帯を挟みながら巡っている。2は肩部に地文が網目状捺糸文と結節文でその上に沈線による鋸歯状文が施される。このような例は数点見られた。3は網目状捺糸文の上に縦の沈線が引かれ、その下は横方向の沈線で画された無文帯、その下は無節縄文、網目状捺糸文と続く。4は網目状捺糸文、無節縄文、結節文が施された胴上部の破片である。5は縄文と結節文、6は結節文、7は沈線による山形文であるが縄文等は関わっていない。

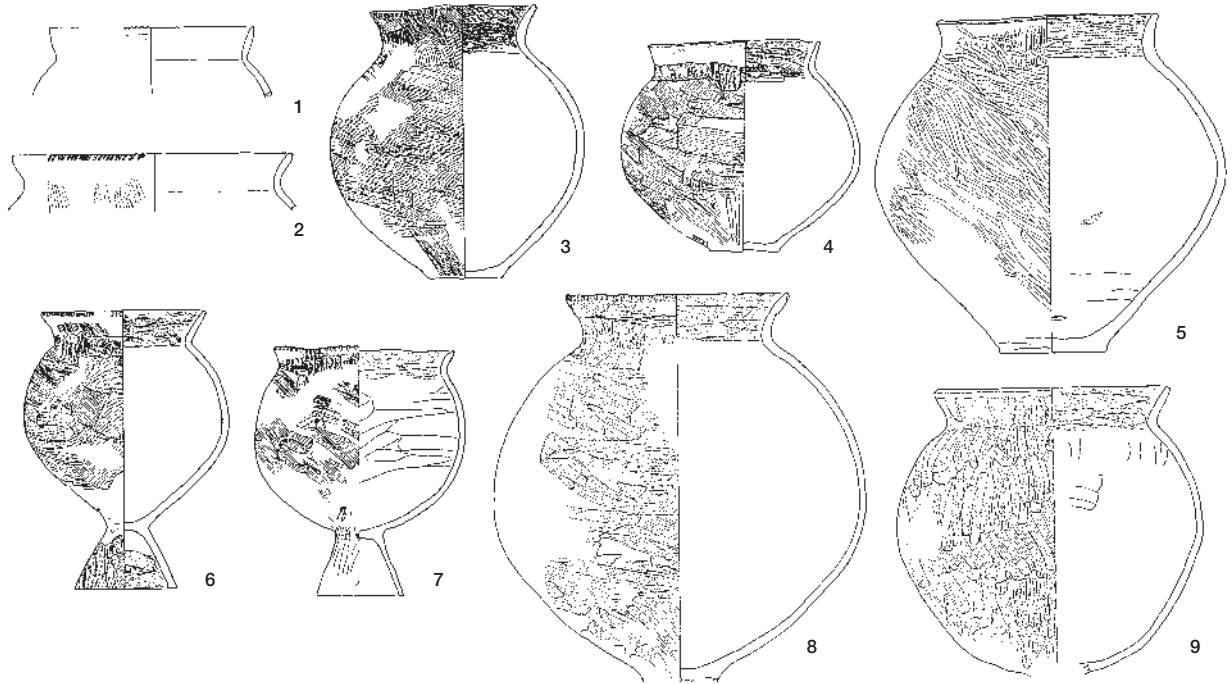
無文の複合口縁壺には、第151図14~16のような器形が認められた。すなわち、胴下半に最大径があるもの、胴の張り方が弱く縦長になるもの、胴部が球形になるものである。またこの種の口縁部破片は17~20のように、口径の大小はあるが、多く認められた。なお、25~27に示した土器は甕形であるが、複合口縁の在り方が7・12のような幅狭口縁の装飾壺に似た印象をもつ。複合口縁の甕というよりは、広口壺と呼ぶべき系譜をもつものかもしれない。

素口縁の壺にも文様のあるものと無文のものがある。文様のあるものには装飾壺と同様、網目状捺糸文が施されるもの(21・22)、縄文が施されるもの(23・24)がある。21は口縁部に網目状捺糸文が巡りその下に頸部文様帯として結節文が巡る。胴部には文様は無いようである。22は結節文に替わって縦方向の網目状捺糸文が巡る。23は口唇部に縄文、口縁部に結節文を介して縄文が2段巡り、その下に無文帯があり頸部の結節文となる。24は23と似た構成をもつようである。

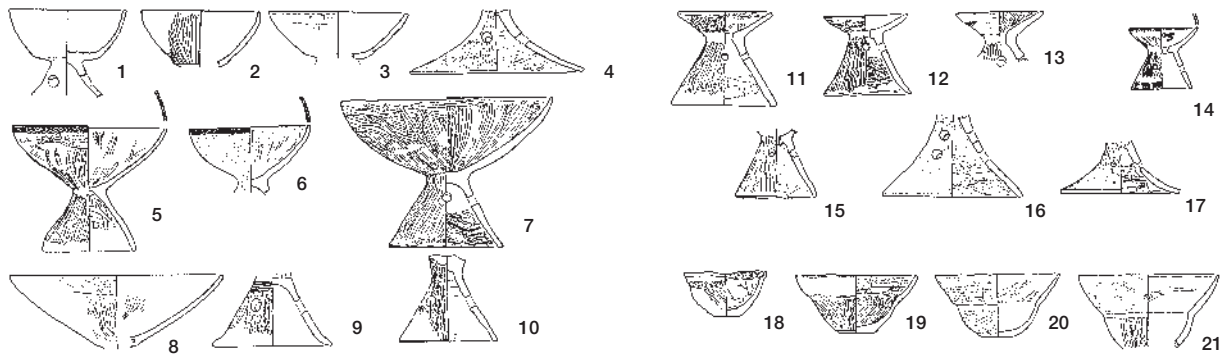
無文の素口縁壺(28~34)には、28~30のように無文の複合口縁壺と似た器形がある。また31~34の



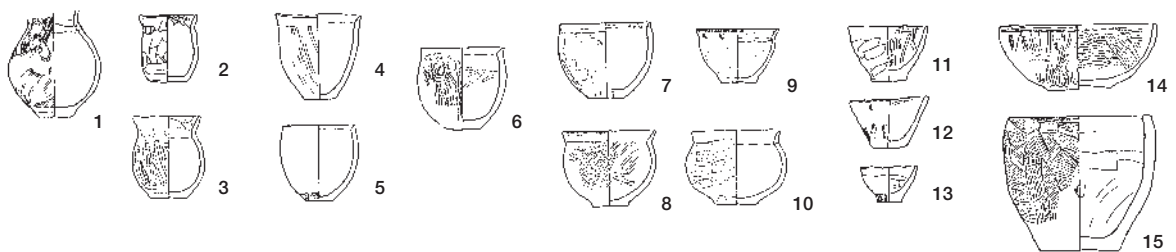
第152図 川崎山遺跡d地点の壺形土器の胴部文様



第153図 川崎山遺跡d地点の甕・台付甕



第154図 川崎山遺跡d地点の高坏・器台・罎



第155図 川崎山遺跡d地点の小型土器など

ように口縁部の破片が多数見られる。36・37は口縁部を失っているが、30と同じ11D住居跡の遺物で球形の胴部にハケ調整がなされる壺である。おそらく30と同じような口縁になるのではないか。35はミガキと赤彩が施されており、器形は甕であるが壺の製作技法である。26・27と同様、広口壺とするべきかもしれない。

甕・台付甕には破片資料や底部を欠く資料が多く、全形の窺える資料は極めて少なかった。第153図1・2は甕か台付甕かわからないが、ナデやミガキで調整されている。これら少数を除いてほとんどはハケ調整の土器である。同図には示さなかったが、3D住居跡では台付甕の脚部が多く出土した。対応する口縁部は、口唇部に刻みを付けたもので、頸部の屈曲は緩やかなものと鋭角のものが混在するようである。また、第153図の甕の4と台付甕の6がともに11D住居跡出土でハケ調整の素口縁壺が伴っていた。甕の5と台付甕の8・9がともに22D住居跡の出土で、5・8は特に今回調査での最大クラスの土器である。

高坏は、22D住居跡からまとめて出土した（第154図1～7）。1～3は有稜高坏、5～7は無稜高坏で、5には網目状撚糸文が、6には縄文が施され、7は無文である。5と6は装飾壺における網目状撚糸文と縄文の関係と同じであろうか。

器台（同図11～17）では、3D住居跡の貯蔵穴（P5）から出土した縄文施文の器台14が特筆される。また11～13・15の脚部の透かし穴は小さくて位置が高い。定型化以前の器台と考えられる。

埴形土器（同図18～21）にも、18～20のような定型化以前と思われる、埴に似て非なる土器が認められる。21は10D住居跡出土であるが、埴として定型化したものである。

その他の小型土器などを第155図にまとめた。小型土器は20D住居跡を中心に比較的各住居跡に分散して出土した。

（3）3D住居跡の鉄滓と遺物

今回の調査の中で、特に注目すべき遺構・遺物として3D住居跡とその遺物を取り上げておきたい。今回調査の中では大型住居の部類であり、明確な炉、柱穴4基が検出され、半円状の周堤帯、貯蔵穴など住居跡の要素も良く揃っている。ここの床面直上から鉄滓が2箇所集中して出土した（第61図）。また軽石や砂利を含む暗赤褐色土の出土も見られた。このことと第64図29の鋳型のような石製品は関連があるのだろうか。さらに覆土上層ではあるが刀子や釘のような鉄製品（30～33）が出土していることも関連するのだろうか。別遺構であるが9D住居跡には他の土器とは異なる厚手の土器（第75図3）が出土している。第155図15にも示したが全く異質な土器である。使用されたような痕跡は無いが、埴塙として使用される予定ではなかったか。川崎山遺跡から新川低地を隔てた1.2km東方には沖塚遺跡があり、そこでは古墳時代初頭～前期の精錬遺構とそれに伴う精錬炉が検出されている。沖塚遺跡と何らかの関連をもっていたのかもしれない。

今回の報告では鉄滓の分析などに至らなかったため、今後の課題としておきたい。

この他、2D住居跡と7D住居跡で検出された、土器の碎片集中箇所についても触れておきたい。土器を概ね2cm角以下の大きさに砕いてあり、人が意識的に行ったものと考えられる。祭祀等の行為に伴うものであろうか。

（4）炭化材等について

今回の調査では住居跡出土炭化材の樹種同定を行い、クヌギ節が圧倒的であることを確認することができた（Ⅲ1）。クヌギの優勢については、古墳時代初頭の白井市復山谷遺跡や古墳時代前期の千葉市内野第1遺跡など近隣でも確認されている。クリが利用された縄文時代に対して弥生・古墳時代にはコナラ・クヌギに変わるという関東地方における用材選択の傾向が、川崎山遺跡でも確認できたのである。

住居跡から比較的多数出土する炭化材は、人と森林との関わり歴史について研究する基礎資料となり得る。例えば、成長速度の速いクリから遅いコナラ・クヌギに転換した背景は何か。あるいは、現在ではクヌギは主に木炭に適していると言われ、建築材としては用いないとのことであり、弥生・古墳時代におけるクヌギへの志向性は特に理由があるのか、などである。市内における炭化材の樹種同定はこれが初めてであり、今後も資料の蓄積に努めたいと考えている。

また1点のみであるが、土器底面の木葉痕の樹種同定を行った(Ⅲ2)。これも土器から得られる情報の一つとして今後も継続して行きたい。

(5) 貝巢穴痕泥岩等について

穿孔貝の巢穴を有する貝巢穴痕泥岩(以下「泥岩」と略)が、古墳時代初頭の3D・11D・12D・17D・20D・22Dの6軒の住居跡から計15点出土した。代表例として17D住居跡の20を図示した(第96図20)。この泥岩の産地と性格について考えてみたい。

泥岩の出土状況を見ると、3Dでは住居東コーナー付近、周堤帯と貯蔵穴P5脇の砂利を含む暗赤褐色土と軽石の集中箇所から、11Dでは北コーナー付近から、17Dでは20及び他1点が住居南コーナーの軽石小片群と土器片群に混ざって床に近い位置で、さらにもう1点は西コーナー付近から、20Dでは東コーナーの貯蔵穴P6脇の軽石小片群付近から、22Dでは北コーナーの周堤帯と貯蔵穴P1付近からそれぞれ出土している。

岩種鑑定の結果、17Dの20は房総半島海岸部から持ち込まれたいわゆる「房州石」ではないかと推定された。そこで房総半島海岸部でこの種の泥岩を出土する遺跡を求めてみると、小櫃川流域の6遺跡で出土例がある。小櫃川流域の境遺跡、滝ノ口向台遺跡、林遺跡、小櫃川と養老川に挟まれた下総台地南西端部に位置する根崎遺跡、小櫃川と小糸川に挟まれた台地西端部に位置するマミヤク遺跡、俵ヶ谷遺跡である。このことから、小櫃川の河口付近の海岸に打ち上げられていた泥岩が、川崎山遺跡に運び込まれた可能性を指摘できよう。小櫃川流域では弥生時代後期からこの種の泥岩は出土するが、川崎山遺跡では古墳時代初頭の住居のみからの出土である。古墳時代初頭以降に小櫃川流域との交流が活発化したことを示す現象であろう。

川崎山遺跡d地点の泥岩出土の住居跡からは軽石も出土しており、両者には関連がありそうである。岩種鑑定では、1D・12D・20D出土の軽石は浅間山以外、すなわち伊豆半島・銚子・房総半島などの海岸部産のものと推定された。つまり両者とも房総半島海岸部を産地とする可能性もあろう。しかし、軽石に関しては小櫃川流域遺跡では必ずしも泥岩に伴っておらず、やや根拠は弱い。

東京都八王子市神谷原I遺跡では砂・小砂利と泥岩が伴う確率が高いとのことであり、川崎山遺跡の3Dでの在り方に共通する。

境遺跡の報告では「凸堤」と泥岩とを関連付けており(能城1989)、川崎山遺跡でも3D・11D(出土位置は周堤帯から離れている)、22Dが周堤帯のある泥岩出土遺構である。前述したように周堤帯によって囲まれた空間は祭祀空間であり、泥岩は祭祀関連品の一つであるという想定がある。周堤帯が無くても20Dのように貯蔵穴付近で出土した例や、いずれも住居コーナー付近で出土している点は偶然ではないかもしれない。

泥岩自体には使用の痕跡は特に見られず、実用品としての想定は難しい。被熱して赤化している例が多いが、川崎山遺跡のように焼失住居が多い場合どの時点での被熱かわからない。

周堤帯と泥岩が関連するのであれば、遺構と遺物がセットで小櫃川流域方面からもたらされたのであろう。南関東系土器の流入などと連動した動きと想像される。

なお、石器・石製品の岩種鑑定についても、炭化材と同様今回初めて専門家に委託し、いくつかの新

知見を得た。これについても今後継続に努め、データの蓄積をしていきたいと考えている。

参考文献

高花宏行（1999）「印旛沼周辺地域における弥生時代後期の土器の変遷について」（『奈和』37）

高花宏行（2001）「印旛地域における古墳時代開始期の土器様相」（財団法人印旛郡市文化財センター『研究紀要』2）

能城秀喜（1989）『千葉県袖ヶ浦町境遺跡第2次調査』 財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第42集 袖ヶ浦町

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよしかわさきやまいせきでいーちてん							
書名	千葉県八千代市川崎山遺跡d地点							
副書名	萱田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	常松成人 川口貴明							
編集機関	八千代市遺跡調査会							
所在地	〒276-0045 八千代市大和田138-2 ☎047 (483) 1151							
発行年月日	西暦2003年 9月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経			
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			調査期間	調査面積	調査原因
かわさきやま 川崎山遺跡 d地点	やちよしかやだまち 八千代市萱田町 あざかわさきやま 字川崎山757-1ほか	12221	241	35度 43分 6秒	140度 6分 50秒	20020508 ～ 20021206	8,885	土地区画 整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
川崎山遺跡 d地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 弥生時代 後期 古墳時代 初頭 古墳時代 中期 弥生～古 墳時代 平安時代 近現代	落とし穴状土坑17基, 土坑48基 竪穴住居跡5軒 竪穴住居跡19軒 竪穴住居跡1軒 掘立柱建物跡2棟, 土坑11基 竪穴住居跡1軒 溝10条		縄文土器 (早期・前期・晩 期), 尖頭器, 石鏃 弥生土器 (後期), 土製品, 石製品 装飾壺, 壺, 甕, 台付甕, 高坏, 器台, 土玉, 砥石, 軽石, 石製品, 鉄製品, 鉄 滓 土師器 (壺, 埴, 甕, 高坏) 石製模造品, 軽石 異形器台, 高坏 土師器, 砥石, 鉄製品			

写真図版



空から見た川崎山遺跡（昭和54年 八千代市）



(1) 遺構遠景（中央が新川，左側の台地が川崎山遺跡）



(2) 浅間内遺跡から川崎山遺跡を望む



(3) 川崎山遺跡d地点から新川を望む



(1) 1区完掘状況



(2) 2区完掘状況



(3) 3区完掘状況



(1) 4区完掘状況



(2) 5区完掘状況



(3) 5区完掘状況



(1) 6区完掘状況



(2) 6区完掘状況



(3) 7区遺構検出状況



(1) 7区遺構検出状況



(2) 7区完掘状況



(3) 8区完掘状況



(1) 調査前状況 1区



(2) 調査前状況



(3) 調査風景 4区



(4) 調査風景 12P



(5) 遺跡見学会風景



(6) 1T西壁土層



(7) TP1南壁土層



(8) TP6北東壁土層



(1) 5P土坑土層 - 1 -



(2) 5P土坑土層 - 2 -



(3) 5P土坑土層 - 3 -



(4) 5P土坑完掘狀況



(5) 8P土坑土層



(6) 8P土坑完掘狀況



(7) 12P土坑土層



(8) 12P土坑完掘狀況



(1) 13P土坑土层 - 1 -



(2) 13P土坑土层 - 2 -



(3) 13P土坑遺物出土狀況



(4) 13P土坑完掘狀況



(5) 14P土坑土层



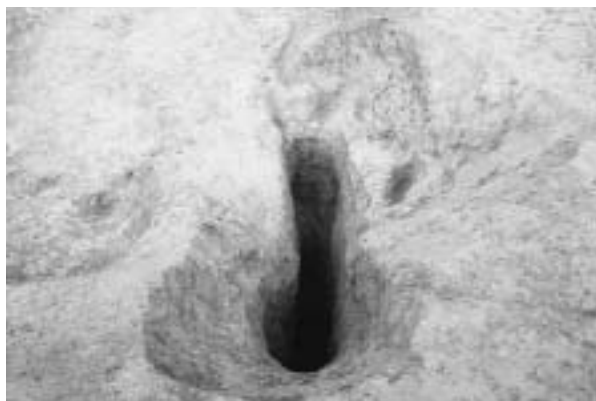
(6) 14P土坑完掘狀況



(7) 32P土坑土层



(8) 32P土坑完掘狀況 - 1 -



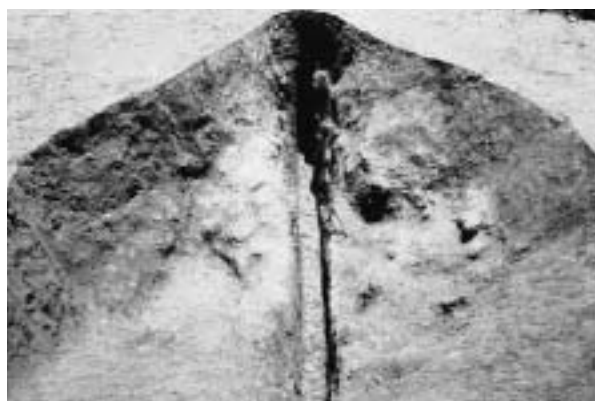
(1) 32P土坑完掘状况 - 2 -



(2) 33P土坑土层



(3) 33P土坑完掘状况 - 1 -



(4) 33P土坑完掘状况 - 2 -



(5) 34P土坑土层



(6) 34P土坑完掘状况



(7) 36P土坑土层



(8) 36P土坑土层 (下層)



(1) 36P土坑完掘状況



(2) 39P土坑土層



(3) 39P土坑完掘状況



(4) 42P土坑底面ピット検出状況



(5) 42P土坑完掘状況



(6) 44P土坑完掘状況



(7) 50P土坑土層



(8) 50P土坑完掘状況



(1) 57P土坑土層



(2) 57P土坑完掘狀況



(3) 63P土坑土層



(4) 63P土坑完掘狀況



(5) 65P土坑土層



(6) 65P土坑完掘狀況



(7) 80P土坑検出狀況



(8) 80P土坑完掘狀況



(1) 1P土坑土層



(2) 1P土坑完掘狀況



(3) 2P土坑土層



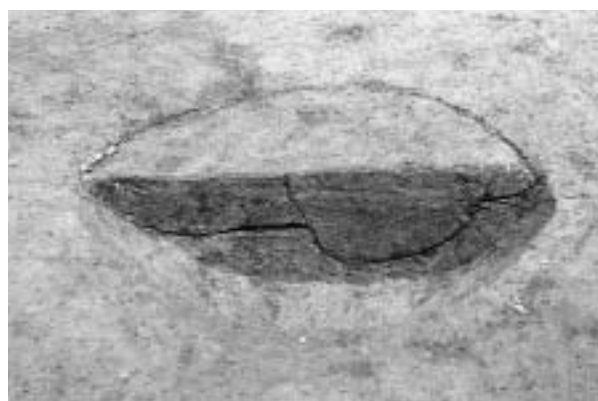
(4) 2P土坑完掘狀況



(5) 3P土坑土層



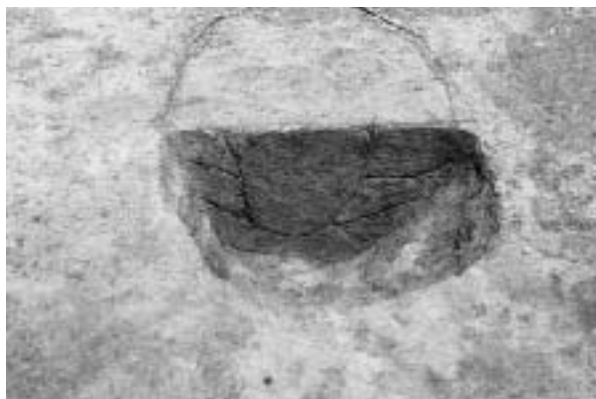
(6) 3P土坑完掘狀況



(7) 4P土坑土層



(8) 4P土坑完掘狀況



(1) 6P土坑土層



(2) 6P土坑完掘狀況



(3) 7P土坑土層



(4) 7P土坑完掘狀況



(5) 9P土坑土層



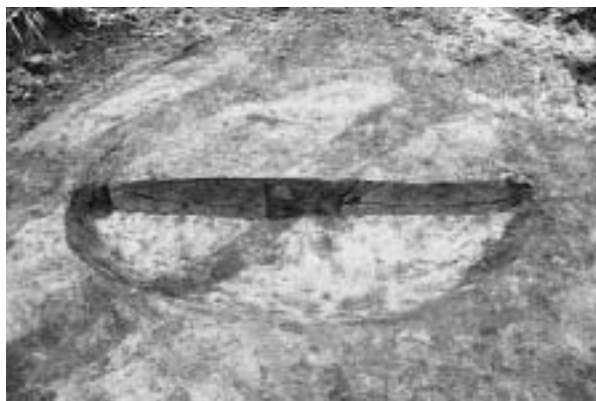
(6) 9P土坑完掘狀況



(7) 10P土坑土層



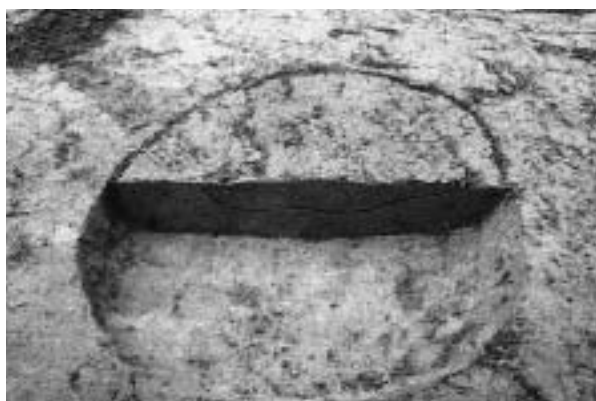
(8) 10P土坑完掘狀況



(1) 11P土坑土層



(2) 11P土坑完掘狀況



(3) 15P土坑土層



(4) 15P土坑完掘狀況



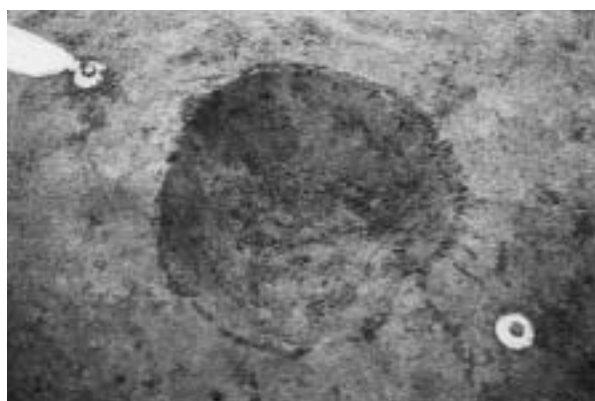
(5) 16P土坑土層



(6) 16P土坑完掘狀況



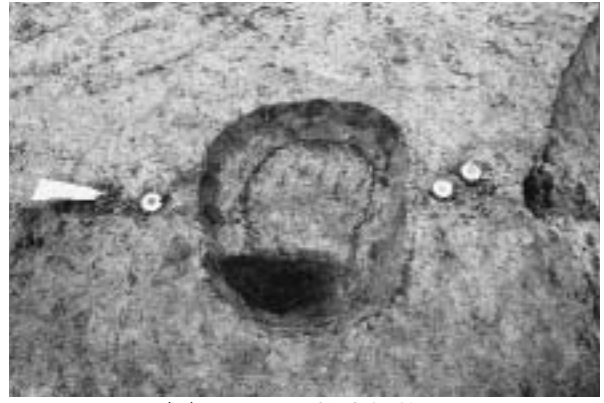
(7) 17P土坑土層



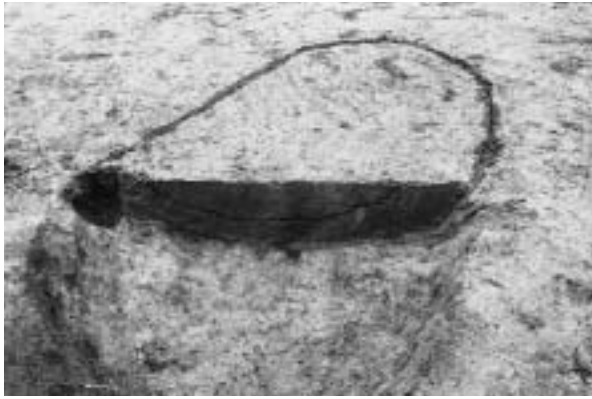
(8) 17P土坑完掘狀況



(1) 18P土坑土層



(2) 18P土坑完掘狀況



(3) 19P土坑土層



(4) 19P土坑完掘狀況



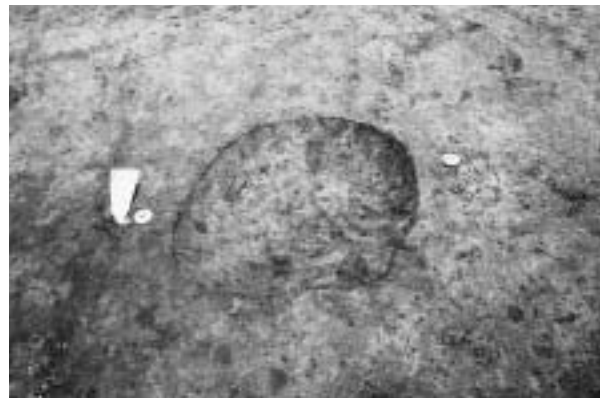
(5) 20P土坑土層



(6) 20P土坑完掘狀況



(7) 22P土坑土層



(8) 22P土坑完掘狀況



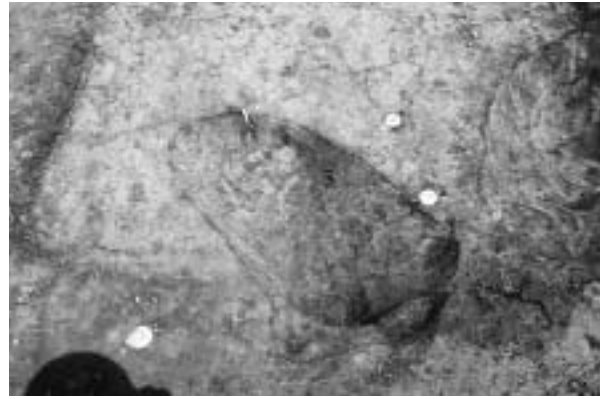
(1) 23P土坑土層



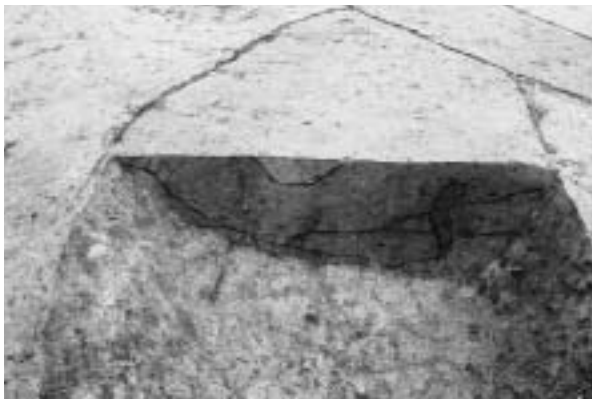
(2) 23P土坑完掘狀況



(3) 24P土坑土層



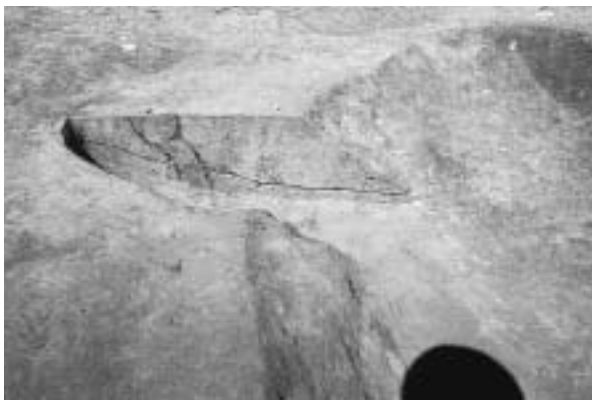
(4) 24P土坑完掘狀況



(5) 25P-A土坑土層



(6) 25P-A土坑完掘狀況



(7) 25P-B土坑土層



(8) 25P-B土坑完掘狀況



(1) 26P土坑土層



(2) 26P土坑完掘狀況



(3) 27P土坑土層



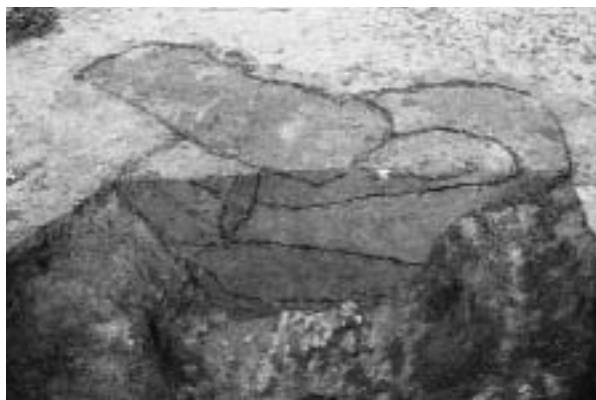
(4) 27P土坑完掘狀況



(5) 28P土坑土層



(6) 28P土坑完掘狀況



(7) 29P土坑土層



(8) 29P土坑完掘狀況



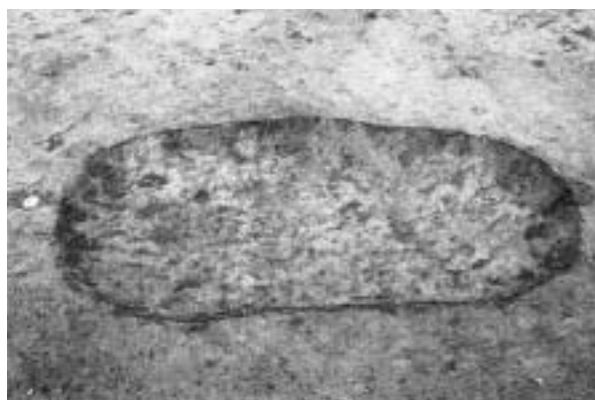
(1) 30P土坑土層



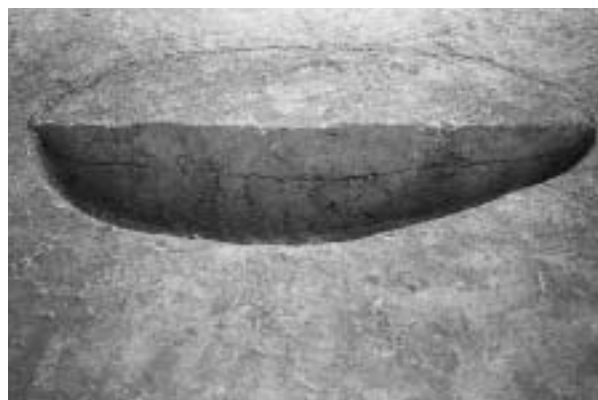
(2) 30P土坑完掘狀況



(3) 31P土坑土層



(4) 31P土坑完掘狀況



(5) 35P土坑土層



(6) 35P土坑完掘狀況



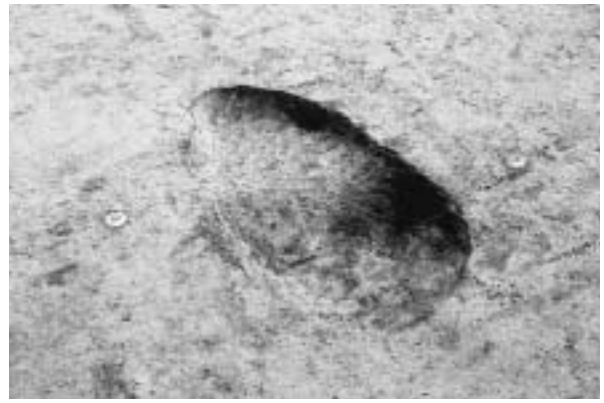
(7) 37P土坑土層



(8) 37P土坑完掘狀況



(1) 38P土坑土層



(2) 38P土坑完掘狀況



(3) 43P土坑土層



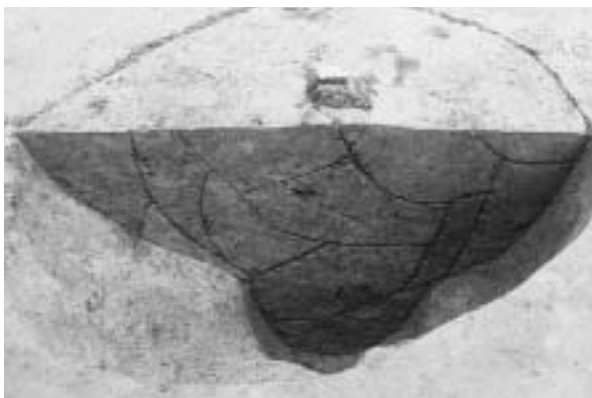
(4) 43P土坑完掘狀況



(5) 45P土坑土層



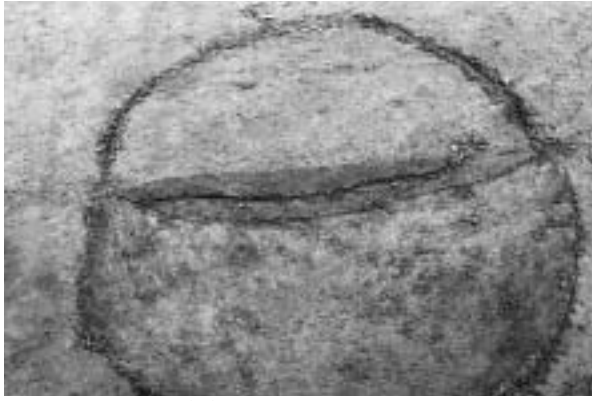
(6) 45P土坑完掘狀況



(7) 46P土坑土層



(8) 46P土坑完掘狀況



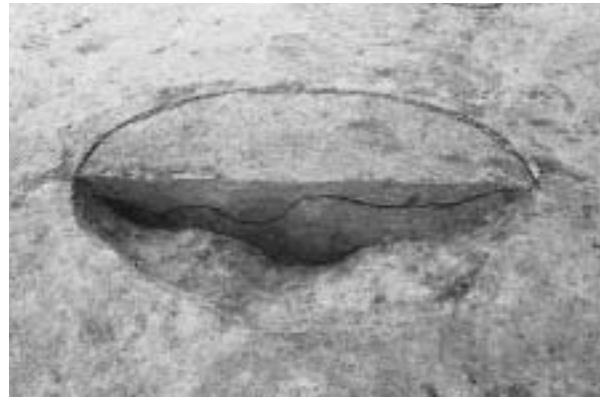
(1) 47P土坑土層



(2) 47P土坑完掘狀況



(3) 51P土坑完掘狀況



(4) 52P土坑土層



(5) 52P土坑完掘狀況



(6) 53P土坑完掘狀況



(7) 54P土坑土層



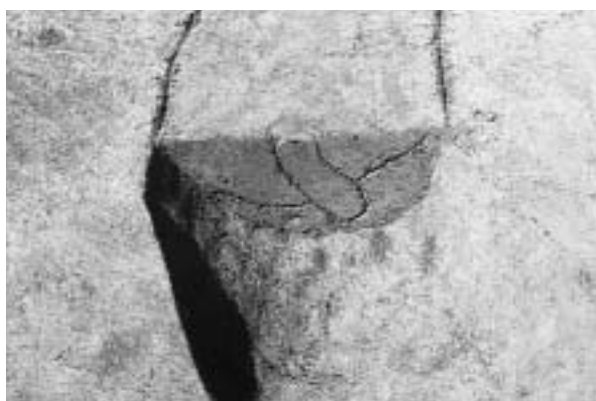
(8) 54P土坑完掘狀況



(1) 55P土坑土層



(2) 55P土坑完掘狀況



(3) 58P土坑土層



(4) 58P土坑完掘狀況



(5) 60P土坑土層



(6) 60P土坑完掘狀況



(7) 61P土坑土層



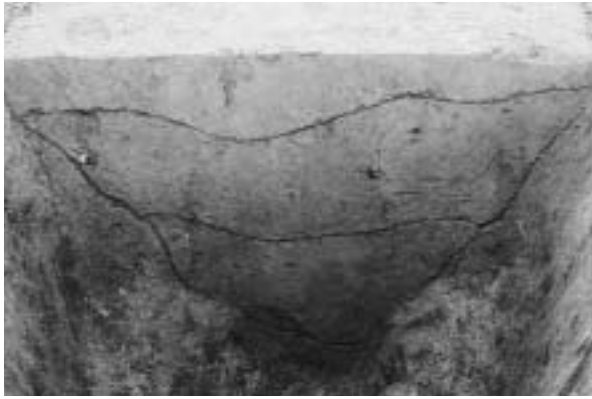
(8) 61P土坑完掘狀況



(1) 62P土坑土層



(2) 62P土坑完掘狀況



(3) 64P土坑土層



(4) 64P土坑完掘狀況



(5) 66P土坑土層



(6) 66P土坑完掘狀況



(7) 68P土坑土層



(8) 68P土坑完掘狀況



(1) 69P土坑土層



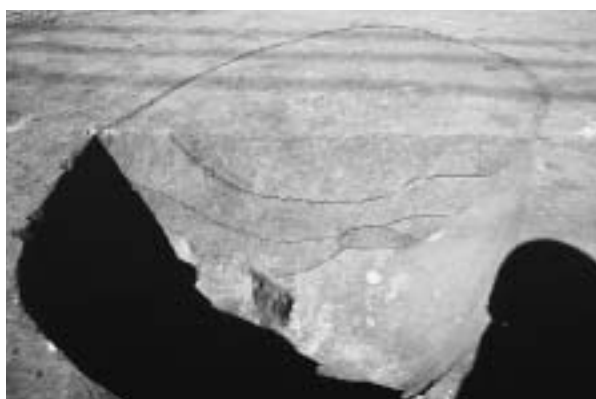
(2) 69P土坑完掘狀況



(3) 76P土坑土層



(4) 76P土坑完掘狀況



(5) 77P土坑土層



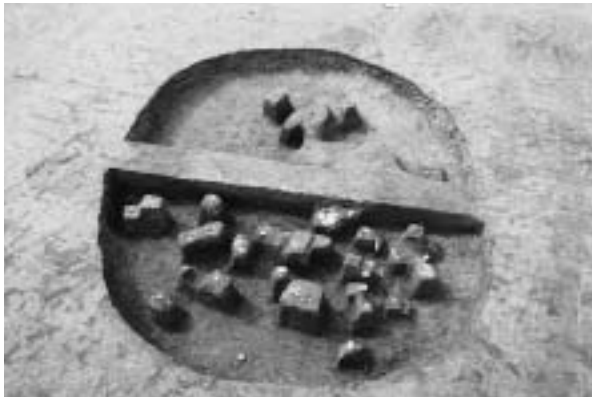
(6) 77P土坑完掘狀況



(7) 81P土坑土層



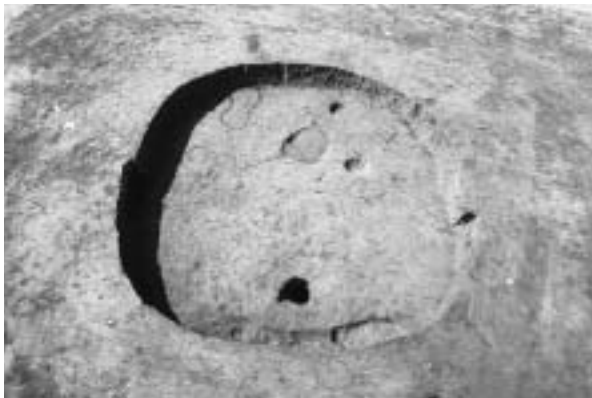
(8) 81P土坑完掘狀況



(1) 13D住居跡遺物出土状況



(2) 13D住居跡土層



(3) 13D住居跡完掘状況



(4) 13D住居跡炉跡完掘状況



(5) 15D住居跡遺物出土状況



(6) 15D住居跡完掘状況



(7) 16D住居跡遺物出土状況



(8) 16D住居跡完掘状況



(1) 18D住居跡遺物出土状況



(2) 18D住居跡完掘状況



(3) 26D住居跡遺物出土状況



(4) 26D住居跡完掘状況



(5) 1D住居跡土層



(6) 1D住居跡遺物出土状況



(7) 1D住居跡完掘状況



(8) 1D住居跡 P1周辺完掘状況



(1) 2D住居跡床直上遺物集中部



(2) 2D住居跡完掘状況



(3) 3D住居跡覆土上層遺物出土状況



(4) 3D住居跡土器・鉄滓出土状況



(5) 3D住居跡P5内器台No.21出土状況



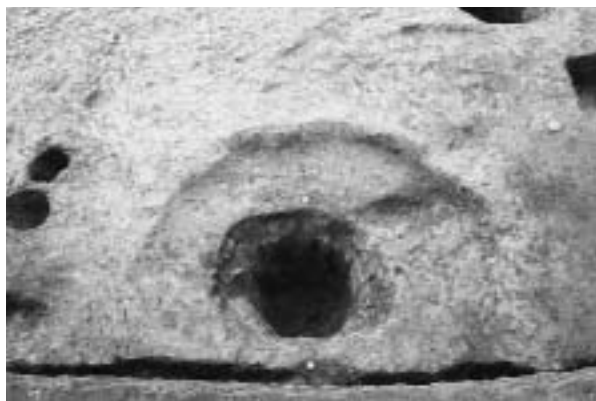
(6) 3D住居跡土層



(7) 3D住居跡完掘状況



(8) 3D住居跡P5・周堤帯完掘状況



(1) 3D住居跡P5完掘状況



(2) 4D住居跡完掘状況



(3) 6D住居跡土層



(4) 6D住居跡完掘状況



(5) 7D住居跡P1内遺物出土状況



(6) 7D住居跡完掘状況



(7) 7D住居跡貼床



(8) 7D住居跡貼床完掘状況



(1) 8D住居跡遺物・炭化材出土状況



(2) 8D住居跡完掘状況



(3) 9D住居跡土層



(4) 9D住居跡炭化材出土状況



(5) 9D住居跡完掘状況



(6) 9D住居跡P1周辺



(7) 10D住居跡遺物出土状況



(8) 10D住居跡完掘状況



(1) 11D住居跡遺物出土状況



(2) 11D住居跡土層



(3) 11D住居跡遺物出土状況 - 1 -



(4) 11D住居跡遺物出土状況 - 2 -



(5) 11D住居跡・炉跡内遺物出土状況



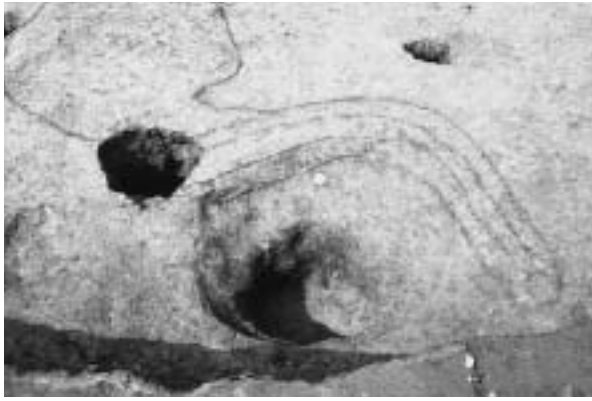
(6) 11D住居跡炭化材出土状況 - 1 -



(7) 11D住居跡炭化材出土状況 - 2 -



(8) 11D住居跡完掘状況



(1) 11D住居跡 P5・周堤帯完掘状況



(2) 11D住居跡掘り方検出状況



(3) 12D住居跡遺物出土状況



(4) 12D住居跡遺物出土状況



(5) 12D-A住居跡完掘状況



(6) 12D-B住居跡完掘状況



(7) 14D住居跡遺物出土状況



(8) 14D住居跡床面検出状況



(1) 17D住居跡遺物出土狀況 - 1 -



(2) 17D住居跡遺物出土狀況 - 2 -



(3) 17D住居跡完掘狀況



(4) 19D住居跡遺物出土狀況



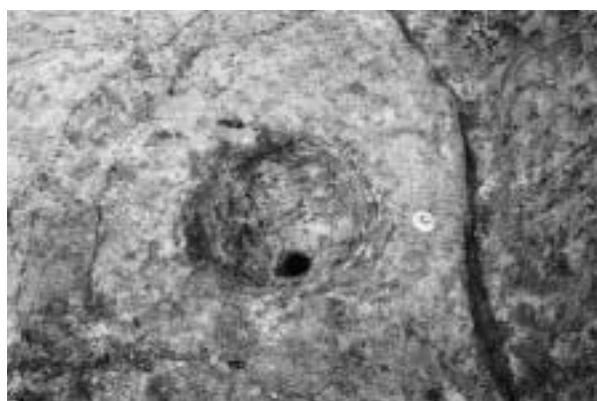
(5) 19D住居跡炭化材検出狀況



(6) 19D住居跡完掘狀況



(7) 19D住居跡床面検出狀況



(8) 19D住居跡P1完掘狀況



(1) 20D住居跡炭化材・遺物出土状況



(2) 20D住居跡遺物出土状況



(3) 20D住居跡P2土層



(4) 20D住居跡完掘状況



(5) 20D住居跡炉跡完掘状況



(6) 20D住居跡P6周辺完掘状況



(7) 21D住居跡遺物出土状況



(8) 21D住居跡西コーナー遺物出土状況



(1) 21D住居跡完掘状況



(2) 21D住居跡P1完掘状況



(3) 22D住居跡遺物・炭化材出土状況



(4) 22D住居跡遺物出土状況 - 1 -



(5) 22D住居跡遺物出土状況 - 2 -



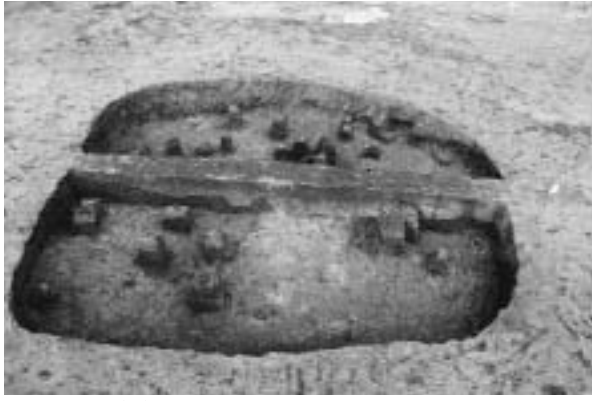
(6) 22D住居跡炭化材出土状況



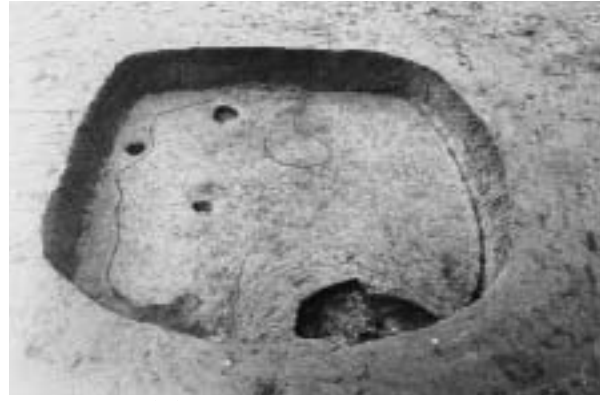
(7) 22D住居跡床面検出状況



(8) 22D住居跡P1・周堤帯完掘状況



(1) 23D住居跡遺物出土状況



(2) 23D住居跡完掘状況



(3) 24D住居跡遺物出土状況



(4) 24D住居跡完掘状況



(5) 25D住居跡遺物出土状況



(6) 25D住居跡貼床検出状況



(7) 25D住居跡P1内遺物出土状況



(8) 25D住居跡P1完掘状況



(1) 1H掘立柱建物跡P1土層



(2) 1H掘立柱建物跡P1完掘狀況



(3) 1H掘立柱建物跡P2土層



(4) 1H掘立柱建物跡P2完掘狀況



(5) 1H掘立柱建物跡P3土層



(6) 1H掘立柱建物跡P3完掘狀況



(7) 1H掘立柱建物跡P4土層



(8) 1H掘立柱建物跡P4完掘狀況



(1) 1H掘立柱建物跡P5土層



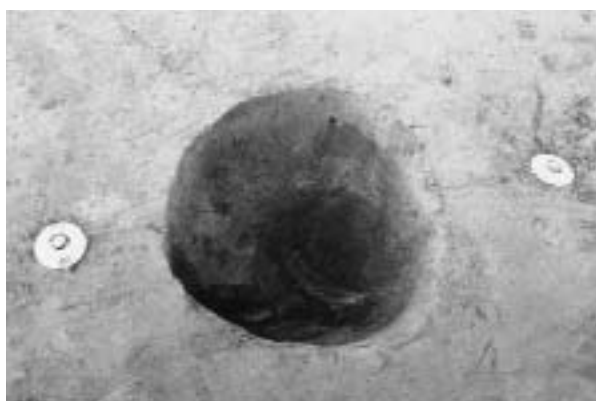
(2) 1H掘立柱建物跡P5完掘狀況



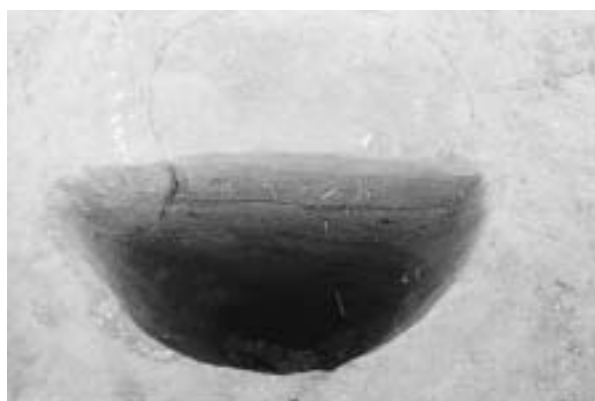
(3) 1H掘立柱建物跡完掘狀況



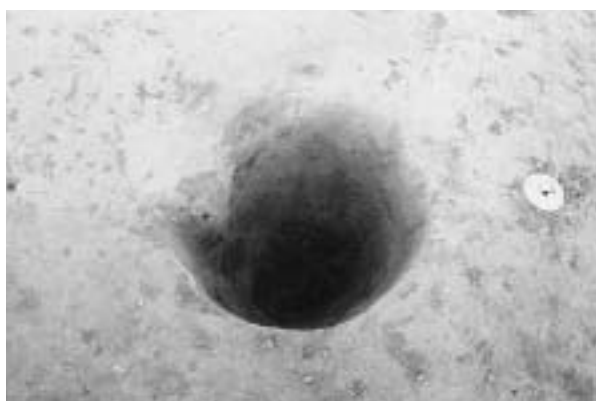
(4) 2H掘立柱建物跡P7土層



(5) 2H掘立柱建物跡P7完掘狀況



(6) 2H掘立柱建物跡P12土層



(7) 2H掘立柱建物跡P12完掘狀況



(8) 2H掘立柱建物跡完掘狀況



(1) 21P土坑土層



(2) 21P土坑完掘狀況



(3) 48P土坑土層



(4) 48P土坑完掘狀況



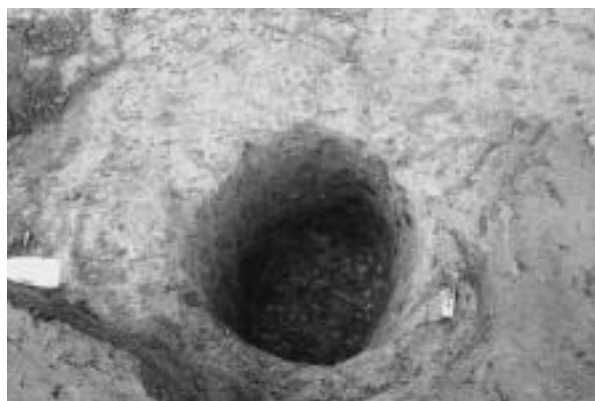
(5) 49P土坑土層



(6) 49P土坑遺物出土狀況



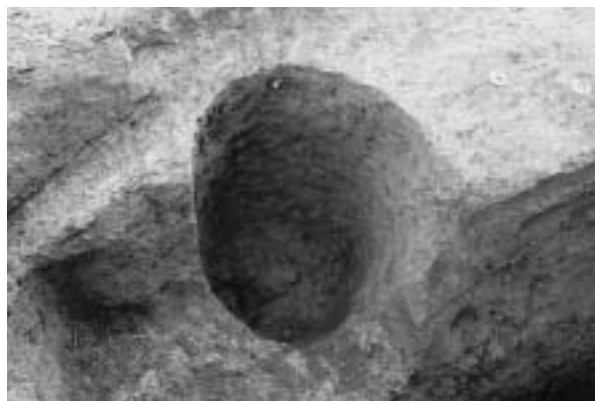
(7) 49P土坑完掘狀況



(8) 56P土坑完掘狀況



(1) 59P土坑土層



(2) 59P土坑完掘狀況



(3) 67P土坑土層



(4) 67P土坑完掘狀況



(5) 70P土坑土層



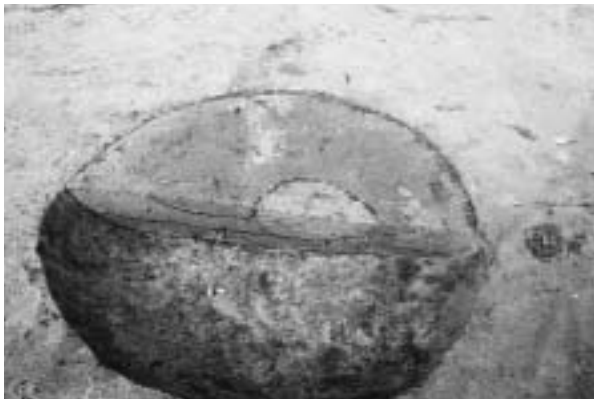
(6) 70P土坑完掘狀況



(7) 78P土坑土層



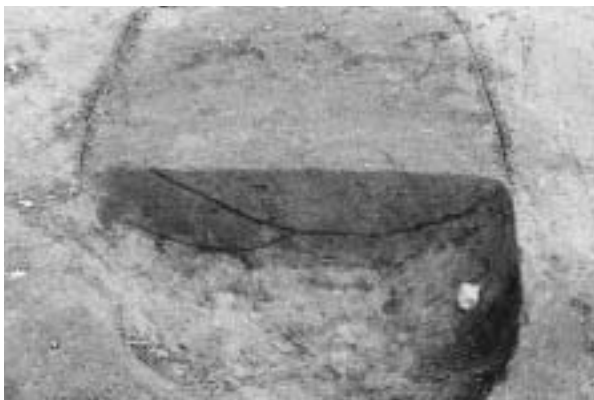
(8) 78P土坑完掘狀況



(1) 79P土坑土層



(2) 79P土坑完掘狀況



(3) 82P土坑土層



(4) 82P土坑完掘狀況



(5) 83P土坑土層



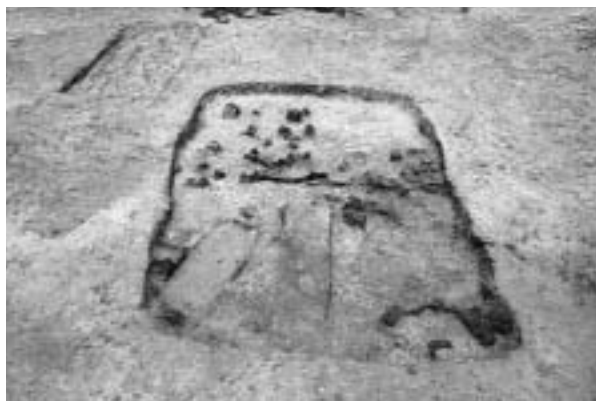
(6) 83P土坑完掘狀況



(7) 85P土坑土層



(8) 85P土坑完掘狀況



(1) 5D住居跡炭化材・遺物出土状況



(2) 5D住居跡炭化材出土状況



(3) 5D住居跡刀子出土状況



(4) 5D住居跡鉄斧出土状況



(5) 5D住居跡完掘状況



(6) 5D住居跡掘り方完掘状況



(7) 2M溝完掘状況



(8) 3M溝完掘状況



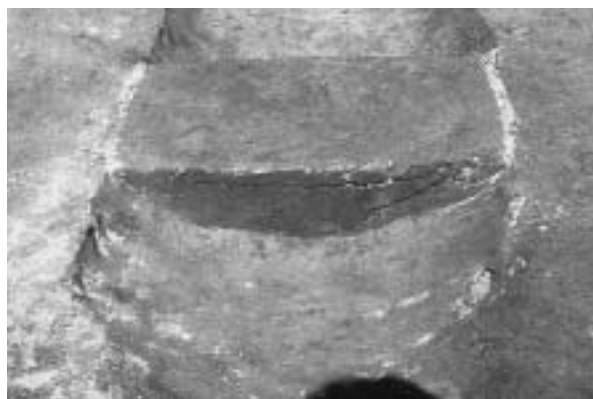
(1) 4M溝完掘狀況



(2) 5M溝遺物出土狀況, 土層



(3) 5M溝遺物出土狀況, 土層



(4) 6M溝土層



(5) 6M溝完掘狀況



(6) 7M溝北東部遺物出土狀況



(7) 7M溝完掘狀況 — 1 —



(8) 7M溝完掘狀況 — 2 —



(1) 8M溝遺物出土状況



(2) 9M溝遺物出土状況



(3) 9M溝完掘状況 - 1 -



(4) 9M溝完掘状況 - 2 -

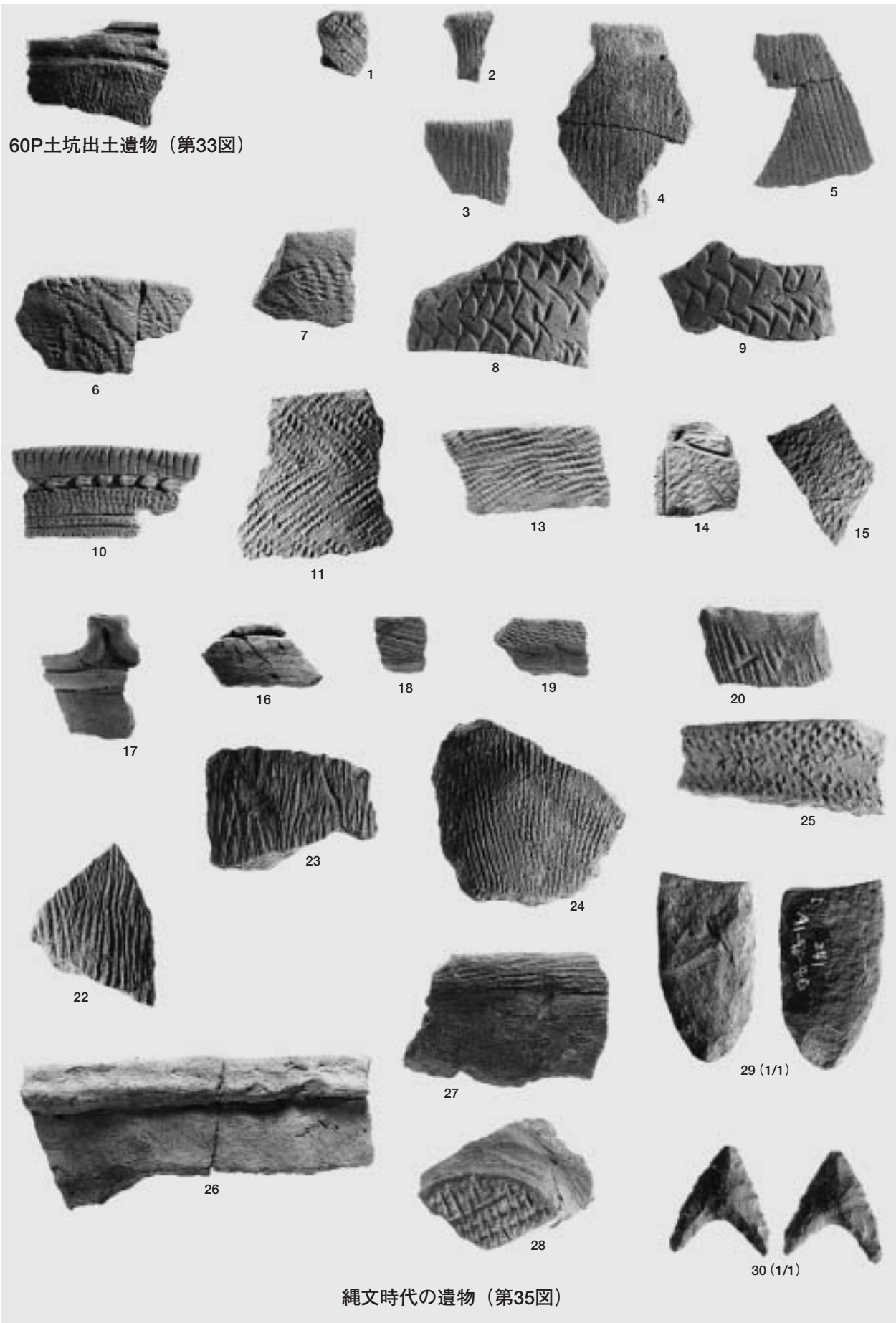


(5) 10M溝南端遺物出土状況

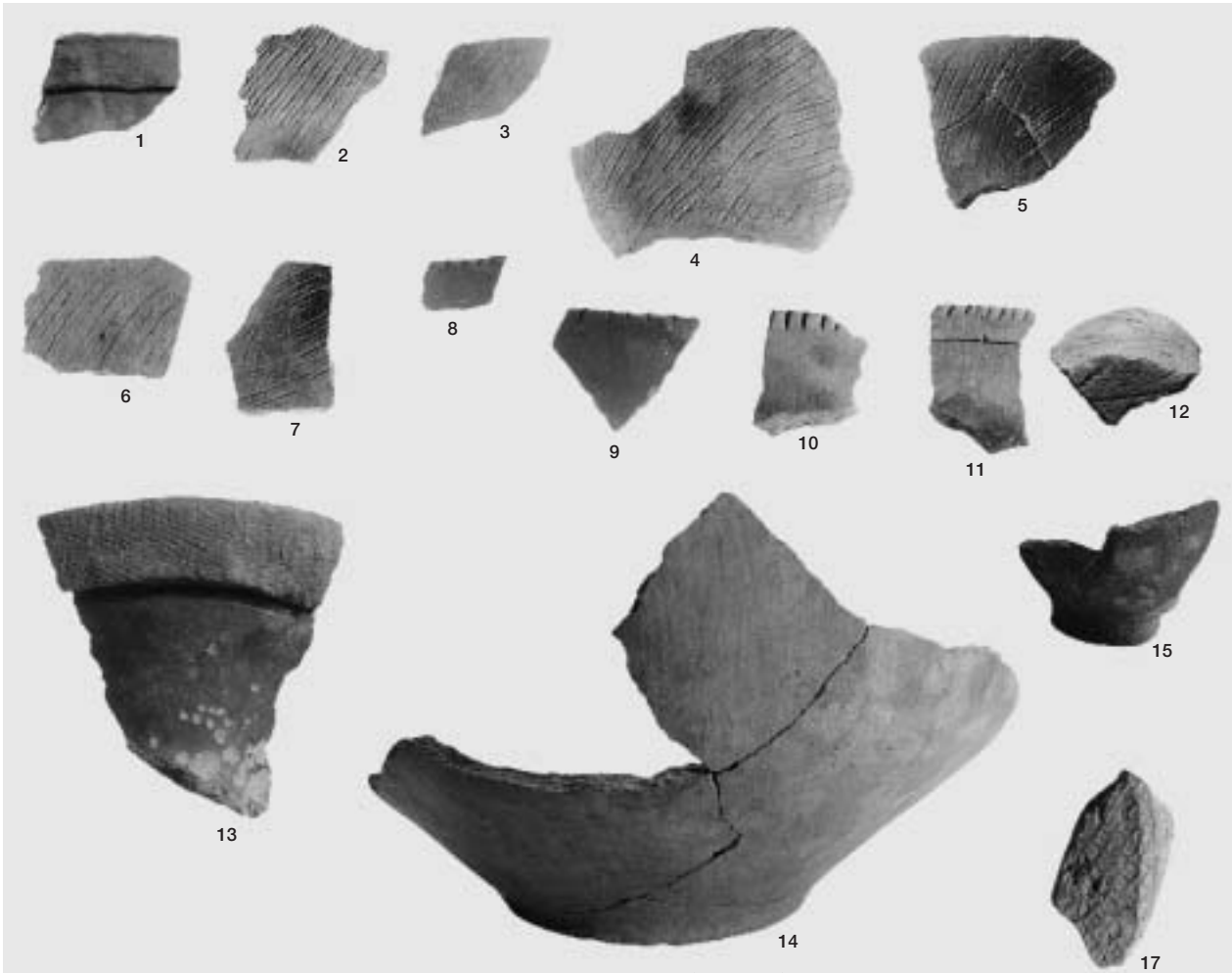


(6) 10M溝完掘状況

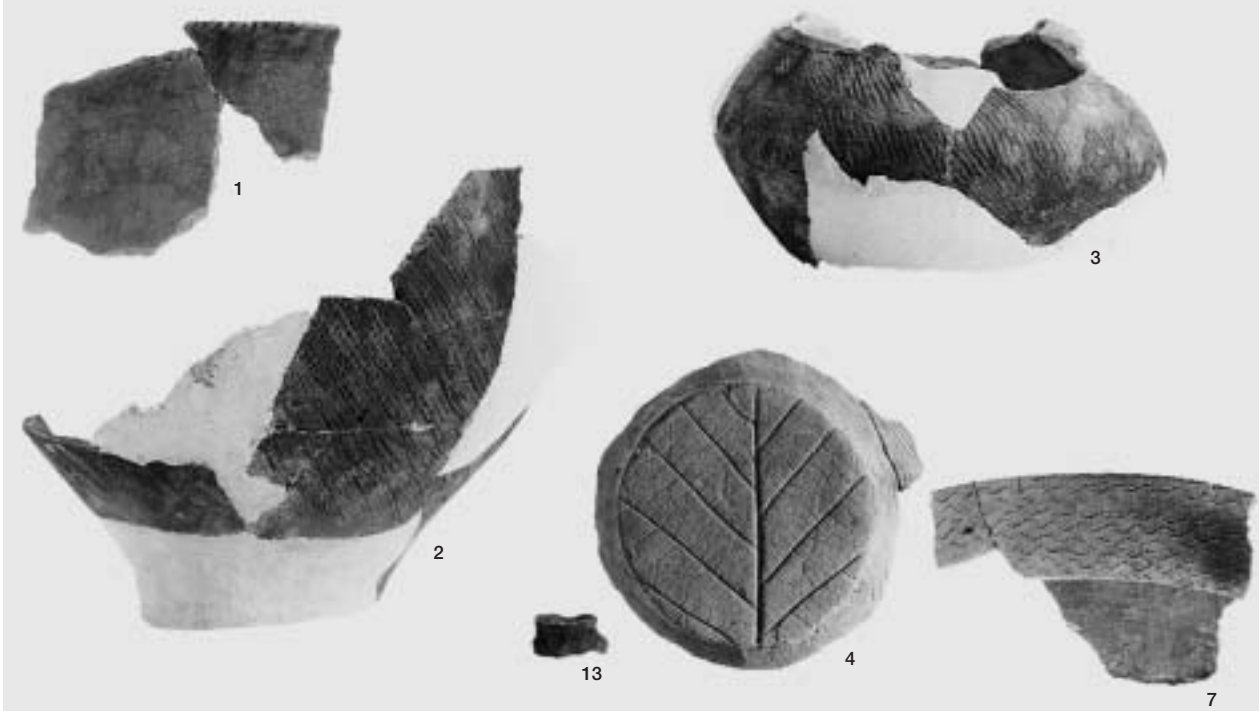
60P土坑出土遺物 (第33図)



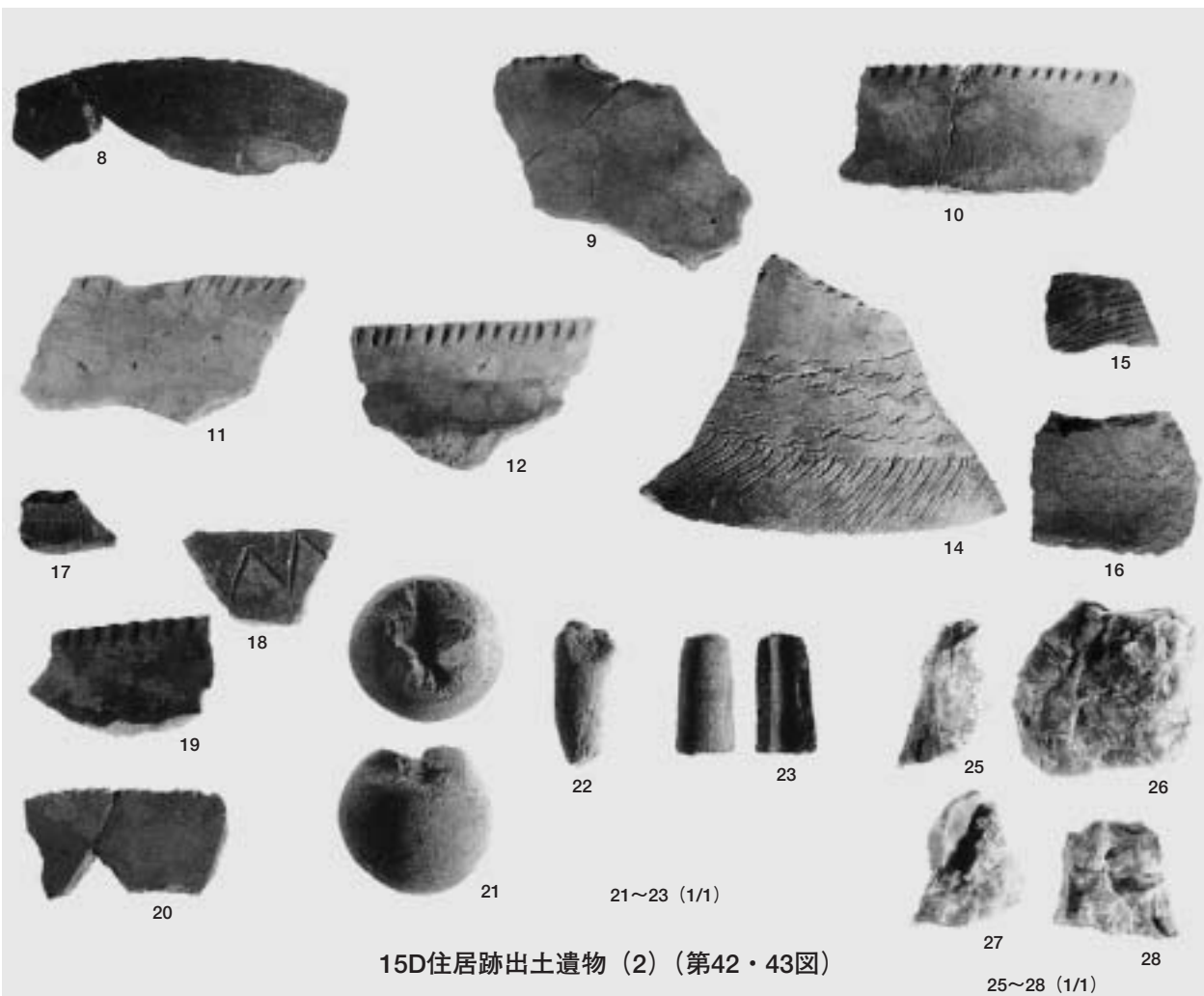
縄文時代の遺物 (第35図)



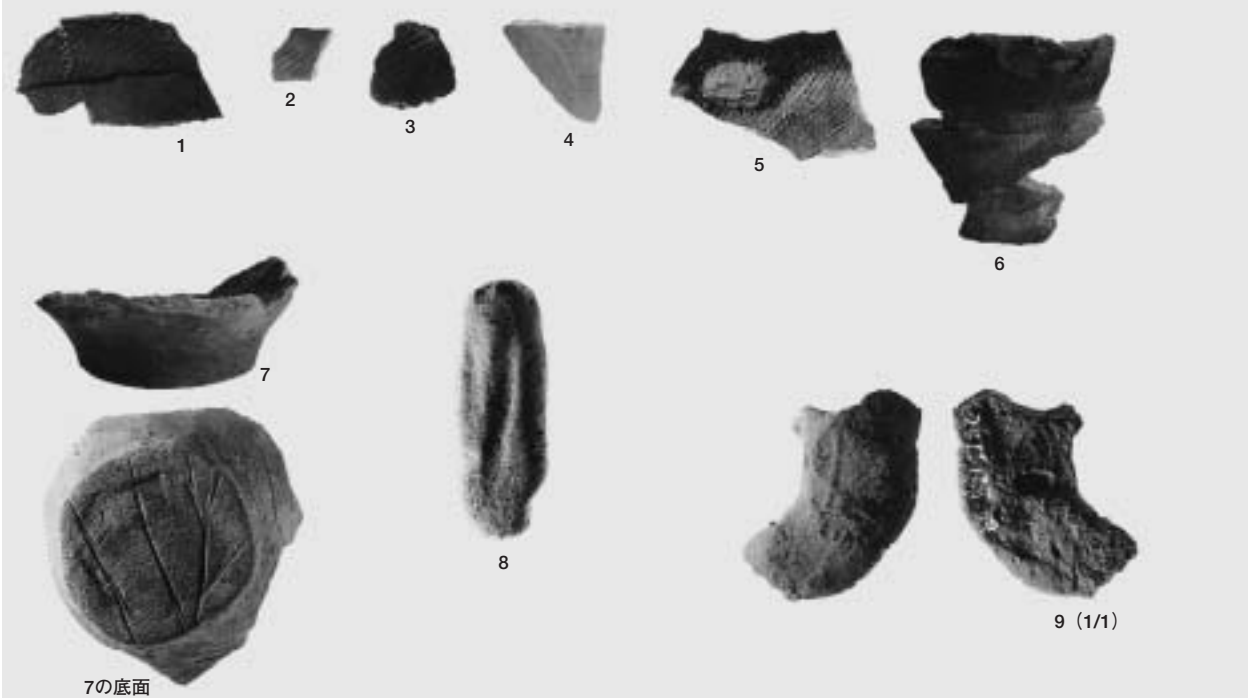
13D住居跡出土遺物 (第39図)



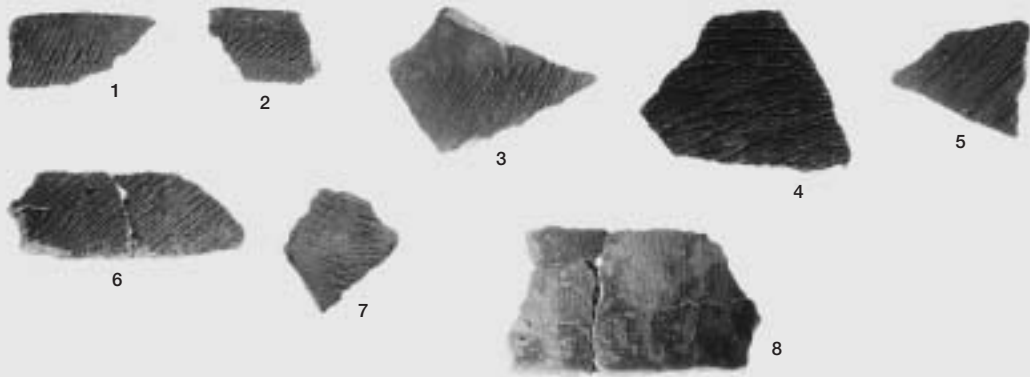
15D住居跡出土遺物 (1) (第42図)



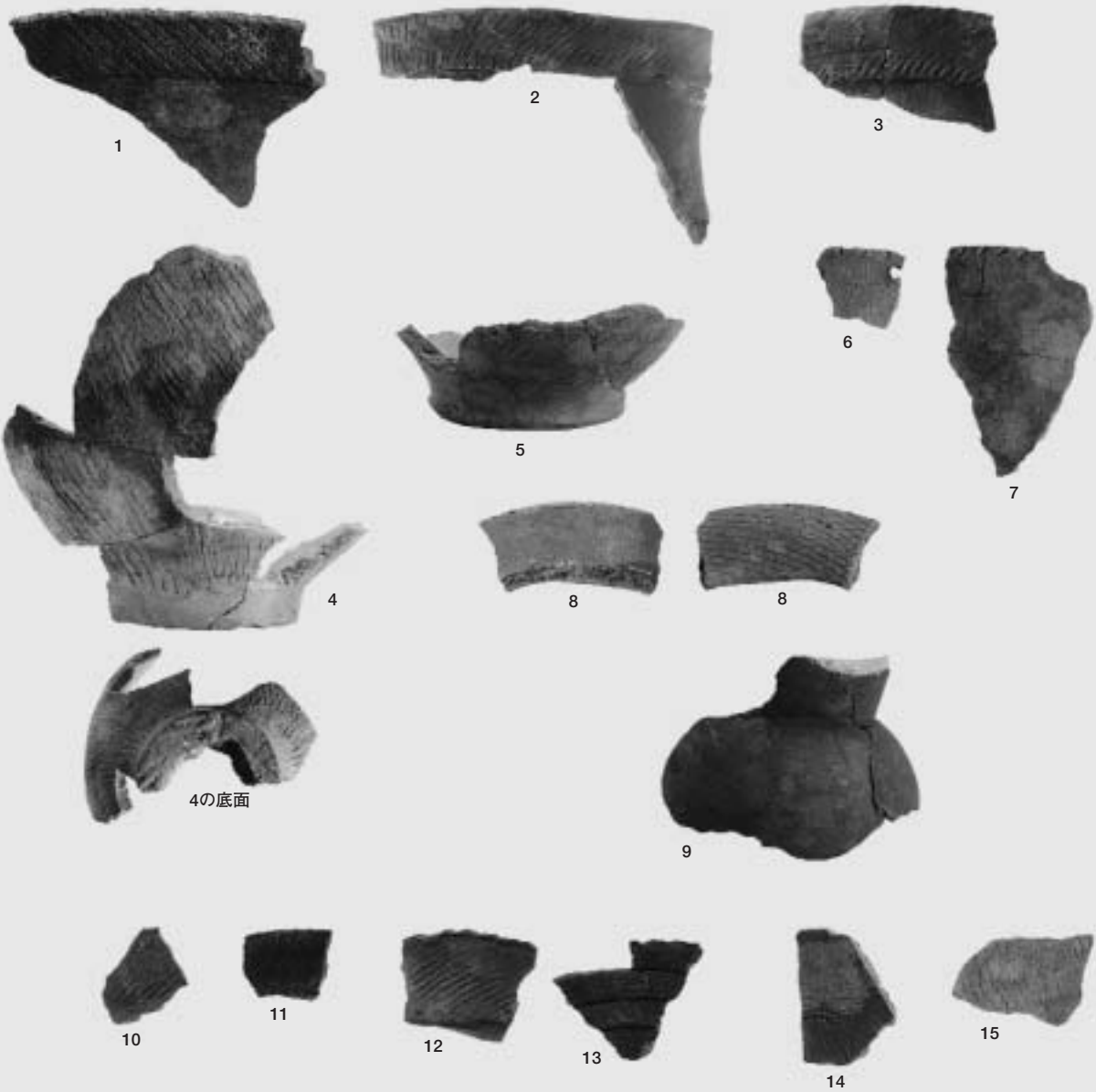
15D住居跡出土遺物 (2) (第42・43図)



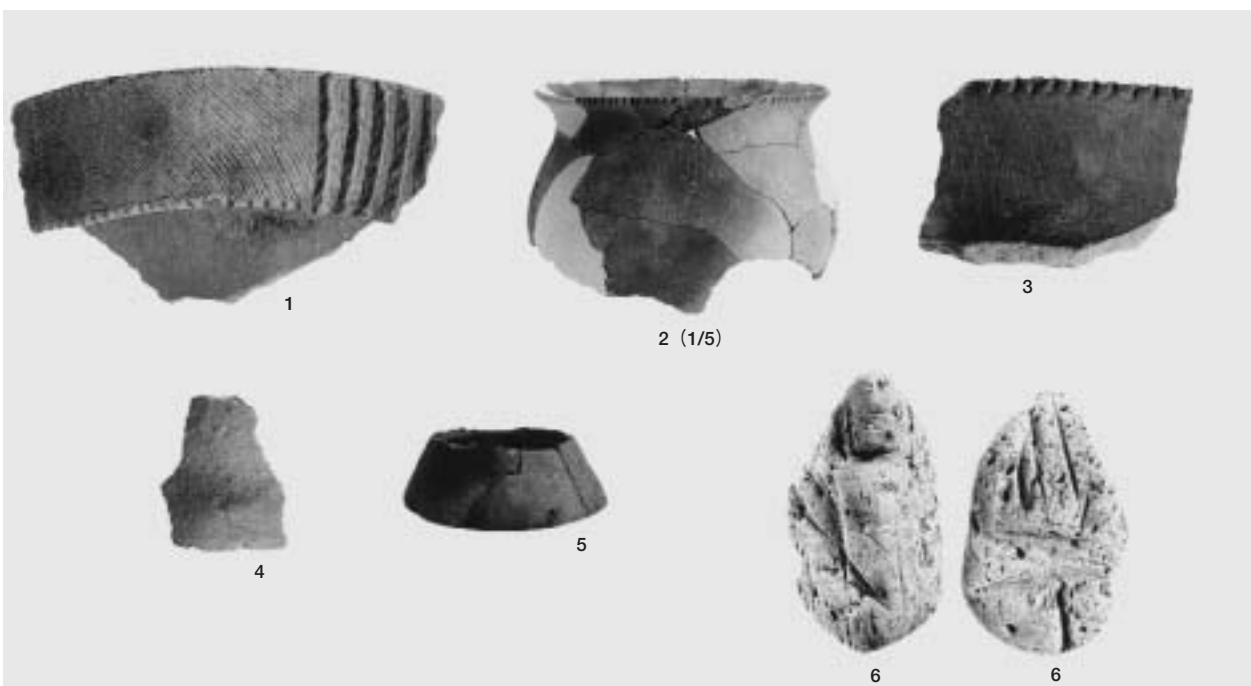
16D住居跡出土遺物 (第45図)



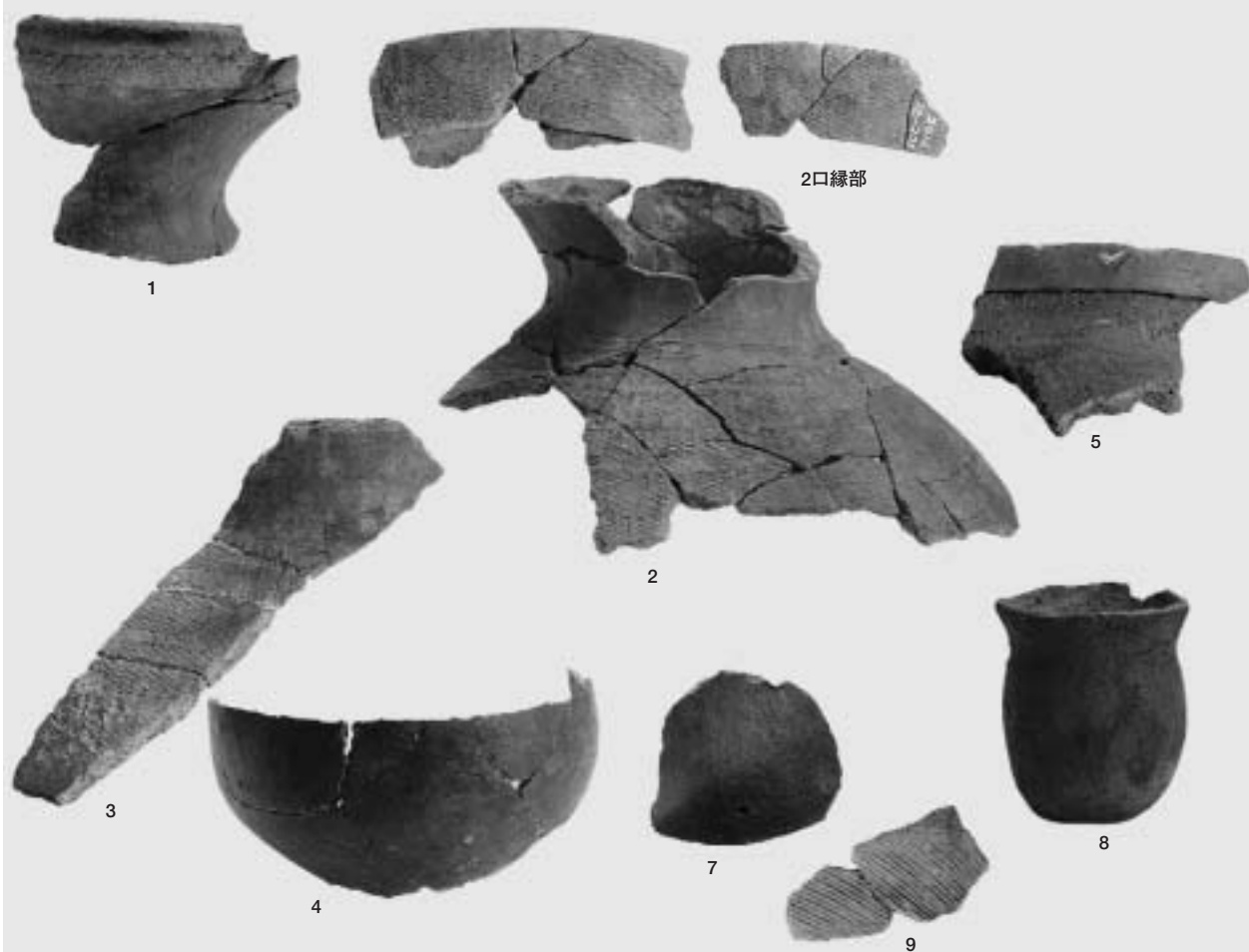
18D住居跡出土遺物 (第47図)



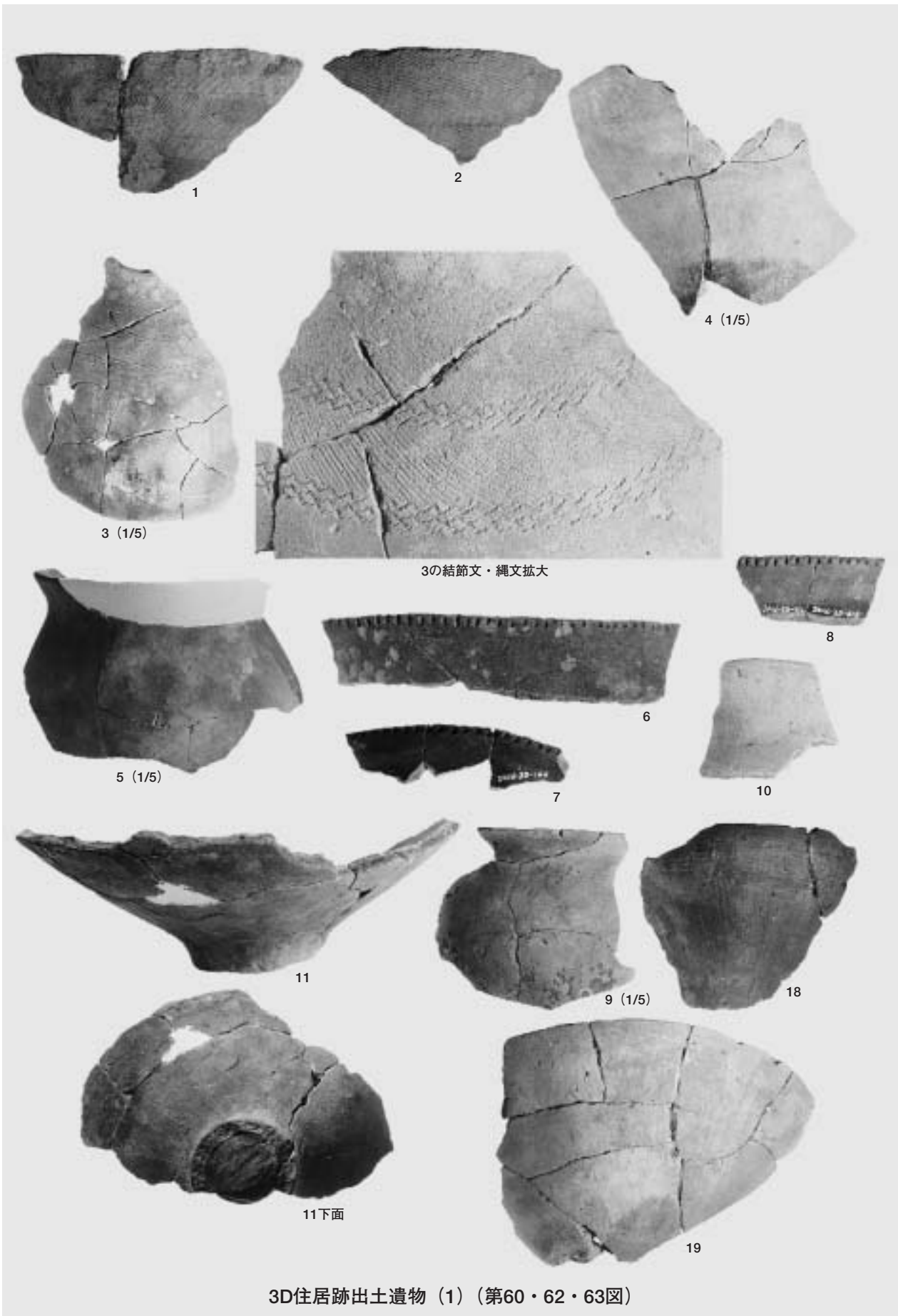
26D住居跡出土遺物 (第49図)



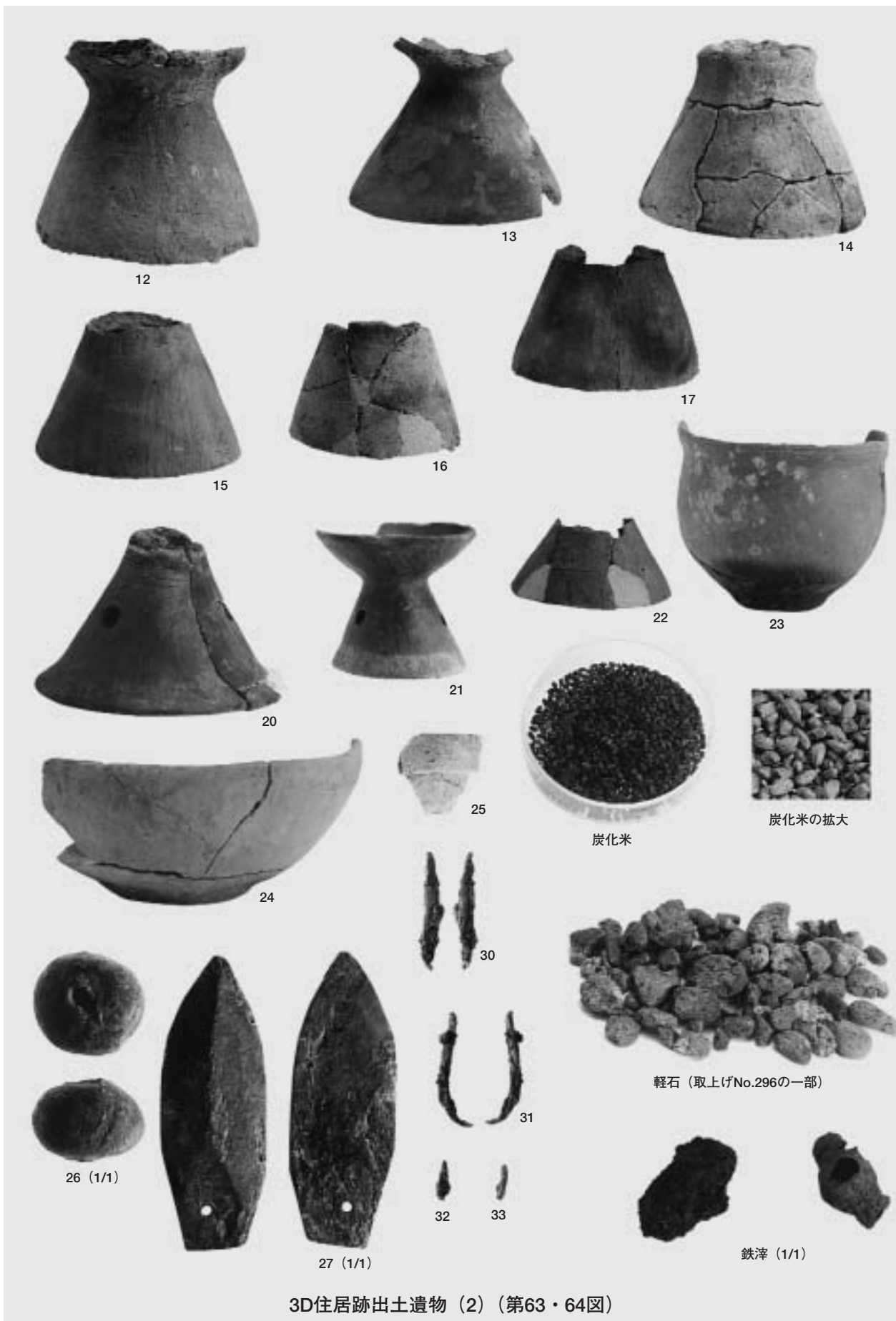
1D住居跡出土遺物 (第53図)



2D住居跡出土遺物 (第55図)



3D住居跡出土遺物 (1) (第60・62・63図)



3D住居跡出土遺物 (2) (第63・64図)



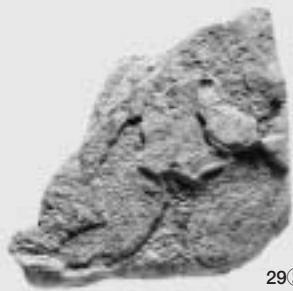
29①②侧面



29①内面



29②内面



29②外面 (1/5)



29①外面 (1/5)

3D住居跡出土遺物 (3) (第64図)

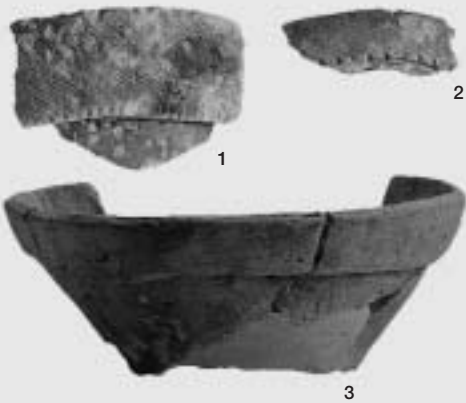


4D住居跡出土遺物 (第66図)

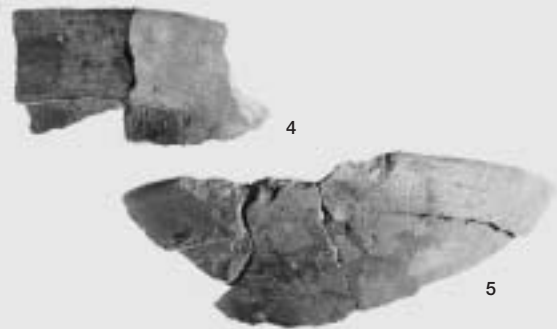


3 (1/1)

6D住居跡出土遺物 (第68図)



7D住居跡出土遺物 (1) (第70図)

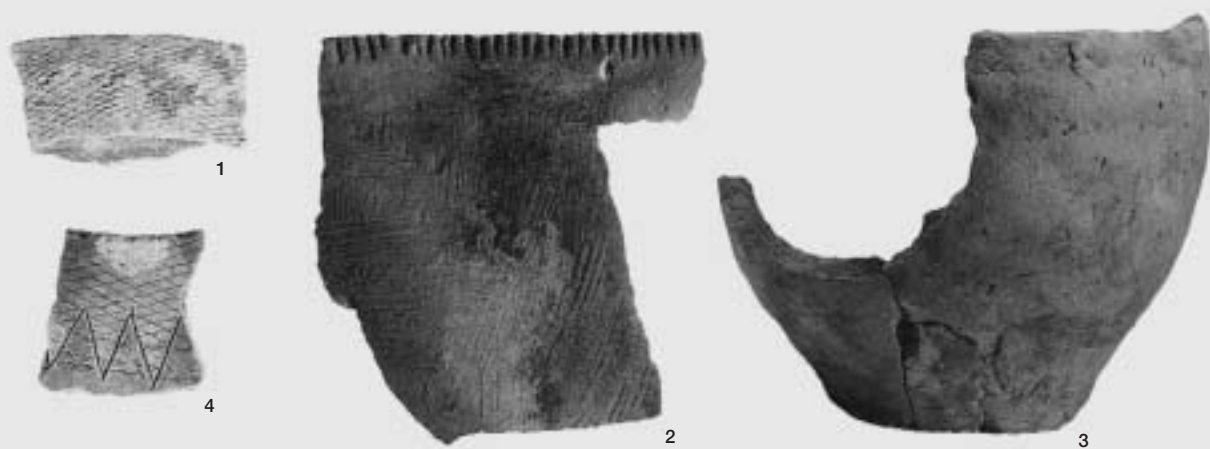




7D住居跡出土遺物 (2) (第70図)



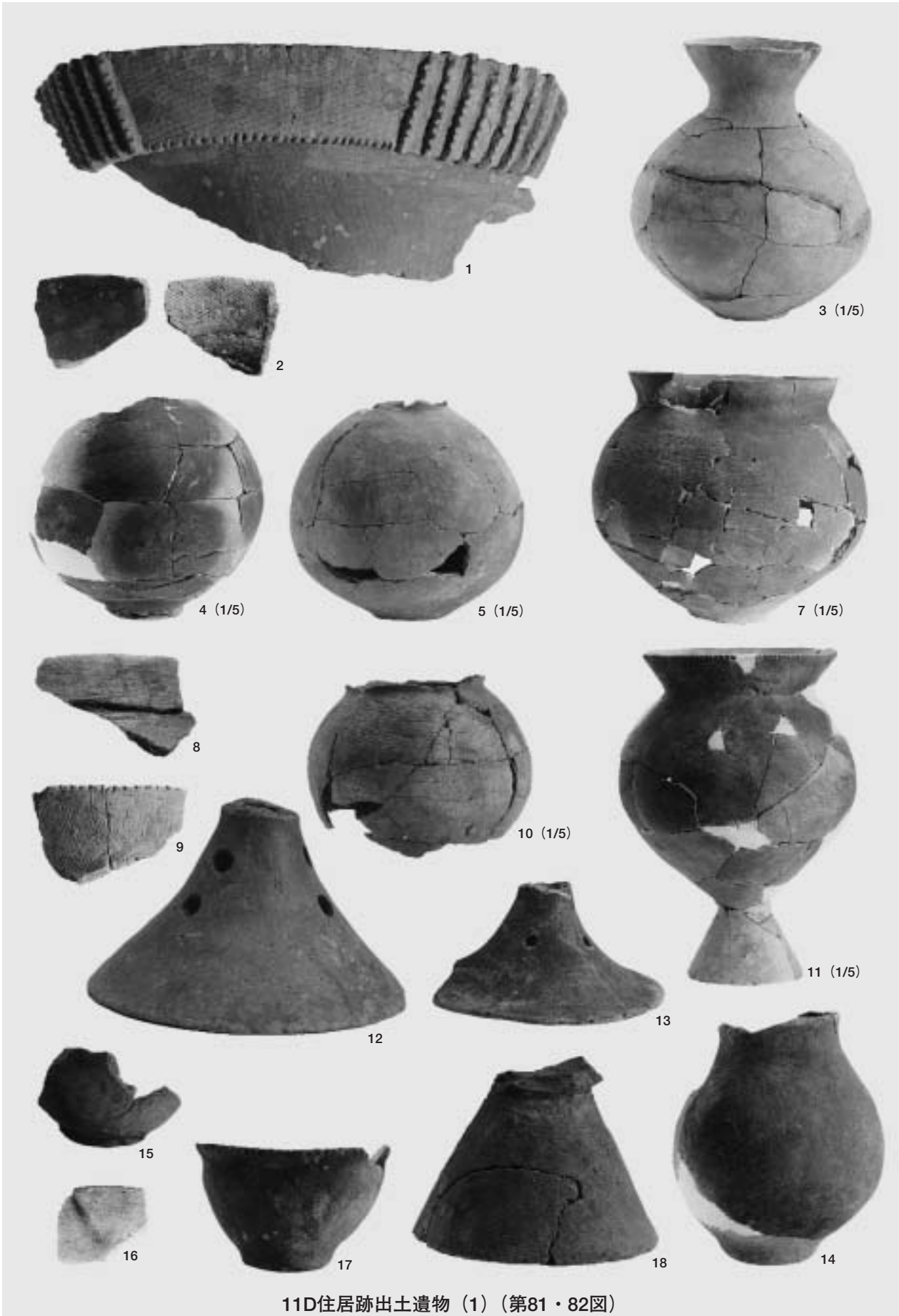
8D住居跡出土遺物 (第72図)



9D住居跡出土遺物 (第75図)



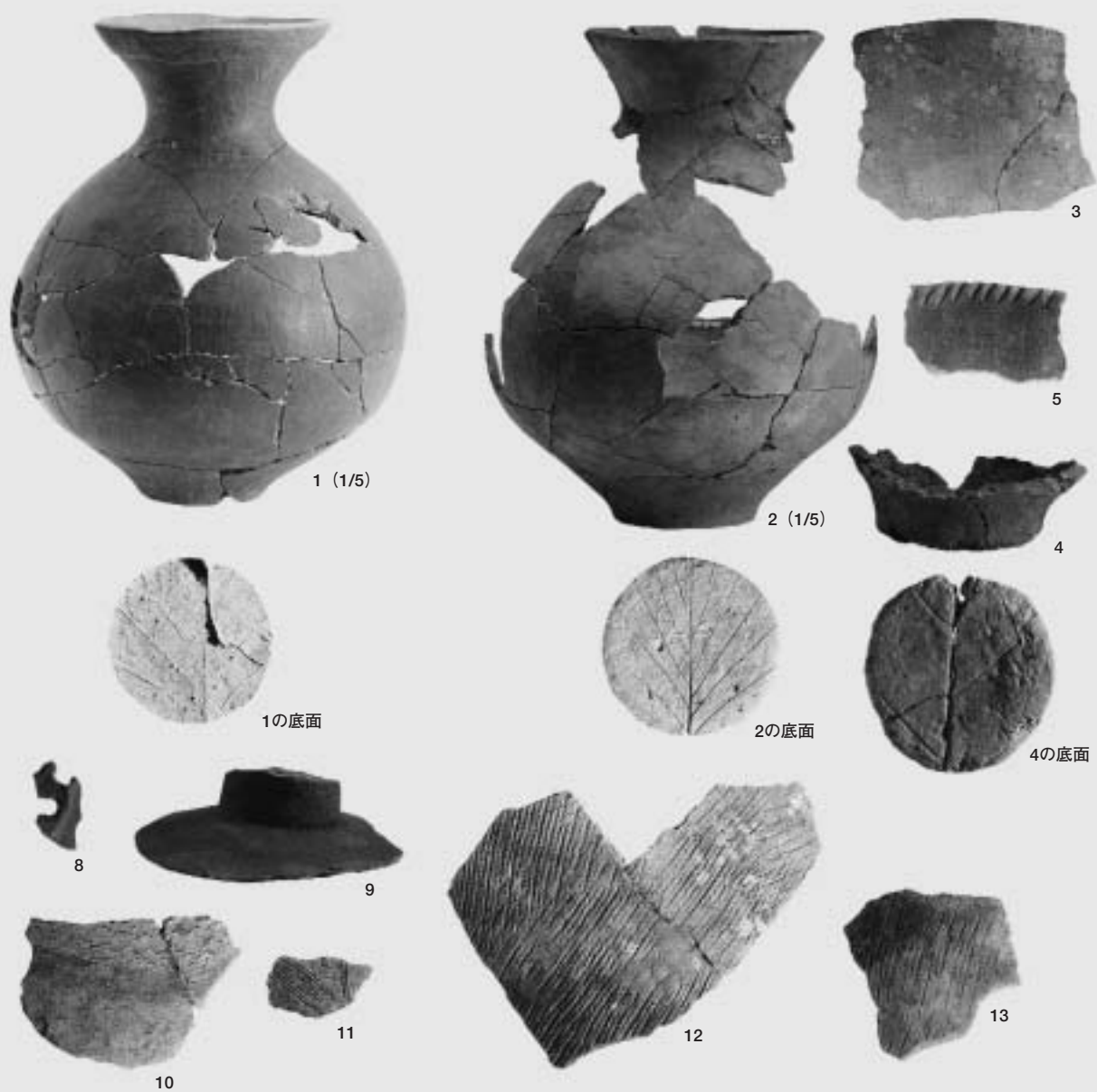
10D住居跡出土遺物 (第77図)



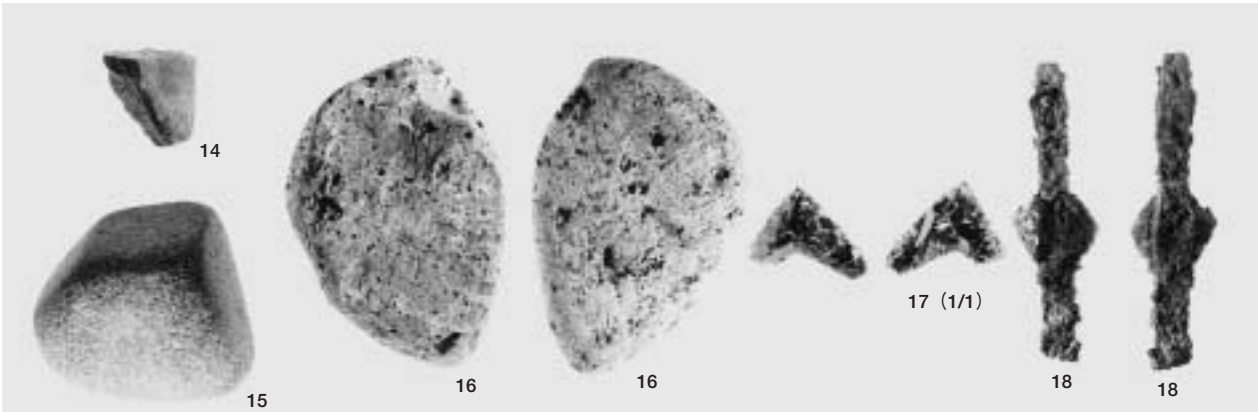
11D住居跡出土遺物 (1) (第81・82図)



11D住居跡出土遺物 (2) (第82図)



12D住居跡出土遺物 (1) (第86・87図)



12D住居跡出土遺物 (2) (第87図)

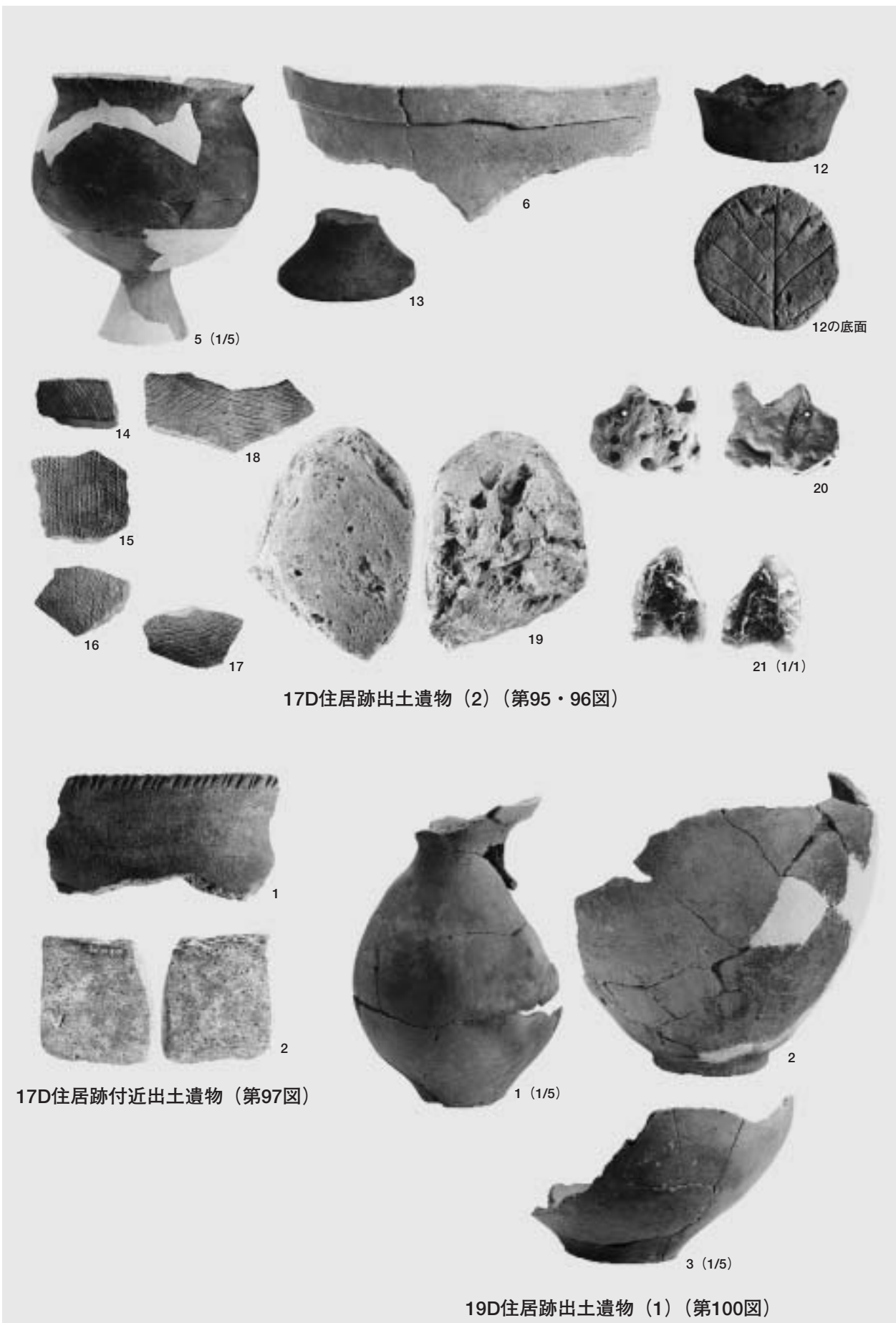


14D住居跡出土遺物 (第91図)

12D住居跡付近出土遺物 (第88図)



17D住居跡出土遺物 (1) (第95図)



17D住居跡出土遺物 (2) (第95・96図)

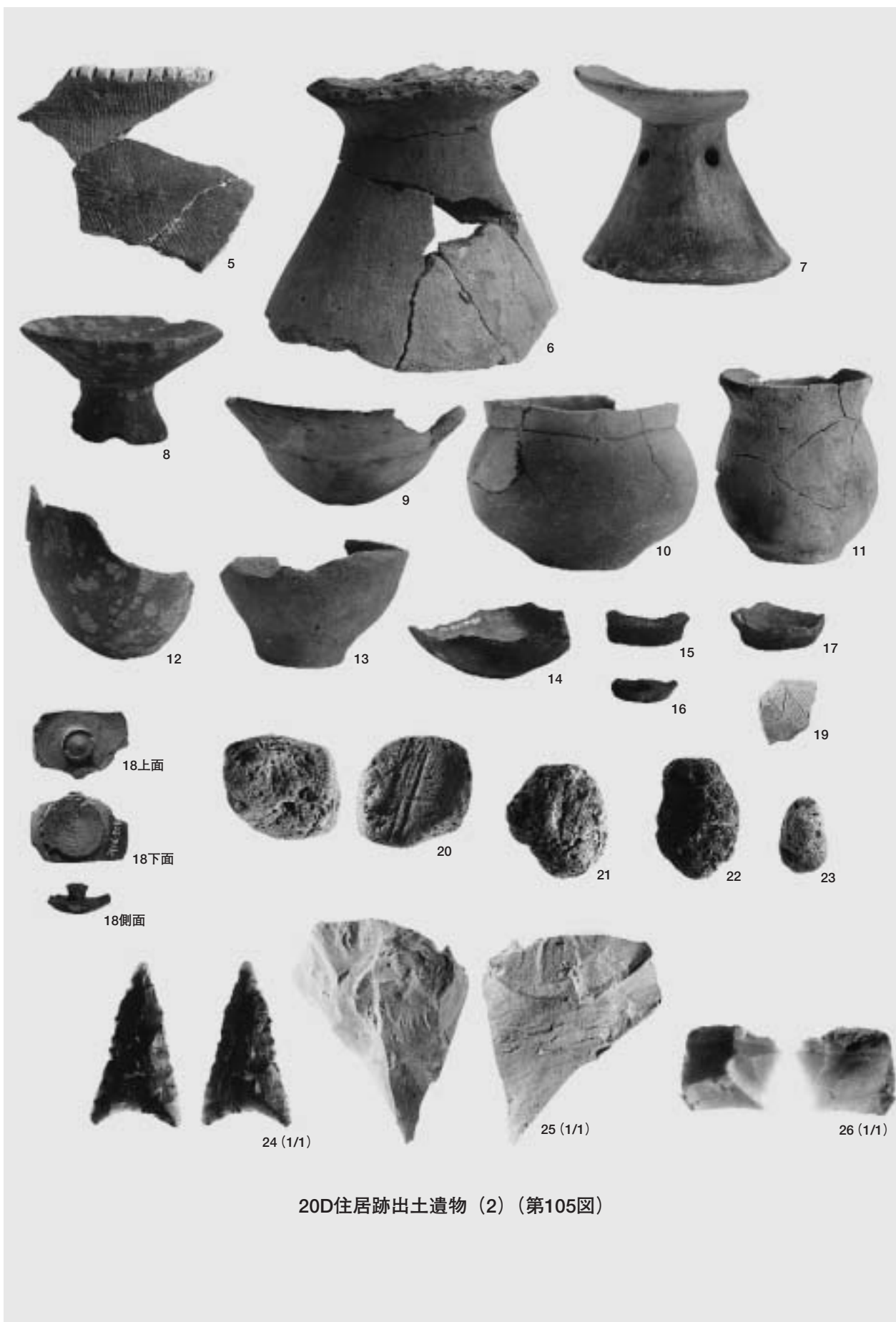
17D住居跡付近出土遺物 (第97図)

19D住居跡出土遺物 (1) (第100図)

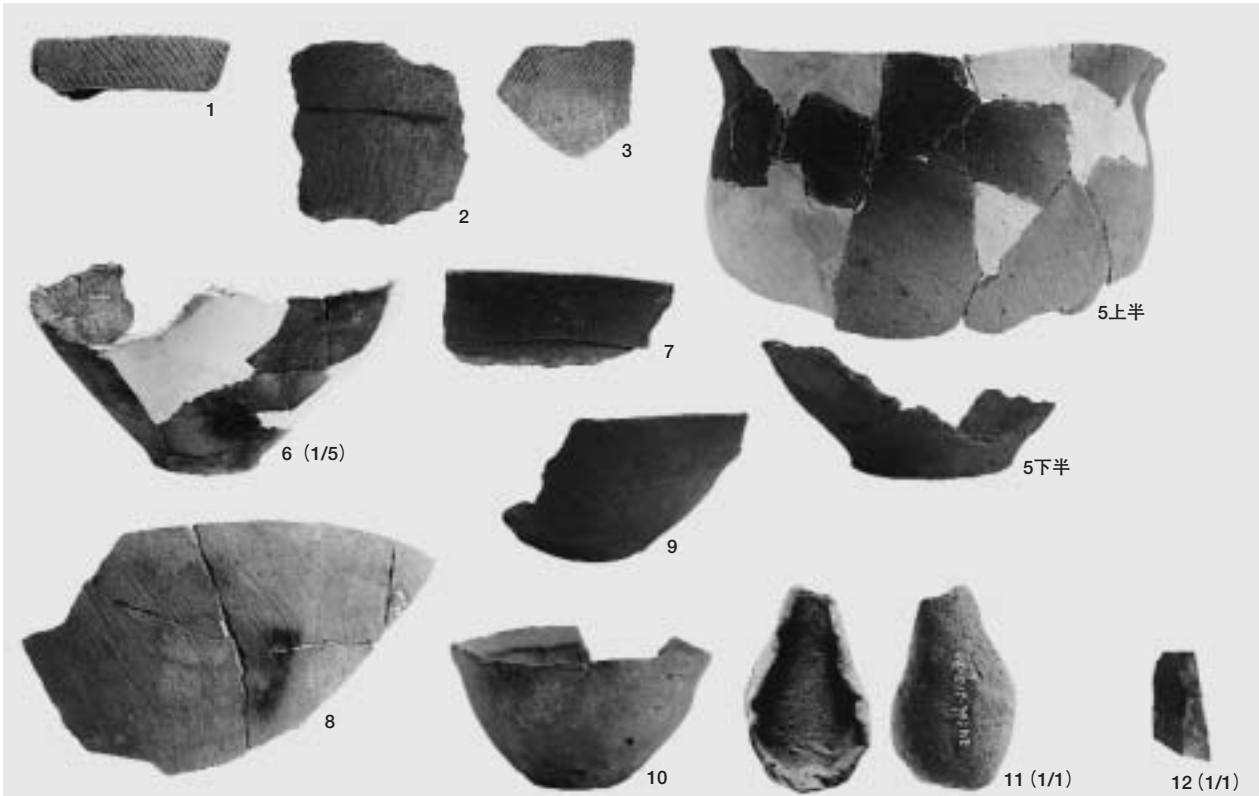


19D住居跡出土遺物 (2) (第100図)

20D住居跡出土遺物 (1) (第105図)



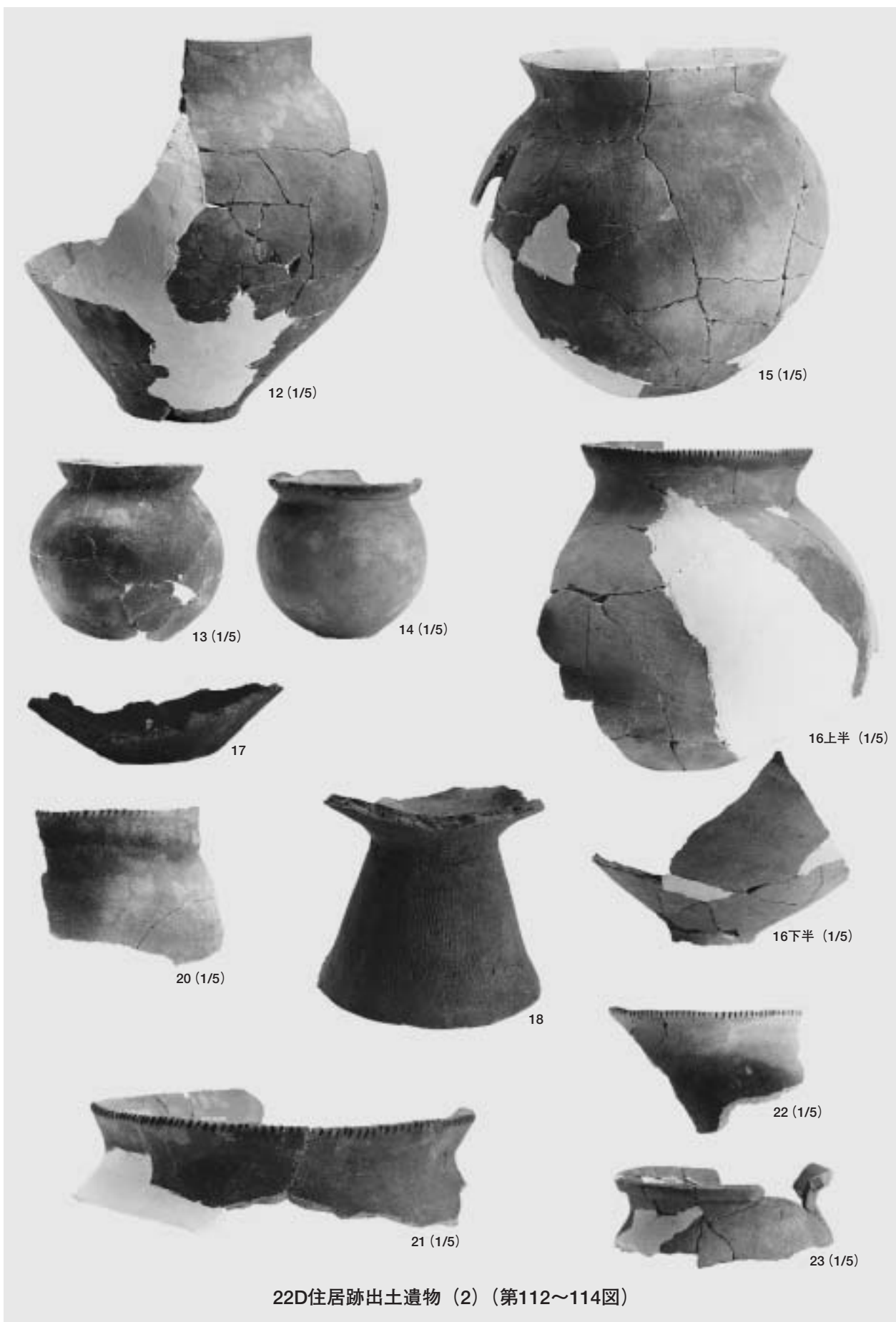
20D住居跡出土遺物（2）（第105図）



21D住居跡出土遺物 (第108図)



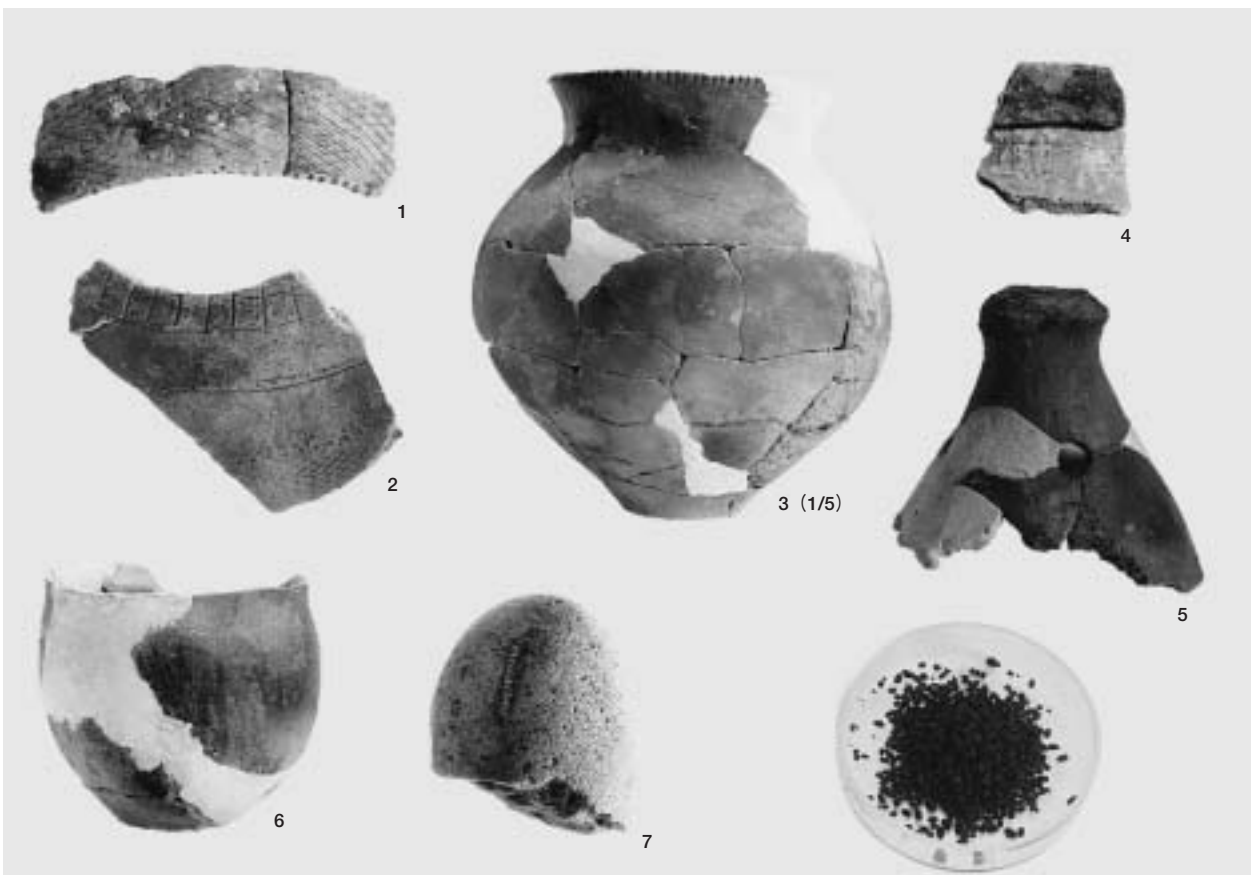
22D住居跡出土遺物 (1) (第112図)



22D住居跡出土遺物 (2) (第112~114図)

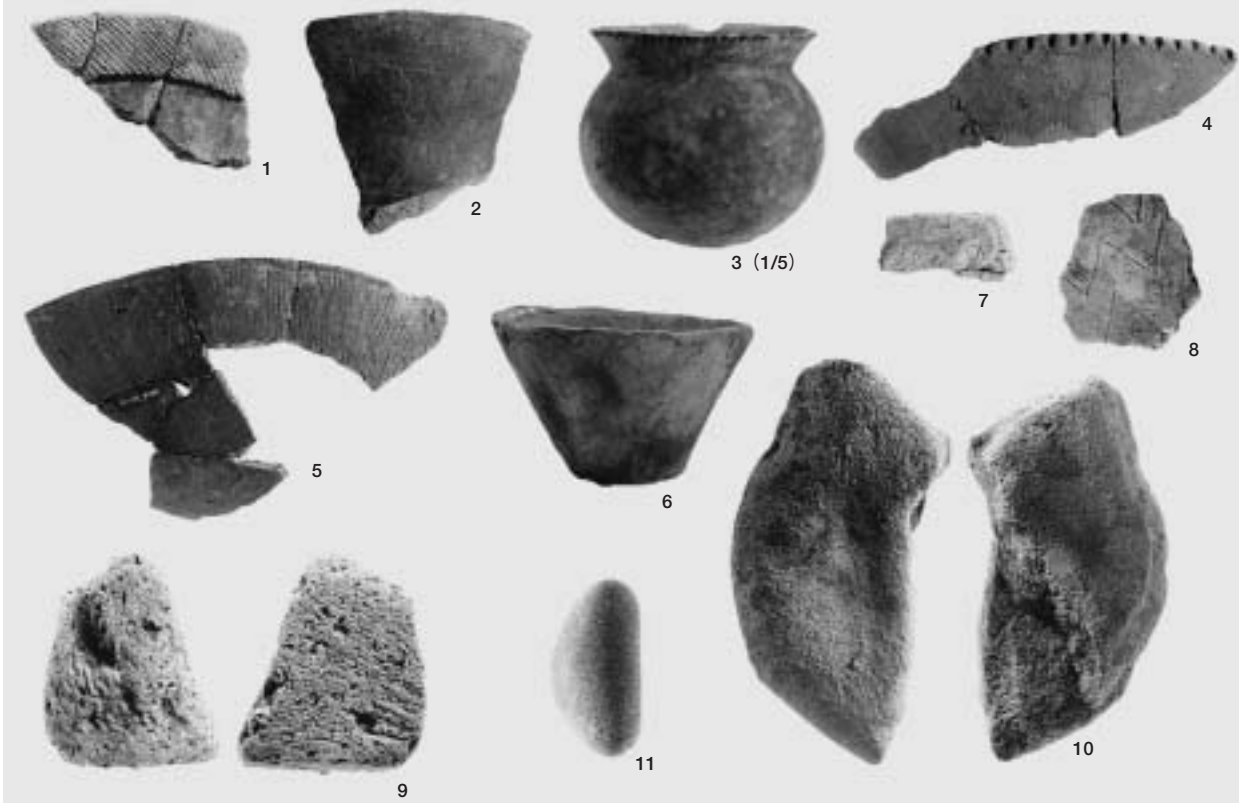


22D住居跡出土遺物 (3) (第114図)



23D住居跡出土遺物 (第117図)

炭化米



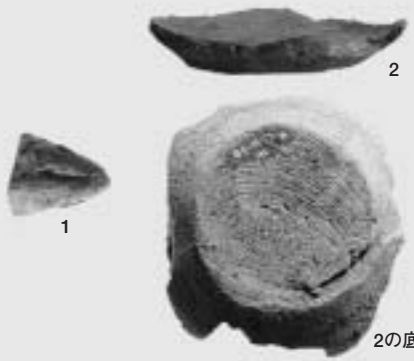
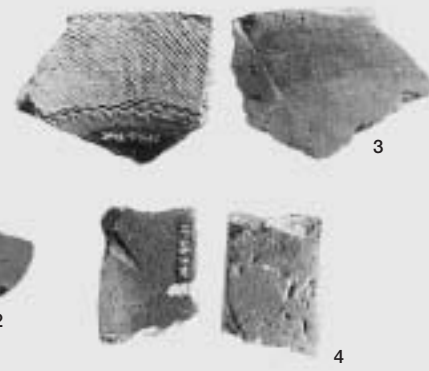
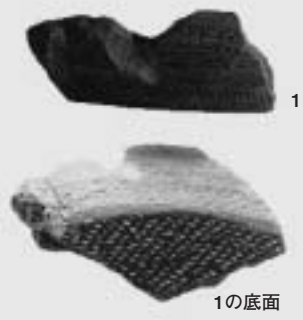
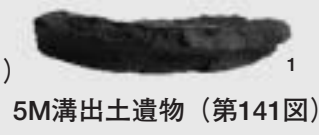
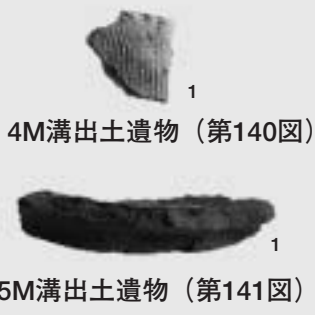
24D住居跡出土遺物 (第119・120図)



25D住居跡出土遺物 (第123・124図)

48P土坑出土遺物 (第129図)





千葉県八千代市川崎山遺跡d地点

－ 萱田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書－

2003年9月30日 発行

編集 八千代市遺跡調査会

千葉県八千代市大和田138-2

発行 八千代市萱田町川崎山土地区画整理事業共同施行者
